八雲町

野 田 生 1 遺 跡

―北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書―

第1分冊 本文編

平成12・13・14年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第183集『八雲町 野田生1遺跡』 平成12・13・14年度 正誤表

訂正箇所	誤	正
第1分冊		
例言	今金町教育委員会 寺崎康文	今金町教育委員会 寺崎康史
	南茅部町教育委員会 福田祐二	南茅部町教育委員会 福田裕二
	栃木県文化振興事業財団	とちぎ生涯学習文化財団
	鹿栖町教育委員会 奥山一絵	鹿栖町教育委員会 佐野一絵
Ⅲ 遺構と出土遺物		
2 B・C地区 (2)遺物 2 土器類		
P113 16行	「黒色の漆部分」	→削除

八雲町

野田生1遺跡

－北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書－

第1分冊　本文編

平成12・13・14年度

財団法人　北海道埋蔵文化財センター

赤彩土器(12)

口絵－2

遺構調査前　上SE→　下NW→

遺構完堀　E→

口絵－4

AH 3　W→

AH 4　E→

AH 5　N→

AH 6　W→

AH12　S→

AH14　N→

MP 3　S→

MP 5　NW→

立石炉のある竪穴住居跡

AH11　赤彩土器(12)　SE→

AH 6　赤色漆塗り竪櫛　S→

裏面（保存処理後）

口絵－6

AH 1　S→

AH 3　S→

AH 4　S→

AH 5　W→

AH 6　W→

AH 7　S→

AH 8　S→

AH 9　S→

AH10　S→

AH11　S→

竪穴住居跡土層断面(1)

AH13　S→

AH14　S→

AH15　S→

AH16　W→

AH17　W→

AH18　W→

AH20　S→

MP 2　W→

MP 3　W→

MP 5　W→

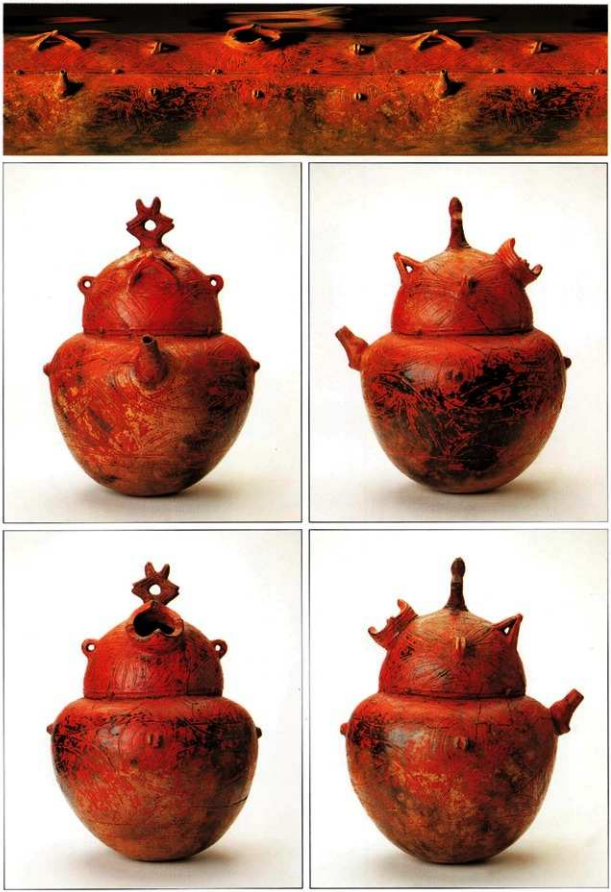
竪穴住居跡土層断面(2)

口絵－8

玉・顔料付着台石・黒曜石製石器（原産地分析試料）・光沢をもつ削器

アスファルト塊

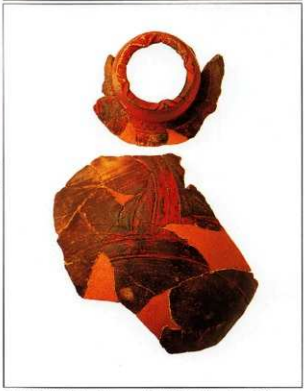
アスファルト等の付着石器類



赤彩土器(12)（上：文様展開写真は小川忠博氏撮影）

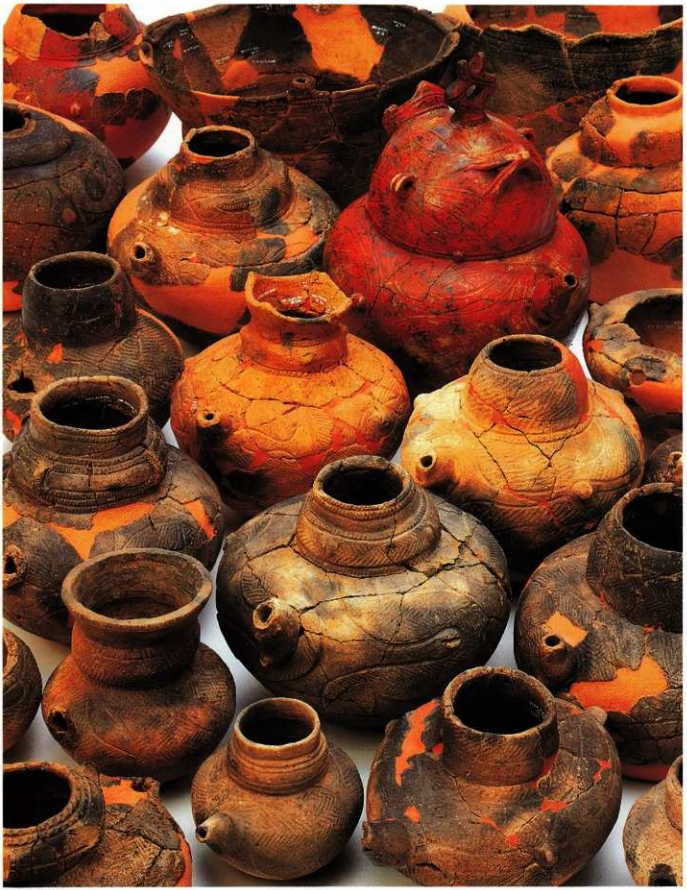
赤彩土器(13)

赤彩土器(15)



赤彩土器(14)（上：口縁部裏に残った指痕）

赤彩土器破片



注口土器

例　言

1　本書は北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成12年度、13年度に発掘を実施した八雲町野田生１遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。整理作業は平成12～14年度にかけて行った。

2　平成12年度、13年度の発掘調査および整理作業は第２調査部第１調査課が担当し、平成14年度の整理作業は第１調査部第２調査課が担当した。

3　本書の編集は藤井浩が主に行い、執筆は種市幸生、菊池慈人、藤井浩（土器類）、坂本尚史、福井淳一（石器類）が行い、担当箇所は文末に記載した。

4　整理作業の担当は下記のとおりである。
漆製品（菊池）、土器（藤井）、石器・自然遺物（福井）、遺構（担当調査員）

5　現地における空中写真撮影は㈱シン技術コンサルに委託した。

6　空中写真からの遺跡地形図の作成、及びデジタル処理については㈱アジア航測に依頼した。

7　漆製品、赤彩土器の保存処理は㈱東都文化財保存研究所に依頼した。

8　各種同定・分析などは下記に依頼した。
放射性炭素年代測定：㈱地球科学研究所
リン酸分析、珪酸分析、炭化植物種子同定：㈱パリノサーヴェイ
黒曜石製遺物原材産地分析・ヒスイ製垂飾産地分析：京都大学原子炉実験所　蟹科哲男
漆製品、土器の顔料分析：北海道開拓記念館　小林幸雄
炭化材樹種同定：浅井学園大学　三野紀雄

9　遺物・記録類は整理及び報告書作成後、八雲町教育委員会が保管する。

10　調査にあたっては下記の諸機関および人々の御協力、御助言をいただいた。（順不同、敬称略）
文化庁、北海道教育委員会、北海道開拓記念館　山田悟郎・小林幸雄・赤松守雄・平川善祥・右代啓視　鈴木琢也、八雲町教育委員会　三浦孝一・柴田信一、今金町教育委員会　寺崎康文、函館市教育委員会　佐藤智雄、松前町教育委員会　久保泰、平取町教育委員会　森岡健治・長田佳宏、上ノ国町教育委員会　松崎水穂・松田輝哉、知内町教育委員会　高橋豊彦、七飯町教育委員会　石本省三、森町教育委員会　藤田登・荻野幸生・佐藤稔、南茅部町教育委員会　阿部千春・福田祐二、南茅部町埋蔵文化財調査団　坪井睦美・輪島慎二、浦幌町教育委員会　後藤秀彦、東京都立大学　山田昌久、鷹栖町教育委員会　奥山一絵、青森県埋蔵文化財調査センター　神康雄・坂本真弓、㈱工藤組、栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター　藤田直也・吉田哲、秋田県昭和町教育委員会　瀬下三男、秋田県埋蔵文化財センター　加藤竜・小林克・桜田隆・牧野賢美・小島朋夏、山梨県埋蔵文化財センター　石神孝子、國学院大学大学院　阿部常樹、いわき市教育文化事業団　和深俊夫、仙台市教育委員会　斎野裕彦・佐藤甲二、青森市教育委員会　児玉大成、森田村教育委員会　佐野忠史、東北歴史博物館　小井川和夫・木幡成雄、文化財ユニオン　千葉博文、北海道大学　小笠原正明、埼玉県立博物館　田中正夫、伊達市教育委員会　青野友哉・大島直行、苫小牧市教育委員会　宮夫靖夫・工藤肇・赤石慎三、大船渡市教育委員会　氷見淳也、陸前高田市立博物館　熊谷賢、奥松島縄文村歴史資料館　菅原弘樹、北上市埋蔵文化財センター　稲野裕介、小川忠博、横山英介、稲葉和也、富田恵子

記号等の説明

1　本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。
H：竪穴住居跡、HP：住居跡内の焼土（炉を含む）、HP：住居跡内の土坑（柱穴を含む）、P：土坑、SP：小ピット、PC：土器集中、FC：フレイク・チップ集中、C：炭化物集中

2　掲載した実測図等の縮尺は原則として以下のとおりである。
遺構：1:40　遺物出土状況：1:20
復原土器：1:2、土製品1:3
剥片石器1:2　礫石器：1:3（但し、台石・石皿、加工痕のある礫に1：4、礫：1：6）
※遺構については規模の大きいもののみ縮尺を変更している

3　実測図中の数値において、単位のついてないものについては、標高（単位）mをあらわすものである。

4　土層の標記は基本土層をローマ数字で、遺構の覆土についてはアラビア数字で示した。土層注記および本文中では駒ケ岳d火山灰はKo-d、駒ケ岳g火山灰はKo-gを用いた箇所がある。

5　挿図中の遺物のシンボルマークは以下のとおりである。

		包含層	覆土	床・壙底
土器	胴部	○	◎	●
	完形・口縁部・注口部	○	◎	●
	底部	○	◎	●
石器	剥片石器	△	▲	▲
	礫石器	◇	◆	◆
	剥片	△	▲	▲
	礫	□	▣	■
土製品・石製品		☆	★	★
自然遺物・炭化物・砂等		＋	✚	✚
炭化材		×	✕	✕

目　次

〔第1分冊〕

口　絵
例　言
記号等の説明
目　次
挿図目次
表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査の概要
1　調査要項 …… 1
2　調査体制 …… 1
3　調査に至る経緯 …… 1
4　調査・報告の方法 …… 2
5　調査結果の概要 …… 10

Ⅱ　遺跡の位置と周辺の環境
1　位置と環境 …… 15
2　周辺の遺跡 …… 20

Ⅲ　遺構と遺物
1　A地区 …… 21
（1）概要 …… 21
（2）遺構 …… 21
1　土坑 …… 21
2　焼土 …… 25
3　土器集中 …… 25
（3）遺物 …… 27
1　土器類 …… 27
2　遺構出土の石器 …… 27
3　包含層出土の石器 …… 28
2　B・C地区 …… 31
（1）遺構 …… 31
1　住居跡 …… 31
2　土坑 …… 57

3　焼土 …… 102
4　遺物集中 …… 106
（2）遺物 …… 112
1　漆製品 …… 112
2　土器類 …… 113
3　石器類 …… 127

Ⅳ　自然科学的手法による分析結果と考察
1　野田生1遺跡から出土した炭化物の放射性炭素年代 …… 167
2　縄文文化後期中葉の竪穴住居址から出土した炭化木材の樹種同定 …… 173
3　野田生1遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析 …… 183
4　野田生1遺跡出土ヒスイ製垂飾玉の産地分析 …… 191
5　野田生1遺跡の遺構内容物について …… 197
6　野田生1遺跡の自然科学分析 …… 203
7　八雲町野田生1遺跡出土漆製品の材質と技法 …… 219
8　蛍光X線分析結果 …… 229

Ⅴ　調査結果の整理と考察
1　遺構及び土器の出土状況、接合関係についての整理 …… 231
2　石器 …… 237
3　アスファルト利用について …… 240
4　「自然科学的手法等による分析結果」からわかること …… 244
引用参考文献 …… 287
報告書抄録 …… 291

第2分冊（図版編）
第3分冊（写真図版編）

挿図目次

図Ⅰ-1　遺構確認状況と覆土の分類…… 14
図Ⅰ-2　遺物出土状況の分類…… 14
図Ⅰ-3　深鉢器形の分類…… 14
図Ⅰ-4　口唇断面形態の分類…… 14
図Ⅱ-1　遺跡の位置…… 16
図Ⅱ-2　遺跡の位置(古地図)…… 17
図Ⅱ-3　周辺遺跡の位置(1)…… 18
図Ⅱ-4　周辺遺跡の位置(2)…… 19
図Ⅳ-1-1　^{14}C年代測定結果…… 168
図Ⅳ-1-2　^{14}C年代測定試料一覧…… 168
図Ⅳ-1-3　^{14}C年代の層年代較正(1)…… 168
図Ⅳ-1-4　^{14}C年代の層年代較正(2)…… 169
図Ⅳ-1-5　^{14}C年代の層年代較正(3)…… 170
図Ⅳ-1-6　^{14}C年代の層年代較正(4)…… 171
図Ⅳ-2-1　樹種同定試料炭化材出土状況(1)…… 178
図Ⅳ-2-2　樹種同定試料炭化材出土状況(2)…… 179
図Ⅳ-3-1　黒曜石原産地…… 187
図Ⅳ-3-2　原産地分析測定試料…… 190
図Ⅳ-4-1　ヒスイ原産地およびヒスイ製玉類使用遺跡分布図…… 195
図Ⅳ-4-2　ヒスイ原石の元素比値Zr/Sr対Sr/Feの分析及び分布圏…… 196
図Ⅳ-4-3　ヒスイ原石の元素比値Ca/Si対Sr/Feの分析及び分布圏…… 196
図Ⅳ-4-4　ヒスイ原石の元素比値Na/Si対Mg/Siの分析及び分布圏…… 196
図Ⅳ-4-5-1　野田生1遺跡出土垂飾玉の蛍光X線スペクトル…… 196
図Ⅳ-4-5-2　山崎4遺跡出土垂飾玉の蛍光X線スペクトル…… 196
図Ⅳ-4-6　原産地分析測定試料(B地区包層出土)…… 195
図Ⅳ-5-1　基本層序・AH006・MP005・MP010の土層断面及び試料採取位置…… 201
図Ⅳ-5-2　植物珪酸群集の層位分布…… 201
図Ⅳ-5-3　腐植とリン酸の相関関係…… 201
図Ⅳ-6-1　AH015の植物珪酸体群集…… 209
図Ⅳ-6-2　AH015の腐植とリン酸の相関図…… 209
図Ⅳ-6-3　AH015の試料採取位置…… 209
図Ⅳ-6-4　炭化種子水中浮遊選別試料採取地点(1)…… 210
図Ⅳ-6-5　炭化種子水中浮遊選別試料採取地点(2)…… 211
図Ⅳ-7-1　分析試料の採取位置…… 220
図Ⅳ-7-2　漆櫛の寸法比較…… 222
図Ⅴ-1　包含層出土土器分類別分布図…… 278
図Ⅴ-2　包含層出土石器器種別分布図(1)…… 279
図Ⅴ-3　包含層出土石器器種別分布図(2)…… 280
図Ⅴ-4　包含層出土石器器種別分布図(3)…… 281
図Ⅴ-5　包含層出土石器器種別分布図(4)…… 282
図Ⅴ-6　包含層出土石器器種別分布図(5)…… 283
図Ⅴ-7　包含層出土石器器種別分布図(6)…… 284
図Ⅴ-8　包含層出土石器器種別分布図(7)…… 285
図Ⅴ-9　包含層出土石器器種別分布図(8)…… 286

表目次

表Ⅰ-1　遺構数及び出土遺物一覧(総合及び土器類)…… 12
表Ⅰ-2　出土遺物一覧(石器類)…… 13
表Ⅳ-2-1　住居址から出土した炭化材の樹種同定…… 176
表Ⅳ-2-2　土坑から出土した炭化材の樹種同定…… 177
表Ⅳ-2-3　KO-D直下の木痕跡から出土した炭化材の樹種同定…… 177
表Ⅳ-2-4　住居址から出土の炭化木材の樹種構成…… 182
表Ⅳ-2-5　住居址から出土した炭化木材の樹種構成…… 182
表Ⅳ-3-2　野田生1遺跡出土黒曜石製石器、石片の元素比分析結果…… 187
表Ⅳ-3-3　野田生1遺跡出土の黒曜石製石器、石片の原産地推定結果…… 187
表Ⅳ-3-第1-1　各黒曜石の原産地における原石比の元素比の平均値と標準偏差値…188
表Ⅳ-3-第1-2　各黒曜石の原産地における原石比の元素比の平均値と標準偏差値…189
表Ⅳ-4-1-1　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準(1)…… 195
表Ⅳ-4-1-2　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準(2)…… 195
表Ⅳ-4-2　野田生1遺跡出土ヒスイ製垂飾玉の元素分析の比最と比重…… 195
表Ⅳ-4-3　野田生1遺跡出土ヒスイ製垂飾玉の原料産地分析結果…… 195
表Ⅳ-5-1　土壌理化学分析結果…… 201
表Ⅳ-5-2　植物珪酸体分析結果…… 201
表Ⅳ-6-1　植物珪酸体分析結果…… 209
表Ⅳ-6-2　土壌理化学分析結果…… 209
表Ⅳ-6-3-1　炭化種実同定結果(1)…… 212
表Ⅳ-6-3-2　炭化種実同定結果(2)…… 213
表Ⅳ-6-3-3　炭化種実同定結果(3)…… 214
表Ⅳ-6-3-4　炭化種実同定結果(4)…… 215
表Ⅳ-6-4　遺構別・層位別出土炭化種実…… 209
表Ⅳ-7-1　分析試料…… 219
表Ⅳ-7-2　櫛歯結束各条の特徴…… 221
表Ⅳ-7-3　櫛頭部と軸状装飾部の比較表…… 223
表Ⅳ-8-1　蛍光X線分析一覧表…… 229

表Ⅴ-1　遺構一覧(1) ……250
表Ⅴ-2　遺構一覧(2) ……251
表Ⅴ-3　遺構一覧(3) ……252
表Ⅴ-4　遺構一覧(4) ……253
表Ⅴ-5　掲載土器一覧(1) ……254
表Ⅴ-6　掲載土器一覧(2) ……255
表Ⅴ-7　掲載土器一覧(3) ……256
表Ⅴ-8　掲載石器一覧(1) ……257
表Ⅴ-9　掲載石器一覧(2) ……258
表Ⅴ-10　掲載石器一覧(3) ……259
表Ⅴ-11　掲載石器一覧(4) ……260
表Ⅴ-12　掲載石器一覧(5) ……261
表Ⅴ-13　遺構別遺物一覧総合(1) ……262
表Ⅴ-14　遺構別遺物一覧総合(2) ……263
表Ⅴ-15　遺構別遺物一覧総合(3) ……264
表Ⅴ-16　遺構別遺物一覧総合(4) ……265
表Ⅴ-17　遺構出土土器一覧(1) ……266
表Ⅴ-18　遺構出土土器一覧(2) ……267
表Ⅴ-19　遺構出土土器一覧(3) ……268
表Ⅴ-20　遺構出土土器一覧(4) ……269
表Ⅴ-21　遺構出土土器一覧(5) ……270
表Ⅴ-22　遺構出土土器一覧(6) ……271
表Ⅴ-23　遺構出土石器一覧(1) ……272
表Ⅴ-24　遺構出土石器一覧(2) ……273
表Ⅴ-25　遺構出土石器一覧(3) ……274
表Ⅴ-26　遺構出土石器一覧(4) ……275
表Ⅴ-27　遺構出土石器一覧(5) ……276
表Ⅴ-28　遺構出土石器一覧(6) ……277

写真図版目次

図版Ⅳ-2-1　炭化木材の組織 ……180
図版Ⅳ-2-2　炭化木材の組織 ……181
図版Ⅳ-5-1　植物珪酸体 ……202
図版Ⅳ-6-1　植物珪酸体 ……216
図版Ⅳ-6-2　種実遺体 ……217
図版Ⅳ-7-1　赤色漆塗竪櫛の出土状況 ……220
図版Ⅳ-7-カラー図版　漆膜試料断面図の光学顕微鏡観察 ……226
図版Ⅳ-7-Ⅰ　赤色漆塗竪櫛　塗膜試料断面図の走査電子顕微鏡観察 ……227
図版Ⅳ-7-Ⅱ　朱漆塗り土器　塗膜試料断面図の走査電子顕微鏡観察 ……228

I 調査の概要

1 調査要項

事 業 名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査
委 託 者：日本道路公団北海道支社
受 託 者：財団法人北海道埋蔵文化財センター
遺 跡 名：野田生１遺跡（B-16-47）
所 在 地：北海道山越郡八雲町野田生317-６他
調査面積：平成12年度　A地区　368㎡　B地区　2,242㎡を完了3,656㎡を継続調査
　　平成13年度　B地区　3,656㎡　C地区　4,820㎡（遺構確認調査方式）
調査期間：平成12年５月８日～10月31日（発掘調査）　～平成13年３月31日（整理作業）
　　平成13年５月８日～10月31日（発掘調査）　～平成14年３月31日（整理作業）
　　平成14年４月１日～平成15年３月31日（整理作業）

2 調査体制

平成12年度（1999年）

理事長	大澤　満	第１調査課長	種市　幸生（発掘担当者）
常務理事	木村　尚俊	主任	菊池　慈人（発掘担当者）
第２調査部長	鬼柳　彰	主任	藤井　浩
		文化財保護主事	福井　淳一

平成13年度（2000年）

理事長	大澤　満	第１調査課長	種市　幸生（発掘担当者）
常務理事	木村　尚俊（第１調査部長兼務）	主任	菊池　慈人（発掘担当者）
第２調査部長	大沼　忠春（７月18日から	主任	藤井　浩（発掘担当者）
	第１調査部長兼務）	文化財保護主事	坂本　尚史
		文化財保護主事	福井　淳一

平成14年度（2001年）

理事長	大澤　満（６月30日まで）	第１調査課長	種市　幸生
理事長	森重　楯一（７月１日から）	主任	菊池　慈人
常務理事	畑　宏明（６月１日から	主任	藤井　浩
	第１調査部長兼務）	主任	坂本　尚史
第１調査部長	畑　宏明（４月１日から）	主任	福井　淳一

3 調査に至る経緯

北海道縦貫自動車道は七飯～長万部間で平成５年11月から建設工事が行われている。この事業に対

する埋蔵文化財調査については平成２年４月、日本道路公団北海道支社から協議を受けた北海道教育委員会は平成２年及び平成７年４月に所在確認を行い、平成７年10月以降には順次範囲確認調査を実施した。野田生１遺跡については平成８年５月９日から５月10日にかけて第１回目の範囲確認調査が行われ、平成11年５月18日から20日にかけて第２回目の範囲確認の試掘調査が行われた。その結果発掘調査の必要な面積6,340㎡が提示され、これに基づいて、北海道教育庁文化課が日本道路公団と協議した結果、計画変更は不可能なことから発掘調査を実施することになった。道教委から調査の依頼を受けた当センターは平成12年６月５日から発掘調査を実施した。

本調査開始後、本遺跡の遺構、遺物の良好な保存状況が明らかになり、当初計画を超える遺構数、遺物点数が予想されたため、調査面積を含む計画の変更を余儀なくされた。調査により判明した函館側に遺跡範囲が広がる結果に基づいて、本調査終了後の平成12年11月15、16日に再試掘調査が行われた。遺物の分布は希薄であったが、遺構検出の可能性があり、40グリッドライン（SP589+40）以西の約6,400㎡（13年度調査4,700㎡、後年度1,700㎡）を新たな追加範囲とした（C地区）。調査方法は遺物が希薄であったため遺構確認方式とした。その結果平成13年度の野田生１遺跡の発掘面積は8,476㎡となった。

4　調査・報告の方法

（１）発掘調査の方法

【調査区の設定】

東西に長く延びる工事範囲の中で調査範囲が２カ所に分かれたため、東端をA地区、西端の「弥ノ助沢」側をB地区とした。C地区は平成13年度に拡張された追加範囲であり、グリッドライン60を境にしてB地区と連続している。調査区の設定にあたってはA、B、Cの３地区を包括するものとし、工事予定中央線上のSTA560とSTA561を結んだ延長線を基準のMラインとした。このMラインに平行な東西のライン４m毎に南からABC…、調査区のほぼ中央に位置するSTA590を中心にMラインと直行する４m毎の南北のラインを東側から0.1.2…の順に設定した（STA590はグリッド55ライン）。これによりA地区はH～Qと８～12、B地区はD～Qと60～96、C地区はD～Tと40～60の間に配置されることになった。

基準杭の座標はSTA590 X=-197,886.8594　Y=8,164.6836　STA591　X=-197,866.8935　Y=7,970.2960である

【遺構名の設定】

遺構名及び遺構番号はA地区とB、C地区ごとに設定した。各遺構についてはKo-d火山灰除去時のⅢ層上面における確認状況によって分類を行い、A、B、C、Mの４つの確認類型を設定し、遺構名に冠することとした。（図Ⅰ－１）

確認類型A：確認面のⅢ層上面で明瞭な落ち込みを伴うもの（AH、AF）

確認類型B：確認面のⅢ層上面で明瞭ではないがわずかな落ち込みを伴うもの（BH、BP）

確認類型C：Ⅲ層上面では落ち込みが確認されず、Ⅳ層等で確認されたもの（CH、CP、CF）

確認類型M：Ⅲ層上面では落ち込みが確認されず、ローム粒の混じる暗黄褐色土が上面で確認されたもの（MP）

【調査の方法】

事前の試掘調査の結果に基づいて、遺物包含層に当たるⅢ層黒褐色土が良好に保存されていることが明らかであったので、重機による表土及び火山灰の除去はⅢ層上面の保存状況を確認しながら慎重

に進めた。調査区西端にはテラス状の段丘下段部分が存在したことから排土の展開が制約されたため、表土除去も下段段丘面から開始し、斜面上部に向かって進めた。Ⅲ層上面の段階で10カ所以上の落ち込みが確認されたため、もっとも集中する中央部分（緩斜面部分）を保存した。それ以外の部分はグリッドの設定の後、東西、南北に20m間隔でトレンチを設定し（65ライン、70ライン、74ライン）、Ⅴ層黄褐色ローム層の上面まで掘り下げた。トレンチ内の遺物遺構、遺物の分布は北側、西側に多く、東側、南側に少ないという結果であったが、遺跡の展開が全面的なものであることが判明した。

【遺物の取り上げ方法】

遺物の取り上げは基本的に４ｍグリッドによる一括取り上げとトータルステーションシステムを利用した点取り上げとの二つの方法で行った。当初はトータルステーションシステムを利用した点取り上げは、主に遺構に関わる遺物を対象に行ったが、遺構の占める割合の高い本遺跡の調査においては遺構周辺の遺物包含層に対してもこの方法での取り上げにつとめた。これにより全点数の約８割はこの方法で取り上げられる結果となった。

【一次整理の方法】

出土遺物は、現地調査を並行して現地で水洗、注記作業、一次分類、遺物台帳作成をおこなったが、遺物量が多いため、一部江別のセンターでも発掘期間中から水洗・注記作業を行った。遺物整理にあたってはトータルステーションによる地点計測とのデータの対照確認を行い、「遺跡管理システム」によって遺物台帳の作成を行った。

（２）基本とする地形及び土層の分類

【地形による区分】

調査区の立地する地形は内浦湾に向かって舌状に突き出した海岸段丘にあたり、西側を「弥之助沢川」により、東側を無名の沢により開析されている。調査区内はグリッド60ラインをピークに西側、東側に緩やかに下がるかたちになっている。西側のＢ地区においては比高差約10mほどの急斜面を介してテラス状の下段段丘面がある。報告においては各地形の説明に際し下記のように区分けして用いている。

Ａ地区　「東側緩斜面」：無名の沢に面した標高35ｍから38ｍの間のきわめて緩やかな斜面部分
「西側平坦面」：緩斜面に連続し西側に向かって広がる平坦面部分、開墾等による削平を受けている。標高38ｍ部分

Ｂ地区　「（東側）平坦面」：Ｂ地区中央から東に隣接するＣ地区にかけて展開する平坦面部分、標高約40m部分
「（西側）緩斜面」：グリッド73ライン以西の緩やかな斜面部分、竪穴の集中部分にあたる。標高35～40m部分
「（西側）急斜面」：緩斜面と下段段丘面の間の標高33mから35ｍの急斜面部分
「下段段丘面」：「弥之助沢川」に面したテラス状のわずかな段丘面部分、ほぼ平坦で標高約32ｍである。沢側は垂直に近い急崖である。

Ｃ地区　「平坦面」：Ｂ地区から連続する標高約40mの平坦面部分
「緩斜面」：グリッド50ライン以東の標高37から40mのきわめて緩やかな緩斜面部分

【自然層序】

基本層序については試掘調査時の結果を基に掲載した。

Ⅰ層　黒褐色土及び黄褐色土。表土、攪乱、耕作土である。

Ⅱ層　黄白色火山灰層。駒ヶ岳起源のKo-dとみられる。Ko-dの噴出年代は1640年とされる。

Ⅲ層　黒色土。上部は腐植質が強いが下部は暗褐色でしまりの良い土である。層厚は平坦面では30㎝弱であるが、斜面部では50㎝程の堆積が見られた。

Ⅳ層　暗黄褐色土。粘性、しまりともにやや強い。ソフトロームを主体に暗褐色土が疎らに混じる漸移層にあたる。層厚は10㎝程度である。

Ⅴ層　黄褐色ローム土。粘性しまりともに強い

【遺構の層位】

遺構内の覆土等の層位は保存状況のよい竪穴住居跡の共通の土層から抽出し、類型化したものを用いている場合がある。基本土層のⅢ層由来のものは「Ⅲ層」、Ⅲ層直下の黄褐色ローム粒を含む茶褐色土、暗黄褐色土を「覆土１層」、覆土１層下で床面直上の黒褐色土を「覆土２層」、遺構壁際の三角堆積部分を「覆土３層」として区分した。

（３）整理・報告・保管の方法

ｉ　遺跡・遺構の報告について

整理の方法

現地調査においては調査区範囲及び遺構の平面図、土層図、出土状況図などは手書き実測により作成したものとトータルステーションによる実測で作成したものの２種類がある。整理作業においては手書き実測により作成したものを「遺跡管理システム」により入力し、パソコンデータとして活用できるように図った。その後手書き実測によるものは「原図」として整理し、原図番号を付して一覧を作成した。また、パソコンデータによるものは「遺跡管理システム」のデータとしてMOに保管すると同時にdxfファイルに変換し、他の汎用ソフトでも活用できるようにした。

【空中写真測量による地形図の作成】

空中写真による地形測量については㈱シン技術コンサルに依頼し、平成12年、13年の２回行った。平成12年度調査時は表土除去後のⅢ層上面が対象であり、平成13年度調査時は調査終了時の最終確認面（Ⅴ層上面）を対象とした。撮影範囲は２回ともに60グリッドライン以西のB地区遺構集中部分が対象である。

図化作業については㈱アジア航測に依頼し、「Ⅲ層上面遺跡地形図」と「最終確認面遺跡地形図」を作成した。各図面についてはデジタル処理を施すことによりパソコン上で３次元データとして扱えるようにした。（dxfファイルとしてCD-ROMにて保管）

報告の方法

各遺構についての報告は下記の要領にて簡潔にまとめた。

遺　構　名：（図000　写真図版000掲載）

位置・規模：グリッド、立地地形、切り合い、確認面、床（底）　面の長軸、短軸、面積、最大深、軸の方位など

確認・調査：確認面の状況、プラン、調査の展開など

堆積状況：遺構覆土の堆積状況、層位、人為堆積の可能性など

構　　造：平面形、床（底）　面、壁面、柱穴、炉、入り口状ピットなど

遺物と出土状況：遺物の出土状況、床面、覆土などの層位による様相の差など

性格・時期：竪穴住居や墓坑などの性格、「縄文時代中期後葉」「Ⅳ群A類」などの時期と根拠

ii 遺物の分類及び記述表現方法について

【土器・土製品】

整理の方法

土器片は各遺構ごとに接合したのち、包含層との対応をはかり、さらに遺構間の接合を行った。そのため今回の整理作業を進めるうえでもっとも時間を費やす結果となったが、遺構間での接合例は数多くみられ、本遺跡の遺物残存状況を理解する上での諸特徴が明らかになった。

土器の復原作業においては石膏及び、赤褐色バイサム（新成田総合社）を用いた部分がある。

完形の赤彩注口土器（土器については、本体部分を接合復原したのち赤彩部分の保護のため起溜状態のなかで保管した。乾燥時には漆膜剥離の危険性が生じたため、土器表面部分の保存処理及び接合面の磨耗が著しい頭部突起と注口部分の接合復原を㈱東都文化財保存研究所に依頼して行った。

保存処理内容はクリーニングの後アクリル樹脂（パラロイドB-72）5％濃度のものを数回塗布含浸することで表面の強化を行った。また樹脂の持つ光沢を有機溶剤を用いて、表面のテカリをおさえた。注口部分と頭部突起部分を本体に接合する際にはセルロース樹脂（セメダインC）を用いて、接合部分とひび割れ部分を充填する際にはエポキシ樹脂（EPOXY RESIN XN1,264 A/B）を用いてさらにアクリル樹脂エマルジョンにより補彩を行った。

報告の方法

土器・土製品については、本報告書の主眼である接合関係の重視という点により、また遺物の量も鑑み、掲載については復原個体資料及び接合資料を中心とした掲載を行い、破片資料の大半を割愛することとした。これら掲載遺物については実測図、接合展開図、接合位置図などによって報告し、破片資料の観察による傾向等は各遺構毎の記述及び一覧表により報告を行った。また掲載は遺構、包含層出土を含めて時期別、器種別におこなった。各記述については以下の4つの分類方法を主に用いて行った。

【時期別分類】

従来のセンター基準を基本に、北海道南西部という地域性と今回の調査出土遺物の特徴を考慮して、時期の分類を行った。

Ⅰ群　縄文時代早期に相当する土器群
　A類　貝殻条痕文のある土器
　B類　縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文などが特徴の土器群（本調査では出土していない）
Ⅱ群　縄文時代前期に相当する土器群
　A類　縄文尖底土器群（本調査では出土していない）
　B類　円筒土器下層式に相当する土器群
Ⅲ群　縄文時代中期に相当する土器群
　A類　円筒上層B式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当する土器群
　B類　榎林式、大安在B式、ノダップⅡ式に相当する土器群
Ⅳ群　縄文時代後期に相当する土器群
　A類　天祐寺式、涌元式、鳥崎式、大津式、白坂3式に相当する土器群（前葉）
　B類　船泊上層式・手稲式、銚澗式に相当する土器群（中葉）
　C類　堂林式・三ツ谷式・御殿山式相当（後葉）
Ⅴ群　縄文時代晩期に相当する土器群（本調査では出土していない）

Ⅶ群　続縄文時代に相当する土器群
Ⅷ群　擦文文化期に相当する土器群（本調査では出土していない）

【土器口唇形態の分類】（図Ⅰ－4）

1　先端がふくらみ、平たい面が内側に傾いているもの（Ⅳ群）
2　先端がふくらみ、平たい面が傾いていないもの（Ⅳ群）
3　先端がふくらみ、丸くなっているもの（Ⅳ群）
4　先端がふくらまず、平たい面が内側に傾いているもの（Ⅳ群）
5　先端がふくらまず、平たい面が傾いていないもの（Ⅳ群）
6　先端がふくらまず、丸くなっているもの（Ⅲ・Ⅳ群）
7　先端がふくらみ、外反するもの（Ⅲ群）
8　先端がふくらまず、平たい面が外反し、外側に傾くもの（Ⅲ群）
9　口唇を折り返して口縁にしているもの（Ⅲ群）
10　その他上記に当てはまらなかったもの（Ⅲ・Ⅳ群）

【器形の分類】（図Ⅰ－3）

復原によって器形が明らかになった個体については、「深鉢」、「浅鉢」、「注口土器」などに大別し、また器形のヴァリエーションが豊富な「深鉢」についてはさらに下記のように区分して整理し、説明に用いることとした。

A0　円筒形を基本とするタイプ（円筒タイプ）
A1　胴部に括れがあり、上方にさらに広がるタイプ
B0　上に向かって広がるタイプ（深鉢基本タイプ）
B1　胴部に括れがあり、上方にさらに広がるタイプ
B2　胴部に括れがあり、上方に直立するタイプ
C0　胴部が広がり、口縁が狭まるタイプ（壺形タイプ）
C1　胴部に括れがあり、上方にさらに広がるタイプ
C2　胴部に括れがあり、上方に直立するタイプ
※BC1　BCが融合したかたちで、括れを2箇所持ち、上方にさらに広がるタイプ

【出土状況による分類】（図Ⅰ－2）

A　完　形
1　（個体）　明瞭な一個体
2　（欠損あり）　明瞭な一個体であるが、部分的に欠損や接合箇所のあるもの
B　集中破片
1　（単純）　破片の集中度が高く、分布が単純であるもの、個体の形状がよくわかるもの
2　（複雑）　破片の集中度が高く、分布が複雑であるもの、個体の形状が不明瞭で複数個体の可能性もある
C　分散破片
1　（中心あり）　破片の集中度は低いが、分布に明瞭な中心部分が認められるもの
2　（中心なし）　破片の集中度が低く、分布に明瞭な中心部分は認められないもの

【石器・石製品】

整理の方法

平成13年度は、礫を除く全点の注記と、全点の分類を行ない、並行して主に住居跡出土石器のうち床面から出土したもの、器種を代表するもの、アスファルトが付着するもの、使用痕と考えられる光沢をもつものを選択し、実測した。平成14年度は、分類と細分類、集計と、土坑などの遺構、包含層出土石器について昨年同様の基準で実測した。石器は、器種、石材、重量、被熱、欠損、使用痕、付着物、欠損について台帳に記録した。掲載遺物については、さらに長さ、幅、厚さも計測した。遺物台帳は、遺物管理システムからCSVファイルに変換し、マイクロソフトエクセルで集計等を行った。接合については、一部を除き、時間の関係で行うことができなかった。

報告の方法

石器は剥片石器群、磨製石器群、礫石器群、石製品、自然遺物に大別し、さらに器種分類を行った。一部については形態、製作方法により細分類を行ったものもある。大きさについてはcmを単位として用い、小数点第二位まで測った。長さ、幅については定型的なものについては長軸を基準に、不定形なものについては剥片剥離軸を基準に長方形を想定し測定した。厚さについては最大厚を測った。重量についてはgを単位として用い、小型のものについては小数点第二位、大型のものについては体重計を用いたため100g単位まで量った。また、礫石器に付した記号については、｜―｜はすり痕、V―Vは敲打痕を示す。スクリーントーン等については、ドットが使用による光沢が見られたもので、濃い部分はより明瞭な光沢がみられた部分を示している。また、黒く塗りつぶした部分はアスファルトが付着したものを示す。さらに、砂目は被熱や顔料の付着、アスファルト以外の付着物を示し、それぞれ文中で記載した。なお、文中で石器という場合は剥片、礫以外の石器類を示すこととした。

器種分類

剥片石器群

石鏃　押圧剥離により両面が剥離され、尖頭形を呈する5cm未満のもの。形態によりⅠ類：有茎鏃、Ⅱ類：無茎鏃、Ⅲ類：その他に分類できる。Ⅰ類についてはa：側辺が直線状のもの、b：側辺が外湾するもの、c：側辺の上部が外湾し、下部が内湾するもの、d：側辺が内湾するもの、e：aの逆刺が曲線を描くもの、f：dの逆刺が曲線を描くものに細分できる。Ⅱ類についてはa：柳葉形を呈するもの、b：滴形を呈するもの、c：木葉形を呈するものに細分できる。

石槍（またはナイフ）　押圧剥離や平坦剥離によって両面が剥離され、尖頭形を呈する5cm以上のもの。

石錐　錐状の突出部が作り出されたもの。形態によりⅠ類：逆三角形状のつまみを持つもの、Ⅱ類：棒状のもの、Ⅲ類：不明瞭ながらつまみ部を持つもの、Ⅳ類：棒状だが寸詰まりのもの、Ⅴ類：Ⅳ類の両側に突起を持つもの、Ⅵ類：不定形なものに分類できる。

つまみ付ナイフ　抉り状の加工により原則として素材長軸端部につまみ部が作り出されたもの。調整がなされる面よりⅠ類：両面調整のもの、Ⅱ類：背面調整のもの、Ⅲ類：腹面調整のもの、Ⅳ類：つまみ部のみ調整するものに分類できる。さらに、a：微細な剥離による調整のみのもの、b：縁辺のみを調整するもの、c：面を覆うように調整するもの、d：末端が三角形状を呈するもの、e：横型のものに細分できる。

箆状石器　両面が調整された石器で、一端に直線状ないし弧状の刃部が形成されるもの。形態によりⅠ類：洋ナシ形のもの、Ⅱ類：撥形のもの、Ⅲ類：凸形のもの、Ⅳ類：滴形のもの、Ⅴ類：不定形のものに分類できる。

掻器　60度以上の急角度な剥離が素材端部に連続的に加えられたもの。

削器　剥離が素材の側縁に連続的に加えられたもの。刃部の形状によりⅠ類：直線状の刃部を持ち、短冊形を呈するもの、Ⅱ類：Ⅰ類以外の形状で直線状の刃部を持つもの、Ⅲ類：外湾する刃部を持つもの、Ⅳ類：内湾する刃部を持つもの、Ⅴ類：急斜度剥離により刃部が形成されるもの、Ⅵ類：末端が三角形状になるもの、Ⅶ類：その他に分類できる。

両面調整石器　剥離が素材の両面に施されるが尖頭形でないもの。形状からⅠ類：木葉形のもの、Ⅱ類：石槍様のもの、Ⅲ類：その他に分類できる。

楔形石器　対向する小剥離が素材の両端部にあるもの。また、いわゆる両極剥離打法により発生する各種の割れの特徴を持つもの。素材からⅠ類：剥片素材、Ⅱ類：片面に原石面が見られるものに分類できる。さらに剥離の状況からａ：対向する二側縁に剥離の見られるもの、ｂ：対向する二側縁に剥離が見られ、側縁に樋状剥離面のあるもの、ｃ：対向する四側縁に剥離の見られるもの、ｄ：対向する四側縁に剥離が見られ、側縁に樋状剥離面のあるものに細分できる。

Ｒフレイク　散漫な剥離が加えられた不定形のもの。

剥片　石核、石器から剥離されたもので、二次的な剥離を受けていないもの。

石核　石器の素材となりうえる大きさ・形状の剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。

原石　打製石器の素材を供給する石材の礫のうち、素材剥片の剥離が行われていないか、もしくは不明瞭なもの。石器の原材料とみられるもの。

磨製石器群

石斧　打欠き・研磨などにより棒状、短冊状に整形され、斧状の刃部があるもの。整形状況によりⅠ類：擦り切りによるもの、Ⅱ類：打ち欠きによるもの、Ⅲ類：敲打によるもの、Ⅳ類：研磨によるものに分類できる。

石斧片　上記定義により認定された石斧の破片資料とみられるもので、想定される器体長の３分の１以下のもの。分類は石斧と同じ。

石斧原材　打欠き・研磨により棒状、短冊状に整形されるが、斧状の刃部が認められないもの。擦切り技法により発生した、擦切り残片含む。分類は石斧と同じ。

礫石器群

敲石　敲打痕があるものの内、能動的と考えられるもの。

凹石　敲打による明瞭な凹みが見られるもの。

すり石　擦り痕があるものの内、能動的と考えられるもの。

半円状扁平打製石器　周囲もしくは両端部を打ち欠き、半円または楕円に整形されたもので、縁辺に擦り痕を有するもの。

半円状扁平打製石器原材　周囲もしくは両端を打ち欠き、半円または楕円に整形されたもので、縁辺に擦り痕が認められないもの。

北海道式石冠　打ち欠き、敲打により、整形されたもので、下面に擦り痕を有するもの。

北海道式石冠原材　打ち欠き、敲打により、整形されたもので、下面に擦り痕が認められないもの。

石錘　扁平な礫の側縁に擦り切りに使用したとみられるすり面と段が見られるもの。

砥石　凹んだ砥面を持つもの。

台石・石皿　擦り痕もしくは敲打痕があるものの内、受動的と考えられるもの。使用痕によりⅠ類：敲打による凹みを持つもの、Ⅱ類：平坦な面にすり面を持つもの、Ⅲ類：自然の凹みにすり面を持つもの、Ⅳ類：敲打により平坦にするもの、Ⅴ類：凹凸のある面にすり面を持つもの、Ⅵ類：平坦な面に散漫な敲打痕を持つものに分類できる。

石製品

玉　穿孔された小礫。

石製品　礫に人為的な痕跡がみられるもの。

石棒　男根形に整形された棒状を呈するもの。

加工痕のある礫　定型的ではないが礫に何らかの加工を施すもの。礫石器の範疇に入れられるものも含む。

自然遺物

有孔礫　遺跡に搬入された礫のうち孔を有する礫。孔は人工的ではない。

礫　遺跡に搬入された礫のうち加工痕、使用痕の見出せないもの。礫石器の原石も含まれる。

アスファルト塊　遺跡に搬入されたアスファルトが塊として検出されたもの。土器小片を伴うものも含む。

ベンガラ　赤色の土壌粒子ないし塊として検出されたもの。朱の可能性もある。

粘土　乳白色の粘質の土壌として検出されたもの。

石材等

石材

石材については、頁岩、黒曜石、安山岩、チャート、玉髄、緑色泥岩、砂岩、蛇紋岩、ヒスイ、凝灰岩、軽石、片岩、礫岩、泥岩のほか、粘板岩、碧玉、流紋岩、閃緑岩、石英斑岩、珪岩と特定したが、厳密な岩石学的分類とは一致しない場合もある。また後者は数も少ないため正確な岩石名ではない可能性が高い。なお、チャートについては赤色の頁岩を多く含む可能性がある。

付着物

黒色ないし暗褐色の付着物については肉眼やルーペ（×10）を使用する範囲でアスファルトとした。しかし、マンガンや褐鉄鉱が付着している例とは明らかに状況が異なるものがほとんどであった。ほかに、赤色顔料が付着するものが2点あった。また、煤などによる付着物で物質が特定できなかったものについてはその他の付着物とした。

光沢

主に削器の刃部周縁や腹面に見られるもので、詳細については『野田生4遺跡』（(財)北海道埋蔵文化財センター　1992）を参照願いたい。

（福井）

【漆製品】

整理・報告の方法

漆塗櫛（AH006床面出土）に関しては、現地調査時に清掃後周辺部分を含めたまま土ごと取り上げを行った。保存状況を考慮し、株式会社東都文化財保存研究所にそのままの状態で処理を依頼した。処理は、現状確認の後、クリーニングにより遺物を土から取り外し、アクリル樹脂（リフタック）を塗布含浸することで強化した。

実測図については出土当時の状態を優先し、保存処理前に作成したものを掲載した。写真については処理前、処理後の両方を掲載し、処理後に撮影した裏面も掲載した。

ⅲ　遺物と記録類の保管

【土器】

収納については、掲載遺物を復原個体に限定したため掲載図、掲載写真との対応がわかるように収納した。掲載できなかったものについては接合資料、破片資料ともに各遺構の遺物番号毎、包含層では遺物番号及びグリッド別に小袋にて収納した

【石器・礫】

収納については、掲載遺物は図面に対応するように、１点づつ小袋に入れた後、図ごとに中袋に収納した。未掲載遺物については、器種ごとに遺構種別（住居跡、土坑など）、包含層地区別に分け、１点づつ小袋に入れた後、遺構ごと、グリッド数字ラインごとに中袋に収納した。剥片については遺構ごと、グリッドアルファベットラインごとに石材別に収納した。

5　調査結果の概要

A地区は最東端の縄文時代中期中葉の遺構、遺物が主体的に出土した。遺構は15基の土坑群とこれをとりまくように土器集中が６カ所、焼土が１カ所検出された。礫を伴った配石状の土坑などもあり、墓域を形成していたことも考えられる。遺物は総点数が1373点で土器が1194点を占める。時期は中期中葉が687点で最も多く、前期後葉のものが201点でこれに次ぐ。約100から200m離れたB、C地区で出土した後期のものはほとんど見られなかった。石器は178点で頁岩の剥片や安山岩の礫石器が多く見られた。

B地区は縄文時代後期中葉の遺構、遺物が主体的に出土し、中期中葉、後期前葉がこれに次ぐという様相である。遺構はきわめて良好な保存状況の下に、竪穴の平面形や掘り上げ土の範囲も明瞭に確認することが出来、これらの確認状況からは落ち込みの明瞭なものA、やや不明瞭なものB、ローム層面で確認されたC、黄褐色ローム土が円形に巡るMの４種類に区別することができた。

竪穴住居跡は34軒出土し、31軒が縄文時代後期、３軒が縄文時代中期のものであった。後期の住居跡はいずれも直径４～５mの楕円形のものがほとんどであるが、直径８mを超える大規模なものも見られた（AH１）。これらの竪穴には住居としての構造を明瞭に残しているものが多く、出入り口構造や地床炉、壁柱穴などが検出され、特に地床炉については、出入り口との直線上に風防状の立石が伴う「立石地床炉」を確認した。また、遺構覆土の中には自然堆積や屋根葺き土の崩落だけでは説明できない、人為的と思われる埋積状況のパターンが見られ、生活目的以外に何らかのかたちで竪穴が利用された可能性がうかがえた。特に床面遺物の保存状況の良さ、ベンガラ、アスファルトの出土などを考慮した場合、墓などとして利用された可能性も考えられる。

土坑は140基が検出された。縄文時代中期から後期にかけてのものが主体で、地区内の広範囲にわたって検出された。覆土の状態や配石を伴うものなどから、土壙墓として利用されていたものが多く

見られた。

遺物は総合計が90457点で、そのうち遺構出土が46584点、包含層出土が44396点で、遺構出土の遺物の割合が高い。また、遺構同様に良好な保存状況が大きな特徴で、土器は完形及び一括出土状態確認されたものが多く、特に遺構の床面・坑底出土の割合が高い。中でも特徴的なものは赤彩土器で、竪穴式住居跡（AH11）床面よりほぼ完形の状態で出土した。形態は注口土器を基本にしたダルマ形で、器高26cm、最大幅22cmを測る。最大の特徴である赤彩は水銀朱によるものと見られ、器面全体に施されている。文様は「微隆起線」という手法によって描かれた弧線文とボタン状の瘤との組み合わせからなる。また、石器は、竪穴住居跡床面で特徴的に出土するものとしては、削器、楔形石器、石斧、石斧原材、すり石、台石、石皿などがある。しかし、特に集中するような状況ではなかった。また、アスファルトが付着するものが多く、近隣の油徴地の存在などからアスファルトを直接採取し、利用していたものと考えられる。

製品については漆塗櫛が、竪穴式住居跡（AH６）床面から出土し、漆で固めた頭部のみを検出した。また、調査区南東部のBHからは石棒が完形の状態で出土した。

C地区はB地区の遺構、遺物群の延長範囲に属するものと想定されていたが、予想以上に遺構数、遺物点数が少なく、焼土３カ所、遺物集中を４カ所検出したのみである。集落あるいは遺跡の境界にあたるものと思われる。遺物は縄文時代中期から後期にかけてのものが主体である。

（藤井・福井）

表Ⅰ－1　遺構数及び出土遺物一覧（総合及び土器類）

地区別遺構数

	住居跡	土坑	焼土	遺物集中
A地区	なし	15	1	6
B地区	34	140	27	36
C地区	なし	なし	3	4

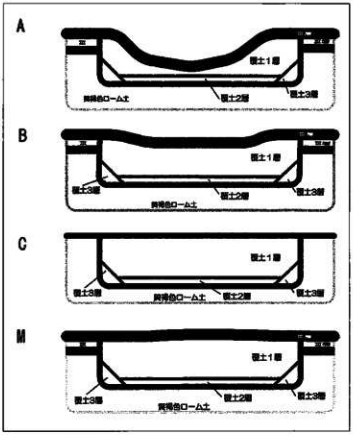
地区	遺構種別		総計
A地区	遺構	土坑	108
		焼土	4
		遺物集中	411
	遺構 計		523
	包含層		1373
BC地区	遺構	住居跡	34471
		土坑	5782
		焼土	54
		遺物集中	5754
	遺構 計		46061
	包含層		43023
合計			90457

地区	遺構種別		土器												
			ⅠA	ⅡB	Ⅲ	ⅢA	ⅢB	Ⅳ	ⅣA	ⅣB	ⅣC	Ⅵ	細片	不明	土器合計
A地区	遺構	土坑		4	6	36							2	9	57
		焼土				4									4
		遺物集中			91	255							34	29	409
	包含層			197	479	392		4		11			55	56	1194
BC地区	遺構	住居跡	26	18	4833	3408	91	5045	384	8392	129	1	558	1346	24231
		土坑	78	3	1029	1509	62	554	129	288	1		74	200	3927
		焼土			30	4		2	2					2	40
		遺物集中			570	1335		435	179	1842		136	56	202	4755
	包含層		4	11	1937	7929	125	6871	1288	854	12	71	492	1800	29394
合計			108	233	8975	14872	278	12911	1982	19387	142	208	1271	3643	64011

地区	遺構種別		木製品	土製品					自然遺物							
			櫛	スタンプ形土製品	ミニチュアⅢ	ミニチュアⅣB	焼成粘土塊	土製品	土製品合計	アスファルト	胡桃	砂	炭化材	炭化物	粘土	ベンガラ	自然遺物合計
A地区	遺構	土坑									1			1			2
		焼土															
		遺物集中															
	包含層				1				1								
BC地区	遺構	住居跡	1	4	4	85	29	10	132	4	1	1	44	91	18	10	145
		土坑		1	1	3	1	1	7	1				31	13		33
		焼土															
		遺物集中		1		1	2		4					2			2
	包含層			2	33	31	2	4	72					11		1	12
合計			1	8	39	120	34	15	216	5	2	1	44	136	2	11	194

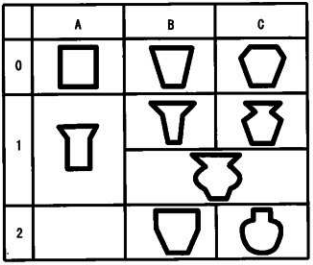
表Ⅰ－2　出土遺物一覧（石器類）

| 地区 | 種別 | 石鏃 | | | | | | | | | | 石槍 | | | | | | | | | | 石錐 | | | | | | | | | |



図Ⅰ－1　遺構確認状況と覆土の分類

図Ⅰ－2　遺物出土状況の分類



図Ⅰ－3　深鉢器形の分類

図Ⅰ－4　口唇断面形態区分の分類

Ⅱ　遺跡の位置と環境

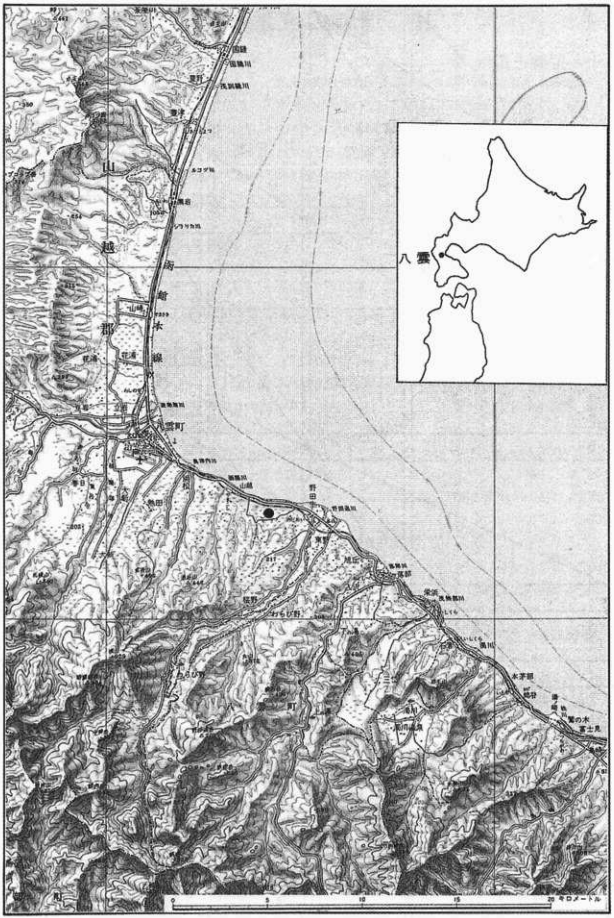
1．位置と環境

八雲町は北海道南西部の渡島半島東部ほぼ中央に位置し、内浦湾（噴火湾）に面している。野田生1遺跡は八雲町市街地から見て南東約6.5kmの野田生地区と山越地区の境界に位置し、標高約20～40mの海岸段丘が弥の助沢川と無名の沢に開析されたほぼ平坦な段丘面に立地する。遺跡は十万㎡前後の範囲に広がる。また弥の助沢川側には遺跡の主体が広がる段丘面よりもう一段低い河岸段丘面が形成されている。調査区より山側には同様に河川に沿って一段低い河岸段丘面が形成されているが、海側ではその段丘面はみられなくなる。上段段丘面はほぼ中央に不明瞭な尾根を有し、緩やかに両側の沢へ傾斜する。また、緩やかに山側から海側へ傾斜している。

遺跡は調査区外の山側、海側に広がっていることは周囲の畑地での遺物の分布が物語っている。その分布は、調査区中央の沢状地形周囲では遺物の散布が希薄になるようであるが、ほぼ上述の二つの河川に挟まれ、かつ海側の段丘崖から山側の現ミルクロード周辺にまで広がるようである。調査区の南北に隣接する畑地では中期・後期の土器、石器のほか、特殊なものとしてスタンプ状土製品、砥石が採集できた。遺跡の現状は畑地及び林地で、畑地では飼料用のデントコーンのほか、大根、ジャガイモ、牧草などが作付けされている。調査地点においてはプラウによる耕作がⅢ層（駒ケ岳ｄ火山灰下の黒色土）にまで達しておらず、包含層の遺存状況は良好であった。しかし、地元の方の話によると、調査地点の畑のみ浅いプラウが使われていたとのことで、周囲の畑地での包含層の遺存状況は定かでない。なお、大型の礫についてはプラウや耕作機械により掘り出されるようで、調査中も海側に隣接した畑で60cm大の礫が掘り起こされていた。また、山側に隣接する畑でも人頭大の礫が掘り起こされ、山積みされていた。ミルクロード周辺は名のとおり酪農家が点在し、遺跡の形成される段丘面より高位の段丘崖の崖垂堆積物によるとみられる斜面にまで牧草地が広がっている。その斜面は牧草地のほか雑木林になっており、エゾヒグマが現れることもあった。

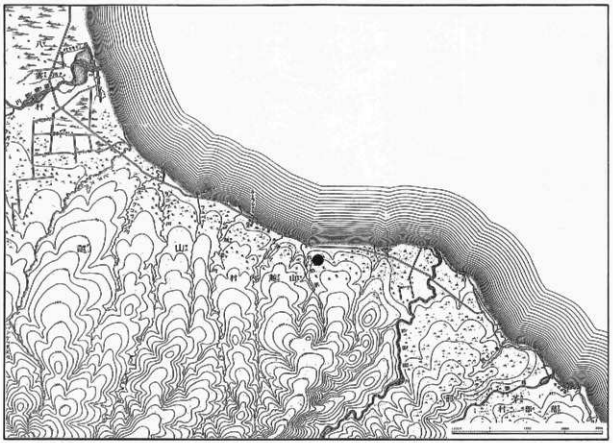
弥の助沢川は、人頭大の安山岩礫を主体とした礫底の河川で、浅い清流がエゾサンショウウオの生息地となっている。エゾサンショウウオは10月になると冬眠場所をもとめて調査区に入り込むことしばしばであった。調査区に入り込んだ生物としてはキタキツネ、アマガエル、エゾアカガエル、トガリネズミ、ヤチネズミ？、オケラ、ミヤマクワガタ、コクワガタなどが挙げられる。川は現状では開析が瀬棚層に達しており、部分的に化石床が露出している。化石床にはカキやエゾキンチャクガイが多く含まれている。同化石床は、畑地の下にも広がっているが、それを掘り起こし土地改良材や鶏の餌として利用している。地元の人々はこの化石床を「貝塚」と呼称しており、注意が必要である。

遺跡は、現在の行政区分では山越地区と野田生地区の境界にあたるが、遺跡の海岸側は野田生地区の中でも由追地区と呼ばれる。由追と呼ばれた地域は今の山越二区から由追地区とみられる。寛政3年にこの地を訪れた菅江真澄の遊覧記では往復とも物岱（東野）―山越内間を船で移動しているが、山越内までは和人が混住する地であったことが書かれている。しかし文化6年（1809）の「東蝦夷地山越内場所村鑑帳」では「ユヲイ　此所蝦夷家あり。（略）人馬往来よし。（略）此処の野地に湧湯あれ共病用にはならず」とあり、寛政12（1800）年小安（戸井町）から野田追（八雲町）にかけての箱館六か場所が「村並」になったことにより由追が松前地と蝦夷地の境となったもののまだ和人の人家は多くない様子が書かれる。次いで弘化2年（1845）の日記を原本とする松浦武四郎「蝦夷日誌」巻之四には「人家五六軒、皆漁者と昆布捕也。小商人老人有。」とありやや人家が増えてきたことが分かる。それが山越内に番所が設置された安政年間にはかなり繁栄を見たようで、松浦武四郎の「渡島日誌」

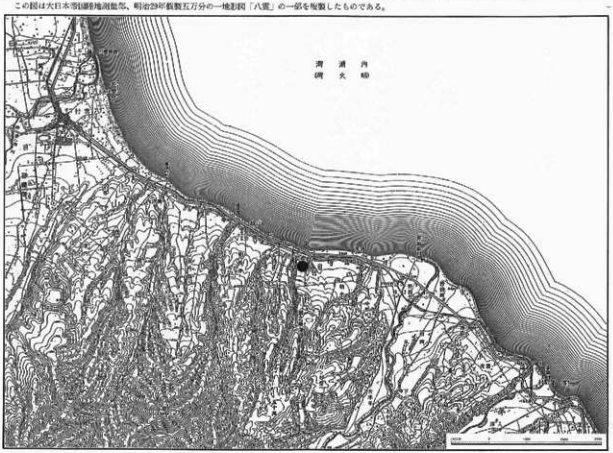


図Ⅱ－1　遺跡の位置

この図は国土地理院発行20万分の一地形図「室蘭」の一部を複製したものである

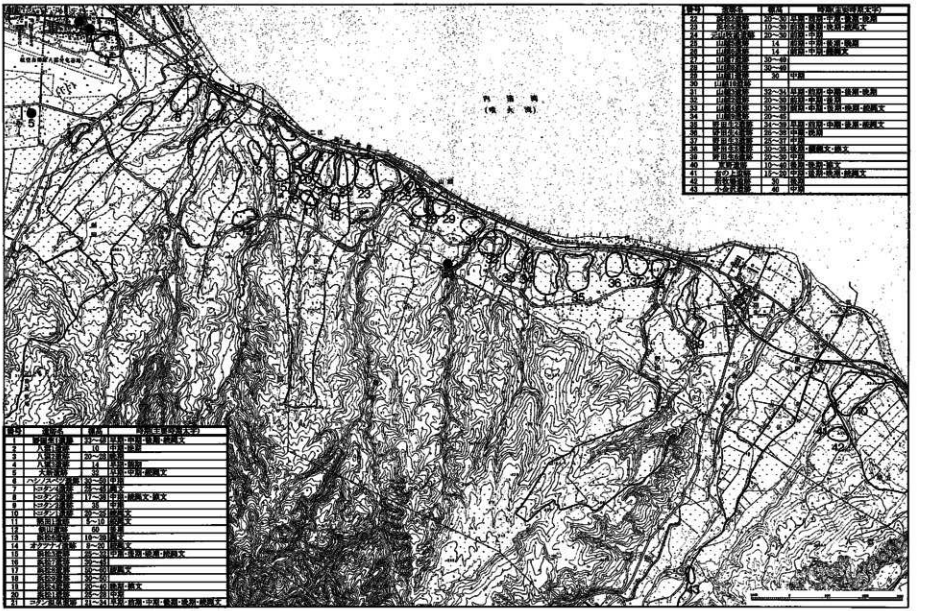


この図は大日本帝国陸地測量部、明治29年製製五万分の一地形図「八雲」の一部を複製したものである。

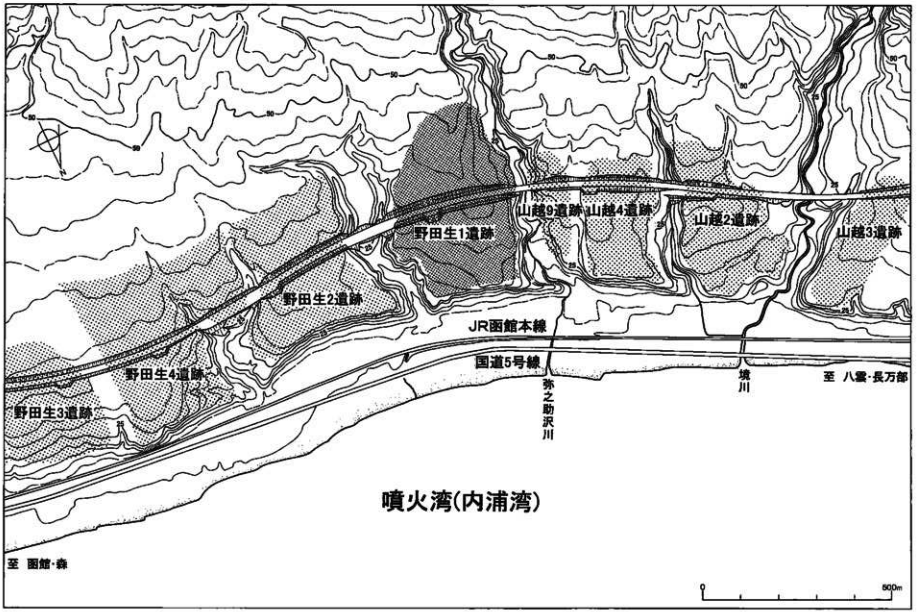


この図は大日本帝国陸地測量部、大正6年測図、昭和20年部分修正測図の五万分の一地形図「八雲」の一部を複製したものである。

図Ⅱ－2　遺跡周辺の旧地形



図Ⅱ－3　周辺遺跡分布図



図Ⅱ－4　遺跡周辺の地形と隣接遺跡

には「人家十余軒立り（略）小商人多し。茶屋も有る也。八丁三十間境の稲荷、是山越内の入口、シャモチと場所の境なり。近年此処に大なる旅籠屋を立たり。また臭水の油出るを以って、膏薬を製して売る家等有。頗る繁盛也。」とある。さらに高井英一の「罕有日記」では「家数三十軒、町並をなし休泊所も見へたり。売婦も抱へ置くよしなり。」とあり、また市川十郎の「蝦夷実地検考録」（安政４年）では「湯生は（略）漁業盛んなる故逆旅あり。売女多く寓す。温泉ありという。海岸に出る水硫黄の臭を聞く。然れども湯の在所を知らず。」とある。さらにやや誇張があるとされるものの川地経延の「蝦夷地巡廻日誌」にも「此辺人家少なけれども箱館を立て蝦夷一国の盤花の地。茶屋、仕立屋などあり」とある。しかし文久元年（1861）には山越内関門は廃止され、以後は漁村として繁栄したとみられる。

由追地区には文化２（1805）年以前の創建とされる由追稲荷神社がある。文化２年の号は木製祠の裏に「正月吉日、大仏師、西田要助他、京都御幸町伯売上」と共に書かれる。なお、寛政３（1791）年の「東蝦夷道中記」には「沼尻　此所ニ稲荷ノ宮アリ」と記されており、さらに安政４年の「蝦夷実地検考録補遺」にも「沼尻　稲荷社寛政中再建、神職菊池播磨」とある。あるいはこれは由追稲荷を指しているかも知れず、そうするとさらに創建は遡るとみられる。

由追は「湯笈・湯生・油井・由井」とも書かれ、「北海道蝦夷語地名解」では「温泉のある処」の意とされる。「蝦夷実地検考録」では「在所を知らず」とされたが、冷泉が境川の下流に湧き出ており、大正14年（1925）から昭和26年（1951）には久保田温泉として旅館が経営されていた。また「油井」という字は「渡島日誌」にある「臭水」の存在があったからかもしれない。今でも山越円融寺周辺では井戸や側溝から天然ガスと共に油が浮いている。また、この地の石油は文久元年に招請されたブレークによって報告され、その使用状況として「其油ヲ薬剤且点燈用トナシ、或ハ以テ製機ノ油煙ヲ造レリ」とのべている。さらに榎本武揚が試掘を行ったり、ライマンも調査報告したりしている。このほか、弥の助沢川の下流にかかる踏み切りや八雲炭料の湧水公園には「百万」の名が冠せられている。これも地名であるが、その由来は明治36年（1903）に埼玉県稲垣某が290町歩（87万坪、約して百万坪）借受け開拓にあたったことによるという。　（福井）

２．周辺の遺跡

八雲町内の遺跡についてはすでに詳細にまとめられているので（道埋文センター2000）、ここでは周辺の同時期の遺跡についてのみ述べる。野田生１遺跡の立地する段丘面は小河川により細かに分断されているが、大きくはハシノスベツ川と野田追川により区分されている。地名で言うとこの地域は大新、熱田、浜松、山越、野田生となる。両河川間には35遺跡がほとんど切れ目なく、大小河川に開析された舌状の段丘面に形成されている。時期も縄文時代早期以降、前・中・後・晩期、続縄文時代、擦文時代とほぼ連続して遺跡が形成されている。

野田生１遺跡の主体をなす後期中葉の時期の遺構・遺物は、浜松２遺跡の遺構・遺物と対比できる。浜松２遺跡は、八雲町教育委員会によって1560㎡が調査され、住居跡３軒、土坑６基、配石遺構11基などを検出した。遺構はいずれも後期中葉鍵潤式期のものとみられ、住居跡は野田生１遺跡同様出入口として内部に張り出しを持つ。また配石遺構が調査区中央部にみられるが、土坑を伴わない直径４～５mの二つの配石を中心にその周囲を楕円形ないし方形の土坑を伴う配石及び小柱穴が巡るような状況が想定される。住居跡や配石を伴わない土坑はこれら配石遺構を大きく取り囲むような状況が想定できるが、一部の調査であるため明確ではない。ほかに同時期の遺物はコタン温泉遺跡、山越４遺跡、台の上遺跡などで出土している。　（福井）

Ⅲ　遺構と出土遺物

1　A地区（図３－14）

（1）概要

A地区は野田生１遺跡における最東端の調査区にあたり、東側を比高差約12mの沢に面している。調査区の東寄り三分の一が急崖となったため、危険性を考慮した結果今回の調査範囲から242㎡を除外した。

調査区全体は東の沢に向かって緩やかに傾斜する緩斜面となっているが、西側ではB、C地区から連なる平坦面が見られる。遺物包含層の主体となるko-d火山灰下のⅢ層は、西側部分では上部が耕作によって撹乱されており、層厚５㎝ほどが残るのみである。一方、緩斜面から沢側にかけては、層厚30㎝ほどの堆積があり、ko-d以下の基本土層が全て保存された状態であった。

遺物は総点数が1,896点、そのうち土器類が1,664点、石器、礫類が232点である。出土分布は調査区南半分の斜面寄りに集中するが、遺構に比較して包含層出土の割合が高い。時期は縄文時代中期前葉の土器が主体を占め、前期後葉の土器がこれに次ぐ。

遺構は全てⅣ層上面にて確認され、配石遺構を含む土坑が15基、焼土が１ヶ所、土器集中出土地点が６ヶ所調査された。遺構分布は遺物と同様に調査区南半分の斜面部に集中するが、西寄りの平坦面部には径２～３mの大型の土坑が２基確認され、斜面部とはやや異なる様相を示した。

（2）遺構（図３～８）

1　土坑

AP１（図４掲載）

位置・規模　L9.M9　調査区東寄りの緩斜面上に立地する。AP６に隣接する。確認面の長軸（1.32）m、短軸1.86m、面積（2.07）㎡、底面の長軸（0.38）m、短軸0.44m、面積（0.13）㎡、最大深0.79m。

確認・調査　Ⅲ層上面の急な落ち込みにより範囲を確認した。調査区東壁に位置したため、全体の二分の一のみを調査した。

堆積状況　Ⅷ層以下を覆土とする自然堆積で、ko-d火山灰の明瞭な落ち込みは風倒木によるものである。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで丸底になっている。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　深鉢（土器６）土器片が覆土中に出土し、AP６のものと接合した。

性格・時期　風倒木痕を利用した縄文時代中期の土坑である。

AP２（図５　写真図版５掲載）

位置・規模　J9.10.K9.10　調査区南寄りの緩斜面上に立地し、AP３、AP５、AP15の中間に位置する。確認面の長軸0.89m、短軸0.70m、面積0.46㎡、底面の長軸0.56m、短軸0.54m、面積0.24㎡、最大深0.38m。

確認・調査　Ⅳ層上面の暗黄褐色土中に暗茶褐色土の円形プランを確認し、西側を半截して掘り下げた。

堆積状況　細かい分層になっているが、ローム粒を多く含む混土の明茶褐色土が主体である。

構造　Ⅴ層の明黄褐色ローム土を掘り込んで、やや丸みを持つ底面がつくられている。壁面は急な立ち上がりである。

遺物と出土状況　底面に安山岩の礫が２つ出土した。また、覆土中から土器片が数点出土し、土器２、９接合している。

性格・時期　縄文時代中期の、礫をともなう土坑である。

AP３（図５掲載）

位置・規模　K９　調査区南寄りの緩斜面上に立地し、AP２に近接する。確認面の長軸1.05m、短軸(0.73)m、面積（0.62）㎡、底面の長軸0.76m、短軸（0.46)m、面積（0.31）㎡、最大深0.19m。

確認・調査　東西方向に設定したトレンチにより、土層断面をもとに確認された。掘り込みは、浅く不明瞭であったが、暗茶褐色土の覆土を確認することができた。

堆積状況　上層が失われていたが、暗茶褐色土の単純な覆土を確認した。

構造　Ⅳ層下部を掘り込んで平坦な底面がつくられている。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　遺物の出土はみられなかった。

性格・時期　Ⅴ層を掘り込まない土坑である。

AP４（図５掲載）

位置・規模　J10　調査区南寄りの緩斜面に立地し、AP５、APC２に隣接する。確認面の長軸1.39m、短軸1.13m、面積1.14㎡、底面の長軸1.08m、短軸0.95m、面積0.70㎡、最大深0.28mを測る。

確認・調査　Ⅳ層上面の暗茶褐色ローム土上に礫２点が出土した。これを取り巻くように炭化物を含んだ黒褐色土の範囲を確認し、北側半分を半截して掘り下げた。

堆積状況　覆土は単純な堆積からなり、黒褐色土が主体である。

構造　西寄りにテラス状の部分がつくられている。底面は平坦であり、Ⅴ層を掘り込んでつくられている。壁の立ち上がりは急である。

遺物と出土状況　覆土上に安山岩の礫が２点確認され、覆土上層にのみ土器片が散在する。Ⅲ層出土の土器片は土器９に接合し、覆土中の土器片は土器４に接合した。

性格・時期　覆土中の土器片から、縄文時代中期中葉の土坑である。覆土上に礫をおくかたちから墓坑の可能性も考えられる。

AP５（図５掲載）

位置・規模　J10　調査区南寄りの平坦面上に立地し、AP４に隣接する。確認面の長軸0.95m、短軸0.70m、面積0.53㎡、底面の長軸0.77m、短軸0.49m、面積0.31㎡、最大深0.40m。

確認・調査　Ⅳ層上面にて楕円形の茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。

堆積状況　Ⅲ層からなる流れ込みの覆土を確認した。

構造　底面は南西側に低く傾斜したかたちである。立ち上がりは南西側に急で、北東側に緩やかである。

遺物と出土状況　覆土上層から安山岩の礫２点とⅢ群の土器片が１点出土した。

性格・時期　覆土中の土器から縄文時代中期Ⅲ群の時期である。覆土上面に礫をおくかたちから墓坑の可能性も考えられる。

AP６（図４掲載）

位置・規模　L9.10.M9.10　調査区中央の東に下がる傾斜面に立地する。AP１に近接し、AP9.10に隣接する。確認面の長軸は2.19m、短軸1.84m、面積3.22㎡、底面の長軸1.96m、短軸1.63m、面積2.56㎡、最大深0.32mを測る。

確認・調査　Ⅳ層上面にて楕円形の茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。

堆積状況　覆土の堆積は単純でⅢ層からなる流れ込みである。掘り込み面はより上層にあり、すでに

失われたものとみられる。
構造　地形の傾斜に比較して底面は平坦である。
遺物と出土状況　覆土中から縦位の撚糸文が明瞭なⅡ群B類の土器片1点とAK7に接合したⅢ群A類の土器片1点の計2点が出土した
性格・時期　覆土中の土器片の出土状況により、縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期である。

AP7（図6　写真図版5掲載）
位置・規模　K11　調査区西寄りの平坦面に立地する。周囲に近接する遺構はなく、包含層の遺物も少ない。確認面の長軸1.85m、短軸1.23m、面積1.97㎡、底面の長軸1.67m、短軸1.02m、面積1.43㎡、最大深0.6m。
確認・調査　Ⅴ層にあたる明黄褐色ローム土中に暗黄褐色土を主体とする楕円形の範囲を確認し、掘り下げた。
堆積状況　灰褐色土と黄褐色ローム土との混土が覆土の主体となる。底面直上には厚さ3～8㎝で腐植質の黒色土の堆積が見られた。
構造　Ⅴ層にあたる粘性の強い明黄褐色ローム土を掘り込んで、平坦な底面がつくられている。壁面は、一部、風倒木痕により不明瞭であるが、緩やかな立ち上がりを確認できた。
遺物と出土状況　安山岩の礫が3点出土したのみである。1点は確認面上に配置され、残りの2点は覆土中位で上下に重なるように検出された。
性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した。大型の礫を伴うことと埋積された黄ローム土の状況から墓坑の可能性が考えられる。

AP9（図4掲載）
位置・規模　L9　調査区東寄りの緩斜面に立地する。AP001、AP006に隣接する。確認面の長軸は0.68m、短軸0.58m、面積0.29㎡、底面の長軸0.39mⅤ層、黄褐色ローム層を掘り込んだ、短軸0.34m、面積0.11㎡、最大深0.27mを測る。
確認・調査　Ⅳ層上面にて楕円形の茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。
堆積状況　Ⅲ層に由来する自然堆積の覆土である。
構造　Ⅴ層、黄褐色ローム層を掘り込んだ平坦な底面で、壁面の立ち上がりはやや急である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した。

AP10（図4掲載）
位置・規模　L10　調査区やや東寄りの緩斜面に立地する。AP006、AP015に近接する。確認面の長軸は0.63m、短軸0.56m、面積0.27㎡、底面の長軸0.39m、短軸0.32m、面積0.11㎡、最大深0.33mを測る。
確認・調査　Ⅳ層上面にて楕円形の茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。
堆積状況　Ⅲ層に由来する自然堆積の覆土である。
構造　底面は平坦面がほとんどなく、丸底である。壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　チャートの剥片が覆土から2点出土した。
性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した

AP11（図6　写真図版5掲載）

位置・規模　M11.12　調査区西寄りの平坦面に立地する。AP016を切る。確認面の長軸は3.03m、短軸2.60m、面積6.19㎡、底面の長軸2.74m、短軸2.19m、面積4.78㎡、最大深0.41mを測る。面積規模はA地区でもっとも大きいものになる。

確認・調査　削平されたV層黄褐色ローム層内に、楕円形で暗黄褐色土の範囲を確認した。土層ベルトを残して掘り下げたところ、覆土中から焼土粒や炭化物粒などが確認された。

堆積状況　かたくしまった暗黄褐色土を主体とする覆土の堆積で細かい焼土粒や炭化物が散在する。覆土上層には炭化物と焼土のブロックが確認され、本遺構が二次的に使用された可能性が考えられる。

構造　V層、黄褐色ローム層が掘り込まれ、平坦な底面をつくっている。底面には柱穴状のピットが6ヶ所掘り込まれ、中央にはかたくしまった焼土の堆積が見られた。6つの柱穴状ピットはいずれも5㎝程度と浅いもので、垂直に掘り込まれている。

遺物と出土状況　覆土下層からⅢ群A類の土器片が出土した

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期である。暗黄褐色土を主体とする覆土は埋積されたものと考えられ、墓坑としての可能性も考えられる。

AP12（図4　写真図版5掲載）

位置・規模　M9.N9　調査区東寄りの緩斜面に立地する。AF1に隣接し、APC1に近接する。確認面の長軸は1.28m、短軸0.94m、面積0.88㎡、底面の長軸1.00m、短軸0.61m、面積0.50㎡、最大深0.32mを測る。

確認・調査　Ⅳ層下部にて楕円形の茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。底面付近からは礫が出土した。

堆積状況　覆土の堆積は礫を覆うようなかたちで細分可能な複雑な堆積である。

構造　V層、黄褐色ローム層を掘り込んだ底面はやや凹凸があり、壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　底面から安山岩の礫が2点と北海道式石冠が1点出土した。

性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した。底面の礫の出土状況から墓坑として使われた可能性も考えられる。

AP13（図5掲載）

位置・規模　K9.10　調査区南寄りの緩斜面に立地し、AP15、17に隣接する。確認面の長軸は0.49m、短軸0.47m、面積0.19㎡、底面の長軸（逆転）0.39m、短軸0.28m、面積0.08㎡、最大深0.31mを測る。

確認・調査　Ⅳ層下部にて楕円形の茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。

堆積状況　Ⅲ層に由来する自然堆積の覆土である。

構造　平面形は円形であり、底面には傾斜が見られた

遺物と出土状況　安山岩の剥片が2点出土した

性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した

AP15（図5掲載）

位置・規模　K10　調査区南寄りの緩斜面に立地し、AP2、3に隣接する。確認面の長軸は1.57m、短軸1.38m、面積1.69㎡、底面の長軸1.43m、短軸1.22m、面積1.32㎡、最大深0.34mを測る。

確認・調査　Ⅳ層下部の掘り下げ時に礫を中心に円形で黒褐色の範囲を確認し、半截して掘り下げた。

堆積状況　ローム粒を含むしまりのない暗茶褐色土が覆土の主体であるが、黒色の腐植土も上層に堆積しやや複雑な堆積が認められた。

構造　底面は地形の傾斜に沿ってやや西に傾くが概して平坦である。
遺物と出土状況　覆土上層に台石1点と覆土中からⅢ群の土器片1点と礫2点がから出土した。
性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しかったものの、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した。また礫の出土状況、覆土堆積の特徴から墓坑として利用された可能性が考えられる。

AP16（図6掲載）

位置・規模　M12　調査区西寄りの平坦面に立地する。AP11に切られる。確認面の長軸は0.92m、短軸0.65m、面積0.47㎡、底面の長軸0.24m、短軸0.17m、面積0.03㎡、最大深0.28m。
確認・調査　AP11の掘り下げ中に、壁面にて確認した。AP11の確認面よりも数㎝下がったⅤ層黄褐色ローム土中にて楕円形のプランを確認し、掘り下げた。
堆積状況　ロームブロックを含む堅くしまった暗茶褐色土が覆土の主体である。
構造　底面は丸底で北側に小さな掘り込みを伴う。壁面の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　遺物の出土は見られなかった。
性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した。また、切り合い関係によりAP11より古い時期と考えられる。

AP17（図5掲載）

位置・規模　K9　調査区南寄りの緩斜面に立地し、AP3、13に隣接する。確認面の長軸は0.51m、短軸0.48m、面積0.20㎡、底面の長軸0.38m、短軸0.34m、面積0.10㎡、最大深0.11mを測る。
確認・調査　Ⅳ層下部の確認面上に被熱した礫が数点と円形で茶褐色土の範囲を確認し、半截して掘り下げた。
堆積状況　Ⅲ層由来の単純な覆土である。
構造　Ⅴ層を掘り込んでつくられた平坦な底面である。
遺物と出土状況　確認面上から7点の礫を検出し、6点が被熱している
性格・時期　時期決定が可能な遺物が見られなかったが、遺構の確認状況及び形態などから縄文時代中期のものと判断した。

2　焼土

AF1（図4掲載）

位置・規模　N9　調査区東寄りの緩斜面に立地する。AP12、APC1に隣接する。確認面の長軸0.62m、短軸0.60m、面積0.25㎡、層厚5㎝。
確認・調査　Ⅳ層上部で焼土の堆積を確認した。AP12、APC1との関連が強いと考えられる。
堆積状況　焼土はレンズ状の堆積で厚さ5㎝程度である。
遺物と出土状況　焼土中からⅢ群A類の土器片が4点出土した。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期である。

3　土器集中

土器集中地点が6箇所確認された。

APC1（図8　写真図版4掲載）

位置・規模　N9　調査区東寄り緩斜面部に立地し、AF1、AP12二近接する　確認面での範囲の長軸は0.50m、短軸0.25mを測る。

確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ中に確認したが、掘り込みを伴わないことから土器集中とした。近接するAF１、AP12との関連が考えられる。
遺物と出土状況　細かな土器破片が集中して出土した。土器片は全て接合し、Ⅲ群A類の深鉢（土器１）が復元された。また１点は土器２と接合した。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期である。

APC２（図７掲載）

位置・規模　J10　調査区南寄り緩斜面部に立地し、確認面での範囲の長軸は1.20m、短軸1.00mを測る。
確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ中に確認したが、掘り込みを伴わないことから土器集中とした。
遺物と出土状況　細かな土器破片が集中して出土したが、他の土器集中に比較すると範囲が広く集中度は低い。土器２、土器３、土器４の３つの復元個体と接合する。
性格・時期　復原個体全てがⅢ群A類にあたることから、縄文時代中期中葉の遺構である。

APC３（図８掲載）

位置・規模　I9.10　調査区の最も南寄りの緩斜面上に立地し、APC７に近接する。確認面での範囲の長軸は0.6m、短軸0.3mを測る。
確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ中に確認したが、掘り込みを伴わないことから土器集中とした。
遺物と出土状況　細かな土器破片が集中して出土し、その集中度は高い。土器個体は復原掲載までには至らなかったが、Ⅲ群A類の土器片が100点以上出土した。
性格・時期　出土遺物からⅢ群A類の時期、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

APC４（図７掲載）

位置・規模　J９　調査区南寄りの緩斜面に立地し、AP４に近接する。確認面での範囲の長軸は0.6m、短軸0.3mを測る。
確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ中に確認したが、掘り込みを伴わないことから土器集中とした。
遺物と出土状況　Ⅲ群A類の土器片が集中して出土し、そのうち土器４が復元された
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期である。

APC５（図７掲載）

位置・規模　J10　調査区南寄りの緩斜面に立地し、APC2,4に隣接しAP４に近接する。確認面での範囲の長軸は0.4m、短軸0.3mを測る。
確認・調査　AP４の範囲確認時に確認したが、掘り込みを伴わないことから土器集中とした。
遺物と出土状況　細かな土器破片が集中して出土し、点数は39点と少ないがその集中度は高い。Ⅲ群A類の深鉢（土器７・写真図版68）を復原することができた。
性格・時期　復原個体（土器７）からⅢ群A類、縄文時代中期中葉の遺構である。

APC７（図８掲載）

位置・規模　I10　調査区の最も南寄りの緩斜面上に立地し、APC３に近接する。確認面での範囲の長軸は0.5m、短軸0.25mを測る。
確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ中に確認したが、掘り込みを伴わないことから土器集中とした。
遺物と出土状況　細かな土器破片が集中して出土し、点数は34点と少ないがその集中度は高い。Ⅲ群A類の深鉢（土器５）を復原することができた。
性格・時期　復原個体（土器５）からⅢ群A類、縄文時代中期中葉の遺構である。

（3）遺物（図9～14）

1　土器（図9～12）

1から8はⅢ群A類の深鉢である。

1は土器集中APC1から集中破片1の状態で出土した。器形は緩やかに胴部が膨らむもので、2種2対の4突起部分が外反する。突起部分にはに人面状に貼付紐を施され、口唇にはRL原体による刻みを施された部分が文様帯になる。地文は結束1種羽状縄文とRL斜行縄文からなる。2はAPC2（11）を主体にAP2（1）、APC1（1）、の破片が接合して復原されたものである。接合破片の分布は調査区内の広範囲に及び、土器破損後の移動がかなり大きかったものと推定され背景として人為的な要因も考えられる。1種類の4突起を中心にLとRの2種の原体による刻みの施された貼付紐が外反肥厚する口唇上にめぐらされた部分が文様帯で、地文は結束1種羽状縄文に結節が伴う。3はAPC2から分散破片1の状態で出土したものであり、破損後の移動はJ10`グリッドを中心とした放射状のものである。器形は1種4突起に胴部が膨らむタイプで、突起部分には穿孔を伴う。口唇には刻みの施された貼付紐が配される。地文は結束1種の羽状縄文に結節を伴うものである。4はAP4出土の破片が主体で接合したものである。器形は胴部が膨らまず、花弁状の4突起が外側に広がるものである。文様は口唇に無文の貼付紐が施され、突起部には穿孔がある。地文は結束1種羽状縄文で、結節を伴うものである。5は口縁部分のみであるがAPC7と離れた包含層との接合資料である。小突起と口唇上には刻みの施された貼付紐が施され、結束2種の羽状縄文を地文にしている。6はAP6とAP1の覆土出土の接合資料である。口縁部のみで花弁状の突起部に刻みの施された貼付紐と穿孔があり、口唇にはRL原体による刻みが施されている。地文は結束第1種の羽状縄文である。7はAPC5で分散破片1の状態で出土した。口縁が外反し緩やかに胴部が膨らむ器形である。胴上半部分は刻みの施された貼付紐と刺突列、縄線文が組み合わされて文様帯を構成している。下半部の地文はLR斜行縄文である8は小型の深鉢で口縁部が失われている。包含層Ⅲ層の出土で結束1種羽状縄文に結節を伴う。

9．10．11はⅡ群B類の深鉢である。

9は口縁部のみの接合資料である。口縁に平行した縄線文が2条巡り、口唇上は縄文原体による刻みが施されている。地文はRL斜行縄文である。10．11は縦位の絡条体回転文が施されていることからⅡ群B類と判断したものである。10はⅡ群B類の深鉢底部である。L10グリッド内の包含層（Ⅲ層）で分散破片（1）の状態で出土し、復元ができた。底部は平底で、径10㎝と大型の深鉢である。LR斜行縄文を横位と縦位で組み合わせた羽状縄文を地文にしているが、底部付近には縦位の絡条体回転文が見られる。11はⅡ群B類の深鉢底部である。L10グリッド内で分散破片（1）の状態で出土し、復元ができた。底部は平底で、径10㎝と大型の深鉢である。LR斜行縄文を横位と縦位で組み合わせた羽状縄文を地文にしているが、底部付近には縦位の撚糸文が見られる。（藤井）

2　遺構出土の石器（図13）

A地区遺構からは8点の剥片・礫を除く石器が出土し、その内土坑出土の4点と全体の50％を図示した。石器の内訳は、Rフレイクが2点、台石・石皿2点、石錐1点、削器が1点、北海道式石冠1点、すり石1点がある。石材では頁岩が4点、安山岩4点がある。

（1）剥片石器群

石錐（図14　表1　写真図版102　掲載番号1）

総数1点で、図示した。

ＡＰ11

覆土　1は頁岩製で、剥片の一端に調整を加えたもの。機能部先端及び左辺を欠損する。

削器

AP1の覆土から1点出土しているが図示していない。頁岩製で、外湾する刃部を持つもの。

Ｒフレイク

AP1及びAP11の覆土から各1点出土しているが、図示していない。いずれも頁岩製。

剥片

総数11点。内土坑から10点、遺物集中から1点出土した。図示したものはない。石材は頁岩が5点、安山岩4点、チャート2点がある。出土層位ではⅢ層で1点、覆土で10点。

（2）礫石器群

すり石

AP8の覆土から1点出土しているが図示していない。安山岩製。

北海道式石冠（図14　表1　写真図版102　掲載番号2）

総数1点で、図示した。

ＡＰ12

覆土　2は安山岩製で、把握部のみ敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。すり面はやや よく擦れるが、整形時の敲打痕も残る。器体の3分の1を欠損する。

台石・石皿（図15　表1　写真図版139　掲載番号3・4）

総数2点で、全て図示した。

ＡＰ２

覆土　3は安山岩製で、円礫素材。一面によく擦れた円形のすり面持つ。

ＡＰ15

覆土　4は安山岩製で、円礫素材。一面を敲打により平坦にし、かつその一部を円形に浅く凹ませたもの。すり面はその凹みに見られる。

（3）自然遺物

礫

総数29点。内土坑から28点、遺物集中から1点出土したが、図示していない。石材別では安山岩が28点と多く、ほかに泥岩1点。出土層位ではⅢ層で11点、覆土で18点。　（福井）

3　包含層出土の石器（図14）

A地区包含層からは51点の剥片・礫を除く石器が出土し、その内7点を図示した。全体の14%でしかない。石器の内訳は、Ｒフレイクが15点、削器が13点と多いが、定型的な石器ではつまみ付きナイフが4点、石鏃が3点あるほかは、2点以下である。また石核も5点と多い。重量で見ると台石・石皿

1.67kg、北海道式石冠1.52kg、敲石0.68kg、扁平打製石器0.56kgと礫石器が上位を占め、削器0.42kg、石斧片0.37kg、Rフレイク0.30kgが次ぐ。

石材では頁岩が33点と多く、次いで安山岩9点、チャート4点、黒曜石2点と続く。しかし、重量では安山岩が4.52kgと圧倒的となり、頁岩0.94kg、緑色泥岩0.34kgが次ぐ。

（1）剥片石器群

石鏃（図14　写真図版102　掲載番号5・6）

包含層からは3点出土し、2点図示した。細別は全て有茎鏃の側辺が外湾するもの。石材は頁岩、黒曜石、安山岩各1点。

5は頁岩製で、6は安山岩製。ともに平基有茎で、体部両側が外湾するもの。6はⅣ層から出土したもの。

つまみ付きナイフ（図14　写真図版102　掲載番号7・8）

包含層からは4点出土し、2点図示した。石材では頁岩3点、黒曜石1点。

7は頁岩製、8は黒曜石製。7はつまみの抉りを比較的丁寧に調整するものの、刃部は左側を不連続に調整するのみ。8は縦長剥片に両面調整を施し、三角形状にしたもので、精緻である。素材打面に自然面を残す。

削器（図14　写真図版102　掲載番号9）

包含層からは13点出土し、1点図示した。細別では直線状の刃部を持つもの5点、外反する刃部を持つもの4点、内湾する刃部を持つものと、直線状の刃部を持ち、短冊形を呈するもの各2点。石材は全て頁岩。光沢を持つものは4点ある。

9は頁岩製で、右側に直線状の刃部を持つもの。刃部両面中央部に光沢が見られる。

Rフレイク

包含層からは15点出土したが、図示していない。石材は頁岩13点、チャート2点。層位では1点がⅣ層から出土している。光沢を持つもの1点。

剥片

包含層からは96点出土した。今回図示したものはない。石材別では頁岩が73点と多く、次いで安山岩21点、チャート2点と続く。

石核

包含層からは5点出土したが、図示していない。石材は頁岩3点、チャート2点。

原石

包含層からは1点出土したが、図示していない。石材は安山岩。Ⅳ層から出土している。

（2）磨製石器群

石斧片（図14　写真図版102　掲載番号10）

包含層からは2点出土し、1点図示した。細別は打ち欠きにより整形するものと敲打により整形す

るものが各1点。石材は緑色泥岩、泥岩各1点。

10は緑色泥岩製の基部側。敲打により整形し研磨を加えたものとみられる。断面楕円形。

（3）礫石器群

敲石

包含層からは2点出土したが、図示していない。石材はいずれも安山岩。

扁平打製石器原材

包含層からは1点出土したが、図示していない。石材は安山岩。

北海道式石冠

包含層からは2点出土したが、図示していない。石材はいずれも安山岩。

台石・石皿

包含層からは2点出土したが、図示していない。石材は安山岩。

（4）石製品

石製品（図14　写真図版102　掲載番号11）

包含層からは1点出土し、図示した。

11は軽石製で、半分を欠損するものの元は楕円形を呈したものとみられる。一面は平滑で、よく擦られている。ほぼ中央とみられる部分に平滑な面から穿孔がなされる。

（5）自然遺物

礫

包含層からは28点出土したが、図示していない。石材別では安山岩が23点と多く、頁岩3点と続く。

（福井）

2　B・C地区

（1）遺構

遺構の概要

竪穴住居跡が34軒、配石遺構を含む土坑が140基、焼土27ヶ所、土器、石器の遺物集中出土地点が36ヶ所調査された。

1　住居跡

竪穴住居跡が検出されたのはB地区のみで34軒検出された。そのうち31軒が縄文時代後期中葉、3軒が縄文中期中葉の時期で、後期中葉の住居跡が大半を占める。分布はB地区の緩斜面部に25軒、中央の平坦面に8軒、下段段丘面に2軒があり、特に緩斜面部の北寄りに最も集中する。

AH1（図20-22　写真図版6，7掲載）

位置・規模　O71.72.P70.71.72.Q70.71.72　調査区中央北寄りの平坦面部分に立地し、CH30を切る。確認面における長軸は東西方向で8.5m、短軸が7.5m、面積49.88㎡を測り、調査区内最大の規模である。床面では長軸7.5m、短軸6.5m、面積44.58㎡で、確認面から床面までの最大深は0.50mと浅い。

確認・調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に円形の大きな落ち込みを確認した（確認類型A）。この円形の範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げた。覆土の堆積は浅く、かたくしまった床面と炉跡を確認することが出来たので住居跡と判断した。床面及び壁面の検出後、周辺の包含層を掘り下げて生活面の確認を行った。周囲の掘り上げ土の堆積は明瞭ではなく、南側と北側、AH6側にわずかに残るのみであった。東よりの一部には風倒木により覆土が攪乱されていたが、床面までには至っていない。

堆積状況　覆土の堆積が周囲に厚く、中心部に薄いため、包含層から大きく落ち込むかたちになっている。そのため中心部分の堆積は30cm、壁際部分の堆積が約90cmをはかる。中心部分の堆積がⅢ層由来の黒色土、暗茶褐色土などの単純な自然堆積が主であるのに比較して、壁際部分では暗黄褐色土、明茶褐色土などのローム粒を含む混土が交互に重なるような複雑な堆積を見せている。床面部分では暗黄褐色土が一面に堆積し、また床下5cmは小ローム粒をまばらに含む貼り床状の堆積が見られた。

構造　床面は平坦なつくりでかたくしまり、5cmほどの貼り床状の堆積も認められた。4本の柱穴はこの堆積を取り除いた後に明瞭に確認することが出来た。壁の立ち上がりはやや急で、壁面は明瞭に検出された。炉跡（HF1）は住居跡中央やや北よりに位置し、緩やかなⅢ状を呈していた。柱穴は4ヶ所で、約2.8m四方の配列で確認された。掘り込みの深さは4カ所とも同様で約60cmほどである。壁際北側には出入り口状の張り出し部分が設けられ、黄褐色ロームの張り出し部分をはさむように細長いピット2組1対が確認された（入り口ピット1,2,3,4）。入り口ピットの中には安山岩の礫を伴うものが見られた（入り口ピット4）。張り出し部分はその中央部分にわずかなテラス状の部分を設け階段状を呈している。

遺物と出土状況　遺物分布はⅢ層由来の覆土中に最も多く、床面に少ない。平面分布では中心部分が少なく、壁際周辺に集中する。床面からは炉跡周辺に頁岩のフレイクが母岩を中心に集中して出土し、壁際においてはⅣ群B類の無文の鉢（写真掲載3）がほぼ完形の状態で出土した。また、礫で30cm以上のものが壁際の覆土上層で数点検出され、覆土堆積中に持ち込まれたものと考えられる。

性格・時期　時期決定可能な遺物が少ないものの、縄文時代後期中葉の住居跡である。床面出土の炭化物サンプルを年代測定したところ、3480±40y.B.Pという年代が得られた。壁際周辺に見られた覆土中の礫などは住居埋没後に持ち込まれたものと考えられ、墓などとして二次的に利用された可能性

が考えられる。（藤井）

AH2（図23-24　写真図版8掲載）

位置・規模　O85. P84.85. Q85　調査区北側の緩斜面部に位置し、AH10、CH32に隣接する。確認面の長軸4.48m、短軸4.14m、面積14.71㎡、底面の長軸3.94m、短軸3.88m、面積12.54㎡、最大深0.96m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後に黒色土の落ち込みを確認し、南東－北西と北東－南西にベルトを設定して掘り下げた。ベルト断面により重複する土坑3基を確認した。出土遺物点数はⅢ層の流れ込みである黒色土からが多い。床面よりⅣ群B類2個体（土器54・93）が出土し、白色粘土1箇所、炭化物集中2箇所を検出した。掘り上げ土は西側の急斜面部側に堆積している。

堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とローム粒の混入する暗茶褐色土・茶褐色土である。1・3層はⅢ層の流れ込み、2層は隣接する遺構の掘り上げ土である。4～9層は埋め戻しによる堆積か、あるいは屋根の葺き土の崩落と考えられる。

構造　平面形はほぼ円形で床面は平坦であり、壁の立ち上がりは急である。中央よりやや北東側に地床炉があり、炉を挟んで南東－北西軸上に主柱穴HP6・7が位置する。北東側の壁を浅皿状に掘り広げており、その部分から柱穴HP9～12を検出した。出入り口は確認できなかった。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群31点、Ⅳ群119点（A類4点、B類42点）、石鏃2点、つまみ付きナイフ1点、削器11点、両面調整石器1点、楔形石器5点、Rフレイク11点、剥片103点、石核2点、原石1点、敲石2点、台石・石皿1点、礫10点、床面からⅣ群193点（B類52点）、石槍1点、楔形石器1点、Rフレイク1点、剥片4点、礫1点が出土した。

性格・時期　床面出土の復元個体から縄文時代後期中葉の時期に構築された竪穴住居跡である。また、床面出土土器の付着炭化物による^{14}C年代測定では3520±40y.B.Pであった。（菊池）

AH3（図25-27　写真図版9掲載）

位置・規模　H73.74.I73.74.J73　調査区中央やや北寄りの緩斜面上部に立地する。確認面の長軸は6.5m、短軸5.75m、面積30.00㎡、底面の長軸6.0m、短軸5.25m、面積25.92㎡、最大深0.75mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に円形の大きな落ち込みを確認した（確認類型A）。この円形の範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げた。かたくしまった床面と炉跡を検出し、住居跡と判断した。床面、壁面を検出した後周辺の包含層を掘り下げ、柱穴等の確認を行った。掘り上げ土の堆積などは不明瞭で範囲をとらえることが出来なかった。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土の堆積が厚く、床面付近にまで至る。ローム土に由来する暗黄褐色土の堆積は斜面下部側に厚く堆積し、また南側の壁際ではマウンド状に堆積する部分が確認された。床面上はローム土上に暗赤褐色に変色した部分があり、何らかの理由で焼けた痕跡と考えられる。中央部分の堆積は単純な堆積であるが、壁際の堆積は黒色土、暗茶褐色土、暗黄褐色土が入り混じる複雑な堆積を見せた。

構造　床面はしまりよくかたい黄褐色ロームの面であり、概して平坦である。壁の立ち上がりは緩やかで、壁面は不明瞭であった。炉跡（HF1）は中央やや東寄りにあり、東半分を礫が覆い被さるように検出された。本来は炉に伴う立石であったと考えられ、出入り口状部分と炉を結ぶ直線上に配置されている。炉はよく焼けた暗赤褐色の焼土からなり、炭化物を多量に含んでいた。炉跡の東側に隣接した土坑（HP1）は底面が皿状で壁が緩やかに立ち上がる。覆土は暗黄褐色土が主体で、黄ローム粒や炭化物を含む混土である。四本の柱穴状ピットは炉跡を囲むように約2.5m四方の配列で並ぶ（HP2.3.4.5）。深さは一様ではなくもっとも深いHP2が60cm、HP5が50cm、HP3,4が30cmである。

東側の壁際には内側に黄褐色ロームが張り出す部分があり、ピットなどは伴わなかったが出入り口状のものであると思われる。外側では斜面下部側に柱穴状のピットが確認された。

遺物と出土状況　他の住居跡と比べて出土遺物点数は少ない。層位順ではⅢ層が多く下層に従って少なくなる。平面分布は北側にややまとまりがあるが全体的にまばらである。床面では北側壁際にフレイクの集中が見られ、南側の壁際では扁平な円形の礫が出土した。土器は覆土中の破片がAH14との接合により浅鉢（土器118）が復原された。また、西側壁際では径10cmの範囲で明瞭なベンガラの集積が見られた。

性格・時期　出土遺物と周辺遺構との共通の特徴から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期の竪穴住居跡である。壁際周辺覆土中の礫やベンガラなどの遺物から埋没後に二次的な利用があった可能性が考えられる。（藤井）

AH４（図28-30　写真図版10掲載）

位置・規模　D74.75.E74.75.F74.75　調査区南よりの緩斜面に位置し、ＭＰ２・ＭＰ７と隣接する。確認面の長軸4.78m、短軸4.66m、面積18.05㎡、底面の長軸4.42m、短軸4.36m、面積15.55㎡、最大深0.58m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後のトレンチ調査において黒色土の落ち込みを確認し、東－西と南－北にベルトを設定して掘り下げた。中央部の覆土の堆積は薄く、出土遺物も少ない。床面からⅣ群Ｂ類（土器109）が復元された。また出入り口南側の覆土下部からベンガラが出土した。掘り上げ土は斜面の傾斜に沿って南西側に堆積している。

堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とローム粒の混入した暗赤褐色土・暗茶褐色土である。１層はⅢ層の流れ込みである。３層は固くしまった暗赤褐色土で、ほぼ中央に堆積している。堆積後に水の影響を受けたものと考えられる。３～11層は屋根の葺き土の崩落の可能性が強い。12・13層は出入り口構築のための張り土と考えられる。

構造　平面形は円形で、床面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。ほぼ中央に立石地床炉があり、炉を挟んで南－北軸上に主柱穴ＨＰ１・２が位置する。立石（606）は、蛇が鎌首をもたげているような形状で炉の西側に位置し、東を向いている。西側に位置する出入り口には、固くしまった土が堆積し、傾斜を緩くするための張り土と考えられる。その両側に長さ約35cm、深さ約８cmの溝があり、板等の付属物の跡の可能性がある。Ⅴ層上面で外柱穴ＨＰ５～８を確認した。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群４点、Ⅳ群54点（Ｂ類３点）、削器１点、楔形石器２点、Ｒフレイク２点、剥片13点、石核１点、石斧１点、敲石２点、半円状扁平打製石器１点、礫12点、床面からⅢ群１点、Ⅳ群４点、削器４点、楔形石器２点、剥片３点、石斧１点、台石・石皿２点、礫５点が出土した。

性格・時期　出土遺物と形態から縄文時代後期中葉の時期に構築された竪穴住居跡である。（菊池）

AH５（図31-34　写真図版11.12掲載）

位置・規模　E70.E71.F70.F71　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面長軸6.22m、短軸5.60m、面積26.93㎡、底面長軸5.69m、短軸5.19m、面積24.14㎡、最大深0.77m。

確認・調査　Ⅱ層除去後凹みとして確認。四分法で二方向の土層断面図を作成。なお、遺物取上げ時の層名は大別層名である「覆土（数字）」を用いている。「土層」との対応関係は堆積状況に記載してある。ほかに「覆土」として取り上げた遺物は、遺物番号245～248については炉跡、遺物番号118～120については床面、遺物番号72・73・77・79については包含層Ⅲ層、それ以外は覆土１から出土したもの

である。

堆積状況　壁際に暗褐色系の覆土３（土層21～24）が堆積し、それを黒褐色系の覆土２（土層20）、暗黄褐色～暗褐色系の覆土１（土層１～19）が覆う。覆土３は基本的には暗褐色土で、北壁側でのみ黒褐色土であった。なお後述するように黒褐色の覆土３下部からはベンガラ塊や粘土が検出された。覆土３の上面は緩やかな曲線を描いており自然堆積と考えられる。覆土２は東壁側でのみ確認された。堆積状態は壁の中段からほぼ水平に堆積し、１ないし1.5mで床面に収束するが、一部マウンド状に盛り上がる部分もあった。したがって、人為堆積の可能性が高い。覆土１は層理が不明瞭ながらいくつかに分層できる。しかし基本的にローム質土で、上面も凹凸に富むことから人為的に埋積されたか、あるいは土葺き屋根の崩落土と考えられる。

構造　住居を緩やかな斜面に構築しているため、斜面上部にあたる東側を深く、斜面下部にあたる西側を浅く掘り、床面をほぼ水平にしている。ただ、それだけでは壁高の格差が大きいため掘上土を斜面下部及び南側に盛土し、斜面下部では約５～15cm、南壁では約10～15cmの壁高を是正している。

南壁には内側に突き出した出入口がみられた。出入口は舌状に内側に突き出すように掘り残したもので、その上面にはロームブロックを多く含む土層が堆積していた。また出入口は断面図に示したように階段状を呈していた。出入口の両脇には深さ約２～３cmの溝が見られたが、直線的ではなく緩く湾曲しており、底面も凹凸の激しいものであった。ほかに出入り口付近には７基のピットが見られた。深さ、及び覆土の状況を元に①HP９・10、②HP11・12、③HP13・17・18の３種に分類できた。①は深さ10cm前後とやや浅く、ややしまる土層が堆積するものである。②は深さ30cm前後のもので、しまりのない土層が堆積するものである。③は深さ２cm前後と非常に浅いもの。出入口は突出部にこれら溝、ピットを残す構築物が付属して機能していたものとみられる。

中央部には皿状に凹んだ炉跡が見られた。凹みは掘り込みによるのか、被熱によるロームの収縮によるのかは明瞭ではなかった。炉跡に隣接して後述する立石がみられた。

柱穴は炉を挟んで東西に各４基ずつ見られた。深さと覆土から①HP１～４、②HP５・６、③HP７・８の３種に分類できた。①は主柱穴とみられ、深さは30cm前後で、しまりのない土層が堆積していた。②は棟持柱とみられ、深さ15cm前後で、ロームブロックの多いしまりの弱い土層が堆積していた。③は斜め材の痕跡とみられ、斜めに掘り込み、しまりのない土層と根固めをしたとみられるしまった土層が堆積していた。ほかにピットは北壁側で３基みられたがいずれも深さ２cm前後と非常に浅く、それらに囲まれるように粘土や台付き鉢形土器の台部（土器74）が出土していることから祭壇のような施設のために掘り込まれたものかもしれない。なお、北壁にはこれら３基のピットに隣接して外側に突き出すステップ状の掘り込みが見られた。さらに南壁外側では２基のピット（HP21・22）が見られた。

遺物と出土状況　特に遺物が集中する層や場所はなく、出土点数にばらつきはあるもののほぼ各層より出土している。各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器106点、石器24点、礫６点〉、覆土１〈土器140点、石器26点、礫６点〉、覆土２〈土器７点、石器12点、礫２点〉、覆土３〈土器22点、石器39点、礫７点〉、床面〈石器15点、礫１点〉、炉跡〈石器１点〉、HP５〈土器１点、石器１点〉。石器の内訳は、Ⅲ層〈石鏃１点、削器・石核各２点〉、覆土１〈削器・楔形石器各１点〉、覆土２〈削器・石斧片・すり石・台石各１点〉、覆土３〈削器７点、石鏃・すり石各２点、石錐・鏃状石器・石核・石製品各１点〉、掘上土〈すり石・台石各１点〉、出入口部〈台石１点〉。

土器では北側のⅢ層から完形の浅鉢形土器が出土した。また床面から完形の注口土器２点（土器18、19）、台付き鉢形土器の台部が倒立状態で出土した。注口土器は出入口西側で並ぶような状態で出土

した。台付き鉢形土器の台部は、北壁側で出土した（土器74）。倒立状態で使用されたようで、内側には煤が付着していた。ほかに、床面からは北壁側で台石・石皿（569）、粘土、ベンガラ塊が出土している。また炉跡に隣接して立石（607）も検出された。立石は炉跡と出入口を結ぶ線にほぼ平行し、かつ炉跡側に傾斜していたが、被熱痕はみられなかった。さらに出入口部の上段では台石（570）が出土した。

性格・時期　縄文時代後期中葉の住居跡である。住居廃絶後は覆土3に覆われてベンガラ塊や粘土が出土していることから廃屋墓として利用された可能性が考えられる。覆土1・2については自然流入土とは考えられない。人為堆積物とみられるが、埋積したものか、土葺きの屋根土が崩落したものかの判断はつかなかった。（福井）

AH6（図35-39　写真図版13掲載）

位置・規模　N73.74.O73.74.P73.74　調査区中央やや北寄りの平坦面部に立地し、CP123、124、141を切る。確認面の長軸は6.08m、短軸6.0m、面積29.13㎡、底面の長軸5.12m、短軸5.00m、面積21.04㎡、最大深0.92mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に円形の大きな落ち込みを確認した（確認類型A）。この円形の範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げた。かたくしまった床面と炉跡を確認して住居跡と判断した。床面と炉跡を検出した後、壁面を検出したが、西側でやや不明瞭な部分が見られた。土層ベルトの観察により東寄りの壁際に筋状の黒色土と骨片状の堆積と床面付近に粘土や炭化物を含んだ黒色土の範囲が認められたため、部分的に50cm小グリッドにより掘り下げたところ、黒色土の範囲内において漆塗りの櫛が出土した。墓として利用された可能性を考慮し、周辺部分の土壌はサンプルとして採取しリン酸分析を行った。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土が厚く堆積する。中央部分が単純な堆積であるのに対して、東壁際部分はかなり複雑な様相で、暗茶褐色土や暗黄褐色土、黒色土が入り組んでいるが、床面上には炭化物や焼土を含む暗黄褐色土がマウンド状に堆積し、その上層には筋状に焼土や炭化物を多量に含む黒色土の堆積が見られた。

構造　床面はやや赤みを帯びたかたくしまったローム面につくられていて平坦である。壁の立ち上がりは急である。炉跡はほぼ住居の中心に位置し、白みがかった薄い赤褐色の焼土から成り、床のローム面との層界が明瞭である。炉跡に隣接して俎状の礫が炉跡に覆い被さるように出土した。礫は約4分の1が床に突き刺さるかたちの立石で、炉と出入り口状部分とを直線で結んだ線上に位置する。柱穴は明瞭なものが検出されなかったが、東壁際に直径10cm、深さ20から10cmほどのものが9カ所確認された。南側に設けられた出入り口状部分はローム土が内側に張り出した部分を小ピットがはさむように配置されたかたちになっている。ピットは細長い形状のものは1カ所だけで（出入り口ピット2）他はすべて円形で深さ10cm程度の浅いものである。

遺物と出土状況　遺物の分布はⅢ層、覆土1層ともに大差がなく、床面の遺物も多い。平面分布は各層ともに東壁寄りに集中が見られ、漆塗り櫛の出土地点との関わりが考えられる。また、南寄りの入り口部分は分布の空白地域にあたっている。床面には礫が散在し、土器も集中破片（1）の状態で土器56,62,70,62の4個体が出土し完形状態で復原された。赤彩注口土器（土器14）は床面から出土した破片が、約70mはなれた急斜面部の包含層出土の破片と接合し、復原された。また、西側壁際ではベンガラの範囲を確認した。また東壁際の黒色土土壙中には種子同定の結果オニグルミが多く混入していることが明らかになった。

性格・時期　床面出土の復原個体から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期の竪穴住居跡であるが、覆

土の堆積状態及び漆塗り櫛が出土したことを考慮すると、日常生活目的以外の竪穴利用の可能性も考えられる。土壌理化学分析の結果（Ⅳ－5）においては「遺体埋納などの要因によるリン酸富化の可能性」が指摘されており、竪穴を人為的に埋積し、墓などに利用していたものと考えられる。また。床面出土土器の付着炭化物による^{14}C年代測定結果は3490±40y.B.Pであった。（藤井）

AH 7（図40-45　写真図版14. 15掲載）

位置・規模　Q75.Q76　調査区北側の非常に緩やかな斜面上に位置する。半分が調査区外に広がる。確認面の長軸5.54m、短軸（2.67）m、面積（12.14）㎡、底面の長軸5.71m、短軸（2.57）m、面積（11.80）㎡、最大深0.65m。

確認・調査　Ⅱ層除去後凹みとして確認。約半分が調査区外に広がっている。二分法で二方向の土層断面図を作成。なお、遺物取上げ時の層名は大別層名である「覆土（数字）」を用いている。「土層」との対応関係は堆積状況に記載してある。

堆積状況　壁際に褐色系と黒色系の覆土3（土層15～21）が堆積し、それを黒色系の覆土2（土層12・13）、褐色系の覆土1（土層1～4）が覆う。覆土3は基本的には黒色土（土層19・21）で、それを褐色土（土層17）が覆う形である。ただいずれも急斜度で堆積している部分があり人為堆積の可能性が考えられる。覆土2は東側から流れ込むような状態で堆積しており、住居西側での堆積は薄い。しかし、その上面は波を打つようになっており、一部水平をなす部分もあるなど自然堆積とするには不自然な状況が多い。覆土1は緩やかな曲線を描きながら覆土2を覆っており自然堆積の可能性が高い。しかし、西半分では層理が不明瞭でクロボクとロームが混入しているような状況も見られたため部分的に人為堆積を含むものとみられる。

構造　住居を斜面に構築しているため、斜面上部にあたる東側を深く、斜面下部にあたる西側を浅く掘り、床面をほぼ水平にしている。

炉跡はほぼ中央で確認できたが、掘り込みはなくV層が皿状に赤変していた。ほかに床が赤変している部分がみられたが、後述するように覆土3堆積後に多量の材が燃焼された痕跡が見られたことからその際に被熱したものと判断した。

貼床は壁際を除きほぼ全面に見られ、厚いところでは約5cmあった。柱穴は多数確認され、特に壁柱穴と推定できるものは23基（HP1～17・19・20・35・42～44）あった。HP25・26・32は主柱穴とみられ、四本柱の主柱穴の可能性がある。なおHP25・26は柱の建て替えによるものとみられ、覆土をみるとHP25は埋積されておりHP26のほうが新しいと考えられる。なお、HP24・47・48は位置から見て出入口に関係するピットの可能性がある。またHP27と31は貼り床上の凹みであった。

遺物と出土状況　覆土1・2から大半の遺物が出土しているが、後述するようにばらばらの出土状態ながら半完形に復元された土器も多い。各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器162点、石器68点、礫23点〉、覆土1〈土器467点、石器170点、礫83点、土製品1点、石製品2点〉、覆土2〈土器266点、石器77点、礫87点、石製品1点〉、覆土3〈土器49点、石器17点、礫13点〉、床面〈土器65点、石器12点、礫8点〉、貼り床中〈土器4点、石器8点〉、柱穴〈土器22点、石器16点〉。石器の内訳は、Ⅲ層〈削器5点、石核・敲石各3点、すり石2点、つまみ付きナイフ・扁平打製石器原材各1点〉、覆土1〈削器5点、つまみ付きナイフ・楔形石器各3点、石核・加工痕のある礫・石製品各2点、石鏃・石錐・鏃状石器・石斧片・敲石・台石各1点〉、覆土2〈削器7点、台石4点、敲石3点、加工痕のある礫2点、石鏃・石錐・つまみ付きナイフ・石斧片・すり石・北海道式石冠原材・石製品各1点〉、覆土3〈削器4点、石鏃・台石各1点〉、床面〈削器2点、貼床で削器2点、敲石1点〉、HP39〈すり石1点〉。

Ⅲ層からは完形に復元された注口土器が出土している（土器25）。覆土1では遺物はほぼ全面で多量に出土しており、特に東側では大型の礫が集中する。土器の分布には大きな偏りは見られないが、中央部で半完形に復元された括れのない深鉢形土器、浅鉢形土器、無文の注口土器が出土している。深鉢形土器についてはAH14、MP3から出土したものとも接合している（土器88）。また剥片集中が南西側で2ヶ所みられ、鏃形土製品も同層から出土している。覆土2では遺物は東側に偏って出土した。覆土1以上に大型の礫が多く、4点の台石・石皿（573）が含まれていた。そのやや南側ではほぼ完形に復元できた羽状縄文を持つ鉢形土器がばらばらの状態で出土した。ほかに赤彩土器が南側から5点破片で出土した（他に1点覆土1に含まれる）が、AH12・16出土土器と接合しほぼ完形になった（土器13）。破片の主体はAH12で出土した。さらに西側から波状口縁を持つ小型土器が半完形で出土した（土器13）。

また覆土2下部からは炭化材が集中して出土した。柱状や板状の炭化材がみられ焼失家屋の可能性が考えられたが、覆土3に3分の2を包含される台石の覆土2包含分が被熱しており、覆土3直上には焼土（土層14）もみられたことから、覆土3堆積後燃えたものと考えられる。なお、柱穴と炭化材の分布を見るとHP12・17・18・25・26・32・33にほぼ重なっていることから、住居廃絶後何本か柱が残っていたものを覆土3堆積後に火をつけたという状況が想定できる。炭化材については39点について樹種同定を行い、27点（69%）がクリ材であった。その他の種は炭化材自体小片のもので、主要な建築材と考えられるものではない。

覆土3からはアスファルト塊（615）が出土した。ほかに台石（574）が出土した。床面からはベンガラ粒が南側を中心に散在し、南西側では粘土粒が散在していた。ベンガラは一部貼り床中にも含まれていた。ほかに西側で台付き鉢形土器が半完形で出土した（土器112）。

床面については貼り床を含む土壌を東西1m、南北50cm単位で採取し、フローテーション法により炭化種子の選別を行った。結果、クルミの核の細片が検出された。その分布は僅かであるが、炉跡周辺に多く見られた。

性格・時期　縄文時代後期中葉の住居跡である。なお、HP―32出土炭化材の14C年代測定値は、3370±40であった。住居廃絶後は覆土3に覆われてベンガラ粒が散布されていることから廃屋墓として利用された可能性が考えられる。さらに覆土3堆積後の凹みは一種の捨場として機能したものとみられる。ただ同層で見られた炭化材集中及び焼土は住居廃絶後に遺存していた柱を燃やした可能性もある。覆土2堆積後の凹みも引き続き一種の捨場として機能したようであるが、同時に他の遺構の排土などで埋積されたものと考えられる。（福井）

AH8（図48-49　写真図版16掲載）

位置・規模　P78.79. Q77.78.79　調査区北側の緩斜面上に立地する。遺構周辺は狭い平坦部になっている。確認面の長軸（3.67）m、短軸8.83m、面積（24.83）㎡、底面の長軸（3.70）m、短軸8.61m、面積（23.41）㎡、最大深84cmを測る。

確認・調査　Ⅲ層上面での急な落ち込みにより範囲を確認した。遺構は北側の調査区域外まで構築され、調査は遺構全体の半分以下にとどまった。

土層観察用のベルトを遺構長短軸に沿ってT字状に設定し、覆土を層位毎に掘り下げた。土層断面図はT字の2方向で作成した。床面検出後、柱穴状ピットの調査と貼り床の除去をおこなった。

堆積状況　覆土は大きく①～③に区分できる。

① 壁際から遺構の中央にかけて堆積する上位の土（1・2・3・3´・4・7・9層）

② 壁際に主に堆積する土（5・6・8層）

③ 床面直上に堆積する下位の土（10～12層）

①は、Ⅲ層類似の黒～暗褐色の土と、近接する遺構からの掘上げ土と考えられる土で構成される。②は、ロームブロックを多く含有する土を主とし、壁に接してローム混入率の高い土が厚く堆積している。層厚は、厚い部分で40cmを越える。③は暗黄褐色、暗茶褐色のロームブロックを多く含む土である。①は自然堆積、②・③は人為的な埋め戻し、または遺構の周囲に盛られていた土が流入したものと考えられる。遺物取り上げ層位は①が覆土１、②・③が覆土２に該当する。

構造　平面は円形もしくは楕円形を呈すると考えられる。壁は東側が深く、西側が浅く構築されていた。これは周囲の緩斜面地形に影響されたことが考えられる。また、壁は部分的にオーバーハングしていた。

柱穴状ピットは31基確認された。HP-１は主柱穴と考えられるもので、遺構の長軸上に構築されている。深さは床面から70cm以上を測り、ほぼ垂直に掘り込まれていた。HP-２～６は支柱穴と考えられるもので、HP-１に近接して２基、壁付近に３基構築されている。遺構長軸を軸におおよそシンメトリーに配置されている。深さは８～30cmほどで、比較的浅い。HP-７～31は壁に沿って構築された小形のピットである。各ピットは30cmほどの間隔で配置されていた。確認面の長径は10cm前後、深さは30～50cmのものが多く、ほぼ垂直に確認された。底部は尖るものが多く、ピット規模からも、柱材は床面から直接打ち込まれた可能性がある。また、HP-７～31の覆土はしまりの極めて弱いものが多くみられた。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器264点、石器53点、礫15点）、覆土（土器757点、石器158点、礫40点）、床（土器36点、石器７点、礫４点）、付属施設（土器５点、石器４点）、掘上げ土（土器357点、石器67点、礫56点）である。床面出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅳ群Ｂ類８点）、石器（Rフレイク１点、剥片６点）である。土器は、まとまった状態で出土したものが３個体みられた。深鉢98は覆土からまとまって出土した。深鉢は、床面、覆土から出土した破片が掘上げ土でまとまって出土したものと接合している。土器161の床面出土資料は遺構廃絶から間もない時期に遺構内に流入したと考えられる。また、土器176は掘上げ土から出土している。土器176・161は形態的特徴から中期中葉の土器と考えられる。石器は、覆土から削器、Rフレイクが多く出土している。

性格・時期　縄文時代後期中葉の住居址と考えられる。（坂本）

AH９（図50-52　写真図版17掲載）

位置・規模　Q81.Q82　調査区北側の緩斜面上に位置する。確認面の長軸（4.70）m、短軸（2.26）m、面積（8.61）㎡、底面の長軸（4.56）m、短軸（2.18）m、面積（8.03）㎡、最大深0.73m。

確認・調査　Ⅱ層除去後凹みとして確認。約半分が調査区外に広がっている。二分法で二方向の土層断面図を作成。なお、遺物取上げ時の層名は大別層名である「覆土（数字）」を用いている。「土層」との対応関係は堆積状況に記載してある。また「覆土」として取り上げられた遺物は全て包含層から出土したもので、本遺構と明確な関係性はない。

堆積状況　壁際に黒色系の覆土３（土層16～25）が三角堆積し、それを褐色系の覆土１（土層５～15）、黒色系の覆土０（土層１～４）が覆う。覆土３には黒色土の間に壁崩落土とみられるロームを一枚挟む（土層19・21）。堆積状況も緩やかな弧を描かず、壁に沿うように堆積したり、一部水平化したりする面もあり、人為堆積の可能性も考えられる。覆土１は壁から住居中央部へと傾斜するものの、その上面は凹凸が著しく、また中央部付近で急に凹んだような状況になっている。また大半がローム質土で、特に西側にあたる斜面側では層理が不明瞭で土層細別が困難であった。その由来は周辺の住居の掘上土を人為的に埋積したか、土葺き屋根の崩落の可能性が考えられる。覆土０は緩やかな弧を描く

ように覆土1を覆っているため自然堆積とみられる。さらにその上をⅢ層が覆うが、凹みを埋没させるまでには至らず、Ko-dにより完全に埋没した。

構造　住居を斜面に構築しているため、斜面上部にあたる東側を深く、斜面下部にあたる西側を浅く掘り、床面をほぼ水平にしている。ただ、それだけでは壁高の格差が最大倍近くになるため掘上土を斜面下部中心に半周させ、斜面下部では約13cm、北壁では約8cmの壁高を是正している。また斜面上部に土層27とした掘上土とみられる土層が堆積していたが、堆積状況からさらに斜面上部に位置するAH8の掘上土の可能性が考えられる。出入口は確認できなかったが、土層22が西壁付近に見られ、クロボクとロームが細かな互層になり、良くしまっていることから少し北側に出入口が存在する可能性がある。炉跡も確認できていないが、床面中央部に貼床が見られることからやはりもう少し北に存在するものとみられる。主柱穴と推定できるものはHP6のみで、HP1・2・7・8・9・10は壁柱穴とみられる。

遺物と出土状況　大半が覆土0から出土しているが、その分布は東半分に集中している。東半分の覆土0出土としたものは覆土1上面より2ないし3cm上位に位置する。流れ込みが含まれる可能性も強いが、個体に復元された土器が3個体あり、凹みを利用した一種の捨場とみられる。各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層（覆土0含む）〈土器520点、石器127点、礫39点〉、覆土〈土器137点、石器50点、礫19点、土製品1点〉、覆土3〈土器15点、石器20点、礫3点〉、床面〈土器4点、石器7点、礫1点〉、HP4〈石器1点〉。

石器の内訳は、Ⅲ層（覆土0含む）〈削器7点、石鏃・敲石各4点、楔形石器3点、石錐2点、掻器・石斧片・北海道式石冠・扁平打製石器・扁平打製石器原材各1点〉、覆土1〈削器5点、石鏃3点、扁平打製石器原材2点、楔形石器・敲石・すり石・扁平打製石器各1点〉、覆土3〈削器4点、つまみ付きナイフ・楔形石器・石斧原材・扁平打製石器原材各1点〉、床面〈石鏃・敲石各1点〉、HP4〈削器1点〉。

個体に復元できた土器は括れを持たない深鉢（土器103）、注口土器（土器29）、括れを持たない鉢形小型土器（土器107）。覆土3からは多数のベンガラ粒が検出された。その分布は特に偏ることはなかった。ほかに床面直上、覆土1にも見られた。また西側からは粘土も検出された。石器については つまみ付きナイフ（132）、削器（230・231）、石斧原材（232）などが奥壁とみられる東壁側から多く出土している。

性格・時期　縄文時代後期中葉の住居跡である。住居廃絶後は覆土3に覆われてベンガラ粒が散布されていることから廃屋墓として利用された可能性が考えられる。覆土1については自然流入土とは考えられない。人為堆積物とみられるが、埋積したものか、土葺きの屋根土が崩落したものかの判断はつかなかった。さらに覆土1堆積後の凹みは捨場として機能したものとみられる。　（福井）

AH10（図53-55　写真図版18掲載）

位置・規模　P82.83.Q82.83　調査区緩斜面部の西側寄りに位置する。AH11、AH2、CH32に隣接する。切り合う遺構はなく、西側の一部壁面を風倒木により撹乱されている。　確認面の長軸は4.60m、短軸4.08m、面積14.91㎡で調査区内では標準的な規模の住居跡である。底面の長軸は4.12m、短軸3.80m、面積12.75㎡、最大深0.68mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に円形の大きな落ち込みを確認した（確認類型A）。この円形の範囲をもとに土層ベルトを設定して掘り下げた。掘り上げ土の堆積は明瞭でなく、斜面側にわずかに残るのみであった。

堆積状況　ロームブロックを含む暗茶褐色土が覆土の主体である。Ⅲ層由来の黒色土の落ち込み部分

は少なく、特に斜面下部側の堆積は黒色土、ロームブロックが入り混じった混土部分が大半を占めている。

構造　床面は地形に沿って緩やかに傾斜しており、しまりのないやわらかな面である。壁の立ち上がりは急であるが、斜面下部側に風倒木による攪乱があり壁面の一部が失われている。付属施設は中央の炉跡のみで、床面部分には柱穴状ピットなどを検出することができなかった。

遺物と出土状況　土器、石器ともにⅢ層出土の遺物が９割以上を占めるため、覆土、床面の遺物が激減する。平面分布は北側部分に偏る。数少ない床面遺物の中でⅣ群Ｂ類の深鉢（土器53）は住居中央やや西寄りに、底部を上にした倒立状態で出土した。口縁から胴上半部分は欠失しているが、隣接するAH10出土の破片と接合した。また、覆土上層出土の注口部の破片が隣接するAH11出土赤彩注口土器（土器12）と接合した。

性格・時期　床面出土遺物から縄文時代後期中葉の住居跡である。床面出土土器の付着炭化物を年代測定した結果3720±40y.B.Pという年代が得られた。また、倒立する深鉢や床面上にマウンド状に堆積する暗黄褐色土を考慮すると埋積する前に何らかのかたちでの二次的な利用の可能性が考えられる。

（藤井）

AH11（図56-58　写真図版19, 20掲載）

位置・規模　O81.82.P81.82　調査区北側の西寄り緩斜面中部に立地し、AH10、AH12、AH９の中間に位置する。確認面の長軸は5.44m、短軸5.00m、面積22.87㎡で調査区内では標準的な規模の住居跡である。底面の長軸は5.08m、短軸4.0m、面積18.30㎡、最大深0.88mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に円形の大きな落ち込みを確認した（確認類型A）。この円形の範囲をもとに土層ベルトを設定して掘り下げた。床面及び炉跡を確認したため住居跡と判断した。壁面の検出は斜面下部側にやや不明瞭な部分があり、攪乱で失われた可能性もある。掘り上げ土の堆積は明瞭でなく、斜面下部側にわずかに残るのみであった。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒褐色土は覆土上層にわずかであり、ローム粒の混入する暗黄褐色土が覆土の主体を占める。斜面方向に複雑で、接線方向に単純な様相を呈している。いずれも壁際では覆土３層を中心に複雑な堆積を見せた。

構造　床面はしまりの良くないやわらかなローム面につくられており、壁の立ち上がりも東側部分を除いて不明瞭であるが急な立ち上がりを見せている。炉跡はほぼ中央部にあり、円形で浅皿状を呈している。暗赤褐色の焼土が主体であるが、底面の焼けも明瞭である。炉跡に隣接して南側に楕円形の土坑が確認された。掘り込みは５cm程度の浅いものだが、ローム粒を含む黒褐色土が覆土である。柱穴にあたる小ピットなどは検出されなかった。西壁側にはわずかではあるが、ロームが内側に張り出す部分があり、出入り口状の部分であったと考えられる。

遺物と出土状況　出土遺物は他の遺構と比較しても少ない。層位別にでは包含層から覆土、床面にかけて遺物の分布に大きな偏りはなく、平面分布では炉跡周辺を除く壁際にやや集中する傾向が見られる。床面の西壁際からは赤彩の注口土器（土器14）がⅣ群Ｂ類の小型深鉢（土器76）とともに横倒しの状態でほぼ完形のかたちで出土した。小型深鉢（土器76）には頁岩のフレークが１点入っており、またすぐ隣には扁平の安山岩礫が見られた。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期の住居跡である。床面出土土器の付着炭化物を年代測定した結果3630±40y.B.Pという年代が得られた。完形の赤彩土器が床面から出土したことにより住居の性格の特殊性も考えられるが、規模や付属施設などから考慮してもその可能性は低い。偏平の礫との組み合わせから考慮しても本来的に竪穴住居に伴うものではなく、二次的な利用

の際に配置された可能性が考えられる。　（藤井）

AH12（図59-62　写真図版21掲載）

位置・規模　N80.O79.80.81.P80　調査区北側中央やや西寄りの緩斜面中部に立地し、CP139、AH12 HP13を切る。確認面の長軸は5.4m、短軸4.6m、面積20.25㎡で調査区内では標準規模の住居跡である、底面の長軸は5.2m、短軸4.08m、面積18.30㎡、最大深0.8mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に南北に長い楕円形の大きな落ち込みを確認した（確認類型A）。この円形の範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げた。かたくしまった床面と炉跡を確認して住居跡と判断した。掘り上げ土の堆積は明瞭でなく、斜面側にわずかに残るのみであった。床面からは完形土器が出土し、炭化物や粘土を含む黒色土の範囲も見られた

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土の堆積が中心部に偏り、壁際周辺の暗黄褐色土が発達している。壁際覆土の堆積は黒色土と暗黄褐色土の互層堆積でやや複雑である。とくに斜面下部側の堆積には黄褐色ローム土がマウンド状を呈している部分が見られた。床面上では特に東壁よりの部分に粘土、炭化物などの混じった厚さ5cm程の黒褐色土が堆積し、偏平礫や完形の土器群を伴っている。

構造　床面は平坦でかたくしまっている。壁の立ち上がりはほぼ垂直で急である。炉跡はほぼ中心部分にあり、円形で皿状の掘り込みである。焼土は白味がかった赤褐色でしまりよくかたい。西側壁際にはわずかながらロームの張り出し部分がみられ、出入り口部分と推定される。2つの小ピット（HP5,6）はこれに伴うものと考えられる。炉跡に隣接する立石はやはりこの出入り口状部分と炉との直線上に配置され、立石地床炉を構成している。小ピットは壁際周辺のみに検出され、分布は南半分に限定される。南壁際のピットは不整形で掘り込みも浅い。

遺物と出土状況　最も遺物を伴うAH14に次ぐ遺物量がある。層位別ではⅢ層、覆土1層に遺物が集中し、覆土2層以下で激減する。平面的な分布では中央やや南東寄りに集中箇所が見られる。覆土上層から下層にかけて流れ込むようなかたちで微隆起線を伴う赤彩土器の破片が出土した。そのうち注口土器（土器13）が復原されたが、接合されない破片も多い。床面では東側壁際に炭化物や粘土を多量に含む黒色土の広がりが見られ、その周辺に土器58,68,90が完形のまま68,90が倒立状態、58が横倒しの状態で出土した。いずれも鉢形土器で口縁の一部を意図的に打ち欠いた形跡が見られる。

性格・時期　床面出土の土器などから縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期の竪穴住居跡である。床面出土土器の付着炭化物を年代測定した結果3510y.B.Pという年代が得られた。また覆土中に見られる暗黄褐色土のマウンド状の堆積や倒立、横転などの土器個体の出土状況などから考慮して生活以外の目的で二次的に利用されていた可能性も考えられる。　（藤井）

AH13（図63-65　写真図版22掲載）

位置・規模　N78.79.O78.79 調査区やや北側の緩斜面に位置する。AH14と隣接し、CH44、AH13 HP5と重複する。確認面の長軸5.22m、短軸4.92m、面積20.03㎡、底面の長軸4.82m、短軸4.12m、面積16.30㎡。最大深0.76m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後に黒色土の落ち込みを確認し、東－西と南－北にベルトを設定して掘り下げた。CH44との重複のため東壁が確認できなかったが、AH14の西壁までトレンチを伸ばしCH44との切り合い、AH14の掘り上げ土との堆積関係を確認した。掘り上げ土は東側と西側に広範囲に堆積しているが、特に東側の掘り上げ土は、CH44の窪みを埋めることを意識して廃棄していると考えられる。

堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とローム粒が混入した暗茶褐色土・黄褐色である。堆積は複雑であり、A－A'の東側（6～9層）、B－B'の南側（10～17層）において、同じパターンの堆積がみ

られるため埋め戻しと判断した。

A－A'　1・2層はⅢ層の流れ込みである。3～13層は埋め戻しによる堆積、14～16層は崩落土と考えられる。18・19層はＡＨ13の掘り上げ土、20・21層はＡＨ14の掘り上げ土、22・23層はＣＨ44の覆土である。

B－B'　1・2層はⅢ層の流れ込みである。3～17層は埋め戻しによる堆積、18～21層は崩落土と考えられる。22～24層はＡＨ13の掘り上げ土、25・26層はＣＨ44の覆土である。

構造　平面形はほぼ円形、床面は平坦である。壁の立ち上がりは東側で急であり、西側でやや開いて立ち上がる。中央に地床炉があり、炉を挟んでほぼ南－北軸上のやや壁寄りに深さ約50cmの主柱穴ＨＰ1・3が位置する。出入り口は明確ではないが、西側の壁で一部内側に張り出している部分が出入り口の可能性がある。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群80点（Ａ類19点、Ｂ類8点）、Ⅳ群17点（Ａ類1点、Ｂ類3点）、石鏃4点、石槍1点、石錐1点、つまみ付きナイフ1点、掻器1点、削器15点、両面調整石器2点、Ｒフレイク25点、剥片77点、石核6点、原石1点、敲石1点、すり石4点、北海道式石冠1点、礫40点、床面からⅣ群23点（Ｂ類21点）、削器2点、Ｒフレイク1点、剥片13点、台石・石皿3点、礫14点が出土した。

性格・時期　床面の遺物から縄文時代後期中葉の時期に構築された竪穴住居跡である。ＡＨ14と同時期であるが、掘り上げ土の堆積関係からＡＨ14より後に構築している。（菊池）

AH14（図66-69　写真図版23.24掲載）

位置・規模　N76.77.O76.77　調査区やや北側の緩斜面に位置する。ＡＨ13と隣接し、ＣＨ44・ＡＨ14ＨＰ5・6・7と重複する。確認面の長軸5.42m、短軸4.38m、面積19.66㎡、底面の長軸5.12m、短軸3.8m、面積16.24㎡、最大深0.78m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後に黒色土の落ち込みを確認し、東－西と南－北ベルトを設定して掘り下げた。覆土の遺物が他の周囲の住居跡と比べて際立って多く、住居が廃棄された後に捨場として使用した可能性がある。また覆土下部から屋根葺き材と思われるような炭化材が広範囲に出土し、火災住居とも考えられたが、主建材はなく他に痕跡もないため、埋め戻された土に含まれていたものと判断した。炭化材は樹種同定の結果、主にクリとコナラ属であった。床面の遺物は東壁近くから出土している。ＡＨ13と同様に掘り上げ土を、ＣＨ44の窪みを埋めることを意識して廃棄し、竪穴を構築したと考えられる。

堆積状況　覆土の堆積はＡ－A'とＢ－B'では様相が違うが、中央部は主に黒色土（Ⅲ層）、黒褐色土、暗褐色土であり、壁付近は暗黄褐色土、黄褐色土が複雑な堆積をしている。堆積状況と遺物の出土状況から埋め戻しと判断した。

A－A'　1・2層はⅢ層の流れ込み、3～15層は埋め戻しによる堆積と考えられる。16層はＡＨ14の掘上げ土、17・18層はＣＨ44の覆土である。

B－B'　1・2層はⅢ層の流れ込み、3～16層は埋め戻しによる堆積と考えられる。17・18層は崩落土である。

構造　平面形は楕円形、床面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。ほぼ中央に立石炉があり、炉を挟んで南－北軸上に主柱穴ＨＰ1・2が位置する。立石（609）は木挽き鋸のような形状で炉の西側にあり、炉側を向き被熱されている。また立石が倒れないように小礫を挟んで支えている。出入り口は明確ではないが、炉と西壁の間の床面がやや高くなっており、また壁際に礫の抜き取り跡とみられるＨＰ3・4があることから、西側が出入り口の可能性が強い。

遺物と出土状況　注口土器３個体、深鉢６個体、浅鉢２個体が復元され、また、壷形土器２個体、ミニチュア香炉形土器１個体がほぼ完形で出土した。覆土からⅢ群83点（A類19点）、Ⅳ群229点（A類１点、B類123点）、石鏃７点、石錐２点、つまみ付きナイフ６点、ヘラ状石器４点、削器63点、両面調整石器２点、楔形石器17点、Rフレイク83点、剥片279点、石核６点、原石４点、石斧２点、石斧片４点、石斧原材１点、敲石９点、すり石９点、台石・石皿３点、石製品１点、有孔礫１点、礫104点、小礫５点、床面からⅣ群B類４点、削器１点、楔形石器１点、Rフレイク２点、剥片６点、礫３点、小礫１点、掘り上げ土からⅢ群16点、Ⅳ群７点、石鏃１点、削器１点、楔形石器３点、Rフレイク２点、剥片24点、石斧片２点、敲石１点、半円状扁平打製石器原材１点、礫７点、アスファルト塊１点が出土した。

性格・時期　AH13と同時期で縄文時代後期中葉の時期に構築された竪穴住居跡であるが、掘り上げ土の堆積関係からAH13より前に構築された。（菊池）

AH15（図70-72　写真図版25掲載）

位置・規模　L76.77.M76.77　調査区中央やや北西寄りの緩斜面中部に立地し、AH13,14,MP３の中間に位置する。CH44に近接する。確認面の長軸は4.8m、短軸4.4m、面積17.45㎡で調査区内では標準的な規模の住居跡である。底面の長軸は4.4m、短軸4.0m、面積14.97㎡、最大深0.52mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後、Ⅲ層上面に楕円形の大きな落ち込みを確認した。他のAHと同じタイプの住居跡と判断し、楕円形の範囲にしたがって土層ベルトを十字に設定し、さらに50cm四方の小グリッドを設定した上で土層観察を行い、サンプルを採取しながら掘り下げた。北西側の壁面は一部CH44の壁面にあたり不明な部分もあった。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土は住居中央部の上層に偏り、下部及び壁際周辺部はローム混じりの暗茶褐色土、暗黄褐色土が覆土の主体である。Ⅲ層の上面が緩やかな落ち込みであるのに対して、覆土１層の上面はかなり起伏のある面をつくっている。暗茶褐色土と黒色土の層は全体として筋状に細長く互層状に堆積している。東壁際部分には覆土中位に暗茶褐色土のマウンド状堆積が黒色土上に確認されている。

構造　床面はやわらかくしまりも良くないが平坦なつくりになっている。壁面は明瞭ではなく緩やかな立ち上がりの部分が殆どである。炉跡は中央やや西寄りに位置し、円形で浅い皿状を呈している。立石を伴うタイプではなく、明赤褐色で焼けのあまり良くない焼土が覆土である。西北方向に小ピット（HP１）との重複が見られる。出入り口状部分はわずかであるが北東方向にロームの張り出し部分が見られた。これに伴うように長楕円形の小ピットが１対（出入り口ピット1.2）と小ピットが４箇所確認された。明瞭な柱穴は認められなかったが南東壁際で５箇所、南西壁際で３箇所、北西壁際で４箇所のピットを確認した。

遺物と出土状況　層位別ではⅢ層が多く、覆土以下が少なくなる。平面分布では北東隅の出入り口部分に集中が見られる。床面では西北壁際でⅣ群B類の下部有孔土器（土器36）が横倒しの状態で出土した。覆土上層ではⅠ群A類の貝殻文土器の破片が散見し、CP137出土の本体部分と接合した。また部分的に散在したベンガラ粒を確認し、覆土の移動に人為的な可能性があることをうかがわせた。

性格・時期　出土遺物等から縄文時代後期中葉の住居跡である。覆土中のマウンド状の堆積から二次的な利用の可能性を考慮し、土壌化学分析を行ったが床面からは墓の可能性についての積極的な結果は得られなかった。（藤井）

AH16（図73-75　写真図版26掲載）

位置・規模　L80.M80.81.N80.81　調査区西側やや北寄りの緩斜面中部に立地し、AH11,12,13,17,18,

MP３の中間に位置する。CP114,CP88を切る。確認面の長軸は5.2m、短軸4.8m、面積19.63㎡で調査区内の標準的な規模である。底面の長軸は4.8m、短軸4.2m、面積16.68㎡、最大深0.88mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後、Ⅲ層上面に明瞭な円形の落ち込みを確認した。落ち込みの範囲に基づいて土層ベルトを十字に設定し、掘り下げた。覆土１層上面からは北東隅で礫とともにⅣ群Ｂ類の深鉢（土器49）が出土した。床面と炉跡にあたる焼土を確認し、住居跡と判断した。周辺の３層を掘り下げた時点で掘り上げ土にあたるものは不明瞭であった。

堆積状況　覆土の上層はⅢ層由来の黒色土が広く、厚く堆積している。下層はローム粒を含む暗茶褐色土が主体であるが、マウンド状に堆積している部分も見られた。壁際の堆積は複雑で入り組んだかたちになっている。

構造　床面はわずかに起伏が見られるものの、概して平坦なつくりになっている。壁面の立ち上がりは急で、明瞭である。炉跡はほぼ中央に位置し楕円形で浅い皿状を呈している。焼土はしまりよくかたいが立石を伴うものではなかった。柱穴状の小ピットは３つのみで、南東、南西、北の三方向寄りに１箇所ずつ検出された（HP1,2,3）。深さはいずれも25cm程度で垂直に掘り込まれている。出入り口状部分は不明瞭で検出できなかった。

遺物と出土状況　層位別では斜面上部からの流れ込みであるⅢ層に遺物が少なく、覆土１層に遺物がまとまっている。平面分布では北東部分に集中が見られ、床面においては壁際に限られる。Ⅳ群Ｂ類の深鉢（土器49）は北東隅から流れ込みのような分布で、AH12Ⅲ層出土の破片と接合した。また、床面出土の破片がCP73出土Ⅳ群A類の深鉢に接合したことから、周辺の土とともに流入した可能性も考えられる。

性格・時期　出土遺物などから縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期の住居跡である。床面出土土器の付着炭化物を年代測定した結果3640±40y.B.Pという年代が得られた。また覆土中に出土したⅣ群Ｂ類深鉢（土器49）の出土状況や黄褐色ローム土のマウンド状の堆積などから竪穴が人為的に埋積され、その後二次的に利用された可能性も考えられる。（藤井）

AH17（図76-78　写真図版27掲載）

位置・規模　L80.81.M80.81　調査区やや西側の緩斜面に位置する。ＡＨ16・18に隣接し、ＡＨ17ＨＰ６と重複する。確認面の長軸4.86m、短軸4.82m、面積19.45㎡、底面の長軸4.5m、短軸4.26m、面積16.40㎡、最大深0.92m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後に黒色土の落ち込みを確認し、東－西と南－北ベルトを設定して掘り下げた。床面の遺物は東壁近くから集中して出土しており、Ⅳ群Ｂ類の壷形土器（土器85）が完形で出土している。また覆土から赤彩土器の胴部（土器15）が復元された。掘り上げ土は西側斜面部に堆積しているが、一部風倒木により、撹乱を受けている。

堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とローム粒が混入する暗褐色土・暗茶褐色土・暗黄褐色土であり、複雑に堆積する。堆積状況から埋め戻しによる堆積と判断したが、屋根の葺き土の崩落の可能性もある。

Ａ－Ａ'　覆土１・２層はⅢ層の流れ込み、３～９層は埋め戻しによる堆積、10～15層は崩落土と考えられる。16層はⅢ層、17層は掘り上げ土である。

Ｂ－Ｂ'　覆土１・２層はⅢ層の流れ込み、３～14層は埋め戻しによる堆積、15・16層は崩落土と考えられる。

構造　平面形は円形であり、床面は平坦である。壁の立ち上がりは急であるが、西側の壁はやや開いて立ち上がる。ほぼ中央に地床炉があり、炉を挟んで南－北軸上に主柱穴ＨＰ１・２が位置する。出

入り口は明確ではないが、西側の壁際に深さ約40cm柱穴ＨＰ４・５があり、出入り口の構築物跡の可能性が強い。また用途不明ピットＨＰ３を検出した。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群23点（Ａ類２点）、Ⅳ群373点（Ｂ類222点、Ｃ類４点）、石鏃９点、石錐５点、つまみ付きナイフ４点、ヘラ状石器３点、掻器２点、削器47点、楔形石器16点、Ｒフレイク45点、剥片319点、石核３点、敲石４点、半円状扁平打製石器原材１点、石鎚１点、台石・石皿１点、石製品１点、礫48点、小礫４点、床面からⅢ群１点、Ⅳ群71点（Ｂ類47点）、削器１点、楔形石器１点、剥片９点、礫３点、掘り上げ土からⅢ群２点、剥片４点、礫２点が出土した。

性格・時期　床面の遺物から縄文時代後期中葉の時期に構築された竪穴住居跡である。また床面出土土器の付着炭化物を年代測定したところ3590±40y.B.Pという年代が得られた。（菊池）

AH18（図79-81　写真図版28、29掲載）

位置・規模　Ｊ80.81.Ｋ80.81　調査区やや西側の緩斜面に位置してＡＨ17と隣接し、ＡＨ18ＨＰ３と重複する。確認面の長軸4.58m、短軸4.36m、面積16.29㎡、底面の長軸4.18m、短軸3.96m、面積12.94㎡、最大深0.88m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後に黒色土の落ち込みを確認し、東－西と南－北にベルトを設定して掘り下げた。床面の遺物は壁近くに集中し、南側からⅣ群Ｂ類の完形土器３個体（土器77・83・91）が出土した。またフレイク集中１箇所、炭化物集中１箇所、白色粘土４箇所を壁際から検出した。掘り上げ土は急斜面部に流れたためか、確認できなかった。

堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）と黄褐色土・ローム粒が混入する暗茶褐色土・茶褐色土・暗茶色土である。１・６層はⅢ層の流れ込み、２～３・15層は風倒木による撹乱である。７～14・16～24層は堆積状況から埋め戻しによる堆積と判断したが、屋根の葺き土の崩落の可能性もある。

構造　平面形はほぼ円形、床面は平坦であり、壁の立ち上がりは急である。中央よりやや西側に地床炉がある。西壁際にある柱穴ＨＰ１・２は、ＡＨ17と同様に出入り口の構築物跡の可能性が強い。主柱穴は検出しなかったが、外柱穴ＨＰ７・８・９を確認した。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群141点（Ａ類６点）、Ⅳ群274点（Ａ類11点、Ｂ類61点）、石鏃５点、石錐３点、つまみ付きナイフ３点、ヘラ状石器１点、掻器１点、削器36点、両面調整石器１点、楔形石器７点、Ｒフレイク31点、剥片153点、石核３点、敲石２点、すり石５点、半円状扁平打製石器原材２点、台石・石皿１点、礫42点、小礫５点、床面からⅢ群４点、Ⅳ群Ｂ類77点、楔形石器３点、Ｒフレイク３点、剥片22点、石斧２点、敲石１点、すり石２点、半円状扁平打製石器１点、台石・石皿３点が出土した。

性格・時期　床面の遺物から縄文時代後期中葉の時期に構築された竪穴住居跡である。（菊池）

AH19（図82-84　写真図版30掲載）

位置・規模　H82.I82.J82.K82　調査区西側緩斜面の末端で急斜面直上に立地し、CP172、CP164、CP148、CP173、CP163、CP69に切られる。確認面の長軸8.60m、短軸（4.40)m、面積（27.06)㎡、底面の長軸8.2m、短軸（4.20)m、面積（25.37㎡)、最大深0.72m。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後、Ⅲ層上面において明瞭だが緩やかな落ち込みの範囲を確認した。斜面直上のため自然崩落を含み急斜面側は崩落した可能性も考えられたが、楕円形の落ち込みの範囲に基づいて土層ベルトを十字に設定し掘り下げた。当初は他のAH同様に縄文後期の住居跡を想定していたが、明瞭な床面、壁面を検出することが出来ず。数ヶ所の焼土群やピット群が検出され、性格、時期、範囲の特定が困難になった。当初の範囲内で検出された各遺構、付属施設をすべて調査した結果を整理し、遺物の出土状況とともに検討することとした。なお、斜面下部側はすべて崩落しⅣ層上

面が表出していた。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土が斜面堆積の影響により上層から複雑な堆積になっているが、炭化物や焼土、小ローム粒などを含んだ混土状の暗茶褐色土、暗黄褐色土が覆土の主体である。

構造　床面はⅤ層中につくられているが不明瞭で、起伏のある面になってしまった。壁は東から北側にかけて残った面が確認され、急な立ち上がりであるが不明瞭である。焼土が多く、炉跡と判断したものは床面につくられた3箇所とした。焼土HF1とHF2は円形で皿状の焼土で上面が白味の強い赤色で非常にかたくしまっている。底面との層界も明瞭である。焼土HF2はCP183上にあり不整形である。柱穴状の小ピットは9箇所で確認されたが住居に伴うものかは不明な点がある。分布は住居南側で径20cmほどの円形の小ピットが4箇所集中している。その他はすべて東壁側に分布している。切り合う遺構の多い西側では確認されなかった。

遺物と出土状況　南東の壁際でⅢ群A類の大型深鉢が出土した（土器150.151）。ほぼ完形の状態で2個体が並んで壁に寄り添うようなかたちで出土した。層位別では上層のⅢ層に集中し、覆土1層、床では少ない。平面分布ではⅢ層では遍在しているが、床面では東壁際に偏在している。

性格・時期　覆土、床面出土の遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の遺構であり、付属施設の配置や形状などから当該時期のロングハウス状の住居跡であると判断した。（藤井）

AH20（図85　写真図版31掲載）

位置・規模　H80.81.I80.81　調査区西側の緩斜面下部に立地し、AH18,AH19,BH42,CP98,CP109に隣接する。確認面の長軸は4.0m、短軸3.72m、面積11.20㎡、底面の長軸3.52m、短軸3.20m、面積9.45㎡、最大深0.72mを測る。

確認・調査　Ko-D火山灰除去後、Ⅲ層上面に円形の明瞭な落ち込みが認められた。円形の範囲に基づいて土層ベルトを十字に設定し掘り下げた。明瞭な床面は検出されたが、炉跡は検出されなかった

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土は中央部分に限られ、覆土の主体はローム粒を含む暗茶褐色土が主体である。壁際の覆土は筋状に暗黄褐色土や黒褐色土が混入するが、特に南側はローム粒を含む黒褐色土、茶褐色土、暗黄褐色土が複雑に入り組んだ様相を呈している。また、東側では暗茶褐色土がマウンド状に堆積する部分が見られた。

構造　床面はⅤ層を掘り込んで平坦につくられている。壁面は明瞭であり、垂直に立ち上がる床面の中央部分にはわずかなくぼみが見られたが、焼土を確認することが出来ず炉跡を特定することが出来なかった。柱穴やその他の付属施設などをいっさい検出することが出来なかった。

遺物と出土状況　調査区内の竪穴住居跡で最も遺物点数が少ない。層位別では斜面からの流れ込みと思われるⅢ層よりも覆土中に集中が見られ、床面ではほとんど見られなかった。平面分布では特に集中個所は見られない。土器は破片のみでⅣ群B類が主体を占める。石器は床面から削器が1点見られた。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期の竪穴住居跡である。炉跡が検出されなかったが覆土の堆積状況などを考慮すると他のAHと同様の性格があるものと考えられる。また、覆土の堆積状況からは人為的と考えられるような堆積、特にマウンド状の堆積が見られたことから、住居の埋積過程の途中で何らかの2次的な利用があったものと考えられる。（藤井）

BH23（図69-72　写真図版32掲載）

位置・規模　L69.70.M68.69.70.N69　調査区中央やや北東よりの平坦面上に立地する。平面形には不明瞭な部分が含まれるが、確認面の長軸7.5m、短軸4.0m、面積（25.00）㎡、底面の長軸7.0m、短軸3.8m、面積（23.93）㎡、最大深0.25mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後、Ⅲ層上面に不明瞭であるが緩やかな落ち込みが認められた。この楕円形の落ち込み範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げたところ20cmほどで床面や炉跡が検出された。また大型の礫や土器個体などが伴っていることが明らかになり、特に倒立状態で出土したものも確認された。床面を精査して壁面の確認を行ったが、掘り込みが浅く明瞭に壁面の立ち上がる部分を確認することが出来なかった。

堆積状況　掘り込みが浅くⅢ層由来の黒色土が厚く堆積するが、ローム粒を含む暗茶褐色土が覆土の主体である。焼土粒や炭化物なども散在する。倒立状態の深鉢内は暗茶褐色土、暗黄褐色土を主とする覆土が充填して、かたくしまっており、空隙がほとんど見られなかった。

構造　床面はしまりなくやわらかな面になっているが、概して平坦である。壁の立ち上がりはわずかに残された部分であるが緩やかな立ち上がりである。炉跡と思われる焼土は直径80cmの円形のもので皿状の掘り込みを伴う。覆土は白味を帯びた明瞭な赤褐色の焼土が主体であり、底面との境は明瞭である。柱穴状の小ピットは不明瞭であったが北側で3箇所確認された。いずれも10cmほどの垂直な掘り込みで浅いものである。

遺物と出土状況　調査区内の住居跡ではAH14,AH12についで遺物量の多い竪穴である。平面分布には偏りがなく、掘り込みが浅かったため層位別で取り上げることが出来なかった。床面では大型の礫と完形（1）や集中破片（1）の状態で出土した土器個体を多く確認することが出来た。土器個体は全てⅣ群B類の深鉢で土器44,50,51である。土器51は倒立状態で出土した深鉢で、底部が失われている。土器44,50は集中破片（1）の状態で出土したがいずれも底部のみを失っている。また土器50は集中箇所が2箇所あり、上半部と下半部とが離れた状態で存在したことが明らかになった。また、覆土上層から出土した破片がPC50出土のⅣ群A類深鉢（土器139）と接合した。

性格・時期　床面出土の遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期の竪穴住居跡である。構造の詳細などは不明瞭であるが倒立状態の土器個体や礫などを伴っていることを考慮した場合、日常生活以外の何らかの目的で利用されていた可能性が考えられる。（藤井）

CH27（図90-92　写真図版33掲載）

位置・規模　L86.87.M86.87　調査区西側急斜面直下の下段段丘面上に立地し、CP62,65に隣接する。CP61,75を切る。確認面の長軸は5.2m、短軸4.8m、面積20.12㎡を測り、調査区内で標準規模の住居跡である。底面の長軸は4.8m、短軸4.4m、面積18.32㎡、最大深0.72mを測る。

確認・調査　下段段丘面のⅢ層を掘り下げた段階でⅣ層上面に円形で黒褐色土の範囲を確認した。この範囲に基づいて土層ベルトを十字に設定し掘り下げたところ、礫を含んだV層内に床面を確認した。

堆積状況　斜面上部から流れ込むⅢ層黒褐色土が覆土上層を全体的に薄く覆っている。覆土の主体はローム粒の混じる暗茶褐色土、明茶褐色土である。堆積は各層が並行に堆積する自然堆積である。床面上には一部炭や焼土粒が混入した黒色土の範囲が見られた。

構造　床面は礫を含むV層中につくられ、平坦である。壁の立ち上がりは明瞭で急である。炉跡は住居の中央に位置し、楕円形で皿状の断面形であり、厚さ5cmほどの暗赤褐色の焼土である。炉跡上には炭化材が集中して出土し、さらにそれをとりまくように焼土が分布していた。炭化材や焼土の分布は中心部のみであり、焼失住居の例とは異なる様相を見せた。炉跡に隣接して焼土層の下に楕円形で浅皿状の土壙が検出された。柱穴状の小ピットは炉跡を中心に壁際を巡ったかたちで7箇所確認された。深さは10から20cm前後で浅いものである。

遺物と出土状況　層位別ではⅢ層に遺物が集中し、覆土、床面は少ない。平面分布では特に集中する箇所は見られなかった。中央部では覆土2層から床面にかけて炭化材が集中的に検出され、径1.5m

の範囲内で各材が折り重なるように出土した。炭化材樹種同定の結果によれば床面にはクリ材があり、覆土中のものにはモミ属材がみられた（Ⅳ章-2）。土器はⅣ群Ｂ類が主体を占め、床面南西壁際には下部単孔土器が完形で横倒しの状態で出土した。また南壁際ではⅣ群Ｂ類の無文の深鉢が底部のみ出土した。

性格・時期　床面出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期の竪穴住居跡である。床面から採取した炭化材から年代測定を行ったところ3450±40y.B.Pという年代が得られた。また炭化材や焼土の出土状況を考慮した場合、竪穴を２次的に利用した可能性が考えられる。（藤井）

CH29（図93-95　写真図版34掲載）

位置・規模　M89.90.N89.90　調査区西側、下段段丘面の最西端に立地し、CP63.66,70,71に隣接する。平面形には不明な部分が多いが確認面の長軸4.76m、短軸（4.52)m、面積（17.12)㎡、底面の長軸4.47m、短軸（4.25)m、面積（15.70)㎡、最大深21cmを測る。

確認・調査　Ⅲ層の掘り下げにより、暗茶褐色土の範囲を確認した。楕円形の範囲をもとにトレンチを十字に設定し掘り下げたところ炭化物や焼土のブロックなどが出土し、白色粘土の床面を検出した。起伏のある地形のなかで床面、壁面ともに不明瞭であったが、南東側で一部確認することが出来た。

堆積状況　覆土上層の堆積は細かく細分された複雑な様相を示した。河川を要因とする堆積の可能性が考えられる。遺構の覆土はローム粒を含む黄褐色粘土が主体を占める。

構造　床面は不明瞭で南東側を除いて起伏がみられた。壁は残存部分ががわずかながら急な立ち上がりを見せた。炉跡は焼土が細かく分散していたため特定は出来なかった。焼土は６箇所を確認し、中心部分に５箇所、北西の壁際に１箇所を検出した。柱穴は明瞭なものが無く北東壁際と南壁際に１箇所ずつ小ピットを調査した。深さはいずれも10cm程度で垂直に掘り込まれている。

遺物と出土状況　層位別にはⅢ層が最も多く、覆土以下はほとんど見られない。平面分布では中心部やや南東寄りに中心がみられるが、範囲が明瞭でない北西側に広範囲な集中がみられる。土器は覆土中ではⅢ群A類が主体を占めるが、床面付近では数は少ないがⅣ群Ｂ類がみられる。また覆土上層出土のものが個体として復原されたが（土器155、172)、本住居跡に直接伴うものではない。

性格・時期　出土遺物などからⅣ群Ｂ類、縄文時代後期中葉の住居跡である。（藤井）

CH30（図96-98　写真図版34, 35掲載）

位置・規模　P68.69.70.Q68.69.70　調査区中央北側の平坦面に立地し、AH１に切られる。確認面の長軸7.0m、短軸6.6m、面積38.5㎡、底面の長軸（6.5)m、短軸（5.3)m、面積㎡、最大深0.33m。

確認・調査　グリッド70ラインのトレンチとAH１範囲確認の段階で暗茶褐色土の落ち込みを確認した。当初の確認範囲をもとに土層ベルトを十字に設定し、掘り下げたところ、床面は不明瞭だが、多数の遺物と炉に当たる焼土を確認し住居跡と判断した。炉跡を中心に壁の検出を行ったが南西部分以外に明瞭な壁は検出できなかった。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒褐色土が均一に堆積し、ローム粒、炭化物を含む暗茶褐色土が覆土の主体である。堆積はほぼ均質で自然堆積によるものと思われる。床面付近にはローム主体の明黄褐色土が堆積し、Ⅴ層との層界が明瞭ではない。

構造　床面はⅤ層中につくられ、ほぼ平坦である。壁は南西隅部分にのみわずかながら立ち上がりが見られた。炉跡は円形で明赤褐色の焼土が覆土の主体で焼けがよくかたくしまる。底面との層界は明瞭で、南側には礫群を伴っていた。HP１は床面上に確認されたもので南北に長い楕円形を呈し、断面は浅い皿状である。柱穴状のピットは３箇所で確認されたが、形状、規模ともに異なる。また、南側には一部内側への張り出し部分が見られ、出入り口状部分の可能性が考えられる。HP４はこれに

伴うピットの可能性もある。

遺物と出土状況　Ⅲ層掘り下げ時に多数の遺物が出土したが、当初AH１またはAH１の掘り上げ土の遺物として取り上げたものもあるが、AH１の掘り上げ土は結果的に確認されなかった。層位別ではⅢ層が最も多く、覆土、床面は少ない。床面の遺物では集中破片（１）の状態で出土した土器個体が特徴的である。Ⅳ群Ｂ類の大型深鉢（土器52）は床面上に横倒しで潰れた状態で出土した。隣接する位置に円形の扁平礫が見られるのが特徴的である。注口土器（土器30）は集中破片（１）の状態でやはり床面から出土したが底部が失われていた。覆土上層から出土したS１はⅣ群A類の胴部破片であるが、AH１とAH６の掘り上げ土の破片と接合し、広範な接合展開を確認することができた。

性格・時期　床面出土遺物から縄文時代後期中葉の住居跡と思われる。また、土器個体と扁平礫との組み合わせは竪穴利用を考慮する上で何らかの特徴をあらわしているものと考えられる。（藤井）

CH32（図99-102　写真図版36掲載）

位置・規模　O83.84.P84　調査区西側北寄り緩斜面末端部に立地し、AH２、AH10、AH11、BH26に隣接する。CP91、92、93を切る。確認面の長軸が4.8m、短軸4.0m、面積15.30㎡で調査区内の住居跡で標準的な規模よりもやや小さめの住居跡である。底面の長軸は4.4m、短軸3.6m、面積13.72㎡、最大深0.76cmを測る。

確認・調査　グリッド85ラインのトレンチ調査によりⅣ層上面から楕円形で黒褐色土の範囲を確認することが出来た。この範囲をもとに土層ベルトを十字に設定し、掘り下げたところ、土器の完形個体や焼土、炭化材などが多く出土し、明瞭な床面を検出したことから住居跡と判断した。急斜面側は崩落により一部不明瞭なところもあるが、壁の立ち上がりも確認することが出来た。

堆積状況　斜面堆積によるものか、Ⅲ層由来の黒色土が覆土の上層にはほとんど見られず、垂直方向に細分された堆積を確認することが出来た。覆土は暗黄褐色土と黒色土、茶褐色土が入り組んだ複雑な堆積である。特に北寄りの壁際の土層では暗黄褐色のマウンド状堆積が確認され、人為的な要因によるものの可能性が強い。

構造　Ⅴ層中につくられた床面はしまりよくかたく、平坦につくられている。壁は明瞭に検出され垂直に立ち上がる。炉跡にあたる焼土（HF１）はほぼ住居の中央に位置し、楕円形で皿状の断面形である。覆土の焼土はしまりなく暗赤褐色を呈している。焼土の上層にはこれを覆うようにして径80cmの範囲で炭化材が出土した。柱穴状の小ピットは南西壁際の２箇所を検出したのみである。いずれも深さ10cmほどの垂直の掘り込みである。

遺物と出土状況　床面からの完形土器個体と礫の出土が大きな特徴である。層位別では斜面からの流れ込みによるⅢ層の遺物が最も多く、覆土１層にも多く見られる。床面の遺物は少ないが土器個体が多く、壁際に偏在する。平面分布では北東壁際に偏りがあり、柱穴のある周辺には皆無である。炉跡状に見られた炭化材は覆土１層から２層に及んでいたが、分析の結果トネリコ属やクリ、コナラ、ヤナギなど多種にわたっていることが明らかになった（Ⅳ－６章）。床面では扁平な円礫と完形及び集中破片（１）の状態で出土した土器個体が多数出土した。完形はⅣ群Ｂ類の注口土器が正置状態（土器17）、倒立状態（土器20）、横倒し状態（土器16）で一つずつ出土し、小型の鉢形土器が一点横倒しの状態で出土した（土器131）。

性格・時期　床面出土の遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期の住居跡である。床面から採取した炭化物より年代測定を行ったところ3370±40y.B.Pという年代が得られた。また、マウンド状の覆土の堆積や礫と土器個体との組み合わせを考慮した場合、生活以外の二次的な利用の可能性も考えられる。（藤井）

CH33（図103-106　写真図版37掲載）

位置・規模　Q76.77　狭い平坦部に立地している。AH７、AH８、MP１に隣接し、CP－CH33－HP-１と切り合い関係を持つ。確認面の長軸（3.00）m、短軸4.20m、面積（10.34）㎡、底面の長軸（2.74）m、短軸4.04m、面積（9.64）㎡、最大深0.13mを測る。

確認・調査　Ⅲｂ層中より遺物出土量が多く遺構の存在に留意していたが、Ⅳ層上面で暗褐色土の分布を検出し、範囲を確認した。遺構は北側の調査区域外まで構築され、調査は遺構全体の半分ほどにとどまった。土層観察用のベルトを遺構長軸に沿って設定し、遺構全体の覆土を掘り下げた。床面検出後、柱穴状ピット、炉などの付属施設の調査をおこなった。

堆積状況　掘り込みが浅く、覆土は10cm前後の堆積で確認された。覆土は主にロームブロックを含有する暗黄褐色から暗褐色の土で構成されていた。遺物取り上げ層位は覆土に関しては全て「覆土」とした。炉から遺構南側の黄褐色粘土塊が配置される施設にかけて、炭化物粒と焼土ブロックが含有される暗褐色土が分布しており、フローテーション用の土壌を採取した。

構造　平面は楕円形と考えられるが、南側壁約1.5mの範囲には20cm前後の突起部が４基（ＰＪ１～４）、等間隔に並んで構築されていた。突起部の深さは５cmほどであった。炉は遺構のほぼ中央部に配置され、柱穴状ピットは直径約20cm、深さ６～25cmのものが４基確認された。遺構南側には、10～40cmの黄白色粘土塊を長径約1.5mの楕円形に配置した施設を確認した。黄白色粘土塊の分布は突起部の構築範囲にみられ、両者は同じ構造物を構成したものと考えられる。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器608点、石器158点、礫23点）、覆土（土器95点、石器51点、礫９点）、床（土器９点、石器５点）、付属施設（土器27点、石器１点、礫１点）である。床面出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅲ群Ａ類９点）、石器（剥片５点）である。土器は覆土上位の自然堆積層であるⅢ層から多く出土している。石器は覆土から82点の製品が出土している。

性格・時期　縄文時代後期中葉の住居址と考えられる。炉より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定をおこない、3340ｙ.B.P±40（補正年代）の結果が得られた。また、性格に関しては突起部や黄白色粘土の配置など、他遺構にはみられない特殊な構造を有するため、非日常的な用途・性格が示唆される。（坂本）

CH39（図89-91　写真図版38掲載）

位置・規模　O77. P77.78　調査区北側の狭い平坦部に立地する。MP１と切り合い関係を持ち、CH９の覆土はMP１に掘り込まれている。確認面の長軸4.47m、短軸4.03m、面積（14.07）㎡、底面の長軸（4.12）m、短軸3.73m、面積（12.14）㎡、最大深0.27mを測る。

確認・調査　MP１の壁面でCH39の覆土を検出し遺構を確認した。Ⅳ層上面で黒色土と茶褐色土の落ち込みを検出し、範囲を確認した。遺構の長短軸に沿って土層観察用のベルトを設定し、覆土を掘り下げた。覆土中では焼土２基と土坑１基を検出した。床面の確認は、床の凹凸が強く擬似ロームの堆積が考えられたため、床面から約20cmの深さでトレンチ調査をおこなった。

堆積状況　①、②に区分できる。

① 上位の堆積。ローム粒を多く含む茶褐色土（１層）。

② 下位の堆積。黒色土の強く混じる暗褐色土と褐色土（２・３層）

①はCH44の掘上げ土、②は自然堆積と考えられる。②の下位層と床面との層界は漸移的で不明瞭なものであった。遺物取り上げ層位は覆土に関しては全て「覆土」とした。

構造　平面は円形である。床は凹凸が強く、北西側はやや高くなっていた。炉は遺構長軸上のやや南側に配置され、長軸上の北側には床面からの浅い掘り込みがみられた。柱穴状ピットは３基確認され、

遺構の中心部付近と西側壁付近に配置されていた。柱穴状ピットの規模は、長径20cm前後、深さ20～50cmほどであった。確認面からの掘り込みは浅く、壁は緩やかに立ち上がるものであった。HP-1、HF-1・2はCH39の廃絶後に形成されたもので、HF-1は自然堆積層であるⅢb層中に、HF-2、HP-1は覆土2層上面に構築されていた。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器121点、石器8点、礫12点）、覆土（土器72点、石器100点、礫31点、石製品類2点）、床（土器318点、石器1点、礫5点）である。床面出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅳ群B類199点）、石器（剥片1点）である。

土器は覆土と床面からⅢ群A類に属するものが出土している。土器165は床面からまとまった状態で出土した。また、特徴的な出土状況として、2層上面のHP-1付近に30～40cmの礫と台石が4点まとまって確認された。HP-1の坑底面からも同規模の礫が2点出土している。

性格・時期　CH39は縄文時代中期中葉の住居址と考えられる。HF-1・2、HP-1は住居廃絶後の窪みを利用したもので、付近に礫・台石のまとまりを伴うことから作業場等の可能性が考えられる。

（坂本）

CH41（図110　写真図版39掲載）

位置・規模　Q72.73　調査区中央平坦面部分に立地し、AH1に隣接する。北半分は調査区外にあり、東側をCP184に切られる。確認面の長軸は3.2m、短軸（1.6）m、面積（4.03）㎡、底面の長軸3.0m、短軸（1.5）m、最大深0.2mを測る。

確認・調査　Ⅳ層下部にあたる黄褐色ローム層において暗茶褐色の覆土を確認し、円形のプランを検出した。調査区壁際にかかるため全体の二分の一を調査した。範囲をもとに十字に土層ベルトを設定して掘り下げたところ、覆土中から礫、焼土、炭化物などが数多く出土し、さらに不明瞭ではあるが床面を確認した。

堆積状況　覆土は暗茶褐色土が主体である。堆積は10cm以下と薄いが、焼土ブロックと炭化物が多く見られた。

構造　床面はやわらかく、不明瞭であったが、Ⅴ層中につくられ平坦である。壁の残りはわずかであり、立ち上がりは緩やかである。焼土は2箇所で検出され、いずれも10cmほどの厚さを測る。炉跡の特定は出来なかった。

遺物と出土状況　床面が不明瞭であったので覆土のみで取り上げた。平面分布は東半分側に集中した。覆土上層から出土した土器がBH23覆土との接合によりⅣ群A類の深鉢（土器149）が復原されたが、Ⅳ群B類の土器片が主体を占める。

性格・時期　覆土出土の遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の住居跡である。　（藤井）

CH44（44.45.46）（図111-116　写真図版39, 40掲載）

位置・規模　M77.78. N77.78. O77.78.79. P78.79　調査区北側の緩斜面上に立地している。AH13、AH14と切り合い関係を持つ。またCH33、CP145が隣接する。確認面の長軸10.25m、短軸5.61m、面積（51.68）㎡、底面の長軸9.87m、短軸5.02m、面積（46.84）㎡、最大深0.65mを測る。

確認・調査　AH13、AH14の壁で覆土の堆積を、AH14の床面で範囲の一部を確認した。また、Ⅳ層上面まで遺構周辺を掘り下げ、全体の範囲を確認した。当初3軒が重複すると捉えたため、各遺構にまたがるようにベルトを設定し、遺構ごとの掘り下げをおこなったが、堆積状況、壁、床面、柱穴状ピットや炉の配置などを確認した結果、1軒の大形住居であると判断した。また、覆土掘削中に、CP-CH045-HP01を確認した。

堆積状況　覆土は①～③に区分できる。

① 上位の堆積。Ⅲb層と暗褐色土（1・3層）。
② 中位の堆積。ロームブロックを多く含む暗褐色から黄褐色の土（7・11・13～17・21・層）。
③ 下位の堆積。暗褐色から黄褐色の土（2・4・17・22～24層）。

①は遺構のほぼ全体に分布する。図示していないが、Ⅲb層の上位にはAH 8・AH14・AH13などの後期遺構の掘上げ土が堆積していた。②は壁際に堆積している。③は床面直上に堆積するしまりの強い土で床面を全体的に覆う。①は周囲の掘上げ土の流入を含む自然堆積、②は掘上げ土の投げ込みと流入土が考えられる。②はCH44に近接する時期の遺構掘上げ土の可能性がある。③はしまりが強くほぼ水平に堆積すること、下位層上面では焼土や土坑（CP-CH45-HP-1）が構築され多数の遺物が検出されることから、住居廃絶後の人為的な埋め戻しと考えられ、遺構の窪みを再利用した可能性がある。遺物取り上げ層位は、覆土に関してはⅢb層を除く①、②が覆土1、③が覆土2に該当する。

構造　平面は楕円もしくは隅丸長方形を呈する。炉は遺構長軸上に3基検出され、南側の1基が石囲い炉、残り2基が地床炉である。石囲い炉は20cm前後のやや扁平な礫11点を、一辺60cmほどの方形に配置して構築されている。石囲い炉内は炭化物粒と焼土粒を多く含む赤褐色土、暗褐色土の堆積がみられ、その下位に土器がまとまって出土している。石囲い炉内の土は最終的に一度動かされ、土器設置後再び戻されたと考えられる。炉1は長さ80cmほどの炉が2基結合している。炉2は円形で、長径は52cmであった。

柱穴状ピットは37基確認された。この内床面から構築されたものは36基である。掘り込みが40cmを越える深いものは18基、39～30cmのものは4基、29～20cmのものは6基、20cm未満の浅いものは8基で、40cm以上のものが多数を占める。40cmを越える柱穴状ピットは、遺構長軸を基軸に東西方向へ約2mの間隔で、シンメトリーに配置されている。東側は一箇所に3基程度のピットがまとまり、建て替え、拡張などの可能性がある。39～20cm深のものも加えれば、基本的には長軸方向に4本の柱を並べる柱列が、長軸と東西の壁側に計3列配される構造が考えられる。

住居北側には10～20cmの高低差を持つベンチ構造が確認された。ベンチは西側の一部では、ロームを貼り付けて構築していた。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器136点、石器40点、礫12点）、覆土1（土器555点、石器127点、礫34点）、覆土2（土器257点、石器86点、礫22点、石製品類1点）、床（土器72点、石器44点、礫19点）、付属施設（土器31点、石器35点、礫13点）である。床面出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅲ群A類835点）、石器（削器8点、Rフレイク7点、剥片24点、石斧1点、敲石1点、すり石1点、台石・石皿2点）である。

土器は覆土と床面からⅢ群に属するものが出土している。1層以下の覆土中からはⅢ群A類5個体、Ⅲ群B類1個体がまとまった状態で出土している。この内、土器175, 184は遺構の中央部東側、80cm×60cmほどの範囲に密集し、上位層（1層）中から下位層（2層）上面にかけて間断なく遺物がみられた。土器181は下位層（12層）上面から、ほぼ完形で出土した。土器内部には12層と同定できる粒径1cm前後の小礫を含む黄褐色粘土が容れられていた。土器は横倒しの状態であったため、黄褐色粘土が一部こぼれ出していた。覆土ではⅢ群A3類からⅢ群B1類の土器が出土している。石囲い炉内からはⅢ群A2類の個体土器のまとまりが押し潰された状態で出土している。

性格・時期　縄文時代中期中葉から後葉の大形住居と考えられる。炉より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定をおこない、4430y.B.P±40（補正年代）の結果が得られた。　（坂本）

MP1（図117　写真図版41掲載）

位置・規模　C76.77.P76.77　調査区中央北寄りの平坦面に位置する。

確認面における長軸は東西方向で4.4m、短軸4.0m、面積13.88㎡である。平面形はほぼ円形をなす。床面では、長軸3.6m、短軸3.1m、面積10.50㎡で確認面から床面までの最大深は0.72mでやや深い。

確認調査　Ko-d火山灰の除去後、Ⅲ層上面に円形の落ち込みを確認（確認類型M）。この円形の範囲をもとに十字に幅50㎝の狭いトレンチを設定して調査を行った。トレンチを設定した理由はあらかじめ土層の堆積状況を把握するためである。調査の結果、土層の堆積は深いこと、地表から約70㎝のところでかたくしまった面を確認できたことから、住居跡と判断し、掘り進めた。

堆積状況　セクションベルトのA—A'、B—B'とC—C'、D—D'では堆積状況が異なる。A—A'、B—B'では竪穴内の覆土の堆積状況は床面直上に23層の黄褐色土が堆積し、その上に７層の黒色土が堆積する。前者が二次堆積物で後者が自然堆積物と思われる。これに対して、C—C'、D—D'は、床面中央に18層の黄褐色土がややマウンド状を呈して堆積する。当初はマウンド状に呈するものは壁の両側に覆土を切って土壙が構築され、その結果中央部が高まりを示すものと考え、掘り進めた。しかし、土壙の立ち上がりが明瞭ではなく、不明な点が多かった。それゆえ調査を中断し、他の竪穴の土層堆積と比較をして再び考え直したところ、中央部の盛り上がりは意図的に盛った土ではないかと推論した。その後AH11の赤彩土器が出土しAH６において床面から櫛が出土したことから、いわゆる盛土墓ではないかと考えるに至った。遺体が残存しているならば論議の余地はないが、そういうケースは稀である。ここに考古学的事例のむずかしさがある。いずれにしても、このMP１の調査をきっかけとして住居内に土坑墓ではなく「盛土墓」[註]が造営されているのではないかというあらたな問題意識をもって調査を進めた。

註　（財）北海道埋蔵文化財センター1984年３月『美沢川流域の遺跡群Ⅶ』206ページで「土壙を設けない墓」を総称して盛土墓と呼んでいる。この検討が墓制の研究において重要である。なぜなら、それは土壙墓一極主義的研究に注意を促す意義をもっているからである。

構造　平面形はほぼ円形をなす。床面はほぼ平坦をなし、堅くしまっている。炉跡は床面中央やや北寄りに位置し、長軸約50㎝、短軸約40㎝の楕円形浅皿状を呈する。柱穴は床面状では検出されなかった。ただ、竪穴の壁の外周に沿って、径約15㎝の柱穴が1.5mないし２mの間を置いて等間隔に７穴がめぐる。柱穴は、それぞれ円の中心に向かって約45度の角度をもって傾斜する。この竪穴外の７箇の穴が竪穴住居に伴う柱穴と考えられる。このことから推論すると内側の柱は床面に竪穴を掘らずに仮置く程度のものであった可能性がある。ただ調査の過程ではその柱の圧痕を確認することはできなかった。床面状には炉跡付近に大型の礫、南壁よりに鉢澗式土器の深鉢の一括土器（土器45）が出土している。

遺物と出土状況　遺物分布は覆土中に最も多く床面には少ない。平面分布では中心部分で少なく、壁際周辺に集中する。

性格・時期　床面出土の一括土器から縄文時代後期中葉の住居跡である。ただ、この住居跡は土層の堆積状況から墓などとして再利用されたことが考えられる。（種市）

MP２（図119-120　写真図版42掲載）

位置・規模　F73.74.G73.74　調査区中央南寄りの緩斜面上部に立地し、AH３、AH４、MP７に隣接する。CP165を切る。確認面の長軸は5.6m、短軸5.0m、面積20.54㎡で調査区内の住居では標準的な規模である。底面の長軸は5.4m、短軸4.4m、面積18.32㎡、最大深0.48mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後のⅢ層上面に黒色土を楕円形にとりまく暗黄褐色土の範囲を確認した。覆土には黄褐色ローム粒が多く含まれ、Ⅲ層上面には全く落ち込みが見られなかった。暗黄褐色

土の範囲に従って土層ベルトを設定し掘り下げたところ、掘り込みは浅く、堅くしまった床面と炉跡を確認することができたため住居跡と判断した。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土が多くを占めるが、ロームを含む明茶褐色土が覆土の主体である。また黒色土をとりまくように壁際の周縁には黄ローム粒を多く含んだ混土状の暗黄褐色土が堆積している。覆土の堆積は概して単純である。

構造　床面はV層内につくられ平坦である。壁は明瞭で、立ち上がりは緩やかである。炉跡はほぼ中央に位置し、円形で浅皿状の断面形である。焼土は黒褐色土の落ち込みの下で検出され、かたく焼けしまる赤褐色を呈し底面のローム面も焼けている。小ピットは2箇所北側の壁際で検出されたが、いずれも15cm程度の浅い掘り込みで、柱穴の特定は出来なかった。住居の外側では柱穴状の小ピットを7箇所調査したが（SP）、特定までには至らなかった。また、出入り口状の部分も確認できなかった。

遺物と出土状況　住居跡の中では遺物は少なく、層位別ではⅢ層、覆土が少なく、床面に集中が見られる。平面分布では中心部と壁際に偏りがある。中心部では床面よりもやや上層の部分にⅣ群B類の深鉢（土器47）が集中破片（1）の状態で出土した。土器47は口縁部を失ったかたちで復原された。また床面上南東壁際ではⅣ群B類の深鉢が完形のまま横倒しで壁側に口縁部を向けた状態で出土した（土器92）。口縁側にはRフレイクが近接して出土した。南西壁寄りの床面には安山岩の棒状円礫と円形のくぼみを持つ台石が対に並んで配置されていた。

性格・時期　床面出土の遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期の住居跡である。また、完形状態の土器の出土や陰陽一対の礫の配置などを考慮した場合、生活目的以外の二次的利用の可能性も考えられる。（藤井）

MP3（図121-124　写真図版43掲載）

位置・規模　L78.79、M78.79　緩斜面上に立地する。AH15、16、MP4に隣接する。確認面の長軸5.15m、短軸4.81m、面積19.20㎡、底面の長軸4.80m、短軸4.52m、面積16.95㎡、最大深0.42mを測る。

確認・調査　Ⅲb層中に暗褐色、暗黄褐色土の落ち込みを検出し、遺構を確認した。暗黄褐色土はドーナツ状に分布していたため、マウンドを伴うピット（MP）として当初確認した。土層観察用のベルトを残し層位毎に掘削をおこない、床面、壁を検出した後、床面から構築された付属施設の調査をおこなった。その結果、遺構の構造が周囲に分布するAHと同様であることが確認できた。

堆積状況　覆土は大きく①～④に区分できる。①～④は堆積の順序である。

① 床面直上から壁際に堆積する暗褐色から黒褐色の土（6・7・13層）。

② 床面直上に堆積する暗褐色土（9層）。

③-1壁際で①の上位に堆積する黄褐色から褐色の土（3～5´・7・8・14・15層）。

③-2壁際で①の上位に堆積する黄褐色から褐色の土（11～12層）。レンズ状の堆積である。

④　遺構の中央部に堆積する暗褐色から黒色の土（1・2層）。

①・②は住居廃絶後間もない時期に流入した三角堆積土と考えられる。③は周囲遺構からの掘上げ土で主に構成されると考えられる。③は主に北東方向から投げ込まれたもの③-1と南西方向から流入したもの③-2に分けられ、③-1は人為的な埋め戻しの可能性がある。④は自然堆積土とみられる。遺物の取り上げ層位は、覆土に関しては、①層を覆土3、それ以外は全て覆土1とした。

また、MP3の掘上げ土とみられる堆積が、遺構の西側、斜面方向に主に分布していた。

構造　平面は円形である。炉は立石を伴う掘り込み炉が遺構の中央部に配置されていた。

柱穴状ピットは9基確認された。HP6・10は深さ30cm以上掘り込まれたもので、遺構長軸に対しほぼシンメトリーに配置されている。HP7～8は深さ10cm前後と掘り込みが浅く、遺構の東側、ほぼ長軸上に配置されている。HP2～4は深さ10～20cmで、遺構の西側、長軸上付近に配置されている。入り口構造は確認できなかったが、周囲に分布するAHの構造から西斜面側に位置したと考えられ、HP1～4は入り口構造に関連する可能性がある。

東側壁の一部、1.3mほどの範囲はオーバーハングしている。西斜面側を入り口と仮定すれば、オーバーハング部分は遺構の最深部となる。また、東壁付近の床面には白色粘土塊が分布していた。

壁の掘り込みはⅣ層上面からでは東側が深く西側が浅く構築されているが、西側には掘上げ土が盛られていた可能性がある。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器121点、石器68点、礫12点）、覆土1（土器72点、石器69点、礫11点）、覆土3（石器1点）、床（土器318点、石器85点、礫32点）付属施設（石器1点）である。床面出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅳ群B類199点）、石器（つまみ付きナイフ2点、掻器1点、削器11点、楔形石器10点、Rフレイク8点、剥片48点、石斧片1点、敲石1点、すり石3点）である。

床面では特徴的な出土状況が確認できた。土器はⅣ群B類が7個体、それぞれまとまった状態で出土した。個体土器の分布は炉の周囲と東側壁付近に主にみられた。石器はつまみ付きナイフ、削器、掻器などの多数の剥片素材石器と、すり石、敲石などが出土した。東壁オーバーハング部分付近の1×0.4mほどの範囲には、黒曜石製の楔形石器10点と多数のチップ（1.5cm以下のもの）がまとまって出土した。礫は扁平で大きさ20cm前後のもの3点が、遺構長軸上近辺に分布していた。また、大きさ5cmほどの小礫14点が北壁付近にまとまって出土した。

性格・時期　縄文時代後期前葉から中葉の住居址と考えられる。床面出土土器の内面に付着した炭化物を試料として放射性炭素年代測定をおこない、3990y.B.P±50（補正年代）の結果が得られた。

（坂本）

MP5（図125-126　写真図版44掲載）

位置・規模　I77.I78.J77.J78　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面の長軸3.94m、短軸3.33m、面積10.93㎡、底面の長軸3.79m、短軸3.20m、面積9.48㎡、最大深0.64m。

確認・調査　Ⅳ層上面で楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。調査により中央部分が僅かに凹みKo-dが覆っていたことが確認された、当初は中央部に褐色土が見られる埋積されたピットと認識された。しかし、それは風倒木により下位の覆土が持ち上げられた結果であった。四分法で二方向の土層断面図を作成した。なお、遺物取上げ時の層名は大別層名である「覆土（数字）」を用いている。「土層」との対応関係は堆積状況に記載してある。また、土層試料を採取しリン分析等を行った。土層試料はセクションベルトに沿った床面直上土と覆土1、覆土3について採取した。

堆積状況　まず壁際に黒色系の覆土3（土層18～24）が堆積し、それを褐色系の覆土1（土層12～17）が覆う。覆土3は褐色土と黒色土があり、後者は粘性を持ち有機質を多く含むような状況であった。覆土1は壁際を巡るように堆積していたが、主にローム質土からなっており、層理の明瞭でない部分もあった。覆土1上面は中央部が凹んでおり、炭化材の集中が見られ、一部では焼土も確認された。炭化材は板状を呈するものを含んでいた。また一括土器も隣接してあった。それらを覆うのが黒色系の覆土0（土層4～11）としたもので、下位が黒色土（土層5）、上位が褐色土（土層4）であった。堆積状況から見ると自然堆積も考えられるが、周囲に掘上土とみられるものが確認できなかったことから土層4については周囲の掘上土で埋め戻した可能性も考えられる。また住居跡中央部の覆土1上

面を一部凹ませるなどの人為的改変がなされている可能性もある。

構造　西側に内側に突き出した出入口がみられた。出入口は他の住居跡の例と異なり、ほぼ住居の壁に沿って粗く掘り込んだ後に土層25・26を盛って作っている。またその上面にはロームを張った部分もあった。

中央部には皿状に掘り込まれた炉跡が作られ掘り込みの下面に焼土が見られた。また炉跡の周囲半径約40cmの範囲には貼床が見られた。柱穴は炉を挟んで南北に一対のみ確認された。HP 1 は床面から深さ約35cmあるものの、HP 2 は床面から深さ約 4 cmと非常に浅いものであった。なお出入口からHP 2 にかけて浅い土坑が 6 基見られた。HP 3・6・7・8 は覆土が類似していた。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器22点、石器 1 点、礫 9 点〉、覆土 0 〈土器89点、石器 9 点〉、覆土 1 〈土器41点、石器19点、礫 4 点〉、覆土 3 〈土器 6 点、石器 5 点、礫 4 点〉、床面〈土器22点、石器 9 点〉、炉跡〈土器13点、石器 6 点、土製品 2 点〉。石器の内訳は覆土 0 〈石鏃・削器各 1 点〉、覆土 1 〈石鏃 3 点、石錐 2 点、削器・すり石各 1 点〉、覆土 3 〈削器 2 点、両面調整石器 1 点〉、床面〈石鏃・石錐・削器・すり石各 1 点〉。

主に覆土 1 上面で炭化材集中と共に土器・石器も集中しており、羽状縄文を持つ胴部に括れを持たない深鉢土器が半完形で出土した（土器105）。同部分に被熱した礫があり、炉跡の直上にあたるが、これら炭化材集中に面した側が被熱しているため覆土 1 上面における燃焼の結果とみられる。なお、炭化材について樹種同定を行ったところ、ハンノキ属、クリ、ヤナギ属、広葉樹散広材があったが、特に特徴的な材の選択は見られなかった。

また覆土 3 からは奥壁側でベンガラ塊が、出入口に接して柱状節理による棒状礫（613）が検出された。床面からはアスファルト塊が 2 点出入口側（617）と奥壁側（618）で出土した。出入口側のアスファルト塊に隣接して波状口縁を持つ小型土器が半完形で出土した（土器82）。この小型土器は斜めになって出土したが、その接している床面はやや窪んでおり土器を掘り窪めて正立させて設置していた可能性が強い。また奥壁側アスファルト塊にも隣接して注口土器の底部側が倒立状態で出土した。土器内部にはしまりのない土が土器の高さの半分ほど堆積していた。ほかに北壁側で灰白色粘土も出土している。

炉跡については焼土とその直上の土壌を採取し、フローテーション法によって炭化種子を選別した。結果、炉跡直上からクルミが 2 点検出された。なお、炉跡からクリの子葉が 1 点単体で出土した。

性格・時期　縄文後期中葉の住居跡である。また炉跡出土炭化材の14C年代は3370±40y. B. P. であった。住居廃絶後は、覆土 3 に覆われて倒立した土器やベンガラ塊、アスファルト塊が出土していることから廃屋墓として利用された可能性が考えられる。なお、覆土 3 及び床面、覆土 0 について腐植含量、リン酸含量、カルシウム含量、植物珪酸体の分析を行ったが、明瞭なリン酸の富化や植物珪酸体の富化は見られず、基本土層と同様の環境下で堆積したものとされた。覆土 1 については自然流入土とは考えられない。人為堆積物とみられるが、埋積したものか、土葺きの屋根土が崩落したものかの判断はつかなかった。さらに覆土 1 堆積後の凹み で火を伴う活動がなされたものとみられる。

（福井）

MP 7 （図127　写真図版45掲載）

位置・規模　F75.76.G75.76調査区西側南寄りの緩斜面中部に立地し、MP 2 、AH 4 に隣接する。確認面の長軸は4.0m、短軸3.2m、面積10.28㎡で調査区内では小規模の住居跡にあたる。底面の長軸は3.1m、短軸2.7m、面積7.71㎡、最大深0.6mを測る。

確認・調査　Ko-d火山灰除去後のⅢ層上面に黄褐色ローム粒を含む楕円形で暗黄褐色土の範囲を確

認した。範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げたが、規模が小さかったためベルトを一つにして掘り下げた。明瞭な床面と炉跡状の立石を確認したため住居跡と判断した。

堆積状況　明茶褐色土を主体とする覆土の中に腐植質の黒色土やローム粒を多く含む暗黄褐色土が流れ込むやや複雑な堆積である。

構造　床面はV層中につくられ、わずかに起伏を伴うものの概して平坦である。壁面は明瞭で立ち上がりは垂直である。楕円形プランのほぼ中央に炉跡状の掘り込みが1カ所（HF1）と、北寄りの壁際に柱穴状のピットが2カ所（HP1・2）、南よりの壁際に土坑が1カ所検出された。HF1は炉跡として調査し、焼土は少なかったが、四方に立石をめぐらした石囲炉と思われる。HP1は深さ45cmほどで、垂直に掘り込まれている。HP2は深さ5cmほどの浅い小ピットである。HP3は土坑であり、本遺構の覆土中から掘り込まれたもので、直接伴わない可能性も強い。

遺物と出土状況　遺物はⅢ層及び覆土中に集中し、床面に少ない。平面分布は南側に偏りが見られる。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期の住居跡と思われる。（藤井）

2　土坑

土坑は全てで140箇所で検出された。縄文時代後期のものが約60箇所、縄文時代中期のものが約75箇所、縄文時代早期のものが1箇所で、時期不明のものが数ヶ所ある。性格は土坑墓と推定されるものが約70箇所ほどある。

遺構名については住居跡と同様に確認状況別区分を頭に冠して設定した。また当初住居跡として調査したが後に土坑としたもの、住居の付属する遺構として調査したが、これに伴わなかったものは当初設定した遺構名を用いている。

AH2HP2（図169掲載）

位置・規模　P85　調査区北側の緩斜面に位置し、AH2の上面に構築されている。確認面の長軸1.72m、短軸0.98m、面積1.36㎡、底面の長軸1.58m、短軸0.84m、面積1.14㎡、最大深0.48m。

確認・調査　AH2の調査において、A－A'ベルトの断面で確認した。

堆積状況　覆土は主に暗茶色土であり、自然堆積と考えられる。

構造　平面形はほぼ楕円形であり、丸底である。壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　覆土からⅣ群7点（B類3点）、頁岩製の石核1点、底面からⅣ群1点、頁岩製の削器1点、剥片2点が出土した。

性格・時期　覆土の遺物から縄文時代後期中葉の時期に構築されたと考えられる。性格は不明である。（菊池）

AH2HP4（図169掲載）

位置・規模　P85　調査区北側の緩斜面に位置し、AH2、AH2HP5と重複する。確認面の長軸1.36m、短軸0.9m、面積0.87㎡、底面の長軸0.98m、短軸0.68m、面積0.56㎡、最大深0.3m。

確認・調査　AH2の調査において、B－B'ベルトの断面で確認した。

堆積状況　覆土はローム粒の混入した暗茶褐色土と黒褐色土である。

構造　平面形は卵形であり、丸底である。壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　AH2との切り合い関係から縄文時代後期中葉以後に構築された。（菊池）

AH2HP5（図169掲載）

位置・規模　O85.P85　調査区北側の緩斜面に位置し、AH2、AH2HP4と重複する。確認面

の長軸1.16m、短軸（0.36）m、面積（0.84）㎡、底面の長軸0.78m、短軸（0.14）m、面積（0.43）㎡、最大深0.46m。

確認・調査　ＡＨ２の調査において、Ｂ－Ｂ'ベルトの断面で確認した。

堆積状況　覆土はローム粒の混入した茶褐色土と黒褐色土である。

構造　平面形は楕円形と想定され、底面は最深部でやや尖る。壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　ＡＨ２との切り合い関係から縄文時代後期中葉以後に構築された。（菊池）

ＡＨ２ＨＰ８（図169掲載）

位置・規模　Ｐ85.Ｐ86　調査区北側の緩斜面に位置し、ＡＨ２と重複する。確認面の長軸1.36m、短軸（0.84）m、面積（1.03）㎡、底面の長軸1.2m、短軸（0.7）m、面積（0.78）㎡、最大深（0.52）m。

確認・調査　ＡＨ２の調査後にプランを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　１層はＡＨ２の掘り上げ土、２～５層は埋め戻しによる堆積、６・７層は崩落土と考えられる。

構造　平面形はほぼ楕円形、底面は平坦である。壁の立ち上がりはやや急である。

遺物と出土状況　覆土からⅣ群２点、Ⅲ群４点（Ⅲ群Ｂ類１点）、北海道式石冠２点、半円状扁平打製石器１点、台石・石皿１点、礫３点、剥片２点が出土した。

性格・時期　覆土の遺物から縄文時代中期前半の時期に構築された土坑墓考えられる。（菊池）

ＡＨ12ＨＰ13（図152掲載）

位置・規模　Ｏ80.81　調査区西側北寄りの緩斜面中部に立地し、ＡＨ12に切られる。確認面の長軸は0.79m、短軸0.70m、面積0.44㎡、底面の長軸0.70m、短軸0.61m、面積0.34㎡、最大深0.29mを測る。

確認・調査　ＡＨ12の床面精査の段階で確認し、当初はＡＨ12の付属施設として調査した。平面では３つの小ピットが重複するかたちで確認された。半裁して掘り下げたところ、底面に礫を伴う土坑であり、埋積後に上層の浅皿状ピットが設けられたことが明らかになった。

堆積状況　覆土は黒褐色土と暗茶褐色土が主体で、炭化物も含んでいる。細かく分層され人為的な堆積の可能性がうかがえる。上層を一部掘り込んで浅いピットが２つ設けられている。

構造　平面形は円形で、底面はＶ層中につくられ平坦である。壁は明瞭で垂直に立ち上がる。底面に重なるように３つの安山岩礫を伴う。

遺物と出土状況　三つの安山岩礫の内、２点は台石・石皿に分類された。覆土中にⅢ群の土器片が数点出土したのみである

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいが、重複関係から判断して縄文時代中期、Ⅲ群の時期の土坑である。底面に礫を伴う点や堆積状態を考慮した場合、墓壙として利用されていた可能性が考えられる。（藤井）

ＡＨ13ＨＰ５（図152　写真図版48掲載）

位置・規模　Ｎ79　調査区やや北側の緩斜面に位置し、ＡＨ13と重複する。確認面の長軸2.18m、短軸2.1m、面積（3.61）㎡、底面の長軸2.04m、短軸1.96m、面積（3.17）㎡、最大深0.58m。

確認・調査　ＡＨ13の調査後に床面に黄褐色土の広がりを確認し、北東－南西と南東－北西にベルトを設定して掘り下げた。

堆積状況　覆土は主に黄色土、黄褐色土、暗黄褐色土でＶ層の埋め戻しによる堆積と考えられる。

構造　平面形は円形であり、底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁際に溝が５箇所あり、溝の中に窪みがある。

遺物と出土状況　床面・覆土から時期不明土器小片３点、頁岩製Ｒフレイク１点が出土した。
性格・時期　覆土の堆積状況から、縄文時代中期に構築されたと考えられる。土坑墓の可能性があるが、決定的根拠に乏しい。　（菊池）

AH14HP５（図66　写真図版49掲載）
位置・規模　O76　調査区やや北側の緩斜面に位置し、ＡＨ14、ＡＨ14ＨＰ６と重複する。確認面の長軸0.98m、短軸（0.42）m、面積（0.33）㎡、底面の長軸0.58m、短軸（0.22）m、面積（0.18）㎡、最大深0.52m。
確認・調査　ＡＨ14の調査後にプランを確認し、ＡＨ14ＨＰ６と同時に調査した。
堆積状況　１層はⅣ層の流れ込み、２～６層は埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は楕円形と推定され、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　覆土からⅣ群２点、不明土器片３点、安山岩製の台石・石皿１点、粘土塊３点が出土した。
性格・時期　覆土の遺物から縄文時代後期に構築されたと考えられ、AH14との切り合い関係から中葉以前に構築された。覆土の堆積状況と遺物の出土状況から土坑墓の可能性がある。　（菊池）

AH14HP６（図66掲載）
位置・規模　O76.O77　調査区やや北側の緩斜面に位置し、ＡＨ14、ＡＨ14ＨＰ５と重複する。確認面の長軸2.38m、短軸（0.94）m、面積（2.4）㎡、底面の長軸2.22m、短軸（0.8）m、面積（1.99）㎡、最大深0.3m。
確認・調査　ＡＨ14の調査後にプランを確認し、ＡＨ14ＨＰ５と同時に調査した。
堆積状況　１層はⅣ層の流れ込み、２～７層は埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は楕円形と推定され、底面は平坦である。壁の立ち上がりは北側で急である。
遺物と出土状況　覆土からⅢ群36点（Ａ類８点）、石錐１点、Ｒフレイク２点、剥片２点出土した。
性格・時期　覆土の遺物から縄文時代中期前半に構築されたと考えられる。　（菊池）

AH14HP７（図66　写真図版49掲載）
位置・規模　N76　調査区やや北側の緩斜面に位置し、ＡＨ14と重複する。確認面の長軸1.46m、短軸（0.76）m、面積（0.95）㎡、底面の長軸1.28m、短軸（0.66）m、面積（0.85）㎡、最大深0.6m。
確認・調査　ＡＨ14の調査後にプランを確認して調査した。
堆積状況　１層はⅢ層の流れ込み、２～７層はⅣ・Ⅴ層の埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は楕円形と推定され、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　覆土からⅢ群86点、Ⅳ群11点、剥片90点（７層から出土した頁岩のフレイク集中89点）、石核１点、礫２点が出土した。
性格・時期　覆土の遺物から縄文時代中期に構築されたと考えられる。覆土の堆積状況、遺物の出土状況から土坑墓の可能性がある。　（菊池）

AH17H６（図76掲載）
位置・規模　L82.83　調査区やや西側の緩斜面に位置し、ＡＨ17と重複する。確認面の長軸0.96m、短軸0.76m、面積（0.6）㎡、底面の長軸0.52m、短軸0.56m、面積（0.21）㎡、最大深0.62m。
確認・調査　ＡＨ17の調査後にプランを確認し、北東側を半裁し掘り下げた。
堆積状況　ＡＨ17の掘り上げ土を被っている。覆土は主に黒褐色土・黄褐色土・暗黄褐色であり、埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は楕円形、底面は平坦である。壁はやや開いて立ち上がる。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群1点、Ⅳ群1点、石核1点、敲石1点、北海道式石冠原材1点、台石・石皿1点、底面から石錐1点が出土した。

性格・時期　時期を決定する遺物は乏しいが、縄文時代中期に構築された可能性が強い。覆土の堆積状況、遺物の堆積状況から土坑墓の可能性がある。（菊池）

AH18HP３・４（図155　写真図版48掲載）

位置・規模　J81，K81　調査区やや西側の緩斜面に位置し、ＡＨ18と重複する。確認面の長軸3.44m、短軸2.46m、面積16.29㎡、底面の長軸3.14m、短軸2.2m、面積5.13㎡、最大深0.71m。

確認・調査　ＡＨ18の調査後床面に暗黄褐色土の広がりを確認し、東－西と南－北にベルトを設定して掘り下げた。ＨＰ４は土層断面より別のピットと考えたが、同形態のＭＰ10の調査によりＨＰ３に付属するものであり、ＨＰ４を埋め戻した後、ＨＰ３を構築したと考えられる。底面の中央部に粘性が強く多量の炭化材を含む黒色土が堆積している。炭化材からクルミ属1点、ササ属2点、クリ3点が同定された。

堆積状況　覆土は黄色土・黄褐色土・暗黄褐色土が複雑に堆積し、Ｖ層の埋め戻しと考えられる。

構造　平面形は隅丸長方形であり、底面は平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面の壁際に溝がめぐらされ、ＨＰ４で切れている。溝の中に窪みがみられるが、板材など構築物の跡なのか、あるいは溝を掘ったときの掘り具の跡なのか不明である。また南・北の壁際に柱穴ＨＰ５・６を検出した。

遺物と出土状況　覆土から時期不明土器片1点、削器1点、礫1点、底面から剥片1点が出土した。ＨＰ４の底面から台石・石皿1点、敲石1点、礫1点が出土した。

性格・時期　炭化材の14Ｃ年代測定値は4,560±40であり、縄文時代中期中葉の時期に構築された。形態的には住居跡と考えられるがＭＰ10が土坑墓の可能性が強いため、二次的に墓として利用した可能性もある。（菊池）

BH26（図166　写真図版49掲載）

位置・規模　N82.83　調査区西側北寄りの緩斜面中部に立地し、CP80に切られる。確認面の長軸は2.81m、短軸2.32m、面積5.60㎡、底面の長軸2.40m、短軸1.83m、面積3.79㎡、最大深0.74mを測る。

確認・調査　ko-d火山灰除去後、わずかな黒色土の落ち込みを確認した段階でBHと設定した。トレンチ調査により掘り下げたところ、CP80との重複、約70cmほどの掘り込みを検出し、形状から住居跡ではなく、土坑と判断した。

堆積状況　斜面堆積の影響により、上層から複雑な堆積が見られた。上層の黒色土以下も細かく分層されたが、基本的にはローム主体の暗黄褐色土と黒褐色土とが交互に堆積する互層状を呈している。下層では炭化物の混入も見られた。

構造　平面形は不整な楕円形であり、底面はＶ層のハードローム中につくられ、平坦であるが中央部分に円形の深さ10cmほどの落ち込みを伴う。壁の立ち上がりは明瞭で急である。

遺物と出土状況　覆土上層ではⅣ群とⅢ群が入り混じった状態であったが、覆土下層からはⅢ群A類の土器が出土した。底面付近からⅢ群A類の深鉢（土器160）が集中破片（1）の状態で出土した。土器160は底部が欠損である。石器は半円状扁平打製石器、石鏃、石錐、石核、削器などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状態や土器の出土状況からは墓壙として利用されていた可能性がうかがえる。（藤井）

CH40（図165　写真図版50掲載）

位置・規模　M81.82　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、CP182を切る。確認面の長軸2.8m、短軸2.0m、面積4.55㎡、底面の長軸2.16m、短軸1.84m、面積3.40㎡、最大深1.2mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後のⅣ層上面にて、明黄褐色土の円形の範囲を検出した。当初は規模から判断して住居跡と判断したが、半裁して掘り下げたところ、約１m以上の掘り込みを検出し、その形態から土坑と判断した。覆土下層からは土器の集中破片が出土した。

堆積状況　確認面は明黄褐色土でAH16の掘り上げ土にあたる可能性がある。この黄褐色土下に本来のⅢ層由来の黒褐色土が堆積する。黒褐色土以下は細かく分層されたが、ローム土に由来する暗黄褐色土が覆土の主体であり、人為的な堆積が何回も行われたことがうかがえる。

構造　平面形は楕円形である。底面はⅤ層のハードローム中につくられ、平坦である。壁も明瞭で、緩やかな立ち上がりである。土器は覆土２層中に伴うものである。

遺物と出土状況　土器は覆土中から出土し、大半がⅢ群A類の破片である。覆土２層からは集中破片（１）の状態でⅢ群A類の小型深鉢が３点出土した（土器156,157,160)。石器は楔形石器、Ｒフレイク、すり石、石核、削器、石鏃などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。遺物の出土状態や覆土の堆積状態からは墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

BH42（図131　写真図版49掲載）

位置・規模　F80.G80　調査区南西側の緩斜面上に位置する。確認面の長軸2.68m、短軸1.70m、面積6.10㎡、底面の長軸1.75m、短軸1.43m、面積2.11㎡、最大深1.04m。

確認・調査　Ⅳ層上面でⅢ層の円形を呈する落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げ時の層名は大別層名である「覆土（数字）」を用いている。「土層」との対応関係は堆積状況に記載してある。

堆積状況　下位より褐色系の覆土４（土層６～９）、黒褐色の覆土３（土層５）、茶褐色の覆土２（土層４）、暗褐色系の覆土１（土層１～３）と堆積している。覆土２以下の土層はロームブロックが多く含まれ、人為堆積層とみられる。土層１はローム粒を多く含むもので、土坑周辺にも広がる。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで平底になっている。南側には一段高い張り出しを設けている。なおそのさらに南側に不整形の凹みがみられたが一部ローム層が持ち上げられている部分がみられたことなどから土坑構築以前の風倒木痕であると考えられた。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器３点、石器３点、礫４点〉、覆土１〈土器10点、石器９点、礫３点〉、覆土２〈土器１点、石器１点、礫１点〉、覆土４〈礫１点〉。石器の内訳は、Ⅲ層〈すり石１点〉、覆土１〈楔形石器・石核・台石各１点〉、覆土２〈石核１点〉。

覆土１上面からは大型礫と土器底部側が接した状態で出土し、石核、台石・石皿も出土した。ほかに坑底からは礫１点が出土している。

性格・時期　風倒木痕を利用した縄文時代中期の土坑である。堆積状況から土坑墓とみられる。（福井）

CP-CH33-HP１（図103掲載）

位置・規模　Q77　調査区の北側、狭い平坦部に立地している。CH33と切り合い関係を持つ。確認面の長軸（1.11)m、短軸1.59m、面積（1.36)㎡、底面の長軸（0.64)m、短軸1.22m、面積（0.56)㎡、最大深41㎝を測る。

確認・調査　CH33検出時に確認した。平面でCH33の覆土を掘り込んで構築されていることが確認できた。遺構範囲は調査区外にまで及ぶため、調査は全体の半分程度にとどまった。調査区境界ラインを土層観察断面に利用し、調査可能範囲の掘り下げをおこなった。

堆積状況　床面直上の壁際にはローム混じりの暗褐色土（５層）が、中央部にはⅢ層に類似した土性

の暗褐色土（2層）が堆積する。その上位にロームブロックを含有する暗黄褐色土（1層）が確認された。1・5層は人為的な投げ込み土、2層は自然堆積土の可能性がある。遺物取り上げ層位は、1・3・4層が覆土1、2・5層が覆土2に該当する。

構造　全体の形状は不明だが、平面は楕円形と考えられる。壁は南東側が緩やかに、西側が急角度に立ち上がる。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、覆土1（土器21点、石器7点、礫3点）、覆土2（土器5点、石器2点）である。

土器はⅣ群のものが主である。石器はつまみ付きナイフ、削器などが出土している。

性格・時期　性格は不明である。時期は縄文時代後期中葉で、CH33よりも新しく構築されたと判断できる。（坂本）

CP-CH45-HP 1（図148　写真図版48掲載）

位置・規模　O78　CH44の竪穴覆土中に構築されていた。確認面の長軸1.83m、短軸1.40m、面積1.92㎡、底面の長軸1.30m、短軸0.95m、面積0.98㎡、最大深72cmを測る。

確認・調査　CH44覆土下位層上面で黄褐色土から暗褐色土の楕円形の落ち込みを検出し、範囲を確認した。CH44用に設定したベルトライン（B－B´）を利用し、ライン南側の掘削調査から開始した。覆土中に炭化物の密集範囲を検出し、フローテーションのための土壌を採取した。また、炭化物堆積の下位に遺物が多く出土する状況を確認した。坑底確認後、全体を掘り下げ遺構の形状を確認した。

堆積状況　覆土は①～③に区分できる。

① 上位の堆積。ロームブロックを多く含む黄褐色土（2層）で、上面に焼土が確認された（1層）。

② 中位の堆積。褐色土と暗褐色土・黒褐色土の互層で（3～6層）、6層では多量の炭化物粒が面的に検出されている。

③ 下位の堆積。ロームを主に構成される、褐色土もしくは黄褐色土（7～11層）。

①～③は全て人為的な埋め戻し土と考えられる。遺物取り上げ層位は、上位層（1・2層）が覆土1、中位層（3・4層）が覆土2、（5・6層）が覆土3、下位層（7～11層）が覆土4に該当する。

構造　平面は楕円形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。構築面、土坑の周囲には、幅20～50cm、厚さ20cmほどの黄褐色土の盛り土が確認された。黄褐色土の盛り土は北側で堆積がみられない部分があった。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、覆土1（土器33点、石器6点、礫2点）、覆土2（土器80点、石器14点、礫2点）、覆土3（土器65点、石器22点、礫13点）、覆土4（土器6点、石器12点、礫5点）、覆土細分不明（石器2点）である。

遺物は中位層②に多く包含され、下位層③では少ない。土器はⅢ群が主に出土している。石器は削器、石錐、半円状扁平打製石器が覆土の上位から中位で出土した。また、覆土下位出土の石核に中位出土の剥片7点が接合している。

性格・時期　性格は遺構規模、覆土堆積状況、遺物出土状況がCP149に類似していることから、土坑墓の可能性がある。時期は縄文時代中期中葉と考えられる。（坂本）

MP 4（図129　写真図版47掲載）

位置・規模　L77・78、M78　緩斜面上に立地する。住居址MP 3に隣接する。確認面の長軸2.55m、短軸2.3m、面積4.41㎡、底面の長軸2.05m、短軸1.94m、面積2.80㎡、最大深0.72mを測る。

確認・調査　Ⅲb層上面精査作業中、黒色土を楕円形に取り囲む黄褐色土、暗黄褐色土を検出し、範囲を確認した。土層観察用のベルトを十字状に設定し、覆土の掘り下げをおこなった。遺構はMP 3

の掘上げ土と捉えられる土層を掘り込んで構築されていた。坑底直上まで確認後、坑底の微細遺物等の検出に努めた。

堆積状況　覆土の堆積は大まかに６つに区分できる。

① 焼土・炭化物粒を含有する暗褐色土（1・1´層）
② ロームブロックを主とする黄褐色土（2～3´層）
③ 黒色土（4層）
④ ロームブロックを多く含有する暗褐色・褐色土（5～7´層）
⑤ ロームを主とする黄褐色土（8・10層）
⑥ 坑底に薄く広がる粘性の強い暗褐色土（9層）

①は自然堆積、②～⑤は人為的な埋め戻し土と考えられる。⑥は坑底から壁に接して厚く堆積し、坑底面の西側を半周するように分布していた。遺物取上げ層位は、覆土に関しては全て「覆土」とした。

構造　平面は円形である。壁は急角度で立ち上がる。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器155点、石器50点、礫12点）、覆土（土器81点、石器15点、礫11点）、坑底（土器２点、礫１点）である。坑底出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅳ群Ｂ類26点、Ⅲ群Ａ類10点）である。

坑底直上からは浅鉢の底部である土器117が出土した。土器117は坑底直上の暗黄褐色土上に斜めに立てかけられるような状態で確認され、上部には純粋なロームが２cmほどの厚さで敷き詰められていた。土器117は特徴的な出土状況から副葬品の可能性がある。

性格・時期　遺構はMP３の掘上げ土とみられる土を掘り込んで構築されていたため、MP３よりも新しいと判断できる。縄文時代後期中葉の土坑墓と考えられる。（坂本）

MP９（図129　写真図版47掲載）

位置・規模　F72　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面長軸2.39m、短軸1.86m、面積3.54㎡、底面長軸2.28m、短軸1.36m、面積2.03㎡、最大深0.88m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。四分法で二方向の土層断面図を作成した。

堆積状況　下位に貼り床状のロームブロックを多量に含む暗褐色土（土層２）がみられ、その上を黒褐色土（土層１）が覆う。黒褐色土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層の黒色土が自然堆積していた。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、レンズ状になっている。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　Ⅲ層から土器２点、石器１点、礫２点が出土したが、覆土からは出土していない。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。性格は不明であるが、MP９・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

MP10（図130　写真図版46掲載）

位置・規模　F71.F72.G71.G72　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面の長軸3.21m、短軸2.49m、面積6.81㎡、底面の長軸2.33m、短軸2.01m、面積4.35㎡、最大深0.96m。

確認・調査　Ⅳ層上面でＡH10の掘上土にサブトレンチを入れたところⅢ層がその下位に厚く堆積していたことから確認した。四分法で二方向の土層断面図を作成した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。なお、「覆土」として取り上げたものは覆土１に含まれる。また、墓の可能性があることから土層試料を採取しリン分析等を行った。土層試料は、中央部を柱状に採取し、さらに坑底腐植土、中位の黒色土については横方向にも採取した。

堆積状況　坑底中央部には黒褐色土（土層14）と焼土（土層15）がみられ、その下位には非常に薄く坑底一面に暗褐色土（土層20）が広がっていた。坑底の黒褐色土は黒味が強く有機質を多く含んでいるような状況であった。それらを覆うのは下位からおおまかには黄褐色土（土層11～13）、黒褐色土（土層10）、黄褐色土（土層８・９）、黒色土（土層６・７）、黄褐色土（土層５）、黒褐色土（土層４）と堆積した人為堆積土。土層８・９上面は凹凸が見られた。なお土層４は土層５が土壌化したものとみられる。炭化木片が土層８・10～13でみられたが、特に土層11上面及び12に集中してみられた。また土層10には土坑中央部に炭化材集中が見られた。炭化材は板状で、部分的に棒状のものもあったが、製品ではないとみられた。材の柾目の方向はほぼ坑中央部に向いていた。焼土粒以外には焼土は同層から見られない。

人為堆積土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層、AH５掘上土が堆積していた。AH５掘上土はAH５構築時にＭＰ10がまだ凹みとして残っていたためにそれを埋積した人為堆積土とみられる。

構造　Ⅴ層を掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。坑底には壁際を巡るように溝が掘り込まれる。また坑底南側には５基の柱穴状のピットが検出された。その内３基が切り合う。土層の状況からすると二基一単位で構築されたとみられる。Ｐ３・Ｐ４ではピットの壁に沿って土層14が堆積しており土坑構築時に掘り込まれたものとみられる。一方Ｐ１・Ｐ２は土層13に近い土層21のみが堆積しており、さらにＰ２がＰ３を切ることから、土坑埋積直前に掘り込まれたものとみられる。ほかに土坑北側には坑口にステップ状の張り出しが見られた。ステップの下面はレンズ状に凹み、ピット状の落ち込みが見られたが根の可能性が高い。さらに南西側にもＭＰ10が切った落ち込みが見られたが、風倒木痕と判断した。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器23点、石器８点、礫４点〉、覆土１〈土器19点、石器14点、礫５点〉、覆土２〈土器15点、石器５点、礫10点〉、覆土６〈石器１点、礫１点〉。

石器の内訳は、Ⅲ層〈楔形石器１点〉、覆土１〈すり石・北海道式石冠・加工痕のある礫・台石各１点〉、覆土２〈つまみ付きナイフ１点〉、覆土６〈北海道式石冠原材１点〉。

ほとんどが土層２・３に流れ込んだもので、僅かに覆土中位から５点出土している。その内、中央部から見つかった２点は礫と加工痕の有る礫であった。北海道式石冠（544）、北海道式石冠原材（555）は２点とも土坑北側の覆土中。586の台石はステップ下面付近から出土したもの。

なお、土層10に見られた炭化材10点を樹種同定したところ、クリ材が７点（70%）あった。

性格・時期　縄文時代中期の土坑である。堆積状況と遺物出土状況から土坑墓と考えられる。なお坑底及び覆土について腐植含量、リン酸含量、カルシウム含量、植物珪酸体の分析を行ったが、坑底の黒褐色土は植物由来の腐植によるものとされた。また、坑底焼土中に含まれていた炭化木片の14C年代が4530±50y.B.P.であった。なお、ＭＰ９・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。その後、遺体腐敗によると考えられる凹みは縄文時代後期中葉の住居跡の掘上土により埋積されている。（福井）

MP11（図131　写真図版47掲載）

位置・規模　F79.F80　調査区南西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸2.03m、短軸1.27m、面積2.68㎡、底面長軸1.76m、短軸1.21m、面積0.86㎡、最大深0.83m。

確認・調査　Ⅳ層上面でⅢ層とそれを取り囲む褐色土の楕円形を呈する落ち込みとして確認。四分法で二方向の断面図を作成。また、遺物取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。

堆積状況　南側にクロボクブロック、ロームブロックを多量に含む土層25と黄褐色系の土層26がみられたが、これらとローム層との境界は凹凸が著しく、MP11構築以前の風倒木による撹乱層とみられ

た。その上位には茶褐色の土層19・20、暗褐色系の土層１～18が堆積している。いずれもロームブロックを多く含み、ややしまることから人為堆積とみられる。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで作るが、掘り込みは不整。坑底も不整で凹凸が著しいが中央部に凹みを持つ構造となっている。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層で土器１点、覆土で土器１点、石器４点、礫２点である。覆土からは土器片胴部１点と石鏃（75）、削器（312）、すり石（532）、礫が出土している。

性格・時期　風倒木痕を利用した縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓とみられるが、土坑掘削途中で放棄し、埋め戻した可能性もある。（福井）

CP18（図136　写真図版50掲載）

位置・規模　G68　調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面の長軸1.99m、短軸1.45m、面積3.13㎡、底面の長軸1.83m、短軸1.51m、面積1.98㎡、最大深0.81m。

確認・調査　Ⅲｃ層中で、楕円形を呈するⅢｂ層の落ち込みとして確認。四分法で二方向の土層断面図を作成した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　下位よりローム主体とする黄褐色系土（土層５・７・９）、有機質に富む黒色土（土層４）、焼土（土層２）の順に堆積していた。状況と含有物から人為堆積土とみられる。焼土は、その上面などに炭化材は見られず、他地点で形成した焼土を利用したものとみられる。黄褐色土中にはしまりの弱い暗褐色土の土層６・８が斜めに挟在していた。人為堆積土上面は浅鉢状に凹み、Ⅲ層の黒色土が自然堆積していた。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はフラスコ状ないしほぼ垂直に立ち上がる。底面ほぼ中央には小ピットがみられた。小ピットは土坑を埋め戻す際に同時に埋められたようで、土坑下位に堆積している土層が堆積していた。小ピットは直径18cm、坑底からの深さ約10cm。

遺物の出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層（土器２点、礫１点）、覆土３〈礫１点〉、覆土７〈石器１点〉。坑底のほぼ中央から敲石１点が出土している。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。形態と堆積状況から土坑墓と考えられる。また、MP９・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP19（図136掲載）

位置・規模　H68　調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面の長軸1.24m、短軸0.88m、面積1.09㎡、底面の長軸1.16m、短軸0.76m、面積0.19㎡、最大深0.38m。

確認・調査　Ⅳ層上面で楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。

堆積状況　暗褐色土で埋積された人為堆積土。その上面はレンズ状に凹みⅢ層が自然堆積している。

構造　Ⅴ層を掘り込んで、平底になっている。壁はフラスコ状を呈し、坑口部分は崩れたようで皿状に巡る。

遺物と出土状況　遺物は出土していない。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。MP９・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられるため、土坑墓と考えられる。（福井）

CP20（図136掲載）

位置・規模　H68　調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸1.66m、短軸1.23m、面積1.99㎡、底面長軸1.20m、短軸0.77m、面積0.87㎡、最大深0.63m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。四分法で二方向の土層断面図を作成した。

堆積状況　下位にローム層由来土（土層7～10）、上位にⅣ層由来土（土層1～5）を埋積した人為堆積土。中位にはローム層そのままの土層6が堆積していた。人為堆積土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層が自然堆積していた。

構造　Ⅴ層のロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。一部坑口が崩れたのか段をなしていた。

遺物と出土状況　遺物は出土していない。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。MP9・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられるため、土坑墓と考えられる。（福井）

CP21（図133　写真図版50掲載）

位置・規模　I65.I66.J65.J66　調査区東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸2.09m、短軸1.91m、面積4.02㎡、底面長軸2.20m、短軸2.03m、面積3.49㎡、最大深0.66m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　下位にローム由来の土層10が厚く堆積し、その上位を褐色土（土層2）が覆い、さらに三単位の黒色土―ロームの堆積（土層2：3、4：5、7：9）が交互に見られる。状況と含有物から人為堆積土とみられる。人為堆積土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層が自然堆積していた。

構造　Ⅴ層のロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。坑底にはピットが4基確認された。そのうち3基は直径約10cmのもので、南北の壁側と中央部に直線状に並ぶように検出された。断面図に現れていないが土層12が堆積しており、深さは坑底から約25cmあった。P－4は直径40cmと大きく、深さも約40cmあった。2基のピットを切っている可能性もあったが、確認できなかった。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器12点、石器2点、礫1点〉、覆土1〈石器1点、礫1点〉、覆土2〈石器8点〉、覆土8〈石器1点〉、覆土9〈土器1点、石器2点、礫2点〉、覆土10〈土器5点、石器13点、礫5点〉。石器の内訳は、Ⅲ層〈つまみ付きナイフ、扁平打製石器各1点〉、覆土2〈台石1点〉、覆土8〈北海道式石冠原材1点〉、覆土9〈北海道式石冠1点〉。

土層10上面の上下から礫、剥片のほか、台石・石皿（587）、扁平打製石器（539）、Rフレイク（438・439）、北海道式石冠原材（556・557）も出土した。北海道式石冠原材は土坑のほぼ中央から2点が出土した。ほかに坑底付近からはつまみ付きナイフ（161）も1点出土した。

性格・時期　縄文時代中期の土坑である。形態と堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP22（図133掲載）

位置・規模　J65 調査区やや東側の平坦面に位置する。確認面の長軸0.82m、短軸0.75m、面積0.49㎡、底面の長軸0.65m、短軸0.60m、面積0.32㎡、最大深0.18m。

確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土はⅢ層の流れ込みである黒色土・暗黒褐色土と、Ⅴ層の埋め戻しである暗黄褐色土・黄褐色土である。

構造　平面形はほぼ円形である。底面の東側は平坦であり、西側は緩く傾斜が上がる。壁の立ち上が

りは急である。
遺物と出土状況　1層より時期不明の土器片が2点出土した。
性格・時期　周囲の遺構より縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP23（図133掲載）
位置・規模　M65　調査区東側やや北寄りの平坦面上に立地し、CP167,140に隣接する。確認面の長軸は1.29m、短軸1.10m、面積1.09㎡、底面の長軸1.09m、短軸0.90m、面積0.78㎡、最大深0.43mを測る。
確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面に円形で黒褐色土の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ明茶褐色の覆土と明瞭な底面を検出し、規模と形状から土坑と判断した。
堆積状況　単純な自然堆積を観察したが、下層の覆土である明茶褐色土がしまりよくかたいため人為的な埋積の可能性が考えられる。
構造　平面形は円形である。底面は平坦であり、壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　時期決定可能な遺物が出土していないが、縄文時代中期の土坑の可能性が強い。
（藤井）

CP26（図139掲載）
位置・規模　G70　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面長軸（1.70）m、短軸1.52m、面積（3.50？）㎡、底面長軸1.49m、短軸1.33m、面積1.72㎡、最大深0.66m。
確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。南側の舌状の張り出しはＣＰ26より古いものであるが、土層の堆積状態から風倒木痕の可能性が考えられたため土坑として認定しなかった。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。
堆積状況　下位より壁際に堆積する褐色土（土層7）、Ⅳ・Ⅴ層のローム主体とする黄褐色系土（土層3・4・5・6）、黒褐色土（土層2）、茶褐色土（土層1）の順に堆積する人為堆積土。土層3中には土層4の黒褐色土が挟在していた。平面的広がりをつかむ事はできなかったが、しまりが他の層に比べ非常に弱かった。人為堆積土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層の黒色土が自然堆積していた。
構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
遺物と出土状況　土坑北東側床面近くの土層7から削器（313）が1点出土している。
性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。形態と堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。
（福井）

CP27（図142掲載）
位置・規模　H71 調査区ほぼ中央の平坦面に位置する。確認面の長軸0.69m、短軸0.61m、面積0.33㎡、底面の長軸0.37m、短軸0.37m、面積0.11㎡、最大深0.5m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とⅣ層の埋め戻しである暗茶褐色土・茶褐色土である。
構造　平面形はほぼ円形であり、底面は平坦である。壁は東側でほぼ垂直に立ち上がり、西側でやや開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　1層より礫1点、5層より安山岩製の台石・石皿が1点出土した。
性格・時期　周囲の遺構、堆積状況などから縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP30（図154掲載）

位置・規模　F80.81 調査区南側の緩斜面部に位置する。確認面の長軸（1.83）m、短軸1.38m、面積（1.4）㎡、底面の長軸（1.27）m、短軸0.82m、面積（0.71）㎡、最大深0.43m。

確認・調査　表土除去後に黒褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　Ⅲ層の黒褐色土1層である。

構造　風倒木による撹乱を受けているが、平面形は楕円形で浅皿状と推定される。

遺物と出土状況　覆土・底面より5cm～30cm大の安山岩の礫が10点出土した。

性格・時期　形態より縄文時代後期の土坑墓の可能性がある。（菊池）

CP40（図171掲載）

位置・規模　L91 下段段丘面の西端平坦面に立地する。CH29、CP63に隣接する。確認面の長軸は1.48m、短軸1.23m、面積1.44㎡、底面の長軸1.23m、短軸0.98m、最大深32cmを測る。

確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ後に礫群を検出し、Ⅳ層上面まで周囲を掘り下げた段階で暗茶褐色土の範囲を確認した。

堆積状況　半裁が出来なかったため断面による土層観察が出来なかったが、ローム粒を含む暗茶褐色土が覆土の主体である。

構造　底面は凹凸があり、平坦な部分は少ない。

遺物と出土状況　安山岩の礫群がⅢ層中から底面にかけて出土した。平面分布はやや南に偏りがある。

性格・時期　時期決定可能な遺物が出土していないが、礫群の状態から縄文時代後期の配石遺構の可能性が考えられる。（藤井）

CP42（図137掲載）

位置・規模　E67 調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸1.65m、短軸1.51m、面積2.50㎡、底面長軸1.31m、短軸0.86m、面積1.11㎡、最大深0.71m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。四分法により二方向の断面図を作成した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　下位より黄褐色系の土層3・4、黒褐色の土層2、暗褐色の土層1と堆積する。覆土の上面はやや深く凹みⅢ層の黒色土が自然堆積していた。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。坑底中央に斜めに入る掘り込み状のものが見られたが、その下面にグライ土と濃集した褐鉄鉱がみられたことから、根による撹乱と判断した。

遺物と出土状況　Ⅲ層から土器、石器、礫が各1点出土している。覆土では坑底付近からⅣ群とみられる無文の土器片1点が出土している。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP43（図138 写真図版50掲載）

位置・規模　E68 調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸1.72m、短軸1.72m、面積2.83㎡、底面長軸1.11m、短軸0.69m、面積0.57㎡、最大深0.71m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。四分法により二方向の断面図を作成した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　下位より褐色系の土層4・6、暗黄褐色の土層3、漆黒色の土層2、褐色の土層1と堆積する。また土層4と6の層界には厚さ約1.5cmの黒色土（土層5）が堆積しており、平面形は方形を呈していた。覆土の上面はやや深く凹みⅢ層の黒色土が自然堆積していた。

構造　V層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁は中央の一番深いところはほぼ垂直に立ち上がるが、途中段をなしやや緩やかに立ち上がる。ほかに土坑北側には坑口にステップ状の張り出しが見られた。

遺物と出土状況　柱状礫を敲打により調整した礫（602）が土層4中から出土している。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・C P18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP44（図137掲載）

位置・規模　F67.F68　調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸1.87m、短軸1.03m、面積1.87㎡、底面長軸1.18m、短軸0.77m、面積0.92㎡、最大深0.49m。

確認・調査　Ⅳ層上面で楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　暗褐色土が堆積しており、その凹みにレンズ状にⅢ層が堆積している。覆土にはロームブロックも含まれ、人為堆積とみられる。

構造　V層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。平面形は楕円形を呈する。

遺物と出土状況　坑底付近から土器片2点、覆土中から土器片2点が出土している。ほかにⅢ層から礫1点が出土している。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・C P18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP45（図137掲載）

位置・規模　F67.G67　調査区南東側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸0.44m、短軸0.43m、面積0.29㎡、底面長軸0.25m、短軸0.19m、面積0.08㎡、最大深0.25m。

確認・調査　Ⅳ層上面で円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。

堆積状況　暗褐色土が堆積しており、その凹みに鍋底状にⅢ層が堆積している。覆土にはロームブロックも含まれるが、堆積状況からは自然か人為かは判断がつかない。

構造　V層の黄褐色ローム層を掘り込んで、丸底になっている。平面形は円形を呈する。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　不明。（福井）

CP46（図137掲載）

位置・規模　G69　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面長軸1.48m、短軸1.24m、面積2.22㎡、底面長軸1.16m、短軸1.11m、面積1.00㎡、最大深0.60m。

確認・調査　Ⅳ層上面で楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。

堆積状況　黄褐色系土で埋積された人為堆積土。その上面はレンズ状に凹みⅢ層が自然堆積している。

構造　V層を掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物と出土状況　遺物は出土していない。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・C

P18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP47（図139掲載）

位置・規模　H70　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面の長軸0.67m、短軸0.65m、面積0.53㎡、底面の長軸0.58m、短軸0.51m、面積0.23㎡、最大深0.47m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。

堆積状況　下位よりローム主体とする暗褐色土（土層3）、黒褐色土（土層2）、黄褐色土（土層1）の順に埋められた人為堆積土。人為堆積土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層の黒色土が自然堆積している。

構造　V層を掘り込んで、平底になっている。壁は僅かに外開きに立ち上がる。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP50（図141掲載）

位置・規模　F73　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面長軸1.97m、短軸1.68m、面積3.24㎡、底面長軸1.69m、短軸1.48m、面積0.18㎡、最大深0.58m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。四分法で二方向の土層断面図を作成した。

堆積状況　暗褐色土（土層1）に覆われる。暗褐色土上面はレンズ状に凹み、Ⅲ層の黒色土が自然堆積していた。

構造　V層の黄褐色ロームを掘り込んで、レンズ状になっている。壁は緩やかに立ち上がる。坑底のほぼ中央には小ピットがみられた。小ピットは4層に分層される土層に覆われていた。直径約55cm、坑底からの深さ約18cm。

遺物と出土状況　覆土からは出土していない。Ⅲ層から土器はⅢ群とⅣ群の小破片が1点ずつの2点、礫2点が出土している。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP9・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP51（図149掲載）

位置・規模　P・Q76　CH33の覆土を掘り込んで構築されている。確認面の長軸1.72m、短軸1.24m、面積1.63㎡、底面の長軸1.24m、短軸0.83m、面積0.95㎡、最大深0.22mを測る。

確認・調査　Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みを検出し、範囲を確認した。CH33との切り合い関係と覆土の堆積状況を確認するため両遺構にまたがるトレンチ調査をおこなった。確認後、土坑を半截して調査をおこなった。

堆積状況　覆土は、上位から中位にローム粒とロームブロックを含む暗黄褐色土と暗褐色土（1～4層）が、坑底直上から南側壁にかけては粘性のやや強い黒褐色土（5層）が堆積していた。全て人為的な埋め戻し土と考えられる。遺物取上げ層位は、覆土に関しては全て「覆土」とした。

構造　平面は楕円形で、坑底は平坦面になっている。壁はやや緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　層位毎の出土点数は、覆土（土器45点、石器3点、礫3点）である。土器はⅢ群とⅣ群、石器はRフレイクなどが、覆土から出土している。

性格・時期　縄文時代後期中葉の土坑で、CH33より新しいと判断される。（坂本）

CP60（図170掲載）

位置・規模　K88　段丘下段の平坦面に立地し、CP65,CH27に隣接する。確認面の長軸は0.66m、短

軸0.59m、面積0.32㎡、底面の長軸0.55m、短軸0.44m、面積0.21㎡、最大深20cmを測る。
確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ時に土器の集中出土を確認し、1個体と判断してから周辺をⅣ層上面まで掘り下げ、黒褐色土の円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ、土器片は覆土中位にまで見られた。
堆積状況　ロームブロックが多く混入した暗黄褐色土が覆土の主体であるが、細かな堆積に細分される。
構造　底面は平坦で立ち上がりは緩やかである
遺物と出土状況　石器類の出土はなく、Ⅲ群A類の深鉢（底部のみ、土器171）が復原された。
性格・時期　覆土出土の復原個体から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の埋設土器である。（藤井）
CP61（図171掲載）
位置・規模　L86　段丘下段の平坦面に立地し、CH27に切られる。確認面の長軸は0.47m、短軸0.30m、面積0.15㎡、底面の長軸0.2m、短軸0.16m、最大深0.16mを測る。
確認・調査　CH27の壁面検出時に、Ⅲ層の掘り下げによって黒褐色土の範囲を確認し、倒立する土器個体を伴うことを確認することが出来た。埋設土器を伴う土坑として半裁し掘り下げた。
堆積状況　覆土は黄褐色ローム粒が含まれる灰白色粘土が主体である。土器内には黒褐色の粘土が含まれていた。
構造　底面は平坦で、壁面の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　覆土中に礫が3点認められ、また埋設土器はⅢ群A類の深鉢（土器169）として復原された。
性格・時期　復原個体より縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の埋設土器である。　（藤井）
CP62（図170掲載）
位置・規模　M87　段丘下段の平坦面に立地し、CH27と近接する。確認面の長軸0.79m、短軸0.72m、面積0.45㎡、底面の長軸0.60m、短軸0.53m、面積0.27㎡、最大深25cm。
確認・調査　CH27の調査時にⅣ層上面で確認され、CH27に付属するものとして半截して掘り下げた。出土土器により、直接伴うものではないことが明らかになった。
堆積状況　覆土の堆積は単純で、5層に細分された。炭化物、焼土粒を含む暗茶褐色土が覆土の主体である。
構造　底面は平坦であるがわずかに傾斜が見られる。壁面は明瞭で立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　覆土中層よりⅢ群A類の土器片を一括でとりあげた。磨耗しているものが多く、結束2種羽状縄文の底部破片が見られた。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。　（藤井）
CP63（図171　写真図版50掲載）
位置・規模　N91　段丘下段の平坦面に立地し、CH29、CP40に隣接する。確認面の長軸は0.81m、短軸0.65m、面積0.47㎡、底面の長軸0.56m、短軸0.4m、最大深16cmを測る。
確認・調査　CH029の調査時に配石状の石組みを検出し、暗赤褐色の覆土を確認した。CH029のトレンチを延長して堆積状況を調査した。
堆積状況　浅い掘り込みの単純な堆積で、暗赤褐色土が覆土の主体である。下層との境が不明瞭であった。
構造　底面は緩やかな丸底であり、平坦部分は少ない。壁の立ち上がりも緩やかである。
遺物と出土状況　確認面直下の覆土上層には土器片が多く含まれていた。石組みは円形に配置された

ものが縦に突き刺さる状態で検出された。

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しかったが、縄文時代後期の円形に礫を配置した配石遺構と考えられる。（藤井）

CP65（図170掲載）

位置・規模　L87.88　段丘下段の平坦面に立地し、CH27、CP75に近接する。確認面の長軸は0.94m、短軸0.93m、面積0.60㎡、底面の長軸0.59m、短軸0.50m、面積（0.24）㎡、最大深0.24mを測る。

確認・調査　CH27検出に関わるⅢ層の掘り下げ時に礫2点が出土したため確認された。礫を中心に周囲をⅣ層上面まで掘り下げたところ円形で暗茶褐色土の範囲を検出した。半裁して掘り下げたところ、やや起伏のある底面を検出した。

堆積状況　2層に分層される単純な堆積であった。ローム粒を多く含む暗茶褐色土が主体である。

構造　起伏のある底面から壁面が緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　覆土上面に安山岩の礫が2点出土した。覆土中からは石鏃、削器なども出土したが土器は見られなかった。

性格・時期　時期決定可能な遺物が出土しなかったが、縄文時代中期の遺構の可能性が強い。礫の出土状況から墓坑として使われた可能性も考えられる。（藤井）

CP66（図172掲載）

位置・規模　N90　段丘下段の平坦面に立地し、CH29に隣接する。確認面の長軸は0.71m、短軸0.69m、面積0.38㎡、底面の長軸0.50m、短軸0.47m、面積（0.18）㎡、最大深0.24mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後、遺物が多数出土した範囲に、黒色土主体の覆土を確認した。

堆積状況　単純な堆積であるが、小ローム粒子、礫を含む暗茶褐色土が覆土の主体である。

構造　底面は丸底に近い状態である。

遺物と出土状況　覆土上層でⅢ群とⅣ群の破片が混じった状態であるが、覆土下層ではⅢ群A類が主体を占める。石器は北海道式石冠が1点とRフレイク、剥片、小礫などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状態や北海道式石冠の配置などから墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP68（図138　写真図版51掲載）

位置・規模　O84.85　確認面の長軸0.97m、短軸0.83m、面積0.64㎡、底面の長軸0.77m、短軸0.59m、面積0.34㎡、最大深46cm。

確認・調査　Ⅲ層の黒色土下層中に礫群が検出され、その周囲を精査したところ、Ⅳ層上面にて円形で暗茶褐色土の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ、覆土下層からも礫群が検出された。

堆積状況　覆土上層に11個、覆土下層に6個の礫をともなうため。底面に至るまでわずかな隙間に暗茶褐色土が充填された状態で堆積している。

構造　平面形はやや楕円形を呈し、底面は平坦である。壁面はやや不明瞭ではあるが緩やかに立ち上がる。

遺物と出土状況　礫群の安山岩礫、礫岩のみである。

性格・時期　時期決定可能な遺物が見られなかったが、縄文時代後期の土坑である。配石を伴うことから墓壙の可能性も考えられる。（藤井）

CP69（図162掲載）

位置・規模　I82　調査区西側緩斜面最末端部、急斜面直上に立地し、AH19の範囲内に位置する。CP164、179を切る。確認面の長軸は1.36m、短軸1.04m、面積1.13㎡、底面の長軸1.32m、短軸1.04m、

面積1.09㎡、最大深0.4mを測る。

確認・調査　AH19範囲確認のためのⅢ層掘り下げ時に円形で黒褐色土の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ覆土上層からⅣ群B類の土器片が底面に向かって流れ込むように出土した。

堆積状況　Ⅲ層由来の暗茶褐色土が覆土の主体で自然堆積によるものと判断した。

構造　底面はV層中につくられ平坦である。壁は一部CP164の覆土中につくられていたが明瞭で、立ち上がりは垂直である。

遺物と出土状況　覆土中からⅣ群B類の深鉢（土器80）が「集中破片（2）」の状態で出土した。口縁部の全周欠損が特徴である。

性格・時期　覆土出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期の土坑である。　（藤井）

CP70（図172掲載）

位置・規模　N90　段丘下段の平坦面に立地し、CH29に隣接する。　確認面の長軸0.8m、短軸0.72m、面積0.45㎡、底面の長軸0.48 m、短軸0.45m、面積0.15㎡、最大深0.36mを測る。

確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ後、Ⅳ層上面にて小礫混じりの暗茶褐色土の円形範囲を確認した。半裁して掘りさげたところ約30cmほどの掘り込みを検出した。底面付近には北海道式石冠やすり石などが見られた。

堆積状況　小ローム粒子を多く含む明茶褐色土が覆土の主体である。人為的な埋積の可能性が強い。

構造　平面形は円形である。底面は平坦部分がわずかであり、壁の立ち上がりは急である。

遺物と出土状況　覆土中にⅢ群A類の土器片とすり石、北海道式石冠が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。礫の配置や覆土の状態から墓壙として利用された可能性が考えられる。　（藤井）

CP71（図172掲載）

位置・規模　N91　段丘下段の平坦面に立地し、CH29に隣接する。調査区境界に位置したため、50%のみを調査した。確認面の長軸（0.75）m、短軸0.86m、面積（0.55）㎡、底面の長軸（0.64）m、短軸0.60m、面積（0.18）㎡、最大深0.47m。

確認・調査　CH29の精査の際、Ⅳ層下部の黄褐色ローム土中に、暗茶褐色土の覆土の範囲と、土器主体の遺物集中出土が確認された。

堆積状況　覆土は暗茶褐色土に小礫が混じる単純な堆積である。

構造　V層の黄褐色ローム土に平坦な底面がつくられている。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　覆土上位から中位にかけて集中的な出土がみられた。その中で、集中破片（2）の状態でⅢ群A類の深鉢（土器172）が出土した。

性格・時期　Ⅲ群A類の土器が覆土中から出土していることから、縄文時代中期前葉の土坑と考えられる。性格の詳細は不明である。　（藤井）

CP73（図154　写真図版51掲載）

位置・規模　K79.K80　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面の長軸2.33m、短軸2.16m、面積3.98㎡、底面の長軸2.12m、短軸2.03m、面積3.07㎡、最大深0.37m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　下位から暗黄褐色の土層4、暗褐色の土層3、暗黄褐色の土層2、暗褐色の覆土1が堆積していた。含有物から人為堆積とみられる。なお、土層4はロームブロックを多く含み、かつ坑底の

段を堆積するように堆積していたため掘り方と考えられる。
構造　V層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器31点、石器17点、礫9点〉、覆土1〈土器10点、石器17点〉、覆土2〈土器1点、石器2点〉、覆土3〈土器89点、石器7点、礫1点〉、覆土4〈土器6点、石器2点、礫1点〉、坑底〈石器7点〉。石器の内訳は、Ⅲ層〈石核1点〉、覆土1〈石鏃1点〉、覆土3〈石核1点〉、坑底〈石錐1点〉。

土層3上面より大型礫と個体に復元された深鉢土器が2個体分出土した。土器の内1個体（土器167）は半完形で、もう1個体（土器148）はAH16、CP82、L80、P84、P81、Q81出土土器と接合したが、大半は本土坑から出土したものである。覆土1からは黒曜石の剥片が13点出土している。このほか計41点の黒曜石が本土坑から出土しているが、この点数は土坑の中で最も多く、次に多いCP82の19点に次ぐものである。なお坑底からは石錐（119）が1点出土している。
性格・時期　縄文時代後期前葉の土坑である。堆積状況と遺物出土状況から土坑墓と考えられる。
（福井）

CP75（図170掲載）
位置・規模　L87.M87　段丘下段の平坦面に立地し、CH27の覆土を切る。確認面の長軸0.66m、短軸0.52m、面積0.23㎡、底面の長軸0.23m、短軸0.23m、面積0.03㎡、最大深36cm。
確認・調査　CH27の覆土を掘り下げた途中で、茶褐色土の中に黒褐色土の覆土の範囲を確認した。
堆積状況　単純な自然堆積であり、壁から崩れ落ちた小礫を数多く含んでいる。
構造　尖底をつくっている。壁は緩やかに立ち上がる。
遺物と出土状況　遺物はみられなかった。
性格・時期　CH27を切ることから、縄文時代後期中葉以降の土坑と考えられる。　（藤井）

CP76（図140　写真図版51掲載）
位置・規模　O69　調査区東側やや北寄りの平坦面部分に立地し、AH1、BH23、CH30の中間に位置する。確認面の長軸は1.03m、短軸0.41m、面積0.49㎡、底面の長軸0.26m、短軸0.25m、面積0.05㎡、最大深41cmを測る。
確認・調査　立石（NO.3）を中心にⅣ層上面まで掘り下げ明茶褐色土の範囲を確認した。トレンチ調査により、2つのピットの重複が明らかになった。
堆積状況　覆土の堆積は細かく、やや複雑で、ローム粒子と黒色土の混土が主体である。
構造　2箇所のピットの重複であるが、東側の小ピットが主体である。平面形は円形で、底面はやや丸底に近い。壁の立ち上がりは本来垂直であると思われる。覆土上面には安山岩の礫が突き刺さるようなかたちで出土した。
遺物と出土状況　覆土上層に安山岩の立石と横倒状態でⅣ群A類の小型深鉢（土器145）が出土した。
性格・時期　覆土中の遺物から縄文時代後期前葉、Ⅳ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状況や立石、横倒状態の土器などから墓坑の可能性が高いと思われる。　（藤井）

CP77（図140　写真図版51掲載）
位置・規模　O70　調査区東側やや北寄りの平坦面部分に立地し、AH1に近接する。確認面の長軸は0.52m、短軸0.41m、面積0.18㎡、底面の長軸0.18m、短軸0.18m、面積0.02㎡、最大深0.3mを測る。
確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた段階で下層部分に安山岩の立石を確認した。立石の周囲を精査したところ、円形で黒褐色土の範囲を確認し、半裁して掘り下げた。
堆積状況　やわらかい黒褐色土を主体とする単純な堆積の覆土である。

構造　平面形は円形である。底面はわずかであるが丸底に近い。覆土上層には二つの礫片が突き刺さり、立石になっている。

遺物と出土状況　立石の礫以外にはⅣ群の土器片と剥片、石核などが出土した。

性格・時期　時期決定可能な遺物は乏しいが、縄文時代後期の土坑である。また、立石を伴うことから墓壙として利用された可能性も考えられる。（藤井）

CP78（図139掲載）

位置・規模　F70　調査区南東側の非常に緩やかな斜面上に位置する。確認面の長軸1.34m、短軸0.98m、面積1.27㎡、底面の長軸1.25m、短軸0.86m、面積1.03㎡、最大深0.38m。

確認・調査　AH５床面で長方形を呈する掘り込みを確認。同住居のHP４に壊されることから、単独の土坑で、AH５に壊されたものと考えられた。半裁法で調査した。

堆積状況　褐色土のみ堆積していたが、上位層は良くしまりロームブロックも多いことから、AH５構築時に床面を整地した層とみられた。下位層は人為堆積土とみられる。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物と出土状況　遺物は出土していない。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。堆積状況から土坑墓と考えられる。またMP９・10・CP18・19・20・21・26・42・43・44・46・50・78・157・163・120による墓域を形成しているとみられる。（福井）

CP79（図166掲載）

位置・規模　M82.N82　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地する。確認面の長軸は1.37m、短軸1.19m、面積1.20㎡、底面の長軸1.22m、短軸1.10m、面積1.01㎡、最大深0.21mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後のⅣ層上面で暗茶褐色土の円形の範囲と集中破片状態の土器を確認した。半裁して掘り下げたところ約20cmほどの浅皿状の掘り込みを確認した。

堆積状況　暗茶褐色土の単純な堆積である。

構造　平面形は円形である。底面はⅤ層中につくられ、平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。Ⅲ群A類の土器の集中破片は覆土上面に伴う。

遺物と出土状況　結束１種の胴部片に撚糸文の土器片４点がⅢ層中から出土した。覆土からはⅢ群A類の土器が主体を占めた。石器の出土は見られなかった。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。性格の詳細は不明である。（藤井）

CP80（図166掲載）

位置・規模　N82　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、BH26を切る。確認面の長軸は1.81m、短軸1.57m、面積2.20㎡、底面の長軸1.43m、短軸0.89m、面積1.03㎡、最大深0.68mを測る。

確認・調査　BH26の範囲確認時にⅣ層上面で、楕円形の明茶褐色土の範囲を確認した。トレンチ調査により掘り下げたところ約60cmほどの掘り込みを検出した。

堆積状況　黒色土以下は細かく細分され、やや複雑な堆積となっている。暗黄褐色土と黒色土が入り混じった堆積が覆土の主体で、底面にはかたくしまったロームと黒色土との混土が覆っている。人為的な堆積の可能性が強いと思われる。

構造　平面形は楕円形である。底面の平坦部分は少なく、壁の立ち上がりは上層に向かって広がり緩やかである。

遺物と出土状況　覆土中からはⅢ群A類の土器片が出土した。石器は削器と礫が出土した。

性格・時期　重複関係によりBH26よりも新しい、縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。

覆土の堆積状態から墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP81（図150掲載）

位置・規模　F77　調査区中央南寄りの緩斜面中部に立地し、CP83.84.116.125に隣接する。確認面の長軸は1.38m、短軸1.04m、面積1.22㎡、底面の長軸1.03m、短軸0.83m、面積0.70㎡、最大深0.40mを測る。

確認・調査　Fグリッドラインのトレンチ調査により、暗茶褐色土の落ち込みとして確認された。トレンチにより掘り下げたところ、約40cmほどの掘り込みが検出された

堆積状況　Ⅲ層由来の黒色土以下は細かく分層される複雑な堆積であるが、小ローム粒子を多く含む暗茶褐色土が覆土の主体である。人為的な堆積の可能性も考えられるが、斜面堆積の影響も大きい。

構造　平面形は楕円形である。底面には平坦な部分は少なく凸底に近い。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　土器はⅢ層と覆土中から4点の破片が出土した。全て縄文後期のもので、底部片には台付きのものも見られた。石器類では礫が3点出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期の土坑である。堆積状態からは人為的に埋積された可能性も考えられるが詳細は不明である。（藤井）

CP82（図167　写真図版51掲載）

位置・規模　P84.Q84　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、AH2、AH10、CH32の中間に位置する。確認面の長軸は2.95m、短軸2.37m、面積5.54㎡、底面の長軸2.69m、短軸2.10m、面積4.65㎡、最大深0.48mを測る。

確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ後、Ⅳ層の上面にて黒褐色土の楕円形の範囲を確認した。この範囲をもとに土層ベルトを十字に設定して掘り下げたところ、約40cmほどの掘り込みを検出した。また中央部の底面付近からは炭化物の集中も検出された。

堆積状況　覆土の堆積は細かく分層され、複雑な堆積を呈している。主体は暗茶褐色土であるが、部分的に暗黄褐色土や黒褐色土が混入する混土状態である。底面には炭化物の堆積が見られる。

構造　平面形は南北が長軸の楕円形である。底面はやわらかいV層中につくられ、平坦である。壁面は不明瞭であるが立ち上がりはやや急である。底面の中央部分には炭化物集中が伴う。

遺物と出土状況　覆土中にはⅢ群B類の土器片が主体を占める。石器は石鏃、削器、楔形石器、北海道式石冠（原材）、剥片、礫などが出土した。また、中央部の炭化材集中を含む土壌中には炭化種子同定により多量のオニグルミが含まれていることが明らかになった。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期後葉、Ⅲ群B類の時期の土坑である。覆土の堆積状態から墓壙として利用され、中央部の炭化物層が遺体層である可能性も考えられる。（藤井）

CP83（図151　写真図版52掲載）

位置・規模　F77.78　調査区中央南側の緩斜面中部に立地し、CP84と重複する。確認面の長軸は2.51m、短軸2.29m、面積4.66㎡、底面の長軸2.35m、短軸2.18m、面積3.96㎡、最大深0.6mを測る。

確認・調査　Fグリッドラインのトレンチ調査により、暗茶褐色土の落ち込みの一部が確認され、Ⅳ層上面の精査により円形の範囲を検出した。トレンチ調査により掘り下げたところ、約40cmほどの掘り込みが検出された。

堆積状況　覆土上面は地形に沿って大きく傾斜するが、覆土内は平坦な底面に沿った堆積である。細かく分層され複雑な堆積となったが、小ローム粒子を含む明茶褐色土と暗黄褐色土が覆土の主体であり、人為的な堆積である可能性が考えられる。また北側壁際にはマウンド状の暗黄褐色土も確認され

た。

構造　CP84との重複部分はトレンチにより不明であるが、平面形はほぼ円形である。底面はV層中につくられ、平坦であるがやわらかい。壁も不明瞭であるが緩やかな立ち上がりである。

遺物と出土状況　覆土下層において安山岩の礫が2つ並んで出土し、同じレベルで炭化物の集中、Ⅲ群B類の深鉢（土器189）が横倒し状態で出土した。土器189は半面のみが残存していた。土器は小破片のみの42点が出土し、そのうち27点は土器189として復元できた。覆土中にⅢ群とⅣ群の土器片が混合した状態で、底面からは出土していない。石器類は覆土中の礫のみである。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期後葉、Ⅲ群B類の時期の土坑である。土器の出土状態、覆土の堆積状態を考慮すると墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP84（図151掲載）

位置・規模　F77.78　確認面の長軸0.61m、短軸（0.30）m、面積（0.15）㎡、底面の長軸0.43m、短軸（0.24）m、面積（0.08）㎡、最大深20cm。

確認・調査　Fグリッドラインのトレンチ調査により、暗茶褐色土の落ち込みとして確認された。トレンチにより掘り下げたところ、約40cmほどの掘り込みが検出された

堆積状況　小ローム粒子を少量含む暗茶褐色土が覆土の主体であり、自然堆積によるものである。

構造　トレンチにより失われているが、平面形は円形である。底面はV層中につくられ、平坦面は少ない。壁面の立ち上がりは明瞭ではあったが緩やかである。

遺物と出土状況　遺物は出土していない

性格・時期　遺物が出土していないが、位置、形状により縄文時代中期の土坑である。（藤井）

CP86（図153　写真図版52掲載）

位置・規模　J78.K78　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸1.97m、短軸1.76m、面積2.76㎡、底面長軸1.52m、短軸1.51m、面積1.05㎡、最大深0.66m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認し、半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。また「覆土」として取り上げたものは覆土1から出土したもの。

堆積状況　土層断面図右側の土層6・7・8・9及び土層4・5にはクロボクブロック、ロームブロックがみられ、しまりも弱いことから風倒木による撹乱土と考えられる。それらを切った土坑の坑底に黒色の土層12が堆積し、それを覆って暗黒褐色の土層11、黒色の土層10、暗褐色系の土層1・3が堆積する。人為堆積とみられる。

構造　V層の黄褐色ロームを掘り込んで、ほぼ平底になっている。壁はやや急に立ち上がるが、凹凸が見られ、土坑の平面形態もゆがみがあることから風倒木痕の凹みを利用した可能性が考えられる。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層で土器11点、覆土1で土器25点、石器5点、礫2点、覆土10で土器13点、礫2点、坑底で土器3点である。

土層12上面より細長い礫（614）と土器の破片が出土した。土器はほぼ完形に復元されたが、ばらばらに壊してから礫の周りに大半の破片を置き、底部と最大の口縁～胴部破片はそれらとやや離れた位置に置いている。礫は自然礫であるが、男根形を思わせる凹凸がみられるものである。また黄白色の粘土もみられた。なお、覆土1から削器が一点出土している。

なお、坑底の土層12を採取し、フローテーション法で炭化種子を選別した結果、21点以上のクルミ核細片が検出された。

性格・時期　縄文時代後期中葉の土坑とみられる。堆積状況、遺物の出土状況から土坑墓とみられる。

（福井）

CP87（図158掲載）

位置・規模　N79.80　調査区西側の緩斜面中部に立地する。AH16、AH12、AH13の中間に位置し、CP88を切る。確認面の長軸は1.27m、短軸1.25m、面積1.31㎡、底面の長軸1.14m、短軸1.12m、面積1.07㎡、最大深0.44mを測る。

確認・調査　CP88の範囲確認時に検出された。半裁して掘り下げたところ0.44mほどの掘り込みが検出され、一部CP88の覆土上につくられている部分がある

堆積状況　黒色土粒を含む暗黄褐色土を主体とする覆土であるが、細かく細分され、人為的な堆積の可能性がある。

構造　平面形は円形で、底面はV層とCP88覆土中につくられ平坦である。壁は明瞭で垂直な立ち上がりである。

遺物と出土状況　土器は、覆土中からⅢ群とⅣ群の小破片が入り混じって出土し、石器は剥片や礫が出土した。

性格・時期　覆土中の遺物と遺構の重複関係から縄文時代中期の土坑である。覆土の堆積状態から墓壙として利用された可能性も考えられる。（藤井）

CP88（図157　写真図版52掲載）

位置・規模　N80　調査区西側緩斜面中部に立地し、AH16、CP87、CP114に切られる。確認面の長軸は（2.04）m、短軸1.92m、面積（3.20）㎡、底面の長軸（1.89）m、短軸1.73m、面積（2.69）㎡、最大深0.4mを測る。

確認・調査　AH16の調査時に壁面にて黒褐色土の落ち込みを確認し、Ⅲ層の掘り下げ後、Ⅳ層中で黒褐色土を主体とする明瞭な円形のプランと重複関係を確認した。半裁して掘り下げたところ、安山岩礫、土器片、炭化物が入り混じる覆土と40cmほどの掘り込みを検出した。

堆積状況　覆土の堆積は単純で上層の黒色土とローム混じりの暗黄褐色土に大別でき、層界もきわめて明瞭である。暗黄褐色土は人為的に一度に埋積されたことがうかがえ、その上に土器と礫がおかれている。

構造　平面形は楕円形である。底面はV層中につくられ平坦である。壁面は明瞭であり、急な立ち上がりである。暗黄褐色土で埋積されその上に土器、礫が配置されている。

遺物と出土状況　土器は覆土の暗黄褐色土上面にⅢ群A類の深鉢（土器173）が集中破片（1）の状態で出土した。破片は扁平礫によって押しつぶされるようなかたちで出土した。石器は暗黄褐色土上面に剥片や小礫、削器、石鏃などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状況や遺物の出土状況から墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP89（図160掲載）

位置・規模　O82　調査区緩斜面部に立地し、AH11に切られる。確認面の長軸0.77m、短軸0.63m、面積0.38㎡、底面の長軸0.51m、短軸0.50m、面積0.20㎡、最大深0.39mを測る。

確認・調査　AH11の壁検出時に断面を確認し、Ⅳ層上面によりプランを検出した。

堆積状況　覆土は細別可能な堆積で、ローム粒と黒色土粒との混土が主体である。

構造　底面は平坦であり、壁の立ち上がりが緩やかである。

遺物と出土状況　覆土上層にあたるⅢ層に土器の小破片が6点散見された。全てⅢ群のものと思われる。

性格・時期　覆土中のⅢ群の土器片から縄文時代中期の土坑である。　（藤井）

CP90（図160　写真図版52掲載）

位置・規模　M82.83　調査区やや北側の緩斜面に位置する。確認面の長軸1.84m、短軸1.65m、面積2.51㎡、底面の長軸1.50m、短軸1.14m、面積1.56㎡、最大深0.8m。

確認・調査　Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、東側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土は主に黒褐色土（Ⅲ層）と複雑に堆積にしたロームの混入する暗茶褐色土・暗黄褐色土であり、埋め戻しによる堆積である。

構造　平面形はほぼ隅丸長方形であり、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群3点（B類1点）、Ⅳ群4点、剥片2点、底面から剥片1点が出土した。

性格・時期　周囲の遺構と形態より縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP91（図168　写真図版52掲載）

位置・規模　P84　調査区緩斜面の末端部分に立地し、CH32に切られる。確認面の長軸は0.98m、短軸（0.85）m、面積（0.63）㎡、底面の長軸0.86m、（0.74）短軸m、面積（0.50）㎡、最大深0.46mを測る。

確認・調査　CH32の壁検出時に断面と礫群を確認し、Ⅳ層上面により黒褐色土の平面形を確認した。半裁して掘り下げたところ、上層から底面に至るまで礫を含んだ約40cmほどの掘り込みを検出した。

堆積状況　覆土の堆積は単純であり、暗黄褐色土が主体を占める。

構造　平面形は円形であり、Ⅴ層中の底面は平坦である。壁の立ち上がりはやや急である。安山岩の礫は覆土の上層と底面に配置されている。

遺物と出土状況　土器が出土していないが、安山岩の礫の中には台石が見られた。

性格・時期　時期決定可能な遺物が見られないが、位置と重複関係により縄文時代中期の礫を伴う土坑である。礫の出土状況からは配石を伴う墓壙の可能性も考えられる。　（藤井）

CP92（図168掲載）

位置・規模　P84　調査区西側北寄りの緩斜面の末端部分に立地し、CH32に切られる。確認面の長軸は0.68m、短軸（0.43）m、面積㎡（0.25）、底面の長軸0.47m、短軸（0.36）m、面積（0.14）㎡、最大深0.28mを測る。

確認・調査　CH32範囲確認の際に南壁面にて確認し、Ⅲ層を掘り下げⅣ層上面にて円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ、約30cm程の掘り込みを検出した。

堆積状況　暗黄褐色土を主体とする単純な堆積である。

構造　平面形は円形で、床面はやわらかいⅤ層中で平坦なつくりになっている。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　遺物の出土は見られなかった。

性格・時期　時期決定可能な遺物が見られなかったが、位置や形状から縄文時代中期の土坑である。性格の詳細は不明である。　（藤井）

CP93（図168　写真図版53掲載）

位置・規模　N83.84.O83.84　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、CH32に切られる。確認面の長軸は1.81m、短軸1.60m、面積2.18㎡、底面の長軸1.60m、短軸1.38m、面積1.71㎡、最大深0.9mを測る。

確認・調査　CH32範囲確認の際に南壁面にて確認し、Ⅲ層を掘り下げⅣ層上面にて円形の範囲を確

認した。半裁して掘り下げたところ、CH32の床面よりも深い約90cmの掘り込みを検出した。覆土中位には炭化物の集中も見られた。

堆積状況　上層の黒褐色土以下はかなり細かく分層が出来、複雑な堆積となった。小ローム粒子を多く含む暗茶褐色土と暗黄褐色土が覆土の主体であり、一部これに黒色土が混入する。人為的な堆積の可能性が強いと思われる。

構造　平面形は円形である。底面はⅤ層のハードローム中につくられ、明瞭で平坦である。壁も明瞭で立ち上がりは急である。

遺物と出土状況　遺物が少ない点が特徴である。出土分布は覆土中位の炭化物周辺に限定され、Ⅲ群の土器片と礫のみである。

性格・時期　重複関係及び少ない出土遺物より縄文時代中期、Ⅲ群の時期の土坑である。覆土の堆積状態から炭化物層を上面とする墓壙である可能性が考えられる。（藤井）

CP96（図168掲載）

位置・規模　P83.84　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、CH32に近接する。確認面の長軸は0.66m、短軸0.64m、面積0.33㎡、底面の長軸0.24m、短軸0.20m、面積0.03㎡、最大深0.4mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後、覆土上面に安山岩の礫を確認した。周囲を精査し黒褐色土の円形範囲を検出した。半裁し掘り下げたところ底面に石冠が出土し、約40cmの掘り込みを検出した。

堆積状況　やや細かく分層されたが、ロームを含む暗茶褐色土が覆土の主体である。

構造　平面形は円形である。底面の平坦部分はわずかである。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　Ⅳ群の土器片が1点、石器は上面の礫1点と底面付近に北海道式石冠が2点である。

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいものの、位置や形状から縄文時代中期の土坑である。礫の配置や覆土の堆積から墓壙として利用されていた可能性が考えられる。（藤井）

CP98（図159　写真図版53掲載）

位置・規模　H81.82　調査区西側南寄りの緩斜面下部に立地し、AH20、AH19に隣接する。確認面の長軸は2.83m、短軸1.92m、面積4.44㎡、底面の長軸1.46m、短軸1.30m、面積1.48㎡、最大深0.112mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後のⅣ層上面で、円形で黒褐色の範囲を検出した。この範囲をもとに十字にベルトを設定し、掘り下げたところ覆土上層で安山岩の礫を確認し、約1mの掘り込みを検出した。

堆積状況　上層から下層まで細かく細分されたが、基本的には黒色土と暗黄褐色土が交互の堆積する互層状になっている。主体はⅤ層ローム土に由来する暗黄褐色土であり、堆積途中で腐植土が形成されたものと理解される。

構造　平面形は楕円形である。底面はⅤ層中につくられ、平坦である。壁は明瞭で立ち上がりは緩やかである。覆土上層の2箇所で安山岩の礫が検出された。

遺物と出土状況　覆土上層の礫の内1点は台石である。石器は石鏃やRフレイク、剥片などが覆土中から出土した。土器はⅢ群とⅣ群が入り混じる。

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいが、縄文時代後期の土坑である。覆土の堆積状況、礫の配置などから墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP100（図153掲載）

位置・規模　J79　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸1.17m、短軸1.03m、面積0.97㎡、底面長軸0.77m、短軸0.84m、面積0.56㎡、最大深0.62m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。また、遺物

取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。
堆積状況　褐色～黄褐色の土層が堆積し、その凹みにⅢ層が自然堆積していた。
構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
遺物と出土状況　覆土中より土器片が7点出土している。またⅢ層から土器1点が出土している。
性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。（福井）

CP101（図153掲載）
位置・規模　J79.K79　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面の長軸0.43m、短軸0.43m、面積0.18㎡、底面の長軸0.39m、短軸0.28m、面積0.11㎡、最大深0.28m。
確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。
堆積状況　褐色系の土層が堆積していた。
構造　Ⅴ層を掘り込むが、坑底は安定しない。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　縄文時代の土坑とみられる。詳細な時期、性格は不明。（福井）

CP102（図169　写真図版53掲載）
位置・規模　P86　調査区北側の急斜面に位置し、ＡＨ２に隣接する。確認面の長軸1.48m、短軸1.17m、面積1.32㎡、底面の長軸1.37m、短軸1.00m、面積1.13㎡、最大深0.68m。
確認・調査　Ⅲ層の調査においてプランを確認し、西側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土はⅣ層の埋め戻しである茶褐色土・暗茶褐色土と、Ⅴ層の埋め戻しである黄褐色土・暗黄褐色土・黄色土が複雑に堆積する。
構造　平面形はほぼ楕円形、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である
遺物と出土状況　覆土から安山岩製の北海道式石冠4点、安山岩の礫3点、剥片1点が出土した。
性格・時期　覆土の遺物から縄文時代中期に構築された土坑墓と考えられる。（菊池）

CP105・106（図148掲載）
位置・規模　調査区中央の緩斜面上部に立地する。J75（CP105）、確認面の長軸は0.48m、短軸0.44m、面積0.15㎡、底面の長軸0.2m、短軸0.2m、面積0.03㎡、最大深0.28mを測る。I75（CP106）確認面の長軸は0.6m、短軸0.4m、面積0.20㎡、底面の長軸0.32m、短軸0.2m、面積0.07㎡、最大深0.28mを測る。
確認・調査　いずれもⅣ層上面にて円形の暗茶褐色土の範囲を確認し、半裁して掘り下げた。
堆積状況　暗茶褐色土を主体とする覆土である。
構造　平面形はCP106が円形、CP105が楕円形である。Ⅴ層中の底面は平坦で、壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　CP105の覆土にⅢ群の土器片が見られたのみである。
性格・時期　遺物は少ないが縄文時代中期の土坑である。（藤井）

CP107（図140掲載）
位置・規模　K71　調査区中央の平坦面部分に立地する。隣接する遺構はない。確認面の長軸は2.75m、短軸2.06m、面積4.55㎡、底面の長軸2.34m、短軸1.96m、面積3.82㎡、最大深0.41mを測る。
確認・調査　Ⅳ層上面にて暗茶褐色土を主体とする楕円形の範囲と上面の礫を確認した。六分割で土層断面を観察しながら掘り下げたところ、約40cmほどで明瞭な底面が検出された。
堆積状況　Ⅴ層ローム土に由来する暗茶褐色土が覆土の主体である。細かく分層され堆積が数度に分かれてあったことがうかがえ、人為的な堆積の可能性が強い。また底面直上には黒色土が覆われてい

る。

構造　平面形は楕円形である。底面はV層中につくられ平坦である。壁は明瞭で垂直に立ち上がる。また覆土上面には安山岩の礫が配置されている。

遺物と出土状況　Ⅲ層と覆土で遺物が見られた。土器はⅣ群の破片、石器は削器、Rフレイク、剥片などである。覆土上面からは安山岩の礫が出土した。

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいが、縄文時代後期、Ⅳ群の時期の土坑である。また、礫の配置や覆土の堆積状況から墓壙の可能性も考えられる。（藤井）

CP108（図160　写真図版53掲載）

位置・規模　K83.L83　調査区やや西側の緩斜面部に位置し、AH19に隣接する。確認面の長軸2.95m、短軸2.50m、面積6.06㎡、底面の長軸2.82m、短軸2.30m、面積5.18㎡、最大深0.75m。

確認・調査　Ⅲ層の調査においてプランを確認し、東－西と南－北にベルトを設定して掘り下げた。

堆積状況　覆土は主に黄褐色土・暗黄褐色土であり、V層の埋め戻しと考えられる。底面に粘性が強く、炭化材を多量に含んだ黒色土（12層）が堆積する。

構造　平面形はやや楕円形であり、底面は斜面下に向かって若干下がる。壁の立ち上がりは急である。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群123点（A類13点）、楔形石器1点、Rフレイク1点、剥片1点、すり石1点、礫3点、底面より削器1点、Rフレイク1点、剥片2点が出土した。

性格・時期　覆土の遺物から縄文時代中期中葉の時期に構築されたと考えられる。周辺の遺構から墓の可能性がある。（菊池）

CP109（図155掲載）

位置・規模　H79.80　調査区やや南側緩斜面に位置し、AH20に隣接する。確認面の長軸1.37m、短軸（1.23）m、面積（1.34）㎡、底面の長軸0.87m、短軸（0.84）m、面積（0.5）㎡、最大深0.6m。

確認・調査　V層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、撹乱を受けている南東側を半裁し、掘り下げた。

堆積状況　覆土は主に黒褐色土、ローム粒の混入した暗茶褐色土・暗黄褐色土であり複雑に堆積する。1～8層はⅢ・Ⅳ層の流れ込みであり、9～15層は埋め戻しによる堆積と考えられる。

構造　平面形はほぼ円形であり、底面は平坦である。南西側の壁の立ち上がりは急であり、北東側の壁は外反して立ち上がる。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　堆積状況、形態から縄文時代中期の土坑と考えられる。（菊池）

CP110（図148掲載）

位置・規模　I75　調査区中央の緩斜面上部に立地し、CP105,106に隣接する。確認面の長軸は1.8m、短軸1.38m、面積1.94㎡、底面の長軸1.44m、短軸0.76m、面積0.78㎡、最大深0.56mを測る。

確認・調査　Ⅳ層上面にて暗茶褐色土を主体とする楕円形のプランを確認し、Iグリッド列のトレンチに沿って掘り下げた。

堆積状況　緩やかな斜面から流れ込む自然堆積の土層を確認した。

構造　小判形の平面形に対して平坦な底面をつくっている。

遺物と出土状況　遺物の出土はみられなかった。

性格・時期　遺物は伴わないが、位置、形状から縄文時代中期から後期にかけての土坑である。（藤井）

CP111（図149掲載）

位置・規模　O76　調査区北側の緩斜面に位置し、MP1と重複する。確認面の長軸（0.56）m、短

軸0.86m、面積（0.35）㎡、底面の長軸（0.44）m、短軸（0.68）m、面積（0.27）㎡、最大深0.14m。
確認・調査　ＭＰ１の調査後にプランを確認し、東側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　１・２層はⅢ・Ⅳ層の流れ込み、３層は崩落土と考えられる。
構造　平面形は楕円形と推定され、底面は平坦である。壁はやや開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　覆土からⅢ群５点、Ⅳ群１点、剥片１点、底面からⅢ群３点（Ａ類１点）が出土した。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期前半に構築された土坑と考えられる。（菊池）

CP113（図113掲載）
位置・規模　L67　調査区東側の平坦面に立地し、CP119,120に隣接する。確認面の長軸は0.56m、短軸0.52m、面積0.22㎡、底面の長軸0.24m、短軸0.16m、面積0.03㎡、最大深0.48mを測る。
確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ後、Ⅳ層上面にて黒褐色土の楕円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ南側の部分で約50cmほどの掘り込みを検出し土坑と判断した。
堆積状況　黒褐色土、茶褐色土、暗黄褐色土が複雑に入り混じる堆積である。土坑の南側にはローム粒の混じる黒褐色土が堆積していた。
構造　底面はわずかであるが平坦なつくりになっている。壁は明瞭であり、垂直に立ち上がるが上半部分では外側に広がるかたちである。
遺物と出土状況　覆土中に土器がⅢ群、Ⅳ群が入り混じるものの、Ⅳ群A類が主体を占める。石器は剥片、楔形石器、石核などが出土している。
性格・時期　覆土中の遺物から縄文時代後期前葉、Ⅳ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状況からは人為的な埋土がされた可能性もある。（藤井）

CP114（図158　写真図版53掲載）
位置・規模　M79.N79　調査区西側の緩斜面中部に立地し、CP88を切り、AH16に切られる。確認面の長軸は2.08m、短軸1.73m、面積2.81㎡、底面の長軸1.57m、短軸1.12m、面積1.51㎡、最大深0.42mを測る。
確認・調査　AH16の調査時に壁面にて黒褐色土の落ち込みを確認し、Ⅲ層の掘り下げ後、Ⅳ層上面で礫と暗黄褐色土を黒褐色土がとりまくような明瞭な円形のプランを確認した。半裁して掘り下げたところ
堆積状況　Ⅴ層ローム土に由来する暗黄褐色土を主体とする覆土である。覆土中にも礫や炭化物が混入する。細かく細分され、人為的な堆積の可能性が考えられる。
構造　平面形は円形で、底面はⅤ層中につくられ、平坦である。壁面は明瞭で緩やかな立ち上がりである。覆土上面、覆土中、底面にまで安山岩の礫を伴う
遺物と出土状況　覆土中に遺物が多く見られ、土器はⅢ群とⅣ群が入り混じり、石器は頁岩の剥片が出土した。覆土上面には安山岩礫、底面には安山岩の石皿が出土した。
性格・時期　時期決定可能な遺物には乏しいものの、縄文時代後期の土坑であり、覆土の堆積状態や礫の配置などから墓壙として利用されていた可能性が考えられる。（藤井）

CP116（図150掲載）
位置・規模　E77.78　調査区南側の緩斜面に位置し、調査範囲外にかかる。確認面の長軸（1.67）m、短軸2.17m、面積（2.87）㎡、底面の長軸1.23m、短軸1.03m、面積1.08㎡、最大深0.88m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、西側を半裁し掘り下げた。
堆積状況　覆土はⅢ層の黒色土と黄褐色土・暗茶褐色土・暗黄褐色土であり、埋め戻しによる堆積と

考えられる。

構造　平面形は楕円形と推定される。底面は平坦であり、ベンチ状の部分がつくられている。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群３点（A類１点）、Ⅳ群36点（B類４点）、石鏃２点、つまみ付きナイフ２点、削器２点、Rフレイク３点、剥片12点、すり石１点、礫２点、小礫２点が出土した。

性格・時期　覆土の遺物から縄文時代後期中葉に構築された土坑と考えられる。（菊池）

CP118（図146掲載）

位置・規模　Q72　調査区中央平坦面部分の北壁に位置し、CH41を切る。確認面の長軸1.20m、短軸(0.96)m、面積0.79㎡、底面の長軸0.68m、短軸（0.64)m、面積㎡、最大深28cm。

確認・調査　CH41の壁面検出時に暗茶褐色土の覆土を確認し、調査区壁面を利用して掘り下げた。

堆積状況　Ⅲ層由来の暗茶褐色土が覆土の主体である。CH41の覆土よりも明瞭であった。

構造　西側の一部をCH41に切られているものの、壁の立ち上がりは緩やかである。底面は平坦で、かたくしまっている。

遺物と出土状況　土器は数少なく、Ⅲ群とⅣ群の土器が混入した状態で出土し、石器は剥片や礫などが目立つ。

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいが、CH41に切られることとからみて縄文後期中葉以前で縄文中期以降の遺構である。（藤井）

CP119（図135掲載）

位置・規模　K66　調査区東側北寄りの平坦面に立地し、CP120に隣接する。確認面の長軸は0.6m、短軸0.52m、面積0.28㎡、底面の長軸0.52m、短軸0.4m、面積0.18㎡、最大深0.56mを測る。

確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面にて立石を確認した。周囲を精査したところ明茶褐色土の円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ約60cmの掘り込みを確認し、上層の覆土中に安山岩の礫が突き刺さることがわかった。

堆積状況　炭化物、小ローム粒子を含む黒褐色土や茶褐色土が複雑に入り組んだ覆土である。全体的にかたくしまっている。

構造　平面形は円形である。底面も同様であり、V層中につくられ、平坦である。壁面は明瞭で、垂直の立ち上がりである。覆土上面には縦に突き刺さるように安山岩の立石が出土した。

遺物と出土状況　立石にあたる安山岩の礫１点のみである。

性格・時期　時期決定可能な遺物にとぼしいため、縄文時代中期から後期にかけての土坑と考えられる。立石を伴う点と、覆土の堆積に人為的な特徴が見られることから墓壙として利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP120（図135　写真図版53掲載）

位置・規模　J67,K67　調査区東側北寄りの平坦面に立地し、CP119に隣接する。CF16に切られ、CF33を伴う可能性がある。確認面の長軸は1.60m、短軸1.27m、面積1.55㎡、底面の長軸1.37m、短軸0.94m、面積1.09㎡、最大深0.9mを測る。

確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた跡、Ⅳ層上面で焼土と黒褐色土の範囲を確認した。黒褐色土の範囲は南北を長軸とする楕円形を呈していた。半裁して掘り下げたところ、深さ90cmの土坑が明らかになった。

堆積状況　覆土上層の黒色土上にCF16、CF33の２つの焼土ブロックが堆積する。Ⅲ層由来の黒色土以下はローム粒を多く含む暗黄褐色土が覆土の主体である。覆土はかたくしまり、暗黄褐色土と明黄褐色土が交互に堆積する複雑な様相を呈している。覆土中層では焼土の混入が見られ、埋積の途中で

利用されていた可能性も考えられる。

構造　楕円形の平面形で、底面は南側にテラス状の部分が見られるが、概して平坦である。壁は明瞭であり、垂直に立ち上がるが、覆土中位でやや外側に広がる形状である。覆土上面にCF16、CF33が堆積する。

遺物と出土状況　遺物は全く出土していない。

性格・時期　時期決定可能な遺物に欠くため、詳細は不明であるが、形状や堆積状態から縄文時代中期から後期にかけての土坑であると考える。また覆土の堆積状態からは人為的な埋積とそれが数次にわたる可能性があることが考えられる。　（藤井）

CP123（図144掲載）

位置・規模　N73　調査区中央の平坦面部分に立地し、AH 6 に切られる。確認面の長軸は1.08m、短軸（0.60）m、面積（0.52）㎡、底面の長軸0.72m、短軸（0.40）m、面積（0.28）㎡、最大深0.24mを測る。

確認・調査　AH 6 の掘り下げ時に、壁面において黒褐色土の範囲を確認した。Ⅳ層上面で楕円形の範囲を検出し、半裁して掘り下げた。

堆積状況　底面にやわらかい黒褐色土の堆積が見られ、これを自然堆積によりⅢ層が覆う。

構造　緩やかな立ち上がりで平坦な底面が見られた。

遺物と出土状況　覆土中からⅢ群の土器片と剥片が出土した。

性格・時期　出土遺物と重複の関係により縄文時代中期からAH 6 構築の時期の間である。（藤井）

CP124（図144掲載）

位置・規模　N73.O73　調査区中央の平坦面に立地し、AH 6 に切られる。　確認面の長軸は（1.98）m、短軸1.91m、面積（3.17）㎡、底面の長軸（1.87）m、短軸1.61m、面積（2.50）㎡、最大深0.39mを測る。

確認・調査　AH 6 の掘り下げ時に、壁面において黒褐色土の範囲を確認した。Ⅳ層上面では覆土上面で礫を確認し、これを中心にした楕円形の範囲を検出し、半裁して掘り下げた。

堆積状況　礫以下の覆土は暗黄褐色土が主体である。細かく分層され、人為的な堆積の可能性が考えられる。覆土上層の黒色土には焼土が少量含まれ、下層の暗黄褐色土は炭化物や黒色土粒を含む混土である。

構造　平面形は不整形な楕円である。底面はV層中につくられ平坦である。壁面は明瞭で、立ち上がりは緩やかである。覆土上面には礫が3点配置されている。

遺物と出土状況　覆土上面の安山岩礫3点と覆土中のⅢ群の土器片のみである

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期、Ⅲ群の時期である。覆土の堆積状況や礫の配置などから墓壙として利用された可能性も考えられる。　（藤井）

CP125（図147掲載）

位置・規模　E76.77　調査区南側の緩斜面に位置し、ＣＰ132と重複する。確認面の長軸（2.17）m、短軸2.12m、面積（3.66）㎡、底面の長軸（1.70）m、短軸1.88m、面積（2.45）㎡、最大深0.43m。

確認・調査　V層上面で暗黄褐色土の広がりを確認し、東－西と南－北にベルトを設定した。トレンチにおいてＣＰ132と重複していることを確認し、同時に調査した。

堆積状況　覆土は主にローム粒が混入する暗黄褐色土であり、V層の埋め戻しによる堆積と考えられる。

構造　平面形は風倒木に壊されているため判然としないが、ほぼ隅丸長方形と推定される。底面は中

央部で若干深く掘り込まれている。

遺物と出土状況　覆土から剥片1点が出土している。

性格・時期　堆積状況、形態から縄文時代中期の土坑墓の可能性がある。　（菊池）

CP126（図156　写真図版53掲載）

位置・規模　Q80　調査区北西側の緩斜面上に位置する。確認面の長軸1.04m、短軸（0.74）m、面積（0.54）㎡、底面の長軸（0.65）m、短軸（0.56）m、面積（0.28）㎡、最大深0.20m。

確認・調査　Ⅲ層中で配石を検出したことにより確認した。半裁法で調査した。また、遺物取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。

堆積状況　下位より黒褐色の土層2、暗褐色の土層1が堆積していた。

構造　Ⅳ層を掘り込んで、皿状にしている。

遺物と出土状況　覆土から土器14点、石器6点、礫6点が出土した。配石は4点の大型礫からなるが、南側の3点は将棋倒し状に重なっており、立石となっていた可能性も考えられる。南側の1点と北側の1点は台石・石皿であった。石器では敲石が1点出土している。

性格・時期　縄文時代後期の配石遺構である。配石下の掘り込みは浅く土坑墓に伴うものかは不明。CP―134に壊されている。　（福井）

CP127（図146掲載）

位置・規模　Q74　調査区北側のほぼ平坦な面に位置する。確認面の長軸1.07m、短軸0.89m、面積0.74㎡、底面の長軸0.86m、短軸0.74m、面積0.49㎡、最大深0.26m。

確認・調査　Ⅲ層中で配石を検出したことにより確認した。その下位の掘り込みはⅣ層上面で確認した。半裁法で調査した。また、遺物取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。

堆積状況　覆土は褐色土系で、中央の中位に黒色土の土層6が堆積している。いずれもやや しまり、ロームブロックも含有することから人為堆積とみられる。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底にしている。立ち上がりは下部でほぼ垂直に立ち上がり、上部はやや外側に広がる。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層で土器26点、礫1点、覆土で土器24点、石器3点、礫3点。配石は台石・石皿（590）で、土坑中央部から出土した。ほかに覆土中からつまみ付きナイフ（164）が出土している。覆土から出土した土器はほとんどⅣ群であった。

性格・時期　縄文時代後期の土坑である。土坑墓の可能性もある。　（福井）

CP128（図146　写真図版54掲載）

位置・規模　P75.Q75　調査区北側のほぼ平坦な面に位置する。確認面長軸1.88m、短軸1.76m、面積3.04㎡、底面長軸1.61m、短軸1.51m、面積2.12㎡、最大深0.62m。

確認・調査　AH7調査時に、Ⅳ層上面で円形を呈するⅢ層の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。また、覆土として取り上げたものは、遺物番号22は覆土3、他は覆土1から出土したものである。

堆積状況　下位より良くしまる褐色系の覆土3（土層7・8）、暗褐色系の覆土2（土層3・4・5・6）の順に堆積する人為堆積。黒色系の覆土1（土層1・2）としたものは覆土2がレンズ状に凹んだ上に堆積した自然堆積とみられる。土層7中には土層8に似た良くしまる砂質の暗青灰色土がみられた。これらは砂質の礫が風化して土壌化したものの可能性もある。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁はやや急に立ち上がる。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、覆土１〈土器21点、石器16点、礫６点〉、覆土２〈石器134点、礫１点〉。石器の内訳は、覆土１〈敲石・北海道式石冠原材各１点〉、覆土２〈敲石４点、北海道式石冠原材３点〉、覆土３〈削器１点〉。

覆土３上面から炭化材の集中と共に礫多数、敲石４点（509～512）、北海道式石冠原材３点（560～562）が出土している。ほかにⅢ層から流れ込んだとみられる遺物が出土している。

性格・時期　AH７に壊された縄文時代中期の土坑である。堆積状況と覆土中位の遺物から土坑墓と考えられる。覆土３上面採取炭化材の14C年代は4430±40の測定値が得られた。（福井）

CP129（図150　写真図版54掲載）

位置・規模　K77　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸（1.27）m、短軸0.71m、面積0.26㎡、底面長軸（0.90）m、短軸0.56m、面積0.07㎡、最大深0.13m。

確認・調査　Ⅳ層上面で埋設土器の存在を確認した。半裁法で調査した。また、遺物取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。

堆積状況　下位より黒色土の土層２、暗褐色の土層１が堆積している。しまりが弱いが、土器、礫が埋設されることから人為堆積とみられる。

構造　Ⅴ層を浅鉢状に掘り込んでいる。掘り込んだ後、土を埋積し、形態を整えた上で、礫を円形に敷き詰め、その周囲に同一個体の土器片を差し込んでいる。

遺物と出土状況　礫を敷き詰め、その周囲に土器片差し込んでいる。土器片は口縁を地面と直交するように差し込んでいる。土器片は48点あり、ほぼ２個体あるが差し込んでいる土器は同一個体である。礫は９点あり、内５点が被熱している。

なお、覆土１について土壌を採取し、フローテーション法で炭化種子を選別した結果、クルミ核細片が１点検出された。

性格・時期　縄文時代後期中葉の遺構であるが、性格は不明。（福井）

CP130（図153掲載）

位置・規模　K79　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸0.68m、短軸0.59m、面積0.42㎡、底面長軸0.50m、短軸0.59m、面積0.30㎡、最大深0.23m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、円形を呈する覆土の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。また、遺物取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。

堆積状況　暗褐色の覆土が堆積しているが黒土粒を含む。

構造　Ⅴ層を掘り込むが、坑底は凹凸が激しい。

遺物と出土状況　土器片が38点出土している。

性格・時期　構造と土層から縄文時代後期に風倒木痕の凹みへ遺物を廃棄したものとみられる。（福井）

CP131（図134掲載）

位置・規模　N66.O66　調査区東側やや北寄りの平坦面に立地し、CP140に隣接する。確認面の長軸は1.09m、短軸0.89m、面積0.79㎡、底面の長軸0.48m、短軸0.36m、面積0.15㎡、最大深0.32mを測る。

確認・調査　Ⅲ層を掘り下げⅣ層上面にて、土器片が集中して出土した。土器片の周囲を精査したところ楕円形で黒褐色土の範囲を確認した。土器を中心にして半裁したところ、土器片は覆土中に縦に突き刺さる埋設土器であることがわかった。

堆積状況　Ⅲ層由来の黒褐色土が主体である。

構造　すり鉢状の掘り込みで底面には凹凸が見られる。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　埋設土器の状態で一個体が出土した（土器158）。胴部破片が覆土中に縦に突き刺さる形で土坑の中心に向かって落ちていくような状況が確認できた。石器は覆土中に安山岩の剥片が見られた。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑であり、埋設土器である。

（藤井）

CP132（図147　写真図版54掲載）

位置・規模　E76　調査区南側の緩斜面に位置し、ＣＰ125と重複する。確認面の長軸1.10m、短軸0.78m、面積0.68㎡、底面の長軸0.81m、短軸0.50m、面積0.33㎡、最大深0.35m。

確認・調査　Ⅴ層上面でプランを確認し、北側を半裁してＣＰ125と同時に調査した。

堆積状況　覆土は主にローム粒が混入する暗黄褐色土であり、Ⅴ層の埋め戻しによる堆積と考えられる。

構造　平面形は楕円形であり、底面は東側に向かって緩やかに上がって立ち上がる。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　ともに不明であるが、切り合い関係よりＣＰ125より新しい時期に構築された土坑である。

（菊池）

CP133（図154　写真図版54掲載）

位置・規模　K80.L80　調査区西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸1.99m、短軸1.62m、面積2.62㎡、底面長軸1.79m、短軸1.49m、面積2.12㎡、最大深0.53m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈する覆土の落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。

堆積状況　暗黄褐色の土層４（覆土２）、暗褐色の土層３（覆土２）が堆積した後の凹みに黒色系の土層１・２（覆土１）が自然堆積している。土層３・４は人為堆積とみられる。

構造　Ⅴ層の黄褐色ロームを掘り込んで、平底になっている。壁は一部を除きほぼ垂直に立ち上がる。東側の壁は一部オーバーハングしていた。

遺物と出土状況　各層毎の遺物出土点数は、Ⅲ層〈土器39点、石器６点、礫１点〉、覆土１〈土器12点、石器１点、礫５点〉、覆土２〈石器３点、礫２点〉。

覆土１より敲石１点のほか大型の礫が３点出土している。覆土２から石斧片（494）と敲石（513）が出土している。なお、Ⅲ層から石鏃２点、横形石器１点も出土している。

性格・時期　縄文時代中期の土坑とみられる。隣接するCP73と規模・形態とも類似するため、中期後半の土坑墓と考えられる。

（福井）

CP134（図156　写真図版54掲載）

位置・規模　P・Q80　調査区北側の狭い平坦部に立地する。AH８、AH９に隣接し、CP126と切り合い関係を持つ。確認面の長軸（2.29）m、短軸1.95m、面積（2.92）㎡、底面の長軸1.34m、短軸0.88m、面積0.97㎡、最大深0.70mを測る。

確認・調査　Ⅳ層精査時にⅢ層、暗褐色土の落ち込みを検出し、範囲を確認した。長短軸方向で土層観察をおこなうため、市松様に掘削部を区切り、層位毎に覆土を掘り下げた。覆土中より遺物が多出したため、順次取り上げながら調査を進めた。坑底直上で炭化物の密集範囲を検出したため、フローテーション用の土壌採取をおこなった。

堆積状況　覆土は①～③に区分できる。
① 上位の堆積。基本土層であるⅢａ・Ⅲｂ層と暗褐色土（1・2層）。
② 中位の堆積ロームが混じる褐色土（3・3´・5・5´・7・8層）と黒色土・暗褐色土（4・6・9層）の互層。
③ 下位の堆積。ロームブロックと炭化物粒が混じる暗褐色土、褐色土（11・11´層）。
③は極めてしまりの強いものであった。堆積状況と遺物の出土状況から、①は自然堆積層、②は埋め戻し土、③は貼り床と考えられる。遺物の取り上げ層位は、覆土に関しては覆土1と覆土2に分けた。覆土1は1～4´層が、覆土2は5～11´層が該当する。
構造　平面は不整な楕円形である。壁は北西側と南東側で異なる形状となっている。北西側は床から緩やかに立ち上がり、中位にテラス状の平坦部を有したのち急角度に立ち上がり、坑口付近で広がる形状を有する。南東側は床面からやや急角度に立ち上がり、坑口付近で広がる形状である。坑底直上の暗褐色、褐色土（11・11´層）は貼り床の可能性がある。
遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、Ⅲ層（土器9点、石器4点）、覆土1（土器108点、石器35点、礫11点、自然遺物1点）、覆土2（土器7点、石器10点、礫5点）、坑底（土器1点、石器8点、礫1点）である。坑底出土遺物の分類別出土点数は、土器（Ⅲ群1点）、石器（つまみ付きナイフ1点、両面調整石器1点、楔形石器1点、Rフレイク3点、剥片2点）である。
　遺物は中位層に多く検出され、特徴的なものとしては土器46、40㎝大の礫、白色粘土塊などがみられた。46、礫は覆土3層、白色粘土塊は5´層から出土している。また、貼り床と考えられる11・11´層上面には炭化物粒の密集範囲が検出された。
性格・時期　遺物と出土状況から、縄文後期中葉の土坑墓と考えられる。（坂本）

CP135（図132掲載）
位置・規模　M64　調査区東側やや北寄りの平坦面に立地し、CP135と近接する。確認面の長軸は0.49m、短軸0.38m、面積0.15㎡、底面の長軸0.38m、短軸0.29m、面積0.08㎡、最大深0.2mを測る。
確認・調査　Ⅲ層包含層の掘り下げ時に覆土上面に突き刺さるように安山岩の立石が出土した。礫を中心に周囲を精査したところ、楕円形の暗黄褐色土の範囲を確認した。この楕円形のプランをもとに半裁して掘り下げたところ、不明瞭ではあったが起伏のある底面を確認した。
堆積状況　ローム粒、黒色土粒が多く混入した暗黄褐色土が覆土の主体である。しまりがよくかたい。
構造　底面は平坦で不明瞭である。壁の立ち上がりは垂直である。安山岩の礫は覆土上層中に直立する。
遺物と出土状況　遺物は安山岩の礫1点のみである。
性格・時期　時期決定可能な遺物が見られなかったが周辺の遺物分布、遺構の形状などから縄文時代後期前葉、Ⅳ群A類の土坑の可能性が考えられる。また立石を伴う点、覆土に人為的な堆積の特徴が見られることから墓壙の可能性も考えられる。（藤井）

CP136（図155掲載）
位置・規模　P80　調査区北側、緩斜面上に立地する。AH8、AH12、CP134が隣接する。確認面の長軸1.04m、短軸0.90m、面積0.69㎡、底面の長軸0.67m、短軸0.64m、面積0.37㎡、最大深0.58mを測る。
確認・調査　Ⅲｂ層下部からⅣ層上面精査作業時に、大きさ約30㎝の盤状礫をともない、黒褐色土と暗褐色土の円形の落ち込みを検出した。土層観察のため半截して坑底まで掘削し、遺構を確認した。
堆積状況　覆土は①～③に区分できる。

① 上位の堆積。黒褐色、暗褐色の土（1・2層）。
② 中位の堆積。ロームブロックを多く含む褐色、暗褐色の土（3～5層）。
③ 下位の堆積。ロームを主体とする褐色、黄褐色の土（6・7層）。
①は自然堆積、②・③は人為的な埋め戻しと考えられる。遺物の取り上げ層位は、覆土に関しては覆土1～4に分けた。覆土1は1～3層、覆土2は5～6層、覆土3は7層、覆土4は4層に該当する。
構造　平面は円形で、壁は急角度に立ち上がる。
遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、覆土1（土器16点、石器4点、礫2点）、覆土2（土器7点、石器1点、礫4点）である。
　土器は覆土中位、下位からⅢ群A類が主に出土した。石器は覆土上位で台石・石皿とすり石が出土した。
性格・時期　性格は不明である。時期は縄文時代中期中葉と考えられる。（坂本）

BP138（図161　写真図版55掲載）
位置・規模　H83.I83　調査区西側南寄りの緩斜面最下部、急斜面直上に立地し、CP164に隣接する。確認面の長軸は2.20m、短軸1.74m、面積㎡、底面の長軸1.24m、短軸1.18m、面積1.31㎡、最大深0.87mを測る。
確認・調査　急斜面部の掘り下げ時にⅣ層上面にて暗黄褐色土の楕円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ、覆土中から層状に炭化物や焼土が出土し、約80cmほどの掘り込みを検出した。
堆積状況　細かく分層されたが、Ⅴ層ローム土に由来する暗黄褐色土が覆土の主体である。下層においては炭化物が層状に検出され、最下層では焼土と炭化物がブロック状に堆積していた。部分的に黒色土の堆積も見られた。
構造　平面形はやや不整な円形である。底面はⅤ層中で平坦であるが、南側にはテラス状の部分がある。壁の立ち上がりは南側がやや不明瞭であったが急な立ち上がりである。底面上に炭化物と焼土のブロックを伴う。
遺物と出土状況　覆土の上層にⅢ群A類の土器片を伴う。石器は覆土中から削器や剥片が検出された。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状況から墓壙として利用された可能性が考えられ、坑底の炭化物は遺体層に比定できる。（藤井）

CP139（図158　写真図版54掲載）
位置・規模　N79.O79　調査区西側の緩斜面中部に立地し、AH12に切られる。確認面の長軸は（1.99）m、短軸2.04m、面積（3.28）㎡、底面の長軸（1.50）m、短軸1.50m、面積（1.95）㎡、最大深0.47mを測る。
確認・調査　AH12の掘り下げ時に壁面で確認され、Ⅲ層掘り下げ後のⅣ層上面で黒褐色と暗茶褐色の円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げ、深さ40cmほどの掘り込みを検出した。
堆積状況　覆土の堆積は単純であり、黒褐色土が主体である。覆土中位には西側に安山岩の礫が出土し、近接して焼土ブロックを伴う。また底面付近には炭化物ブロックが出土した。
構造　平面形は円形である。底面はⅤ層中につくられているが、東西方向に大きく傾斜が見られ、平坦面は少ない。壁面は明瞭であるが、立ち上がりは緩やかである。覆土中位に礫を伴う。
遺物と出土状況　Ⅲ群の破片が主体であり、結束1種羽状縄文と綾絡文が施されたものが目立つ。Ⅳ群B類の小破片も含まれる。石器は剥片やすり石などが出土した
性格・時期　出土遺物及び重複関係により縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑であり、覆土の堆積状態、礫の配置などから墓壙として利用されていた可能性が考えられる。（藤井）

CP140（図133　写真図版54掲載）

位置・規模　N65　調査区平坦面部分に立地する。確認面の長軸は2.61m、短軸2.36m、面積4.67㎡、底面の長軸2.45m、短軸2.12m、面積4.00㎡、最大深0.2mを測る。

確認・調査　Ⅳ層上面にて円形で黒褐色土の範囲を確認した。覆土上層には礫が配置されていた。

堆積状況　覆土の主体は暗黄褐色土であるが、細かく細分され複雑な堆積である。覆土中層には筋状に黒色土が堆積していた。

構造　底面にはやや起伏が見られるが平坦である。壁は明瞭で立ち上がりは垂直である。

遺物と出土状況　覆土上面には安山岩の礫が配置されていた。覆土中にはⅢ群A類の土器片や北海道式石冠などの石器が見られた。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期、Ⅲ群の時期の土坑である。堆積状況に人為的な特徴が見られるため墓壙としての可能性も考えられる。（藤井）

CP141（図145　写真図版54掲載）

位置・規模　P74　調査区中央平坦面の北側に立地し、AH006に切られる。確認面の長軸は2.08m、短軸1.79m、面積2.81㎡、底面の長軸1.47m、短軸1.26m、面積1.41㎡、最大深57cmを測る。

確認・調査　AH006の範囲確認の際、Ⅲ層下層で土器片が礫をとりまくように、集中して出土した。当初は遺物集中（P74PC）として扱っていたが、Ⅳ層上面を精査したところ円形の黒褐色土の範囲を確認した。

堆積状況　上層の暗黄褐色土はAH６の掘り上げ土と考えられる。Ⅲ層由来の黒色土は大きく落ち込んだ状態で確認された。覆土の主体は小ローム粒子、黒色土粒子を多く含む暗黄褐色土であるが含有物の違いによって細かく分層することが出来た。

構造　平面形は円形であり、底面はⅤ層中につくられ平坦である。壁面は明瞭であるが立ち上がりは緩やかである。覆土の上面には安山岩の礫が配置されている。

遺物と出土状況　覆土上面からⅢ群A類の深鉢（図版145写真掲載）が礫をめぐるように集中破片（２）の状態で出土した。覆土中、坑底からは遺物がまったく見られなかった。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期前葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。堆積状況や礫、土器集中の配置を考慮すると墓壙として利用されていた可能性が考えられる。（藤井）

CP142（図160掲載）

位置・規模　N82　調査区やや北側の緩斜面に位置し、ＣＰ79・80と隣接する。確認面の長軸0.85m、短軸0.75m、面積0.51㎡、底面の長軸0.60m、短軸0.58m、面積0.28㎡、最大深0.53m。

確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土は主にⅢ層の黒色土・黒褐色土と、Ⅴ層の埋め戻しと考えられる暗黄褐色土である。

構造　平面形はほぼ円形であり、底面は平坦である。西壁はやや外反して立ち上がる。

遺物と出土状況　覆土からⅢ群６点、凹み石１点、台石・石皿１点、粘土塊２点が出土した。

性格・時期　堆積状況、覆土の遺物から縄文時代中期に構築された土坑墓と考えられる。（菊池）

CP143（図148掲載）

位置・規模　K75.76　調査区ほぼ中央の緩斜面に位置する。確認面の長軸1.00m、短軸0.73m、面積0.58㎡、底面の長軸0.88m、短軸0.58m、面積0.41㎡、最大深0.33m。

確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北東側を半裁し掘り下げた。

堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とⅣ層の埋め戻しであるローム粒が混入した暗褐色土である。

構造　平面形は楕円形であり、底面はほぼ平坦である。壁は南東側でやや緩やかに、北西側でほぼ垂

直に立ち上がる。
遺物と出土状況　覆土からⅢ群1点、時期不明土器片1点、台石・石皿1点が出土した。
性格・時期　周囲の遺構、形態から縄文時代後期の土坑と考えられる。（菊池）

CP144（図147掲載）
位置・規模　E75.76　調査区南側の緩斜面に位置する。確認面の長軸1.36m、短軸1.12m、面積1.34㎡、底面の長軸1.25m、短軸0.85m、面積0.90㎡、最大深0.51m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、東側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は黒褐色土（Ⅲ層）とⅤ層の埋め戻しである黄褐色土・暗黄褐色土・黄色土である。
構造　平面形はほぼ楕円形で、底面は平坦である。壁は東側でやや開き、西側で急に立ち上がる。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　周囲の遺構から縄文時代中期の土坑と考えられる。（菊池）

CP145（図147掲載）
位置・規模　E76　調査区南側の緩斜面に位置し、CP125・132・144と隣接する。確認面の長軸(1.36)m、短軸1.14m、面積（0.9）㎡、底面の長軸（0.87)m、短軸0.85m、面積（0.49)㎡、最大深0.36m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、風倒木で壊されている北東側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は主に黒色土（Ⅲ層）とⅤ層の埋め戻しの暗黄褐色土・黄褐色土である。
構造　平面形は楕円形と推定され、底面はほぼ平坦である。壁はやや開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　周囲の遺構より縄文時代中期の土坑と考えられる。（菊池）

CP146（図167掲載）
位置・規模　P84　調査区北側の緩斜面に位置し、AH2・AH10・CP82に隣接する。確認面の長軸0.78m、短軸0.72m、面積0.45㎡、底面の長軸0.40m、短軸0.39m、面積0.13㎡、最大深0.38m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北東側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は底面に暗黄褐色土が堆積し、茶褐色土・暗茶褐色土が被っている。
構造　平面形はほぼ円形であり、底面は平坦である。壁は西側が開きぎみに立ち上がる。
遺物と出土状況　Ⅳ群3点（A類1点）、剥片3点、礫2点が出土した。
性格・時期　覆土の遺物、周囲の遺構から縄文時代後期に構築された土坑と考えられる。（菊池）

CP147（図167掲載）
位置・規模　P84.Q84　調査区北側の緩斜面に位置し、CP82に隣接する。確認面の長軸0.64m、短軸0.59m、面積0.30㎡、底面の長軸0.53m、短軸0.41m、面積0.16㎡、最大深0.34m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は底面に暗黄褐色土が堆積し、黒色土系の土が被っている。埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形はほぼ円形、底面は平坦である。壁は北西側のほうがやや開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　覆土から礫1点が出土した。
性格・時期　堆積状況、周囲の遺構から縄文時代後期の土坑と考えられる。（菊池）

CP148（図163掲載）
位置・規模　J83　調査区西寄り緩斜面最下部に立地し、AH19の範囲内に位置する。CP183を切る。

確認面の長軸は1.96m、短軸1.54m、面積2.35㎡、底面の長軸1.65m、短軸1.19m、面積1.66㎡、最大深0.61mを測る。

確認・調査　AH19の床面精査時に、黄褐色ローム土上に暗茶褐色土の楕円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ、覆土上層で礫が出土し、約60cmの掘り込みを検出した。

堆積状況　細かく分層されたが、上層の暗茶褐色土以下はローム主体の暗黄褐色土が覆土の主体である。人為的な堆積の可能性が強い。

構造　平面形は楕円形である。底面はV層中で平坦である。壁の立ち上がりはやや急である。

遺物と出土状況　覆土上層の礫は安山岩のすり石である。土器はⅢ群の破片が覆土中から数点出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期の土坑である。堆積状態から墓壙として利用された可能性が考えられる。　（藤井）

CP149（図156　写真図版54掲載）

位置・規模　P78　調査区北側の緩斜面上に立地する。CH44、CH39、AH 8 に隣接する。確認面の長軸1.68m、短軸1.45m、面積1.85㎡、底面の長軸1.55m、短軸1.31m、面積1.42㎡、最大深0.55mを測る。

確認・調査　Ⅳ層精査時に褐色土の落ち込みを検出し、範囲を確認した。土層観察のため、遺構を半截して掘削し、坑底まで確認後全体を掘りあげた。

堆積状況　覆土は①～④に区分できる。

① 上位の堆積。ロームブロックを含む褐色土、暗褐色土（1・2層）。

② 中位の堆積。多量の炭化物粒と焼土粒を含有する暗褐色土（6層）とその上下のロームブロックを主とする黄褐色土（3～5層）で構成される。

③ 下位上部の堆積。炭化物粒と焼土ブロックを含有する褐色土（7層）。

④ 坑底直上の最下位の堆積。ロームを主体とする黄褐色土（8層）と、暗黄褐色土（9層）。

①は埋め戻し、もしくは周囲遺構の掘上げ土の投げ込み、②は埋め戻しと焚き火痕跡、③・④は埋め戻しと考えられる。遺物は7層で個体土器のまとまった出土状況がみられるが、最下位層には包含されていない。人為的堆積層と捉えられる6層（炭化物層）はフローテーション用に土壌を採取した。遺物取り上げ層位は、覆土に関しては覆土1～3に分けた。覆土1は上位層（1・2層）、覆土2は中位から下位上部層（3～7層）、覆土3は最下位層（8・9層）である。

構造　平面はややいびつな円形を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上がっていた。後述するように、CP149は墓の可能性がある。壙底に遺体を安置し、黄褐色土（8・9層）で埋め戻し、遺物を副葬して褐色土（7層）で埋め戻す。その上部で火を焚いた（6層）と考えられる。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、覆土1（土器13点、石器6点、礫4点）、覆土2（土器42点、石器6点、礫2点、石製品1点）である。土器166、凝灰岩製の玉が7層中から出土している。

性格・時期　堆積状況と出土遺物から、縄文中期中葉の土坑墓と考えられる。6層より採取した炭化物を試料として放射性炭素年代測定をおこない、4440ｙ.B.P±40（補正年代）の結果が得られた。
（坂本）

CP150（図170掲載）

位置・規模　N87　下段段丘面の東側に位置する。確認面の長軸0.62m、短軸0.58m、面積0.28㎡、底面の長軸0.56m、短軸0.52m、面積0.22㎡、最大深0.12m。

確認・調査　V層上面で黒色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土はⅢ層の流れ込みによる粘質の強い黒色土である。
構造　平面形は円形で底面は平坦である。壁は東側で急に、西側で開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　覆土から小礫２点、剥片１点出土した。
性格・時期　ともに不明である。　（菊池）

CP151（図141掲載）

位置・規模　Ｆ73　調査区南側の平坦面に位置し、ＣＰ50と重複する。確認面の長軸0.60m、短軸0.50m、面積0.26㎡、底面の長軸0.34m、短軸0.32m、面積0.09㎡、最大深0.37m。
確認・調査　ＣＰ50の調査後にプランを確認し、北東側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は底面に埋め戻しと考えられるローム粒が混入した暗茶褐色土が堆積し、Ⅲ層の黒褐色土が流れ込んでいる。
構造　平面形はほぼ円形、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　堆積状況と周囲の遺構から縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP152（図142掲載）

位置・規模　Ｈ72　調査区やや南側の平坦面に位置し、ＣＰ153に隣接する。確認面の長軸0.52m、短軸0.51m、面積0.21㎡、底面の長軸0.43m、短軸0.40m、面積0.14㎡、最大深0.36m。
確認・調査　Ⅴ層上面で暗茶褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は底面に茶褐色土が堆積し、ロームの混入した茶褐色土、黒褐色土が被っている。埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は円形であり、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　堆積状況と周囲の遺構から縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP153（図142掲載）

位置・規模　Ｈ72　調査区やや南側の平坦面に位置し、ＣＰ152に隣接する。確認面の長軸0.36m、短軸0.35m、面積0.09㎡、底面の長軸0.30m、短軸0.27m、面積0.06㎡、最大深0.21m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は黒褐色土（Ⅲ層）と埋め戻しと考えられるローム粒の混入した暗茶褐色土である。
構造　平面形は円形、底面は平坦である。壁は西側でやや開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　周囲の遺構から縄文時代中期の土坑と考えられる。　（菊池）

CP154（図142掲載）

位置・規模　Ｈ71.Ｉ71　調査区やや南側の平坦面に位置し、ＣＰ27に隣接する。確認面の長軸0.73m、短軸0.64m、面積0.35㎡、底面の長軸0.60m、短軸0.49m、面積0.23㎡、最大深0.27m。
確認・調査　Ⅴ層上面で暗茶褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は壁際にローム粒が混入した黒褐色土・黄褐色土が堆積し、中央部に黒褐色土が落ち込む。その上に暗黄褐色土がレンズ状に堆積しており、埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形はほぼ円形であり、底面は平坦である。壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　堆積状況、周囲の遺構から縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP155（図142掲載）

位置・規模　Ｉ71　調査区ほぼ中央の平坦面に位置する。確認面の長軸0.39m、短軸0.37m、面積0.12㎡、底面の長軸0.24m、短軸0.22m、面積0.05㎡、最大深0.24m。
確認・調査　Ⅲ層中の立石を確認し、Ⅴ層上面まで掘り下げプランを確認した後、北側を半裁した。
堆積状況　覆土は黒褐色土、暗茶褐色、暗黄褐色土である。堆積状況と立石の状態から、埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は円形であり、壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　覆土から立石である台石・石皿１点が出土した。
性格・時期　形態から縄文時代後期前半に構築された土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP156（図142掲載）
位置・規模　Ｉ70　調査区ほぼ中央の平坦面に位置する。確認面の長軸0.55m、短軸0.50m、面積0.19㎡、底面の長軸0.37m、短軸0.36m、面積0.10㎡、最大深0.38m。
確認・調査　Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は暗黄褐色土・暗茶褐色土・黄褐色土で、中央部に黒褐色土（Ⅲ層）が落ち込んでいる。埋め戻しによる堆積と考えられる。
構造　平面形は円形であり、壁の立ち上がりは急である。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　堆積状況、周囲の遺構より縄文時代中期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP157（図139掲載）
位置・規模　G69.70.H69.70　調査区やや南側の平坦面に位置する。確認面の長軸1.75m、短軸1.16m、面積1.74㎡、底面の長軸1.43m、短軸1.03m、面積1.27㎡、最大深0.31m。
確認・調査　Ⅴ層上面で暗黄褐色土の広がりを確認し、北東側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は暗黄褐色土・黄褐色土であり、Ⅴ層の埋め戻しと考えられる。
構造　平面形はほぼ楕円形であり、底面は平坦である。壁の立ち上がりはやや急である。
遺物と出土状況　出土していない。
性格・時期　堆積状況、周囲の遺構から縄文時代中期の土坑と考えられる。　（菊池）

CP158（図148掲載）
位置・規模　K75.76　調査区ほぼ中央部の平坦面に位置する。確認面の長軸0.48m、短軸0.47m、面積0.18㎡、底面の長軸0.22m、短軸0.20m、面積0.04㎡、最大深0.34m。
確認・調査　Ⅴ層上面で暗茶褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。
堆積状況　覆土は底面に暗黄褐色土が堆積し、暗茶褐色土が落ち込む。
構造　平面形は円形であり、丸底である。壁はやや開いて立ち上がる。
遺物と出土状況　覆土から時期不明の土器片１点が出土している。
性格・時期　周囲の遺構から縄文時代後期の土坑と考えられる。　（菊池）

CP159（図149掲載）
位置・規模　Q77　調査区北側の狭い平坦部に立地する。AH８、CH33、CH39に隣接し、CP160と切り合い関係を持つ。確認面の長軸1.26m、短軸1.11m、面積1.13㎡、底面の長軸1.15m、短軸0.95m、面積0.93㎡、最大深21㎝を測る。
確認・調査　Ⅳ層精査時に暗褐色土の落ち込みを検出し、範囲を確認した。土層観察のため遺構を半截して掘削し、坑底を確認後、全体を掘り下げた。
堆積状況　坑底から壁際にかけて褐色土（４層）が堆積し、その上位に暗褐色土、褐色土（１～３層）

が堆積する。2・4層はロームブロックを多く含有し、人為的な埋め戻し土と考えられる。遺物取り上げ層位は、覆土に関してはすべて「覆土」とした。

構造　平面は不整円形で、壁は急角度に立ち上がる。坑底はやや凹凸が認められる。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、覆土（土器12点、石器6点、礫1点）である。覆土上位から下位で、Ⅲ群、Ⅳ群土器が出土している。Ⅲ群土器が多数を占める。

性格・時期　性格は不明である。時期は縄文時代後期の可能性がある。また、切り合い関係から、CP160より新しいと判断できる。（坂本）

CP160（図149掲載）

位置・規模　Q77　調査区北側の狭い平坦部に立地する。AH8、CH33、CH39に隣接し、CP159と切り合い関係を持つ。確認面の長軸1.67m、短軸1.00m、面積（0.96）㎡、底面の長軸1.50m、短軸0.86m、面積（0.71）㎡、最大深23cmを測る。

確認・調査　Ⅳ層精査時に暗褐色土の落ち込みを検出し、範囲を確認した。土層観察のため遺構を半截して掘削し、坑底を確認後、全体を掘り下げた。

堆積状況　坑底直上にロームブロックを多く含む暗黄褐色土（9層）がやや厚く堆積し、その上位にロームを含む褐色土、暗褐色土が薄く堆積する。覆土は掘上げ土の投げ込み、流入などが考えられる。遺物取り上げ層位は、覆土に関してはすべて「覆土」とした。

構造　平面は不整な楕円形で、壁は急角度に立ち上がる。

遺物と出土状況　各層位毎の出土点数は、覆土（土器6点、石器1点、礫3点）である。

Ⅲ群、Ⅳ群の土器片が覆土中より出土した。Ⅲ群土器がCH44覆土、AH13・14覆土出土のものと接合した。

性格・時期　性格は不明である。時期はCP159より古いと判断できるため、縄文時代後期、もしくは中期の可能性がある。（坂本）

CP161（図143掲載）

位置・規模　L74　調査区中央の平坦面部分に立地する。隣接する遺構は見られない。確認面の長軸は1.82m、短軸1.72m、面積2.31㎡、底面の長軸1.53m、短軸1.36m、面積1.71㎡、最大深0.54mを測る。

確認・調査　Ⅲ層の掘り下げ後、不明瞭ではあったがⅣ層上面にて黒褐色度と暗茶褐色度の混じる円形の範囲を確認した。トレンチ調査により掘り下げたところ50cmほどの掘り込みと明瞭な底面とを検出した。また覆土中位には頁岩のフレイク・チップの集中を確認することが出来た。

堆積状況　中位のフレイク集中を境に上層がⅢ層由来の黒色土、下層がローム層に由来する暗黄褐色土が主体の覆土の構成になっている。下層部分は人為的な体積の可能性が強い。底面付近の堆積には、黄褐色ローム土を主体とした、炭化物や黒色土との混土が確認された。

構造　平面形は円形である。底面はV層中につくられ、平坦である。壁面は明瞭で、やや垂直に近い立ち上がりである。覆土の上面は緩やかに落ち込むかたちで、フレイク集中は落ち込みの最も低い面につくられている。

遺物と出土状況　覆土（1層）上面のフレイクが200点以上あり、頁岩製のなかに黒曜石製が1点見られた。土器はⅢ層及び覆土中にⅢ群の土器が見られた。底面直上には面を覆うように黄褐色ロームの中に黒色土や炭化物が混入した土が堆積していた。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期、Ⅳ群の時期の土坑である。また、覆土の堆積状況や遺物の出土状況から墓壙として利用された可能性が強く、遺体を暗黄褐色土で埋めた後、フレイクを撒布し

たものと考えられる。　（藤井）

CP162（図143掲載）

位置・規模　K74　調査区ほぼ中央部の平坦面に位置する。確認面の長軸0.54m、短軸0.51m、面積0.21㎡、底面の長軸0.39m、短軸0.32m、面積0.09㎡、最大深0.29m。

確認・調査　Ⅴ層上面で暗茶褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土はローム粒が混入した暗茶褐色土と暗黄褐色土である。

構造　平面形は円形であり、底面はほぼ平坦である。壁はやや開いて立ち上がる。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　周囲の遺構より縄文時代後期の土坑と考えられる。　（菊池）

CP163（図131　写真図版55掲載）

位置・規模　I 67.68　調査区ほぼ中央部の平坦面に位置する。確認面の長軸2.01m、短軸1.65m、面積2.75㎡、底面の長軸1.35m、短軸1.14m、面積1.25㎡、最大深0.33m。

確認・調査　Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土はローム粒が混入した茶褐色土・暗茶褐色土・黄褐色土・暗黄褐色土が複雑に堆積する。

構造　平面形は楕円形であり、底面は平坦である。壁の立ち上がりは西側で急であり、東側の壁は外反して立ち上がる。

遺物と出土状況　Ⅲ群2点、剥片1点が出土した。

性格・時期　堆積状況、周囲の遺構から縄文時代中期の土坑と考えられる。　（菊池）

CP164（図162　写真図版55掲載）

位置・規模　I82.83　緩斜面最下部、急崖直上に立地する。CP179を切り、覆土中でCP69に切られる。確認面の長軸2.92m、短軸2.43m、面積5.36㎡、底面の長軸2.72m、短軸2.31m、面積4.57㎡、最大深40cm。

確認・調査　CP69を調査した段階で壁面にかたくしまった暗黄褐色土にローム粒の混入を確認した。周辺のⅣ層面を精査したところローム粒を多く含む明茶褐色土で楕円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ底面中央からⅢ群A類の土器を伴う炭化物の集中が認められた。

堆積状況　ローム粒を含む明黄褐色土が覆土の主体であり、概してしまりがよくかたい。底面上に厚さ3～5cmの炭化物ブロックを確認した。

構造　底面は平坦なつくりになっている。壁面はやや不明瞭な部分もあったが垂直に近い立ち上がりである。

遺物と出土状況　遺物は数少ないが、床面中央部の炭化物にⅢ群A類の土器片が伴っている。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土壙である。炭化物の出土状況などから墓壙として利用された可能性も考えられる。　（藤井）

CP165（図141掲載）

位置・規模　F73.G73　緩斜面上部に立地する。MP2に切られて重複する。確認面の長軸1.03m、短軸0.88m、面積0.70㎡、底面の長軸0.76m、短軸0.72m、面積0.42㎡、最大深26cmを測る。

確認・調査　Ⅳ層、黄褐色ローム土中に黒褐色土の円形プランを確認した。MP2との重複関係を視野にトレンチを設定、MP2より古い土坑であることが明らかになった。

堆積状況　暗茶褐色土が覆土の主体であり、底面にはローム粒を含む暗黄褐色土のマウンド状の堆積が見られる。

構造　底面は平坦であり、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　土器は覆土出土の１点のみで、表面に炭化物が付着したⅣ群A類の口縁部破片である。

性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいが、縄文時代後期の土坑である。　（藤井）

CP166（図148掲載）

位置・規模　L76　調査区中央の緩斜面上部に立地し、CP181、CP158に隣接する。確認面の長軸は1.04m、短軸0.86m、面積0.68㎡、底面の長軸（逆転）0.47m、短軸0.42m、面積0.14㎡、最大深0.36mを測る。

確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面にて円形の黒褐色土の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ30cmほどの掘り込みを検出した。

堆積状況　暗茶褐色土を主体とする覆土で自然堆積によるものである。

構造　平面形は円形で、底面は丸底である。壁面は明瞭で立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　遺物は出土していない

性格・時期　遺物は出土していないが、縄文時代後期の土坑である。　（藤井）

CP167・168（図132掲載）

位置・規模　M65.N65（CP167）、N64.65　（CP168）　CP167の確認面の長軸は1.6m、短軸1.2m、面積1.53㎡、底面の長軸1.4m、短軸0.9m、最大深0.2mを測る。CP168の確認面の長軸は1.3m、短軸1.1m、面積1.13㎡、底面の長軸1.0m、短軸0.84m、面積0.66㎡、最大深0.2mを測る。

確認・調査　いずれもⅢ層を掘り下げ、Ⅳ層上面にて楕円形で暗茶褐色土の範囲を確認した

堆積状況　ローム粒子を多く含む暗黄褐色土を主体とする覆土である。しまりよくかたい。

構造　いずれもV層中に底面がつくられ、平坦である。壁面は明瞭であるが、立ち上がりは緩やかである。CP167には底面南側に小ピットを伴う。

遺物と出土状況　CP167には出土遺物はなく、CP168にはⅢ群の土器片が１点見られたのみである。

性格・時期　時期決定可能な遺物が見られなかったが、縄文時代中期から後期にかけての土坑である。覆土の堆積状況からは人為的な埋積の可能性もあり、墓壙の可能性が考えられる。　（藤井）

CP169（図134掲載）

位置・規模　P66.67　調査区東側北寄りの平坦面に立地する。周囲に近接する遺構は見られない。確認面の長軸は1.37m、短軸1.16m、面積1.26㎡、底面の長軸1.26m、短軸1.01m、面積1.01㎡、最大深0.24mを測る。

確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面にて暗茶褐色土の範囲に３点の安山岩の礫が伴うことを確認した。南北に設定したトレンチにより円形の範囲を確認し掘り下げた。

堆積状況　覆土は明茶褐色土を主体とする。自然堆積層のみの単純な堆積である。

構造　底面は、オレンジ色を帯びたやわらかい黄褐色ローム土を掘り込んで、平坦な面がつくられている。壁面は垂直に近い急な立ち上がりである。覆土上面には３点の礫が伴う。

遺物と出土状況　覆土上層である確認面には安山岩の礫３点が出土し、覆土中には剥片と石錐が出土した。土器はⅢ群とⅣ群が入り混じるかたちで出土した。

性格・時期　時期決定可能な遺物に欠くものの、形状などから縄文時代後期、Ⅳ群の時期の土坑である。上面に礫を伴うことから埋積後に何らかのかたちで利用されていた可能性が考えられる。　（藤井）

CP170（図143掲載）

位置・規模　M74.N74　調査区やや北側の平坦面に位置する。確認面の長軸0.63m、短軸0.62m、面

積0.30㎡、底面の長軸0.42m、短軸0.40m、面積0.15㎡、最大深0.49m。

確認・調査　Ⅴ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認し、北側を半裁して掘り下げた。

堆積状況　覆土は底面にローム粒が混入した暗黄褐色土・黄褐色土が堆積し、中間でⅢ層の黒褐色土が流れ込む。その上にロームの混入した暗茶褐色土・暗黄褐色土が堆積し、Ⅲ層が流れ込んでいる。埋め戻しによる堆積と考えられる。

構造　平面形はやや楕円形であり、底面は平坦であり壁の立ち上がりは急である。

遺物と出土状況　出土していない。

性格・時期　堆積状況、周囲の遺構から縄文時代後期の土坑墓と考えられる。　（菊池）

CP172（図162　写真図版55掲載）

位置・規模　H82.I82　調査区西側南寄りの緩斜面最下部、急斜面直上に立地する。AH19の床面を切る。確認面の長軸は1.58m、短軸1.27m、面積1.63㎡、底面の長軸1.22m、短軸1.02m、面積1.09㎡、最大深0.47mを測る。

確認・調査　AH19の床面と推定した黄褐色ローム土面にて暗茶褐色土で円形の範囲を確認し、掘り下げた。

堆積状況　覆土は細かく分層されたが、黄褐色ローム土と炭化物などの混土が主体である。

構造　黄褐色ハードロームを底面とし平坦である。壁は急な立ち上がりである。

遺物と出土状況　安山岩の礫が特徴的である。覆土上層の確認面上と中位に確認された。土器はⅢ群A類の土器片が数点出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の土坑である。覆土の堆積状況と礫の配置から墓壙として利用された可能性が考えられる。　（藤井）

CP173（図163掲載）

位置・規模　J82　調査区西側南寄りの緩斜面最下部急崖直上に立地する。AH19の範囲内に位置し、CP183を切る。確認面の長軸は0.60m、短軸0.50m、面積0.26㎡、底面の長軸0.22m、短軸0.22m、面積0.03㎡、最大深0.57mを測る。

確認・調査　CP183の覆土上面にて灰白色粘土の円形範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ約50cmの掘り込みを検出した。坑底付近には礫が見られ、底面には粘土の堆積が見られた。

堆積状況　単純な堆積であるが、黒褐色土、暗茶褐色土の覆土を白色粘土で覆うようなかたちの堆積である。坑底にも白色粘土が少量堆積する。

構造　平面形は円形である。坑底は丸底に近く、平坦面はない。壁の立ち上がりはやや急である。

遺物と出土状況　スタンプ形土製品（15）が覆土中から出土した。土器はⅢ群の破片が数点、石器は削器1点と剥片が数点出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期の土坑である。覆土の堆積状態から生活以外の目的で利用された可能性が考えられる。（藤井）

CP174（図164掲載）

位置・規模　I83.J83　調査区西側南寄りの緩斜面最下部に立地し、AH19に隣接する。確認面の長軸は1.86m、短軸1.61m、面積2.33㎡、底面の長軸1.48m、短軸1.18m、面積1.45㎡、最大深0.68mを測る。

確認・調査　Ⅲ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面にて明瞭な暗黄褐色土の楕円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ、約60cmほどの掘り込みを検出した。

堆積状況　暗黄褐色土の混土が主体である。覆土上層には灰褐色土の混土が覆い被さる状態で確認さ

れた。

構造　平面形は楕円形である。底面はV層中につくられ、平坦である。壁の立ち上がりはやや急である。

遺物と出土状況　覆土中、坑底からⅢ群A類の土器片が出土している。石器は覆土中から削器、Rフレイク、剥片、小礫などが出土している。

性格・時期　覆土の状態から墓壙の可能性がある。縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期である。

（藤井）

CP175（図159掲載）

位置・規模　H82　調査区南西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸0.79m、短軸0.70m、面積0.54㎡、底面長軸0.72m、短軸0.68m、面積0.41㎡、最大深0.44m。

確認・調査　Ⅳ層上面相当層で、円形を呈する落ち込みとして確認。半裁法で調査した。また、遺物取上げ時の層名は「覆土」としたのみで、数字は付していない。

堆積状況　最下層に暗褐色土が堆積し、その上位に炭化物層、焼土が見られた。それらを覆ってしまりの弱い暗褐色土が堆積していた。

構造　CP178の覆土を掘り込んで、平底になっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物と出土状況　覆土より頁岩製の剥片が1点出土している。なお、炭化物層については肉眼でクリの炭化種子の集合体であることが確認された。そこで炭化物層・焼土について土壌を採取し、フローテーション法によって炭化種子を選別した結果、クリの果皮と子葉が多量に含まれていた。

性格・時期　CP178を切って掘り込まれるため縄文時代中期の土坑である。クリの果皮の14C年代は4350±40の測定値が得られた。

（福井）

CP176（図132　写真図版55掲載）

位置・規模　M64　調査区東側やや北寄りの平坦面に立地し、CP135と近接する。確認面の長軸は0.88m、短軸0.60m、面積0.42㎡、底面の長軸0.72m、短軸0.5m、面積0.28㎡、最大深0.2mを測る。

確認・調査　Ⅲ層包含層の掘り下げ時に覆土上面に安山岩の礫が出土した。礫を中心に周囲を精査したところ、焼土の範囲と小ローム粒、焼土粒を含む暗茶褐色土の楕円形の範囲を確認した。楕円形のプランをもとに半裁して掘り下げたところ、V層中に底面を確認した。

堆積状況　覆土上面に焼土があり、覆土は焼土粒やロームブロックを含む暗茶褐色土で単純な堆積である。

構造　底面はV層中につくられ平坦であるが傾斜が見られる。しまりはよくない。壁面は明瞭で緩やかな立ち上がりである。上面には焼土と礫が配置されている。

遺物と出土状況　覆土上面に安山岩の礫と覆土中にⅢ群A類の土器片と剥片を伴う。

性格・時期　時期の特定は困難であるが覆土中の遺物から縄文時代中期から後期、Ⅲ～Ⅳ群の時期の土坑である。覆土上面に礫と焼土が配置されていることから墓壙としてつくられた可能性が考えられる。

（藤井）

CP178（図159掲載）

位置・規模　G82.H82　調査区南西側の緩斜面上に位置する。確認面長軸2.27m、短軸1.89m、面積3.93㎡、底面長軸1.82m、短軸1.75m、面積3.03㎡、最大深0.74m。

確認・調査　Ⅳ層上面で、楕円形を呈する落ち込みとして確認。半裁法で調査した。なお、遺物取上げに際しては「覆土（数字）」を用いたが、本遺構に関しては覆土の数字と土層の数字は整合性を持つ。また、覆土として取り上げたものは覆土1から出土したものである。

堆積状況　坑底付近にロームブロックを多量に含む暗褐色系の土層7・8が堆積し、その上位にロームブロック、ローム粒、炭化物を含み、ややしまる暗褐色ないし黒色土が堆積していた（以上覆土2）。これらの上位にはさらに黄褐色土（土層1＝覆土1）が覆っていたが、土層1と土層3の層界では炭化物集中がみられた。

構造　V層を掘り込んで、平底になっている。壁はやや外側に広がりながら立ち上がる。南側には壁中位まで掘り込まれたステップ状の張り出しが見られた。

遺物と出土状況　覆土上部の土層1・2より剥片3点、礫3点、削器1点（328）、Ⅲ群A類の土器片3点が出土している。

性格・時期　CP175に壊される。縄文時代中期前半の土坑である。形状と堆積状況から土坑墓と考えられる。（福井）

CP179（図162掲載）

位置・規模　I82　緩斜面最下部急崖直上に立地し、AH19の範囲内に位置する。CP69、CP164に切られる。確認面の長軸は0.83m、短軸0.65m、面積0.45㎡、底面の長軸0.47m、短軸0.46m、面積0.17㎡、最大深53cmを測る。

確認・調査　CP164、CP69の調査確認時にCP69の床面上で黒褐色土、灰褐色土の円形の範囲を確認した。半裁して掘り下げたところ多量の炭化物、焼土を覆土に含む土坑であることが判明した

堆積状況　焼土、炭化物、ローム粒を多量に含む混土状の灰褐色粘土が覆土の主体である。上層はかたくしまっているが、底面上の炭化物付近はやわらかい。

構造　底面は丸底に近く、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　底面上に炭化物のブロックが出土したが遺物の出土は見られなかった。CP69,164に混入している可能性もある。

性格・時期　時期決定可能な遺物が見られなかったが、上層の遺構との関連から縄文時代中期の土坑と考えられ、焼土、炭化物などの出土状況を考慮すると墓壙として利用された可能性も考えられる。（藤井）

CP182（図165掲載）

位置・規模　M81.N81　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、CH40に切られる。確認面の長軸は1.12m、短軸1.08m、面積0.78㎡、底面の長軸0.92m、短軸0.88m、面積0.69㎡、最大深0.10mを測る。

確認・調査　IV層上面で暗茶褐色土の円形の範囲を確認した。半裁したところ浅皿状の掘り込みを検出した。

堆積状況　暗茶褐色土の単純な堆積である

構造　平面形は円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物と出土状況　遺物は出土しなかった。

性格・時期　遺物の出土がなかったが、縄文時代中期の土坑である。性格の詳細は不明である。（藤井）

CP183（図163掲載）

位置・規模　J82.83　調査区西寄り緩斜面最下部に立地し、AH19の範囲内に位置する。CP148、CP173に切られる。確認面の長軸3.0m、短軸2.0m、面積4.9㎡、底面の長軸2.5m、短軸1.6m、面積3.3㎡、最大深0.2cmを測る。

確認・調査　AH19の床面精査時に、黄褐色ローム土上に暗茶褐色土の楕円形の範囲を確認した。半

栽して掘り下げたところ、約20cmの掘り込みを検出した。
堆積状況　単純な自然堆積である。暗茶褐色土が覆土の主体である。
構造　平面形は楕円形で、底面は平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。
遺物と出土状況　遺物は出土しなかった。
性格・時期　時期決定可能な遺物は見られなかったが、縄文時代中期の土坑である。性格の詳細は不明である。（藤井）

3　焼土

確認された焼土は30箇所である。B地区においてはグリッド70ライン以東、C地区においてはグリッド50ライン以西に分布する。B、C地区の中間に位置する平坦面部分では出土していないのが特徴である。

AF 1（図174掲載）
位置・規模　F78.79　調査区西側南寄りの緩斜面中部に立地する。確認面の長軸は0.84m、短軸0.8m、面積0.50㎡、最大厚0.32mを測る。
確認・調査　Ko-d火山灰除去後のⅢ層上層にて確認された。半裁して掘り下げたところ、厚さ30cmほどの焼土の堆積を確認した。
堆積状況　上層は均一な焼土の堆積があり、下層は入り組んだ筋状に黒色土を掘り込んだ焼土が見られ、複雑な堆積となっている。
遺物と出土状況　Ⅲ群の土器片が2点出土したのみである。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期の焼土である。（藤井）

AF 6（図174掲載）
位置・規模　I86　調査区西側の緩斜面最下部に立地し、AH19に隣接する。確認面の長軸は1.2m、短軸0.48m、面積0.46㎡、最大厚0.16mを測る。
確認・調査　急斜面直上のKo-d火山灰を除去した際に確認された。斜面の崩落によりⅢ層部分が失われたためと思われる。
堆積状況　約15cmほどの厚いレンズ上に赤褐色の焼土が堆積する。
遺物と出土状況　Ⅲ群A類の土器片1点と頁岩の剥片2点が出土した。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期、Ⅲ群A類の時期の焼土である。（藤井）

CF 3、4（図174掲載）
位置・規模　I91（CF 3）、J91.92（CF 4）　下段段丘面の最西端に位置する。CF 4はPC38と重複する。CF 3は確認面の長軸は1.0m、短軸0.8m、面積0.60㎡、最大厚0.12mを測り、CF 4は確認面の長軸が1.2m、短軸0.6m、面積0.45㎡、最大厚0.13mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後のⅣ層上面で確認された。
堆積状況　いずれも層厚10cm程度の焼土の堆積である
遺物と出土状況　CF 4の覆土中から楔形石器と剥片が出土した。CF 4はPC38と重複する。
性格・時期　時期決定可能な遺物に乏しいものの縄文時代中期の焼土と思われる。（藤井）

CF 5（図175掲載）
位置・規模　P77　調査区中央北側の緩斜面上部に立地し、CH39の覆土上に位置する。確認面の長径0.5mを測る。最大厚0.04mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後、CH39の範囲確認の際に覆土上面にて円形の焼土の堆積が確認された

堆積状況　焼土ブロックを含む明赤褐色の焼土である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　遺物が出土していないが、CH39の覆土上にあるため縄文時代後期の焼土である。(藤井)

CF 7（図176掲載）
位置・規模　M82　調査区西側の緩斜面下部に立地し、AH17とCP90との中間に位置する。確認面の長軸は0.5m、短軸0.3m、面積0.1㎡、最大厚0.05mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後、Ⅳ層上面にて円形の焼土の堆積が確認された。
堆積状況　暗赤褐色焼土のみの堆積である。
遺物と出土状況　遺物は出土しなかった。
性格・時期　遺物が出土しなかったが、位置と形状から縄文時代中期の焼土の可能性が強い。(藤井)

CF 9、10、11（図175掲載）
位置・規模　K85　いずれも確認面の直径およそ0.4m、面積0.12㎡、最大厚0.05mを測る。
確認・調査　急斜面部のトレンチ調査により焼土の堆積が検出された
堆積状況　明赤褐色焼土の単純な堆積である。底面に焼けは見られない
遺物と出土状況　遺物は出土していない
性格・時期　いずれも時期不明であるが、縄文時代中期から後期にかけての焼土の可能性が考えられる。(藤井)

CF12（図176掲載）
位置・規模　M73　調査区中央部の北寄りの平坦面に立地し、M73PC、AH 6 に隣接する。確認面の長軸0.7m、短軸0.45m、面積0.22㎡、最大厚0.10m。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後のⅢ層下部で楕円形の焼土の堆積を確認した。
堆積状況　レンズ状の堆積で、細かく分層されたが、均質な堆積である。
遺物と出土状況　Ⅲ群の土器片と頁岩の剥片が出土した。
性格・時期　出土遺物から縄文時代中期、Ⅲ群の時期の焼土である。(藤井)

CF13（図176掲載）
位置・規模　N75　調査区中央やや北寄りの緩斜面上部に立地し、AH 6 に隣接する。確認面の長軸は0.50m、短軸0.35m、面積0.12㎡、最大厚0.11mを測る。
確認・調査　Ⅲ層上層で焼土の堆積を確認した。N75PCに隣接しており、関係が深いものと考えられる。
堆積状況　暗赤褐色焼土の浅皿状の堆積である。
遺物と出土状況　Ⅲ群の土器片が出土した
性格・時期　N75PCに伴うものと考えられ、縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期の焼土である。

CF15（図174掲載）
位置・規模　K66.67　B地区中央やや東よりの平坦面に立地し、CF16に隣接する。確認面の長軸は0.8m、短軸0.52m、面積0.33㎡、最大厚0.16mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げの途中、Ⅲ層下部にて楕円形の焼土の堆積を確認した。
堆積状況　暗赤褐色の焼土を主体とするⅢ状の堆積である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　遺物は出土していないが位置や、形状から縄文時代中期の焼土の可能性が強い。(藤井)

CF16、33（図174掲載）

位置・規模　K67　B地区中央やや東よりの平坦面に立地し、CP120の覆土上に位置する。CF16は確認面の長軸が1.0m、短軸0.52m、面積0.50㎡最大厚0.08mを測る。CF33は確認面の長軸が0.36m、短軸0.32m、面積0.10㎡、最大厚0.05mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後のⅣ層上面でCP120の覆土上で確認された。

堆積状況　ともに層厚10cmに満たないレンズ状の堆積である。

遺物と出土状況　いずれも遺物は出土していない。

性格・時期　遺物が出土していないため、詳細は不明であるが、縄文時代中期から後期にかけての焼土であると思われる。（藤井）

CF17（図176掲載）

位置・規模　N74.75　調査区中央やや北寄りの平坦面に立地する。確認面の長軸は0.7m、短軸0.6m、面積0.29㎡、最大厚0.14mを測る。

確認・調査　Ⅲ層掘り下げ時に、Ⅲ層下部にて焼土の堆積と焼土上に安山岩の礫を確認した。

堆積状況　浅皿状に暗赤褐色の焼土が堆積し、底面の暗茶褐色土が被熱していた。また東側に細かな焼土粒の散布した部分が見られた。

遺物と出土状況　確認面上の円礫はすり石であった。Ⅲ群A類の土器片が覆土中から出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉の焼土である。（藤井）

CF18（図176掲載）

位置・規模　N80 調査区西側やや北寄りの緩斜面中部に立地し、CP88の覆土中に位置する。確認面の長軸は0.35m、短軸0.24m、面積0.05㎡、最大深0.08mを測る。

確認・調査　CP88検出時に覆土上面にて円形の焼土の堆積を確認した。

堆積状況　CP88覆土中につくられた、暗赤褐色焼土の浅皿状の堆積である。

遺物と出土状況　遺物は出土していない

性格・時期　CP88との関連から縄文時代中期の焼土である。

CF21・22（図177掲載）

位置・規模　調査区中央部やや北寄りの平坦面に立地し、BH23に隣接する。（CF21）　N69確認面の長軸0.9m、短軸0.7m、面積0.44㎡、最大厚0.04m。（CF22）N70　確認面の長軸0.8m、短軸0.55m、面積0.32㎡、最大厚0.04m。

確認・調査　いずれもⅢ層掘り下げ後、Ⅳ層上面で確認された。

堆積状況　不整形の明赤褐色焼土がレンズ状に堆積している。

遺物と出土状況　CF21にⅢ群の土器片が出土した。

性格・時期　位置と形状から縄文時代中期の焼土である。（藤井）

CF23（図175掲載）

位置・規模　J82　調査区西側緩斜面下部に立地し、AH19の範囲内に位置する。確認面の長軸0.76m、短軸0.56m、面積0.33㎡、最大厚0.16mを測る。

確認・調査　AH19の床面検出時に焼土の堆積を確認した。

堆積状況　CP183の覆土上に営まれ、細かく分層された。暗赤褐色焼土が主体の浅皿状の堆積である。

遺物と出土状況　遺物は出土していない。

性格・時期　位置、形状から縄文時代中期の焼土である。（藤井）

CF24（図176掲載）

位置・規模　O72　調査区中央北寄りの平坦面に立地し、AH１に隣接する。確認面の長軸は0.40m、

短軸0.30m、面積0.09㎡、最大厚0.08mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ後、AH１の範囲確認の際にⅣ層上面で円形の焼土の堆積を確認した。
堆積状況　焼土は暗赤褐色を呈し、炭化物を含む。堆積はレンズ状である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　遺物が出土していないが、位置と形状から縄文時代後期の焼土である。　（藤井）

CF25（図175掲載）
位置・規模　L84　急斜面部の中位、Ⅳ層直上に立地する。CF9.10,11に隣接する。確認面の長軸は0.44m、短軸0.4m、面積0.13㎡、最大深0.12mを測る。
確認・調査　急斜面部のトレンチ調査により焼土の堆積が検出された。
堆積状況　明赤褐色焼土の単純な堆積である。底面に焼けは見られない。
遺物と出土状況　遺物は出土していない
性格・時期　縄文時代中期から後期にかけての焼土である。　（藤井）

CF26（図177掲載）
位置・規模　J45　C地区中央やや東よりの平坦面に立地する。確認面の長軸は1.7m、短軸0.6m、面積㎡、最大深0.1mを測る。
確認・調査　Ⅲ層上層で焼土の範囲が確認され、全体の形状を精査したところ、２カ所に分かれた。トレンチ状に部分を掘り下げ土層断面図を作成した。
堆積状況　暗赤褐色の焼土が厚く堆積するが、底面はあまり焼けていない。
構造　底面は起伏があり、平坦な部分は少ない。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　遺物が出土していないが、縄文時代中期から後期の焼土である。　（福井）

CF28（図175掲載）
位置・規模　I82.83.J82.83　調査区西側緩斜面下部に立地し、AH19の範囲内に位置する。確認面の長軸は0.5m、短軸0.35m、面積0.08㎡、最大厚0.05mを測る。
確認・調査　AH19の床面検出時に焼土の堆積を確認した。
堆積状況　暗赤褐色焼土が主体の浅皿状の堆積である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　位置、形状から縄文時代中期の焼土である。　（藤井）

CF29（図175掲載）
位置・規模　I82　調査区西側緩斜面下部に立地し、AH19の範囲内に位置する。確認面の長軸0.32m、短軸0.28m、面積0.07㎡、最大厚0.12mを測る。
確認・調査　AH19の床面検出時に円形の焼土の堆積を確認した。
堆積状況　暗赤褐色焼土のレンズ状の堆積である。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　位置、形状から縄文時代中期の焼土である。　（藤井）

CF30（図177掲載）
位置・規模　L41　C地区最東端の緩斜面上に立地する。隣接する遺構はない。確認面の長軸0.4m、短軸0.2m、面積0.06㎡、最大厚0.05mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ時に、Ⅲ層下層で検出された。
堆積状況　明赤褐色の焼土が浅皿状に堆積する。

遺物と出土状況　遺物は出土していない
性格・時期　縄文時代中期の焼土である。（藤井）
CF31（図177掲載）
位置・規模　R48　C地区東側北寄りの緩斜面上に立地する。確認面の長軸は1.0m、短軸（0.7）m、面積（0.53）㎡、最大厚0.15mを測る。
確認・調査　Ⅲ層掘り下げ時に、Ⅲ層下層で検出された
堆積状況　明赤褐色の焼土が浅皿状に堆積する。
遺物と出土状況　遺物は出土していない。
性格・時期　縄文時代中期の焼土である。（福井）
CF32（図175掲載）
位置・規模　I82　調査区西側緩斜面下部に立地し、AH19範囲内に位置する。確認面の長軸は0.56m、短軸0.48m、面積0.21㎡、最大厚0.08mを測る。
確認・調査　AH19の床面検出時に焼土の堆積を確認した。
堆積状況　暗赤褐色焼土のレンズ状の堆積である
遺物と出土状況　遺物は出土していない
性格・時期　位置と形状から縄文時代中期の焼土である。（藤井）

4　「遺物集中」

「遺物集中」については土器集中とフレイク集中が確認された。土器集中にはPCの略号を用い、遺構番号を付したもの（例PC１）と、グリッド名を付したもの（例N76PC）とがある。また、確認当初に竪穴住居跡あるいは土坑と設定して遺物を取り上げたものの、結果的に遺構の扱いでは無くなったものについて、遺物の多く伴うものについては「遺物集中」で扱ったものがある。例えば石棒出土状況やBHの一部などが挙げられるが、個々に記述はせず一覧表により掲載した。

（土器）
PC１（図178掲載）
位置・規模　D60.61　調査区東側南寄りの平坦面に立地し、石棒出土地点に近い。確認面の長軸は1.6m、短軸0.9m、面積1.03㎡を測る。
特徴　Ⅲ層の中位で確認され、細かな破片が広範囲にわたっているが、集中度は高い。
遺物と出土状況　土器は106点あり、同一個体ではあるが復元には至らなかった。土器表面の剥離が著しく、裏面に炭化物の付着が目立つ。
性格・時期　土器片から、縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期のものである。
PC３（図179掲載）
位置・規模　P65　調査区東側北寄りの平坦面に立地し、PC52に隣接する。確認面の長軸は0.7m、短軸0.5mを測る。
特徴　Ⅲ層下部で確認され、小範囲に集中している。
遺物と出土状況　Ⅳ群Ｂ類の土器片が出土した。復原には至ってないが１個体のものである。
性格・時期　縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。
PC７（図183掲載）
位置・規模　Q58　C地区西側の平坦面上に立地し、PC８と近接する。確認面の長軸は1.5m、短軸0.8mを測る。

特徴　Ⅲ層上層で確認された。円形の集中破片が2箇所で近接したかたちで検出された。破片は大型のものが多い

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が主体を占め、復原には至っていない。石器は石鏃、削器、Rフレイク、剥片などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

PC 8（図183掲載）

位置・規模　Q58.59　C地区西側の平坦面上に立地し、PC 7と近接する。確認面の長軸は0.9m、短軸0.7mを測る。

特徴　Ⅲ層上層で確認された。円形の集中破片の状態で検出された。破片は小型のものが多い

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が主体を占め、復原には至っていない。石器は石鏃、削器、Rフレイク、剥片などが出土した

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

PC32（図182掲載）

位置・規模　G86　下段段丘面の南側平坦面上に立地し、PC32に隣接する。確認面の長軸m、短軸m、面積㎡。

特徴　Ⅲ層下層で円形に分布する土器範囲が検出された。大小の破片が混じる。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が出土したが、復原には至らなかった。石器は小礫や剥片、すり石などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

PC33（図182掲載）

位置・規模　G87　下段段丘面の南側平坦面上に立地し、PC32に隣接する。確認面の直径は0.6mを測る。

特徴　Ⅲ層下層で円形に分布する土器範囲が検出された。大小の破片が混じる。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が出土したが、復原には至らなかった。石器は小礫や剥片などが出土した

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

PC34（図182掲載）

位置・規模　I86　下段段丘面の平坦面、急斜面直下に立地する。確認面の長軸は2.3m、短軸1.0mを測る。

特徴　Ⅳ層上面にて礫を伴ったかたちで集中破片（1）の状態で検出された。

遺物と出土状況　Ⅲ群A類の土器片が出土し、大型深鉢（土器154）が復原された。礫は安山岩や凝灰岩のものが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期のものである。礫を伴うことから掘り込みを伴わないが、墓などに利用された可能性が考えられる。

PC36（図182掲載）

位置・規模　N91　下段段丘面の北西端の平坦面上に立地し、CH29に隣接する。確認面の長軸は1.6m、短軸0.8mを測る。

特徴　Ⅳ層上面にて礫群とともに検出された。大小の破片が混じる集中破片の状態である。

遺物と出土状況　Ⅲ群A類の土器が出土し、Ⅲ群A類の深鉢（土器155）が復原された。石器は削器や敲石、石核、剥片などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期のものである。

PC37（図182掲載）

位置・規模　J89　下段段丘面の中央平坦面上に立地し、PC38に隣接する。確認面の長軸は1.8m、短軸0.8mを測る。

特徴　Ⅳ層上面にて礫群とともに検出された。大小破片の入り混じる集中破片の状態である。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器が出土し、復原には至らなかったが、赤彩土器片がAH６出土のものと接合し、注口土器（土器14）が復原された。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

PC50（図179掲載）

位置・規模　M60　調査区東側中央の平坦面に立地する。確認面の直径は3.0mを測る。

特徴　Ⅲ層の中位から、分散破片（１）の状態で出土した。破片が比較的大きいものが多い。

遺物と出土状況　Ⅳ群A類の破片のみである。大型深鉢（土器139）がBH23、AH１、CH30などと接合して復原された。

性格・時期　縄文時代後期前葉、Ⅳ群A類の時期のものである。

PC51（図179掲載）

位置・規模　P61　調査区東側北寄りの平坦面に立地し、PC52,53と隣接する。確認面の長軸は0.7m、短軸0.4mを測る。

特徴　Ⅲ層下層で礫数点を伴って確認された。大小の破片が入り混じった集中度の高いものである。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が出土し、注口土器（土器33）が復原された。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。大型礫を伴うことから掘り込みを伴わないが墓として利用されていた可能性が考えられる。　（藤井）

PC52（図179掲載）

位置・規模　P62.63　調査区東側北寄りの平坦面に立地し、PC51,53と隣接する。確認面の長軸は1.00m、短軸0.60mを測る。

特徴　Ⅲ層下部から礫を伴って出土した。大きな破片が多い集中破片である。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が出土したが、復原には至らなかった。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期、Ⅳ群B類の時期のものである。礫を伴うことから墓として利用されていた可能性が考えられる、

PC53（図179掲載）

位置・規模　Q62　調査区東側北寄りの平坦面に立地し、PC51,52と隣接する。確認面の長軸は0.8m、短軸0.4mを測る。

特徴　Ⅲ層中位から下部にかけて集中破片（１）の状態で出土した。小破片が多く厚く堆積している。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が出土したが、復原には至らなかった。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

PC60（図181掲載）

位置・規模　M81.N81　調査区西側緩斜面下部に立地し、CH40に隣接する。確認面の長軸2.2m、短軸1.0mを測る。

特徴　Ⅳ層上面にて検出された。破片の大きな分散破片（１）の状態である。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器が出土し、浅鉢（土器115）が復原された。石器は楔形石器、Rフレイクなどが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。

PC85（図179掲載）

位置・規模　M70.N70　調査区東側中央の平坦面に立地する。確認面の長軸は2.00m、短軸0.70mを測る。

特徴　Ⅲ層中位から集中破片（１）の状態で検出された。

遺物と出土状況　Ⅳ群Ａ類の土器片が出土し、Ⅳ群Ａ類の深鉢（土器140）が底部を欠いた状態で復原された。石器類は剥片や小礫が出土した。

性格・時期　土器個体から縄文時代後期前葉、Ⅳ群Ａ類の時期のものである。

PC100（図181掲載）

位置・規模　P84　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、AH10、AH２の中間に位置する。確認面の長軸は1.2m、短軸0.5mを測る。

特徴　Ⅲ層下部で礫を伴った検出され、直径0.4m円形の集中が３つ並んで確認された。各の集中度は高い。

遺物と出土状況　Ⅳ群Ｂ類の土器が出土したが復原には至らなかった。礫は安山岩のもので、石器は削器、Ｒフレイク、剥片などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。

G84PC（図182掲載）

位置・規模　G84　調査区西側南寄りの急斜面部中位に立地し、確認面の長軸は1.2m、短軸0.8mを測る。

特徴　急斜面部のⅢ層下部で検出された。小破片の多い分散破片の状態である。

遺物と出土状況　Ⅲ群Ａ類の土器片が出土したが、復原には至らなかった。石器は石鏃と小礫が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群Ａ類の時期のものである。

H83PC（図182掲載）

位置・規模　H83　調査区西側南寄りの急斜面部中位に立地し、確認面の長軸は0.4m、短軸0.2mを測る。

特徴　急斜面部のⅢ層下部で検出された。小破片の多い分散破片の状態である。

遺物と出土状況　Ⅳ群Ｂ類の土器が出土したが、復原には至らなかった。小礫が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。

J82PC（図182掲載）

位置・規模　J82　調査区西側やや北寄りの緩斜面下部に立地し、AH19の範囲内に位置する。確認面の長軸は3.0m、短軸2.0mを測る。

特徴　AH19の覆土中に検出され、分散破片（１）の状態でⅣ群Ｂ類の土器が出土した。

遺物と出土状況　Ⅳ群Ｂ類の土器片が出土し、Ⅳ群Ｂ類の深鉢（土器95）が復原された。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。

M64PC（図179掲載）

位置・規模　M64　調査区西側中央の平坦面に立地する。確認面の長軸は4.0m、短軸0.8mを測る。

特徴　Ⅲ層中位から、礫を伴ったかたちで大小破片の混じった分散破片状態で出土した。

遺物と出土状況　土器片はⅣ群Ｂ類で、Ⅳ群Ｂ類の深鉢（土器84）が復原された。礫は安山岩の台石である。石器は削器や剥片などが出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。台石や細かな剥片を伴うことから、掘り込みは伴わないものの墓として利用された可能性が考えられる。

M67PC（図179掲載）

位置・規模　M67　調査区東側中央の平坦面に立地する。確認面の長軸は1.50m、短軸0.8mを測る。

確認・調査　Ⅲ層下層で検出され、大小が混じった分散破片（1）の状態で出土した。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が出土したが復原に至っていない。頁岩の剥片、安山岩の礫が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

M73PC（図180掲載）

位置・規模　M73　調査区中央部の緩斜面上部に立地し、AH6に隣接する。確認面の長軸は1.0m、短軸0.4mを測る。

特徴　Ⅲ層下部にて確認された。大小の破片が入り混じる集中破片（1）の状態で検出された。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器片が主体を占めるが、復原には至らなかった。石器類は礫と剥片が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。

M76PC・N76PC（1）（図180掲載）

位置・規模　M76.N76　調査区西側の緩斜面上部に立地し、AH14、AH15に立地する。確認面の長軸2.8m、短軸0.4mを測る。

特徴　Ⅲ層下部で礫を伴って検出された。破片の大きい集中破片（2）の状態で出土した。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器が主体を占め、鉢形土器（土器100）が復原された。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期、Ⅳ群B類の時期のものである。

N75PC（図180掲載）

位置・規模　N75　調査区中央やや北寄りの緩斜面上部に立地し、CF13に近接する。確認面の長軸は0.7m、短軸0.4mを測る。

特徴　Ⅲ層下部にてCF13と安山岩の礫を伴って確認された。小破片は集中度が高く、安山岩礫をとりまくように出土した。

遺物と出土状況　Ⅲ群A類の土器が主体を占めるが、復原には至らなかった。石器類は安山岩の礫2点のみである。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群A類の時期のものである。礫や焼土を伴うことから掘り込みを伴わないが、墓として利用された可能性が考えられる。

N76PC（2）（図180掲載）

位置・規模　N76　確認面の長軸は0.6m、短軸0.3mを測る。

特徴　Ⅲ層下部で確認された。小破片の多い集中破片（1）の状態で検出された。

遺物と出土状況　Ⅳ群の土器片が主体を占める。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期の時期のものである。

N81PC（図181掲載）

位置・規模　N81　調査区西側北寄りの緩斜面部下部に立地し、CH40に隣接する。確認面の長軸は2.0m、短軸0.3mを測る。

特徴　Ⅲ層下部で確認された。小破片の多い分散破片（1）の状態で出土した。

遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器が出土した。石器は出土していない。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。

N83PC（図181掲載）

位置・規模　N83　調査区西側北寄りの緩斜面下部に立地し、BH26、CH32に隣接する。確認面の長軸1.8m、短軸0.8mを測る。

特徴　Ⅳ層上面で礫を伴った土器の分布を確認した。破片は小破片の多い分散破片で、礫を中心に広がる

遺物と出土状況　Ⅳ群Ｂ類の土器片が出土した。礫は安山岩のもので台石・石皿も含まれる。石器は石鏃や削器が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群Ｂ類の時期のものである。

O75PC（図180掲載）

位置・規模　O75　調査区中央やや北寄りの緩斜面上部に立地し、CF17に近接し、AH６に隣接する。確認面の長軸は1.0m、短軸0.6mを測る。

特徴　Ⅲ層下部にて確認された。大きな破片が多い集中破片の状態で検出された。

遺物と出土状況　Ⅲ群Ａ類の土器片が主体を占めるが、復原には至らなかった。頁岩の剥片、安山岩の礫が出土した。

性格・時期　出土遺物から縄文時代中期中葉、Ⅲ群Ａ類の時期のものである。

P80PC（図181掲載）

位置・規模　P80　調査区西寄りの緩斜面中部に立地し、AH９、８に隣接し、AH12に近接する。確認面の長軸4.2m、短軸1.1m

確認・調査　AH012の範囲確認時にⅢ層黒褐色土中より検出された。流れ込みによりAH12の覆土上層にまで範囲が広がっている。

遺物と出土状況　Ⅲ群Ａ類の深鉢２個体（土器153と174）が集中破片（２）の状態で出土し個体として復元された。

性格・時期　Ⅲ群Ａ類土器の復元個体より、縄文時代中期中葉の時期である。

Q73PC（図180掲載）

位置・規模　Q73　調査区中央平坦面部分に立地し、CH40、AH１、AH６に近接する。範囲径0.2mを測る。

特徴　Ⅲ層上層にて遺物の集中分布を確認した。集中度の高い、集中破片（１）の状態である。

遺物と出土状況　Ⅲ群の土器片のみが25点出土し、そのうちⅢ群Ａ類土器一個体を復元することができた（写真掲載27）。

性格・時期　Ⅲ群Ａ類の接合資料により、縄文時代中期中葉の時期である。

Q85PC（図181掲載）

位置・規模　Q85　調査区西側北寄りの緩斜面部分最下部に立地し、AH２に隣接する。確認面の長軸は1.5m、短軸0.6mを測る。

特徴　Ⅲ層下部で確認された。大小の破片が入り混じる分散破片の状態で検出された。

遺物と出土状況　Ⅳ群Ａ類の土器が主体であり、破片にはまとまりがあったが個体として復原には至らなかった。

性格・時期　出土遺物から縄文時代後期前葉、Ⅳ群Ａ類の時期のものである。

CHOG-D56.57（図183掲載）

位置・規模　D56.57　Ｃ地区西側南寄りの平坦面上に立地した。確認面の長軸は2.4m、短軸1.2mを

測る。
特徴　Ⅲ層上層で確認された。広範囲であるが、集中破片（1）の状態で出土した。
遺物と出土状況　Ⅳ群B類の土器が主体を占める。深鉢2個体（土器71,89）が復原された。
性格・時期　出土遺物から縄文時代後期中葉、Ⅳ群B類の時期のものである。
CHOG236（図183掲載）
位置・規模　M59　C地区西側中央の平坦面上に立地した。確認面の長軸0.5m、短軸0.3mを測る。
確認・調査　包含層調査時、Ⅲa層を掘り下げる途中で確認した。墓の可能性もあり、トレンチを入れたが、その下位に掘り込みは確認されなかった。
遺物と出土状況　ほぼ水平に自然堆積したⅢa層中でまとまって出土した（土器194、集中破片（1））。ただ、完形のものが土圧で潰れたのではなく、完形品を壊した上でまとめて置いたものと考えられる。
性格・時期　出土遺物から統縄文時代前葉の時期のものである。（福井）

（石器）
石棒出土地点（図178掲載）
位置　D66　調査区南東側の平坦面に位置する。
確認・調査　当初、やや不明瞭な落ち込みを伴う住居跡と想定し調査していたところ、石棒が出土した。住居跡と想定された凹みはトレンチ調査により古い風倒木痕によるものと理解された。
遺物と出土状況　ほぼ水平に自然堆積したⅢb層から斜めになって出土した。先端はⅢc層に達してはいない。
堆積状況　隣接する浅い凹みは、古い風倒木で、Ⅲc層を切り、Ⅲb層が覆うことから、Ⅲb層堆積以前の形成されてものとみられる。
性格・時期　単独で出土したものであり、明確な性格付けをしかねる。しかし、遺構の分布の境界に位置し、遺物の分布も希薄になりつつある地点であることから、集落の境界に立てられていた可能性が考えられる。（福井）
フレイク集中（図181-182掲載）
フレイク集中は3箇所確認された。いずれも下段段丘面に立地し、Ⅲ層下部にて検出された。範囲は径20cm程度の小規模のものである。頁岩の剥片が遺物の主体であり、石核なども含まれた。FC1はM87、FC2はO87、FC3はI91に位置する。（藤井）

（2）遺物
1　漆製品（図184）
漆が用いられたものでは、赤彩土器が破片を含めて多数出土しているが、製品はAH6床面出土の櫛1点のみである。
赤色漆塗竪櫛：AH6の床面から1点出土した。赤色顔料として水銀朱が用いられた朱漆塗竪櫛である。断面がほぼ円形である15本の櫛歯を結束している結歯式である。櫛歯は腐食のため残存しておらず、結束材料のみが確認される。櫛頭部は台形状であり、頭部上辺の両端から上方向に伸びる輪状の装飾部を伴っている。装飾部は劣化がはげしく、頂部において繋がるかどうかは判然としない。

2　土器類（図185～221　写真図版61～100）

土器類は時期別、器種別に整理し、報告する。また、出土状況を考慮し、遺構の特徴を理解するうえで重要度の高いものから配置した箇所がある。

縄文時代後期後半（Ⅳ群Ｂ類・Ｃ類）の土器（土器12～110、120～138）

12から35はⅣ群B類の注口土器である。復原個体の内、注口土器が占める割合の高い点が、今回の調査結果の特徴の一つである。

12から15は微隆起線文を伴う赤彩土器である。文様は弧状線文で瘤状の小突起が施される。

12はAH11の床面にて小型の深鉢（土器76）を伴い、横倒しの状態で出土した。出土当時の土器内はほとんど空の状態であった。ほぼ完形の状態で出土したが、隣接するAH10の覆土中から出土した注口部分と約40mほど離れたK72グリッドのⅢ層から出土した頭部突起部分とが接合し、完形となった。いずれも接合面にはアスファルトの付着が見られた。形態はだるま形で、ドーム状の上半部分と下半部分とにわかれる。上半部分は接合した「ハサミ状」の突起部と、円筒形の口縁部、四本の棒状突起をアーチ形に組み合わせたものが直線上に配置され、この延長の下半部分に注口部がある。全面に施された微隆起線文は弧線状に配置され、その交点には上半部分では下半部分が円形の貼付瘤が施されている。赤い彩色はほぼ全面に及んでいたものと推定され口縁の内面にまで及んでいる。蛍光X線分析（Ⅳ－８）により赤彩は水銀朱であり、よく研磨された土器本来の表面上に、黒色の漆部分、水銀朱が順に塗り重ねられていたことが観察された。

13はAH12覆土出土の本体とAH７、AH16出土のものと接合した。接合の展開から割れた状態から２次的に移動があったものと考えられる。ダルマ形の器形のうち、口縁部と底部が欠損で失われている。

14はAH６の床面から本体が出土し、約70mほど離れたPC37出土の破片と接合した。口縁部と底部が離れて復原された。15はAH17覆土出土で、ダルマ形の下半部分が復原された。底部は欠損である。16、17、20はCH32の床面で出土したものである。

16は横倒しの状態で出土した。注口部分を失っているがほぼ完形の状態である。口縁部は平縁であり、頸部は刻み列によって区画され、縦位の列により無文部と羽状縄文の部分とに区画されている。胴部は羽状縄文を地文とし、沈線によって区切られた一部すり消されている。

17は完形の状態で出土した。口縁部は平縁で、頸部には２列の沈線が巡り、いずれも無文地である。胴部は羽状縄文を地文とし、沈線によって区切られた一部をすり消すことで文様を構成している。20は倒立状態で出土した。口縁部と注口部分を失っているが、頸部には刻み列が見られる。文様は沈線によって縁取られた入り組み文である。

18、19はAH５の床面から完形の状態で出土した。

18は注口部分を失っている、口縁部は無文帯になり、胴部の文様帯は羽状縄文が施されている。口唇形態は４のタイプである。

19は口縁部に２列の刻み列を巡らし、頸部には刻み列で区画された羽状縄文の文様帯が巡っている。胴部は肩の張り出すかたちで沈線によって縁取られた羽状縄文の帯が入り組んだ文様を構成している。底部との境は横走する羽状縄文の帯で区切られている。

21、22、26はAH14から出土したⅣ群B類の注口土器である。

21は覆土上層から集中破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。お供え餅形の器形で二重の刻み列により、口縁部、頸部、胴部に区画される。口縁部はやや内傾し無文である。頸部は刻みの施されたレンズ状の貼付を中心に帯縄文が巡っている。胴部は羽状縄文を沈線で縁取った帯縄文が

円形に巡ったものがいくつも展開している。注口部分は下に小突起を伴うものである。

22は覆土中に分散破片の状態で出土し、口縁から胴部の一部までを復原した。口縁には小突起を伴うお供え餅型で、貼り瘤の施されたものである。状線により、たすき状の入り組み文が描かれ、器面は黒色によく磨かれている。

23はAH12の床面から集中破片(1)の状態で出土し、完形に復原された。口縁部と頸部に刻み列が施される。口頸部はLR斜行縄文、胴部は肩の張り出す器形で、LR斜行縄文を弧状沈線によって区画し、一部を磨り消している。また。注口部を含めた4単位に縦の刻みを入れた円形の貼付が施されている。

24は遺物集中M81PCから分散破片(1)の状態で出土した。口縁部と注口部の一部を失っている。刻み列はなく、口頸部と胴部とは沈線によって区切られている。胴部の文様帯は沈線と磨り消しによる入り組み文になっており、地文は羽状縄文である。

25はAH7覆土上層より集中破片(1)の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。器形は胴部の舟形が特徴で、口頸部は直立する。文様は弧状沈線による磨り消し縄文が主体で、沈線の交点には貼り瘤が施されている。

26はAH14の床面出土のものと周辺の包含層のものが接合したものである。口頸部と胴部は直接接合しないが、口頸部は刻み列と横位の沈線により、無文帯と斜行縄文部が交互に区画されている。胴部は弧状沈線の組み合わせによる磨り消し縄文が主体である。

27はCH33の床面と覆土の破片が接合して復原されたものである。ほぼ完形の状態で復原された。口縁は外反し4突起がある。口頸部は沈線で区画され無文である。胴部は肩が張り出すかたちで、沈線で区画された斜行縄文が帯縄文として入り組んだ文様を構成している。頸部および胴部には4単位の小突起が施され、胴部の1箇所が注口部分にあたる。横走する沈線で区画された底部には無文地に格子目状の斜行沈線が施される。器面の色調はオレンジ色を呈している。

28は急斜面部グリッドLラインで分散破片(2)の状態で出土したものである。口縁部から胴上半部分のみの復原で、底部を失っている。器形はお供え餅形で、上半部分は上下を二重の刻み列で区画されている。また無文地部分には刻みのついた縦位の貼付文が施されている。下半の胴部は羽状縄文を沈線で縁取り、入り組んだ文様を構成している。

29はAH9のⅢ層から集中破片(1)の状態で出土した。底部と注口部を欠失している。多重の刻み列が特徴で、口縁部と頸部上が二重、頸部下が三重になっている。頸部には刻みの施された貼付を4箇所に伴う。胴部上半分は磨消縄文による入組文が施され、下半分はLR斜行縄文地に格子目状の斜行沈線文が施される。

30はCH30の覆土中から集中破片(1)の状態で出土した。底部を欠失しているほか、口縁の一部を打ち欠きによって失っている。羽状縄文を地文とし、磨消と沈線によって入組文を構成している。完存する注口部分は下部の突起が明瞭である。

31はグリッドL86のⅢ層から出土したものである。口縁部と注口部分が失われている。胴部の帯縄文は入り組み文からクランク状に近い文様構成である。

32、33は台付きで、口縁部が広がる広口のものである。

32はAH10、CH32の覆土上層から分散破片(1)の状態で出土したものである。中心はAH10の南壁際にある。二重の胴部の刻み列以下が残存し、口縁及び胴上半部分、注口部分を欠いている。磨り消しと沈線によって入り組み文が構成されているものの、区画内に整理されていない縄文も見られる。この個体の復原により、AH10とCH32の堆積がほぼ同時に進行していた可能性が考えられる。

33は遺物集中PC51から集中破片（1）の状態で出土した。注口部と口縁の一部を除き、ほぼ完形の状態で復原された。口縁には突起が一対と円形の窪みのある緩やかな三角突起が一対ある。口縁部と胴部に刻み列があり、胴部の刻み列を境にした上下では異なった文様構成が見られる。上半部分は並行沈線で区画された無文帯と羽状縄文帯が巡らされ、下半部では磨り消し縄文と沈線による木葉文と入り組み文が文様の主体である。また、補修孔一対が口縁部で確認されている。

34、35は包含層出土のものである。34は表面の摩耗が著しく、胴の下半部分、注口部分、口縁部分が失われ、文様は弧状の沈線と羽状縄文、貼り瘤が一部残るのみである。器形はお供え餅形で口縁部と口頸部に刻み列が残る。接合展開状況によると35は注口部分を欠くが、完形状態で出土した。口頸部は直立し、横位の沈線によ区画された無文帯である。胴上半部は羽状縄文の磨り消しで、下半部分は格子状の斜行沈線が施されている。

36～40は下部有孔土器である。

36、39はAH15の床面から集中破片（1）の状態で出土した。36は底部を除く部分が復原された。破片は細かく被熱によるものと思われた。口縁部と頸部には刻み列が巡り、これにより区画された口頸部は無文帯になっている。胴部は羽状縄文を沈線によって縁取り、磨り消した文様で、沈線の交点には小突起が貼付されている。胴下半部には小さな穿孔の痕跡が見られる。39は細かな小破片から胴部のみが復原された。弧状の沈線に縁取られた磨り消し縄文には沈線に沿って列点文が施されている。小孔は縦位の沈線と列点文に沿ったかたちで施されている。

37はCH27の床面で口縁部が細かく割れていたもののほぼ完形の状態で出土し、復原された。口縁部は無文で大きく広がり、頸部は刻み列が2列巡り、その間に小突起が4つ貼付されている。地文は磨り消し羽状縄文による入り組み文で、底部付近には帯縄文にはさまれるように小孔が見られた。底部との境には沈線で縁取られた刻み列が巡る。

38はAH12の床面で集中破片（1）の状態で出土し、完形に復原された。卵形を呈しているが口縁と底部は平坦である。口縁下にはわずかに無文帯があるがその直下を横位に斜行縄文が帯状に巡る。胴部はクランク状に帯縄文が巡っている。小孔は帯縄文の中に穿たれている。

40はAH11の床面で集中破片（1）の状態で出土し、胴部から底部までが復原された。文様は弧状の沈線に縁取られた磨り消し縄文が文様の主体である。

41、85は壺形土器である。

41はグリッドF75のⅢ層から分散破片（1）の状態で出土した。底部が欠損のまま復原された。口頸部は無文で、胴部は羽状縄文である。

85はAH17の床面で完形（2）の正置状態で出土した。口縁部分が1周分打ち欠きにより失われている。口頸部は無文帯とRL斜行縄文帯があり、胴部は縦位の羽状縄文を沈線により区画し、入り組み文を構成している。

42から57は器高30cm以上の大型深鉢である。

42は器形C1形の深鉢である。口縁部と胴部に二重の刻み列があり、約3cm幅の無文帯が頸部を巡る。地文は羽状縄文で、上半部全体に炭化物の付着が見られる。残存率は約80%で、口縁部から底部まで揃っている。AH14中央部覆土下層を中心に集中破片（B1）の状態で出土し、Ⅲ層出土の口縁部破片に接合する。Ⅳ群B2類の新段階に相当する。口唇形態は4型である。

43は器形C1形の深鉢である。口縁部と胴部に刻み列があり、刻み列間の口縁部分は無文帯になっている。胴部は厳手状に入り組んだ帯縄文が施され、底部付近には、横位の沈線によって区画された無文帯が見られる。口唇形態は4型である。

44は器形C１形の深鉢である。BH23の床面から集中破片（１）の状態で出土し、底部欠損の状態で復原された。口縁は５単位の大きな突起が広がるタイプで、口唇形態は１型である。口縁部と頸部に二重の刻み列が施され、口縁部は沈線により、上部の無文帯と下部の羽状縄文帯に分かれている。刻み列以下の胴部は弧状沈線の帯縄文による入り組み文である。接合展開の状況からは細かく破砕された後、周囲に撒かれた可能性がうかがえる。

45はMP１の床面から集中破片（１）の状態で出土し、底部欠損のかたちで復原された。口縁の突起は５単位で緩やかな波状を呈し、口唇形態は１型である。口縁と胴部に二重の刻み列が巡り、口縁直下と頸部、胴下半部には無文帯がある。口縁部分は羽状縄文、胴上半部は格子目状の斜行沈線が施されている。

46はCP134の覆土１層から集中破片（１）の状態で出土し、底部のみが復原された。器形はC１形の深鉢と推定される。胴上半部が弧状の沈線による磨り消し縄文で、下半部は格子目状の斜行沈線が施されている。

47はMP２の床面から集中破片（１）の状態で出土し、底部のみが復原された。頸部にはわずかに刻み列が残されているが、C１形の深鉢と推定される。胴部の地文はLRの斜行縄文であるが、クランク状の沈線で区画された部分が磨り消されている。

48は器形BC１形の深鉢である。AH14のⅢ層及び覆土から集中破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は５単位の鋭角な突起が波状に配置され、口縁、胴上部、胴下部に刻み列が施される。口唇形態は１型である。口縁部はRLとLRの斜行縄文が乱雑に施され、胴上半部は弧状の沈線による磨り消し縄文が巡る。下半部分はLR斜行縄文が主体である。接合展開状況からは覆土内にて破片が大きな単位で移動していることがうかがえる。

49は器形C１形の深鉢である。AH16の覆土、Ⅲ層、AH12の覆土における分散破片（１）の状態で出土した。分布中心はAH16の覆土中にある。口縁は４単位の緩やかな波状口縁で、口唇形態は１型である。口縁と胴部には刻み列が巡り、口縁部は沈線に区画された羽状縄文帯と無文帯が見られる。刻み列以下の胴部は羽状縄文が沈線によって縁取られ、クランク状の帯縄文を呈している。内面には炭化物が全面に付着し、胎土には石粒が目立つ。接合展開状況からはAH16の覆土上で破砕した後一部を抜き出しAH12の覆土上においたものとする。人為的な移動の可能性が考えられる。

50は器形C２形の深鉢である。BH23の床面から分散破片（１）の状態で出土した。口頸部の残りはよいが、胴下半部以下はほとんど残っていない。口縁は平縁で、口唇形態は１型である。口縁部と頸部には二重の刻み列が施され、直立する口縁部には羽状縄文、胴部には不明瞭であるが磨り消しの帯縄文が認められる。接合展開状況からは口頸部のみは原位置のままで、胴部が割られた後に破片が移動していることがうかがえる。

51は器形C１形の深鉢で、BH23の床面からほぼ完形の倒立状態で出土し、底部以外を復原した。口縁は５単位の緩やかな波状口縁であり、口唇形態は４型である。口縁と頸部には刻み列が巡り、口縁部は無文帯である。胴部は蕨手状の帯縄文が主体の磨り消し縄文である。

52は器形B１形の深鉢である。口縁は平縁で、口唇形態は１型である。口縁部と頸部には刻み列が巡り、口縁部はLR斜行縄文と横位の沈線で区画された無文帯が巡る。胴部は沈線によって区画された入り組み文と横位の帯縄文が施されている。

53は器形C１型の深鉢と推定される。AH10の床から倒立状態で出土し、この本体にAH11覆土上層の破片が接合して胴部から底部分が復原された。文様は磨り消し羽状縄文を沈線で区画した入り組み文が主体である。接合展開状況からは胴下半部から底部にかけての部分がAH10から出土し、胴部の

上半部分がAH11の覆土で検出されている。胴上半部分をAH11で打ち欠いた後にAH10の床に倒立状態で埋めた可能性が考えられる。

54は器形B１形の深鉢である。AH２の床面から集中破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は１型である。頸部にのみ太めの刻み列が巡り、上部の口縁部は無文帯である。胴部は地文のLR斜行縄文が施されている。口縁部には補修孔が施されている。

55は器形B２形の深鉢である。AH18の床面から集中破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁には４つの小突起が平縁に伴い、口唇形態は４型である。頸部にのみ刻み列が巡り、その上半部分は無文帯、下半部分はRL斜行縄文を地文とする文様構成である。

56は器形B１形の深鉢である。AH６の床面から集中破片（１）の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は６型である。地文は羽状縄文であるが、頸部に2.5cmほどの幅の無文帯が巡る。

57は器形C１形の深鉢である。AH14の覆土中から分散破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は１型である。LR斜行縄文を地文とするが、頸部のみには約３cmほどの無文帯が巡る。

57は器形C１形の深鉢である。AH14の覆土２層から集中破片B１の状態で出土した。地文はLRの斜行縄文であり、頸部に約２cm程の無文帯が巡る。底部を失うものの、残存率は約80%程である。内面には薄く全体に炭化物が付着しているが、外面には口縁部に少量見られるのみである。Ⅳ群B類の粗製土器である。

58～110は器高30cm以下の小型深鉢である。

58～74は口縁または胴部に刻み列を有するものである。

58、59、60はAH12の床面から完形（１）の状態で出土したものである。

58は器形BC１のほぼ完形の深鉢である。口縁は５単位の鋭角な波状口縁であり、口唇形態は１型である。口縁部には半円形の欠損部があり、人為的な打ち欠きによるものと思われる。口縁部、胴上半部、胴下半部には刻み列が巡り、口縁部には弧状の沈線文による磨り消し縄文、胴上半部分はRL斜行縄文の地文上に格子状の斜行沈線が施される。胴下半部分は無文である。内面は全体に厚く炭化物の付着が見られ、下半分は摩滅が著しい。

59は器形B１形の深鉢である。口縁は５単位の緩やかな波状口縁であり、口唇形態は４型である。突起部には欠損があり、人為的な打ち欠きによるものと考えられる。口縁と胴部には刻み列が巡り、胴上半部にはRL斜行縄文、下半部には帯縄文による入り組み文が認められる。

60は胴部から底部分のみが完形（２）状態で出土した。上部の割れ口には更に人為的な打ち欠きによる欠損が見られる。刻み列が２列巡り、地文は羽状縄文である。

61はAH６の床面で集中破片（１）の状態で出土した。５単位の鋭角な突起を持ち、口縁部と胴部に刻み列が施されている。胴部の刻み列を境に上半部分が弧状の沈線文、下半部分が鋸歯状の沈線文が地文のＲＬ斜行縄文上に施されている。

62はAH６の床面で集中破片（１）の状態で出土し、完形で復原された。５単位の緩やかな波状口縁で、口縁部と胴部には刻み列が施されている。胴部の刻み列を境に上半部分は無文で、下半部分は沈線で弧線状に縁取られた羽状縄文が入組帯縄文を構成している。また、LR斜行縄文が底部にまで施されている。

63はAH10の覆土上層から集中破片（１）の状態で出土したものに、AH２覆土出土の破片が接合し、完形で復原された。器形はＢ１形で５単位の鋭角な口縁突起と、口縁部と胴部には２重の刻み列が施されている。胴部の刻み列を境に上半部分は無文で、下半部分は並行沈線と縦位のＳ字状沈線が羽状

縄文の地文地に施されている。接合展開の状況から二つに大きく割れた破片が斜面に沿って移動している様子がうかがえ、自然による移動の可能性が強い。

64はC1形の深鉢と推定される。MP3の床面から集中破片(1)の状態で出土し、口縁部分欠損の状態で復原された。口縁部の欠損は人為的な可能性が強い。胴部に二重の刻み列が施され、RL斜行縄文の地文地に弧線状の沈線文が描かれている。

65、66、67は包含層Ⅲ層出土のものである。

65はB1形の深鉢で、分散破片(1)の状態で出土し、ほぼ完形の状態で復原された。口縁は5単位の緩やかな波状口縁で、口唇形態は1型である。口縁と胴部には刻み列が巡り、全面に沈線と磨り消し縄文による木葉文が施されている。

66はB1形の深鉢で、集中破片(1)の状態で出土し、欠損部分が大きいものの口縁から底部までを復原することが出来た。口縁は先端の尖った緩やかな波状口縁で、口唇形態は1型である。口縁は二重の刻み列、胴部には無文帯と一列の刻み列が巡っている。地文はLR斜行縄文である。

67はB1形の深鉢で、集中破片(1)の状態で出土し、欠損部分が1/3ほどで、口縁から底部までを復原することが出来た。口縁は先の尖った波状口縁で、口唇形態は1型である。胴部にのみ刻み列が巡り、その上半部分は無文帯で、下半部分は横位の沈線と縦位のS字状沈線がRL斜行縄文地に施されている。

68はB0形の鉢で、完形(1)の状態で出土した。口縁は平縁で、刻み列が巡り、口唇形態は4型である。口縁の一部は半円形に打ち欠かれ人為的な可能性が考えられる。地文はLRの斜行縄文で、弧状の沈線と斜行の沈線と組み合わされて施文されている。

69はB0形の深鉢で、集中破片(1)の状態で出土し、ほぼ完形の状態で復原された。口縁は平縁で、刻み列が巡り、口唇形態は5型である。地文はLR斜行縄文で弧線状の沈線が施されている。

70はC0形の深鉢で、AH6の床面から集中破片(1)の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は4型である。口縁には刻み列が巡り、胴部はRL斜行縄文を地文としている。

71はB0形の深鉢で、分散破片(1)の状態で出土し、底部以外の部分で復原された。口縁は平縁で、口唇形態は4型である。刻み列が1列巡る。地文はLRの斜行縄文である。接合展開状況によると破片の大きさにはばらつきがあり、一部が抜かれて移動していることがうかがえるが直接的な要因は不明である。

72はAH17床面で集中破片(1)の状態で出土した。口縁部が大きく内反する特殊な深鉢で、刻み列が1列施されている。口唇形態は1タイプである。胴部は沈線で区画された羽状縄文が地文である。底部とは横走する沈線によって区画されている。

73はMP2の覆土下層で、完形(1)の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は6型である。口縁と胴部には刻み列が巡り、上半部分は無文帯、下半部分にはLR斜行縄文地に格子状の斜行沈線が見られる。

74は台付き鉢の台部分である。AH5の覆土下層から現形のまま倒立状態で出土した。台部だけが残存し、胴部との接合部分には刻み列が見られる。文様は中央に無文帯をはさむ羽状縄文である。底部の一部には打ち欠きによると推定される半円状の欠損が見られた。倒立状態における口縁部に見立てられた可能性が考えられる。

75はB0形の深鉢で、AH12、MP4、MP3覆土の破片が接合して復原されたものである。口縁は平縁で、LRの斜行縄文を地文とする。接合展開状況によると大きく割れた破片を隣接する遺構の覆土上に人為的においた可能性がうかがえる。

76はB０形の深鉢で、AH11の床面で赤彩注口土器（土器12）に伴って出土した。ほぼ完形で横倒しの状態が確認された。口縁は５単位の緩やかな波状口縁で、口唇形態は４型である。半円形の大きな欠損が見られ、人為的に打ち欠かれたものと考えられる。補修孔が欠損よりも下に位置することから、打ち欠かれた後に、補修されたものと考えられる。文様構成は胴上半部分が無文帯で、下半部分はRL斜行縄文を地文とする。内面には炭化物の付着が見られ、放射性炭素年代測定によると3630±40ｙB.P.との結果が出た。

77、83はAH18の床面にて横倒しの状態で出土した。ほぼ完形の状態である。

77はC１形の深鉢で、口縁の一部に人為的な打ち欠きによる半円状の欠損が見られた。口縁部は平縁で、口唇形態は５型である。文様構成は胴部に沈線を境に口縁部側が無文帯で、胴部はLR斜行縄文を地文とする。

83はB１型の深鉢で、口縁は平縁で、口唇形態は５型である。文様構成は胴上半部が無文帯で、後半部がLR斜行縄文を地文とする。

78はB１形の深鉢で、AH17の覆土１層から集中破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は５型である。文様構成は口縁部が無文帯で胴部が羽状縄文を地文とする。

79はAH14の覆土中にほぼ完形の状態で出土した。口縁の一部に欠損が見られるが、人為的な打ち欠きの可能性が強い。口縁部はやや内側に狭くなるかたちで無文帯になっている。胴部は地文にＬＲの斜行縄文が施されている。

80はBC１型の深鉢である。CP164の覆土中に分散破片（１）の状態で出土した。口縁部が欠損の形で復原された。口縁部は無文で、胴上半部はRL斜行縄文を地文とし、格子状の斜行沈線が施されている。胴下半部分は無文である。

81はC１型の深鉢である。AH10覆土上層から集中破片（１）の状態で出土した。底部が欠損の形で復原された。口縁部は平縁で、口唇形態は５型である。文様構成は口縁部が無文帯で、胴部がLR斜行縄文の地文上に格子状の斜行沈線が施される。

82はB１型の深鉢で、MP５の床面から集中破片（１）の状態で出土した。ほぼ完形の状態に復原された。口縁部は５単位の小突起を持ち、口唇形態は５型である。文様構成は胴上半部が無文で、下半部がRL斜行縄文の地文上に弧線上の沈線文が施されている。

84はB０型の深鉢で、遺物集中M64PCから集中破片（１）の状態で出土した。ほぼ完形に復原された。口縁は平縁に５単位の小突起を伴い、口唇形態は５型である。RL斜行縄文を地文に斜行沈線と並行沈線文が施されている。内面には炭化物が付着する。

86は底部のみで、CH29の不明瞭な床面から出土したものである。胴部にはRL斜行縄文を地文とし、平底の底面には外側からの穿孔が見られ、この孔をとりまくように焼土と炭化物の付着が見られた。

87は包含層出土の深鉢で、分散破片（１）の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は１型である。LR斜行縄文を地文とし、並行沈線と弧状沈線が施されている。

88～108は地文の縄文のみの個体である。LR斜行縄文が88,89,91,94,95,98,99,102,106、RL斜行縄文が92,97,100,101,104,107、LRとRL両方の斜行縄文が施されているものが90,93,103,105,108、明瞭な羽状縄文が96である。器形は101,104がC０形の深鉢、102,106は浅鉢状のもので、それ以外は全てB０形の深鉢である。

88はAH７を中心にAH14とMP４出土片が接合し、ほぼ完形に復原されたものである。口縁は平縁で、口唇形態は５型であり、接合展開状況によるとAH７で削られた破片が持ち出されて移動している様子がうかがえる。

89は包含層（D56.57）Ⅲ層から分散破片（1）の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は6型であり、接合展開状況からは細かく破砕された後周辺へと移動している可能性が考えられる。

90はAH12の床面から完形のまま倒立状態で出土した。口縁の一部は人為的な打ち欠きによる半円状の欠損が見られる。口縁は平縁で口唇形態は4型である。

91はAH18の床面から完形のまま横倒しの状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は6型である。

92はMP2の床面から完形のまま横倒しの状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は1型である。口縁直下には補修孔が認められる。内面全体に炭化物の付着が認められた。

93はAH2の床面で集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で口唇形態は5型である。

94はAH14の覆土1層から分散破片（C1）の状態で出土した。Ⅳ群の深鉢（B0）。残存率は約60%程で、片面のみ口縁部から底部まで揃っている。表面は被熱による剥離が見られ、内面上半分にはコゲ状の炭化物が付着する。口縁は平縁であり、口唇形態は5型である。また、底面は凸形に突出するタイプの粗製土器である。

95はJ82PCから集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は4型である。

96はAH7の床面から分散破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原されたものである。口縁は平縁で、口唇形態は1型であり、口唇直下には補修孔が認められる。

97はAH17の覆土から分散破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は4型である。

98はAH8の覆土から集中破片（1）の状態で出土し、口縁の一部以外を復原することが出来た。口縁は平縁で、口唇形態は5型である。

99は急斜面部の包含層から集中破片（1）の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は5型である。口縁直下には補修孔も認められる。

100は鉢形で、M76PCから集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、底面にも縄文が施されている。口唇形態は5型である。

101はAH12の覆土から集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は6型である。

102はCH32の覆土から集中破片（1）の状態で出土した。口縁は4単位の緩やかな波状口縁で、口唇形態は5型であり、平面形は楕円形である。

103はAH9の覆土から集中破片（1）の状態で出土し、胴部から底部のみが復原された。

104は包含層（G86）出土のもので分散破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は4型である。

105はMP5の覆土から集中破片（1）の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は5型である。

106は鉢形のもので、口縁は平縁で口唇形態は5型である。

107はAH9の覆土から集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、口唇形態は6型である。

108はMP3の床面で集中破片（1）の状態で出土した。口縁は平縁で、口唇形態は1型である。

112～125は浅鉢に類するものである。口縁は全て平縁である。

112～118は口縁部あるいは胴部に刻み列を有し、119は縄文地に沈線文のあるもの、120～123は地文の縄文のみのもの、124,125は無文のものである。また、117と120は台付きのものである。

112はAH７の覆土中から分散破片（２）の状態で出土し、ほぼ完形で復原された。胴部の刻み列を境に上部がRLの斜行縄文帯、下部が沈線で縁取られた帯縄文である。

113は包含層（K84）Ⅲ層出土のもので、底部が欠損の状態で復原された。文様構成は上から口縁部がRL斜行縄文帯、胴部の刻み列を境に弧状沈線による磨り消し縄文、更に刻み列が１列配置されている。

114は包含層（K84）Ⅲ層から集中破片（１）の状態で出土した。口縁部は人為的な打ち欠きにより一部を失われている。文様構成は胴部の刻み列を境に上半部が無文帯、下半部が弧状の帯縄文である。

115はPC60のⅢ層から集中破片（１）の状態で出土した。文様構成は胴部の刻み列を境に上半部が無文帯、下半部が帯縄文の入り組み文である。

116はAH９のⅢ層壁際から集中破片（１）の状態で出土した。弧状に縁取られた磨り消し縄文が文様の主体であるが、底面には放射状に展開する沈線文が施されている。

117はMP４の坑底から現形のまま出土した。口縁と台部の大半は失われている。文様は弧線状の入り組み文が主体で、台部は無文であると思われる。

118はAH３覆土出土の破片にAH14覆土の破片が接合したものである。丸底が特徴で、並行する沈線に沿って２本の無文帯が認められる。

119はMP３床、AH18覆土、AH19覆土の破片が接合したものである。文様構成は胴上半部が羽状縄文帯で、下半部は帯縄文である。

120はAH７の床面から集中破片（１）の状態で出土したもので、ほぼ完形に復原された。RL斜行縄文を地文とし、口唇形態は３型である。

121はCH33とCP51の覆土から出土し、接合した。LR斜行縄文を地文とし、口唇形態は４型である。

122はAH14の覆土中から分散破片（２）の状態で出土したもので、舟形の器形が特徴である。地文は羽状縄文で、外反する口縁には小孔が見られる。

123はAH５のⅢ層から分散破片（１）の状態で出土した。口縁部には打ち欠きによる欠損が見られる。RL斜行縄文を地文とし、口唇形態は１型である。

124はAH10の覆土から集中破片（１）の状態で出土した。口唇形態は４型である。

125はAH２、CH32の覆土出土のものである。口唇形態は１型である。

126と写真掲載８は口縁直下の突瘤文が特徴であり、Ⅳ群Ｃ類に相当する。AH12Ⅲ層出土のものを主体にMP３、包含層の破片が接合して復原されたもので、底部が失われている。器形はＣ２形の深鉢であり、胴部中位に補修孔が認められる。口縁の大半が欠損であるため、口縁の一部を打ち欠いた破片をMP３やその周辺に置き、その後補修されたものがAH12の覆土上面に置かれたものと考えられる。

127から138は無文の小型深鉢類である。

127、134はAH14のⅢ層出土のもので、134は壺型である。

128は包含層（J70）Ⅲ層出土のもので、口縁が直立する。129、136、137はAH12出土のもので、129は床面から集中破片（１）の状態で出土し、136は覆土中から分散破片（１）の状態で出土した。

137はⅢ層から集中破片（１）の状態で出土した。

130,131はCH32の出土のもので130は覆土上層から集中破片（１）の状態で出土し、131は床面から完形のまま横倒しの状態で出土した。132はAH１のⅢ層から集中破片（１）の状態で出土した。

133はAH17の床面から分散破片（１）の状態で出土した。

135はグリッドN85の急斜面部Ⅲ層から出土した。

138はAH７の覆土から現形のまま出土した。口縁部が失われているが胴下半部分がふくらむ器形である。

縄文時代後期前半（Ⅳ群A類）の土器（139～149）

139～149はⅣ群A類の土器である。B、C地区における中央平坦面に集中が見られる。

139はPC50から集中破片の状態で出土したものとBH23、AH１、CH30出土の破片とが接合する。本調査で最も広範囲な接合関係である。復原は本来の約４割程度であるが、口縁から底部までの一面を復原することが出来た。器形は胴上半部がふくらみ、口縁部でわずかに外反する。口縁は平縁で、モール状の貼付帯が２重に施されている。胴上半部分が文様帯で、２本１組の沈線によって幾何学状に区画された磨り消し縄文（LR斜行縄文）が主体である。磨り消し縄文内には「く」の字状や「乙」字状の沈線が組み合わされて加えられている。胴下半部は縦ナデの無文である。

140はPC85から集中破片（１）の状態で出土した。底部が欠損の状態で復原された。器形は口縁部直下が最も張り出し、口縁部がわずかに外反する。口縁は平縁であるが、刻みのある４単位の半円状突起を伴う。文様は無文地に幾何学状の沈線が幾重にも刻まれている。

141はグリッドO68.P68のⅢ層から集中破片（１）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。器形は胴上半部がふくらみ、口縁が外反するもので、140同様の４単位の突起を伴う。胴上半部分が文様帯であり、無文地に櫛歯状工具による入り組んだ曲線状の沈線文が加えられている。胴上部には補修孔が認められた。

142はAH１の西側の堀り上げ土から集中破片（１）の状態で出土した。器形は底部から緩やかに広がり、口縁部で直立するものである。口縁の小突起に貼付文が、胴部には楕目状の条痕文を太い沈線で「ハサミ」状に縁取った文様が施される。

143は包含層（G62）Ⅲ層から集中破片（１）の状態で出土し、口縁部のみが復原された。３単位の山形の突起には深く刻みが加えられ、胴部には複雑に太い沈線が幾重にも加えられている。

144はCH44のⅢ層、覆土上層からほぼ現形の状態で出土した。口縁部を失っているが、卵形の器形とLR斜行縄文を地文に幾何学状の沈線、「はさみ」状の沈線が加えられている。底面にも無文地に「はさみ」状の沈線が加えられている。

145はCP76の覆土中に現形のまま横倒しの状態で出土した。器形はB０形で、４単位の緩やかな波状口縁である。無文地に横位の沈線と「乙」字状の沈線が２列、横位に連接する文様である。

146はAH５の覆土から集中破片（１）の状態で出土し、片面のみが復原された。器形は底部から緩やかに広がるもので、胴上半部分に文様帯がある。LR斜行縄文を地文に幾何学状の沈線が施されている。

147はBH23の覆土上層から分散破片（１）の状態で出土した。胴上半部がふくらみ、口縁がわずかに外反する器形で、４単位の緩やかな波状口縁である。文様は無節の斜行縄文が胴上半部に施され、下半部は縦位のナデにより整形されている。

148はCP73より出土した土器片を中心に、AH９、AH16、CP82の破片が接合して復元された個体である。分散破片（２）の状態で出土した。側面の四分の一と底部を欠失するが、縦位の無節による絡条体回転文を地文に、蛇行沈線文と円形曲線文が交互に配置される文様構成から、Ⅳ群A類に分類される。やや肥厚した口縁は緩やかに外反し、胴部幅以上に開くタイプで、４つの山形突起が配置される。表面の一部は剥離が著しく、口縁から胴部上半部にかけて外面にスス状の、胴部内面にコゲ状の炭化物が付着する。

149はCH41の覆土中に集中破片（１）の状態で出土したものにBH23などの破片が接合したもので

ある。底部を除いた口縁、胴部が復原された。胴上半部がふくらみ、口縁部が直立する器形で、無文である。接合展開状況からはCH41で細かく破砕された後に、破片が周辺に移動していることがうかがえる。

縄文時代中期中葉（Ⅲ群A類）の土器（150～191）

150～191はⅢ群A類の土器である。

150、151、152はAH19の壁際床面から完形（1）の状態で出土したものである。

150は花弁状の4突起を有する口縁が緩やかに外反し、底部から胴部にかけて緩やかに広がる器形である。胴上半部分は無文の貼付紐と突起の組み合わせからなる文様帯があり、地文は結束2種の斜行縄文である。

151は花弁状の4突起のある口縁が外反せず直立する。突起部には楕円形の穿孔、口唇上には斜行縄文による刻みが施される。地文は結束2種の羽状縄文である。

152は無文の深鉢ミニチュアである。4単位の小突起を有するが1つのみが残る。

153はP80PCから集中破片（2）の状態で出土した。破片は隣接する遺構の覆土にも散在し、破損後に人為的な移動があったことが伺われる。器形は底部から緩やかに広がる筒形で、4つの突起は半円状を呈し、刻みの施された貼付紐を円形にめぐらすものと水平に並べたものとの2種がある。突起からは垂下する沈線が2条1組の単位で施されている。地文は結束1種の羽状縄文である。

154はPC34から集中破片（1）の状態で出土した。底部から胴部にかけて緩やかに広がり、口縁、突起部が大きく広がる器形である。胴上半部分は縄文で刻まれた貼付紐が複雑に入り組んだ文様帯があり、地文は結束1種の羽状縄文である。口縁は4単位の弁状突起で、2箇所ずつ楕円形の穿孔があり、口唇上には斜行縄文による刻みが施される。

155はPC36から分散破片（1）の状態で出土し、口縁から底部までの片面のみを復原することが出来た。底部から胴部にかけて緩やかに広がり、口縁、突起部が大きく広がる器形である。口縁は4単位の弁状突起を伴い、口唇上は斜行縄文で刻まれている。弁状突起には縄線で刻まれた貼付紐と縄線文、穿孔が施されている。地文は結束1種の羽状縄文で、貼付紐などの文様帯は突起部に限定される。

156、157、160はCH40覆土下層でそれぞれ、集中破片（1）の状態で出土した。

156は底部から胴部へ緩やかに張り出し、口縁が外反する器形である。口縁には穿孔と突起を伴う山形の突起と横状把手を伴う棒状のものの二対が見られる。口唇上は斜行縄文によって刻まれる。地文は結束二種の羽状縄文である。

157は底部から胴部にかけて緩やかにふくらみ、口縁部の広がりも緩やかな器形である。4単位の弁状突起には穿孔と円形の貼付を挟むように「八」字状の貼付紐が施されている。口唇上、貼付紐上には同様に縄文の刻みが施されている。地文は結束二種の斜行縄文である。

160は突起の一部と胴部に欠損が見られるが、4つの弁状突起を有し、口唇に複節の刻み圧痕が縦位に施されている。胴部は下半部分が緩やかにふくらむ器形である。地文は複節の結束2種羽状縄文である。

158はCP131の覆土上層から出土した埋設土器である。集中破片（1）の状態で出土したが、口縁の一部を欠くのみでほぼ完形である。4突起が広がり、胴部が広がるのが特徴である。撚糸文の刻みを施した貼付紐と刺突列を組み合わせて口縁部にのみ文様帯を構成している。地文は結束1種羽状縄文である。

159は包含層（N71）Ⅲ層から分散破片（1）の状態で出土した。器形に歪みが見られるが胴部で張り出し、口縁で広がるタイプである。口縁は4単位の弁状突起で、口唇上は縄文によって刻まれてい

る。胴上半部分は突起部を含めて、縄文によって刻まれた貼付紐と縄線文との組み合わせによる文様帯がつくられている。地文は結束1種の羽状縄文である。

160～168は地文の縄文のみのものである。

161はAH 8 の覆土上層、西側壁際から集中破片（1）の状態で出土した。底部の大半は欠損で失われている。口縁には小孔を伴う4つの弁状突起があり、口唇は縄文により刻まれている。地文はRL斜行縄文である。

162はCP79覆土から集中破片（1）の状態で出土したもので、口縁の一部と底部が失われている。胴部中位がふくらみ、口縁部が外反する器形である。口縁には半円形の突起が4つあり、口唇とともに縄文による刻みが施されている。地文はLR斜行縄文である。

163は急斜面部（K85）の包含層から分散破片（1）の状態で出土したもので、突起および口縁の一部を欠失している。地文は結束1種羽状縄文である。

164はCH30、BH23の覆土上層から分散破片（2）の状態で出土し、接合したものである。胴部がふくらみ口縁が外反する器形で、4単位の弁状突起は内湾するものである。地文は結束1種の羽状縄文である。

165はCH39の覆土から分散破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原されたものである。胴部がふくらみ口縁が外反する器形で、4単位の突起は棒状に近い。各突起部は無文で小突起を伴う。地文は結束2種の羽状縄文である。

166はCP149の覆土中位に集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。器形は底部から胴部にかけて緩やかに広がり、折り返しの口縁部がさらに広がる。口縁部には2個1組の突起が4単位で伴い、口唇上には縄文による刻み列が施されている。地文はRL斜行縄文である。

167はCP73の覆土中に集中破片（1）の状態で出土した。底部は失われているが、胴部にかけて緩やかに広がり、口縁部のみが外反するという器形である。口縁には山形の突起を伴い、口唇上には縄文原体による刻みが施される。縦位の無節による撚糸文を地文とする。

168は急斜面部包含層（L85）Ⅲ層から斜面に沿った分散破片（2）の状態で出土し、口縁の一部を除いて復原された。4単位の突起の内2つが残る。胴部がふくらみ口縁が外反する器形で、LR斜行縄文を地文とする。

169はCH27に切られたCP61から埋設土器のかたちで出土した。底部から口縁にかけて緩やかに広がる器形であるが、底部及び貼付紐を施された4つの突起部分はすべて欠失している。地文は結束1種の羽状縄文に結節が伴うものである。

170は包含層（P、Q66）Ⅲ層から集中破片（1）の状態で出土した。底部から口縁まで緩やかに広がる器形で、縄文で刻まれた口縁は緩やかな波状口縁を呈している。結束1種の羽状縄文が地文である。

171はCP60の覆土から集中破片（1）の状態で出土したが、土坑に伴う埋設土器と考えられる。底部から胴部までの復原で、地文は結束1種の羽状縄文である。

172はCP71の覆土中から集中破片（1）の状態で出土した。復原は底部から胴部のみであり、口縁部は接合しなかった。RL原体とR原体との結束による羽状縄文を地文にしており、平底の底部にはわずかな張り出しが見られる。

173～175は沈線文が文様の主体になるものである。

173はCP88の覆土上層から集中破片（1）の状態で出土した。突起部分は全て欠損である。胴上半部分は突起部から垂下する沈線と弧状の沈線との組み合わせから文様帯を構成している。口縁は緩や

かな波状を呈しており、口唇上は縄文により刻まれている。

174はAH12とP80PCのⅢ層から分散破片（1）の状態で出土し、復原されたものである。底部から胴部にかけて緩やかに広がり、口縁がわずかに外反する器形である。口縁の突起は失われているが口唇には縄文による刻みが施されている。胴上半部には並行沈線や弧状沈線による文様帯がつくられている。地文は複節のRL斜行縄文である。

175はCH44の床面から集中破片（1）の状態で出土したものである。底部から胴部にかけて緩やかに広がり、口縁及び突起がわずかに外反する器形である。口縁には4単位の棒状突起を伴い、口唇は刺突列により刻まれている。突起部及び胴部中位には4単位の貼り瘤があり、これらを結ぶように並行沈線、弧状沈線が施される。地文は結束2種の斜行縄文である。

176～183は小型の深鉢である。

176はCP136、AH8、AH12出土破片が接合して復原された。B0型の器形で、口縁には3単位の三角形突起を伴う。無文である。

177は包含層（O68）Ⅲ層から集中破片（1）の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。底部から胴部にかけて緩やかに広がり、折り返しの口縁が更に広がる器形である。口縁には三角形の突起や橋状把手、貼付紐を伴う。胴上半部には貼付紐により文様帯が構成されている。地文はRL斜行縄文である。

178はAH12の覆土上層から分散破片（2）の状態で出土した。口縁部にのみ貼付紐が施され、地文は結束2種の斜行縄文である。

179はCH44の覆土から現形の状態で出土した。胴部がふくらみ口縁が外反する器形に、3単位と推定される波状口縁を伴う。幅広の波頂部の口唇には楕円形の窪みが施されている。地文はRLの斜行縄文である。

180は包含層（Q63,64）Ⅲ層から集中破片（1）の状態で出土した。口縁部が失われ、地文はRL斜行縄文である。

181はCH44の覆土から現形の状態で出土した。底部から口縁まで緩やかに広がる器形で、口縁の突起は失われている。口唇には縄文による刻みが施され、突起下の貼り瘤が残されている。地文は結束2種のRL斜行縄文である。

182は急斜面部（L85）のⅢ層から集中破片（1）の状態で出土した。底部から口縁まで緩やかに広がる器形で、平縁である。地文はRL斜行縄文である。

183は包含層（L71）Ⅲ層から集中破片（1）の状態で出土した。底部から口縁まで緩やかに広がる器形で、平縁である。地文はRL斜行縄文である。

184は器形B0形の深鉢である。口縁に四つの小突起がある。CH044の覆土2層より集中破片(B2)の状態で出土した。器面全体に横位の魚骨回転文（サケタイプ）が施されるが、磨耗、剥落が著しい。

185,186は急斜面部包含層出土のものである。接合展開状況は斜面部における破砕の例として掲載した。ともに底部から胴部にかけて緩やかに広がり、口縁部はわずかに外反する。

185は口縁に小突起を伴い、胴上半部は縄文により刻まれた貼付紐と円形の貼付により文様帯が構成されている。地文は結束1種の羽状縄文である。186は口縁に4単位の穿孔のある突起を伴い、口唇は縄文による刻み列が施されている。地文はRLの斜行縄文に結節が施されている。

187はCH39の覆土から分散破片（1）の状態で出土し、CH44破片と接合したものである。口縁の一部と底部が失われている。口縁は平縁で、口唇形態は7型である。胴上半部には蛇行沈線文、並行沈線文などが2本1組の沈線により構成されている。地文はRL斜行縄文である。接合展開図からはCH

39の覆土上で破砕された後、一部の破片がCH44覆土上に置かれた可能性がうかがえる。

188はAH14の覆土上層の南壁際から出土した。被熱により破片が細かいが、ほぼ完形に復原された。底部から口縁まで緩やかに広がる器形で、口縁には4つの山形突起を有する。口唇は肥厚して外反する7型で、上面には縄の押捺による沈線、刻みが施される。LR斜行縄文を地文とするが、胴上半部分にはRL斜行縄文との組み合わせにより、羽状縄文を形づくっている部分が見られる。

189はCP083の覆土中から完形状態で出土した。側面の2分の1と底部の全てを欠失している。胴部が緩やかにふくらみ、同じ幅で口縁が拡がる。口縁には4つの山形突起が配置され、その下にも突起が作られる。体部全体に縦位に櫛状工具による細かい沈線文が施されている。

190はCP49の覆土から分散破片(1)の状態で出土し、ほぼ完形に復原された。口縁は平縁で、器形は底部から胴部にかけて緩やかに広がり、口縁部は直立気味である。口唇直下に2対1組の貼付瘤があり、頸部には沈線が巡る。口唇直下、頸部、胴部上部と下部には太い刺突列が巡る。地文は結束1種の羽状部分と斜行縄文の部分がある。

191はCH44覆土中から集中破片(1)の状態で出土し、底部を除いた部分を復原することが出来た。口縁は平縁で。胴部がふくらみ、口縁部が外反する器形である。地文はLRの斜行縄文で、頸部には綾絡文が施されている。口唇形態は6型である。

Q73PC(写真掲載)　深鉢の口縁部分である。口縁部のみが、Q73PCにおいて集中破片(1)の状態で出土した。穿孔のある弁状突起に、縄文を施した貼付紐と縄線文を組み合わせた文様展開になっている。

縄文時代早期前葉の土器(192)

早期前葉の土器は掲載のもの以外確認していない、限定的な出土である。

192はCP137覆土から分散破片(1)の状態で出土し、AH15やAH13周辺のものと接合した。器形は口縁部に山形の鋭角な小突起四つを有する尖底の深鉢である。口縁から底部まで残存するが、約半分が欠損である。文様は口縁部、突起に貝殻腹縁圧痕文、胴部から底部にかけて腹縁連続波状圧痕文が施されている。内面及び胴下半の一部には貝殻条痕文が見られる。接合展開状況からはCP137が原位置であり、AH15などの後期以降の造成により攪乱されて破片が移動したと考えられる。

続縄文時代の土器(193、194)

続縄文時代の土器は前半期の恵山式のものが、B.C地区の境界周辺にて出土している。

193,194はVI群(恵山式)の鉢形土器である。

193は包含層J-70のⅢ-1層から集中破片(1)の状態で出土した。口縁部の大半と底部の全てを欠失している。口縁にはRL斜行縄文が施され、外反する。RL原体による縦走縄文が地文であるが、頸部下には横走縄文4本が巡る。

194はC地区包含層(M-59のⅢ-1層)から集中破片(1)の状態で出土した。口縁部を欠失し、頸部から横走沈線と小波状沈線が、刺突列・縄線文と組み合わせて施されている。体部にはRLの原体の縦走縄文が縞状に施され、底部は低い高台がついた揚げ底を呈している。

土製品(図221　写真掲載7)

1は異形台付土器のミニチュアでⅣ群B類の時期である。AH14の覆土中から出土した。口唇部分に欠損があるが、刻み列に縁取られた楕円形の窓状部分以下は良好に残っている。横位の刻み列と鋸歯状の沈線、無文帯などにより文様が構成されている。底部は高台状になっており、外面は丹念に磨かれ黒色の光沢がある。2、3は石鏃形の土製品である。手づくねのもので2は凸基のもので抉りが明瞭である。3(O71)は凸基であるが抉りのないものである。いずれも包含層Ⅲ層上部の出土であ

る。4から6は耳栓である。7は鐸形土製品でAH7の覆土から出土した。上部と下部に欠損部分がある。8～13はスタンプ形土製品である。14は土玉の穿孔途中のものと思われる。16～19は円盤形土製品でいずれもⅢ群A類の時期のものである。20～31はミニチュア土器である。20は下部有孔土器のミニチュアで、21は高坏形のミニチュアである。22から24はLR斜行縄文が施されたものである。22、24は鉢形土器で、23は浅鉢である。25は沈線文が施されたもので、鉢形である。26～31は無文地のものである。26～28は浅鉢、29、30は鉢形、31は張り出し形の底部である。写真掲載7は5単位の波状口縁を呈する深鉢のミニチュアである。口縁には刻みが施され、地文はRL徐行縄文である。（藤井）

3　石器類

ここでは、石器類およびアスファルト、ベンガラ、粘土について述べる。以下、遺構出土と包含出土に分け器種ごとに記載した。石器類全体に関わることについてはまとめを参照願いたい。

遺構出土の石器

B・C地区遺構からは3259点の礫・剥片を除く石器が出土し、その内615点を図示した。したがって、全体の19%でしかない。また、図示遺物の選択にあたっては、遺構床面ないし坑底出土品を優先し、さらにアスファルトが付着するもの、使用痕と考えられる光沢をもつもの、細別形態を代表するものを選別した。そのため、遺構から得られた石器の「組成」を反映するものではない。また極力各遺構から選別するよう心がけだが、遺構によって石器が記載されていないものもある。なお、一部を除き出土状況については各遺構の記載を参照願いたい。

なお、ここでは遺構出土石器を器種ごとに記載していく。遺構ごとに記載した場合調査区全体や遺構間の比較が困難なため器種ごとに分けることにした。また、遺構を覆うⅢ層についても遺構覆土出土として扱った。Ⅲ層出土石器には流れ込みも含まれると考えられるが、埋没後も凹みとして確認できる遺構が多く、廃棄等による人為的な作用も考えられるための措置である。なお、遺構ごとの「組成」は遺構別出土石器一覧表を参照していただきたい。

石器の内訳は、Rフレイクが1165点、削器が691点と多い。以下、楔形石器194点、すり石167点、敲石147点、石鏃160点、台石・石皿102点、石錐84点、つまみ付きナイフ61点、石斧片40点、北海道式石冠34点、半円状扁平打製石器31点、両面調整石器28点、石斧22点、半円状扁平打製石器原材22点、鏃状石器20点、掻器20点と続く。また石核が144点と多く、原石は71点ある。ほかは20点未満しか出土していない。重量で見ると台石・石皿609kg、すり石97.8kg、敲石57.5kg、加工痕の有る礫44.5kg、北海道式石冠29kg、原石23.3kgと礫石器が続くが、Rフレイク21.7kg、削器21.6kg、石核17.4kgがそれらに次ぐのは点数を反映している。

石材では頁岩が2305点と多く、次いで安山岩529点、黒曜石138点、チャート126点、緑色泥岩50点、玉髄47点と続く。しかし重量では安山岩が989.5kgと圧倒的となり、頁岩の67.7kgが次ぐ。

(1)　剥片石器群

石鏃（図229・230　表1　写真図版103　掲載番号12～81）

総数160点。内住居跡から128点、土坑から21点、遺物集中から11点出土した。図示したのは住居跡57点、土坑13点。石材別では頁岩が123点と多く、黒曜石21点、チャート14点、安山岩・玉髄各1点と続く。細別では、有茎鏃が121点と大半を占める。その中でも側辺が内湾するものが60点と多く、側辺が直線状のもの25点、側辺が外湾するもの14点が次ぐ。ほかに、柳葉形のもの14点、木葉形のもの

12点などがある。出土層位では床面及び坑底から出土する例は8点で、Ⅲ層87点、覆土上部で39点、覆土下部で7点、覆土として取り上げられた14点を含めても覆土全体の出土点数は50点。なお、アスファルトが付着するものは34点（21.3%）あった。

住居跡

AH－1

覆土　いずれも凸基有茎で、13の黒曜石製以外は頁岩製。12は茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。14はやや厚手で、寸詰まり。12は逆刺片側を欠損、13は先端及び逆刺片側、茎部を欠損。

柱穴　15は凸基有茎で、頁岩製。茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。先端及び茎部を欠損する。

AH－3

覆土　16は凸基有茎で、頁岩製。作りはやや粗雑。

AH－4

床面　17は凸基有茎で、頁岩製。茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。

AH－5

覆土　18・19は黒曜石製で、凸基有茎。18は先端及び茎部を欠損。20は頁岩製で、粗雑な作りの木葉形。アスファルトが素材背面側に付着するが着柄に伴うものでない可能性が高い。

AH－6

覆土　頁岩製で、22は凹基有茎、ほかは凸基有茎。21はリダクションにより小型になったものとみられる。22は精緻に調整されているが、23はやや厚みがあり粗雑な作りである。22・23はアスファルトが付着しているが、22は茎部から体部にかけて根ばさみ形に付着する。なお、茎部の欠損面にも付着する。23は茎部を、22は先端部と茎部を欠損する。

AH－7

覆土　いずれも頁岩製だが、24は円基で、25は凸基有茎、26は凹基有茎。いずれも完形であるが精緻な調整の有茎鏃に比べ、24は素材の形状を保持したまま両側を調整することによって先端を作っている。なお、24の腹面先端側にアスファルトが付着するが、着柄に伴うものではない。

AH－8

覆土　28は頁岩製の凸基有茎。茎部を破損する。茎部と体部の境界両面にアスファルトが盛り上がって付着している。茎部では体部に直交するように付着が途切れることから筒状の矢柄に茎部を挿入し、その上から接合部を補強するようにアスファルトを塗布したものとみられる。

掘上土　27は頁岩製の凸基有茎。横長剥片素材で、左側の逆刺が不明瞭。

AH－9

床面　32は頁岩製の凸基有茎。先端を僅かに欠損する。

覆土　29は凸基有茎、30・31は平基有茎、33・34は木葉形に近い逆刺の不明瞭な有茎鏃。黒曜石製の33を除き頁岩製。29・30・31は茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。29は先端と茎部、30は先端部を欠損する。

AH－10

覆土　35は頁岩製の円基。素材の形状を保持したまま周縁を調整する。

AH－12

床面　36は黒曜石製の凸基有茎の完形品。

AH－13

覆土　37・38・39は凸基有茎で、37・38が黒曜石製、39が頁岩製。40も頁岩製のかなり粗雑な製品で、素材の形状を残している。茎部を作出しようとしているが突起状になっている。両側は切断調整を行うが、切断後の調整はなされていない。37・39は茎部末端を欠損する。

AH－14

覆土　いずれも凸基有茎であるが、41・42は頁岩製、43は黒曜石製。41は粗雑な小型品。薄手の剥片の縁辺を調整することによって製品にしている。41・42はアスファルトが付着しており、特に42は茎部から体部にかけて根ばさみ形に付着する。

AH－16

床面　44はチャート製の凸基有茎であるが、素材の腹面縁辺を調整するのみで先鋭にはならず側面形状も湾曲する。45は黒曜石製の凸基有茎で、茎部を欠損する。

AH－17

覆土　48・50はチャート製で、ほかは頁岩製。51を除き凸基有茎。51は僅かに突起を持つ木葉形。47・49も素材の縁辺を調整するのみ。両者は同一母岩とみられる。47は先端側を欠損するため不明であるが、49は先端を先鋭にするまで至っていない未製品。46も素材の背面縁辺を主に調整することで整形しているが、先端は先鋭にならず掻器の刃部様を呈する。48・52には茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。48は茎部末端を、52は茎部末端と先端を欠損する。

AH－18

覆土　いずれも完形の凸基有茎で、53はチャート製で、54・55は頁岩製。

BH－23

覆土　56・57は凸基有茎で、56は頁岩製、57はチャート製。いずれも茎部を欠損し、アスファルトが茎部から体部にかけて付着する。58は頁岩製の木葉形。先端は素材の形状利用し僅かに調整するのみ。

CH－27

覆土　59は黒曜石製の凸基有茎で、茎部を欠損する。

CH－30

覆土　60は頁岩製の凸基有茎で、先端を僅かに欠損する。茎部にアスファルトが付着する。

掘上土　61は頁岩製の凸基有茎で、茎部を欠損する。茎部から先端にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。62は頁岩製の木葉形で、茎部は円基に小突起を作り出す。

CH－39

覆土　63は安山岩製の幅の狭い木葉形。横長剥片を素材にしており、先端側は背面の縁辺を調整するのみ。基部は両面調整している。

MP－1

床面　64は頁岩製の凸基有茎。完形で、茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。

覆土　65はチャート製の凸基有茎。完形で、茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。

MP－5

覆土　66は黒曜石製の凹基有茎で、基部を欠損する。67は頁岩製の凸基有茎で、体部にアスファルトが付着する。68は黒曜石製の凸基有茎で、先端を欠損する。

土坑

CH－40

覆土　いずれも頁岩製で凸基有茎。70は完形で、69は茎部、71は茎部と先端を欠損する。70は茎部に僅かに、69・71は茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。

MP－4

覆土　72は頁岩製で粗雑な細長い木葉形。背面に原石面を残す横長剥片素材の両面に調整を加えるが、形状を整えることを途中で放棄したものとみられる。73は頁岩製の凹基有茎で、茎部を欠損する。茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。74は頁岩製のやや異形の凸基有茎とみられる。石錐の可能性もあるが、茎部から体部にかけて根ばさみ状にアスファルトが付着し、先端も薄手、先鋭であるため石鏃とした。

MP－11

覆土　75は玉髄製の幅の狭い木葉形でやや厚い。

CP－65

覆土　76は頁岩製の平基有茎で、精緻に調整されている。副葬用に作られたものの可能性もある。

CP－73

覆土　77は頁岩製の凸基有茎。横長剥片を素材に、やや粗雑な調整で整形されるがやはり副葬用に作られたものの可能性がある。

CP－82

覆土　78は頁岩製の凸基有茎。横長剥片を素材に用いる。調整は素材面を残すものの、副葬用に作られたものの可能性がある。なお、茎部を欠損している。

CP－88

覆土　79は頁岩製の凸基有茎で、横長剥片を素材とする。調整は素材面を残す。

CP－98

覆土　80は黒曜石製の凸基有茎で、茎部を欠損する。先端は先鋭にならずコ字状を呈する。

CP－133

覆土　81はチャート製の凸基有茎で、茎部を欠損する。茎部から体部にかけて根ばさみ形にアスファルトが付着する。

石槍又はナイフ（図231　表1　写真図版104　掲載番号82～84）

総数4点。内訳は住居跡3点、土坑1点。図示したのは住居跡2点、土坑1点。石材別では頁岩2点、黒曜石・安山岩各1点。層位別ではⅢ層2点、覆土1点、床面1点。

住居跡

AH－2

床面　82は安山岩製で、素材は横長剥片とみられる。表面先端側には原石面が残存し、先端も先鋭にはしていない。左側縁は両面とも粗い剥離で整形する。一方、右側縁は中央に段を作り、段より先端側をやや精緻に調整する。またその右側縁先端側と両面の稜線は摩滅しておりナイフとして機能したものと考えられる。

CH－39

覆土　83は頁岩製で横長剥片を素材とする。先端側は両面から精緻に調整するが、基部側は簡単に整形するのみで素材の剥離面や打面を残す。

土坑

BH－26

覆土　84は黒曜石製で、基部側を欠損している。精緻な調整を両面に加える。

石錐（図231～233　表1　写真図版104　掲載番号85～122）

総数84点。内住居跡から73点、土坑から11点出土した。図示したのは住居跡32点、土坑6点。石材別では頁岩が80点と多く、チャート3点、黒曜石1点と続く。細別では、不定形のものが48点と最も多く、不明瞭なつまみを作出するもの14点、棒状のもの10点が次ぐ。出土層位では床面から出土したのは7点で、Ⅲ層で37点、覆土上部で19点、覆土下部で7点。アスファルトが付着するものは6点（7.1%）あった。

住居跡

AH－1

覆土　86は頁岩製で、やや厚いつまみを持つ。つまみ側には素材打面を残している。

掘上土　85は頁岩製で、石核を転用したもの。断面三角形状を呈した突出部分の広い面に両側から調整を加える。

AH－3

覆土　87は頁岩製で、素材形状のままのつまみを持つ。先端には磨耗が見られる。

AH－5

覆土　88は頁岩製で、形態は凸基有茎鏃形を呈する。素材は横長剥片を用い、腹面の湾曲が著しい。石鏃製作途中で石錐に転用したものとみられる。先端は明瞭に磨耗している。基部を僅かに欠損する。

AH－6

覆土　89・90とも頁岩製。89は縦長剥片の両側を調整し形態を整えたもの。先端は先細りにしている。90は素材面を大きく残すつまみを持つもので、素材打面も残る。一方、先端側は断面三角形になるように精緻に調整されている。先端には磨耗が見られる。

AH－7

覆土　91・92とも頁岩製。91は逆三角形状のつまみを持つもので、つまみ部に僅かにアスファルトが付着する。先端側を欠損している。92は剥片の一端を僅かに突出させたもの。先端には磨耗が見られる。打面側を欠損する。

AH－8

覆土　94は逆三角形状のつまみを持つもので、頁岩製。つまみ部両側のほかつまみ部・先端部ともに点状にアスファルトが付着している。先端は磨耗する。

掘上土　93は頁岩製で、縦長剥片の一端を断面三角形状に調整したもの。先端は磨耗する。

AH－9

覆土　95は頁岩製で、折損した縦長剥片の一端に調整を加え断面レンズ状の先端を作り出している。

AH－10

床面　98は頁岩製で縦長剥片を粗く調整して棒状にしたもの。先端は先細りになり、よく磨耗する。

覆土　96・97とも頁岩製。96は凸基有茎鏃形を呈するもの。先端は磨耗している。97は逆三角形状のつまみを持つもので、完形。先端はよく磨耗する。

AH－11

床面　99は頁岩製で、剥片の一端に調整を加え断面三角形状にするもの。腹面の一部に点状にアスファルトが付着する。

AH－12

床面　100は頁岩製で、両面を調整し棒状にしたもの。両端を使用したようで、磨耗している。一端の磨耗は著しい。

AH－13

覆土　101は頁岩製で、両面を調整し棒状にしたもの。一端の磨耗は著しい。もう一端も先鋭にしており両端を使用したようである。

AH－14

覆土　102は頁岩製で縦長剥片の一端に調整を加えたもの。打面を両面から調整し先鋭にしている。

AH－17

覆土　いずれも頁岩製。104は逆三角形状のつまみを持つもの。105は縦長剥片を調整して棒状にしたもので、106は剥片の縁辺を調整したもの。3点ともに先端の磨耗は著しい。

柱穴　103は頁岩製の剥片の一端に調整を加えたもの。先端の磨耗は著しい。

AH－18

覆土　107は不明瞭であるがやや厚みのあるつまみを持つもので、頁岩製。素材打面を残す。先端は磨耗する。108はチャート製で凸基有茎鏃形を呈する。横長剥片を素材にしている。調整は縁辺に限られ、先端の作出にまで至っていない。あるいは石鏃未製品の可能性もある。

AH－19

覆土　109は頁岩製の剥片の一端に調整を加えたもの。打面側が折れる。

BH－23

覆土　110は頁岩製で、両面を調整し棒状にしたもの。一端の磨耗は著しい。もう一端も先鋭にしており両端を使用したようである。

CH－27

覆土　111は頁岩製の剥片の一端を棒状にしたもの。つまみ側には打面が残る。機能部先端を欠損する。

CH－32

覆土　112は頁岩製で、両面を精緻に調整し棒状にしたもの。

CH－33

覆土　113は頁岩製の剥片の縁辺を調整したもの。つまみ側は背面から、先端側は腹面から調整を施す。

CH－39

覆土　114は断面三角形の頁岩製剥片の一端を調整したもの。先端は欠損している。

MP－1

覆土　115は頁岩製の削器を転用したもの。一端に両面から調整を加えて先端部とする。先端の磨耗は著しい。なお削器としての機能の結果腹面に光沢が生じている。

MP－5

床面　116は頁岩製で、両面を精緻に調整し棒状にしたもの。

土坑

MP－4

覆土　117・118とも頁岩製で、両面を調整し棒状にしたもの。いずれも中央部両側がやや膨らむ。117の先端は磨耗が著しい。118は基部側にアスファルトが点状に付着する。

CP－73

坑底　119は黒曜石製で、縦長剥片の末端を右側縁は腹面を、左側縁は背面を調整する。先端は欠損している。つまみ側には打面が残る。

CP－134

坑底　120は頁岩製の剥片の末端を両面調整したもの。先端の磨耗は著しい。

CP－169

覆土　121は頁岩製で、円基鏃形を呈する。先端はよく磨耗する。やや厚みがあるが、石鏃を転用した可能性もある。

CP－172

覆土　122は頁岩製縦長剥片の末端に調整を加えたもの。先端は磨耗する。打面側を欠損する。

つまみ付きナイフ（図233～237　表1・2　写真図版105・106　掲載番号123～164）

総数61点。内住居跡から55点、土坑から6点出土した。図示したのは住居跡38点、土坑4点。石材別では頁岩が52点と多く、チャート5点、黒曜石4点と続く。細別では、背面の縁辺を調整するものが13点と多く、両面の縁辺を調整するもの10点、背面の全面を調整したもの9点が次ぐ。出土層位では床面から出土したのは8点で、Ⅲ層で20点、覆土上部で16点、覆土下部で10点。アスファルトが付着するものは16点（26.2%）あった。

住居跡

AH－2

覆土　123は頁岩製で、幅の狭い縦長の短冊状を呈する。背面左側に調整を施し、素材末端をつまみ部とする。抉り部背面には帯状にアスファルトが付着する。

AH－4

覆土　124は頁岩製で、素材末端をつまみ部とする。背面では素材背面に残るちょうつがい状ネガ面を抉りに利用している。腹面抉り部にアスファルトが付着する。125は黒曜石製で、横長剥片を素材とする。形状は三角形を呈し、両面の縁辺を調整する。

AH－6

床面　126は頁岩製で、横型。横長剥片を素材にし、背面末端部に調整を施す。左辺を欠損する。

AH－7

覆土　127・128・129とも頁岩製。127は両面調整するが、右側縁で背面を、左側面で腹面を調整する。なお末端は両面から調整し弧状を呈する。128は右側腹面のみ調整するもので、抉り部の調整が粗雑。129は素材末端をつまみ部とするもので、背面縁辺に微細な調整がなされる。抉り部にアスファルトが付着する。130は黒曜石製で、両面を調整する。ただ右側の調整は背面に限られる。産地分析の結果は赤井川産。

AH－8

覆土　131はチャート製で、背面両側を調整する。抉り部には紐状にアスファルトが付着する。

AH－9

覆土　132は頁岩製で、横長剥片素材の両面を調整する。素材末端をつまみ部にした横型。抉り部背面にはアスファルトが付着する。

AH－10

覆土　133は頁岩製で、形状は三角形を呈する。末端は両面を調整し、特に背面部分は精緻に調整している。また抉り部にはアスファルトが付着している。左辺の一部を欠損する。

AH－12

床面　134・135とも頁岩製で短冊状を呈する。134は背面両側を調整するが、右側は微細剥離に留まる。135は素材末端をつまみ部とするもので、下半部で両側縁を両面調整する。2点とも抉り部にはアスファルトが付着している。

AH－13

覆土　136は頁岩製で、形態は三角形を呈する。背面両側を平行調整している。抉り部にはアスファルトが付着する。

AH－14

覆土　137はチャート製。左側は背面、右側は腹面を調整する。右辺を欠損する。

AH－15

覆土　138は頁岩製で、抉り部以外に顕著な調整はされない。両側縁に微細剥離がみられる。末端を欠損する。

AH－16

床面　139は頁岩製で、幅広の短冊形を呈する。素材末端は両面調整するものの、両側は背面のみの調整。

AH－17

覆土　140～143とも頁岩製で、いずれも調整は背面に限られる。141は三角形を呈するもので、背面のほか末端部腹面を僅かに調整する。142は横型。素材は縦長剥片で、打面を残す。143は素材末端をつまみ部とするもので、腹面に僅かにアスファルトが付着する。

AH－18

覆土　144は頁岩製で、素材末端をつまみ部とするもの。調整は両側縁に施す。

AH－19

覆土　145は頁岩製で、横長剥片素材のもの。打面のほかは背面のみ調整するが、形態は不整である。

CH－29

床面　146は頁岩製で、器体の大半を石材の風化部分が占める。よって調整は左側縁の珪質部分に限られる。

CH－30

覆土　147～149はともに頁岩製。147は三角形状を呈するもの。148・149は素材末端をつまみ部とするもので、148の抉り部にはアスファルトが付着する。

CH－32

覆土　150・151は頁岩製。150の抉り部には帯状にアスファルトが付着する。151は素材末端をつまみ部とするもの。152は黒曜石製で、横長剥片を素材とする。両面調整されるが、腹面は打瘤の膨らみを除去するための調整に限られる。つまみ部の一部を欠損する。

CH－33

柱穴　159はチャート製で、素材末端につまみ部を持つもの。調整は左側を主体になされる。

覆土　153・154とも頁岩製。153は横型で、三角形状を呈する。調整は両面なされるが、素材打面を残す。154は縦長剥片素材で、腹面右側を調整する。

CH－44

柱穴　155は頁岩製で、素材末端を両面調整する。

MP－2

床面　156は頁岩製で、背面のみ調整するもの。

MP－3

床面　157はチャート製で、横長剥片素材。右側両面にアスファルトが付着するが着柄に伴うものではないと考えられる。158は頁岩製で、三角形状の素材形態を保持する。

土坑

MP－10

覆土　160はチャート製で、縦長剥片に抉りを加えつまみ部としただけのもの。

CP－21

覆土　161は頁岩製で、短冊形を呈する。調整は右側縁に限られる。

CP－116

覆土　162は頁岩製で、素材末端をつまみ部とするもの。調整はほとんどなされず、縦長剥片に抉りを加えつまみ部とする。抉り部には帯状にアスファルトが付着する。163は黒曜石製で、短冊形を呈する。素材端部につまみ部を作出しており、調整は両面に施す。

CP－127

覆土　164は頁岩製で、薄手の縦長剥片に簡単な抉りを入れてつまみ部となすもの。

筈状石器（図237・238　表2　写真図版107　掲載番号165～178）

総数20点で、全て住居跡から出土した。図示したのは14点。石材別では頁岩が16点と多く、チャート4点と続く。細別では、凸形が8点と多く、撥形5点、滴形4点が次ぐ。出土層位では床面から出土したのは1点で、Ⅲ層で12点、覆土上部で4点、覆土下部で2点。

住居跡

AH－1

覆土　165は頁岩製で、滴形を呈するもの。背面を調整することにより形態を整えている。刃部は腹面側を主に調整し、背面は厚みを減じるための調整が施されるのみ。166はチャート製で、凸形を呈する。素材は横長剥片を用いる。調整はつまみ部中央に素材面が残されるのみ。刃部は直線状を呈し、断面Ｖ字形を呈する。基部を欠損する。

AH－5

覆土　167は頁岩製で、洋ナシ形を呈する。素材打面を刃部に当て、弧状に調整する。断面レ字形を呈する。

AH－6

覆土　168・169とも頁岩製。168は撥形を呈する。横長剥片を用い、両面調整で器体を整形する。体部は断面レンズ状をなすように調整するが、刃部は主に背面を調整し断面レ字形を呈する。169は凸形を呈し、つまみ側を欠損する。刃部は直線状で、断面はレ字形に近いＶ字形。

AH－7

覆土　170は頁岩製で、凸形を呈する。刃部は直線状で、断面はＶ字形。

AH－10

覆土　171は頁岩製で、撥形を呈するがトランシェ様石器に類似するもの。調整は側縁に限られ、刃部には微細な剥離が見られるのみ。刃部は直線状で、断面Ｖ字形。

AH－14

覆土　172・174はともに頁岩製。172は滴形を呈し、両面調整で整形する。刃部は腹面側を主に調整

し、背面は厚みを減じるための調整が施されるのみ。174は撥形の礫を素材とし、刃部のみ片面調整したもの。173はチャート製で滴形を呈する。主に刃部を両面調整する。基部を欠損する。

AH－17

覆土　175は頁岩製で、凸形を呈する。つまみ部以外の調整は厚みを減じるためのもの。刃部は直線状で、断面は羽状。

AH－18

覆土　176は頁岩製で、凸形を呈する。刃部はやや凹凸のある直線状で片面調整。断面は羽状。

CH－32

覆土　177はチャート製で、洋ナシ形を呈する。刃部は弧状で、断面Ｖ字形を呈する。

CH－33

覆土　178は頁岩製で、凸形を呈する。刃部は直線状で、断面Ｖ字形。

掻器（図238　表2　写真図版107　掲載番号179～188）

総数20点。内住居跡から19点、土坑から１点出土した。図示したのは住居跡９点、土坑１点。石材は全て頁岩。出土層位では床面から出土したのは２点で、Ⅲ層で11点、覆土上部で４点。アスファルトが付着するものは１点（５％）あった。

住居跡

AH－1

覆土　179～181はいずれも頁岩製。179は縦長剥片を素材にし、主に背面側縁を調整する。末端から素材下半の側縁にかけて急斜度剥離により刃部を形成している。右縁上半では剥離の大きさを変え段となす。左縁上半では調整面を腹面に転じている。180は剥片の元々急斜度をなす剥離面に急斜度の刃部を形成するもの。刃部の一部及び末端折れ面とその周囲にアスファルトが付着する。181は三角形を呈し、三側縁とも背面に急斜度調整を加える。素材打面側では突起を二つ作るように調整され、左側及び末端は直線状に調整される。

AH－9

覆土　182は頁岩製で、剥片末端に急斜度剥離を加えるもの。調整は刃部背面に限られる。

AH－17

覆土　183・184とも頁岩製。183は剥片打面側に刃部を形成するもの。調整は刃部背面に限られる。素材末端側を欠損する。184は剥片の両端及び右側縁を切断し、左側縁を刃部とするもの。基部となる右側縁は切断後腹面を調整する。

BH－23

覆土　185は頁岩製で、粗い剥離により器体を調整する。あるいは石核を素材に転用した可能性もある。細部調整は刃部に限られる。

CH－32

床面　186は頁岩製で、剥片端部に刃部を形成するもの。側面調整はわずかで、素材上部両側縁に浅い抉りを入れている。

MP－3

床面　187は頁岩製で、両面を粗い調整で整えるもの。細部調整は刃部に限られる。素材の形状が歪で、刃部が反り返る。

土坑

BH－26

覆土　188は頁岩製で、剥片端部に刃部を形成するもの。末端部及び右側縁には平行剥離がなされるが、左側縁は微細な剥離が見られるのみ。

削器（図239～255　表2・3　写真図版107～114　掲載番号189～328）

総数691点。内住居跡から622点、土坑から49点、遺物集中から20点出土した。図示したのは住居跡122点、土坑20点。石材別では頁岩が668点と多く、チャート13点、黒曜石4点、安山岩3点、泥岩2点、玉髄1点と続く。細別では、直線状の刃部を有するもの283点、外湾する刃部を有するもの261点が多く、尖頭部をもつもの66点、急斜度の刃部を持つもの35点、内湾する刃部を持つもの35点が次ぐ。出土層位では床面から出土したのは90点で、Ⅲ層で306点、覆土上部で128点、覆土下部で71点。アスファルトが付着するものは29点（4.2%）、光沢をもつものは45点（6.5%）あった。

住居跡

AH－1

床面　197は頁岩製で、右側縁背面に直線状の刃部を形成している。

覆土　189はチャート製で、右側縁背面に弧状の刃部を形成している。腹面は左側縁及び末端側の切断面より階段状剥離で厚さを減じようとしている。190～196はいずれも頁岩製。190は大型の剥片を素材に、左側縁背面に弧状の刃部を形成する。刃部を被熱し、タール状の付着物が見られる。191は横長剥片を素材にし、左側縁から末端部にかけて腹面を調整し弧状の刃部とする。192は左側縁背面に緩やかに弧状を描く刃部を形成している。形態は三角形状を呈し、刃部は急斜度調整がなされている。193は薄手の剥片の両側縁背面に刃部を形成している。左側縁は弧状を呈すが、右側縁は不整である。また腹面に僅かにアスファルトが付着する。194は左側縁に緩い弧状を描く刃部を形成している。刃部形成剥離はやや急斜度。背面打面側にアスファルトが付着する。195は三角形状の素材の両側縁中央部両面を調整している。196は短冊形素材の両側縁背面を調整し、直線状の刃部とする。調整は、左側縁が素材末端側、右側縁が素材打面側に限られる。腹面打面側に僅かにアスファルトが付着する。

AH－2

柱穴　198は頁岩製で、両端を欠損するものの左側縁背面に弧状の刃部を持つ。左側腹面に光沢が見られる。

覆土　199は頁岩製で、両側縁背面に直線状の刃部を持つ。

AH－3

覆土　200は頁岩製で、横長剥片を素材とする。刃部は打点から右側縁にかけて弧状に作る。

AH－4

床面　202はチャート製で、ほぼ短冊形を呈する。刃部は右側縁背面に直線状に作られる。203・204はともに頁岩製。203は素材末端左側を切断し、ほぼ三角形に整形した後右側縁腹面に刃部を形成している。刃部は直線状を呈し、末端では両側からの調整で先鋭にしている。204は三角形状の素材の両側縁背面を調整し、いずれも弧状の刃部にしている。

覆土　201は頁岩製で、左側縁に弧状の刃部を持つ。刃部は急斜度剥離により形成され、器体の湾曲とともに掻器的な機能が想定される。素材末端腹面にアスファルトの付着が見られる。

AH－5

覆土　205・206とも頁岩製。205は縦長剥片左側縁背面を調整し、弧状の刃部を形成している。206は

縦長剥片の左側縁背面に急斜度剥離で刃部を形成している。全面に点々とアスファルトとみられるものが付着している。

AH－6

床面　209・210はともに頁岩製。209は縦長剥片の右側縁背面に弧状の刃部を形成する。末端では急斜度剥離となっている。210は縦長剥片の末端側両側縁背面を調整し刃部とする。左側縁は急斜度剥離による調整、右側縁は鋸歯状の調整となっている。

覆土　207・208はともに頁岩製。207は左側縁両面を調整し、弧状の刃部とする。打面側には両側に浅い抉りが入るためつまみ付ナイフとした可能性もある。器体両面にはアスファルトが点々と付着する。付着部周囲には油分が染み込んだしみも見られ、当時はかなりべったりと付着していたものとみられる。208は縦長剥片の右側縁背面を調整し弧状の刃部としたもの。

AH－7

覆土　219の安山岩製を除き、ほかは頁岩製。211は打面側を欠損するものの、両側縁及び末端背面に調整が加えられる。両側縁の調整は粗く、末端の調整は精緻であることから篦状石器の可能性もある。212・213・217～221は弧状の刃部を作るもの。214・216は直線状の刃部を作るもの。215は三角形状の縦長剥片の両側縁を調整し、末端を先鋭にするもの。

AH－8

覆土　222は頁岩製で、左側縁背面に急斜度剥離を加え刃部としている。打面側も入念に調整し、端部と同様な形態に整えている。右側縁は部分的に調整がなされる。

AH－9

柱穴　232は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。末端側を欠損する。

覆土　223～231はいずれも頁岩製。223～226は直線状の刃部を持つもの。その内224には刃部中央両面に明瞭な光沢が見られる。227・229～231は弧状の刃部を持つもの。229の背面に点状にアスファルトが付着している。230は横長剥片素材。228は右側縁背面に急斜度剥離で刃部を作るもの。器体も湾曲している。223・226は末端を欠損する。

AH－10

床面　234は頁岩製で直線状の刃部を持つもの。

覆土　233は頁岩製で、内湾した刃部を持つもの。打面側背面にアスファルトが付着する。

AH－11

床面　235・236とも頁岩製。235は素材右側縁腹面を主に調整し、左側縁背面に微調整を加えて三角形状にする。末端はやや先鋭。236は両側縁及び末端を調整し、直線状の刃部とするもの。

AH－12

床面　238～243はいずれも頁岩製。238・240は弧状の刃部を持つもの。238の末端は直線状になる。240は横長剥片素材で、刃部は両面調整によるもの。239は内湾する刃部を持つもの。241・243は直線状の刃部を持つもの。241は屈曲した末端側左側縁背面に入念な平行剥離を行っている。242は短冊形の素材左右両側縁に調整を加え刃部とするもの。

柱穴　237は頁岩製で、素材右側縁背面を内湾状に調整し、左側縁腹面を微調整することで三角形にする。末端はやや先鋭。右辺を欠損する。

AH－13

床面　249・250は頁岩製。249は横長剥片素材で、末端に弧状の刃部を持つもの。250は左右両側縁背面を調整し、三角形を呈するもの。末端は先鋭にし、腹面末端には末端側からの剥離が見られること

から、錐として機能した可能性がある。

覆土　244～248はいずれも頁岩製。244は左側縁腹面を調整し、内湾した刃部とするもの。245・247は直線状の刃部を持つもの。246・248は弧状の刃部を持つもの。247は両側両面に光沢が見られる。244は末端が、248は右辺が欠損する。

AH－14

床面　255は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。両側縁中央腹面には階段状剥離が見られ、当初は楔形石器として機能したものとみられる。

覆土　251～252・254は頁岩製。251は左側縁背面を調整し、内湾した刃部とするもの。器体全面にアスファルトが付着する。252は両側縁を調整し、三角形にするもの。先端は先鋭になっている。254は左側縁末端側背面に急斜度剥離を加えるもの。253はチャート製で、弧状の刃部を持つもの。右側縁の刃部は両面を調整している。

AH－15

覆土　256～258は頁岩製。256・258は弧状の刃部を持つもの。256は背面に原石面を残し、器体もほとんど風化部にあたる。腹面末端には点状にアスファルトが付着する。258は横長剥片素材で、刃部を末端に当てる。257は縦長剥片の両側縁を調整しているが、末端を欠損している。両側縁とも打面側は主に背面の調整で断面かまぼこ形に整えるが、欠損面側は両面調整により断面レンズ状にしている。篦状石器の欠損したものの可能性もある。

AH－16

床面　259はチャート製、260・263・264は頁岩製、262は黒曜石製。259・262は三角形を呈し、末端を先鋭にするもの。260は内湾した刃部を持つもの。263は左側縁末端に急斜度剥離を持つもの。264は直線状の刃部を持つもの。262は分析の結果十勝産とされた。

覆土　261は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。

AH－17

床面　276は頁岩製で、右側縁背面に急斜度剥離を施すもの。

覆土　265～275はいずれも頁岩製。265・267・268・275は三角形状を呈し、先端を先鋭にするもの。265は横長剥片を素材にし、打面は剥離で除去している。右側縁背面は急斜度剥離がなされる。また光沢が右側縁に僅かに見られる。268は末端が突出するように先鋭にされ、錐として機能した可能性が高い。275の腹面打面側にアスファルトが僅かに付着する。266・271・274は弧状の刃部を持つもの。266は左側縁打面側を両面調整している。269は短冊状の素材両側縁を調整するもの。打面側には僅かに抉りが入れられ、つまみ付きナイフの可能性がある。270は直線状の刃部を持つもの。273は末端側を欠損するものの、短冊形の素材両側縁に刃部を形成するもの。270・272・273は同一母岩とみられる。

AH－19

床面　277・278は頁岩製。いずれも弧状の刃部を持つもの。277は末端を欠損する。

覆土　279は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。末端は折損後、背面側から調整を加え掻器状の刃部となす。

AH－20

床面　280は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。打面側を大きく欠損する。

BH－23

覆土　281は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。腹面末端側にアスファルトが付着する。

CH－27

床面　282・283はいずれも頁岩製。282は直線状の刃部を持つもの。調整は左側縁腹面になされ、左側縁両面中央部に光沢がみられる。283は弧状の刃部を持つもので、末端を欠損する。

CH－29

床面　284～287はいずれも頁岩製。284は打面側を先鋭にするように調整したもの。両側縁背面の調整は急斜度剥離。背面には点状にアスファルトが付着する。285・287は弧状の刃部を持つもの。287は横長剥片を素材とする。286は短冊形を呈し、直線状の刃部を持つ。

CH－39

覆土　288は頁岩製で、内湾した刃部を持つもの。末端を欠損する。

CH－44

床面　291は頁岩製で、末端側を大きく欠損するもの。弧状の刃部を持つとみられる。

柱穴　289は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。右側縁腹面中央部に光沢がみられる。

覆土　290は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。打面側を欠損するものの、両面に著しい光沢がみられる。

CH－45

床面　293・294・295・296は頁岩製。293は弧状の刃部を持つもの。294は左側縁が直線状、右側縁が弧状の刃部を持つもの。295・296はいずれも2点が接合したもので、内湾した刃部を持つ。295は覆土出土の末端側に接合したもので、右側縁腹面中央部に光沢がみられる。

覆土　295の末端側は床面出土打面側のものと接合している。

CH－46

柱穴　297・298はいずれも頁岩製。297は右側縁打面側背面に急斜度剥離を施すもの。末端側は欠損し、右側縁欠損側腹面にも平坦剥離を施す。298は直線状の刃部を持つもので、打面側を欠損する。

覆土　299は頁岩製で、三角形を呈する素材左側縁を直線状に調整するもの。末端はやや先鋭。左側縁中央部腹面に光沢が見られる。

MP－1

床面　300・301はともに頁岩製。300は弧状の刃部を持つもの。301は両側縁を調整し、半月形を呈する。左側縁背面末端側には急斜度剥離がなされる。腹面には一部アスファルトが付着する。

MP－2

床面　302は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。

MP－3

床面　303～306はいずれも頁岩製。303は直線状の刃部を持つもの。304は弧状の刃部を持つもの。305・306は末端両側縁を調整しやや先鋭にするもの。

MP－5

床面　308は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。打面側を欠損する。

覆土　309・311は頁岩製で、310は黒曜石製。いずれも直線状の刃部を持つもの。309の背面及び末端には一部アスファルトが付着する。なお、311の打面側両面には褐鉄鉱が付着する。

土坑

CH－45HP－1

覆土　292は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。右側縁両面中央部には光沢がみられる。

MP－4

覆土　307は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。

MP－11

覆土　312は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。左側縁両面中央部に光沢がみられるが、その部分の刃部は緩く内湾している。末端側を欠損する。

CP－26

覆土　313は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。右側縁腹面中央部に光沢がみられる。

CP－65

覆土　314は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。

CP－82

覆土　315は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。両側縁腹面中央部に光沢がみられる。末端を欠損する。

CP－88

覆土　316・317はともに頁岩製。316は直線状の刃部を持つもので、左側縁腹面中央部に光沢がみられる。なお調整は末端部で弧状になされる。317は弧状の刃部を持つもの。

CP－91

覆土　318は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。左側縁両面中央部に光沢がみられる。打面側を欠損する。

CP－98

覆土　319は頁岩製で、弧状の刃部を持つもの。ノッチ状の調整が、左側縁背面では打面側と末端側、右側縁腹面では打面側にみられる。

CP－108

坑底　320は頁岩製で、打面側を欠損するものの三角形を呈するものとみられる。

CP－128

覆土　321は頁岩製で、末端側を欠損するものの直線状の刃部を持つものとみられる。

CP－134

覆土　322は頁岩製で、右側縁腹面側に内湾した刃部を持つもの。左側縁は直線状の刃部とノッチ状の調整が見られる。

BP－138

覆土　323は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。左側縁腹面中央部には光沢がみられる。末端を欠損する。

CP－159

覆土　324は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。左側縁腹面中央部に光沢がみられる。

CP－172

覆土　325は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。左側縁両面中央部に光沢がみられる。また、両面に付着物が見られるが、アスファルトではない可能性が高い。

CP－173

覆土　326は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。横長剥片素材の末端部を刃部に当てる。両辺を欠損する。

CP－174

覆土　327は頁岩製で、やや内湾した刃部を持つもの。

CP－178

覆土　328は頁岩製で、直線状の刃部を持つもの。横長剥片素材の末端部を刃部に当てる。打面側腹面は打瘤を除去するように調整している。

両面調整石器（図255・256　表3　写真図版115　掲載番号329～336）

総数28点。内住居跡から25点、土坑から1点、遺物集中から2点出土した。図示したのは住居跡8点、土坑1点。石材別では頁岩が22点と多く、黒曜石4点、安山岩2点と続く。細別では、木葉形のものが16点、石槍様のもの2点がある。出土層位では床面から出土したのは2点で、Ⅲ層で13点、覆土上部で3点、覆土下部で5点。アスファルトが付着するものは1点（3.6%）あった。

住居跡

ＡＨ－3

覆土　329は黒曜石製で、横長剥片を木葉形に調整するもの。両面を調整剥離で覆うが、背面には原石面残す。先端にあたる部分が欠損する。

ＡＨ－10

覆土　330は頁岩製で、木葉形に調整されるもの。右側縁及び左側縁打面側を調整し、打面側をやや先鋭にする。

ＡＨ－12

覆土　331は安山岩製で、2点が接合したもの。両端をさらに欠損するため元の形状は不明。

ＡＨ－13

覆土　332は頁岩製で、木葉形に粗く調整されるもの。末端側をやや先鋭にする。

ＢＨ－23

覆土　333は頁岩製で、木葉形に粗く調整されるもの。打面側は切断調整、右側縁腹面には階段状剥離が見られる。末端側を先鋭にしようとしている。

ＣＨ－30

覆土　334は頁岩製で、木葉形に粗く調整されたもの。腹面の一部にアスファルトが付着する。打面側をやや先鋭にしている。

ＭＰ－5

覆土　335は頁岩製で、木葉形に粗く調整されたもの。先端は素材の形状を生かし、左側縁から末端にかけての腹面を調整している。

土坑

ＣＰ－134

覆土　336は頁岩製で、木葉形に粗く調整されたもの。先端は素材の形状を生かしている。

楔形石器（図256・257　表3　写真図版115　掲載番号337～378）

総数194点。内住居跡から173点、土坑から12点、遺物集中から8点、焼土から1点出土した。図示したのは住居跡37点、土坑4点、遺物集中1点。石材別では頁岩が128点と多く、黒曜石51点、チャート14点、玉髄1点と続く。細別では、剥片素材で対向する二側縁に剥離が見られるもの94点が多く、剥片素材で対向する四側縁に剥離が見られるもの79点が次ぐ。出土層位では床面から出土したのは32点で、Ⅲ層で90点、覆土上部で34点、覆土下部で13点。アスファルトが付着するものは7点（3.6%）あった。

住居跡

AH－1

床面　337は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。ただ右側縁は欠損している。

AH－2

床面　338は頁岩製で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。

覆土　339は黒曜石製で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。

AH－4

床面　341は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。打面側両面にアスファルトが付着している。

覆土　340は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。末端側背面にアスファルトが付着している。

AH－5

覆土　342は黒曜石製で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。

AH－6

床面　346は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。その内三側縁は平坦な折れ面から剥離している。

掘上土　343は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。打面側背面にアスファルトが付着する。

覆土　344･345は頁岩製で、いずれも対向する四側縁に剥離が見られるもの。344は腹面側、345は両面にアスファルトが付着する。

AH－7

覆土　347･348は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。

AH－9

覆土　349は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。そのうち二側縁は平坦な面から剥離している。

AH－10

床面　350は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。そのうち二側縁は平坦な面から剥離している。両面に点状にアスファルトが付着する。

AH－11

床面　351は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。そのうち三側縁は平坦な面から剥離している。

AH－12

床面　352は黒曜石製で、対向する二側縁に剥離が見られ、側縁に樋状剥離面のあるもの。分析により所山産とされた。

AH－14

覆土　353･354はともに黒曜石製。353は対向する二側縁に剥離が見られ、側縁に樋状剥離面のあるもの。354は対向する四側縁に剥離が見られるもの。分析により所山産とされた。355は頁岩製で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。両側縁とも平坦な面から剥離している。

AH－15

覆土　356は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。そのうち三側縁は平坦な面から剥離

している。

ＡＨ－16

床面　357はチャート製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。そのうち一側縁は平坦な面から剥離している。358は黒曜石製。片面が原石面で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。

ＡＨ－17

床面　364は黒曜石製。片面が原石面で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。

覆土　359・361・366は黒曜石製。いずれも片面が原石面。359・361は対向する二側縁に剥離が見られ、366は対向する四側縁に剥離が見られる。359は側縁に樋状剥離もみられる。360・362は頁岩製で、いずれも対向する四側縁に剥離が見られるもので、一側縁が欠損している。360が二側縁、362が一側縁で平坦な面から剥離している。363・365はチャート製で、いずれも対向する四側縁に剥離が見られるもの。360は一側縁が欠損している。

ＡＨ－18

床面　367・368は頁岩製で、ともに対向する二側縁に剥離が見られるもの。いずれも被熱している。367は一側縁を欠損する。

ＭＰ－２

柱穴　369・370は黒曜石製で、いずれも片面に原石面を持ち、対向する二側縁に剥離が見られるもの。369は一側縁が平坦な面から剥離している。

ＭＰ－３

床面　371～373は黒曜石製。371・373は対向する二側縁に剥離が見られるもので、二辺とも平坦な面から剥離している。372は片面に原石面を持ち、対向する二側縁に剥離が見られるもの。分析の結果所山産とされた。

土坑

ＢＨ－42

覆土　374は黒曜石製で、片面に原石面を持ち、対向する二側縁に剥離が見られるもの。

ＣＰ－82

覆土　375は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。両面にアスファルトの付着が見られる。

ＣＰ－108

覆土　376は頁岩製で、対向する四側縁に剥離が見られるもの。対向する二側縁は平坦な面から剥離している。

ＣＰ－134

坑底　377は頁岩製で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。両側縁とも平坦な面から剥離している。

遺物集中

ＢＨ－22

覆土　378は黒曜石製で、対向する二側縁に剥離が見られるもの。両側縁とも平坦な面から剥離している。対向する二側縁に剥離が見られるもの。

Ｒフレイク（図258～265　表３・４　写真図版116～118　掲載番号379～450）

総数1165点。内住居跡から996点、土坑から113点、遺物集中から56点出土した。図示したのは住居

跡59点、土坑14点。石材別では頁岩が1051点と多く、チャート62点、黒曜石32点、安山岩10点、玉髄7点、泥岩3点と続く。出土層位では床面から出土したのは97点で、Ⅲ層で563点、覆土上部で207点、覆土下部で114点。アスファルトが付着するものは41点（3.5%）あった。

住居跡

AH－1

覆土　379は頁岩製で、両側縁に微細剥離が見られる。両面にアスファルトが付着している。

AH－5

覆土　380は頁岩製で、右側縁に微細剥離が見られる。背面末端側にアスファルトが付着している。

AH－6

床面　382は頁岩製で、末端側腹面を調整したもので、両側縁にも微細剥離が見られる。末端側はやや先鋭になっており、両面調整石器の木葉形のものに似ている。両面に点状にアスファルトが付着する。

覆土　381はチャート製で、横長剥片の側縁に調整を加えたもの。腹面打面側にアスファルトが付着している。

AH－7

覆土　383～385はいずれも頁岩製。383は内湾した右側縁に微細剥離が見られる。384は両側縁に微細な剥離が見られる。背面打面側にアスファルトが付着している。385は両側縁を調整したもの。器体中央部両面にアスファルトが付着する。

AH－9

覆土　386～391はいずれも頁岩製。386は右側縁に微細剥離が見られるもの。387は末端側腹面を調整し、やや先鋭にしたもの。388は末端及び右側縁の腹面を調整するが、末端を欠損する。389は両側縁腹面を粗く調整したもの。390は末端に剥離が見られる。391は左側縁腹面側を調整するもので、右側縁に微細剥離が見られる。

AH－10

覆土　392は頁岩製で右側縁に微細剥離が見られる。腹面打面側にアスファルトが付着している。

AH－11

床面　393～395は頁岩製で、いずれも両面調整石器の木葉形のものに似るもの。また、アスファルトが393では腹面打面側、394・395では両面に付着している。395は打面側が欠損するが、折れ面にもアスファルトが付着している。

AH－13

床面　398は頁岩製で、左側縁腹面側をやや不連続に弧状に調整する。

柱穴　396は頁岩製で、石刃様素材の左側縁背面側をやや不連続に直線状に調整する。

覆土　397は頁岩製で、部分的に調整されるもの。

AH－14

床面　400は頁岩製で、右側縁を直線状にやや不連続に調整する。

覆土　399は頁岩製で、右側縁に微細剥離が見られる。腹面にはアスファルトがほぼ全面に付着している。

AH－17

覆土　401・402・404・405は頁岩製で、403はチャート製。401は左側縁腹面側に調整を加えたもの。左側縁両面にアスファルトが付着している。402は腹面末端側に階段状剥離が見られるもの。楔形石器

の可能性もある。403は横長剥片の周縁を調整したもの。石鏃未製品の可能性がある。404・405は両側に調整が見られるもの。405は左側縁打面側に抉りを入れ、右側縁にも折れによる浅い抉り状の部分があることからつまみ付きナイフの可能性もある。

AH－19

柱穴　406は頁岩製で、微細剥離が見られるもの。

覆土　407は頁岩製で、直線状の側縁に僅かな調整が入れられるもの。

BH－23

覆土　408～410はいずれも頁岩製。408・409とも微細剥離が見られるもので、両面にアスファルトが付着している。410は打面側背面両側を僅かに抉り、その部分に帯状にアスファルトが付着するもの。それ以外に顕著な調整はなされないが、つまみ付きナイフの可能性が強い。

CH－29

覆土　411は頁岩製で、横長剥片素材。打面側及び左側縁の腹面側を粗く調整し、末端部に微細剥離が見られる。

CH－30

覆土　412・413は頁岩製で、ともにアスファルトが付着している。412は末端部を切断し、切断面と右側縁の交点を先鋭にするように調整している。413は末端部を切断し、切断面及び切断面から右側縁にかけて調整している。

CH－32

床面　415～420はいずれも頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。419は左側縁及び末端部の腹面側を粗く調整している。

覆土　414は頁岩製で、両側縁に調整が見られる。ほぼ全面に付着物が見られるが、アスファルトではない可能性もある。

CH－33

覆土　421はチャート製で、木葉形の両面調整石器に似るもの。背面にアスファルトが付着する。422は頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。両面に点状にアスファルトが付着する。

CH－44

床面　423は頁岩製で、側縁に微細剥離が見られるもの。末端の一部を欠損する。

MP－1

床面　424・425はともに頁岩製。424は側縁に微細剥離の見られるもの。425は切断面を調整したもの。

覆土　426は頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。両面にアスファルトが付着する。

MP－2

床面　427は頁岩製で、右側縁を粗く調整し、左側縁に微細剥離の見られるもの。

MP－3

床面　428～430はいずれも頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。

MP－5

床面　432は頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。433は黒曜石製で、打面側を調整するもの。なお、分析により赤井川産とされた。

炉跡　435はチャート製で、側縁に微細剥離の見られるもの。

覆土　431・434は頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。434は腹面にアスファルトが付着する。

MP－7

床面　436は頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。

土坑

CH－40

覆土　437は頁岩製で、末端部に調整を施すもの。両面にアスファルトが付着している。

CP－21

覆土　438・439はともに頁岩製で、側縁に微細剥離の見られるもの。439は打面が潰れ、末端部に階段状剥離がみられることから楔形石器の可能性がある。

CP－66

覆土　440は頁岩製で、側縁を調整するもの。打面側・末端側を欠損する。

CP－88

坑底　445・446はともに頁岩製で、折れ面接合する。ただ、446は切断後折れ面側の腹面を調整し、末端をやや先鋭にしている。末端は潰れることから石錐の可能性がある。445は側縁を調整するもの。

覆土　441～444はいずれも頁岩製。441・442・444は左側縁及び末端を調整するもの。443は両側縁を調整し、末端を欠損するもの。

CP－114

坑底　447は安山岩製で、末端部に微細剥離の見られるもの。左辺を欠損する。

CP－134

坑底　448は頁岩製で、末端を調整するもの。打面側を欠損する。

CP－161

覆土　449・450はともに頁岩製で、同一母岩とみられる。449は側縁を調整するもの。450は側縁に微細剥離が見られるもので、右側縁背面にアスファルトとみられるものが付着する。

剥片

総数6554点。内住居跡から5020点、土坑から939点、焼土から9点、遺物集中から586点出土した。図示したものはない。石材別では頁岩が5148点と多く、安山岩443点、黒曜石407点、チャート326点、玉髄113点、泥岩74点、凝灰岩18点と続く。出土層位では床面から出土したのは388点で、Ⅲ層で3027点、覆土上部で1072点、覆土下部で799点。アスファルトが付着するものは38点（0.6%）あった。

石核（図265～272　表4　写真図版119～120・145　掲載番号451～473）

総数144点。内住居跡から101点、土坑から21点、遺物集中から22点出土した。図示したのは住居跡17点、土坑7点。石材別では頁岩が111点と多く、黒曜石16点、チャート7点、玉髄4点、安山岩3点、泥岩2点、凝灰岩1点と続く。出土層位では床面から出土したのは6点で、Ⅲ層で80点、覆土上部で20点、覆土下部で20点。アスファルトが付着するものは1点（0.7%）あった。

住居跡

AH－3

覆土　451は頁岩製で、角礫素材。直方体を呈する礫の四面間を打面転移して剥片剥離したもの。

AH－7

覆土　452は頁岩製、453は黒曜石製、454は安山岩製。452はやや偏平な亜角礫を素材に、周縁から剥片を剥離した円盤状を呈するもの。453は小型円礫を素材に、長軸の一端を剥離し打面とした後、長軸に沿うように連続して縦長剥片を三枚剥離したもの。454は亜円礫を素材に、ほぼ平坦な原石面を

打面に一面を作業面とするもの。

AH－12

覆土　455は頁岩製で、恐らく円礫素材。頻繁に打面と作業面を入れ替えるもので、ゆがんだ直方体を呈する。AH17の461と同一母岩とみられる。

AH－13

柱穴　456は頁岩製で、角礫素材。ほぼ平坦な原石面を打面に、一面を作業面とするもの。

覆土　457は頁岩製で、やや偏平な円礫素材。周縁の一辺に打面を形成し、一面を作業面とするもの。

AH－14

柱穴　458は頁岩製で円礫素材。同柱穴出土剥片26点と接合した。一端に打面を形成し、連続的に剥片を剥離している。その後打面を再生し、同じ作業面で剥片剥離するものの作業面が階段状を呈したため、打面を180度反対方向に形成する。新しい打面を設定した後も当初からの作業面は固定し、連続的に縦長剥片を剥離している。接合した剥片には二次加工は見られず、一括してデポしたものとみられる。

AH－15

覆土　459は頁岩製で、剥片素材。両面で周縁から剥片剥離する。

AH－17

柱穴　460は頁岩製で、剥片素材。背面を周縁から剥片剥離する円盤状のもの。背面の剥離面には線状の付着物が複数みられるが、アスファルトではない可能性がある。

覆土　461は頁岩製で、円礫素材。頻繁に打面と作業面を入れ替えるもの。AH－12の455と同一母岩とみられる。

BH－23

床面　463は頁岩製で、亜円礫素材。一面に打面を設定し、一面を作業面とするもの。

覆土　462は黒曜石製で、角礫素材。楔形を呈する。一面に打面を設定し、一面を作業面とするもの。

CH－29

覆土　464は黒曜石製で、角礫素材。ほぼ平坦な原石面を打面に、一面を作業面とするもの。465は頁岩製で、円礫素材。一面に打面を設定し、一面を作業面とするもの。

MP－2

覆土　468は玉髄製で、円礫素材。敲石を転用した可能性がある。自然面の可能性がある側面を打面に一面を作業面とし、その後作業面を打面に、打面を作業面に入替え剥片剥離している。

土坑

CH－45HP－1

覆土　466・467は頁岩製。466は恐らく亜角礫素材で、一面に打面を設定し、一面を作業面とするもの。467は角礫素材で、節理面割れした2点が接合したもの。同柱穴出土剥片7点と接合する。まず大きく二つに分割することで、打面を形成し、そこから一面を作業面とし縦長剥片を連続的に剥離する。それと前後する形でもう一つ反対側に打面を形成し、別の一面を作業面に設定して剥片剥離している。

CP－73

覆土　469・470はともに黒曜石製。469は自然面を打面とし小型剥片を剥離している。470は剥片素材で、背面に自然面を残す。

CP－88

覆土　471は頁岩製で、円礫素材。礫を分割して打面を形成している。

CP－161

覆土　472・473は頁岩製。472は打面と作業面を頻繁に入れ替えるもの。一部にアスファルトが付着する。473は平坦な自然面を打面にし、周囲を一周するように剥片を剥離したもの。

原石

総数71点。内住居跡から60点、土坑から5点、焼土から1点、遺物集中から5点出土した。図示したものはない。石材別では頁岩が31点と多く、玉髄19点、安山岩6点、凝灰岩5点、黒曜石4点、チャート3点、碧玉1点、泥岩1点、緑色泥岩1点と続く。出土層位では床面から出土したのは3点で、Ⅲ層で40点、覆土上部で13点、覆土下部で3点。

(2) 磨製石器群

石斧（図272・273　表4　写真図版121　掲載番号474～486）

総数22点。内住居跡から19点、土坑から2点、遺物集中から1点出土した。図示したのは住居跡13点、土坑1点。細別では擦り切り技法によるもの2点、打ち欠きにより整形するもの5点、敲打により整形するもの1点、磨きのみ確認できるもの4点、打ち欠きと敲打により整形するもの3点がある。石材別では緑色泥岩が19点と多く、泥岩2点、粘板岩1点と続く。出土層位では床面から出土したのは5点で、Ⅲ層で10点、覆土上部で2点、覆土下部で3点。アスファルトが付着するものは1点（4.5%）あった。

住居跡

AH－4

床面　474は緑色泥岩製で、偏平な円礫を擦り切りにより整形し、研磨を加えたもの。刃部は両面から研磨される片刃。一側面に擦り切り痕が残る。刃部の一部にアスファルトが付着する。2点が接合したが、基部側は覆土から出土した。

AH－6

床面　476は緑色泥岩製で、敲打による整形後研磨を加えたもの。一面に基部側と一側面から剥離がなされる。剥離は剥片を目的としたのかは不明。刃部は両面から研磨される。片刃。

覆土　475は緑色泥岩製で、偏平な礫を研磨して整形したもの。刃部は片刃で、両面が研磨される。刃部以外には側面を若干研磨するのみ。

AH－8

覆土　477は緑色泥岩製で、偏平な礫を研磨して整形したとみられるもの。整形は基部を除き全面に及ぶ。刃部は両刃。

AH－10

覆土　478は緑色泥岩製で、円礫を敲打と打ち欠きにより整形し、研磨を加えたもの。刃部は両刃とみられるが、両面に剥離が見られ不明。479は粘板岩製で、原石面を背面に持つ剥片を素材にしている。研磨は刃部と側面に限られる。刃部は片刃。

AH－14

覆土　480は緑色泥岩製で、敲打により整形されたもの。研磨は刃部に限られ、両刃としている。刃部の一面には刃部側から偏刃状に剥離が起こっている。基部側両面中央部には着柄によるとみられる擦れが見られる。また一側面から基部にかけて黒色の付着物が見られるが、煤と考えられる。481は泥岩製で、偏平な礫を研磨して整形したもの。研磨は刃部と側面に限られる。刃部は両刃とみられる。

AH－18

床面　482･483はともに緑色泥岩製。482は敲打と打ち欠きによる整形後研磨を加えたもの。刃部は両刃とみられるが、両面に剥離が見られる。基部及び体部に煤状の付着物が見られる。483は打ち欠きによる整形後研磨を加えたものとみられる。刃部は両刃でよく磨耗する。刃部の一端に剥離が起こる。

CH－46

床面　485は緑色泥岩製で、全面がよく研磨されており整形法の推定は困難。刃部は両刃で、一端で剥離を起こしている。基部を主体に全面に付着物が見られるが、何が付着しているかは不明。

覆土　484は緑色泥岩製で、円礫を敲打と打ち欠きで整形したものとみられる。刃部は両刃。基部側は欠損しており、その面から両面に若干の剥離がなされている。

土坑

CP－141

覆土　486は泥岩製で、円礫を打ち欠き整形し、研磨を加えたもの。刃部及び一側面には再調整とみられる剥離がなされる。

石斧片（図274　表4　写真図版122　掲載番号487～495）

総数40点。内住居跡から34点、土坑から4点、遺物集中から2点出土した。図示したのは住居跡7点、土坑2点。細別では敲打で整形するもの13点、打ち欠きで整形するもの7点がある。石材別では緑色泥岩が26点と多く、蛇紋岩10点、安山岩2点、泥岩1点、片岩1点と続く。出土層位では床面から出土したのは1点で、Ⅲ層で17点、覆土上部で4点、覆土下部で6点。アスファルトが付着するものは2点（5％）あった。

住居跡

AH－1

覆土　487は緑色泥岩製の刃部側。全面がよく研磨されており、整形法は推定困難。刃部は両刃で、偏刃。また、一面に剥離を起こしている。

AH－5

覆土　488は緑色泥岩製の基部側。円礫を敲打で整形し、その後研磨を加えたもの。

BH－23

覆土　489は蛇紋岩製の刃部側。全面がよく研磨されており整形法の推定は困難。刃部は両刃。

CH－39

覆土　490は緑色泥岩製の刃部側。打ち欠きによる整形後研磨を加えたものとみられる。刃部は両刃で偏刃。体部には油が染み込んだような付着物が見られる。

CH－46

柱穴　491は緑色泥岩製の刃部側。打ち欠きによる整形後研磨を加えたもの。刃部は片刃で両面が研磨される。刃部の一端から剥離が起きている。

MP－3

床面　492は緑色泥岩製の基部側。偏平な円礫を打ち欠きによる整形後研磨を加えたもの。体部にアスファルトが付着する。

MP－7

覆土　493は安山岩製の基部側。敲打による整形後研磨を加えたもの。

土坑

ＣＰ－133

覆土　494は蛇紋岩製の刃部側。打ち欠きによる整形後研磨を加えたものとみられる。刃部は片刃。

ＣＰ－134

覆土　495は片岩製の基部側。打ち欠きによる整形後研磨を加えたものとみられる。

石斧原材（図275　表4　写真図版122　掲載番号496～499）

総数5点で、全て住居跡から出土した。図示したのは4点。細別では打ち欠きにより整形されるもの1点、敲打により整形されるもの2点、打ち欠きと敲打により整形されるもの1点がある。石材別では緑色泥岩が4点、片岩1点。出土層位では床面から出土したのは1点で、覆土下部で2点。アスファルトが付着するものは3点（60%）あった。

住居跡

ＡＨ－9

覆土　496は緑色泥岩製で、打ち欠きと敲打により整形後研磨を加えたもの。刃部側は平坦な剥離面を残し、その周囲を敲打している。刃部側の敲打された面に一部アスファルトが付着する。

ＡＨ－14

覆土　497は緑色泥岩製で、円礫とみられる素材を敲打により整形し、研磨を加えたもの。刃部側はやや平坦な剥離面を残し、その周囲及び両側面を敲打している。体部にアスファルトかとみられるものが付着する。

ＡＨ－16

床面　498は緑色泥岩製で、円礫が敲打により整形されたもの。刃部側は平坦な敲打された面を残し、その面から基部側へ両面を剥離している。一面に一部アスファルトが付着する。

ＣＨ－30

掘上土　499は緑色泥岩製で、節理割れした円礫を打ち欠きにより整形したもの。打ち欠きはほぼ全周からなされ、研磨はなされていない。

(3)　礫石器群

敲石（図275・276　表4　写真図版123～124　掲載番号500～513）

総数147点。内住居跡から125点、土坑から17点、遺物集中から5点出土した。図示したのは住居跡8点、土坑6点。石材別では安山岩が126点と多く、玉髄12点、泥岩6点、頁岩・凝灰岩・砂岩が各1点と続く。出土層位では床面から出土したのは13点で、Ⅲ層で55点、覆土上部で27点、覆土下部で20点。図示していないがCH－44覆土2から赤色顔料が付着するものが1点出土している。

住居跡

ＡＨ－6

床面　500は安山岩製で、円礫の一端にたたき痕のあるもの。

ＡＨ－7

貼り床　502は安山岩製で、円礫の周縁にたたき痕のあるもの。

覆土　501は安山岩製で、円礫の周縁にたたき痕のあるもの。また一面の両端側に擦れた面がみられる。

ＡＨ－9

覆土　503は泥岩製で、三角形状をした円礫の底面にたたき痕のあるもの。また三つの端部から敲打によるとみられる剥離も見られる。
AH－15
床面　504は玉髄製で、円礫の周縁にたたき痕のあるもの。
AH－18
床面　505は安山岩製で、円礫の一端及び一面にたたき痕のあるもの。
CH－45
床面　506は安山岩製で、偏平な円礫の一端にたたき痕のあるもの。
MP－3
床面　507は安山岩製で、やや偏平な円礫の一端にたたき痕のあるもの。
土坑
CP－128
覆土　508～512は安山岩製で、円礫の一端にたたき痕のあるもの。508は棒状礫、512はやや偏平な礫を素材とする。509・511は敲打により剥離が起こったもの。
CP－133
覆土　513は安山岩製で、円礫の一端にたたき痕のあるもの。たたき痕周囲には敲打により剥離が起きている。

凹石（図276　表4　写真図版124　掲載番号514）
　総数1点で土坑から出土した。
土坑
CP－142
覆土　514は安山岩製で、やや偏平な円礫を素材とする。その周囲を全面敲打し、一面の中央部を敲打により凹ませている。凹みの底はやや擦れている。

すり石（図277・278　表4　写真図版125～127　掲載番号515～536）
　総数167点。内住居跡から136点、土坑から21点、焼土から1点、遺物集中から9点出土した。図示したのは住居跡16点、土坑6点。石材別では安山岩が164点と多く、泥岩3点と続く。出土層位では床面から出土したのは29点で、Ⅲ層で67点、覆土上部で27点、覆土下部で17点。
住居跡
AH－5
覆土　515・516は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。516の一端及びすり面中央には敲打痕も見られる。
AH－6
床面　517は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
AH－7
柱穴　518は安山岩製で、円礫の両面にすり面のあるもの。
AH－11
床面　519は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
AH－12

床面　520は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＡＨ－15
床面　521は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＡＨ－16
床面　522は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＡＨ－18
床面　523は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＡＨ－19
床面　524は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＣＨ－32
床面　525は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。また一端に僅かなたたき痕も見られる。
ＭＰ－１
床面　527･528は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＭＰ－２
床面　529は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＭＰ－３
床面　530は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＭＰ－５
床面　531は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
土坑
ＣＨ－45ＨＰ－１
覆土　526は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＭＰ－11
覆土　532は安山岩製で、偏平礫の側縁にすり面のあるもの。
ＣＰ－70
覆土　533は安山岩製で、偏平礫の側縁にすり面のあるもの。
ＣＰ－114
坑底　534は安山岩製で、円礫の一面にすり面のあるもの。
ＣＰ－136
覆土　535は安山岩製で、偏平礫の側縁にすり面のあるもの。長軸両端及びすり面側から打ち欠きがなされる。
ＣＰ－148
覆土　536は安山岩製で、偏平礫の側縁にすり面のあるもの。

半円状扁平打製石器（図278･279　表４　写真図版128　掲載番号537～541）

総数31点。内住居跡から21点、土坑から９点、遺物集中から１点出土した。図示したのは住居跡２点、土坑３点。石材別では安山岩が30点と多く、凝灰岩１点と続く。出土層位では床面から出土したのは１点で、Ⅲ層で15点、覆土上部で６点、覆土下部で４点。

住居跡
ＡＨ－18

床面　537は安山岩製で、背面に礫面を持つ剥片を素材とする。周縁のほぼ全周を打ち欠いて整形し、平坦なすり面を持つ。すり面側の一部を欠損する。

MP－1

柱穴　538は安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。周縁のほぼ全周を打ち欠いて整形するもので、平坦なすり面を持つ。

土坑

CP－21

覆土　539は安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。周縁のほぼ全周を打ち欠いて凡字形に整形するもので、平坦なすり面を持つ。

CP－67

覆土　540は安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。素材の形状を保持するように打ち欠きはすり面側以外に一部を整形するのみ。平坦なすり面を持つ。

CP－149

覆土　541は安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。周縁のほぼ全周を打ち欠いて整形するもので、平坦なすり面を持つ。

半円状扁平打製石器原材

総数22点。内住居跡から17点、土坑から4点、遺物集中から1点出土した。図示したのものはない。石材は全て安山岩。出土層位では床面から出土したものはなく、Ⅲ層で14点、覆土上部で3点、覆土下部で1点。

北海道式石冠（図280～282　表4・5　写真図版129～130　掲載番号542～554）

総数34点。内住居跡から20点、土坑から14点出土した。図示したのは住居跡2点、土坑11点。石材は全て安山岩。出土層位では床面から出土したものはなく、Ⅲ層で15点、覆土上部で6点。

住居跡

AH－19

柱穴　542は安山岩製で、把握部のみ敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。破片。

CH－27

覆土　543は安山岩製で、把握部のみ敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。小型の完形品。

土坑

MP－10

覆土　544は安山岩製で、把握部を敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。敲打は頭部も行われる。すり面はよく擦れる。すり面側の一部が欠損する。

CP－66

覆土　545は安山岩製で、把握部のみ敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。すり面はよく擦れる。半分に割れている。

CP－70

覆土　546は安山岩製で、全面敲打で整形するもの。すり面はよく擦れる。すり面側が欠損する。

CP－96

覆土　547・548は安山岩製で、把握部を敲打で溝にするものの、547はその溝が全周しないもの。548は溝が全周するもの。いずれも敲打は頭部も行われる。すり面はよく擦れる。

ＣＰ－102

覆土　549～551はいずれも安山岩製。549は把握部のみ敲打で溝にし、その溝が全周するものの破片。550・551は全面敲打で整形するもの。550の頭部は三角形状を呈する。３点ともすり面はよく擦れる。551は３分の１を欠損する。

ＣＰ－121

覆土　552は安山岩製で、把握部を敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。敲打は頭部も行われる。すり面はよく擦れる。

ＣＰ－134

覆土　553は安山岩製で、把握部を敲打で溝にし、その溝が全周するもの。敲打は頭部の一部に行われ、三角形状を呈する。すり面はよく擦れる。すり面側を欠損する。

ＣＰ－140

覆土　554は安山岩製で、把握部を敲打で溝にするものの、その溝が全周しないもの。敲打は頭部も行われる。すり面はよく擦れる。すり面側を欠損する。

北海道式石冠原材（図282・283　表５　写真図版131・132　掲載番号555～562）

総数11点。内住居跡から３点、土坑から８点出土した。図示したのは土坑出土品全て。石材は全て安山岩。出土層位ではⅢ層で１点、覆土上部で１点、覆土下部で８点。

土坑

ＭＰ－10

覆土　555は安山岩製で、円礫を半割した後、半割面に敲打を加えるもの。また一面にも敲打がなされる。

ＣＰ－21

覆土　556・557とも安山岩製。円礫を半割後、556は全面を敲打するが、すり面は擦られていない。頭部側を大きく欠損したため中途で廃棄したものとみられる。557はすり面がやや擦られるようであるが、把握部の溝は片面のみが作出されるもの。すり面側を欠損する。

ＣＰ－82

覆土　558は安山岩製で、円礫を半割後、半割面を敲打しやや擦るようだが、体部に加工は見られないもの。

ＣＰ－128

覆土　559～562はいずれも安山岩製。559・561・562は円礫を半割後、半割面を敲打するもの。561は頭部、562は一面にも敲打がなされる。560は三角錐状の円礫に敲打を加えるもの。

石錘（図283　表５　写真図版132　掲載番号563・564）

総数４点で全て住居跡から出土した。図示したのは住居跡２点。石材別では砂岩２点、安山岩１点、不明１点。出土層位では床面から出土したのは１点で、Ⅲ層で１点、覆土上部で１点、覆土下部で１点。

住居跡

ＡＨ－15

床面　563は砂岩製で、三角形状を呈する。その内二辺を使用している。

ＡＨ－17

覆土　564は安山岩製で、五角形状を呈する。その内三辺を使用している。

砥石（図283　表５　写真図版132　掲載番号565）

総数２点で、全て住居跡から出土した。１点図示した。石材は凝灰岩１点、安山岩１点。出土層位は全て覆土。

住居跡

ＣＨ－44

覆土　565は凝灰岩製で、一面に湾曲した砥面を持つ。もう一面には溝状になる部分が見られる。欠損品。

台石・石皿（図283～290　表５　写真図版139～143　掲載番号566～590）

総数102点。内住居跡から75点、土坑から19点、遺物集中から８点出土した。図示したのは住居跡17点、土坑７点。細別では平坦な面にすり面が残るものが61点と最も多い。ほかに表面に凹凸があり、凸部が擦れるものが16点、敲打痕のあるものが８点、敲打による凹みがあるものが５点ある。石材別では安山岩が98点と多く、凝灰岩・軽石２点が続く。出土層位では床面から出土したのは18点で、Ⅲ層で35点、覆土上部で15点、覆土下部で10点。またアスファルトが付着するもの１点、赤色顔料が付着するもの１点がある。

住居跡

ＡＨ－１

覆土　566は安山岩製で、円礫を素材とする。一面に平坦なすり面を持ち、その中央に敲打による浅い凹みが見られる。欠損品。

ＡＨ－３

覆土　567は安山岩製のやや偏平な円礫素材。一面にすり面を持つが立石炉石にされたもの。

ＡＨ－４

床面　568は安山岩製で、やや偏平な円礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られる。欠損品。

ＡＨ－５

出入口　570は安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。一面にやや凹むすり面が見られる。

覆土　569は安山岩製で、偏平な円礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られる。

ＡＨ－６

床面　571は安山岩製で、湾曲した円礫を素材とする。すり面は内湾した部分を利用している。

ＡＨ－７

覆土　572・573は安山岩製で、円礫を素材とする。572は一面に敲打による円形の浅い凹みが見られる。573は一面に凹んだすり面と敲打によるとみられる深い凹みがある。また反対のもう一面もやや湾曲したすり面となっている。574は安山岩製で、やや偏平な円礫を素材とする。すり面は凹凸のある一面の凸部に見られる。

ＡＨ－10

覆土　575は安山岩製で、円礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られ、一部に敲打痕もある。欠損品。

AH－12
床面　576は凝灰岩製で、一面がよく擦れ、広く凹む。砥石的な用い方をされた可能性がある。また一辺に石鋸に用いたとみられる使用痕も残り、分割後石鋸に転用したものとみられる。MP－3覆土出土のものと接合した。
AH－18
床面　577は安山岩製で、やや偏平な円礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られる。
覆土　578は安山岩製で、円礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られる。
CH－30
炉跡　579は安山岩製で、やや偏平な礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られる。
CH－33
覆土　580は安山岩製の円礫素材。平坦な一面中央に平滑なすり面を持つ。ただもう一面に自然の溝状の凹みを持ち、陰石として搬入された可能性がある。
CH－39
覆土　581は安山岩製で、円礫素材。一面の自然に湾曲した部分をすり面とする。
CH－44
床面　582は安山岩製で、偏平な礫を素材とする。一面にやや凹むすり面が見られ、反対側にもすり面を持つ。
CH－46
床面　583は安山岩製で、偏平な礫を素材とする。一面に平坦なすり面が見られる。
MP－2
覆土　584は安山岩製で円礫素材。平坦な一面中央に平滑なすり面を持つ。ただもう一面に自然の円形の凹みを持ち、その面を上に611と並んで出土した。形状から陰石として搬入された可能性がある。
MP－3
覆土　576はAH－12床面出土のものと接合した。
土坑
AH－12HP－13
覆土　585は安山岩製で、円礫を素材とする。一面にやや凹むよく擦れたすり面が見られる。3点が接合した。
MP－10
覆土　586は安山岩製で、円礫を素材とする。一面に平坦でよく擦れたすり面が見られる。反対の面は敲打により据わりがよいように調節されている。
CP－21
覆土　587は安山岩製で、円礫を素材とする。一面によく擦れたすり面が見られる。すり面には赤色顔料とみられる付着物が薄く見られる。
CP－91
覆土　588は安山岩製で、円礫を素材とする。一面の平坦なすり面の中央に円形に浅く凹むすり面が見られる。
CP－98
覆土　589は安山岩製で、やや平坦な円礫を素材とする。一面にやや凹むすり面を持ち、もう一面にもやや凹むすり面のほか敲打痕も見られる。一部を欠損する。

ＣＰ－127

覆土　590は安山岩製で、円礫を素材とする。楕円形を呈する一面の片側によった部分に円形のよく擦れたすり面を持つ。

(4)　石製品

玉（図290　表５　写真図版137　掲載番号591）

総数１点で、土坑から出土した。

土坑

ＣＰ－149

覆土　591は凝灰岩製の垂飾。ほぼ全面に擦痕が見られる。穿孔は両面からなされる。体部を巡るように付着物が見られるが、アスファルトではない。

石製品（図290　表５　写真図版137　掲載番号592～597）

総数８点。全て住居跡から出土した。図示したのは６点。石材別では泥岩３点、碧玉２点、玉髄２点、チャート１点。出土層位では床面から出土したものはなく、Ⅲ層で２点、覆土上部で４点、覆土下部で２点。アスファルトが付着するのは５点（63%）であるが、小円礫素材のもの全てに付着している。

住居跡

ＡＨ－５

覆土　592は碧玉とみられる小円礫に帯状にアスファルトが付着するもの。

ＡＨ－７

覆土　593は泥岩の小円礫に帯状にアスファルトが付着するもの。アスファルトには細紐を巻きつけた痕跡が残る。594は泥岩の偏平な小円礫の一面に二つの盲孔が見られるもの。穿孔し、垂飾にしようとした可能性がある。

ＡＨ－14

覆土　595はチャートの小円礫に点状にアスファルトが付着するもの。

ＡＨ－17

覆土　596は玉髄の小円礫に帯状にアスファルトの付着が見られるもの。

ＣＨ－30

掘上土　597は碧玉とみられる小円礫に帯状にアスファルトが付着するもの。アスファルトには細紐を巻きつけた痕跡が残る。

石棒（図290　表５　写真図版136　掲載番号598）

総数１点で、遺物集中から出土した。

遺物集中

ＢＨ－25

覆土　598は泥岩製とみられる。全面を研磨により整形するが、頭部の括れ及び曲面は敲打により作り出している。頭部は括れに二条の横走沈線を入れ、その上部に沈線を網状に加える。末端部は二条の沈線間に右下がりの沈線を入れたもので区画し、その下部に五本の横走沈線と６本の右下がりの沈線を加える。沈線の断面はＶ字状を呈する。末端はよく磨耗し、末端からの剥離が一面見られるが、

その剥離の稜線も磨耗している。体部には２ヶ所にアスファルトないし漆とみられるものが付着する。また、スクリーントーン部分には磨耗が見られる。

加工痕のある礫（図291　表５　写真図版138・143　掲載番号599～604）

総数14点。内住居跡から６点、土坑から５点、遺物集中から３点出土した。図示したのは住居跡２点、土坑３点、遺物集中１点。石材別では安山岩が10点、軽石２点、泥岩２点。出土層位では床面から出土したのは１点で、Ⅲ層で４点、覆土上部で４点、覆土下部で３点。

住居跡

ＡＨ－７

覆土　599は安山岩の円礫。柱状節理によるものが摩滅し円柱状になったものの表面が僅かに擦れる。一端が欠損する。600は安山岩の偏平な円礫。段を持つ側面の一端に敲打痕が僅かに見られる。一面にはアーモンド状の凹みが見られるが、自然のもの。

土坑

ＭＰ－４

覆土　601は軽石の円礫。表面はやや擦られているようであるが、不明瞭。

ＣＰ－43

覆土　602は安山岩製で、柱状節理によるとみられる円礫の側面を敲打することで柱状に整形したもの。

ＣＰ－172

覆土　603は安山岩製の円礫素材で、側面の一部に敲打痕が見られる。風化のためか礫表皮が椀状に剥がれたもの。剥がれた内面には顕著な加工痕はない。

遺物集中

ＣＨＯＧ－Ｄ－54

覆土　604は軽石の円礫に穿孔を持つもの。孔は外側で楕円形、内部で隅の丸い三角形を呈する。また側面にも穿孔しようとした痕跡が見られるが、そこで割れてしまっている。

(5)　自然遺物

有孔礫（図291　表５　写真図版138　掲載番号605）

総数５点で全て住居跡から出土した。図示したのは１点。石材別では安山岩が４点、泥岩１点。出土層位では床面から出土したものはなく、覆土上部で１点、覆土下部で１点。

住居跡

ＣＨ－44

覆土　605は凝灰岩の円礫中央に孔を持つもの。孔の内部には厚く褐鉄鉱が付着しており、自然によるものとみられる。

礫（図292・293　表５　写真図版137・144・145　掲載番号606～614）

総数2501点。内住居跡から1854点、土坑から472点、焼土２点、遺物集中から173点出土した。図示したのは住居跡８点、土坑１点。石材別では安山岩が1999点と多く、泥岩253点、凝灰岩87点、頁岩50点、砂岩32点、玉髄27点、チャート10点、片岩６点と続く。出土層位では床面から出土したのは194点で、Ⅲ層で1096点、覆土上部で425点、覆土下部で253点。アスファルトが付着するものは１点あった。

住居跡

AH－4

覆土　606は安山岩の円礫。蛇が鎌首をもたげたような特異な形状を呈する。立石炉石として器体の約4分の1を占める棒状部分先端を土中に埋め込んでいた。

AH－5

覆土　607は安山岩の円礫。平面形は楔形を呈する。立石炉石として器体の約4分の1を土中に埋め込んでいた。

AH－6

覆土　608は安山岩の板状の亜角礫。平面形は楔形を呈する。立石炉石として器体の約4分の1を土中に埋め込んでいた（図中の横線）。

AH－14

覆土　609は安山岩のやや偏平な円礫で木挽き鋸形を呈する。立石炉石として“柄”にあたる部分を土中に埋め込んでいた（図中の横線）。

CH－30

覆土　610は安山岩の円礫。自然による凹凸が人面にも見える。人面石とした搬入された可能性がある。

MP－2

覆土　611は安山岩の棒状の円礫。一側面に緩やかな内湾した部分が見られる。円形の凹みを持つ584と共伴し、形状からも陽石として搬入された可能性がある。

MP－3

床面　612は安山岩のやや偏平な円礫。平面形状は楔形を呈する。一面は平滑でやや擦れ、もう一面はやや凹凸を持つ。立石炉石として器体の約3分の1を土中に埋め込んでいた（図中の横線）。

MP－5

覆土　613は安山岩の円礫。形状は柱状節理によるとみられる角柱状。

土坑

CP－86

覆土　614は安山岩の円礫。形状は棒状を呈し、風化によるとみられる段をもつ。形状から陽石として搬入された可能性がある。

アスファルト塊（図293　表5　写真図版146　掲載番号615～619）

総数5点。内住居跡から4点、土坑から1点出土し、全て図示した。出土層位は床面から出土したのは2点で、覆土上部で1点、覆土下部で1点。

住居跡

AH－7

覆土　615は偏平で隅丸方形状を呈する。一面は凹凸が著しく部分的に突起状に盛り上がる部分がみられる。もう一面は多少凹凸があるものの比較的平滑で、一部湾曲している。恐らく椀状容器に入れられていたものと考えられるが、出土状況では単体で覆土に包含されていた。分析試料番号3。

AH－14

掘上土　616は土器小片の内面に盛り上がるようにアスファルトが付着しているもの。その縁は土器小片の断面へ収束することから、ほぼこのままの状態で保持されていたものとみられる。付着は一部

断面から表面にも及ぶが盛り上がりは見られない。分析試料番号1。

ＭＰ－５

床面　617は偏平で楕円形を呈する。一面はほぼ平坦で細かな凹凸が見られる。もう一面は平滑で湾曲している。分析試料番号4。618は偏平で両面とも凹凸が著しい。住居跡床面に接していた面には土壌が食い込んでいる。また形態は不整形で住居床面に軟らかいアスファルトを直接置いたような状況であった。分析試料番号5。

土坑

ＣＰ－134

覆土　619は棒状を呈する。表面は凹凸に富み、捻れたようになっている。分析試料番号2。

ベンガラ

総数10点。全て住居跡から検出した。検出した住居跡は、ＡＨ－４、ＡＨ－５、ＡＨ－７、ＡＨ－９、ＡＨ－12、ＭＰ－５。出土層位は床面及び覆土３とした第一次堆積土から検出された。

粘土

総数31点。内住居跡から18点、土坑から13点出土した。いずれも焼成されたものではなく、粘質を保った乳白色のものであった。出土層位は住居跡では床面から出土したのがほとんどで、ほかに覆土３で３点、柱穴で２点出土している。土坑では、覆土出土とされ、一部坑底付近で検出されている。

（福井）

包含層出土の石器

Ｂ・Ｃ地区包含層からは2698点の剥片・礫を除く石器が出土し、その内60点を図示した。したがって全体の２％でしかない。図示遺物の選択にあたっては、遺構出土の石器で図示した以外の特徴をもつもの、アスファルトが付着するもの、使用痕と考えられる光沢をもつものを選別した。なお、各器種で述べる層位については大半がⅢ層出土として取り上げられているので、それ以外の層位から取り上げられている場合についてのみ特に記載することとした。

石器の内訳は、Ｒフレイクが924点、削器が478点と多いが、定型的な石器では石鏃が182点と最多である。以下、楔形石器134点、敲石97点、つまみ付きナイフ65点、両面調整石器65点、石斧片64点、石錐62点、すり石45点、北海道式石冠45点、半円状扁平打製石器45点、台石・石皿31点、半円状扁平打製石器原材29点と続く。また石核も247点と多く、原石は86点ある。ほかは20点未満しか出土していない。重量で見ると点数が多いＲフレイク・削器を除くと上位は礫石器が占め、台石・石皿218.4kg、敲石44.9kg、北海道式石冠34.9kg、すり石26.6kg、原石22.5kg、石核20.9kg、半円状扁平打製石器18.3kg、Ｒフレイク15.5kg、扁平打製石器原材14.4kg、削器13.6kg、北海道式石冠原材11.1kgとなる。

石材では頁岩が2016点と多く、次いで安山岩313点、黒曜石126点、チャート75点、緑色泥岩62点、玉髄51点と続く。しかし、重量では安山岩が378.6kgと圧倒的で、頁岩の61.9kgが次ぐ。

(1)　剥片石器群

石鏃（図294　写真図版133　掲載番号620～624）

総数182点出土し、５点図示した。細別では、有茎鏃が140点と大半を占め、その中でも側辺が内湾するものが56点と多く、次いで、側辺が直線状のもの38点、側辺が外湾するもの16点がある。ほかに、

柳葉形のもの18点、滴形のもの10点などがある。石材別では頁岩が144点と最も多く、次いで黒曜石22点、チャート12点、玉髄3点、安山岩1点がある。アスファルトは23点（12.6%）に付着する。層位では2点がⅣ層から出土している。

620～623は頁岩製で、624がチャート製。620は凸基有茎で、体部が長く伸びるもの。先端側と茎部を欠損する。621・622は凸基有茎で、逆刺が不明瞭なもの。621は茎部を欠損し、茎部側にアスファルトが付着する。623は凹基有茎。なお621～623の先端部は急激に細く突出している。624は木葉形を呈するもの。

石槍又はナイフ（図294　写真図版133　掲載番号625・626）

総数2点出土し、全て図示した。625は黒曜石製で、茎部を持つもの。全体的に粗い調整で整形される。626は頁岩製で、木葉形のもの。先端部を欠損するものの、体部の調整は平行剥離により精緻になされる。素材は横長剥片とみられる。

石錐（図294　写真図版133　掲載番号627・628）

包含層からは62点出土し、2点図示した。細別では不定形のものが23点と最も多く、次いでやや厚みのある不明瞭なつまみを持つものが19点と多い。石材別では頁岩58点、チャート3点、黒曜石1点。アスファルトは3点（4.8%）に付着する。

627・628とも頁岩製。627は剥片の端部に主に腹面側の調整で、二つの突出部を作り機能部としたもの。628は両面を調整し、棒状にしたもので、両端を使用したようである。

つまみ付きナイフ（図294　写真図版133　掲載番号629～632）

包含層からは65点出土し、4点図示した。細別では両面を調整するもの28点、背面を調整するもの20点、つまみ部のみ調整するもの11点がある。石材別では頁岩が64点で、チャートが1点。アスファルトは9点（13.8%）に付着する。層位ではⅣ層から2点出土している。

629～632はいずれも頁岩製。629は縦長剥片の打面側に両側から抉りを入れるだけのもの。630は素材末端をつまみ部とするもので、背面縁辺及び腹面のつまみ側を調整する。631・632は団扇状の形状。631は背面縁辺及び腹面のつまみ側と末端部を調整する。632は腹面の縁辺及び背面のつまみ側と末端部を調整する。629～631の抉りにはアスファルトが帯状に付着する。

箆状石器（図294　写真図版133　掲載番号633～637）

包含層からは14点出土し、5点図示した。細別では洋ナシ形を呈するもの4点、撥形を呈するもの4点、凸形を呈するもの2点、滴形を呈するもの1点である。石材は全て頁岩製。アスファルトは1点（7.1%）に付着する。

633～637はいずれも頁岩製。633は洋ナシ形を呈するもの。刃部は弧状で、断面Ｖ字形を呈する。634は滴形を呈する厚みのあるもので、両面を調整する。刃部は緩い弧状で、断面レ字形を呈する。635・637は凸形を呈するもの。刃部は直線状で、断面Ｖ字形。637は基部末端と体部両面にアスファルトが付着する。636は撥形を呈する。縦長剥片を用い、体部を断面レンズ状に調整する。刃部は腹面を調整し、断面レ字形を呈する。素材左側両面には光沢が見られるが、新しい剥離面には全く見られないので、削器を転用したものとみられる。

掻器（図295　写真図版133　掲載番号638～640）

包含層からは18点出土し、3点図示した。石材では頁岩16点、黒曜石2点。

638・639は黒曜石製で、640は頁岩製。638は周縁を加工し楕円状を呈するもので、両端に急斜度剥離がなされている。640は縦長剥片の末端に急斜度剥離を施す。素材右側の両面には光沢が見られる。しかし、背面では光沢が剥離に切られている。したがって光沢は掻器として調整する以前のものとみられる。639は素材の末端に急斜度剥離を施すもの。639・640とも打面側を欠損する。

削器（図295　写真図版133　掲載番号641～644）

包含層からは478点出土し、4点図示した。ただ、643・644は隣接した畑からの表面採集品。細別では直線状の刃部を有するものが224点と最も多く、外湾する刃部を有するものが157点と次ぎ、尖頭部を持つもの49点、急斜度剥離の刃部を持つもの23点、内湾する刃部を有するもの21点と続く。石材では頁岩が464点と最も多く、チャート6点、黒曜石5点、安山岩2点、玉髄1点。アスファルトは14点（2.9%）に付着する。光沢を持つものは95点（19.9%）あった。層位では5点がⅣ層から出土している。

641・642・644は頁岩製で、643は安山岩製。641は横長剥片の末端部腹面に弧状の刃部を作るもの。打面側の背面及び打面にアスファルトが点状に付着し、背面右縁に光沢が見られる。642は右側に急斜度で弧状の刃部、左側に内湾する刃部を作るもの。両面にアスファルトが付着するが、特に右側腹面に明瞭に付着する。643は横長剥片を素材に、両面調整するもの。把手を作り機能部側を半月状に整形する。右側は粗い両面調整で弧状にし、左側は主に背面側を調整し直線状にする。644は両面調整により整形されたもの。一端は欠損するが、基部とみられる部分には両側に突起をもつ。

両面調整石器（図295・296　写真図版133　掲載番号645～656）

包含層からは65点出土し、12点図示した。細別では木葉形のものが37点、石槍様のものが6点ある。石材では頁岩が60点と最も多く、チャート3点、黒曜石・玉髄各1点。アスファルトは4点（6.2%）に付着する。層位では1点がⅣ層から出土している。

645～650・653～656は頁岩製、651・652はチャート製。645～647・649・651～653・655・656は木葉形に粗く調整されるもの。645・647・649・651・653・655は末端側をやや先鋭にし、646・652は打面側をやや先鋭にしている。651・655にはアスファルトが付着する。648は素材末端側を欠損するもので、打面側を比較的精緻に調整している。石槍の可能性もある。650は縦長剥片の両側縁辺をやや精緻に調整するもの。654は縦長剥片の両側を粗く調整するもの。腹面側調整後、背面を調整している。

楔形石器（図296　写真図版133　掲載番号657）

包含層からは134点出土し、1点図示した。細別では剥片素材で対向する二側縁に剥離が見られるもの、剥片素材で対向する四側縁に剥離の見られるものがそれぞれ59点ある。石材では頁岩が74点、黒曜石50点と多く、チャート8点、玉髄2点。アスファルトは5点（3.7%）に付着する。層位では1点がⅣ層から出土している。

657は黒曜石製で薄手の剥片の対向する二側縁に剥離が見られるもの。

Rフレイク

包含層からは924点出土した。今回図示したものはない。石材では頁岩が871点と最も多く、黒曜石24点、チャート20点、玉髄5点、安山岩3点、凝灰岩1点。アスファルトは8点（0.9%）に付着する。

層位では14点がⅣ層から出土している。

剥片

包含層からは7827点出土した。今回図示したものはない。石材別では頁岩が6404点と最も多く、次いで黒曜石が465点、チャート359点、玉髄292点、安山岩245点、凝灰岩27点、泥岩25点、砂岩3点、緑色泥岩3点と続く。アスファルトは19点(0.2%)に付着する。層位では83点がⅣ層から出土している。

石核

包含層からは247点出土した。今回図示したものはない。石材では頁岩が192点と最も多く、チャート22点、黒曜石18点、安山岩7点、玉髄4点、泥岩3点、凝灰岩1点。層位では2点がⅣ層から出土している。

原石

包含層からは86点出土した。今回図示したものはない。石材では頁岩が54点、玉髄17点、安山岩8点、泥岩5点、黒曜石2点。層位では3点がⅣ層から出土している。

(2) 磨製石器群

石斧（図296　写真図版134　掲載番号658～660）

包含層からは15点出土し、3点図示した。細別では打ち欠きにより整形するものが6点あるほか、擦り切りにより整形するもの、敲打により整形するもの、磨きのみ確認できるものは各1点づつしかない。石材では緑色泥岩12点、片岩2点、砂岩1点。アスファルトが付着するもの1点（6.7%）。

658～660はいずれも小型のもの。658は片岩製で、打ち欠きにより整形後研磨を加えたもの。刃部は片刃で、基部を欠損する。659は緑色泥岩製で、背面に自然面を残す剥片を素材に僅かに打ち欠きで整形し、主に側面と腹面に研磨を加えたもの。刃部は両刃とみられる。660は砂岩製で、擦り切りによる整形後研磨を加えたもの。刃部は片刃。

石斧片（図297　写真図版134　掲載番号661）

包含層からは64点出土し、1点図示した。細別では敲打により整形するものが9点、打ち欠きにより整形するものが6点、打ち欠きと敲打により整形するものが2点ある。石材では緑色泥岩45点、片岩9点、蛇紋岩6点、安山岩2点、砂岩・泥岩各1点。アスファルトが付着するもの1点（1.6%）。

661は蛇紋岩製の刃部側。片面に大きく非研磨面を残し、もう一面にも非研磨面の凹みもみられることから礫ないし剥片を研磨し整形したものとみられる。刃部は両刃。

石斧原材（図297・298　写真図版134　掲載番号662～665）

包含層からは6点出土し、4点図示した。細別では敲打により整形するもの3点、打ち欠きにより整形するもの2点、擦り切りにより整形するもの1点がある。石材では緑色泥岩5点、泥岩1点。

662・663・665は緑色泥岩製で、664は泥岩製。662は円礫の側面を敲打により整形し、基部側に研磨を加えたもの。刃部側は平坦な剥離面を残し、その面から基部側へ両面を剥離している。663は楕円形を呈するやや偏平な円礫の側面を敲打ないし打ち欠きで整形しようとしたもの。664は撥形の円礫の側縁を敲打ないし打ち欠きで、一面を敲打で整形しようとしたもの。665は円礫を両面から擦り切り分

割したもの。分割後敲打と打ち欠きで整形しているが、節理面割れを起こし放棄したものとみられる。

(3)　礫石器群

敲石

包含層からは97点出土しているが、図示していない。石材では安山岩が81点と最も多く、玉髄14点、頁岩・礫岩各1点。層位では6点がⅣ層から出土している。

凹石

包含層からは1点出土しているが、図示していない。石材は泥岩製。

すり石

包含層からは45点出土しているが、図示していない。石材は44点が安山岩で、もう1点は石材不明。層位では3点がⅣ層から出土している。

半円状偏平打製石器

包含層からは45点出土しているが、図示していない。石材は全て安山岩製。層位では1点がⅣ層から出土している。

半円状偏平打製石器原材

包含層からは29点出土しているが、図示していない。石材は安山岩27点、凝灰岩・砂岩各1点。

北海道式石冠（図298　写真図版135　掲載番号666）

包含層からは45点出土し、1点図示した。図示したものは前期のものと考えられるが、ほかは中期のものとみられる。石材は全て安山岩。層位では2点がⅣ層から出土している。

666は安山岩製で、全面敲打で整形するもの。すり面はよく擦れる。器体の約4分の1にあたるすり面側を欠損するが、すり面と剥離面との稜が一部磨耗しており、欠損後も使用していたものとみられる。敲打が比較的丁寧で、把握部がすり面と離れており形態から前期のものとみられる。同形態のものは本遺跡ではB地区下段段丘面で見られた。

北海道式石冠原材

包含層からは11点出土しているが、図示していない。石材は全て安山岩製。

石錘（図298　写真図版135　掲載番号667）

包含層からは1点出土し、図示した。667は凝灰岩製で、台形状を呈する。その一辺を使用している。

砥石（図298　写真図版135　掲載番号668～671）

包含層からは7点出土し、4点図示した。石材は砂岩3点、凝灰岩2点、安山岩・軽石1点。

668・669は砂岩製、670は軽石製、671は凝灰岩製。668は一面と側面に平滑な砥面を持つもの。669は両面に浅く凹んだ砥面を持つもの。670は円礫の一面に短軸に沿って溝状の浅い砥面が見られるもの。671は全面に深い溝状の砥面がみられるいわゆる玉砥石。668・669・671はいずれも欠損品。

台石・石皿（図298・299　写真図版135・145　掲載番号672・673）

包含層からは31点出土し、2点図示した。細別では平坦な面にすり面が残るものが21点と多く、敲打痕の残るものが7点、敲打による凹みがあるもの、自然の凹みにすり面が残るもの、敲打で平坦にするものが各1点ある。石材は安山岩29点、砂岩・頁岩各1点。層位では3点がⅣ層から出土している。

672は安山岩製で、円礫素材。三面に円形に凹むすり面が見られる。表裏面は敲打により平面化され、円形に深く凹むすり面が作られる。凹みの断面は片側が急激に立ち上がり、もう片側が緩やかに傾斜する。側面のすり面は円形に浅く凹むもの。673は砂岩製で、両面が僅かに擦れ、さらに敲打による凹みが複数見られる。一部欠損する。

(4) 石製品

玉（図299　写真図版135　掲載番号674）

包含層からは1点出土し、図示した。674はヒスイ製の玉。ヒスイ特有の深緑色は3×1.5㎜の範囲に見られるだけ。分析により糸魚川・青海産とされた。

石製品（図299　写真図版135　掲載番号675～677）

包含層からは6点出土し、3点図示した。石材は玉髄4点、安山岩・泥岩各1点。アスファルトは3点に付着。

675・676は玉髄製で、677は泥岩製とみられる。675・677は小円礫の短軸に帯状にアスファルトが付着するもので、676は小円礫の長軸に帯状にアスファルトが付着するもの。676・677はアスファルトに細紐を巻きつけたような痕跡が残る。

加工痕のある礫（図298　写真図版135　掲載番号678）

包含層からは10点出土したが、1点図示した。石材は安山岩6点、泥岩・頁岩各2点。

678は安山岩製で、やや偏平な円礫の一端に階段状の剥離が見られるもの。いわゆるチョッパー。

(5) 自然遺物

有孔礫（図299　写真図版135　掲載番号679）

包含層からは2点出土し、1点図示した。図示していないもう1点の石材は泥岩。679は凝灰岩の偏平な円礫に孔を持つもの。孔には擦痕は見られず、自然によるものとみられる。欠損する。

礫

包含層からは2327点出土したが、図示していない。石材別では安山岩が1786点と多く、頁岩265点、凝灰岩74点、泥岩74点、玉髄43点、砂岩31点、チャート5点、片岩1点と続く。アスファルトが付着するものは1点あった。層位では85点がⅣ層から出土している。

ベンガラ

包含層からは1点出土した。出土グリッドはO－79。

粘土

包含層からは2点出土した。出土グリッドはJ－70、P－75。　（福井）

Ⅳ　自然科学的手法による分析結果と考察

1．野田生１遺跡から出土した炭化物の放射性炭素年代

㈱地球科学研究所

報告内容の説明

14C age (y BP)	：	14C 年代　"measured radiocarbon age" 試料の 14C／12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。 半減期はリビーの5568年を用いた。
補正14C age (y BP)	：	補正 14C 年代 "conventional radiocarbon age" 試料の炭素安定同位体比(13C／ 12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り 14C／12C の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。 試料の 13 C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。 暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。
δ 13C (permil)	：	試料の測定 14C／12C 比を補正するための 13C／12C 比。 この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。 $\delta\ ^{13}C(‰) = \dfrac{(\ ^{13}C/\ ^{12}C)[試料] - (\ ^{13}C/\ ^{12}C)[標準]}{(\ ^{13}C/\ ^{12}C)[標準]} \times 1000$ ここで、 13C／12C [標準] = 0.0112372である。
暦 年 代	：	過去の宇宙線強度の変動による大気中14C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。　具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14 C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。 最新のデータベース("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40 (3)) により約19000yBPまでの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法　AMS　：加速器質量分析

Radiometric　：液体シンチレーションカウンタによる β -線計数法

処理・調製・その他　：　試料の前処理、調製などの情報

前処理　acid-alkali-acid：酸 - アルカリ - 酸洗浄
acid washes：酸洗浄
acid etch：酸によるエッチング
none：未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material：低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction：骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction：木材のセルローズ抽出

Extended Counting：Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関　BETA ANALYTIC INC.
4985 SW 74 Court, Miami, Fl, U.S.A 33155

試料データ	14C年代(y BP)	δ13C(permil)	補正14C年代(y BP)
	Conv. rad. age		Calendar cal. age
Beta-163041	3490±40	-26.2	3430±40
試料名(218931) ND1-1			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-163042	3370±40	-27.1	3340±40
試料名(218932) ND1-2			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-163043	3360±40	-26.3	3340±40
試料名(218933) ND1-3			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-163044	3360±40	-27.4	3330±40
試料名(218934) ND1-4			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-163045	4030±40	-25.8	4520±50
試料名(218935) ND1-5			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174472	4000±40	-26.9	4480±40
試料名(218976) ND1-6			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174473	4000±40	-26.9	4440±40
試料名(218976) ND1-7			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174474	3930±40	-25.8	3980±40
試料名(218980) ND1-8			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174475	3940±40	-24.1	3930±40
試料名(218981) ND1-9			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174476	3780±40	-17.3	3840±40
試料名(218982) ND1-10			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		

試料データ	14C年代(y BP)	δ13C(permil)	補正14C年代(y BP)
	Conv. rad. age		Calendar cal. age
Beta-174477	3830±40	-22.6	3870±40
試料名(218983) ND1-11			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174478	3810±40	-24.7	3910±40
試料名(218984) ND1-12			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174479	3790±40	-23.3	3860±40
試料名(218985) ND1-13			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174480	3800±40	-23.8	3830±40
試料名(218986) ND1-14			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174481	3800±30	-24.3	3890±30
試料名(218987) ND1-15			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など food residue	acid/alkali/acid		
Beta-174482	4000±40	-27.2	4550±40
試料名(218988) ND1-16			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174483	3980±40	-26.4	3460±40
試料名(218989) ND1-17			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174484	3910±40	-25.3	3380±40
試料名(218990) ND1-18			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174485	4030±40	-23.8	4480±40
試料名(218991) ND1-19			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		
Beta-174486	4000±40	-25.6	4390±40
試料名(218992) ND1-20			
測定方法, 説明	AMS-Standard		
試料種, 前処理など charred_material	acid/alkali/acid		

図1　^{14}C年代測定結果

試料番号	試料種類	測定法	試料採取地点	遺跡地層	試料の状態	測定機関・番号	暦年較正用年代(yBP)	1σ暦年代(cal BP)	2σ暦年代(cal BP)
ND1-1	炭化材	AMS	CH-51	底	試料処理	測定中断(資料不足)	1.00	3490±40	3430±40
ND1-2	炭化材	AMS	CH-28	底	試料処理	測定中断(資料不足)	0.83	3370±40	3340±40
ND1-3	炭化材	AMS	CH-31	底	木材加工	測定中断(資料不足)	0.19	3360±40	3340±40
ND1-4	炭化材	AMS	MP-1	底	試料処理	測定中断(資料不足)	0.97	3370±40	3330±40
ND1-5	炭化材	AMS	MP-10	底	試料処理	測定中断(資料不足)	0.15	4530±40	4520±50
ND1-6	炭化材	AMS	CH-44	底	木材加工	測定中断(資料不足)	0.81	4480±40	4430±40
ND1-7	炭化材	AMS	CH-46	底	木材加工	測定中断(資料不足)	0.81	4440±40	4440±40
ND1-8	炭化物	AMS	OP-146	第2層	食物残渣	測定中断(資料不足)	0.91	3980±40	4440±40
ND1-9	炭化物	AMS	AH000	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.21	3930±40	3890±40
ND1-10	炭化物	AMS	AH006	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.10	3960±40	3930±40
ND1-11	炭化物	AMS	AH030	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.07	3720±40	3840±40
ND1-12	炭化物	AMS	AH031	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.21	3910±40	3900±40
ND1-13	炭化物	AMS	AH013	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.81	3910±40	3910±40
ND1-14	炭化物	AMS	AH018	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.13	3840±40	3880±40
ND1-15	炭化物	AMS	AH017	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.14	3860±40	3880±40
ND1-16	炭化物	AMS	MP002	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.32	3980±40	3900±30
ND1-17	炭化材	AMS	AH018P3	第2層	木材加工	測定中断(資料不足)	0.81	4000±40	4550±40
ND1-18	炭化物	AMS	AH001	底	土器内面付着	測定中断(資料不足)	0.70	3980±40	3430±40
ND1-19	炭化材	AMS	AH007HP21	第2層	木材加工	測定中断(資料不足)	0.92	3970±40	3380±40
ND1-19	炭化物	AMS	OP178	第2層	食物残渣	測定中断(資料不足)	0.08	4480±40	4480±40
ND1-20	炭化物	AMS	OP178	第2層	木材加工	測定中断(資料不足)	0.02	4980±40	4530±40

図2　^{14}C年代測定試料一覧

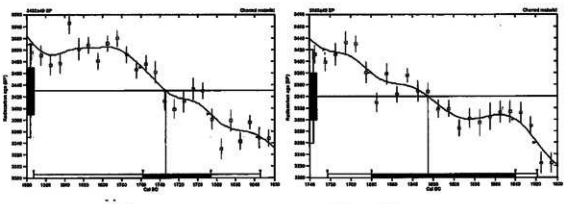


図3　^{14}C年代の暦年代較正（1）

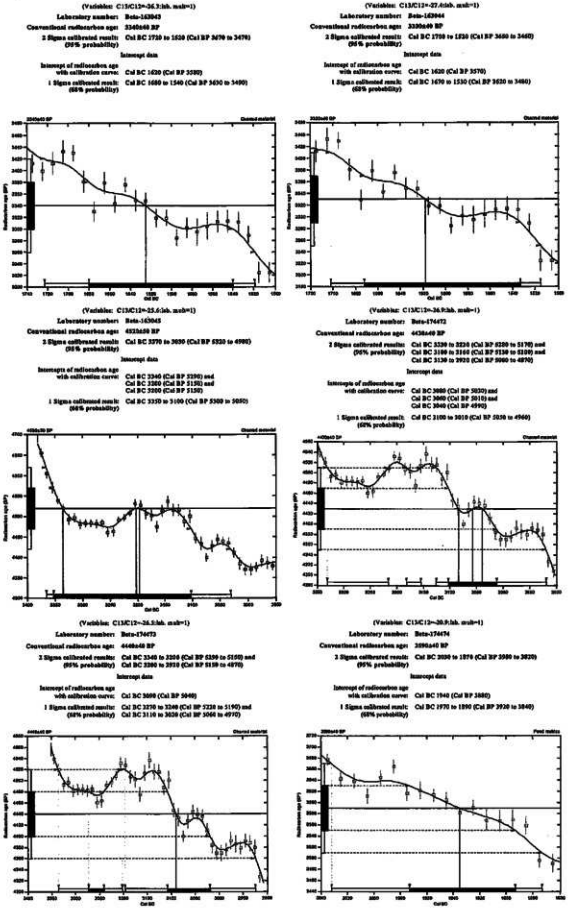


図４　^{14}C年代の層年代較正（2）

(Variables: C13/C12=-24.1/hh, multi=1)

Laboratory number: Beta-174675

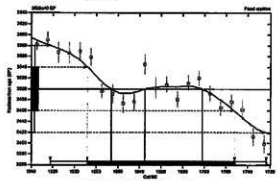
Conventional radiocarbon age: 3580±40 BP

2 Sigma calibrated result: (95% probability) Cal BC 1920 to 1735 (Cal BP 3870 to 3685)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1879 (Cal BP 3828) and Cal BC 1848 (Cal BP 3798) and Cal BC 1789 (Cal BP 3739)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal BC 1890 to 1735 (Cal BP 3840 to 3685)



(Variables: C13/C12=-17.7/hh, multi=1)

Laboratory number: Beta-174676

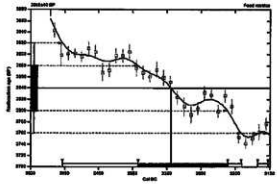
Conventional radiocarbon age: 3840±40 BP

2 Sigma calibrated results: (95% probability) Cal BC 2459 to 2199 (Cal BP 4408 to 4148) and Cal BC 2176 to 2103 (Cal BP 4125 to 4198)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 2280 (Cal BP 4340)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal BC 2345 to 2210 (Cal BP 4290 to 4160)



(Variables: C13/C12=-22.6/hh, multi=1)

Laboratory number: Beta-174677

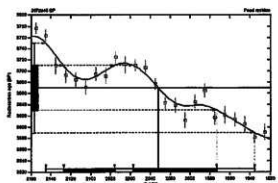
Conventional radiocarbon age: 3670±40 BP

2 Sigma calibrated result: (95% probability) Cal BC 2149 to 1943 (Cal BP 4100 to 3893)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 2030 (Cal BP 3982)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal BC 2130 to 2050 (Cal BP 4080 to 4030) and Cal BC 2040 to 1970 (Cal BP 4010 to 3920)



(Variables: C13/C12=-24.7/hh, multi=1)

Laboratory number: Beta-174678

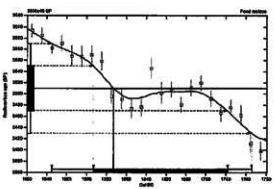
Conventional radiocarbon age: 3610±40 BP

2 Sigma calibrated result: (95% probability) Cal BC 1948 to 1730 (Cal BP 3898 to 3680)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1870 (Cal BP 3820)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal BC 1890 to 1745 (Cal BP 3840 to 3710)



(Variables: C13/C12=-22.3/hh, multi=1)

Laboratory number: Beta-174679

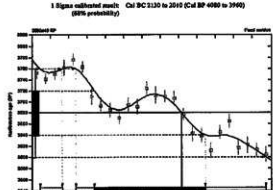
Conventional radiocarbon age: 3680±40 BP

2 Sigma calibrated result: (95% probability) Cal BC 2290 to 2170 (Cal BP 4240 to 4120) and Cal BC 2150 to 1940 (Cal BP 4099 to 3890)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 2040 (Cal BP 3990)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal BC 2120 to 2040 (Cal BP 4080 to 3990)



(Variables: C13/C12=-23.8/hh, multi=1)

Laboratory number: Beta-174680

Conventional radiocarbon age: 3620±40 BP

2 Sigma calibrated results: (95% probability) Cal BC 2130 to 2030 (Cal BP 4080 to 4030) and Cal BC 2020 to 1899 (Cal BP 4010 to 3849)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age with calibration curve: Cal BC 1970 (Cal BP 3920)

1 Sigma calibrated result: (68% probability) Cal BC 2030 to 1940 (Cal BP 3980 to 3890)

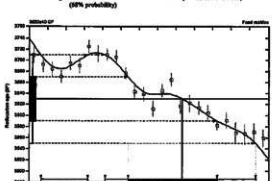


図５　^{14}C年代の暦年代較正（3）

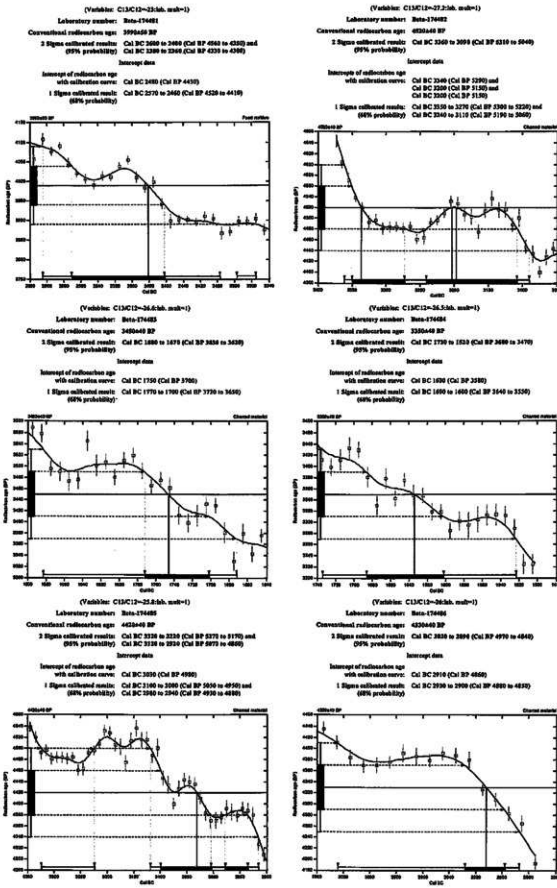


図6　^{14}C年代の層年代較正（4）

2．縄文文化後期中葉の竪穴住居址から出土した炭化木材の樹種同定

三野　紀雄（北海道浅井学園大学）

八雲町野田生1遺跡の縄文文化後期中葉の竪穴住居址及び土坑から出土した炭化木材について樹種の同定を行った。

1．試料

試料はAH－2住居址、MP－5住居址、AH－7住居址、AH－14住居址、AH－18住居址、CH－27住居址、CH－32住居址から出土した住居の構造材と思われる炭化した木材と、AH－18HP－3土坑、MP－10土坑及びO－48・49HOG木根跡から出土した炭化木材である。本遺跡では34棟の住居と155基の土坑が確認されているが、今回、7棟の住居址から採取した総計87点、2基の土坑からの10点、木根跡からの2点の試料について樹種同定を行っている。なお、住居構造部材についてはそれぞれ一本の部材から概ね一片の炭化材を採取し検鏡試料としている。

2．方法

樹種同定のための木材観察には走査電子顕微鏡（JEOL　JSM-5400）を用いている。まず1個の試料を3片に分割し、それぞれ安全剃刀で木口面、板目面、柾目面が観察できるように調整し、試料台にドータイトD-550で接着、オート・ファインコーター（JEOL　JFC-1600）で金ターゲットを用いコーティングした後、加速電圧15kv下で木材組織を観察している。同定にあっては記載文献[1)2)3)4)]と現生木材の組織標本を参照している。

3．結果

住居址、土坑、木根跡から出土した試料の樹種同定の結果をそれぞれ第1表、第2表、第3表に、またそれぞれの遺構で用いられていた樹木の樹種構成を第4表と第5表に示している。

AH－2住居址ではクルミ属と思われる広葉樹放射孔材1点、樹種不明の広葉樹散孔材が1点、MP－5住居址では樹種不明の散孔材が2点、ヤナギ属が1点、ハンノキ属が2点、クリが1点、AH－7住居址ではクルミ属と思われる広葉樹放射孔材が1点、ヤナギ属が2点、トネリコ属が1点、クリが27点、クワ属が2点、シナノキ属が1点、モミ属が1点、樹種不明の広葉樹が2点、AH－14住居址ではクルミ属と思われる広葉樹放射孔材1点、コナラ属コナラ亜属コナラ節が4点、トネリコ属が1点、クリが4点、AH－18住居址ではハンノキ属が1点、クリが1点、CH－27住居址ではカバノキ属が1点、コナラ属コナラ亜属コナラ節が2点、クワ属が2点、クリが5点、モミ属が6点、樹種不明の広葉樹が2点、CH－32住居址ではトネリコ属が1点、ヤナギ属が1点、ハンノキ属が1点、クリが2点、コナラ属コナラ亜属コナラ節が1点である。AH－18HP－3土坑ではクルミ属と思われる広葉樹放射孔材1点、ササ属が2点、クリが2点、MP－10土坑では樹種不明の広葉樹が1点、ヤナギ属が1点、コナラ属コナラ亜属コナラ節が1点、クリが7点である。木根跡ではコナラ属コナラ亜属コナラ節が2点である。

＜木材組織の特徴＞

樹種の同定にあたっては、以下の木材組織の特徴によった。

コナラ属コナラ亜属コナラ節　***Quercus***　**sp.**：環孔材、孔圏部の幅が広く1ないし数列、孔圏外で急に導管の大きさを減じる、孔圏部の大導管は円形あるいは楕円形で大体単独。孔圏外の小導管は単独あるいは2～3個集まって半径方向に火炎状に配列する。大導管、小導管ともに単穿孔。放射組織は同性、単列、また典型的な広放射組織をもつ。

クリ ***Castanea crenata***：環孔材、孔圏部の幅が広く１ないし数列、孔圏外で急に導管の大きさを減じる、孔圏部の大導管は円形あるいは楕円形で大体単独。孔圏外の小導管は単独あるいは２～３個集まって半径方向に火炎状に配列する。この小導管の火炎状配列は肉眼でも観察できる。大導管、小導管ともに単穿孔。放射組織は同性、単列まれに２列。広放射組織をもたない。

カバノキ属 ***Betula sp.***：散孔材、導管は数個集合し放射方向に配列する、導管は階段穿孔、射出線は同性で、１列ないし２列ないし３列。

シナノキ属 ***Tilia sp.***：散孔材、導管は放射方向に２ないし数個集合し複合管孔を呈する、導管の大きさは春材から夏材へとゆっくり減じる、導管は単穿孔、導管壁に傾斜角のゆるい螺旋肥厚が見られる。放射組織は同性で、細胞列は１列から３～４列。

ハンノキ属 ***Alnus sp.***：散孔材、導管はほぼ平等に分布する、２～３個が半径方向に連なって放射複合環孔を呈する。導管は階段穿孔、小型で円形の対列壁孔が見られる。放射組織は同性で単列、集合放射組織がみられる。

ヤナギ属 ***Salix sp.***：散孔材、導管は小型で散在状に分布する。年輪の最内部に導管が断続的にあるいはかなり長く円弧状に連なって配列している。導管の形は円形からやや多角形、単穿孔。放射組織は単列で異性。

クワ属 ***Morus sp.***：環孔材、孔圏では３～４列に配列する。孔圏外では孔圏に近いところでは孔圏導管よりやや直径が小さいが、晩材に近づくにつれて大きさを減じ、多角形の小導管が群状に集合する。導管の周囲には柔細胞が取り囲み翼状を示す。大導管、小導管ともに単穿孔。放射組織は多列。

トネリコ属 ***Fraxinus sp.***：環孔材、孔圏内の導管の配列は１ないし多列、孔圏外では疎らに散在し２個融合することが多い、導管は単穿孔、射出線は同性で、１ないし２列あるいは３列。

クルミ属 ***Juglans sp.***：放射孔材、導管はやや大形で放射方向に配列し２ないし３個集合する、導管の大きさは春材から夏材へとゆっくり減じる、導管は単穿孔、射出線は１ないし２ないし３列。

モミ属 ***Abies sp.***：針葉樹、早材から晩材への移行は緩やか、晩材の幅は狭い。傷害樹脂導をもつものもある。放射組織は１列。放射柔細胞の壁は厚く、じゅず状を呈する。分野壁孔スギ型で、一分野に１～４個。

４．考察

北海道における縄文文化の竪穴住居建造に用いられる樹木を地域的にみると、次のとおり大きく４地域に区分される[11), 12), 13), 14)]。主としてトネリコ属材を用いる日本海沿岸地域、コナラ属コナラ亜属コナラ節材を用いる太平洋沿岸地域、早期のみであるが針葉樹材を用いるオホーツク海沿岸地域、そしてクリを用いる渡島半島の太平洋沿岸地域である。渡島半島地域では、縄文文化中期においてクリ材が住居の建築材として選択的に多用され、クリ材のみで建造される住居も見られる[4), 5), 7), 9), 10)]。その後の縄文文化後期そして晩期になると、クリ材の使用頻度は少なくなり、続縄文文化になると住居建造には使用されなくなる。

野田生１遺跡においては、第４表にも示されるように住居の建造には主にクリ材が用いられている。他に、ヤナギ属材（ヤナギ類）、ハンノキ属材（ハンノキあるいはケヤマハンノキなど）、コナラ属コナラ亜属コナラ節材（ミズナラ、コナラ、カシワ）、クワ属材（ヤマグワ）、トネリコ属材（ヤチダモ、コバノトネリコ）、カバノキ属材（シラカンバ、ウダイカンバ）、モミ属材（トドマツ）なども混用される。なお、AH－７住居址でクリ材の使用頻度が、またCH－27住居でクリ材に加えてモミ属材の使用頻度が著しく高いのが特徴的である。竪穴住居の建造にモミ属材の多用される例としては、縄文文化早期の佐呂間町ＨＳ－06遺跡の第３住居址が北海道内では唯一の例である[6)]。

野田生１遺跡は、八雲町南部の野田生地区に所在し、噴火湾に向かって舌状に突出する標高40mの海岸段丘上に立地している。遺跡が所在する舌状台地の北西側には弥之助沢川があり、この舌状台地から河畔に向かってやや急な段丘斜面と河畔の左右に幅約10mの狭い沖積地が分布している。この舌状台地は、弥之助沢川の河床面との比高が約７mの下段段丘面と、河床面との比高約10mの上段段丘面の二つの段丘面より成っている。下位の段丘面からは２棟の住居址が、また上位の段丘面からは30数棟の住居址群が検出されている。今回分析した炭化木材が出土する竪穴住居址のうちＣＨ－27住居址は下段段丘面に、また残り６棟の住居址は上段段丘面で検出されている。

竪穴住居の建造に用いた樹木から古植生を推定すると、当時、遺跡周辺のうち二つの段丘面と段丘斜面にはいわゆる里山とも言うべき主にクリやミズナラなどの二次林の要素の強い樹木に加えてシナノキやウダイカンバ、ヤマグワなどを混じる広葉樹林、また弥之助沢川の河畔沿いの沖積地にはヤナギ類、ハンノキ、ヤチダモなどから成る適潤林の成立が考えられる。この河畔の沖積地の樹林にはオニグルミやトドマツなどの肥沃地を好む樹木も混じていたものと思われる。

この時期は、縄文文化中期までの温暖な気候からしだいに寒冷な気候へと移り変わり、それにともなって山岳部に分布していたトドマツが、河川によって種子が運搬され、河畔沿いに下流域までその分布域を広げていたものと思われる。ＣＨ－27住居址のようにモミ属材の使用比が高い住居が河畔に近い下段段丘面に所在するのは、そのことを示しているのではなかろうか。

謝　辞

本遺跡の木質遺物の樹種同定の機会を与えてくださった北海道埋蔵文化財センター調査第１調査部第２調査課の皆様に感謝申し上げます。また、本遺跡の炭化木材の分析にあたって、浅井学園大学で平成14年度後期に環境考古学演習を受講した学生の皆さんには検鏡試料作成のお手伝いを頂いた。感謝申し上げます。

文　献

１）林　弥一　1957　「本邦における針葉樹材のカード式識別法」『林業試験場研究報告第98号』国立林業試験場編

２）須藤彰司　1959　「本邦広葉樹材の識別」『林業試験場報告　第118号』国立林業試験場編

３）佐伯　浩　1982　『走査電子顕微鏡図説　木材の構造』日本林業技術協会

４）三野紀雄　1988　「石川１遺跡より得た炭化木材について」『-北埋調報45-函館市石川１遺跡』北海道埋蔵文化財センター編

５）三野紀雄　1988　「函館市桔梗２遺跡より得た炭化木材について」『-北埋調報46-函館市桔梗２遺跡』北海道埋蔵文化財センター編

６）山田悟郎・三野紀雄　1990　「産出した花粉・胞子と樹種について」『佐呂間町ＨＳ－06遺跡』佐呂間町教育委員会編

７）三野紀雄　1991　「上藤城７遺跡から出土した炭化木材について」『上藤城７遺跡』七飯町教育委員会編

８）島地　謙、伊東隆夫　1992　『図説　木材組織』地球社

９）三野紀雄　1998　「函館市西桔梗１遺跡出土の炭化した木材」『-北埋調報122-函館市西桔梗１遺跡』北海道埋蔵文化財センター編

10）星野智彦、三野紀雄、松田泰典　2000a　「山崎４遺跡より出土した炭化木材」『-北埋調報162-山崎４遺跡』北海道埋蔵文化財センター編

11）三野紀雄　2000ｂ　「先史時代における木材利用（３）」『北海道開拓記念館研究紀要第28号』

第１表　住居址から出土した炭化材の樹種同定

＜ＡＨ－２住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	(試料番号1)	炭化物集中１	広葉樹放射孔材、クルミ属　*Juglans* sp.？
2	(試料番号2)	炭化物集中２	広葉樹環孔材

＜ＡＨ－７住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	AH7－１	覆土3上面	樹種不明
2	2	覆土3上面	クリ　*Castanea crenata*
3	3	覆土1	クリ　*Castanea crenata*
4	4	覆土1	クリ　*Castanea crenata*
5	5	覆土3上面	クリ　*Castanea crenata*
6	6	覆土1	モミ属　*Abies* sp.？
7	7	覆土1	クワ属　*Morus* sp.
8	8	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
9	9	覆土1	樹種不明
10	10	覆土2上面	シナノキ属　*Tilia* sp.
11	11	覆土2	コナラ属　*Quercus* sp.
12	12	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
13	13	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
14	1396	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
15	1397	覆土2	クワ属　*Morus* sp.
16	1398	覆土2	樹種不明
17	1399	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
18	1400	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
19	1401	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
20	1402	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
21	1403	覆土2	クリ　*Castanea crenata* ヤナギ属　*Salix* sp.
22	1405	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
23	1406	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
24	1407	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
25	1408	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
26	1409	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
27	1410	覆土2	樹種不明
28	1411	覆土2	トネリコ属　*Fraxinus* sp.
29	1412	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
30	1413	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
31	1414	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
32	1415	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
33	1416	覆土2	ヤナギ属　*Salix* sp.
34	1417	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
35	1418	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
36	1419	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
37	1420	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
38	1421	覆土2	クリ　*Castanea crenata*

＜ＡＨ－14住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	AH14-1841	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
2	1840	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
3	1838	覆土2	コナラ属　*Quercus* sp.
4	1837	覆土2	コナラ属　*Quercus* sp.
5	1844	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
6	1869	床面	クリ　*Castanea crenata*
7	1843	覆土2	コナラ属　*Quercus* sp.
8	1870	床面	トネリコ属　*Fraxinus* sp.
9	1839	覆土2	広葉樹放射孔材、クルミ属　*Juglans* sp.？
10	1868	床面	コナラ属　*Quercus* sp.

＜ＡＨ－18住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	(試料番号13)	床	クリ　*Castanea crenata*
2	(試料番号14)	覆土3	ハンノキ属　*Alnus* sp.

＜CH－27住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	CH27-1409	覆土2	モミ属　*Abies sp.*
2	1410	覆土2	樹種不明
3	1413	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
4	1414	覆土2	クリ　*Castanea crenata* モミ属　*Abies sp.*
5	1417	覆土2	モミ属　*Abies sp*
6	1418	床面	クワ属　*Morus sp.*
7	1419	覆土2	カバノキ属　*Betula sp.* ？
8	1424	覆土2	樹種不明
9	1425	覆土2	モミ属　*Abies sp.*
10	1430	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
11	1440	覆土2(上位) 覆土2(下位)	クリ　*Castanea crenata* モミ属　*Abies sp.*
12	1442	覆土2	モミ属　*Abies sp.*
13	1443	覆土2	コナラ属　*Quercus sp.*
14	1448	床面	クリ　*Castanea crenata*
15	1449	床面	コナラ属　*Quercus sp.*

＜CH－32住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	CH32-336	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
2	337	覆土2	トネリコ属　*Fraxinus sp.*
3	345	覆土2	コナラ属　*Quercus sp.*
4	346	覆土2	クリ　*Castanea crenata*
5	347	覆土2	ヤナギ属　*Salix sp.*
6	348	覆土2	ハンノキ属　*Alnus sp.*

＜MP－5住居址＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	MP5－1	覆土1上面	広葉樹散孔材
2	2	覆土1上面	ヤナギ属　*Salix sp.*
3	3	覆土1上面	広葉樹散孔材、 MP005－1と同じ
4	4	覆土1上面	ハンノキ属　*Alnus sp.*
5	5	覆土1上面	ハンノキ属　*Alnus sp.*
6	6	覆土1上面	クリ　*Castanea crenata*

第2表　土坑から出土した炭化材の樹種同定

＜AH－18HP－3土坑＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	(サンプル採取位置 床C)	坑底	クリ　*Castanea crenata* 広葉樹放射孔材、クルミ属　*Juglans sp.* ？ ササ属　*Sasa sp.*
2	(サンプル採取位置 床A)	坑底	クリ　*Castanea crenata* ササ属　*Sasa sp.*

＜MP－10土坑＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	MP10－1	土層11層	クリ　*Castanea crenata*
2	2	土層11層	クリ　*Castanea crenata*
3	3	土層11層	クリ　*Castanea crenata*
4	4	土層11層	コナラ属　*Quercus sp.* ？
5	5	土層11層	クリ　*Castanea crenata*
6	6	土層11層	クリ　*Castanea crenata* ヤナギ属　*Salix sp.*
7	7	土層11層	広葉樹　樹種不明
8	8	土層11層	クリ　*Castanea crenata*
9	9	土層11層	クリ　*Castanea crenata*
10	10	土層11層	クリ　*Castanea crenata*

第3表　KO－d直下の木根跡から出土した炭化材の樹種同定

＜O－48・49HOG＞

NO.	遺物番号	層　位	樹　種
1	049HOG－1	Ⅱ層直下－木根跡 (ko－d 直下)	コナラ属　*Quercus sp.*

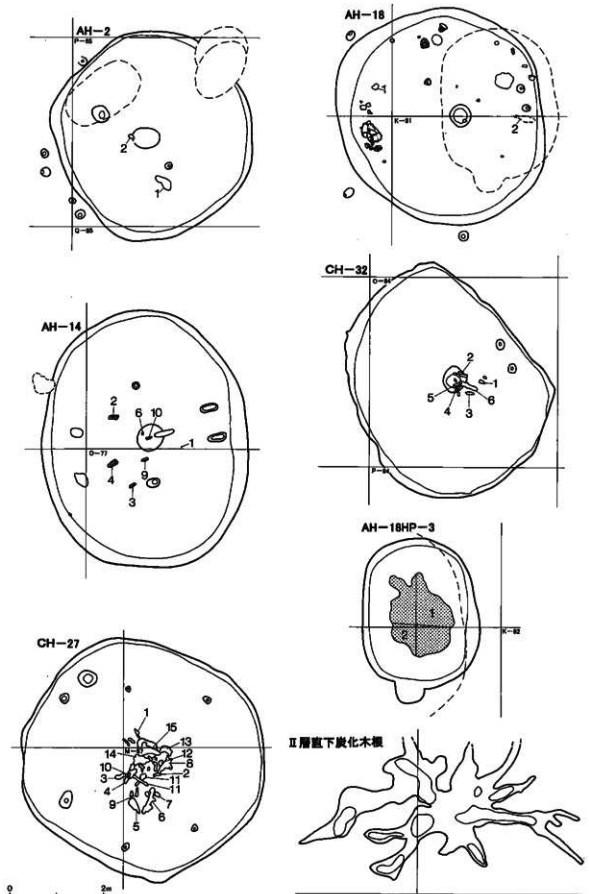


図1　樹種同定試料炭化材出土状況(1)

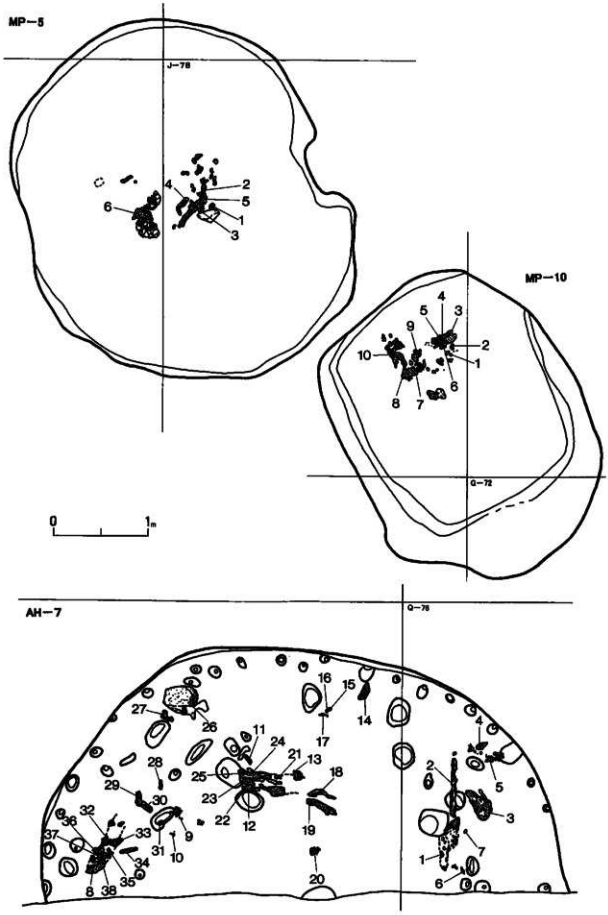
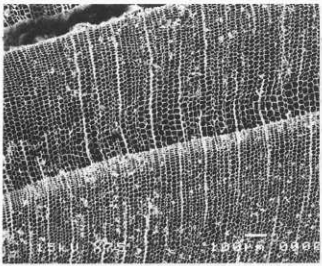
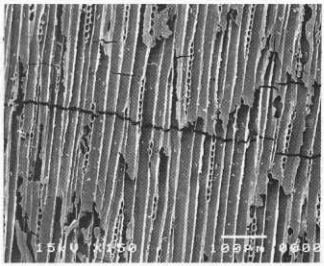


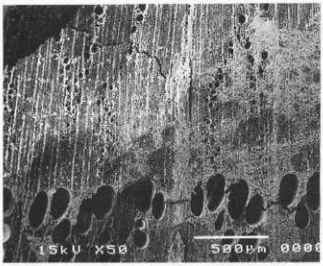
図2　樹種同定試料炭化材出土状況(2)

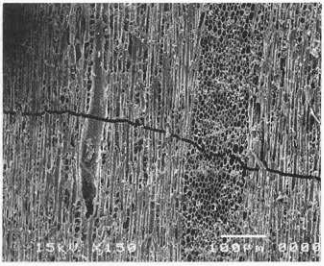
木口面　　板目面



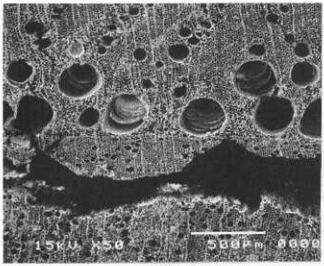


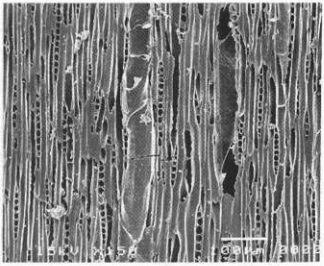
モミ属　*Abies* sp.（AH－27　住居址　№9）





コナラ属コナラ亜属コナラ節　*Quercus* sp.（AH－14　住居址　№10）

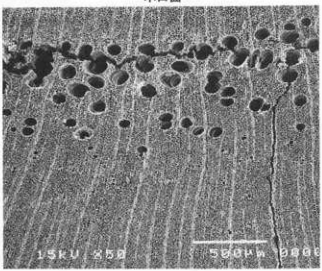


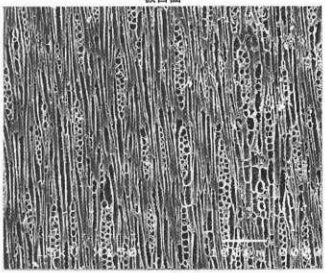


クリ　*Castanea crenata*（AH－7　住居址　№25）

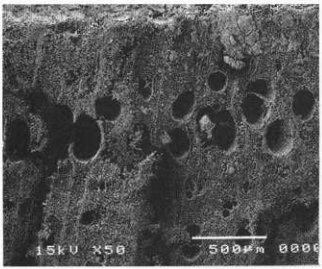
写真図版1　炭化木材の組織

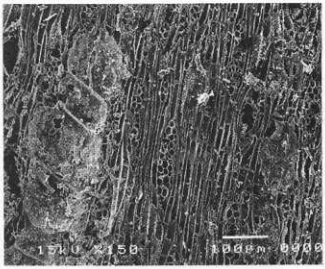
木口面　　板目面



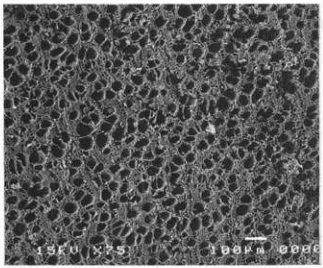


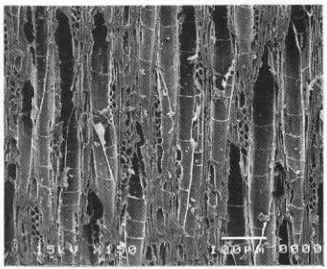
トリネコ属　*Fraxinus* sp.（AH－14　住居址　№8）





クワ属　*Moruus* sp.（AH－7　住居址　№15）





シナノキ属　*Tillia* sp.（AH－7　住居址　№25）

写真図版2　炭化木材の組織

第4表　住居址から出土した炭化木材の樹種構成

<AH－2住居址>

樹　種	広葉樹散孔材 クルミ属？	広葉樹環孔材	計
資料点数	1	1	2
構成比%	50	50	100

<MP－5住居址>

樹　種	広葉樹散孔材	ヤナギ属	ハンノキ属	クリ	計
資料点数	2	1	2	1	6
構成比%	33	17	33	17	100

<AH－7住居址>

樹　種	広葉樹放射孔材 クルミ属？	ヤナギ属	トネリコ属	クリ	クワ属	シナノキ属	モミ属
資料点数	1	2	1	27	2	1	1
構成比%	2.5	5	2.5	70	5	2.5	2.5

不明	計
4	39
10	100

<AH－14住居址>

樹　種	広葉樹放射孔材 クルミ属？	コナラ属	トネリコ属	クリ	計
資料点数	1	4	1	4	10
構成比%	10	40	10	40	100

<OI－27住居址>

樹　種	カバノキ属	コナラ属	クワ属	クリ	モミ属	不明	計
資料点数	1	2	1	5	6	2	17
構成比%	6	12	6	29	35	12	100

<OH－32住居址>

樹　種	トネリコ属	ヤナギ属	ハンノキ属	クリ	コナラ属	計
資料点数	1	1	1	2	1	6
構成比%	16.6	16.6	16.6	33.3	16.6	100

第5表　土坑から出土した炭化木材の樹種構成

<AH－18HP－3土坑>

樹　種	広葉樹放射孔材 クルミ属？	ササ属	クリ	計
資料点数	1	2	2	5
構成比%	20	40	40	100

<MP－10土坑>

樹　種	広葉樹樹種不明	ヤナギ属	コナラ属	クリ	計
資料点数	1	1	1	7	10
構成比%	10	10	10	70	100

北海道開拓記念館編

12）三野紀雄　2000c　「先史時代における木材利用（4）－針葉樹材について－」『「北の文化交流史研究事業」研究報告』北海道開拓記念館編

13）三野紀雄　2001　「先史時代における木材利用（5）－クリ材について－」『北海道開拓記念館研究紀要第29号』北海道開拓記念館編

14）三野紀雄　2002　「北海道の先史時代におけるいわゆる里山の成立について」『北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要第2号』北海道浅井学園大学編

3．野田生１遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析

蟇科　哲男（京都大学原子炉実験所）

はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探ると言う目的で、蛍光Ｘ線分析法により黒曜石およびサヌカイト製遺物の石材産地推定を行なっている[1, 2, 3]。石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たし、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、十分条件を満たし、ただ一カ所の一致する露頭産地の調査のみで移動原石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『石器とある産地の原石が一致したからと言っても、他の産地にも一致する可能性があるために、一致した産地のものと言い切れないが、しかし一致しなかった場合そこの産地のものでないと言い切れる』が大原則である。考古学では、人工品の様式が一致すると言う結果が非常に重要な意味があり、見える様式としての形態、文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材があり一致すると言うことは古代人が意識して一致させた可能性があり、一致すると言うことは、古代人の思考が一致すると考えてもよく、相互関係を調査する重要な結果である。石器の様式による分類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡から近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石器原材であっても、遺跡近くの似た組成の原石産地の石材と思いこみ誤判定する可能性がある。人が移動させた石器の元素組成とＡ産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がＡ産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにＡ産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、Ｂ、Ｃ、Ｄの産地でないとの証拠がないために、Ａ産地だと言い切れない。Ｂ産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはＢ産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ・・・・）の原石群と比較して、Ａ産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がＡ産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何ヶ所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。黒曜石、サヌカイトなどの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられるため、微量成分を中心に元素分析を行ない、これを産地を特定する指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、各原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比して、各平均値からの離れ具合（マハラノビスの距離）を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限に近い個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのＴ２乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある石器原材と同じ成分組成の原石はＡ産地では

10個中に一個みられ、B産地では一万個中に一個、C産地では百万個中に一個、D産地では・・・・一個と各産地毎にもとめられるような、客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析を行なった試料は、八雲町に位置する野田生1遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の13個の産地分析の結果が得られたので報告する。

黒曜石原石の分析

黒曜石原石の風化面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光X分析装置によって元素分析を行なう。主に分析した元素はK、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの各元素である。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量をそれぞれ用いる。黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、九州の各地に黒曜石の原産地は分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくされている。元素組成によってこれら原石を分類し表1に示す。この原石群に原石産地は不明の遺物で作った遺物群を加えると202個の原石群になる。ここでは北海道地域および一部の東北地域の産地について記述すると、白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群（旧白滝第1群）にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った（旧白滝第2群）、また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。置戸産原石は、北海道常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取された原石の元素組成は所山置戸群にまとまる。り、また同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類される。この原産地は、常呂川に通じる流域にあり、この常呂川流域で黒曜石の円礫が採取されるが現在まだ調査していない。また置戸町では秋田林道でも原石が採取でき、この原石は置戸山群にまとまる。留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石はケショマップ第1および第2群に分類された。十勝三股産原石は、北海道河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より原石が採取され、この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析でたとえ、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。また、清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地から産出する黒曜石から2個の美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。旭川市の近文台、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第

二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜市恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況とか礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。赤井川産原石は、北海道余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。ここの原石には、少球果の列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえない原石で赤井川第１群を、また、球果の非常に少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第２群を作った。これら第１、２群の元素組成は非常に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第１、２群の２群に区別され、豊泉第２群の原石は斑晶が少なく良質な黒曜石である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。また、青森県教育庁の斉藤岳氏提供の奥尻島幌内川産黒曜石の原石群が確立されている。出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた群で、この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れる鰺ケ沢地区に流入する中村川の上流で１点採取され、また、青森市の鶴ケ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。青森県西津軽郡深浦町の海岸とか同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で六角沢群をまた、八森山産の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森地区より産出の大釈迦群（旧浪岡群）は赤井川産原石の第１、２群と弁別は可能であるが原石の組成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさがみられる程度であるが、鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で中には５ｃｍ大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計202個の原石群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

結果と考察

遺跡から出土した石器、石片は風化しているが、黒曜石製のものは風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。産地分析で水和層の影響は、軽い元素の分析ほど大きいと考えられるが、影響はほとんど見られない。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合同定される原産地に差はない。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやゝ不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。

今回分析した野田生１遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の分析結果を表２に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするためRb/Zrの一変量だけを考えると、表２の試料番号79744番の遺物ではRb/Zrの値は1.001で、赤井川第１群の［平均値］±［標準偏差値］は、0.969±0.060である。遺物と原石群の差を標準偏差値（σ）を基準にして考えると遺物は原石群から0.5σ離れている。ところで赤井川第１群の原産地から100ヶの原石を採ってきて分析すると、平均値から±0.5σのずれより大きいものが61個ある。すなわち、この遺物が、赤井川第１群の原石から作られていたと仮定しても、0.5σ以上離れる確率は61%であると言える。だから赤井川第１群の平均値から0.5σしか離れていないときには、この遺物が赤井川第１群の原

石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山群に比較すると、赤石山群の平均値からの隔たりは、約6σである。これを確率の言葉で表現すると、赤石山群の原石を採ってきて分析したとき、平均値から6σ以上離れている確率は百万分の一であると言える。このように、百万個に一個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、赤石山群の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は赤井川第1群に61%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから赤井川産原石が使用されいると同定され、さらに赤石山群に一万分の一%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから赤石山産原石でないと同定される」。遺物が一ヶ所の産地（赤井川産地）と一致したからと言って、例え赤井川第1群と赤石山群の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形（非破壊分析）であることから、他の産地に一致しないとは言えない、同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地（赤井川産地）に一致し必要条件を満足したと言っても、一致した産地の原石とは限らないために、帰属確率による判断を表1の202個すべての原石群について行ない十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて赤井川産地の石材のみが使用されていると判定される。実際はRb/Zrといった唯1ヶの変量だけでなく、前述した8ヶの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならならない。例えばA原産地のA群で、Ca元素とRb元素との間に相関があり、Caの量を計ればRbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する[4,5]。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では202個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる、すなわち、赤井川産原石と判定された遺物について、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および北海道白滝地域産の原石の可能性を考える必要がない結果で、高い確率で同定された産地のみの結果を表3に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、今回の分析では問題にならなかったが、多数の遺物試料を処理するときに、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成のバラツキの範囲を越て大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石産地（確率）の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2乗の値を記した。この遺物については、記入されたD2乗の値が原石群の中で最も小さなD2乗値で、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断する場合もある。今回分析した野田生1遺跡の結果の中で、赤井川産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三股群に比較的似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地の複数の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、一遺跡で多数の遺物を分析

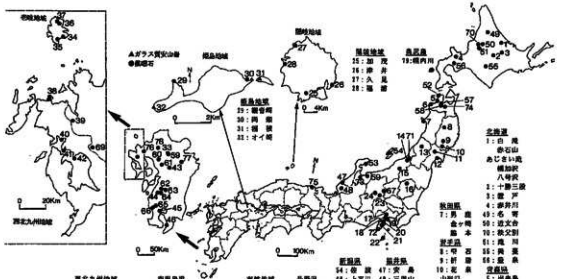

0　20Km
0　50Km
0　100Km
0　5Km
西北九州地域
腰岳地域
福井地域
隠岐地域
島根県
13:横井月山
北海道
1:白滝
赤石山
あじさい滝
幌加内
八号沢
2:十勝三股
3:置戸
4:赤井川
49:名寄
50:幌文舟
10:秩父別
51:鬼刈
52:美里
53:登別
54:恵庭
55:置戸
56:置戸
青森県
5:出来島
6:深浦
八森山
秋田県
7:男鹿
金ヶ崎
本荘
岩手県
8:一関
9:折壁
10:花泉
宮城県
11:加美
12:月山
湯殿山
13:三崩倉
14:堪能
15:大森
16:庄内
17:梅原・笹原
18:イ・一関原
19:藤島
20:上ぉ宮
21:柏崎前
22:神奈川
23:鷹取山
24:鷹ケ峰
25:月川
男女倉
雪山原
26:神奈川
27:大谷
28:笹ノ原
29:大倉沢
30:二上山
31:二上山
32:金山
33:笠
34:大原ノ北
35:富ケ原
36:向ノ原
37:鳥
38:平木場
39:小国
40:上中島
41:鳥
42:竜ケ岳
43:宮ケ迫
44:白
45:竜ケ岳
46:白
47:笠
48:三笠山
49:名
50:幌
51:鬼
52:美
53:登
54:恵
55:置
56:置
57:戸
58:樹ケ
59:置
60:上
61:上
62:上
63:上
64:上
65:上
66:上
67:大
68:上
69:上
70:上
71:上
72:小
73:二
74:上
75:上
76:上
77:上
78:上
79:上
80:上
81:上
82:上
83:上
84:上
85:上
86:上
87:上
88:上
89:上
90:上
91:上
92:上
93:上
94:上
95:上
96:上
97:上
98:上
99:上
100:上
101:上
102:上
103:上
104:上
105:上
106:上
107:上
108:上
109:上
110:上
111:上
112:上
113:上

表１－１　各黒曜石の原産地における原石比の元素比の平均値と標準偏差値

県	産地名	分析点数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北海道	赤井川	116	0.429±0.311	0.171±0.020	0.039±0.007	2.841±0.262	0.614±0.031	0.514±0.021	0.119±0.017	0.324±0.018	3.222±0.207	6.451±0.048
	〃	30	0.389±0.304	0.169±0.023	0.040±0.004	2.880±0.244	0.609±0.044	0.501±0.022	0.120±0.022	0.323±0.023	3.228±0.207	6.394±0.041
青森県	白滝	39	0.178±0.054	0.096±0.023	0.079±0.013	2.714±0.167	1.340±0.063	0.339±0.013	0.341±0.030	0.672±0.029	3.029±0.023	6.427±0.019
	赤石山	30	0.178±0.054	0.092±0.023	0.078±0.013	2.714±0.167	1.340±0.063	0.339±0.013	0.341±0.030	0.672±0.029	3.029±0.023	6.427±0.019
	八号沢	30	0.178±0.054	0.092±0.023	0.078±0.013	2.714±0.167	1.340±0.063	0.339±0.013	0.341±0.030	0.672±0.029	3.029±0.023	6.427±0.019
	冷川	30	0.178±0.054	0.092±0.023	0.078±0.013	2.714±0.167	1.340±0.063	0.339±0.013	0.341±0.030	0.672±0.029	3.029±0.023	6.427±0.019
	深浦	25	0.162±0.010	0.092±0.001	0.101±0.014	2.589±0.178	1.797±0.076	0.115±0.013	0.457±0.055	0.979±0.044	3.417±0.035	6.388±0.013
秋田県	北又白沢	39	0.019±0.013	0.146±0.008	0.061±0.018	2.349±0.117	0.834±0.031	0.361±0.030	0.165±0.039	0.539±0.045	3.029±0.023	6.427±0.019
	〃	30	0.019±0.013	0.146±0.008	0.061±0.018	2.349±0.117	0.834±0.031	0.361±0.030	0.165±0.039	0.539±0.045	3.029±0.023	6.427±0.019
	〃	30	0.019±0.013	0.146±0.008	0.061±0.018	2.349±0.117	0.834±0.031	0.361±0.030	0.165±0.039	0.539±0.045	3.029±0.023	6.427±0.019
	柏又沢	30	0.019±0.013	0.146±0.008	0.061±0.018	2.349±0.117	0.834±0.031	0.361±0.030	0.165±0.039	0.539±0.045	3.029±0.023	6.427±0.019
	〃	31	0.019±0.013	0.146±0.008	0.061±0.018	2.349±0.117	0.834±0.031	0.361±0.030	0.165±0.039	0.539±0.045	3.029±0.023	6.427±0.019
	男鹿	31	0.019±0.013	0.146±0.008	0.061±0.018	2.349±0.117	0.834±0.031	0.361±0.030	0.165±0.039	0.539±0.045	3.029±0.023	6.427±0.019
	〃

表１－２　各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値

国	原石群名	地	分析点数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
北海道	白滝	第１	37	0.172±0.010	0.096±0.003	0.038±0.005	1.178±0.043	0.305±0.013	0.031±0.004	0.135±0.011	0.304±0.014	0.222±0.022	0.278±0.027
		第２	39	0.174±0.007	0.092±0.002	0.033±0.004	1.174±0.033	0.299±0.012	0.031±0.004	0.139±0.012	0.309±0.017	0.222±0.023	0.278±0.026
		第３	14	0.168±0.005	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
		小計	90	0.173±0.009	0.094±0.003	0.036±0.005	1.176±0.042	0.302±0.013	0.031±0.004	0.136±0.011	0.306±0.016	0.222±0.022	0.278±0.026
	赤井川		15	0.153±0.008	0.087±0.002	0.040±0.003	1.140±0.072	0.284±0.014	0.034±0.005	0.134±0.008	0.314±0.017	0.221±0.021	0.278±0.026
	置戸	赤石山	12	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.156±0.031	0.291±0.010	0.032±0.004	0.135±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		鹿ノ子	17	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.158±0.031	0.293±0.010	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		東山	14	0.161±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.155±0.033	0.290±0.012	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		幸山	12	0.164±0.005	0.092±0.002	0.038±0.004	1.160±0.031	0.294±0.010	0.032±0.004	0.135±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		北沢	13	0.163±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.157±0.031	0.292±0.010	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		小計	68	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.157±0.032	0.292±0.011	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	十勝三股		25	0.242±0.010	0.099±0.003	0.047±0.005	1.048±0.044	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝石沢		14	0.244±0.009	0.099±0.003	0.048±0.004	1.049±0.042	0.312±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝牛首別		11	0.241±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝赤石山		50	0.243±0.010	0.099±0.003	0.047±0.005	1.048±0.043	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝淀川		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝蓬栄		14	0.243±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝小泉		13	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝土久		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝光地園		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝西丸山		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝太平		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝牧太		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
隠岐島	小屋	第１	39	0.317±0.015	0.127±0.006	0.041±0.005	1.441±0.078	0.311±0.012	0.042±0.005	0.178±0.010	0.387±0.017	0.223±0.032	0.330±0.027
		第２	38	0.281±0.010	0.124±0.007	0.034±0.003	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
		第３	14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
		小計	91	0.304±0.020	0.126±0.006	0.038±0.005	1.579±0.154	0.296±0.016	0.041±0.009	0.189±0.013	0.407±0.021	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見		14	0.317±0.009	0.127±0.005	0.041±0.003	1.441±0.078	0.311±0.012	0.042±0.005	0.178±0.010	0.387±0.017	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ		11	0.281±0.010	0.124±0.007	0.034±0.003	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東南		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東北		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東北東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西北西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
宮崎県	桑ノ木津留		47	0.156±0.006	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
	一ノ俣		47	0.156±0.006	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
	深瀬		47	0.156±0.006	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
北海道	赤井川		15	0.153±0.008	0.087±0.002	0.040±0.003	1.140±0.072	0.284±0.014	0.034±0.005	0.134±0.008	0.314±0.017	0.221±0.021	0.278±0.026
置戸	赤石山		12	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.156±0.031	0.291±0.010	0.032±0.004	0.135±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	鹿ノ子		17	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.158±0.031	0.293±0.010	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	東山		14	0.161±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.155±0.033	0.290±0.012	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	幸山		12	0.164±0.005	0.092±0.002	0.038±0.004	1.160±0.031	0.294±0.010	0.032±0.004	0.135±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	北沢		13	0.163±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.157±0.031	0.292±0.010	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	小計		68	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.157±0.032	0.292±0.011	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
十勝三股			25	0.242±0.010	0.099±0.003	0.047±0.005	1.048±0.044	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝石沢			14	0.244±0.009	0.099±0.003	0.048±0.004	1.049±0.042	0.312±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝牛首別			11	0.241±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝赤石山			50	0.243±0.010	0.099±0.003	0.047±0.005	1.048±0.043	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝淀川			14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝蓬栄			14	0.243±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝小泉			13	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝土久			14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝光地園			14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝西丸山			14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝太平			14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
十勝牧太			14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
隠岐島	小屋	第１	39	0.317±0.015	0.127±0.006	0.041±0.005	1.441±0.078	0.311±0.012	0.042±0.005	0.178±0.010	0.387±0.017	0.223±0.032	0.330±0.027
		第２	38	0.281±0.010	0.124±0.007	0.034±0.003	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
		第３	14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
		小計	91	0.304±0.020	0.126±0.006	0.038±0.005	1.579±0.154	0.296±0.016	0.041±0.009	0.189±0.013	0.407±0.021	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見		14	0.317±0.009	0.127±0.005	0.041±0.003	1.441±0.078	0.311±0.012	0.042±0.005	0.178±0.010	0.387±0.017	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ		11	0.281±0.010	0.124±0.007	0.034±0.003	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東南		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東北		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東北東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西北西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
宮崎県	桑ノ木津留		47	0.156±0.006	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
	一ノ俣		47	0.156±0.006	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
	深瀬		47	0.156±0.006	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
北海道	白滝	第１	37	0.172±0.010	0.096±0.003	0.038±0.005	1.178±0.043	0.305±0.013	0.031±0.004	0.135±0.011	0.304±0.014	0.222±0.022	0.278±0.027
		第２	39	0.174±0.007	0.092±0.002	0.033±0.004	1.174±0.033	0.299±0.012	0.031±0.004	0.139±0.012	0.309±0.017	0.222±0.023	0.278±0.026
		第３	14	0.168±0.005	0.090±0.002	0.030±0.003	1.169±0.040	0.296±0.009	0.030±0.003	0.134±0.008	0.311±0.017	0.222±0.022	0.278±0.026
		小計	90	0.173±0.009	0.094±0.003	0.036±0.005	1.176±0.042	0.302±0.013	0.031±0.004	0.136±0.011	0.306±0.016	0.222±0.022	0.278±0.026
	赤井川		15	0.153±0.008	0.087±0.002	0.040±0.003	1.140±0.072	0.284±0.014	0.034±0.005	0.134±0.008	0.314±0.017	0.221±0.021	0.278±0.026
	置戸	赤石山	12	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.156±0.031	0.291±0.010	0.032±0.004	0.135±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		鹿ノ子	17	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.158±0.031	0.293±0.010	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		東山	14	0.161±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.155±0.033	0.290±0.012	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		幸山	12	0.164±0.005	0.092±0.002	0.038±0.004	1.160±0.031	0.294±0.010	0.032±0.004	0.135±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		北沢	13	0.163±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.157±0.031	0.292±0.010	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
		小計	68	0.162±0.006	0.091±0.002	0.037±0.004	1.157±0.032	0.292±0.011	0.032±0.004	0.134±0.009	0.309±0.015	0.222±0.022	0.278±0.026
	十勝三股		25	0.242±0.010	0.099±0.003	0.047±0.005	1.048±0.044	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝石沢		14	0.244±0.009	0.099±0.003	0.048±0.004	1.049±0.042	0.312±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝牛首別		11	0.241±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝赤石山		50	0.243±0.010	0.099±0.003	0.047±0.005	1.048±0.043	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝淀川		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝蓬栄		14	0.243±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝小泉		13	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝土久		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝光地園		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝西丸山		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝太平		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
	十勝牧太		14	0.242±0.009	0.098±0.003	0.047±0.004	1.047±0.042	0.311±0.009	0.035±0.005	0.135±0.006	0.317±0.012	0.220±0.021	0.284±0.023
隠岐島	小屋	第１	39	0.317±0.015	0.127±0.006	0.041±0.005	1.441±0.078	0.311±0.012	0.042±0.005	0.178±0.010	0.387±0.017	0.223±0.032	0.330±0.027
		第２	38	0.281±0.010	0.124±0.007	0.034±0.003	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
		第３	14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
		小計	91	0.304±0.020	0.126±0.006	0.038±0.005	1.579±0.154	0.296±0.016	0.041±0.009	0.189±0.013	0.407±0.021	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見		14	0.317±0.009	0.127±0.005	0.041±0.003	1.441±0.078	0.311±0.012	0.042±0.005	0.178±0.010	0.387±0.017	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ		11	0.281±0.010	0.124±0.007	0.034±0.003	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東南		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東北		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ北西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ南南西		14	0.284±0.008	0.124±0.005	0.034±0.002	1.760±0.033	0.278±0.014	0.040±0.011	0.202±0.009	0.431±0.013	0.223±0.032	0.330±0.027
	久見ヤブクボ東南東		14	0.284±0.008	0.124±0.005

し戸門第1群と第2群に同定される頻度を求め、これを戸門産地における第1群（50%）と第2群（50%）の産出頻度と比較し戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第2群に帰属される遺物が見られないことから戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さく分析した遺物よりも小さい原石で本遺跡で使用された可能性は低いと推測された。鷹森山産地の原石、赤井川産原石と十勝産原石を使用した遺物の産地分析では、これら産地に同定された遺物の帰属確率の差が十分の一～百分の一がほとんどで、遺物の中には、赤井川、十勝、鷹森山の各群の帰属確率の差がほとんどない遺物が存在した場合には、原石産地の特定に苦慮するが、この場合は、客観的な産地分析法により赤井川産、十勝産、鷹森山産と限定したうえで、肉眼観察により遺物と似た原石が赤井川産地、十勝産地、鷹森山産地のいずれに多いかを考慮して原石産地を判定することもある。今回の分析した野田生1遺跡出土の黒曜石製石器、剥片の13個の遺物の原材には赤井川産が7個、十勝産が3個、所山産が3個それぞれ使用されていた。これら産地の原石の伝播に伴って、産地地域の生活、文化情報が伝達されていたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

参考文献

1）藁科哲男・東村武信（1975），蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（II）。考古学と自然科学，8:61-69

2）藁科哲男・東村武信・鎌木義昌（1977），（1978），蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定（III）。（IV）。考古学と自然科学，10,11:53-81:33-473）藁科哲男・東村武信（1983），石器原材の産地分析。考古学と自然科学，16:59-89

4）東村武信（1976），産地推定における統計的手法。考古学と自然科学，9:77-90

5）東村武信（1990），考古学と物理化学。学生社

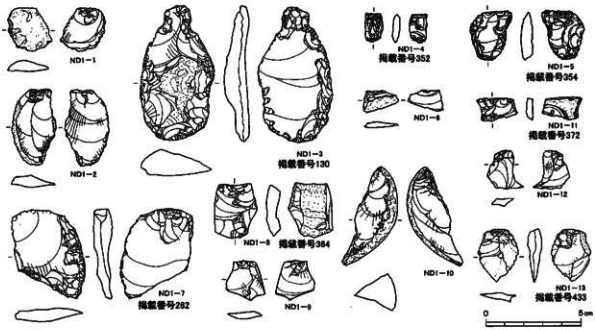


図2　原産地分析測定試料

1：分析番号79744、2：分析番号79745、3：分析番号79746、4：分析番号79747、5：分析番号79748
6：分析番号79749、7：分析番号79750、8：分析番号79751、9：分析番号79752、10：分析番号79753
11：分析番号79754、12：分析番号79755、13：分析番号79756

4．野田生１遺跡出土ヒスイ製垂飾玉の産地分析

藁科　哲男（京都大学原子炉実験所）

はじめに

玉類の観察は、一般的に肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。岩石製では玉類の原材料として硬玉、滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉などが推測される。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどで、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地の原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となる。遺跡から出土する勾玉、管玉など玉類の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）とか碧玉の原産地うち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法[1]および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光Ｘ線分析で行う元素比法[2,3,4]が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究は蛍光Ｘ線分析法と電子スピン共鳴法を併用し産地分析より正確に行った例[5]が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。（１）石器の原材産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。（２）玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリーとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれない、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。石器の原材産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析を行った玉は北海道山越郡八雲町字野田生317-６ほかに位置する野田生１遺跡のM-64区のⅢ層出土の垂飾玉１個および参考比較試料として八雲町字山崎213-３ほかに位置する山崎４遺跡のN-60-11のⅠ層出土の石製品の１個の合計２個について産地分析結果が得られたので報告する。

非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。石器の原材産地分析で成功している[4]非破壊で分析を行なう蛍光Ｘ線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。ヒスイ製玉類は蛍光Ｘ線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの

違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をとり、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。碧玉製玉類はＥＳＲ法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した[5]。

ヒスイの原産地

分析したヒスイ原石は、日本国内産では（1）新潟県糸魚川市と、それに隣接する同県西頸城郡青海町から産出する糸魚川産、（2）軟玉ヒスイと言われる北海道沙流郡日高町千栄の日高産[6]、（3）鳥取県八頭郡若桜町角谷の若桜産、（4）岡山県阿哲郡大佐町の大佐産、（5）長崎県長崎市三重町の長崎産であり、さらに（6）西黒田ヒスイと呼ばれている静岡県引佐郡引佐町の引佐産の原石、（7）兵庫県養父郡大屋町からの原石、（8）北海道旭川市神居町の神居コタン産、（9）岐阜県大野郡丹生川村の飛騨産原石、また、肉眼的にヒスイに類似した原石で玉類等の原材になったのではないかと考えられる（10）長崎県西彼杵郡大瀬戸町雪浦からの原石である。国内産のヒスイ原産地は、これでほぼつくされていると思われる。これら原石の原産地を図１に示す。これに加えて外国産として、ミャンマー産の硬玉と台湾産軟玉および韓国、春川産軟玉などのヒスイの分析も行われている。

ヒスイ試料の蛍光Ｘ線分析

ヒスイの主成分元素はナトリュウム（Na）、アルミニュム（Al）、珪素（Si）などの軽元素[7]で、次いで比較的含有量の多いカルシウム（Ca）、鉄（Fe）、ストロンチウム（Sr）である。また、ヒスイに微量含有されている、カリウム（K）、チタニウム（Ti）、クロム（Cr）、マンガン（Mn）、ルビジウム（Rb）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）、ニオビウム（Nb）、バリウム（Ba）、ランタニウム（La）、セリウム（Ce）の各元素を分析した。主成分の珪素など軽元素の分析を行わないときには、励起線源のＸ線が試料によって散乱されたピークを観測し、そのピークの大きさが主に試料の分析面積に比例することに注目し、そのピークを含有元素と同じく産地分析の指標として利用できる。ナトリュウム元素はヒスイ岩を構成するヒスイ輝石に含有される重要な元素で、出土した遺物が硬玉か否かを判定するには直接ヒスイ輝石を観測すればよい、しかし、ヒスイ輝石を非破壊で検出きる方法が確立されるまでは、蛍光Ｘ線分析でNa元素を分析し間接的にヒスイ輝石の存在を推測する方法にたよる他ないのではなかろか。各原産地の原石のなかで、確実にNa元素の含有が確認されるヒスイ産地は糸魚川、大屋、若桜、大佐、神居コタン、長崎の各原産地の原石でこれらは硬玉に属すると思われる。Na元素の含有量が分析誤差範囲の産地は日高、引佐、飛騨の各産地の原石である。糸魚川産原石のうち緑色系の硬玉に、肉眼的に最も似た原石を産出する産地は、他の硬玉産地よりも後述した日高、飛騨、引佐の原石に見られる。各原産地の原石の他の特徴を以下に記述する。若桜産のヒスイ原石はSrのピークがFeのピークに比べて相当大きく、またZrの隣に非常に小さなNbのピークが見られ、Baのピークも大きく、糸魚川産では見られないLa、Ceのピークが観測されている。このCeのピークは大佐産と長崎産ヒスイ原石のスペクトルにも見られ、これらCeを含有する原石の産地は、糸魚川の産地と区別するときに有効な判定基準になる。長崎産ヒスイは、Tiの含有量が多く、Yのピークが見られるのが特徴的である。日高産、引佐産、飛騨産ヒスイ原石は、Caピークに比べてTiとかK、またFeピークに比べてSrなどのピークが小さいのが特徴で糸魚川産のものと区別するときの判断基準になる。

春川軟玉原石は、優白色の工芸加工性に優れた原石で、軟玉であるが、古代では勾玉などの原材料となった可能性も考えられることから分析を行った。この原石には、Sr、Zrのピークが全く見られないため、糸魚川産などのSr、Zrを含有する原石と容易に区別できる。また、長崎県雪浦のヒスイ類似岩をヒスイの代替品として勾玉、大珠などの原材料に使用している可能性が考えられ、分析を行っ

た。この岩石は比重が2.91と小さく、比重でもって他の産地のものと区別できる。また砒素（As）のピークが見られる個体が多いのも特徴である。

これら各原産地の原石は同じ産地の原石であっても、原石ごとに元素の含有量には異同がある。したがって、一つの原産地について多数の原石を分析し、各元素の含有量の変動の範囲を求めて、その産地の原石の特徴としなければならない。

糸魚川産のヒスイは、白色系が多いが、緑色系の半透明の良質のもの、青色系、コバルト系、およびこれらの色が白地に縞となって入っているものなど様々である。分析した糸魚川産原石の比重を調べると、硬玉の3.2～3.4の範囲のものと、3.2に達しない軟玉に分類される原石もある。若桜産、大佐産の分析した原石には、半透明の緑色のものはないが、全体が淡青緑かかった乳白色のような原石、また大屋産は乳白色が多い。このうち大佐産、大屋産の原石では比重が3.20に達したものはなく、これらの原石は比重からは軟玉に分類される。しかし、ヒスイ輝石の含有量が少ない硬玉とも考えられる。長崎産のヒスイ原石は3個しか分析できなかったが良質である。このうち1個は濃い緑色で、他の2個は淡い緑色で、少しガラス質である。日高産ヒスイの原石は肉眼観察では比較的糸魚川産のヒスイに似ている。ミャンマー産のヒスイ原石は、質、種類とも糸魚川産のヒスイ原石と同じものが見られ肉眼で両産地の原石を区別することは不可能と考えられる。分析した台湾産のヒスイは軟玉に属するもので、暗緑色のガラス質な原石である。これら各原産地の原石の分析結果から各産地を区別する判断基準を引き出し産地分析の指標とする。

ヒスイ原産地の判別基準

原石産地の判定を行なうときの判断基準を原石の分析データーから引き出すが、分析個数が少ないため、必ずしもその原産地の特徴を十分に反映したと言えない産地もある。表1－1、2に各原産地ごとの原石の比重と元素比量をまとめた。元素比量の数値は、その原産地の分析した原石の中での最小値と最大値の範囲を示し、判定基準（1）とした。ヒスイで比重が3.19未満の軽い原石は、硬玉ヒスイではない可能性があるが、糸魚川産の原石で比重が3.19未満のものも分析を行った。大佐産のヒスイは比重が3.17未満であった。したがって、遺物の比重が3.3以上を示す場合は判定基準（1）により大佐産のヒスイでないと言える。日高産、引佐産の両ヒスイではSr/Feの比の値が小さくて、糸魚川産と区別する判定基準（1）になる。表1－2の判定基準（2）にはCr、Mn、Rb、Y、Nb、Ba、La、Ceの各元素の蛍光X線ピークが観測できた個体数を%で示した表である。例えば遺物を分析してBaのピークが観測されなかったとき、その遺物は、若桜、大佐、長崎産のヒスイでないといえる。

図2はヒスイ原石のSr/Feの比の値とSr/Zrの比の値の分布を各原産地ごとにまとめて分布範囲を示したものである。●は糸魚川産のヒスイで、分布の範囲を実線で囲み、この枠内に遺物の測定点が入れば糸魚川産の原石である可能性が高いと判断する。□はミャンマー産のヒスイの分布で、その範囲を短い破線で囲む。糸魚川の実線の範囲とミャンマーの破線の範囲の大部分は重なり両者は区別できないが、ミャンマーと糸魚川が区別される部分がSr/Feの値（横軸）2.5以上の範囲で見られる。この範囲の中に、遺物の測定点が入ればミャンマー産と考えるより、糸魚川産である可能性の方が高いと考えられる。▲は大佐産の、△は若桜産の、▽は大屋産のヒスイの分布を示している。

糸魚川と大佐、若桜、大屋のヒスイが重なる部分に遺物の測定点が入った場合、これら複数の原産地を考えなければならない。しかし、この遺物にBaの蛍光X線スペクトルのピークが見られなかた場合、表2－2の判定基準（2）に従えば糸魚川産または大屋産のヒスイであると判定でき、その遺物の比重が3.2以上あれば大屋産でなくて、糸魚川産と推定される。■は長崎産ヒスイの分布で、独立した分布の範囲を持っていて他の産地のヒスイと容易に区別できる。台湾産の軟玉はグラフの左下に外れる。★印の日高産および＊印の引佐産ヒスイの分布の一部分が、糸魚川産と重なり区別されな

い範囲がみられる。しかし、Ca/Si比とSr/Fe比を指標とすることにより（図３）、糸魚川産ヒスイは日高産および引佐産の両ヒスイと区別することができる。Na/Si比とMg/Si比を各原産地の原石について分布を示すことにより（図４）、遺物がどこの原産地の分布内に帰属するかにより、硬玉か軟玉かの判別の手段の一つになると考えられる。

野田生１遺跡出土の垂飾玉の分析結果

出土玉の比重が3.2以上（アルキメデス法）あり良質硬玉の可能性の範囲に入る。蛍光X線スペクトル（図５－１、－２）には硬玉の主成分の一つのNa元素が観測されることから、この玉を硬玉製と判定した。また、分析できた含有元素の結果を表２に示した。この硬玉製玉の原産地を明にするために、これら分析値を各原産地の原石の元素比量Sr/Fe対Zr/Srの分布範囲と比較しすると、野田生１遺跡の垂飾は糸魚川産の範囲にのみ入り、山崎４遺跡の石製品は糸魚川、大屋、大佐産地の重なる範囲に入り、これら範囲に入った産地の可能性を示す（図２）。また、Sr/Fe対Ca/Siでも、垂飾は糸魚川産の範囲にのみ入り、石製品は糸魚川、大佐産地の重なる範囲に入りる（図３）。Na/Si対Mg/Siの判定図４では、垂飾と石製品ともに糸魚川、若桜、神居コタン産の重なる範囲に入る。また、判定基準のこれら判定図と判定基準表１の比重の範囲およびBa元素の有無などの条件を考慮して、全ての条件を満たした玉の産地として、糸魚川・青海産硬玉を使用した玉と同定し、結果を表３に示した。

結　論

今回分析した野田生遺跡出土の垂飾玉は、判定図でも重なる産地は少なく、糸魚川・青海産硬玉と判定された。一方、山崎４遺跡出土の石製品には大きなBa元素のピークが観測され、若桜、大佐、長崎産に似るが、比重から大佐産の可能性は低くなり、長崎、若桜産の可能性は判定図２で除外され、総合的に判定すると、糸魚川・青海産硬玉と判定される。今回判定された糸魚川産硬玉が多量に北海道に伝播した時期は縄文時代後期で、多くみられ、使用遺跡を抜粋して示すと例えば北海道千歳市美々遺跡から青森県大石平遺跡、岩手県大日Ⅱ遺跡、山梨県石堂遺跡、岐阜県西田遺跡、愛知県白石遺跡、三重県森添遺跡、大分県ニ反田遺跡、熊本県ワクド石遺跡、宮崎県学頭遺跡まで日本全国におよび、これら遺跡では糸魚川産ヒスイが尊重される共通の基盤を持っていたと思われ、糸魚川産地から遠くなるにしたがって、希少価値が増すと推測され本遺跡がヒスイの玉類を入手できる力（経済力）が大きかったことが推測される（図１）。

参考文献

１）茅原一也（1964）、長者が原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報）。長者ケ原、新潟県糸魚川市教育委員会：63－73

２）藁科哲男・東村武信（1987）、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要６：１－18

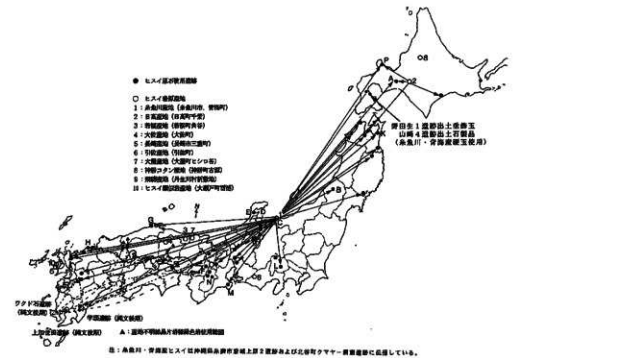
３）藁科哲男・東村武信（1990）、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』,14：95－109

４）藁科哲男・東村武信（1983）、石器原材の産地分析。考古学と自然科学,16：59－89

５）Tetsuo Warashina (1992)、Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science 19：357-373

６）番場猛夫（1967）、北海道日高産軟玉ヒスイ。調査研究報告会講演要旨録　No.18：11－15

７）河野義礼（1939）、本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質。
岩石鉱物鉱床学雑誌22：195－201



注：糸魚川・青海産ヒスイ以外縄文時代垂飾玉垂飾および北信州クマヤー産垂飾玉に該当している。

図1　ヒスイ原産地およびヒスイ製玉類使用遺跡分布図

表1－1　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準(1)

産地地名	分析値	蛍光X線法による元素比の範囲					
		比重	K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Sr/Si	Ca/Si
糸魚川産	41	3.00～3.30	0.01～0.17	0.01～0.56	0.15～36	0.00～2.94	0.78～27.6
姫路産	12	2.15～3.25	0.01～0.51	0.03～0.58	3.45～47	0.00～0.25	4.33～48.4
大阪産	55	1.95～3.17	0.01～0.07	0.00～1.91	3.15～51	0.00～13.4	3.47～28.6
長崎産	3	2.16～2.22	0.01～0.14	0.17～0.33	0.02～0.05	4.20～15.8	
宇佐産	22	2.58～3.20	0.00～0.01	0.00～0.02	0.00～0.33	0.00～0.062	1.92～31.6
宮崎産	5	3.15～3.33	0.04～0.04	0.00～0.03	0.02～0.33	0.00～0.018	30.3～45.9
大阪産	16	1.94～3.19	0.03～0.03	0.64～0.16	1.68～79	0.01～0.48	0.95～4.81
神奈川産	9	2.95～3.19	0.02～0.49	0.01～0.17	3.64～5.22	0.17～0.84	2.22～17.3
福岡産	45	2.65～3.15	0.01～0.04	0.00～0.00	0.02～0.10	0.00～1.24	17.7～26.6
ミャンマー産	56	3.15～3.36	0.02～0.14	0.01～0.56	0.03～2.5	0.01～22	
台湾産	1	3.40	0.033	ND	ND	ND	

ND：検出限界以下の濃度

表1－2　ヒスイ製遺物の原石産地の判定基準(2)

産地地名	蛍光X線法による分析元素（各元素が最高で検出された個体数の百分率）							
	Cr	Mn	Rb	Y	Nb	Ba	La	Ce
糸魚川産	10%	6%	70%	ND	13%	33%	ND	ND
姫路産	ND	ND	ND	ND	100%	100%	67%	67%
大阪産	ND	ND	44%	ND	33%	100%	67%	67%
長崎産	ND	ND	ND	100%	100%	100%	100%	100%
宇佐産	1r	1r	ND	ND	7%	1r	ND	ND
宮崎産	80%	75%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
大阪産	1r	ND	31%	ND	6%	90%	100%	100%
神奈川産	ND	100%	22%	100%	9%	56%	ND	ND
福岡産	100%	100%	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ミャンマー産	13%	4%	ND	ND	7%	25%	ND	ND
台湾産	1r	1r	ND	ND	7%	ND	ND	ND

ND：検出限界以下　1r：検出限界

表2　野田生1遺跡出土ヒスイ製垂飾玉の元素分析の比量と比重

遺物番号	分析番号	元素分析値の比量 Na/Si	Mg/Si	Al/Si	K/Ca	Ca/Si	Ti/Ca	Cr/Fe	Mn/Fe	Ni/Fe	Sr/Fe
垂飾玉	79931	0.122	0.199	0.13	0.04	0.096	0.02	0.004	0.010	0.017	0.843
管頭飾	79932	0.073	0.197	0.14	0.06	0.220	0.02	0.000	0.009	0.009	0.110
	JG-1	0.000	0.000	0.01	1.25	3.474	0.29	0.001	0.033	0.001	0.302

分析番号	元素分析値の比量 Zr/Sr	Mo/Sr	Ba/Sr	La/Sr	Ce/Sr	Nb/Sr	Y/Sr	試料比重	試験比重
79931	0.156	0.01	4.17	0.25	0.92	0.00	0.00	2.992	3.01654
79932	0.367	0.00	1.77	0.04	0.00	0.00	0.00	3.167	3.03038
JG-1[a]	0.712	0.06	0.02	0.19	0.39	0.74	0.39		

石製品：由唯4遺跡出土
a): 蛍光X線, Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E.(1974). 1974 compilation of data on the GSJ geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol. 8 170-192.

表3　野田生1遺跡出土ヒスイ製垂飾玉の原料産地分析結果

遺物番号	分析番号	各分類基準による判定 第2判定	第3判定	第4判定	比重各基準(2)	Si/Fe判定[a]	総合判定
垂飾玉	79931	IT	IT	IT,WT,ZH	IT,(H,KH,WH,DK		糸魚川産
管頭飾	79932	IT,WT,OH	IT,WT,OH	IT,WT,ZH	IT,(H,KH,WH,WK,DK		糸魚川産

蛍光X線法：蛍光X線法による分類産地名（産地番号）：2-4-14、出土遺跡：産跡
山崎4遺跡：石製品出土（遺物番号）：2-40-11、出土遺跡：1 垂跡
IT：糸魚川 WI：青梅 OH：大阪 WH：長崎 KH：宇佐 (H)：宇佐 OH：大阪
DK：神奈川 ZH：福岡
a): Si/Fe比は各産地毎の上下限範囲毎に両神に帰属された遺物の分類数値
（両神産地：4 2個の平均値±標準偏差）Si/Fe=0.091±0.030
（各産地毎：1 4個の平均値±標準偏差）Si/Fe=0.065±0.020

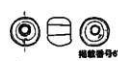


図6　原産地分析測定試料（B地区包含層出土）

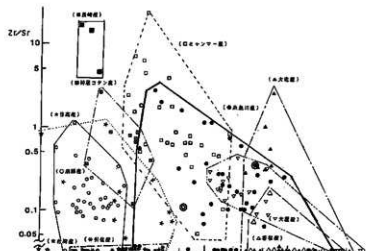


図２　ヒスイ原石の元素比値Zr/Sr対Sr/Feの分析および分布圏
◎：野田生１遺跡出土垂飾玉　●：山崎４遺跡出土石製品

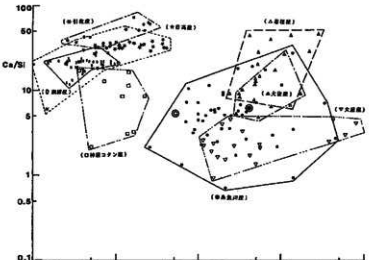


図３　ヒスイ原石の元素比値Ca/Si対Sr/Feの分析および分布圏
◎：野田生１遺跡出土垂飾玉　●：山崎４遺跡出土石製品

図４　ヒスイ原石の元素比値Na/Si対Mg/Siの分析および分布圏
◎：野田生１遺跡出土垂飾玉　●：山崎４遺跡出土石製品

図５－１　野田生１遺跡出土垂飾玉(79931)の蛍光X線スペクトル

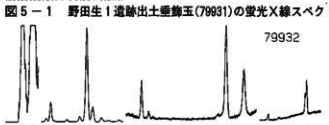


図５－２　山崎４遺跡出土垂飾玉(79932)の蛍光X線スペクトル

5．野田生１遺跡の遺構内容物について

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本遺跡は、八雲町南部の野田生地区の海岸段丘上に位置する。北海道縦貫自動車道の建設工事に伴い発掘調査が行われ、舌状に突出する段丘面に東西方向に調査区が設定されている。調査区内部は、A～C地区に分けられており、西側のB地区で急斜面を介した上下２段の段丘面が認められる。これまでの発掘調査によって、縄文時代後期中頃の竪穴住居跡が多数検出された。これら遺構は、覆土に腐植土を挟むことから、住居廃絶後に墓坑に転用されたことが想定されている。

今回は、遺構覆土を対象として、内容物の検討を行うために土壌理化学分析を行うことにした。また、覆土内に見られた腐植土が上屋材など建築部材に由来する可能性もある。そこで、上屋材として利用されることが多いイネ科の植物体が含まれるかどうか検証する目的で、植物珪酸体分析も併せて実施した。

１．試料

試料は、AH006の覆土から10点（試料番号１～10）、AH007の覆土から16点（試料番号１～16）、AH009の覆土から19点（試料番号１～19）、MP003の覆土から14点（試料番号１～14）、MP005の覆土から45点（試料番号１～45）、MP010の覆土から16点（試料番号１～16）および土坑底部腐植土から５点（試料番号10～14）、合計124点を採取した。また、基本層序から15点（試料番号１～15）採取した。

分析試料として、基本層序、AH006、MP005、MP010で採取した試料を選択する（図１）。AH006は、平面プランが円形を呈し、朱塗りの椀が出土している。住居床面の腐植土から平面的に採取した10点の内、土壌理化学分析４点、植物珪酸体分析１点実施する。MP005は、平面プランが楕円形を呈し、床にアスファルト、完形土器、ベンガラなどが確認され、中央部付近において炭化材の集中部が認められる。覆土から空間的に採取した45点の内、土壌理化学分析11点、植物珪酸体分析３点を実施する。MP010は、平面プランが方形を呈する。覆土を３次元的に採取した16点の内、土壌理化学分析を８点、植物珪酸体分析を２点実施する。また、壙底腐植土から平面的に採取した試料から、土壌理化学分析２点実施する。以上、分析点数の合計は、土壌理化学分析が29点、植物珪酸体分析が７点である。

２．分析方法

（１）土壌理化学分析

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行う（土壌養分測定法委員会，1981）。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、５時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmφのふるいを全通させる（微粉砕試料）。風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約５mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計により、リン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に、

原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

また、微粉砕試料0.100～0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に、0.2N硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて、腐植含量（%）を算出する。

（２）植物珪酸体分析

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物遺体や植物が燃えた後の灰には、組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社，1993)。よって、珪化組織片の産状によって、構築材や燃料材等の種類が明らかになると考えられる。今回の遺構覆土試料中には、肉眼で確認できる植物遺体が認められなかったため、以下の手法を用いて、珪化組織片や植物珪酸体の検出を試みた。

湿重５ｇ前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間)、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、イネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）と葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づき同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生燃料材について検討するために、植物珪酸体群集と珪化組織片の分布図を作成した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

３．結果

（１）土壌理化学分析

結果を表１に示す。AH006は、腐植含量が6.64～9.96%、リン酸含量が2.64～3.60P_2O_5mg/g、カルシウム含量が7.10～9.05CaOmg/gである。腐植とカルシウムの含量にバラツキが認められるが、リン酸含量は各試料とも類似した値である。

MP005は、腐植含量が7.30～25.78%、リン酸含量が1.92～3.75P_2O_5mg/g、カルシウム含量が5.77～8.96CaOmg/gである。いずれの成分ともバラツキが認められる。

MP010は、腐植含量が2.18～31.50%、リン酸含量が1.08～3.47P_2O_5mg/g、カルシウム含量が4.96～14.05CaOmg/gである。各成分ともバラツキが認められる。

基本土層では、腐植含量が3.27～20.69%、リン酸含量が2.04～4.06P_2O_5mg/g、カルシウム含量が7.09～37.45CaOmg/gである。層位的にみると、現耕作土でカルシウム含量が高く、また下位の試料ほど腐植含量およびリン酸含量が高い。

（２）植物珪酸体分析

結果を表２、図２に示す。各試料からは、保存状態が良好な植物珪酸体が検出される。以下に、地点毎の産状を述べる。AH006の試料番号４では、珪化組織片が全く認められない。単体で検出され

る植物珪酸体は、クマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立つ。他地点と比較してタケ亜科の産出が多いが、これは保存状態が悪いためにクマザサ属の段階まで同定できない種類を含んでいる。この他、ススキ属を含むウシクサ族やイチゴツナギ亜科がわずかに認められる。

MP005の試料番号８・28・45からは、いずれも珪化組織片が全く認められない。クマザサ属の産出が目立ち、ススキ属を含むウシクサ族やイチゴツナギ亜科がわずかに認められる。試料番号45では、機動細胞珪酸体の検出個数が少ない中で、クマザサ属の産出が目立つ。

MP010の試料番号９・15では珪化組織片が全く認められない。植物珪酸体の検出個数が少なく、その中でクマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立つ。基本土層の試料番号５では、クマザサ属の産出が顕著に目立つ。その他に、ススキ属を含むウシクサ族やイチゴツナギ亜科もわずかに認められる。なお、珪化組織片は全く認められない。

４．考察

骨の主成分の一つであるカルシウム含量は、現表土で37.45CaOmg/gと最も高く、遺構覆土でも4.96～14.05CaOmg/gまでと、測定値に幅が認められる。ただし、カルシウムが土壌中に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量は普通１～50CaOmg/gと言われている（藤貫，1979）。これより、今回の測定値はいずれも天然賦存量の範囲内にある。よって、カルシウム含量だけでは遺体埋納の指標となりにくく、ここでは補足的に扱うことにする。そこで、土壌中に固定されやすい性質を持つリン酸含量をみると、基本土層Ⅲ層下部において、4.06P_2O_5mg/gと最も高い値を示す。リン酸の天然賦存量はBowen（1983）、Bolt&Bruggenwert（1980）、川崎ほか（1991）、天野ほか（1991）などの調査事例がある。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は、約3.0P_2O_5mg/g程度である（なお、各調査例の記載単位が異なるため、ここではすべてP_2O_5mg/gで統一している）。すなわち、これより、基本土層Ⅲ層下部は、上記の天然賦存量の上限を上回った値である。上位からリン酸成分が移動・集積した可能性が低いことから、何らかの要因によりリン酸が富化されていると考えられる。恐らく当時の生業活動に伴うものと考えられる。いずれにしても、周辺の土壌のリン酸含量が高いことから、遺構覆土のリン酸含量もその影響を受けている可能性が高い。また、基本土層Ⅲ層の植物珪酸体の産状から見ると、遺跡周辺はクマザサ属に覆われた植生が成立していたと考えられる。クマザサ属は、室井（1960）の分類に基づくと、ネマガリタケ（チシマザサ）を含んでいる。したがって、遺跡の周辺はササ類を中心とした植生が成立していたと考えられる。これら周辺に生育していたササ類は、構築材や燃料材など何らかの形で利用されたと想像される。これらの点に留意して、以下、遺構毎に検討を加える。

AH006は、珪化組織片が全く検出されず、遺構内にイネ科草本類の植物体あるいは灰が埋積していたとは考えにくい。植物珪酸体の産状は、クマザサ属を含むタケ亜科が多産する。基本土層と比較してタケ亜科が多いが、これは保存状態の違いに起因する。したがって、植物珪酸体群集は基本土層に類似すると言える。このことは、覆土とⅢ層がほぼ同じ植生の下で堆積した土壌であることを反映していると考えられる。一方、リン酸含量は、天然賦存量の上限と同じ程度か、それを若干上回る試料が認められるが、基本土層Ⅲ層より低い。そのため、リン酸含量だけでは判然としない。ここで注目すべき点は、リン酸含量と腐植含量の関係である（図３）。これによると本遺構は、基本土層Ⅲ層や他遺構と比較すると、腐植含量が低い割にリン酸含量が高いことがわかる。これより、覆土内のリン酸成分は、遺体埋納など土壌腐植以外の要因によって富化された可能性もある。

MP005も珪化組織片が全く検出されず、遺構内にイネ科草本類の植物体あるいは灰が埋積してい

たとは考えにくい。また、植物珪酸体群集も基本土層と類似することから、遺構覆土は基本土層とほぼ同様な植生の下で堆積した土壌により埋積していると考えられる。一方、リン酸含量は、1.92～3.75P_2O_5mg/gまで変化するが、基本土層の含量を上回る試料が認められない。また、リン酸と腐植との関係は、相関係数が0.91と極めて強い相関関係にあり、腐植含量が高い試料ほどリン酸含量が高くなる。すなわち、覆土中に含まれるリン酸含量は、土壌腐植の影響を強く受けているといえる。よって、遺体埋納などの影響でリン酸成分が著しく富化されたとは言い難く、周辺の土壌等の流れ込みにより埋積が進んだと推定される。

MP010も珪化組織片が全く検出されず、また植物珪酸体群集も基本土層と同様であることから、基本土層Ⅲ層と類似した植生の下で堆積した土壌と考えられる。一方、リン酸含量は、1.08～3.47P_2O_5mg/gまで変化する。腐植含量との関係をみると、相関係数が0.22であり、同一遺構内でもバラツキが認められる。図3に示した腐植とリン酸含量の相関図をみると、二つの系列が認められる。一つは、腐植含量の増加するとともに、リン酸含量も増加する系列である。もう一つは、腐植含量が増加してもリン酸含量が増加しない系列である。試料の採取位置と比較してみると、前者は、遺構底部から採取した試料番号9および壙底腐植土から採取した試料である。したがって、遺構底部に見られた腐植土は、主に植物質に由来すると考えられる。これに対して、後者はそれ以外の試料であり、腐植とリン酸の相関係数が0.95、しかも上位の試料ほどリン酸含量が高い傾向にある。これは周辺の影響を強く受けていることを示す。このことから、遺構底部に遺体が埋納されていた可能性は低いと判断される。

以上、今回の分析調査では、AH006、MP005、MP010の3基の遺構について、土壌の理化学成分・植物珪酸体分析から遺構内容物の推定を行った。その結果、3基とも遺構覆土は、基本土層Ⅲ層とほぼ同様な植生の下で堆積した土壌によって埋積されていることが明らかになり、草本質の植物遺体の混入等は想定されなかった。しかし、AH006は、MP005・MP010と異なり、遺体埋納などの要因によりリン酸が富化された可能性がある。なお、本遺構の床面では朱塗りの櫛が出土しており、遺体が埋納されていたとすればこの櫛は副葬品の可能性があるかもしれない。今後、覆土内に含まれる脂肪酸やステロール組成を調べるなど多角的な調査から、さらなる検討を行いたい。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28-36.

Bowen,H.J.M.（1983）「環境無機化学－元素の循環と生化学－」．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社［Bowen,H.J.M.（1979）EnvironmentalCemistryofElements］.

Bolt,G.H.&Bruggenwert,M.G.M.（1980）「土壌の化学」．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳，309p.，学会出版センター［Bolt,G.H.andBruggenwert,M.G.M.（1976）SOILCHEMISTRY］，p.235-236.

土壌養分測定法委員会編（1981）「土壌養分分析法」．440p.，養賢堂.

藤貫　正（1979）カルシウム．地質調査所化学分析法，52，p.57-61，地質調査所.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.23-27.

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

室井　綽（1960）タケ科の大別と有用竹類．富士竹類植物園報告，5，p.7-34.

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖.
パリノ・サーヴェイ株式会社（1993）自然科学分析からみた人々の生活（1）. 慶應義塾藤沢校地埋蔵　文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡第１巻総論」, p.347-370, 慶應義塾.
ペドロジスト懇談会編（1984）「土壌調査ハンドブック」, 156p., 博友社.

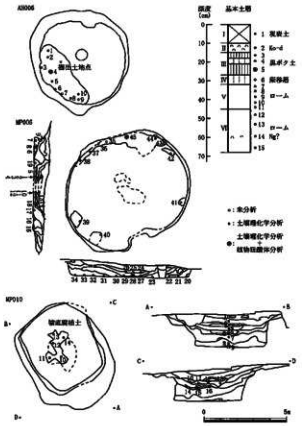


図１　基本層序・A3006・MP005・MP010の土層断面および試料採取位置

表１　土壌理化学分析結果

地点	層序	土性	土色		腐植含量 (%)	P_2O_5 (mg/g)	CaO (mg/g)	備考
A3006	暗土	1	LiC	(10YR2/2	黒褐	5.05	1.10	0.26	植物ケイ酸体しらべ
		2	LiC	(10YR2/2	黒褐	7.10	1.43	0.29	植物ケイ酸体しらべ
		3	LiC	(10YR2/2	黒褐	7.35	1.17	0.16	植物ケイ酸体しらべ
		4	LiC	(10YR2/2	黒褐	4.41	1.60	0.41	
		5	LiC	(10YR2/2	黒褐	4.64	1.86	0.60	
MP005	暗土	1	LiC	(10YR2/2	黒褐	5.43	1.71	0.57	
		2	LiC	(10YR2/2	黒褐	11.39	1.95	0.74	
		3	LiC	(10YR2/2	黒褐	11.46	2.03	0.81	植物ケイ酸体しらべ
		4	LiC	(10YR2/2	黒	8.89	1.65	0.52	植物ケイ酸体しらべ
		5	LiC	(10YR2/1	黒	4.38	1.71	0.56	
		6	LiC	(10YR2/2	黒褐	9.30	1.92	0.73	
		7	LiC	(10YR2/2	黒褐	7.20	1.82	0.62	
		8	LiC	(10YR2/2	黒褐	8.84	1.95	0.63	
		9	LiC	(10YR2/2	黒褐	8.84	2.25	0.63	
		10	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.66	
		11	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		12	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
MP010	暗土	1	LiC	(10YR2/2	黒褐	10.30	3.47	0.48	
		2	LiC	(10YR2/2	黒褐	10.30	3.47	0.48	
		3	LiC	(10YR2/2	黒褐	9.20	1.95	0.56	
		4	LiC	(10YR2/2	黒褐	9.20	1.95	0.56	
		5	CL	(10YR2/2	黒褐	8.18	1.76	0.48	
		6	CL	(10YR2/2	黒褐	8.18	1.76	0.48	植物ケイ酸体しらべ
		7	LiC	(10YR2/2	黒褐	22.03	3.05	0.96	
		8	LiC	(10YR2/2	黒褐	22.03	3.05	0.96	
	腐植層暗土	9	LiC	(10YR2/2	黒褐	8.11	1.91	0.54	植物ケイ酸体しらべ
		10	LiC	(10YR2/1	黒	8.11	1.91	0.54	植物ケイ酸体しらべ
基本土層		1	LiC	(10YR2/1	黒	10.22	2.51	0.64	
		2	LiC	(10YR2/1	黒	10.22	2.51	0.64	
		3	LiC	(10YR2/1	黒	10.22	2.51	0.64	
		4	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.66	
		5	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		6	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		7	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		8	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		9	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		10	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		11	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		12	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		13	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		14	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		15	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		16	LiC	(10YR2/1	黒	11.17	2.32	0.64	
		最大値				22.03	3.47	0.96	
		最小値				4.38	1.10	0.16	
		平均値				11.15	2.03	0.63	
		標準偏差				3.81	0.50	0.17	

注1）土色：マンセル表色系に準じた農林省農林水産技術会議監修（1967）による
注2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編, 1984）の野外土性による。
CL…砂壌土（粘土15～25%、シルト30～45%、砂30～55%）
LiC…砂埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）

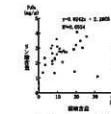


図３　腐植とリン酸の相関関係

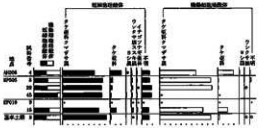


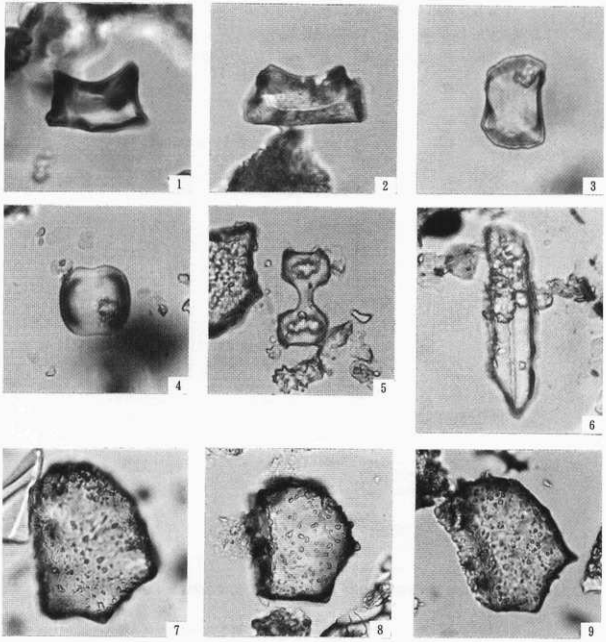
図２　植物珪酸体群集の層位分布

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科茎身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、＋は葉部短細胞珪酸体が200個未満、茎身機動細胞珪酸体が100個未満の試料にて検出された根跡を示す。

表２　植物珪酸体分析結果

種　類	層位	A3006			MP005			基本土層
	試料番号	4	8	10	4	8	10	
イネ科葉部短細胞珪酸体								
クマザサ属ミヤコザサ亜		130	180	160	190	0	180	180	-
クマザサ属		40	15	10	3	30	22	7	-
タケ亜科		0	0	0	2	0	0	0	-
ウシクサ族ススキ属		1	0	1	0	0	0	0	-
イチゴツナギ亜科		1	2	1	1	1	0	0	-
その他ウシクサ族		10	10	21	10	10	0	0	-
その他ヒゲシバ型		14	9	10	5	11	17	12	-
その他イネ科		15	10	10	5	8	9	10	-
イネ科茎身機動細胞珪酸体									
クマザサ属ミヤコザサ亜		170	200	210	25	20	140	340	-
クマザサ属		12	5	2	5	17	32	7	-
ウシクサ		3	-	-	-	-	-	-	-
ウシクサ族		-	1	-	-	-	-	-	-
その他		3	2	-	-	-	-	-	-
樹木									
イネ科葉部短細胞珪酸体		230	205	240	215	50	220	220	-
イネ科茎身機動細胞珪酸体		240	210	230	30	40	171	330	-
海　綿		130	400	480	240	120	450	470	-

図版1　植物珪酸体



1．クマザサ属短細胞珪酸体(基本層序;5)
2．クマザサ属短細胞珪酸体(MP10;15)
3．クマザサ属短細胞珪酸体(MP5;45)
4．ヨシ属短細胞珪酸体(MP5;45)
5．ススキ属短細胞珪酸体(MP10;15)
6．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(MP10;15)
7．クマザサ属機動細胞珪酸体(基本層序;5)
8．クマザサ属機動細胞珪酸体(MP10;15)
9．クマザサ属機動細胞珪酸体(MP5;45)

50 μm
(1-6)

50 μm
(7-9)

6．野田生１遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

野田生１遺跡（北海道山越郡八雲町に所在する）は、野田生地区の海岸段丘上に位置する。これまでの発掘調査により、縄文時代後期中頃の竪穴住居跡が多数検出された。本遺跡では、内容物の検討や覆土内に見られた腐植土の由来を調べるために、土壌理化学分析や植物珪酸体分析を既に実施している。今回の自然科学分析調査も遺構の用途や内容物に関する情報を得ることを目的とし、土壌理化学分析・植物珪酸体分析・種実遺体同定を実施する。

１．試料

土壌試料が採取された遺構は、縄文時代後期の竪穴住居跡AH015である。AH015は、平面プランが隅丸方形を呈し、腐植土により埋積される。本住居跡では、発掘調査の過程で住居跡および周囲を含めた範囲に50cm小グリッドが設定され、堆積状態が観察された。住居跡の覆土については、グリッドに沿って土層区分毎に土壌試料が採取された。分析試料は、AH015の床面から平面的に採取された８点(試料番号１～８)である。これら全点について、植物珪酸体分析と土壌理化学分析を実施する。

また、種実遺体同定は、住居跡などの遺構覆土から、水洗選別によって得られた炭化種実同定用試料226点である。試料には、通し番号が付されている。なお、試料番号20・137は、試料が存在せず、欠番となっている（添付試料によれば、試料番号64と137が欠番と記載されている)。これらの試料は、種実と思われる炭化物が抽出された状態であるが、一部未分類のものも含む。また、１点に複数の種類が混在している。試料の詳細に関しては、添付資料の情報を一部抜粋し、結果と併せて表に示す。

２．分析方法

（１）植物珪酸体分析

植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物遺体や植物が燃えた後の灰には、組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社，1993)。よって、珪化組織片の産状で構築材や燃料材等の種類が明らかになると考えられる。今回のAH015床面試料中にも肉眼で確認できる植物遺体が認められなかったため、先の調査と同様な手法を用いて、珪化組織片や植物珪酸体の検出を試みる。

湿重５ｇ前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，１分間)、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、イネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）と葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づき同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から構築材の有無について検討するため、植物珪酸体群集と珪化組織片の分布図を作成する。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

（２）土壌理化学分析

今回測定する成分は、特に動物の体組織や骨に多く含まれるリン酸とカルシウムの含量測定を行う。

中でもリン酸は、土壌中に固定されやすい性質があるため、遺体等が埋葬されると土壌中にリン酸の富化が認められることから、遺体あるいは遺骨の痕跡を推定することができる。また、リン酸の供給源としては植物体もあげられる。植物由来のリン酸成分が供給された場合、リン酸含量よりも腐植含量が高くなる。よって、植物体の影響を調べるために腐植含量も測定する。

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行った（土壌養分測定法委員会，1981）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmφの篩を全通させる（微粉砕試料）。

風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約５mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。また、微粉砕試料0.100～0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に、0.2N硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて、腐植含量（%）を算出する。

（３）種実遺体同定

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定する。同定した試料は、種類毎に瓶に入れ、乾燥剤を入れて保存する。

３．結果

（１）植物珪酸体分析

結果を表１、図１に示す。各試料からは、保存状態が良好な植物珪酸体が検出される。AH015の床面から採取された試料番号１～８では、珪化組織片が全く認められない。いずれの試料でも、単体で検出される植物珪酸体にはクマザサ属を含むタケ亜科の産出が目立つ。

なお、中央部西側の試料番号８では、イチゴツナギ亜科の割合が他の試料と比較して僅かに高い。また、先の調査で得られた基本土層Ⅲ層の植物珪酸体の産状と比較すると、クマザサ属の目立つ点は同様であるが、ススキ属はAH015の床面試料で概して高く、イチゴツナギ亜科は試料番号８で高い。

（２）土壌理化学分析

結果を表２に示す。腐植含量は、2.41～9.21%まで変化し、試料番号３で最も低く、試料番号５で最も高い。リン酸含量は、0.93～2.74P_2O_5mg/gであり、腐植含量と同様に変化を示す。カルシウム含量は、2.24～3.00CaOmg/gの測定値が得られ、腐植含量やリン酸含量と比較して、変動幅が小さい。

（３）種実遺体同定

結果を表３に示す。検出された種実の内、オニグルミとクリは炭化の痕跡が認められる。その他の種類は炭化していない。多量に認められる菌核は、外生菌根菌の休眠体組織と考えられ、１～数mm

の黒色球状体で、これらが複数合着し葡萄状になったものや、子実体のような形態のものもみられたことから、これらも含め菌核・菌類として分類する。その他、部位不明の炭化物、炭化が著しく表面構造がわからないもの、細片で同定不可能な炭化種実は、同定不能として扱う。また、カバノキ属の果実が微量認められる試料もあったが、翼が完全に残っており、保存状態が極めて良好であることから、現生のものが混入したものであると判断し、計数しなかった。以下に、検出された種類の形態的特徴を記す。

・オニグルミ（*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. sieboldiana（Maxim.）Kitamura）
クルミ科クルミ属

核の細片が検出された。ほとんどが3mm程度の破片で、1cmを超えるものがほとんどない。完全に炭化しており黒色である。木質であるが、木材にみられるような中空の組織はない。核の表面に由来すると思われる平板状のものがほとんどであるが、縫合線付近の破片とみられる厚く細長い個体や、子葉の入っていたくぼみ付近の破片とみられる複雑に湾曲した個体もある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

炭化した果実片と子葉が検出された。果実片は3～5mm程度のものがほとんどで、1cm程度のものが最大であるが、極めて希である。薄くて湾曲しており、内側に内果皮（いわゆる渋皮）が付着している個体もある。子葉も破片で、大きなもので1cm程度。一面は扁平で、反対側は湾曲し、荒いしわ状の模様が全体を覆っている。なお、試料の中には細片化し、同定根拠となる特徴に乏しい個体もあったが、比較的きれいなクリの炭化子葉とともに検出された試料では、クリの子葉として扱っている。

・キハダ（*Phellodendron ammrense* Ruprecht）　ミカン科キハダ属

核（内果皮）が検出された。黒色、半横広卵形でやや偏平。長さ5mm、幅3mm程度。種皮は厚く硬い。表面には浅く細かい網目模様があり、ざらつく。

・ブドウ属（*Vitis*）　ブドウ科

種子が検出された。背面の一部が検出されている。種皮は柵状で薄くて硬く、さじ状の凹みがあるため、ブドウ属に同定される。なお、腹面の一部が検出されているものは、他のブドウ科との区別ができないことから、ブドウ科としてある。

・マタタビ属（*Actinidia*）　マタタビ科

種子が検出された。黒褐色、楕円形で両凸レンズ形。長さ2mm、幅1.5mm程度。基部はやや突出し、切形。種皮は硬く、表面には円形・楕円形などの凹点が密布し網目模様をなす。

・ニワトコ（*Sambucus racemosa* L. subsp. Sieboldiana（Miq.）Hara）　スイカズラ科ニワトコ属

未炭化の核（内果皮）が検出された。淡～黄褐色、長楕円形で基部はやや尖る。長さ2.5mm、幅1.5mm程度。背面は円みがあり、腹面の中央は縦方向の鈍稜をなす。腹面下端には小さな孔がある。内果皮はやや硬く、表面には横皺状模様が発達する。

・ミズキ（*Cornus controversa* Hemsley）　ミズキ科ミズキ属

核が検出された。褐色で大きさは6mm程度。縦方向にややつぶれた球形。基部に大きな臍がある。縦方向に走る溝がみられる。全体の約1/3が欠損している。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae）

茶褐色で倒卵形。長さ1.5mm、幅1mm程度。表面には微細な網目模様がありざらつく。

・サナエタデ近似種（*Polygonumcf. lapathifolium* L.）　タデ科タデ属

果実が検出された。黒褐色、円形で偏平な二面体。長さ1.7mm程度。両面中央はやや凹む。先端部は尖る。

・ハナタデ－イヌタデ（*Polygonum caespitosum* Blume subsp. Yokusaianum (Makino) Danser -*Polygonum longisetum* De Bruyn）　タデ科タデ属

果実が検出された。黒色、丸みのある菱形で三稜形。長さ2mm、幅1.5mm程度。果皮は硬く、表面は微細な網目模様があり、光沢が強い。

・タデ属（*Polygonum*）　タデ科

果実が検出された。上記2形態を除く形態上差異のある複数の種を含んでいるものを一括した。

・アカザ科（Chenopodiaceae）

種子が検出された。黒色、円盤状でやや偏平。径1mm程度。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が同心円状に配列し、光沢が強い。

4．考察

（1）遺構の内容物について

今回実施したAH015の植物珪酸体群集は、クマザサ属を含むタケ亜科が多産する。このことから、本遺構は、クマザサ属などササ類を中心とした植生環境下で堆積した土壌によって埋積されていることが明らかである。また、床面から採取された8点では、他の住居跡覆土と同様に珪化組織片が全く検出されず、床面にイネ科草本類の植物体あるいは灰などが埋積していたとは考えにくい。

ただし、前回調査した基本土層Ⅲ層と比較すると、ススキ属の出現率が若干高い試料が概して多く、また中央部西側（試料番号8）でイチゴツナギ亜科の割合がわずかに高かった。これは、内部にススキ属やイチゴツナギ亜科が局所的に濃集していたことを示唆され、ススキ属あるいはイチゴツナギ亜科が住居構築材や敷物として住居内に持ち込まれていた可能性がある。

一方、土壌の理化学性の中で、骨の主成分の一つであるカルシウムの含量の測定値は、2.24～3.00 CaOmg/gである。カルシウムが土壌中に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量は普通1～50CaO mg/gとされている（藤貫，1979）。今回の測定値は、いずれの試料も天然賦存量の範囲内にある。また、遺構間による変動幅も小さい。これらのことから、遺構覆土内にカルシウム含量が濃集していると言えない。

一方、リン酸含量は、リン酸含量は、0.93～2.74P_2O_5mg/gまで変化する。リン酸の天然賦存量については、Bowen（1983）、Bolt&Bruggenwert（1980）、川崎ほか（1991）、天野ほか（1991）などの調査例がある。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は、約3.0P_2O_5mg/g程度である（なお、各調査例の記載単位が異なるため、ここではP_2O_5mg/gに統一している）。この天然賦存量の上限値を大きく上回る土壌では、人為的影響等による外的要因によってリン酸成分の富化が指摘できる。本遺構のリン酸含量は、上記した天然賦存量の上限を上回るものでない。そこで、土壌腐植（植物体）の影響を差し引いてもリン酸含量が高い試料を抽出するために、腐植含量とリン酸含量について、最小二乗方によって回帰直線を求め、それから正の方向へ逸脱した試料を調べてみた（図2）。この図で示されるように本遺構の場合、全て回帰直線に近い場所に分布しており、正の方向に逸脱する試料が存在しない。また、相関係数も0.95であり、リン酸含量と腐植含量は極めて高い正の相関関係にある。また、他の遺構と比較しても、ほぼ同様なリン酸含量であると言える。これは、土壌中のリン酸が土壌腐植、すなわち植物体に由来するリン酸の影響を強く反映していると考えられる。

以上のことから、本遺構の内部に動物遺体が埋納されていたという痕跡を認めることができない。

ただし、イネ科植物起源の植物珪酸体の分布状況に若干の偏りが見られ、これが人間の活動の痕跡を示している可能性もある。この点については、覆土の堆積状況や垂直的な変化を明らかにした上で再検証したい。

（2）植物利用について

遺構毎の検出状況を表4に示す。検出された試料の内、オニグルミとクリに関しては、炭化した状態で検出されている。オニグルミは、CH040とMP010を除く遺構から検出されている。その中でも、CP082はやや多い傾向にある。オニグルミは生食可能で貯蔵が利くことから、古くから植物質食料として利用されてきた種類で、遺跡からの検出例も多い（渡辺，1984など）。現在の分布をみると、オニグルミは北海道に広く分布しており（倉田，1964）、当時も遺跡周辺で入手しやすい有用植物の一つであったことが考えられる。クリは、CP175から集中して検出されている。その他の遺構では、AF002で2ヶ検出される程度にとどまる。クリは果皮のみでなく、食用となる子葉も炭化していることから、貯蔵していたものが焼失した可能性がある。クリも生食可能な種類で、オニグルミ同様遺跡からの出土例も多い（渡辺，1984など）。現在の分布をみれば、クリは道南の沿岸部に分布しており（倉田，1964）、当時山野からの採取によって利用されていたと考えられる。なお、三内丸山遺跡では、クリ栽培（安田，1995）が行われていた可能性が指摘されている。また、クリは縄文時代前期後半になって北海道の津軽海峡に面した地域に持ち込まれ、人間の関与のもとに時代とともに次第にその分布域を北に拡大し、中期末までに北海道中央部西南の登別市付近に、後期中葉までに小樽から石狩低地帯までの北海道中央部に達したとされている（山田・柴内，1997）。今後、資料がさらに蓄積していくことにより、クリの利用に関して、さらに明らかにされていかれるものと期待される。なお、道南の縄文時代後期の古植生変遷は、ミズナラ林を中心としたものであったことが推定されている（星野，1998）。おそらく、本遺跡周辺には多くのミズナラが生育していたと考えられるが、今回出土した種実には含まれていず、当時は利用されていなかった可能性もある。ミズナラの種実は「あく抜き」をしないと食用にならない。渡辺（1984）によれば、ドングリのあく抜きの技術は、縄文時代中期にさかのぼる可能性を指摘しているが、北海道ではその技術がいつから存在したかが、今後の課題として残される。

これら2種類以外の種実は、いずれも現在でも周辺の山野にみられる種実であるが、いずれも炭化していない。炭化していない種実は、低湿地遺跡でない限りは遺構内では残りにくく、後代からの混入の可能性が高いことが指摘されている（吉崎，1992）。特にAH015でその産状をみると、覆土1に多い傾向がある。おそらく、これら炭化していない種実は、後代の落ち込みなどによるものと考えられ、当時の古植生を反映しているとは考えにくい。

一方、炭化材は、AH001、AH003、AH015、CH027、CH040、CP082、MP001で検出されているが、中でもCH040とCP082に多い傾向がある。これらは、当時の燃料材などとして用いられた木材が加熱を受けて炭化したものと考えられる。これら炭化材の種類を明らかにすることで、当時の燃料材などに関する情報が得られるものと期待される。なお、今回、遺構内について平面的な調査を実施したが、種実遺体などが偏在している傾向は特に読みとれなかった。しかし、AH015についてみると、炭化していない種実遺体が覆土1に多い傾向があり、これが後代の影響に由来していることが推測された。東京都の江戸遺跡の調査例ではあるが、井戸埋積物について種実の洗い出しを行ったところ、覆土下部で有用植物が多産し、上部でいわゆる雑草類が多産する結果が得られ、遺構機能時から廃絶までの様相が明らかにされている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1996）。このように、種実遺体やその他の遺物の産状を垂直的に調査することで、遺構に関してより詳細な検討が可能となる。今回の

結果も、遺構機能時の状況と廃絶後の埋積途中あるいはそれ以降の状況を示している可能性があり、今後、堆積状況も踏まえて検証を重ねていきたい。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28-36.

Bowen,H.J.M.（1983）「環境無機化学－元素の循環と生化学－」．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社［Bowen,H.J.M.（1979）EnvironmentalCemistryofElements］.

Bolt,G.H.&Bruggenwert,M.G.M.（1980）「土壌の化学」．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳，p.235-236，学会出版センター［Bolt,G.H.andBruggenwert,M.G.M.（1976）SOILCHEMISTRY］．土壌養分測定法委員会編（1981）「土壌養分分析法」．440p.，養賢堂.

藤貰　正（1979）カルシウム．地質調査所化学分析法，52，p.57-61，地質調査所.

星野フサ（1998）北海道の植生史（2）　南北海道．「図説　日本列島植生史」，安田喜憲・三好教夫編，p.51-61，朝倉書店.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.23-27.

近藤錬三・佐瀬　隆（1986）植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1993）自然科学分析からみた人々の生活（1）．慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡第1巻総論」，p.347-370，慶應義塾.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1996）自然科学分析．「汐留遺跡　－汐留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書－（第3分冊）」，p.103-253，汐留地区遺跡調査会.

ペドロジスト懇談会編（1984）「土壌調査ハンドブック」．156p.，博友社.

渡辺　誠（1984）縄文時代の植物食（増補）．187p.，雄山閣.

山田悟郎・柴内佐知子（1997）北海道の縄文時代遺跡から出土した堅果類　－クリについて－．北海道開拓記念館研究紀要，25，p.17-30.

安田喜憲（1995）クリ林が支えた高度な文化．「縄文文明の発見」，梅原　猛・安田喜憲編著，p.118-153，PHP.

吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．考古学ジャーナル，355，p.2-14.

表１　植物珪酸体分析結果

種　類	試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8
イネ科栽培植物起源珪酸体									
ヤチダケ属型(ヤマヤチ属)		94	105	101	97	84	30	90	80
ヤチダケ属型		4	3	2	3	2	1	-	2
ウシクサ族メダケ節		12	8	-	3	15	-	7	6
ウシクサ族ネザサ節		1	1	-	2	4	-	5	14
ススキ属型		35	11	7	27	24	13	24	15
不明キビ型		1	2	7	15	6	3	17	10
不明イチゴツナギ亜科		2	5	1	1	-	1	2	3
イネ科栽培植物以外の植物珪酸体									
ヤチダケ属型(ヤマヤチ属)		233	209	243	200	244	208	228	226
ヤチダケ属型		5	1	5	3	-	4	1	5
ウシクサ族		1	-	1	-	-	1	-	1
不明		3	1	-	1	-	-	1	1
合　計									
イネ科栽培植物起源珪酸体		152	135	110	151	139	117	150	141
イネ科栽培植物起源珪酸体以外		242	222	256	208	244	213	234	242
総　数		429	430	399	445	395	360	392	500

表２　土壌理化学分析結果

地区	No.	層位	層厚(cm)	土色	土性	腐植含量(%)	P2O5(mg/g)	CaO(mg/g)
2013	No.201-1	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	5.10	1.40	3.70
	No.201-2	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-3	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-4	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-5	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-6	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-7	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-8	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70
	No.201-9	表層	1	5Y2/2オリーブ黒	泥質土	4.30	1.40	3.70

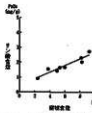


図２　AH015の腐植とリン酸の相関図

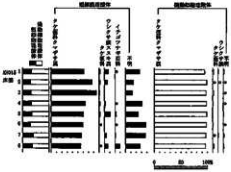


図１　AH015の植物珪酸体群集

出現率は、イネ科栽培植物起源珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●印は１%未満の種類を示す。

表４　遺構別・層位別出土炭化種実

| 遺構名 | 層位No. | 種実 | | | | | | | | |

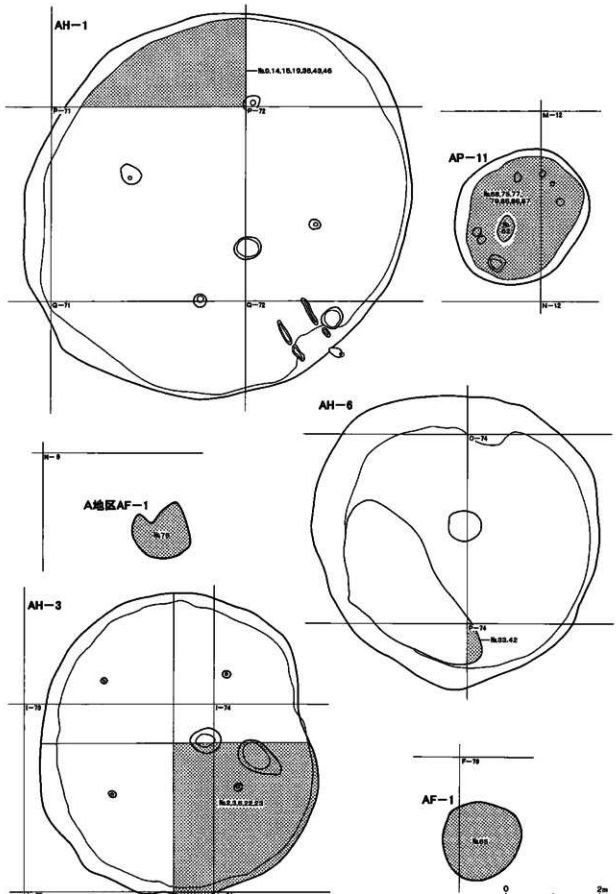


図4　炭化種子水中浮遊選別試料採取地点（1）

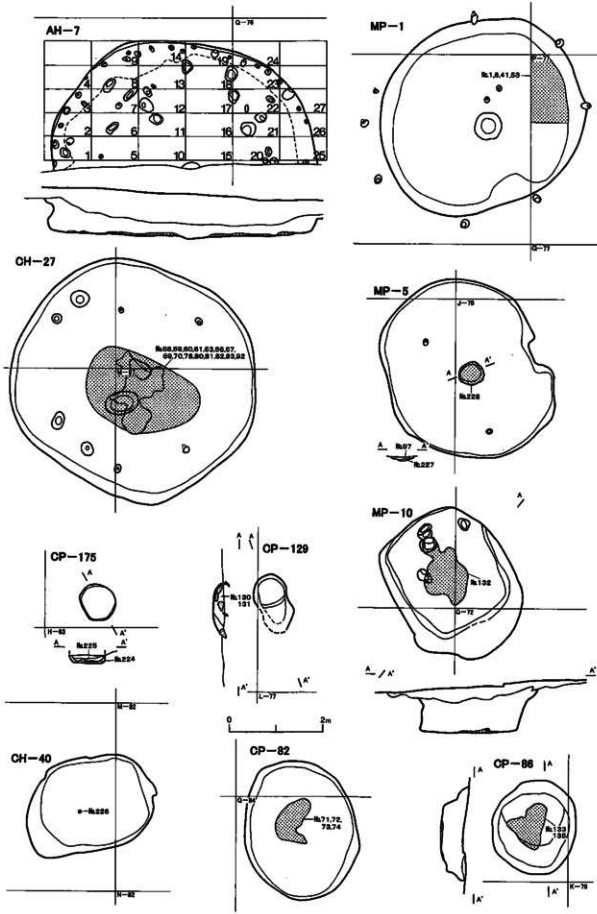


図5　炭化種子水中浮遊選別試料採取地点（2）

表３－１　炭化種実同定結果（１）

番号	サンプル番号	調査区遺構	サンプル採取地点	層位	炭化種子(g)	乾燥重量(g)	体積	木本								草本					その他		
								オニグルミ	クリ	キハダ	ブドウ属	ブドウ科	マタタビ属	ニワトコ	ミズキ	カヤツリグサ科	サナエタデ近似種	ハナタデーイヌタデ	タデ属	アカザ科	菌核・菌類	材	同定不能
1	004	MP001	A区、壁際	床面直上	0.1	6600	8	4													10	1	*
2	008	AH003	D区	床上	0.48	7720	9			1		1				1					13	4	*
3	013	AH003	D区	床上	0.05	8200	9	2								1					35+		*
4	014	AH015	M76-53	覆土２	0.17	7800	10	3													55+	6	*
5	035	AH003	D区	床上	0.01	9800	12											1			32+		*
6	037	AH015	M77-12	覆土１	0.26	6000	8	1		1	1					2				1	53+	2	*
7	043	AH015	M77-05	覆土１	0.01	9100	11														85+		*
8	045	MP001	A区、壁際	床面直上	0.02	9000	11														39+		*
9	047	AH001	071	床	0.02	8700	10										3				52+		*
10	048	AH015	M77-35	覆土１	0.07	10600	12														多		*
11	049	AH015	M76-53	覆土２	0.01	13000	17	1		1											20+		*
12	051	AH015	M77-03	覆土１	0.02	13000	19			1										1	多		*
13	055	AH015	M76-51	覆土１	0.01	3400	5	1													30+		
14	056	AH001	071	床	0	3600	5														7		*
15	057	AH001	071	床	0.01	2700	4														7		
16	058	AH015	M76-53	覆土１	0	4200	6														5		
17	059	AH015	M76-53	覆土１	0	2200	3														2		
18	061	AH015	M76-53	覆土１	0.05	3800	5							1		1					30+	4	*
19	063	AH001	071	床	0.03	1900	3	4															*
20	試料なし																						
21	065	AH015	M76-51	覆土１	0.03	4400	6											1			42+		*
22	067	AH003	D区	床上	0.03	4100	5	2													22+	1	*
23	069	AH003	D区	床上	0.02	4100	6														9+		*
24	084	AH015	M77-28	覆土１	0.16	3000	5														26+		*
25	089	AH015	M77-28	覆土１	0.13	2400	3																*
26	096	AH015	M77-03	覆土２	0.04	5100	7	3													6+		*
27	098	AH015	M77-12	覆土２	0.02	3800	5														38+		*
28	106	AH015	M77-28	覆土１	0.07	2200	3														10+		*
29	107	AH015	M77-28	覆土１	0.07	2200	3														6+		*
30	118	AH015	M76-51	覆土２	0.02	5700	7	3															
31	120	AH015	M77-03	覆土２	0.02	4500	7	3															
32	121	AH015	M77-03	覆土２	0.29	5000	7														多		
33	123	AH006	P74、壁	黒色土	0.27	1300	2	24+													29+		
34	126	AH015	M77-28	覆土１	0.04	2100	3														多		*
35	130	AH015	M76-53	覆土２	0	3500	5														3+		
36	139	AH001	071	床	0	5000	7														28+		
37	147	AH015	M77-28	覆土１	0.03	13400	16														多		*
38	198	AH015	M77-28	覆土１	0.07	2000	3														6+		*
39	199	AH015	M77-12	覆土２	0.02	2900	4														多		*
40	204	AH015	M77-44	覆土１	0.01	2400	4	1													11+		
41	205	MP001	壁際	床面黒色土	0.06	3000	4	2			1+										60+		*
42	223	AH006	P74、壁	黒色土	0.85	1400	2	66+													2+		*
43	248	AH001	071	床	0.01	3000	5									1					5+		*
44	255	AH015	M77-44	覆土１	0.03	2160	3														24+		*
45	257	AH015	M77-44	覆土１	0.02	2700	4	3													8		*
46	258	AH001	071	床	0.05	3500	5	1					1			1			1		1	2	*
47	272	AH015	M77-44	覆土１	0.02	2400	4														22+		*
48	274	AH015	M77-44	覆土１	0	2300	3.5														6+		*
49	289	AH015	M77-44	覆土１	0.04	3200	6	2													9+		*
50	291	AH015	M77-12	覆土２	0.03	3800	6	1		1													*
51	294	AH015	M77-14	覆土２	0	6500	8														3+		*
52	295	AH015	M77-12	覆土２	0.12	5100	8	1		1											15+		*
53	303	MP001	A区、壁際	床面直上	0.2	8700	12	6													多		*
54	304	AH015	M77-14	覆土２	0.1	5800	6	1													1+		
55	319	AH015	M76-60	覆土１	0.04	13100	17														67+		*
56	321	AH015	M77-37	覆土１	0.02	11300	15	2													16+		*
57	322	AH015	M77-35	覆土２	0.02	12500	14	2													8	1	*

+:破片などを含むため、正確な個数が不明なもの　　*:微細片を含む　　多:100個体以上の検出

表３－２　炭化種実同定結果（２）

番号	サンプル番号	調査区遺構	サンプル採取地点	層位	炭化種子(g)	乾燥重量(g)	体積	木本								草本				その他		
								オニグルミ	クルミ	キハダ	ブドウ属	ブドウ科	マタタビ属	ニワトコ	ミズキ	カヤツリグサ科	サナエタデ近似種	ヘナタデーイヌタデ	タデ属	アカザ科	菌核・菌糸	材	同定不能
58	341	CH027		床	0.01	1500	2																*
59	344	CH027		床	0	2900	3														2		
60	346	CH027		床	0.1	3100	4	4															
61	349	CH027		床	0.02	3600	4														84+		*
62	350	AP011			0.03	4600	6	10+		1													*
63	351	CH027		床	0.02	3300	4														8+		*
64	352																						*
65	383	AP001			0.22	2900	4	7													5+		*
66	399	CH027		床	0	4500	5														4+		*
67	403	CH027		床	0	3000	5														19		
68	409	AP011		床	0.01	5500	7														7		
69	410	CH027		床	0.07	4000	4	2													4		
70	413	CH027		床	0.01	2000	2														5		
71	421	CP082	No. 145		2.18	4300	6	多														12+	
72	422	CP082	No. 145		1.47	4400	6	20+														多	
73	423	CP082	No. 145		1.06	5800	7	多														多	*
74	424	CP082	No. 145		2.47	4700	6	多														多	
75	444	AP011		床	0.03	3700	4	5													3		*
76	446	A地区AF001			0.62	5900	7	2	2												29+		*
77	447	AP011		床	0.02	2900	4	4													2		
78	450	CH027		床	0.02	4000	5	2														3	
79	464	AP011		床	0	2700	4														6		
80	493	CH027		床	0.02	4200	5																*
81	496	CH027		床	0.02	3500	4	1															*
82	497	CH027		床	0.02	3700	4	2															*
83	502	CH027		床	0.02	4600	5	2															*
84	531	CP082	壁		0.02	1600	2	4															
85	535	AP011		床	0.01	5300	7																*
86	537	AP011		床	0.04	5000	6	5							1								
87	538	AP011		床	0.02	4300	6																*
88	557	AH007	No. 17	床面	0.04	5900	6	2															
89	558	AH015	M76-59	種土1	0.02	7400	8																*
90	560	AH015	M76-59	種土1	0	7500	8																*
91	561	AH015	M76-59	種土1	0	9400	10																*
92	572	CH027		床	0.01	3000	4	1														3	*
93	599	AH007	No. 27	床面	0	5000	6														2		
94	602	AH007	No. 16	床面	0	2000	3	1															
95	603	AH007	No. 6	床面	0.01	4500	5														1		*
96	604	AH007	No. 13	床面	0.01	5500	7	1															
97	605	MP005	炉	床直上	0.02	2000	3	2															
98	610	AH007	No. 10		0	5900	6														4		
99	616	AH007	No. 14	床面	0.02	4000	4																*
100	620	AH007	No. 22	床面	0.06	3800	4	3															
101	626	AH015	M76-59	種土1	0.01	2000	3																*
102	627	AH007	No. 18	床面	0.01	6900	9	1															*
103	628	AH007	No. 13	床面	0.02	4900	6														6		*
104	631	AH007	No. 22	床面	0.02	5400	7	1															*
105	633	AH007	No. 6	床面	0	6600	9																*
106	638	AH007	No. 11	床面	0	4400	5								1								*
107	639	AH007	No. 17	床面	0	5800	7	2													1		
108	640	AH007	No. 3	床面	0	6100	6	3													1		
109	643	AH007	No. 20	床面	0	5300	7	1															
110	644	AH007	No. 23	床面	0	3900	5																*
111	645	AH007	No. 17	床面	0.01	6000	7.5																*
112	646	AH007	No. 21	床面	0	4900	6														5		
113	664	AH007	No. 10	床面	0	6400	8	2													3		
114	665	AH007	No. 15	床面	0.01	5900	7														7		

+：破片などを含むため、正確な個数が不明なもの　　*：種絹片を含む　　多：100個体以上の検出

表３－３　炭化種実同定結果（３）

番号	サンプル番号	調査区遺構	サンプル採取地点	層位	炭化種子(g)	乾燥重量(g)	体積	木本								草本					その他		
								オニグルミ	クリ	キハダ	ブドウ属	ブドウ科	マタタビ属	ニワトコ	ミズキ	カヤツリグサ科	サナエタデ近似種	ハナタデーイヌタデ	タデ属	アカザ科	菌核・菌類	材	同定不能
115	666	AH007	No. 11	床面	0.01	4700	6													1	2		*
116	667	AH007	No. 13	床面	0.01	4200	5.5																*
117	668	AH007	No. 1	床面	0.01	4000	5													5			*
118	669	AH007	No. 5	床面	0.01	4200	5														8		*
119	670	AH007	No. 5	床面	0.01	6800	8														2		*
120	671	AH007	No. 7	床面	0.02	3500	4.5														3		*
121	672	AH007	NO. 8	床面	0.02	4600	5.5														4		*
122	673	AH007	No. 26	床面	0	4800	6	1													2		*
123	674	AH007	No. 6	床面	0.04	4800	6																*
124	675	AH007	No. 20	床面	0.03	6200	7	3													5		
125	676	AH007	No. 25	床面	0.02	5500	7	1													2		*
126	677	AH007	No. 8	床面	0.01	3700	4														2		*
127	678	AH007	No. 10	床面	0.01	6000	7	4													3		*
128	679	AH007	No. 7	床面	0.01	4900	6	1													5		*
129	680	AH007	No. 18	床面	0	3300	4													1			*
130	683	CP129		覆土１	0.03	1200	2	1															*
131	684	CP129		覆土１	0.32	2500	3																*
132	688	MP010		壊底	0	200	0.5																*
133	689	CP086		壊底	0.18	5300	7	20+													多		*
134	690	AH007	No. 12	床面	0.03	5600	7	1													16+		
135	691	CP086		壊底	0.09	5500	8	1													27+		*
136	692	AH015	M77-09	覆土２	0.02	4400	5	3													3		*
137	試料なし																						
138	698	AH007	No. 15	床面	0.05	6300	7.5	7													2		*
139	699	AH007	No. 16	床面	0.02	6400	7	1													2		*
140	700	AH007	No. 15	床面	0.02	5600	7																*
141	701	AH007	M77-64	覆土下部	0.01	3400	4														3		*
142	702	AH007	No. 7	床面	0.02	3600	4																*
143	704	AH007	No. 14	床面	0.02	6900	7														1		*
144	706	AH007	No. 21	床面	0.01	6200	7														3		*
145	711	AH007	No. 18	床面	0.01	4100	5	2															
146	712	AH015	M77-11	覆土１	0.03	5100	6																*
147	713	AH007	No. 11	床面	0	4200	5																*
148	714	AH007	No. 11	床面	0.04	6000	7																*
149	715	AH007	No. 5	床面	0.04	7000	8	3															
150	720	AH015	M77-11	覆土１	0.02	5700	7																*
151	721	AH007	No. 15	床面	0.04	5200	6	1															
152	724	AH007	No. 16	床面	0	6500	7									1							
153	725	AH015	M77-11	覆土１	0	5300	7																*
154	726	AH015	M76-57	覆土２	0	3100	4																*
155	727	AH015	M77-11	覆土１	0.01	5000	6																*
156	729	AH015	M77-11	覆土１	0.03	6700	9	1															*
157	730	AH015	M77-09	覆土２	0	6100	8																*
158	731	AH015	M77-09	覆土１	0	5200	6																*
159	732	AH015	M77-09	覆土１	0.01	4300	5.5																*
160	733	AH015	M77-11	覆土１	0.02	5800	8																*
161	734	AH015	M77-09	覆土２	0.01	4700	5.5	1															
162	735	AH015	M76-57	覆土２	0.01	4100	6																*
163	737	AH015	M77-09	覆土２	0	4700	6	1															
164	738	AH015	M76-57	覆土１	0.01	4400	6																*
165	740	AH015	M76-57	覆土２	0.04	4700	6	4															
166	744	AH015	M76-57	覆土１	0.01	4800	6.5	1															
167	745	AH015	M76-57	覆土１	0.02	5600	9															1	
168	763	AH015	M77-08	覆土２	0.01	5000	6	1															
169	768	AH015	M76-54	覆土１	0.04	4400	5	2															
170	772	AH015	M77-08	覆土１	0	5200	5																*
171	777	AH015	M77-27	覆土１	0.07	6400	7																*

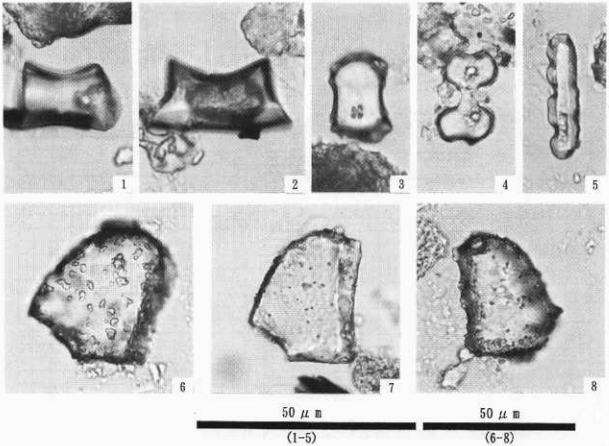
*:破片などを含むため、正確な個数が不明なもの　　*:微細片を含む　　多:100個体以上の検出

表３－４　炭化種実同定結果（４）

番号	サンプル番号	調査区遺構	サンプル採取地点	層位	炭化種子(g)	総破産量(g)	体積	木本								草本					その他		
								オニグルミ	クリ	キハダ	ブドウ属	ブドウ科	マタタビ属	ニワトコ	ミズキ	カヤツリグサ科	サナエタデ近似種	ハナタデーイヌタデ	タデ属	アカザ科	苗状・苗原	材	同定不能
58	341	CH027		床	0.01	1500	2														2		
59	344	CH027		床	0	2900	3																
60	346	CH027		床	0.1	3100	4	4															
61	349	CH027		床	0.02	3600	4														84+		●
62	350	AP011			0.03	4600	6	10+		1													●
63	351	CH027		床	0.02	3300	4														8+		●
64	352																						●
65	353	AP001			0.22	2900	4	7													5+		●
66	399	CH027		床	0	4600	5														4+		●
67	403	CH027		床	0	3000	5														19		
68	409	AP011		床	0.01	5500	7														7		
69	410	CH027		床	0.07	4000	4	2													4		
70	413	CH027		床	0.01	2000	2														5		
71	421	CP082	No. 145		2.18	4300	6	多														12+	
72	422	CP082	No. 145		1.47	4400	6	20+														多	
73	423	CP082	No. 145		1.06	5800	7	多														多	●
74	424	CP082	No. 145		2.47	4700	6	多														多	
75	444	AP011		床	0.03	3700	4	5													3		●
76	446	A地区AP001			0.62	5900	7	2	2												20+		●
77	447	AP011		床	0.02	2900	4	4													2		
78	450	CH027		床	0.02	4000	5	2														3	
79	454	AP011		床	0	2700	4														6		
80	493	CH027		床	0.02	4200	5																●
81	496	CH027		床	0.02	3500	4	1															●
82	497	CH027		床	0.02	3700	4	2															●
83	502	CH027		床	0.02	4600	5	2															●
84	531	CP082	壁		0.02	1600	2	4															
85	535	AP011		床	0.01	5300	7																●
86	537	AP011		床	0.04	5000	5	5								1							●
87	538	AP011		床	0.02	4300	6																●
88	557	AH007	No. 17	床面	0.04	5900	6	2															
89	558	AH015	M76-99	覆土1	0.02	7400	8																●
90	560	AH015	M76-99	覆土1	0	7500	8																●
91	561	AH015	M76-99	覆土1	0	8400	10																●
92	572	CH027		床	0.01	3000	4	1														3	●
93	599	AH007	No. 27	床面	0	5000	6														2		
94	602	AH007	No. 16	床面	0	2000	3	1															
95	603	AH007	No. 6	床面	0.01	4500	5														1		●
96	604	AH007	No. 13	床面	0.01	5500	7	1															
97	605	MP006	5P	床直上	0.02	2000	3	2															
98	610	AH007	No. 10		0	5500	6														4		
99	616	AH007	No. 14	床面	0.02	4000	4																●
100	620	AH007	No. 22	床面	0.06	3800	4	3															
101	626	AH015	M76-99	覆土1	0.01	2000	3																●
102	627	AH007	No. 18	床面	0.01	6900	9	1															●
103	628	AH007	No. 13	床面	0.02	4900	6														6		●
104	631	AH007	No. 22	床面	0.02	5400	7	1															●
105	633	AH007	No. 6	床面	0	6600	9																●
106	638	AH007	No. 11	床面	0	4400	5									1							●
107	639	AH007	No. 17	床面	0	5800	7	2													1		
108	640	AH007	No. 3	床面	0	5100	6	3													1		
109	643	AH007	No. 20	床面	0	5300	7	1															
110	644	AH007	No. 23	床面	0	3900	5																●
111	645	AH007	No. 17	床面	0.01	6000	7.5																●
112	646	AH007	No. 21	床面	0	4900	6														5		
113	664	AH007	No. 10	床面	0	6400	8	2													3		
114	665	AH007	No. 15	床面	0.01	5800	7														7		

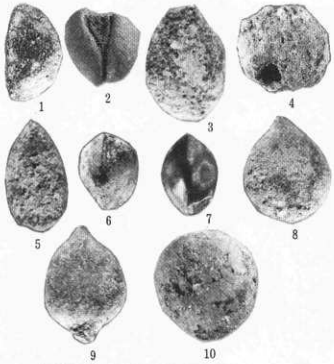
+:破片などを含むため、正確な個数が不明なもの　　●:微細片を含む　　多:100個体以上の検出

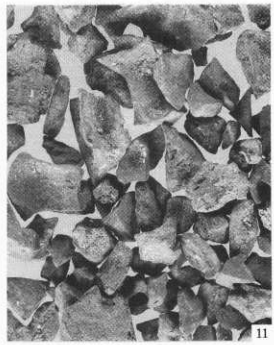
図版1　植物珪酸体



1．クマザサ属短細胞珪酸体(AH015;2)
2．クマザサ属短細胞珪酸体(AH015;5)
3．クマザサ属短細胞珪酸体(AH015;8)
4．ススキ属短細胞珪酸体(AH015;5)
5．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(AH015;8)
6．クマザサ属機動細胞珪酸体(AH015;2)
7．クマザサ属機動細胞珪酸体(AH015;5)
8．クマザサ属機動細胞珪酸体(AH015;8)

図版２　種実遺体





5mm	2mm	5mm	1cm
(1, 2, 4)	(3, 5-10)	(11)	(12, 13)

1．キハダ(AH003;2)
2．ブドウ属(AH015;6)
3．マタタビ属(AH001;46)
4．ニワトコ(AH015;18)
5．ミズキ(AP011;86)
6．カヤツリグサ科(AH015;6)
7．ハナタデ－イヌタデ(AH003;5)
8．サナエタデ近似種(AH001;9)
9．タデ属(AH001;46)
10．アカザ科(AH015;6)
11．オニグルミ(CP082;74)
12．クリ　子葉(CP175;224)
13．クリ　果皮(CP175;224)

7．八雲町野田生１遺跡出土漆製品の材質と技法

小林　幸雄（北海道開拓記念館）

1．はじめに

八雲町野田生１遺跡では、平成12・13年度の発掘調査によって、縄文時代後期中葉に属する遺構・遺物が多数出土した。竪穴式住居址AH006の床面からは赤色漆塗竪櫛１点、竪穴式住居址AH011では赤彩土器の完形品１点などの漆製品が発見された。

北海道の縄文時代には漆利用を中核にした“うるし文化”が広く定着しており、とくに後期中葉から晩期初頭にかけては盛んである。縄文時代後期中葉期は、縄文文化においてうるし文化が隆盛を迎える最初期段階にあたり、その後の後期後半から晩期初頭にかけての北海道ではほぼ全域にかけて漆利用が展開されており、こうしたうるし文化最盛期の全体像を知る上で重要な時期でもある。これまでの考古学的発掘調査などの成果によると、うるし文化に関連した縄文時代後期中葉期の代表的な遺跡として、小樽市に所在する忍路土場遺跡がよく知られる。また最近では、余市町安芸遺跡からも忍路土場遺跡出土例に酷似した櫛なども出土している（注１）。こうした中で、八雲町野田生１遺跡から発見された漆関連資料の内容を小樽市忍路土場遺跡出土例などと対比させながら検討を進めることによって有益な知見が期待できる。本稿では、八雲町野田生１遺跡から出土した赤色漆塗竪櫛や赤彩土器に関わる材質や技法などを検討したので、その概要を報告する。

2．調査

2－1．試料

調査対象の試料は表１に示したとおり、櫛１点、完形赤彩土器１点の計２点である。いずれも縄文時代後期中葉に属する。

表１　分析試料

No.	試料名	遺構	寸法	図版
1	赤色漆塗竪櫛	竪穴式住居AH006(床面)	底辺72×上辺65×高さ26㎜	カラー、Ⅰ
2	完形赤彩土器	竪穴式住居AH011	最大直径22×高さ26cm	カラー、Ⅱ

2－2．方法

① 肉眼観察と実体顕微鏡観察
② 光学顕微鏡観察
③ 走査電子顕微鏡観察（SEM,BEI）
④ エネルギー分散型Ｘ線分析装置（EDS）

3．結果と考察

3－1．赤色漆塗竪櫛

（1）外観

縄文時代には、骨や木や漆などさまざまな素材を利用しながら櫛を製作している。この資料は、漆櫛の一種である。縄文時代の漆櫛には、素地となる木胎を刻み込んで製作する刻歯式漆櫛と、櫛の歯を並べて結束し、その結束部を塑形、整形して製作する結歯式漆櫛がある。前者の代表例としては、福井県鳥浜遺跡の出土例などが知られる。しかし、これまでの発掘調査例をみると、縄文の漆櫛のほ

ぼ全体が後者の結歯式漆櫛である。本資料も結歯式漆櫛の一例である。また、これまでに発見された縄文の漆櫛の大半は、埋土中に櫛歯を土中に溶け出して櫛歯の痕跡のみが窺われる状況であり、この資料の場合も櫛歯は残らず、痕跡のみが確認できる。しかし、福井県鳥浜遺跡出土例をはじめ、北海道小樽市忍路土場遺跡や埼玉県桶川市後谷遺跡出土例などの櫛歯の遺存例を念頭におくと、縄文の漆櫛は、現代の我々が見慣れた櫛歯が短く櫛全体としては横長となる横櫛ではなく、櫛歯方向の縦に長い竪櫛である。つまり、この資料は赤色漆塗竪櫛、分析結果によると赤彩のための顔料として辰砂（朱、HgS）が用いられていることが判明しており、朱漆塗竪櫛の一例である。

櫛歯が結束されている部分（櫛頭部）の平面形に注目すると、底辺が広く、上辺が狭い台形状が基本形である。台形の寸法は底辺長が72㎜、上辺長が65㎜、中央部分での高さが26㎜を示す。また、上辺はやや緩やかな凹となる鞍部であり、下辺は緩やかな凸となっている。このような櫛頭部の平面形を有する類例としては、小樽市忍路土場遺跡出土例などが知られている（注２）。櫛歯は痕跡の空洞として残され、その数は15個を数える。嵌入した底辺部での断面形はほぼ円形であり、直径３～５㎜を示す。上辺においてもやや細く削り込まれているが、円形ないしは楕円形を呈する。この点においても忍路土場遺跡例に類似する。このように上辺で狭く、底辺で広い台形部（櫛頭部）において結束された櫛歯は、忍路土場遺跡出土の櫛歯遺存例にみられるごとくに、底辺を突き出した後は末広がりの状態で並んでいたことが推定される。ただし、忍路土場遺跡出土例では、上辺の両端にごく微弱な

写真１　赤色漆塗竪櫛の出土状況

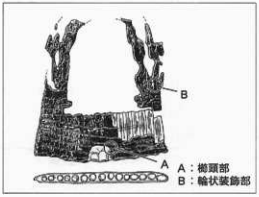


図１　分析試料の採取位置

突起が付されている。これに対して、本遺跡出土例では、上辺の両端には突起を確認することができない。北海道の縄文時代後期末葉には漆製品の出土量が特異的に多くなる。とりわけ漆櫛の数は異様とも受け取れるほどである。この時期の漆櫛に特徴的なのは、漆櫛本体を構成する頭部に透かし模様を配したいわゆる透かし櫛が発生することである。この透かし櫛の製作工程について、筆者は美沢川遺跡群（千歳市美々４遺跡，苫小牧市美沢１遺跡）出土例を基礎にしながら検討し、櫛歯を結束した後に、整形、整形された櫛頭部において透かし模様のモチーフに合わせて切り取っていく手法を推定した（小林1979）。ただし、この場合には、櫛頭部の底辺で嵌入した櫛歯が上辺に向かう途上で薄く削ぎ落とす工夫が凝らされている。本遺跡出土例には、このような加工の痕跡は見られない。今後、透かし櫛の発生との関連でも、この時期の漆櫛に注目していく必要がある。

櫛の表面には、櫛歯の間を横断する方向に、糸や紐の類、および当て材（横架材）など、櫛歯を結束するための材料が、微弱ながらも明瞭な凹凸面として観察できる。このような櫛歯結束用の材料は、高さ26㎜の間に１～２㎜ほどの間隔をとりながら並び、計８条を数えることができる。各条を、台形の上辺から底辺に向かって１条、２条の順に割り振って、その特徴をみると、表２のようにまとめら

れる。この表に示されるように、結束用の材料には大きく次の２種類が確認できる。①幅広タイプ；１条、２条、６条、８条で確認できる結束材料である。幅の測定値は1.5～２㎜を示す。ところが、この樹皮性と推定される幅広の結束材料の場合には、櫛歯との絡み方が不明であり確認できない。漆などの接着剤を用いることによって櫛歯との接着が果たされている可能性も否定できないが、この方法では充分な強度を得ることは難しい。この幅広タイプの場合には、いずれにも“ごく緩やかな撚り”に似た構造が観察される点が特徴である。②幅細タイプ；３条、４条、５条、７条で確認できる。幅が約１㎜、あるいは１㎜以下の結束材料であり、繊維質の束をまとめた糸と推定される。撚りは確認できない。このタイプの各条は、糸によって櫛歯２本を束ねた後に、右の１本分のみ戻ってから、次の１本分を絡めて、合わせて２本を束ねるということを繰り返して、順次に２本ずつを絡め上げながら横一列の全体を結束している。この結束方法は、忍路土場遺跡出土例の結束事例としても確認された方法である。

表２　櫛歯結束各条の特徴

条	撚　り	幅		櫛歯との絡み	備　考
１条	微弱なＺ撚り	広	1.5～２㎜	なし？	樹皮製？
２条	微弱なＳ撚り	広	約２㎜	なし？	樹皮製？
３条	なし	細	約１㎜	右上に回転	
４条	なし	細	約１㎜	右上に回転	
５条	なし	細	約１㎜	右上に回転	
６条	微弱なＺ撚り	広	約２㎜	なし？	樹皮製？
７条	なし	極細	１㎜以下	右上に回転	
８条	微弱なＳ撚り	中太	約1.5㎜	なし？	樹皮製？

本遺跡出土例は台形を基本とし、頭部の寸法は底辺長が72㎜、上辺長が65㎜、中央部分での高さが26㎜である。図２には、櫛頭部の底辺長と高さの計測値に基づいて、各遺跡出土例の寸法を比較したものである。この図によると、本遺跡出土例は高さの点で忍路土場遺跡出土例に近い数値を有するが、底辺長では後期末葉の出土例に近い数値を示す。つまり、本遺跡出土例は後期中葉期の代表的な遺跡である忍路土場遺跡例と、その後の後期末葉期出土例（美々４、美沢１、御殿山、柏木Bなど）との計測値との中間的な値を示すところに特徴がある。寸法値のみを基礎にした単純な比較には大きな意味をもち得ないが、前述したように、後期中葉期の漆櫛と後期末葉期の漆櫛との比較、例えば、透かし櫛の発生などとの関連を考えていく上でも大きな示唆が含まれている。

さらにこの漆櫛の場合には、頭部上辺からさらに上方向に位置する部分に赤彩物の面が確認される。発掘直後の写真や実測図によると、ちょうど櫛頭部上辺の両端がそれぞれ伸びて頂部のところで連結して輪状を構成するようにも観察される（以下、この部分を“輪状装飾部”と記す）。櫛頭部と輪状装飾部とが一体のものであると仮定した場合には、輪状装飾部の頂点に相当する部分は欠損しているが、左右両方から伸びる赤彩物の面を延長すると、頭部上辺から輪状装飾部の頂点までの直線距離は約50㎜となる。このように漆塗整櫛頭部のさらに上に輪状装飾部を有する事例は、縄文時代における類例はない。よって、本資料の場合には、櫛頭部と輪状装飾部とが一体をなすのか否かについては、重要な問題が含まれる。次の分析では、問題を解決するための手がかりを求めながら進めた。

（２）分析

図１にあるように、櫛頭部の中央部分からの１点、輪状装飾部からの１点について検討し、櫛頭部

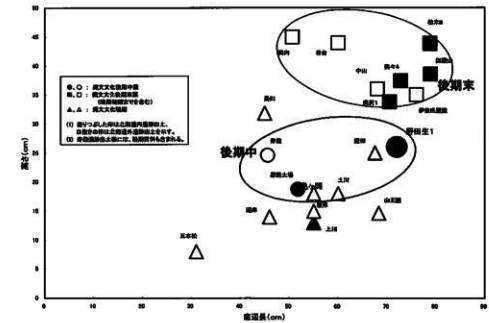


図２　漆櫛の寸法比較

と輪状装飾部との胎や塗りなどといった漆工技術上の特徴に注目しながらその異同を比較した。

櫛頭部；カラー図版－写真１，写真２、図版Ⅰ－写真１，写真２

櫛頭部はじめ輪状装飾部、赤彩土器から採取した塗膜試料は、一方の断面を研磨し、走査電子顕微鏡を用いて断面の元素濃度分布を測定した後に、同じ試料を薄片にして光学顕微鏡による観察をおこなった。図版Ⅰ（写真１，写真２）には走査電子顕微鏡による観察像、カラー図版（写真１，写真２）には光学顕微鏡による観察像をそれぞれ示した。櫛頭部の外観観察では、櫛歯や結束用の糸によって凸となる部分では朱漆がほとんど残存せず、一方では櫛歯や糸によって囲まれた凹部には比較的に厚く朱漆が堆積する。このように、凸部において朱漆が良く残っていない理由については、製作時点からのものか、あるいはその後の使用時の手擦れや劣化による剥離などに起因するものかは不明である。カラー図版の写真１及び写真２はともに、上が表面側、下が櫛歯側を示す。これに対して、図版１の走査電子顕微鏡像（BEI-COMPOおよびXray- Hg）では、ともに写真の下方向が資料の表面側を示している。

ｉ）櫛歯；

櫛歯の木質はすでに埋土環境中に溶けだしており残らない。その痕跡として、カラー図版－写真１には下側の左右に、写真２には左下側にそれぞれ包埋樹脂のみが観察される。櫛歯の断面は円形あるいは楕円形を呈し、写真１、写真２にはその一部が痕跡として残される。

ii）漆層；

櫛歯の痕跡層と上層の赤色漆層との間を、飴色系の透明な層が広がる。漆以外の混和物がほとんどみられず、ほぼ純粋な漆で構成される漆層である。この層は上下の２層に分かれる。櫛歯に近い下層の層厚は、カラー図版－写真１の左下で300～450μm、右下では100～150μmほどである。とくに左下には、櫛歯を結束した際に用いられた糸に由来する繊維質の痕跡が観察される。写真には、繊維質の束が２本で撚り合わされた糸の縦断面が示され、１本当たりの繊維質の束は200～250μmほどである。繊維質の束自体にはほとんど撚りがみられず、２本が撚り合わされる際にごく緩やかな Z 撚り（左撚り）がおこなわれている。糸の太さは下層の層厚にほぼ一致し、直径約300～450μmを示す。

漆層の下層は、櫛歯と櫛歯とに挟まれたV字状の凹部に沿って広がる。層を構成する漆材料の粘度は低く、櫛歯間の境界部においてV字状に深く落ち込むように層が形成される。上層は、下層のV字状の凹部を埋めるように逆三角形状に広がる。最大厚さは、中央部において約300μmに達する。漆層の上層では、繊維質の痕跡などは含まれない。

ⅲ）赤色漆層；

最表層側には赤色顔料を含んだ層が逆三角形状に厚く堆積する。中央部分での最大厚さは約300μmに達する。図版Ⅰ（写真1，写真2）の分析結果に示されるように、辰砂（朱、HgS）を含んだ朱漆によって構成される。外観観察すると、朱漆は凹部で厚く、凸部ではほとんど残存しない。顕微鏡組織にも、朱漆の残存状況がよく反映している。

輪状装飾部；カラー図版－写真3、図版Ⅰ－写真3，写真4

輪状装飾部の断面は長軸約2㎜、短軸約1㎜の楕円形状を示す。劣化が進んでおり、今回の観察では、胎は樹皮製と推定されるが、種類などの判別はできない。顕微鏡観察では、樹皮製の繊維質に漆様物質が浸透しており、層厚は50～150μmほどである。その上を赤色顔料層が覆う。赤色顔料としては図版Ⅰ－写真3，写真4の分析結果に示されるように辰砂（朱、HgS）が主体であり、朱漆が用いられている可能性が高い。朱漆層は一部に剥落が進む一方で、残存部における層厚は安定しており約10μmを示す。

（3）櫛頭部と輪状装飾部の比較

表3には、櫛頭部と輪状装飾部における、主に漆工技法上の特徴をまとめた。この表に基づくと、両者間の異同は次のように整理される。

ⅰ）一致点　：赤彩はともに朱漆を用いている。また、その前に施された漆塗りには、粘度が低く軟らかい、ほぼ純粋に近い漆材料を用いていると推定される。

ⅱ）不一致点；赤彩層および漆層の各層厚。胎の種類。

全体としては、両者ともに当時におこなわれた漆工技法を基礎にしながら製作されてはいるが、技術的な対象（胎など）やその手順など大きく異なっている。しかし、今回の観察結果からは、櫛頭部と輪状装飾部とが一体であるのか否かの判断には至らない。

表3　櫛頭部と輪状装飾部の比較表

	櫛　頭　部	輪状装飾部
赤彩層	朱漆（0～300μm）	朱漆（0～10μm）
漆　層	2層 （上層；0～300μm、下層；100～450μm）	1層（50～150μm）
胎	櫛歯（痕跡；3～5㎜）	樹皮？（50～150μm） ＊漆の浸透層？

3－2．完形赤彩土器

（1）外観

赤彩土器は、欠損部もほとんどなく完形品である。最大直径は胴下半部においてφ＝26cm、高さ22cmを示す。土器表面の全体を赤色顔料が覆う。しかし、赤色顔料層の残存状況は偏在的であり、黒色系や黄褐色系の下地を観察できる部分も多い。肉眼観察による限りでは、使用時における手擦れなどの摩滅によるものか、あるいは製作時においてすでに赤彩が及ばなかったのかは判然としない。また、赤彩された塗膜層直下の状態についても大きく次の2種が観察される。(a)黄褐色系の土器胎

土、(b) 黒色系の土器調整面、あるいは下地である。分析には、完形土器を復元する過程に採取された微小片（約2×3㎜）をもとに検討を進めた。

（2）分析

カラー図版－写真4，図版Ⅱ－写真1～4

図版2の分析結果に示されるように、赤色塗膜には辰砂（朱、HgS）が含まれており、赤彩には朱漆が用いられたと推定する。顕微鏡下の朱漆層は層厚がほぼ10～15μmで安定している。カラー図版（写真4－左）に示されるように、朱漆層直下の土器表面は平滑であり、顔料を塗布する前には磨きなどの事前調整が施されたものと推定できる。加えて、同じ土器最表層部における深さ方向への40～120μmの範囲では、明らかな黒色層が存在する。この部分は外観にも観察された土器表面の黒色系の地色と関連する。この黒色層は、表面側が平滑であるのに対して、土器の内面側に向かう深さ方向での振幅にバラツキがあり不連続的である。このような顕微鏡組織から、黒色系を呈する何らかの素材（例えば、化粧粘土など）が貼り付けられた結果として、黒色が発色している可能性は少ない。むしろ、土器表面側からの物理的、化学的な影響によるものと推定される。土器製作など当時の状況を想定しながら、この黒色層の生成原因を求めるならば、土器を焼成する段階において黒色化処理がおこなわれた可能性が高い（注3）。

4　まとめ

八雲町野田生1遺跡出土の赤色漆塗竪櫛および赤色彩色土器について、主に漆工技法に注目しながら、これらの材質や技法を検討して、次のような知見を得た。

i）赤色漆塗竪櫛について

① 漆櫛本体となる櫛頭部の平面形は台形状を基本とし、上辺は緩やかな凹部、底辺は緩やかな凸部となる。類例としては、小樽市忍路土場遺跡出土例が近い。ただし、この場合には、上辺の両端に突起を有しており、本遺跡出土例では突起が付されない。

② 櫛頭部の寸法値を他遺跡と比較をすると、縄文後期中葉期の忍路土場遺跡出土例と、後期末葉の出土例との中間的な値を示す。

③ 櫛頭部の表面には、櫛歯を結束するための構造として、8条の横走する結束材料を確認した。結束材料には幅広のタイプと幅細のタイプの2種類ある。前者には樹皮製の素材、後者には糸や紐が用いられている。

④ 櫛頭部から採取した試料の顕微鏡観察などによると、櫛歯（痕跡層）－漆層－赤彩層の層序が確認される。漆層は、上下2層から構成される。この層には、粘度が低くて軟らかい、ほぼ純粋な漆に近い材料が用いられている。下層は、100～450μm。部位により、結束に伴う糸などの繊維質を含む。上層は、最大層厚約300μm、下層の凹部を補うように観察される。赤色彩色層は、表面の凹凸部のうち凹部に厚く、凸部にはほとんど残らない。朱漆による1層から構成され、最大層厚約300μmに達する。

⑤ 本遺跡出土例は、櫛頭部に伴って、上辺両端から輪状に伸びるように装飾部が出土した。輪状装飾部の断面は長軸約2㎜、短軸約1㎜の楕円形状を示す。顕微鏡には樹皮製の繊維質に漆様物質が浸透し、その層厚は50～150μmほどである。その上の赤色彩色層は朱漆からなり、層厚は約10μmである。

ii）赤色漆塗土器について

① 赤色の彩色には、辰砂（朱、HgS）が用いられている。

② 赤色の彩色を施す前の事前調整として、“磨き”と“黒色化処理”をおこなっている。
③ 黒色化処理としては、還元炎条件下での表面炭化などが推定される。

最後に、(財) 北海道埋蔵文化財センターの発掘調査団の方々には、本遺跡出土漆製品に関わる検討の機会を与えていただいた。とくに調査担当の種市幸生氏には、本資料に関わる情報の提供と関連する重要な議論をいただいた。また、田口尚氏には、赤色漆塗堅櫛のレントゲン撮影に際しての助言と種々の労をいただいた。記して心より感謝申し上げます。

注

1　余市町教育委員会（余市水産博物館）の乾芳宏氏によると、同町内に所在する安芸遺跡における平成14年度発掘調査によって、黒色漆塗堅櫛、漆（？）入り壺など漆関連遺物が発見されている。この遺跡は、忍路土場遺跡からも直線距離で約５ｋｍであり、両遺跡間の関連性の解明が注目される。とくに黒色漆塗堅櫛については、外観や櫛頭部の平面形が、忍路土場遺跡出土例と酷似する点が注目される。

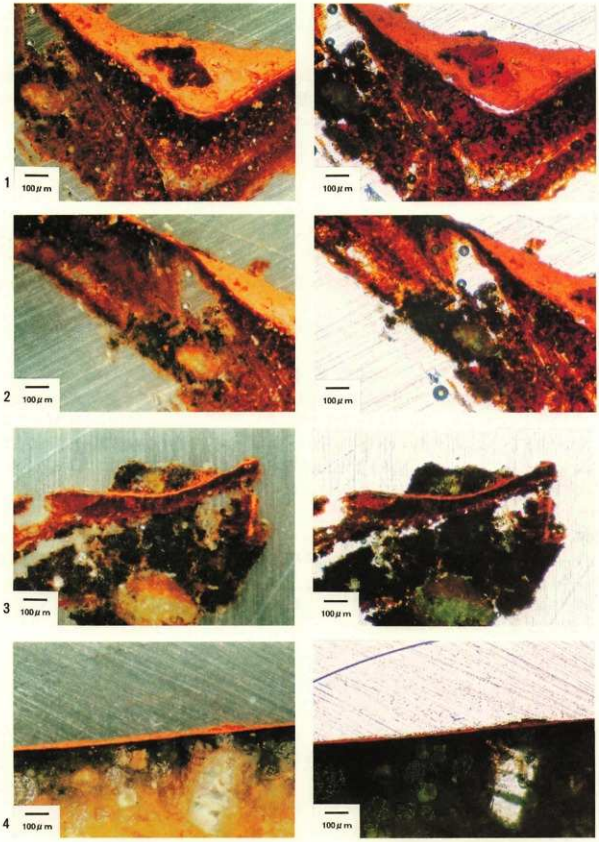
2　筆者の分類試案（小林1989）によると、台形状を基本とする型式Ⅱ－ｂに相当すると位置づけられる。

3　八戸市縄文学習館の小林和彦氏よると、亀ヶ岡式系縄文土器の製作復元実験の経験をもとに、『土器を焼き上げた後のまだ余熱が充分に残された段階に、“鋸屑のチップ”などを用いて土器をパックするなどの方法で空気（酸素）を遮断することで、黒色系縄文土器に酷似した色調を得ることができる』。また、『光沢感のある色調を得るためには、焼成する前に土器の表面を充分に磨いておく必要がある』。つまり、“磨き”と“還元炎条件下における表面炭化”をおこなうことによって、黒色系の縄文土器を製作することが可能であるとの教示を得た。

文献

小林幸雄1979　「美沢川遺跡群出土赤色漆塗櫛の製作技法について」『北海道開拓記念館研究年報第７号』北海道開拓記念館

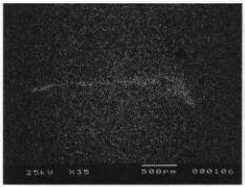
小林幸雄1989　「忍路土場遺跡出土漆櫛の製作技法」『小樽市忍路土場遺跡・忍路５遺跡』(財) 北海道埋蔵文化財センター

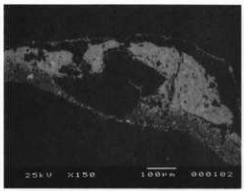


カラー図版　塗膜試料断面図の光学顕微鏡観察

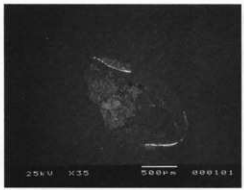
写真1および2；楕頸部本体，写真3；軸状装飾部，写真4；朱漆塗り土器
写真1～4の左側は反射光のみ，右列は反射光＋透過光の観察像

1

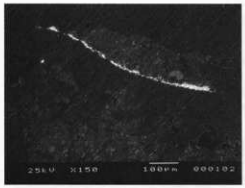




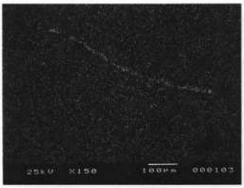
2



3

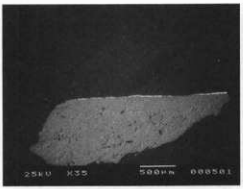


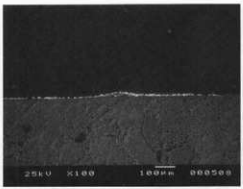
4

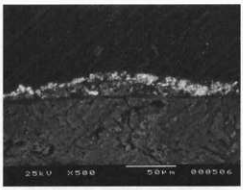


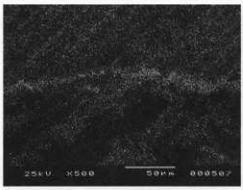
図版Ⅰ　赤色漆塗竪櫛　塗膜試料断面図の走査電子顕微鏡観察

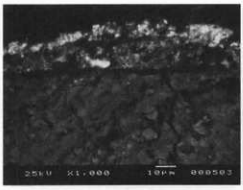
写真1および2：櫛頭部本体，写真3および4：輪状装飾部，左列は反射電子組成像，右列は水銀（Hg）のX線像
写真中の倍率表示は観察時のもので，マーカのみ正しい。

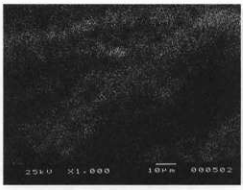








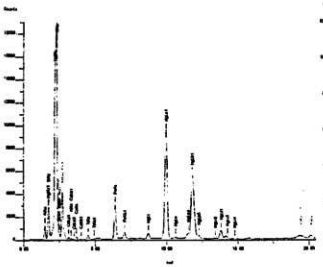




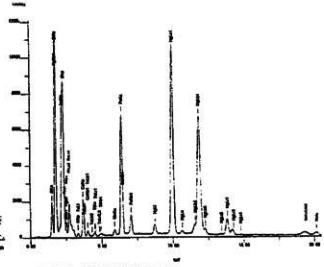
図版Ⅱ　朱漆塗り土器　塗膜試料断面図の走査電子顕微鏡観察

左列は反射電子組成像，右列は水銀（Hg）のX線像　写真中の倍率表示は観察時のもので，マーカのみ正しい。

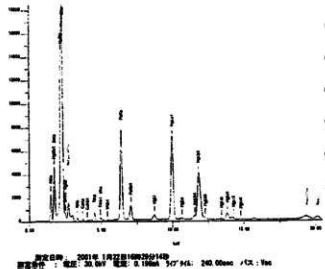
8．蛍光Ｘ線分析結果



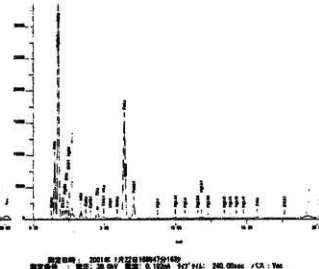
AH11土器12赤彩土器注口部分（赤彩部分）



AH６出土漆塗櫛（赤色部分）



AH12Ⅲ層出土赤彩土器破片（赤彩部分）



AH12Ⅲ層出土赤彩土器破片（漆塗り部分）

表Ⅳ－８－１　蛍光Ｘ線分析結果一覧表

V　調査結果の整理と考察

1　遺構及び土器の出土状況、接合関係についての整理

今回の調査によって得られた野田生１遺跡における縄文時代後期を中心とした竪穴住居及び土器の出土状況、特に接合関係を中心に諸特徴を整理した。

（1）「遺構確認状況の分類からわかること」

保存状況が良好であったため、B地区の遺構については、Ⅲ層上面からの確認状況に基づいて区分することにより、各遺構の埋積後の保存状況を観察し、記録することが出来た。

確認状況に基づいた区分にはA、B、C、Mの４つの区分があり、詳細は下記の通りである。

A：Ⅲ層上面に明瞭な落ち込みを伴うもの

B：Ⅲ層上面にやや不明瞭な落ち込みを伴うもの

C：Ⅲ層上面では落ち込みは確認されず、Ⅳ層以下で確認されたもの

M：Ⅲ層上面では落ち込みを伴わないが、黄褐色ローム土の範囲が確認されたもので、わずかにマウンド状を呈するものも見られた。

調査当初においては、「A」についてはAH１～21、AP１、AF1,6の住居跡21軒、土坑１基、焼土２カ所、「B」についてはBH22～26、BH42、BP138の住居跡６軒、土坑１カ所、「C」についてはCH27～46、CP18～183、CF３～33の住居跡20軒、土坑150基、焼土10カ所、「M」についてはMP１～11の11カ所を設定したが、調査結果を確認類型毎に整理すると、

Aについては、

AH１～18、20　19軒：縄文時代後期中葉の竪穴住居跡

AH19　１軒：縄文時代中期中葉の竪穴住居跡、急斜面直上に位置するため、確認された落ち込みは崩落等による自然地形による可能性が強い。

AH21　１軒：少数の遺物は見られたが竪穴住居跡や土坑としては認められなかった。

AP１　１基：人為的な掘り込みを確認することが出来なかった。

AF１、６　２基：縄文時代中期の焼土

Bについては

BH23　１軒：縄文時代後期中葉の竪穴住居跡

BH22、24、25　３カ所：人為的な掘り込みが認められず、住居跡や土壙としては確認できなかったが、多数の遺物を伴ったため、「遺物集中」として扱った。

BH26、BH42　２基：縄文時代中期の土坑墓

BP138　１基：縄文時代中期の土坑墓

Cについては

CH27、29、30、32、33、40　６軒：縄文時代後期中葉の竪穴住居跡

CH39、CH44（旧CH44、45、46）　２軒：縄文時代中期中葉の竪穴住居跡

CH40　１基：縄文時代中期中葉の土坑墓

CH28、31、34～38、41、42　９カ所：人為的な掘り込みが認められず、住居跡や土壙としては確認できなかった。多数の遺物を伴ったものは、「遺物集中」として扱った。

CP18～183　100基：縄文時代早期から後期にいたる土坑（土坑墓を含む）

CF３～33　30カ所：縄文時代中期から後期の焼土

Mについては

MP１～３、５、７　５軒：縄文時代後期中葉の竪穴住居跡

MP４　１基：縄文時代後期中葉の土坑

MP９、10、11　３基：縄文時代中期の土坑墓

MP６、８　２基：確認当初、マウンドを持つ大規模な竪穴を推定していたが、人為的な掘り込みが見られず、遺構として認めることが出来なかった。黄褐色ローム土の範囲は斜面地形による削平と、自然地形本来の起伏によるものと思われる。

以上の結果から要点を抽出すると、縄文時代後期中葉の竪穴住居跡については、A、B、C、Mの４種類の埋積パターンが見られた。この４つのパターンについては竪穴の規模等には直接関連がなく、覆土の堆積環境の差によるところが大きい。つまり、人為的な埋積の程度差による可能性が高いものと思われる。人為的な埋積の詳細については（２）で整理するが、

１　主に竪穴の周縁部分が埋積されているもの：A、B

２　竪穴の中心部分まで埋積されているもの：M

３　竪穴全体が埋積された後にⅢ層が全面に覆ったもの、あるいは人為的な埋積に関わらず、自然堆積によって覆土が埋積されたもの：C

以上のような三つの要因が影響しているものと考えられる。

なかでも、AやB類として確認しながら、掘り込みを伴わず遺構として確認されなかったもの、特にB類のものについては、ほとんどが遺構として認められなかったものの、「遺物集中」として設定されたように土器等の集中的な出土が確認された点や、石棒がBH25で出土したことなどを考慮すると、自然地形あるいは人為的なわずかな窪みを利用して何らかの行為が営まれていた可能性がうかがえる。また、その一方で縄文時代中期やその他の時期の遺構に関してはこれらのヴァリエーションが存在しないのも特徴的である。

さらに各パターンには、縄文時代後期中葉という時期のなかでも、それぞれに微細な時期差が存在する可能性も考えられる。土器の接合関係（５）で詳細を整理する。

（２）「遺構覆土の堆積状況の比較からわかること」

遺構覆土の堆積については、特に竪穴住居跡の埋積状況に大きな特徴が見られた。各住居跡は確認状況が異なると同様に、覆土の堆積状況も様々であるが、覆土の内容、構成の共通点を抽出することで、４種類の層に大別することが出来た。

１　Ⅲ　　層：包含層であるⅢ層に由来する黒色土

２　覆土１層：Ⅲ層直下の黄褐色ローム土を主体とする堆積、ほぼ全ての住居跡で確認できた。

３　覆土２層：覆土１層直下で床面に近い黒色土を主体とする堆積、一部１層との境が不明瞭なものがあり、明瞭に確認できなかったものがある。

４　覆土３層：遺構壁際の三角状の堆積

これらの竪穴住居跡の特徴は、Ⅲ層由来の黒色土や、黄褐色ローム土を主体とするもの、黄色土と黒色土との混土などが互層状に堆積する点が際立つ特徴である。特に「覆土１層」は黄褐色ローム土を主体とする人為性の強い堆積であり、この層の発達状況が、確認状況の差に与えた影響は大きいと思われる。調査当初は覆土１層の堆積理由について、「人為的な埋積によるもの」と「土葺き屋根の崩落によるもの」のいずれの可能性が強いかという点が大きな課題であった。ただし、「土葺き屋根」

の崩落土の場合、無為物層になる可能性が高く（佐川1996）、また、土壌理化学分析の結果（Ⅳ－5.6）によると、サンプルを採取したAH６、AH15などの竪穴住居跡の覆土には屋根材となる草本類が含まれていないことが明らかになった。いずれにしても縄文時代中期の遺物が数多く混入する覆土１層の様相とは大きく異なる点がある。

また、覆土１層に限定することなく、覆土全体を比較した場合、覆土堆積のヴァリエーションは以下のとおりであり、土葺き屋根の崩落のみでは説明不可能なものも析出されてくる（口絵６参照）。

１　Ⅲ層由来の黒色土が遺構全体にわたり、大きく占めるもの
（AH６　AH14 AH16 AH17 AH18）
２　Ⅲ層由来の黒色土の堆積が部分的であるもの、中央や表層にのみ限定されるもの
（AH１ AH４ AH10 AH11 AH20 MP２ MP３ MP５）
３　Ⅲ層の堆積が少なく、黒色土と黄褐色土が交互に堆積するもの
（AH５ AH13 AH15）
４　覆土１層中の黄褐色ローム土の堆積にマウンド状の部分がみられるもの
（AH４,AH５,AH９,AH10,AH11,AH16,AH20,MP３,MP５）

マウンド状部分については当初は覆土を掘り込んだ土壙の底面部分と解釈して調査していたが、土壙として調査した際にそのほとんどは底面として検出されず、平面形をとらえることもできなかった。いずれにしても、覆土の堆積状況にこのような多種類の差違が生じる背景には、住居廃絶後の堆積環境に人間の意図的な行動が大きく関与していた可能性は高いと考えられる。

（３）「遺構の構造からわかること」
【竪穴住居跡の構造について】

竪穴住居跡は縄文時代後期中葉のものが31カ所、中期中葉のものが３カ所である。後期中葉のものはいずれも円形であるが、規模別にみると３つに分類することが出来る。

１　直径約４～５ｍの標準タイプ
（AH２,AH４,AH６,AH７,AH９,AH10,AH11,AH12,AH13,AH14,AH15,AH16,AH17,AH18,CH27,CH29,CH30,CH32,MP1,MP2,MP3,MP5,MP７）
２　直径約６ｍのやや大きなタイプ
（AH3,AH5,AH６）
３　直径８ｍ以上の規模の大きなタイプ
（AH1,AH８）

１の標準タイプは緩斜面部分の竪穴住居群を構成するもので、２のやや大型なタイプが調査区中央の平坦面に立地するのとは対照的である。３の大規模なタイプではAH１がほぼ独立的な位置にあたるのに対し、AH８は円形に配置された標準タイプの住居群の中心的な位置にあたるのが特徴である。いずれも調査区北側の集落展開との関連が深いことがうかがえる。

竪穴住居跡は既述のような複雑な覆土の堆積が見られる一方で、住居としての構造が明瞭に残されている。特に立石を伴う地床炉は、「出入り口」状部分と直線上に配置され、住居の主軸を形作っているものと思われる。立石の多様な形状についてはⅤ-２で詳説するが、炉-立石-「出入り口」状部分を結ぶラインの方向性については下記のように分類される。

１　北東～南西方向：AH３,AH４,(AH10),(AH11),AH12,(AH13),AH14,(AH17),(AH18),(MP２),MP３,(MP５)

2　北～南方向　　：AH5,AH 6
3　南～北方向　　：(AH 1)，(MP 1)
4　南西～北東方向：AH15,
※（　）内の住居は立石を伴っていないもの

1グループの方向性については緩斜面上に立地する住居跡の入口方向が斜面下部方向を向いているものと理解することができる。斜面上部からの土砂流入を防ぐという地形による制約が働いている。2のグループは調査区平坦面に立地する竪穴住居のみがもつ規則性とも考えられるが、同じ平坦面に立地する3のグループが正反対の方向を向く点で複雑な様相の一端が示されているものと思われる。4はAH15のみであるが、2,3と同様のことが考えられる。いずれにしても調査区北側の集落遺構の展開との関連が考えられ、地形的な制約を受けながらも、何らかの社会的な制約に支配される様相がうかがえる。

（4）「土器の出土状況の比較からわかること」

【器種分類等の比較について】

注口土器に見られる特徴

注口土器は全て縄文時代後期後半のもので、同時期の復原個体の器種構成にしめる注口土器の割合は高く（2割弱）、破片の数も多い。平面分布の状態は竪穴遺構出土の割合がきわめて高く、遺構分布と重複する点が多い。また、急斜面部の包含層（K.L-84.85）や石棒出土地点に近いD-69などにも集中出土が見られる（図188）。出土状態は完形出土のものが多く、注口部分の完存するものも8点見られた。完形以外では集中破片（1）状態で出土するものが大半であったが、多遺構間接合のものも多く、そのほとんどが赤彩土器のものであった。

赤彩土器に見られる特徴

赤彩土器は、個体、破片ともに弧状の微隆起線文を伴うもので、赤彩は水銀朱によるものである。縄文時代後期中葉から後葉にかけての時期に位置するものと考える。

赤彩土器の出土分布に見られる特徴は調査区北側に集中する竪穴遺構内に多く、包含層中にも数ヶ所の集中部分が見られる点にある（図187　M76周辺など）。また、出土状態では完形状態がAH11の赤彩土器（土器12）のみであるが、AH6,7,1,16,17の覆土中では集中破片（1）状態の出土が多く、接合率も高い。これらのことから個体が破砕された後、破片が移動したことは事実であるが、移動した破片が注口部分や口縁の一部などの部分的なものであることが特徴である。これはAH11出土の土器12の注口部分が隣接するAH11から出土した例に代表される。

【竪穴住居跡に伴う土器個体の出土状況比較について】

本遺跡における特徴の一つは完形状態出土の土器個体が多い点で、竪穴住居床面においてはさまざまな出土状況が見られた。

1　完形状態での出土
(a)「倒　立」状態：AH 5（土器74）　AH10(土器53)　AH12(土器60,68,90)　BH23(土器51)
(b)「横倒し」状態：AH 6（土器61,62）　AH12(土器58,59)　AH18(土器91)　CH32(土器16)　MP 2（土器92)
(c)「正　置」状態：AH 5（土器18,19）　AH17(土器85)　CH32(土器20)　MP 3（土器64)
2　集中破片（1）状態での出土
AH 2（土器54,93）　AH 6（土器56）　AH 7（土器25）　AH12(土器23)　AH14(土器21,42,48,57)

AH18(土器55)　BH23(44.50)　CH30(土器52) CH32 MP 1 (土器45)　MP 3 (土器43)

3　土器個体が出土しなかった住居跡

AH 3　AH 4　AH13

完形出土のものについては口縁の一部を打ち欠いたと思われるものが見られた。明瞭なものでは土器68、76（AH11)、77、79、125（AH 5）がある。特に76は赤彩注口土器（土器12）に伴って出土した小型深鉢で、打ち欠いた後に入ったひび割れに補修が施された痕跡が残されている。

また、平面的な位置関係においてはそのほとんどが東側壁面側に出土した点に特徴がある。特に緩斜面部に立地する竪穴住居においては壁高の高い斜面上部側の壁際に配置される状況がうかがえる。

【竪穴住居跡覆土中における遺物の出土状況比較について】

縄文後期竪穴住居跡群における覆土中の遺物出土状況には覆土上層に多く、下層にしたがって少なくなり、床面ではわずかな数しか残らないという共通な特徴が見られるが、竪穴住居毎の遺物点数には大きく明瞭な差が見られた。

1　覆土中の遺物が最も多い遺構　（多い順）

AH14（2534点)、BH23　(2240点)、AH12（1933点)、AH 6　(1904点)、AH 1　(1528点)、

2　覆土中の遺物が少ない住居跡　（少ない順）

AH20(109点)、AH 4 (167点)、MP 2 (243点)、MP 7 (305点)、MP 5 (243点)、MP 1 (392点)、AH 5 (446点)、AH11(484点)、CH32(490点)、AH 3 (532点)、AH 2 (552点)、MP 3 (790点)

※全体を調査できなかったAH 7 (1608点)、AH 8 (1347点)、AH 9 (952点) は上記の枠組みの中に組み入れていない。1,2以外の竪穴住居跡は800から1200点ほどの遺物点数の範囲内におさまるものである。

現地調査の時点からAH14覆土の遺物集中度は周辺の竪穴住居に比較しても高く、明瞭な差が見られた。その背景として、AH14が周辺の遺物の廃棄場所になっている可能性が考えられ、その可能性は図69に見られるように多くの遺構間における接合関係の中心になっていることからもうかがえる。さらに、他のAHやBHに比較するとMPの覆土遺物が少ない点が注目される。黄褐色土を主体とする覆土の堆積環境と何らかの関連があるものと思われる。

（5）「土器の接合状況からわかること」

土器の接合関係の把握は本報告、及び整理作業においてもっとも力点をおいたところである。縄文時代後期の復原個体については遺構間接合の多い点が特徴的であり、土器12に代表されるように、3遺構を超える多遺構間の接合も数多く見られた。接合のパターンは下記のように分類できる

A【隣接する竪穴間で、覆土（Ⅲ層を含む）と床面出土の土器が接合するパターン】

例　土器53（大型深鉢）：AH10（床）＋AH11（覆土）

　　土器119（浅鉢）：MP 3（床）＋AH18（Ⅲ層）＋AH19（覆土）

B【やや離れた包含層の遺物と竪穴住居跡の土器が接合するパターン】

例　土器12（赤彩注口土器）：AH11（床）＋K72（Ⅲ層）

　　土器14（赤彩注口土器）：AH 6（床）＋J90（Ⅲ層・PC37）

　　土器26（注口土器）：AH14（床）＋O78（Ⅲ層）

C【覆土上層において多遺構間で接合するもの】

例　土器13（赤彩注口土器）：AH 7＋AH12＋AH16

　　土器32（注口土器）：AH10＋CH32

土器49（大型深鉢）：AH12＋AH16
土器63（小型深鉢）：AH２＋AH10
土器75（小型深鉢）：AH12＋MP３＋MP４
土器88（深鉢）：AH７＋AH14＋MP４
土器118（浅鉢）：AH３＋AH14
土器126（深鉢）：AH12＋MP３

以上の接合関係及び破片資料の接合関係を整理した結果、竪穴住居間の微細な新旧関係のいくつかが想定された。

例１　AH16（床）＋AH17（Ⅲ層）　→　新　AH16＞AH17　旧
例２　AH11（床）＋AH10（覆土）　→　新　AH11＞AH10　旧
例３　MP３（床）＋AH18（Ⅲ層）　→　新　MP３＞AH18　旧
例４　AH９（床）＋AH８（覆土）　→　新　AH８＞AH９　旧
例５　AH６（床）＋AH１（Ⅲ層）　→　新　AH６＞AH１　旧
例６　AH10（Ⅲ層）＋AH２（床）　→　新　AH２＞AH10　旧

これらの新旧関係は復原個体の接合関係により、床面出土の破片と覆土上層の破片が接合した場合、「破片が床面から出土した竪穴が覆土から出土した竪穴よりも新しい」という仮説に基づいて想定したものである。

これらの接合関係をもとに集落の範囲を想定すると、例１、２、３、４からはAH８を中心としAH10、AH17、AH18が外周とする同心円状の範囲が想定され、新段階ではMP３、AH16、AH11をむすぶやや狭い同心円の範囲に移行するものと思われる。また、例５からはAH１とAH６に新旧関係が存在することが明らかになった。さらに例６からは新たな方向性の存在がうかがわれるが、調査区北側の集落展開との関連が予測される。以上の結果から縄文時代後期の竪穴住居跡群は以下の４グループに分類される。

１　調査区北側緩斜面グループ
AH２，７，８，９，10，11，12，13，14，15，16，17，18　MP１，３
２　調査区北側平坦面グループ
AH１，６，CH30
３　調査区南側平坦面グループ
AH３，４，５，MP２，７
４　下段段丘面グループ
CH27，29

以上の４グループのなかでも１は多遺構間の接合が多く、新旧の移動の結果成立した竪穴群であると考えられる。３、４は遺構間接合がほとんど見られず、ほぼ同時期に存在したものと考えられる。２は３軒のみであるが北側遺構の展開との関連を考える必要があると思われる。

また、上記のグループにはBH23が含まれていない。これは独立的な位置にあったものと想定されるが、土器139の接合展開状況（図209）を見ると、縄文時代後期前葉にはBH23以東PC50、グリッド60ラインに至る広範囲な遺物の動きがあったものと推定される。復原個体も多く破片点数の多い後期中葉のBH23の構築要因にはこのような背景があったものと考えられる。　（藤井）

2　石器

（1）点数・重量・石材

野田生1遺跡の調査区では、B・C地区遺構から3259点、B・C地区包含層から2693点、A地区遺構から8点、A地区包含層から51点と総数6011点の石器が出土した。またこれに剥片14488点、礫・小礫6010点を加えた総数26509点の石器類が出土している。

・点数比

器種ごとの出土点数と石器に占める点数比を見ると、Rフレイク2106点(35%)、削器1183点(20%)、石核396点(6.6%)、石鏃345点(5.7%)、楔形石器328点(5.5%)、敲石246点(4%)、すり石213点(3.5%)、原石158点(2.6%)、石錐147点(2.4%)、台石・石皿137点(2.3%)、つまみ付きナイフ130点(2%)、石斧片106点(1.7%)、両面調整石器93点、北海道式石冠82点、半円状扁平打製石器76点、半円状扁平打製石器原材52点、掻器38点、石斧37点、鏃状石器34点、加工痕のある石器24点、北海道式石冠原材22点、石製品15点、石斧原材11点、砥石9点、有孔礫7点、石槍又はナイフ6点、石鋸5点、凹石・玉2点、石棒1点の順となる。

点数比を見ると、Rフレイク、削器といった便宜的な刃器が半数以上を占め、次いで石核や石鏃、楔形石器、敲石、すり石などの消耗度の高い石器が並ぶ。一方、北海道式石冠や半円状扁平打製石器、石斧は全体の1%以下と少ない。

隣接する山越2遺跡、山越3遺跡、山越4遺跡、野田生2遺跡は中期前半を主体とする遺跡であるが、そこでは石器の点数比で、半円状扁平打製石器は10～20%、北海道式石冠は4～8%を占め、さらに礫石器全体が43～57%を占めている。本遺跡で礫石器が占める点数比は15%で、半円状扁平打製石器・北海道式石冠も約1%と低い比率である。このような周辺の遺跡での傾向から判断すると野田生1遺跡調査区においては中期前半の石器の比率が低いことが考えられる。また、本遺跡では楔形石器が比較的高率で出土していることに特徴がある。

・重量比

器種ごとの重量と石器に占める重量比を見ると、台石・石皿882kg(59%)、すり石126kg(8%)、敲石103kg(7%)、北海道式石冠66kg(4.5%)、加工痕の有る礫51.7kg(3.5%)、原石45.9kg(3%)、石核38.5kg(2.6%)、Rフレイク37.5kg(2.5%)、削器35.7kg(2.4%)、半円状扁平打製石器31.3kg(2%)、北海道式石冠原材25.5kg(1.7%)、半円状扁平打製石器原材21.5kg(1.4%)、石斧、石斧片、石斧原材、楔形石器、つまみ付きナイフ、両面調整石器、石棒、石製品、砥石、石錐、掻器、鏃状石器、有孔礫、石鋸、石鏃、凹石、石槍、玉の順となる。

重量比では9割近くを礫石器が占めているが、石核、Rフレイク、削器が点数を反映して7.5%ある。点数同様石核が石器全体で比較的高い比率を示しているが、近隣の中期前半の野田生2・4遺跡、山越2・3・4遺跡、後期前葉の栄浜1遺跡の1～2%と比較するとその占める割合は非常に高いと評価される。同じ傾向は後期前葉のコタン温泉遺跡、浜松5遺跡、後期中葉の浜松2遺跡にもみられ、各遺跡の包含層出土石器に含まれる石核の点数比はコタン温泉遺跡8%、浜松5遺跡19%、浜松2遺跡83%を占めている。後期中葉における石核の多量出土は中期においては剥片が素材として搬入されていた状況が、石核を搬入し、遺跡内で剥片剥離を行うようになった状況を示すものと考えられる。石核と剥片は大形のものが多く、さらに同一母岩とみなされるものが多く含まれるが接合するには時間が足りなかった。

・石材

石材毎の器種点数をみると、頁岩ではRフレイク、削器、石核、石鏃、楔形石器の順、チャートで

は、Rフレイク、石核、石鏃、楔形石器の順、安山岩ではすり石、敲石、台石・石皿、北海道式石冠、半円状扁平打製石器の順、黒曜石では楔形石器、Rフレイク、石鏃、石核の順、玉髄では原石、敲石、Rフレイク、石核の順となる。一方、石材ごとの器種毎重量をみると、頁岩ではRフレイク、削器、石核、原石の順、チャートでは石核、Rフレイク、原石、削器の順、安山岩では台石・石皿、すり石、敲石、北海道式石冠、半円状扁平打製石器の順、黒曜石では石核、楔形石器、Rフレイク、つまみ付きナイフの順、玉髄では原石、敲石、石核の順となる。

石器に占める石材の点数比と重量比を見ると、黒曜石は点数で4％、重量では0.08%である。その中で楔形石器の点数が最も多い。重量は石核に次ぐものの、1点の大きさを考えると重量でも比較的高い比率を占める。チャートは点数で3％、重量では0.3%で、Rフレイクと石核に多く使用されている。玉髄は点数で1.6%、重量では0.01%で、敲石と原石が点数、重量共に高い比率を占めている。頁岩は点数で72%、重量で8％と大きな差があるが、Rフレイク、削器が共に高い比率を占める。ただ、重量では石核、原石も高い比率となっている。安山岩は点数で14%、重量では89%で、主に礫石器に用いられている。

・分布傾向

石器全体は55ラインより91ラインに分布が集中しているが、器種別の分布は、以下の5パターンに分かれる。

①：全体の傾向と一致し55～91ラインに分布が集中するもの。

②：①に類似するものの、やや散漫なもの。

③：遺構分布域である70～90ラインに分布するもの。

④：75～90ラインの北側に分布するもの。

⑤：散漫に分布するもの。

①は石鏃、削器、Rフレイク、楔形石器、石核、敲石が該当する。②は石錐、つまみ付きナイフ、箆状石器、両面調整石器、石斧片、原石が該当する。③は石斧、すり石、台石・石皿が該当する。これらは集落から持ち出されずに放棄された状況を示すと考えられる。④は半円状扁平打製石器、半円状扁平打製石器原材、北海道式石冠が該当する。

なお、40～55ラインの石器分布の希薄な地点にも分布する器種は、石鏃、掻器、削器、Rフレイク、石斧片である。これについては集落周縁の活動を反映したものとみられる。

（2）器種毎の細分と出土状況

石鏃は有茎鏃が77%を占め、その内最も多い形態が側辺が内湾するもの116点（34%）で、側辺が直線状を呈するものが63点（18%）と次ぐ。ほかに有茎で側辺が外湾するもの、有茎で側辺が直線状を呈するものの逆刺が湾曲するもの、柳葉形を呈するものが各10%を占めている。

石錐は、不定形のものが最も多く72点（49%）を占め、不明瞭なつまみを持つ棒状のものが33点（22%）と次ぐ。形態に特徴がある逆三角形状のつまみ部を持つものは10点（7％）と少なく、棒状のものが17点（11%）とやや多い。

つまみ付きナイフは、背面調整のもの50点（38%）、両面調整のもの48点（37%）が多く、つまみ部のみ調整するもの17点（13%）が次ぐ。

箆状石器は34点と少ないものの、形態的には非常に特徴がある。最も多い形態が凸形を呈するもの10点（29%）、撥形を呈するもの9点（26%）で、ほかに洋ナシ形を呈するもの7点（21%）、滴形を呈するもの5点(15%)、不定形のもの3点(9%)がある。これらの内24点が「大石平型石箆」に類似

するが、長さ3～6.5cm、幅2～4cm、厚さ0.5～1.5cm、重量3～23gと全体的に大きい。形態も「大石平型石篦」にみられるようなノッチにより柄部を作り出すものは見られない。北海道島での類例としては、上ノ国町新村4遺跡、木古内町新道4遺跡、知内町湯の里1・6遺跡、函館市上湯川町遺跡、西桔梗E1遺跡、戸井町釜谷2遺跡、浜町A遺跡、八雲町浜松2遺跡、南茅部町磨光B遺跡、豊崎N遺跡、柏村掘株1・2遺跡、豊浦町高岡1遺跡、登別市千歳5遺跡、苫小牧市柏原5遺跡、柏原18遺跡、美沢1遺跡、千歳市美々4遺跡、キウス4遺跡などで中期から後期において渡島半島から石狩低地帯にかけての地域で特徴的にみられるものである。

削器の一部には刃部腹面や背面には光沢が見られた。その比率は削器1183点中114点と約10%を占めた。細分別の点数は直線状の刃部を持つものが88点（光沢持つ削器中61%）と最も多く、外湾する刃部を持つもの44点（光沢持つ削器中31%）、内湾する刃部を持つもの6点と続く。光沢が見られない削器では直線状の刃部を持つものが41%、外湾する刃部を持つもの36%とほぼ同率であることから、光沢は直線状の刃部を持つものにより多く見られる事が分かる。なお、縄文時代中期中葉を主体とする野田生4遺跡では両面調整石器の一部を含むスクレイパー類（本稿で言うところの削器・掻器）の67%、野田生2遺跡ではスクレイパーの約17%に光沢が観察されている。野田生1遺跡の調査区での分布状況を見ると中期中葉の住居跡であるCH45で最も多く出土しており、中期に特徴的な石器の一つとして指摘できよう。

両面調整石器は八雲町黒岩3遺跡で石器素材としたものに類似するものが93点中53点（57%）含まれる。これらは木葉形ないし滴形、楕円形を呈し、明瞭な先端や刃部を持たず、やや粗い調整により整形するものである。大きさも長さでほぼ2～5cm、幅でほぼ1.5～3cm、厚さでほぼ0.5～1cm、重量でほぼ1～13gに収まる。さらに大きさは長さ3.3cm、幅2.5cm、厚さ0.7cm、重量5gを境に大型品と小型品に分かれる。調整を見ると大型品については階段状剥離が見られたり、折れ面を含む器体表裏面に直交する平坦面からの剥離を行ったりと楔形石器に見られる剥離の特徴との共通点が見出せ、幅、厚さ、重量においても類似点を見出せる。小型品については一部大型品同様の剥離がみられるものの概して押圧剥離のものが多く、長さ、重量も石鏃に近い。

台石・石皿は、扁平な大型礫の一面に平坦なすり面を持つものが82点（60%）と最も多かった。台石・石皿を含む扁平な礫は住居跡床面より多く出土しており、中でも出入口の反対側奥壁側に位置するものが多かった。住居床面の礫は加工痕が見出せないものも多数あったが、台石として機能していたものと考えられる。また、ベンガラとみられる赤色顔料が付着する小型の台石が1点あった。赤色顔料の付着は1点敲石にもみられた。ベンガラとみられる赤色顔料は6軒の住居跡の床面および覆土3において確認されているが、石器に付着する例は少なかった。また、付着状況も積極的な生産を示すものではなく、遺跡内では微粉化などの調整を僅かに行っていたものとみられる。したがって、ベンガラは粉の状態で遺跡に搬入されたものと考えられる。

礫の出土状況で特筆すべきは住居跡の炉に接した立石である。立石はAH3～6・14、MP3の5軒の住居跡から検出された。このうち板状を呈するものが3点で、これらは出入口と炉跡を結ぶ直線に直交するように立てられていた。形態を見るとAH5・6の立石は扁平な楔形を呈し、AH3の立石は扁平な楕円形を呈していた。ほかに、出入口と炉跡を結ぶ線に平行するように立てられていたものが2点あった。形態は板状であるものの特徴的で、AH5の立石はイルカの頭部、AH14の立石はクジラの頭部のシルエットを、またAH3の立石は茸状ないし鎌首を持ち上げた蛇の頭を想起させるものであった。

住居跡の炉に接して立石を設置する例は、木古内町新道4遺跡、戸井町釜谷2遺跡、南茅部町磨光

B遺跡などで検出されているが、いずれも縄文時代後期中葉～後葉に位置付けられるものである。釜谷2遺跡ではこれらを風除石としている。形態は磨光B遺跡ではやや湾曲する扁平な棒状礫、釜谷2遺跡では扁平な楕円礫を用いている。野田生1遺跡では、立石の形状は多様性に富み、出入口と炉跡を結ぶ線に平行に設置される例もあることから、風除の意図はないものと判断された。一部の特異な形状の立石の存在からすると外界と火処との境界を区切る意味があったものと想定される。なお浜松5遺跡における後期前葉の住居跡を見ると石組み炉の礫の内、出入口側の1点が炉側に倒れかかるように斜めに置かれているものがみられる。あるいはこの礫が発展して炉から切り離されて独立したものと考えられる。

礫には陽石と考えられるものがMP2住居跡床面、CP86土坑坑底から出土した。後者は土坑墓とみられる遺構からの出土で、半完形の鉢形土器に接して出土した。土坑墓に石棒が副葬される例があることから、この礫も陽石として珍重されていたものと推測される。MP2住居跡床面から出土したものは加工のなされない大型の棒状礫であった。それに隣接して台石も出土しており、台石はすり面を下に、凹んだ面が上になっていた。対になって出土したことから陽石、陰石として遺跡に搬入された可能性がある。片面にすり面が見られ、もう片面に自然の凹みを持つ台石はCH－33覆土からも出土している。

その他の礫について今回は詳細な記載ができなかったが、すり石、敲石の素材とみられる握り拳大の円礫のほか、棒状礫、扁平礫などに分類でき、長さ、幅、厚さ、重量、形態、石材を記載すれば搬入した礫の傾向や労働量などをつかめる可能性がある。配石遺構が増加する縄文時代後期の遺跡出土の礫は他の時期と比べ重要な意味を内在しているものとみられ、詳細な記載が求められよう。

石棒については、断面が円形から楕円形を呈し、両端に刻みによる彫刻を付すものの、一端は尖らせ、もう一端は亀頭状に整形するものである。後期後葉においては両端を亀頭状にする両頭石棒が多く、単頭石棒は後期末葉に共伴する傾向があるとされる（矢吹1986）。しかし、一端の区画に刻み目を用いることから後期中葉に位置付けられる。出土状況は、古い風倒木痕の傍らに「棟」を下に斜めに出土した。また、遺構や遺物の分布の境界にも当たることから、集落の境界に立てられたものか、古い風倒木へ供えたものと推測される。（福井）

3　アスファルト利用について

（1）野田生1遺跡での利用状況

野田生1遺跡においてアスファルトは比較的高率で石器に付着している。このことから推測するとかなり頻繁な利用がなされていたと考えられる。アスファルトが付着する石器の点数と器種に占める率は、石鏃57点(16.5%)、錐9点（6.1%)、つまみ付きナイフ25点(19.2%)、搔器1点(2.9%)、掻器1点(2.7%)、削器43点(3.6%)、両面調整石器5点(5.4%)、楔形石器12点(3.7%)、Rフレイク49点(2.3%)、剥片57点(0.4%)、石核1点(0.3%)、石斧2点(5.4%)、石斧片3点(2.8%)、石斧原材3点(27.3%)、台石・石皿1点(0.7%)、石製品8点(53.3%)、石棒1点、礫2点(0.04%)である。

これらの付着状況を見ると、使用実態を反映しているとみられるものに石鏃、つまみ付きナイフ、石製品が挙げられる。その他は、アスファルトの使用に際して便宜的に用いられたか、偶然に付着したとみられるものである。また石材についても、ほとんどが頁岩、チャートであり、黒曜石に付着するものは皆無であった。玉髄、安山岩については一部を除いて僅かな点数であった。以下、器種ごとの付着状況を見ていく。

石鏃では茎部から体部にかけて付着するものが34点と最も多いが、茎部にのみ付着するものも4点見られる。茎部に微量付着していたものは15点と茎部から体部にかけて付着するものに次ぐが、その状態からだけでは石鏃の装着法を推定することは困難である。茎部から体部にかけて付着していたものについては茎部が差し込める孔を持ち、かつ石鏃を挟むような突起を持つ根ばさみの矢柄に装着されていたことが推測される。また、茎部にのみ付着するものは、パイプ状の矢柄に茎部を挿入するだけの矢柄の存在も考えられる。ほかに3点には体部に脈絡なく付着していた。なお、石材別に見ると頁岩で267点中50点、チャートで26点中6点、玉髄で4点中1点に付着していた。

石錐ではつまみ部に微量付着するもの2点以外は、体部に脈絡なく付着するものであった。石材別に見ると頁岩で140点中8点、チャートで6点中1点に付着していた。

つまみ付きナイフではつまみ部の抉りに一部付着するもの、帯状に付着するものが各12点と多くみられ、ほか3点は縁辺や体部に脈絡なく付着するものであった。石材別では頁岩で119点中23点、チャートで6点中2点に見られた。

篦状石器は基部と体部に濃厚に付着するものが1点だけあった。八幡一郎（1948）はアスファルトの使用と関連していることを示唆しているらしいが、当遺跡ではそのような状況は見られなかった。掻器は刃部に濃厚に付着するものが1点だけあった。

削器では体部にのみ付着するものが30点と多い。刃部を含む縁辺にのみ付着するものは6点と少なく、このことは付着の要因が刃部を含む縁辺でアスファルトの調整を行ったのではなく、偶然に付着したか、被熱痕跡が残存しない程度に熱せられた石器の体部でアスファルトを溶かしていた可能性が考えられる。石材別では頁岩で147点中42点と多く、チャートで19点中1点に見られた。

両面調整石器も全て体部に付着するが、1点だけ縁辺にも付着していた。石材別では頁岩で82点中4点、チャートで3点中1点に付着していた。

楔形石器ではほかの器種と異なり縁辺に付着するものが7点、体部にのみ付着するものが5点ある。あるいは、固まったアスファルト塊の分割に用いたのかもしれない。石材別では頁岩で202点中11点、チャートで22点中1点に付着していた。

Rフレイクも体部にのみ付着するものが37点と多く、縁辺に付着するものは12点と少ない。石材別では頁岩1937点中47点、チャート84点中2点に付着していた。

剥片は体部に付着するものが46点と多く、縁辺に付着するものは10点あるが、これらについても偶然付着したものが多いようにみられた。

石核は頁岩製のものに1点だけ付着するものがあった。これについても偶然に付着したものとみられる。

石斧・石斧片・石斧原材とも6点については体部に脈絡なく付着するものであった。ただほかに石斧片には2点異なる付着例が確認できた。1点は刃部から剥がれた剥片の腹面に濃厚に付着するもので、接着しようとしたものであろう。もう1点では刃部に付着するもので、破損した石斧刃部をアスファルト加工に転用した可能性が考えられるものであった。

台石は凹凸の有る面にすり面を持つタイプの表面の一端に付着するもので、偶然付着したものとみられる。

石製品は付着している8点とも帯状に付着するもので、アスファルトを塗布した細紐を巻きつけていたものと想定される。類例は千歳市キウス4遺跡、札幌市手稲遺跡などで報告されている。後者においては「数十個が一か所に密集して出土」したと報告される。アスファルトの付着は見られないものの同じような大きさの小礫の集中は小樽市忍路土場遺跡においても確認されている。石材はキウス4

遺跡のものはほとんどが泥岩で僅かにチャート、砂岩が用いられ、手稲遺跡のものはチャート、忍路土場遺跡のものは安山岩とされる。野田生1遺跡においては、玉髄、泥岩、チャート、碧玉とみられるものがある。総数は12点確認されたが、特に集中する状況は認められなかった。これについては調査時に見逃しているものが多数含まれていたものと考えられる。用途として、手稲遺跡、キウス4遺跡では垂飾を、忍路土場遺跡では編み物石を想定している。しかし、アスファルトで固着する必要性から、ここに引用した用途とは違う用途があったものと考えられるが、明快な想定を思いつかない。

石棒は体部に2ヶ所付着しているが、これについては漆の可能性もある。付着物は体部中央付近とやや末端によった部分にみられ、刀に例えると「棟（むね）」に当たる部分中央には磨耗痕も認められることから「下緒（さげお）」のようなものを固定するのに膠着物を用いた可能性が考えられる。

礫は2点で付着が確認された。1点は長さが約4cmある三角柱状の亜角礫の3分の2に付着するもので、もう1点は長さ約2.5cmの円礫に付着するものであった。共に小型の礫に付着するものであるが、石製品としたもののように表面が滑らかになった小礫とは異なるものである。

この他、アスファルト塊が5点出土している。いずれも遺構に伴うものである。形状は土器片を伴うものも含め盤状を呈する4点、棒状を呈するものが1点である。大きさは最大のものが長さ約9cm、幅約7cm、厚さ約3cm、重量で約24gあるものの、ほかは長さ約5～6cm、幅約3～4cm、厚さ約2センチ、重量で9～16gのものであった。これまでに北海道から出土しているアスファルト塊は土器内に貯蔵されたもの、土器片が付着するものを含めると、芦別市野花南熊の沢遺跡、静内町御殿山墳墓群、千歳市美々4遺跡、キウス4遺跡、苫小牧市柏原5遺跡、南茅部町磨光B遺跡、豊崎N遺跡、上磯町添山遺跡、木古内町新道4遺跡で出土している。この内、キウス4遺跡、添山遺跡、新道4遺跡出土のものはほぼ野田生1遺跡と同程度の大きさ、重量を持つものであった。一方、磨光B遺跡、豊崎N遺跡出土のものは大きさで直径10cmを悠に超え、重量も700gを超える巨大な塊で、柏原5遺跡はやや小さいものである。

北海道内のアスファルトの利用状況については安孫子昭二(1982)や阿部千春(1999)により既に集成がなされている。今回以降の増加分を確認しようと集成も試みたが、報告書からアスファルト付着の状況を読み取る困難さを感じた。報告書にアスファルトの付着例が記載される場合、文章、図、表それぞれに記載されるものは稀で、文章でのみ記載するものも多い。また、実測遺物についてのみ記載されることが多いため、実数を把握することも困難である。石器の記載法についてはまだ検討課題が多いものと思われる。したがって、野田生1遺跡出土石器のアスファルト付着状況は多いと感じられるが、点数や比率などに関して比較するには詳細なデータが記載されている遺跡でしかできない。

（2）アスファルト産出地と遺跡の距離による利用状況

産地から約50km以内と比較的近い遺跡では、石器への付着率はかなり高いようである。秋田県増田町八木遺跡（後期）では、石鏃160点（22.2%）、つまみ付きナイフ34点（26.9%）、掻器10点(3.6%)、噛状石器21点(40.3%)、石錘360点(27.6%)、石刀1点、土偶3点に付着が認められ、各器種における付着率も20%以上と軒並み高い比率を示している。また県全域がほぼ産地から50km圏内である新潟県の後期・晩期の石鏃への付着率を見るとほぼ14～30%ある(田中1999)。青森県についても付着率は平均で16.5%とかなり高率である(福田2000)。青森県については蟹田や大釈迦に油田が知られることを勘案すると下北半島～八戸地域以外は50km圏内に入るので、この付着率も理解できる。

土器内に多量に貯蔵されたり、巨大な塊として保存されたりして遺跡から検出された例としては、南茅部町の2遺跡のほか秋田県田沢湖町潟前遺跡（後期前葉）、岩手県大船渡市長谷堂貝塚（中期末

～後期初頭）がある。後二者は、いずれも埋設土器に保存されていたもので、器形も深鉢形であった。重量では潟前遺跡の例は約3580g、長谷堂貝塚の例は約1162gある。これら巨大な塊が確認された遺跡はいずれも産地からやや離れており、木古内町釜谷を産地と推定すると南茅部町の２遺跡では約40km、秋田県昭和町を産地と仮定すると潟前遺跡で約50km、長谷堂貝塚で約150km離れたところに位置する。しかも共伴する石器にはほとんど付着しないということが指摘できる。

産地から50～150km離れた遺跡になると石器への付着率は急激に低下するようで、福島県では石鏃への付着率は５％以下になる（玉川1999）。ただ三陸沿岸においては骨角器への付着率は高く、そのためか石鏃への付着率も10%を超える遺跡がある。

さらに産地から200km以上離れた遠隔地では土器、石器に用いる事は少なく、もっぱら骨角器—特に漁撈具に用いる。その状況を示すのが福島県薄磯貝塚（晩期）で、銛頭２点（9.5%）、釣針10点（14.3%）、刺突具13点（14.4%）、貝輪１点に付着するだけのようである。

野田生１遺跡は、アスファルト産地と考えられる秋田県昭和町からは約220km、木古内町釜谷からは約60km離れている。したがって、産地から中距離に位置する遺跡と考えることができる。しかし付着率を見ると、産地から近距離に位置する遺跡の可能性が高い。

（３）北海道内のアスファルト産地

北海道における油田は北部の稚内から遠別にかけての地域、羽幌周辺、留萌周辺、石狩低地帯近辺の厚田周辺、札幌周辺、岩見沢から鵡川にかけての地域、新冠地域、南西部の八雲周辺、森周辺、木古内周辺に分布する。この他日本列島には秋田、山形、新潟、長野そして静岡に油田が分布している（地質調査所1957）。アスファルトは地表付近に漏れ出した原油中の揮発性成分が失われて残った不揮発性の物質であるため、油田が分布する地域で産出するものと理解される。

渡島半島では八雲町山越、森町、濁川、鷲の木、木古内町釜谷に油徴地が知られている。野田生１遺跡に最も近いのが山越の油徴地であるが、直線距離にすると約１kmである。山越の油徴地は、古くは松浦武四郎により『渡島日誌』や『東蝦夷日誌』で紹介されている。詳しいのは『東蝦夷日誌』で「息水油の湧出る所有。池田某（伊右衛門）是を見出し、近比取始め、また製して疥癬の薬として出す」とあり、安政年間にはその存在が知られていたようである。また松浦は『蝦夷山海名産図絵』においては「ユウヲイの石脳油」と記載をしている。その後、文久元年に幕府が蝦夷地の鉱山を開発するためにアメリカから招請した地質兼鉱山学師であるブレークとパンベリーによって調査がなされた。『博士ブレーキ報文摘要』には、「濃厚なる石油の滲出する処あり。其濃厚なる其色とは恰も吧嗎油（パーム油）の如し。然れども格別沢山ならず。且之を掘りて深きに至るも、一層其出高を増す如き満足する徴候なし。此地方に於いては、其油を薬材且点燈用となし、或は製墨の油煙を造れり」と述べられている。また、日本で最初の広域地質図を出版したことで知られるお雇い外国人の地質学者ライマンも調査し、『北海道山越内石油地方略測報文』に油徴地は、「重に此村落の真裏にあり。また路傍に油井あり。皆直径一百碼（ヤード）（五十間）の区域内にありて、「ユオイ」川と、山越内川の半途なり。唯四百碼許南、「ユオイ」川の岸に、小井あるを例外とす」と分布を示している。また明治５年に北海道開拓使四等出仕であった榎本武揚が試掘した「元井戸」は、「村家の裏手凡一百尺寺院の前の五十碼許の所にあり」と報告している。今も円融寺に近い国道沿いの井戸や側溝などではガスとともに油が湧いている。なお、ライマンの報文には「乾油」が「元井戸」および「路傍の小井」に凡そ1.5ｔあるとしているが、アスファルトを指しているものとみられる。

鷲の木の油徴地も、松浦武四郎の『蝦夷日誌』に「臭水」が出ることが記載される。その後、榎本

武揚の進言により森港桟橋の杭に鷲の木産石油が塗られたり、ライマンが調査を行ったりしている。現地は確認できなかったが、ライマンによると「河流に沿い、海より一英里の三分一より四分三の(直線に)距離内にあり」とされ、5か所以上でガスとともに湧出していたらしい。

一方濁川の油徴地は、寮の河原と呼ばれるいわゆる地獄谷から明治17年に発見されたもので、ガスと水に伴って石油が湧出していたという。ここも石油の湧出は確認できなかったが、濁川温泉には若干の油が浮いている。

釜谷の油徴地もライマンが調査を行っているが、それによると「元井戸の周囲十碼内にして、油は小谷の底、又は側面に於て、掘たる広さ二、三碼の竈中にあるのみ」とされる。現地をまだ確認していないが、添山遺跡の調査報告で紹介されている。

今回、北海道大学小笠原正明氏らによりアスファルトの産地分析を行ってもらったが、その結果はR値が3点(619、615、617)については安定し、豊崎N遺跡、新道4遺跡及び秋田県二ツ井及び昭和町豊川油田試料と良く一致するものであった。さらにGC－MC分析法によっても新道4遺跡と秋田県昭和町、野田生1遺跡のアスファルトのMS－クロマトグラフは一致した。新道4遺跡出土アスファルトが近隣の釜谷産と仮定すると、釜谷産と秋田産のR値やMS－クロマトグラフの違いはみられないことから、現時点ではどちらの産地かは決定できないとのことである。

以上のことから野田生1遺跡のアスファルトは山越の油徴地付近で採取された可能性が高いものと考えられる。なお、北海道島における産油地周辺には、ほかにもアスファルト付着遺物の多い遺跡が存在する。それらも近在の産油地からアスファルトを得ていた可能性があり、今後検討を要する。

(福井)

4「自然科学的手法等による分析結果」からわかること

(1)^{14}C年代測定

中期中葉の住居跡(CH－44)、中期中葉の土坑(AH－18HP－3、CP－128・149・175、MP－10)、後期中葉の住居跡(AH－1・2・6・7・10・11・12・16・17、CH－27・32・33、MP－3・5)出土の炭化材・炭化種子・炭化物について行った。結果、後期中葉の住居跡では3370～3480y.B.P、中期中葉の住居跡、土坑では4350y.B.P、4430～4460 y.B.P及び4530～4560 y.B.Pの測定値が得られた。

中期中葉のサイベ沢Ⅶ式から見晴町式土器に伴う^{14}C年代は、近隣の山崎4遺跡、山越2遺跡、山越4遺跡、野田生2遺跡、野田生4遺跡において測定されている。それらを見ると、4530～4340±40y.B.P(Beta－150574・150575・150580・150582・160079～160081・163031・163032・163035・163046～163050)の年代値が測定されている。

後期前葉のトリサキ式に伴う^{14}C年代は栄浜1遺跡において3600±40y.B.P(Beta－163071)の年代値が測定されている。また現在整理中であるもののやはりトリサキ式を伴う森町倉知川右岸遺跡においても3600～3680±40y.B.P(Beta174466・174468～174470)の年代値が測定されている。また後期中葉のエリモB式土器に伴う14C年代は美々4遺跡において3360±30y.B.P(KSU－2651)の年代値が測定されている。さらに後期後葉の堂林式土器に伴う^{14}C年代はキウス4遺跡において3310～3260±40y.B.P(Beta－113928・113930・113932・113936)の年代値が測定されている。

このように前後の時期の^{14}C年代値と比較すると、概ね野田生1遺跡の中期中葉の年代値はサイベ沢Ⅶ式～見晴町式の年代値と、後期中葉の年代値は、トリサキ式よりは新しくかつ堂林式よりは古い年代値で、エリモB式の年代値とほぼ一致することが分かる。

なお、後期中葉の住居跡から出土した土器内面付着炭化物の年代値は、3490～3960 y.B.P.と床面及び床面相当層出土炭化材の^{14}C年代値よりも古いだけでなく、かなりばらつきが見られた。これに似た現象は秋田県池内遺跡においても確認されている（今村2000）。このことについて今村氏は海産食料が煮炊きされたためにこのような値が測定されたと推定している。そうすると土器内面炭化物の年代値は炭化材・炭化種子の年代値と比較できないことになるが、逆にその差が大きければ海産食料の煮炊きがかなり頻繁に行われていたことを想定することもできる。（福井）

（2）ヒスイ産地同定

包含層出土の玉について行い、結果は糸魚川・青海産とされた。また、当センターで調査した山崎4遺跡耕作土出土で時期不明の石製品も比較試料として分析を行い、やはり糸魚川・青海産であるとされた。2点ともヒスイ特有の深緑色はほとんど見られず、白色を呈するものであった。なお、近隣では浜松5遺跡で後期前葉の配石遺構から垂飾り、浜松2遺跡で後期中葉の配石遺構に伴う土坑から16点の丸玉と1点の三角錐玉、栄浜1遺跡から中期の土坑に伴う大珠にヒスイ製品が見られる。浜松2遺跡、栄浜1遺跡出土のヒスイも糸魚川産とされる。（福井）

（3）炭化材樹種同定

後期中葉の住居跡（AH2、AH7、AH14、AH18、CH27、CH32、MP5）、中期中葉の土坑（AH18HP3、MP10）、Ⅱ層直下の根跡（O－49）出土炭化材について行った。樹種としては、段丘面及び段丘斜面に分布していたとみられるクリ、コナラ属、シナノキ属、カバノキ属、クワ属、河畔沿いの沖積地に分布していたとみられるヤナギ属、ハンノキ属、トネリコ属、クルミ属？、モミ属、そしてササ属が確認された。

特にAH7では大型の炭化材は全てクリであった。AH7の大型炭化材は主要な建築材と考えられることから、住居の建築材にはクリが多く用いられていた可能性がある。三野氏によると渡島半島東部地域の中期においては樹種同定された焼失住居のほとんどがクリを主体とするのに対し、後期・晩期においてはクリが多く見られる焼失住居のほかにカバノキ属やトネリコ属を主体とする焼失住居が確認されるようになるとされる。

また、Ⅱ層直下では炭化材の集中が各所で見られた。一部を精査したところ根が炭化したものであることが分かった。そのうち一か所の樹種同定の結果はコナラ属であった。乾燥地であっても火山灰の直下には埋没林が炭化材という形で残存している状況は、本遺跡近隣の遺跡でも確認できる。詳細に見ると炭化材が広がっているだけでなく、根の腐食による凹みも見られ、風倒木痕も含め火山灰降灰時の環境並びに植物群落を復元できるものである。（福井）

（4）炭化種子同定

後期中葉住居跡（AH－1、AH－3、AH－6、AH－7、AH－15、CH－27、MP－1、MP－5）、土坑（CH－40、CP－82、CP－86、CP－129、CP－175、AP－11、MP－10）、焼土（AF－1、AF－2）から採取した土壌試料からフローテーション法により炭化種子を選別し、種の同定を行った。

結果、クルミが最も多く検出され、種子同定を行った遺構の内CH40、MP10、CP175以外全ての遺構から検出された。中でも、CP－82は多く、ほかにAH6壁の黒色土でもやや多く検出されている。なお、AH－7については床面土壌を東西1m、南北50cm単位で区画し土壌を採取したが、その各土壌から得られたクルミの点数を見ると僅かな差で炉跡周辺に多い状況が読み取れた。ほかにクリは全

体では多くはないものの、CP175で集中して検出されている。その出土状況は、直径約70cmの規模の小さな土坑の中位に炭化物層と焼土層がみられたもので、いずれにも多量のクリの果皮、子葉（可食部分）が含まれていた。肉眼でも炭化物層はクリの果実の集合体であることが確認できたほどで、子葉には渋皮が付着しているものもあることから、果皮がついたままの状態で土坑に入れた後、土をかぶせた後に火を焚き、蒸し焼きにしようとしたものがそのまま放置されたものと考えられる。ほかにクリはMP－5の炉跡脇から単体で検出されたものとAF－2から2点検出されたものがある。これら2種以外にキハダ、ブドウ属、ブドウ科、マタタビ属、ニワトコ、ミズキ、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、ハナタデーイヌタデ、タデ属、アカザ科の種子が検出されているが、いずれも未炭化のもので、混入の可能性が強いとされる。（福井）

（5）土壌分析

基本層序、後期中葉住居跡（AH6、AH15、MP5）、中期中葉土坑（MP10）についてリン酸、腐植、カルシウムの各含量と植物珪酸体の含有状況を分析した。今回の調査では、後期中葉の竪穴住居において、覆土3とした第一次堆積土中ないし直下において漆塗櫛やベンガラ、粘土のほか、口縁の一部を欠いた完形の土器が多数確認された。また、第一次堆積土も腐植が強い黒色土であったことから、竪穴住居の廃絶後に廃屋墓として利用された可能性が考えられた。そのために、リン酸等の富化が見られるか確認することを目的に土壌理化学分析を行った。また覆土3で上屋材の集積の可能性も考えられたため植物珪酸体の含有状況についても検討を行った。

その結果、基本土層ではⅢ層下部にリン酸の富化が認められた。その結果は遺物出土層位とも整合性を持つことから、主要な生活面がⅢ層下部に存在することが追認された。また植物珪酸体からはササ類を中心とした植生の存在が考えられた。遺構では植物珪酸体についてはAH－15以外で基本土層とほぼ同じ状況が確認され、イネ科植物の集積はなかったと考えられた。リン酸についてはⅢ層を上回る含量を示す試料はなく、カルシウムについても天然賦存量の範囲内とされた。また、リン酸含量と腐植含量の関係においてもほとんどが強い相関関係を持ち、土壌腐食の影響を強く受けているとされた。ただ、AH6においては腐植含量が低い割にリン酸含量が高いことが指摘され、土壌腐植以外の要因によるリン酸の富化の可能性も考えられた。ほかにMP10については覆土の堆積状況や遺物の出土状況などから土坑墓の可能性が考えられるが、腐植とリン酸含量の相関関係からは、坑底の試料間で腐食含量は変化してもリン酸は低いまま変化しないため、植物質の腐植により坑底の黒色土が形成された可能性が考えられた。ただ、今回の報告には触れられていないが、MP10坑底のカルシウム含量は天然賦存量を超えるものではないものの今回の試料においては耕作土の次に高い含量を示していることを指摘しておく。

以上の結果を見ると、考古学的に墓と考えられる土坑だけでなく、廃屋墓の可能性が考えられた住居跡についても明瞭なリン酸の富化は見られなかった。しかし、漆塗櫛が出土したAH6については僅かにリン酸含量の高い状況が確認された。

今回、墓と考えられる土坑でリン酸の富化が見られなかったことは予想に反していた。ただ、MP10の周辺には同時期とみられる同規模の土坑が14基認められた。坑底に副葬品やベンガラの散布は見られなかったが、覆土中位から柱状の加工痕のある巨礫や礫、北海道式石冠が出土したこと、人為堆積土上面に焼土が認められた土坑があることから土坑墓の可能性が考えられた。しかも、坑底直上に黄褐色土ないし褐色土が厚く堆積し、坑底に自然堆積土が流入する間もなく埋め戻された状況であった。また、人為堆積土上面の中央が急激に凹むものも多かったことから、土坑内に有機質のものが埋

められており、その腐食により落ち込みが発生したとも考えられた。このような状況から墓と考えられる土坑であるが、リン酸が富化されなかったことには、リン酸の富化に必要な有機物が存在しなかったか、土壌自体のリンの保持能が低い可能性が考えられる。

なお、MP10の坑底に見られた黒色土については、分析により植物質に由来する腐植土とされた。土坑坑底の黒色土はAH－18HP－3においても確認されているが、こちらでは肉眼でも草本の炭化物が含まれている状況が観察され、フローテーション法によって選別し、種の同定を行ったところ、ササ属であることが判明した（炭化樹種同定報告参照）。ほかにクリ、クルミ属の炭化材も含まれていたが、焼土は認められず、自然炭化したものとみられる。以上のことからすると土坑坑底に見られる黒色土については土坑墓と考えられる場合、植物質のもので遺体を包んだり、遺体の下に敷いたりしたものが腐食し残存したものと考えられる。

また野田生1遺跡の住居跡AH15ではススキ属、イチゴツナギ亜科が局所的に濃集していた可能性が示唆された。磨光B遺跡の後期中葉の焼失住居跡では奥壁に沿ってススキとされる壁材が検出されている。AH15についてはプラントオパールの分布の濃集は壁に限られておらず、焼失住居でもないので、プラントオパールの濃集が上屋材や壁材として用いられた結果なのか、住居廃絶後の凹みに廃棄されていたものなのか判然としない。（福井）

（6）黒曜石産地同定

野田生1遺跡では、黒曜石製の石器が剥片等を含め1138点出土している。このうち、遺構の坑底や床面などから出土した、時期特定が可能なものは87点である。おおまかな時期と点数の内わけは、縄文時代中期前葉が34点、後期中葉が53点である。本報告では、縄文時代の生産活動や物流に関する考察の材料を得ることを目的に黒曜石産地分析をおこなった。

分析試料は、出土状況から縄文時代後期中葉の銚澗式期と判断されるもの13点を選択した（図Ⅳ－3－2）。試料選択は、①石質、②石器状況、③出土状況を基準とした。基準内容は以下のとおりである。

① **石質**　気泡や球顆の多寡、光沢、色、模様、透明度など肉眼観察をおこなったうえで、特徴的と捉えられるものを選択した。

② **石器生産状況**　石器の生産・移動の状況が推測できるものを選択した。黒曜石に関して、野田生1遺跡では、つまみ付きナイフや削器などの素材を生産した痕跡はみられない。よって試料ND1－3、ND1－7（大きさで5㎝前後、重量で15ｇを越えるもの）などは素材・製品形状で遺跡外から搬入された可能性が高い。また剥片は自然面を有するものを主に選択した。自然面を有する剥片は、原石もしくは原石に近い状態で遺跡内に搬入し、製作された可能性がある。

③ **出土状況**　試料の周囲に同一母岩視される剥片の出土があるなど、遺構内での石器製作・使用の可能性が高いものを選択した。

選択した試料の内容と結果は、表Ⅴ－1に示した。

分析結果は、赤井川7点（54%）、十勝三股3点（23%）、置戸所山3点（23%）である。赤井川産のものが過半を占める。また、道東地域から産出された石材も半数近くの割合で使用されている。遺跡と各産地の直線距離は、赤井川で約120km、十勝三股で約330km、置戸所山で約370kmである。上記した選択基準と判定結果の関係は以下のとおりである。

①石質に関して

・ 赤井川産は、小球顆が多く入り光沢が強いもの、球顆が少なく光沢がにぶいもの、シャープな縞が多数入るものがある。
・ 十勝三股産は、微小な球顆が入り光沢が強いもの、灰色のシャープな縞が入るものがある。
・ 所山産は、透明度が高く、光に透かすとやや薄茶色に見えるものがある。

②石器生産状況に関して

・ 遺跡外より製品の形で搬入された可能性が高いND1-3、ND1-7は十勝三股、赤井川産である。
・ 遺跡に原石形状で搬入された可能性の高いND1-1・2・10は赤井川、十勝三股産である。
・ 角礫より素材が得られたと判断されるND1-6・8・9・11・12は赤井川、所山、十勝三股産である。

③出土状況に関して

・ 遺構内で石器製作された可能性の高いND1-4・11・12は所山、十勝三股産である。

上記した内容は以下のようにまとめられる。

A) 石質は、赤井川産と十勝三股産のものでは肉眼観察上での差異は、明確には見出せない。しかし、置戸産のものは透過性が高い特徴を持つ。

B) 石器の生産・移動で推測された状況の差異は、石材産地とは明確に結びつかない。つまり、遠隔地であれば軽量化などの携帯性に優れた形状で持ち込まれ、近在であれば大形で持ち込まれるなどの単純な構造ではない。十勝三股のような遠隔地産のものが、原石形状もしくはそれに近い形状で遺跡内に搬入されることもあれば、比較的近い赤井川産のものが製品で持ち込まれることもあり、その在り方は一様ではない。ただし、原石の大きさに関する傾向は不明である。

C) 赤井川産のものは円礫、角礫の両方が利用されている。

D) 遺構内で石器製作痕跡がある試料は所山、十勝三股の遠隔地石材で、これらは楔形石器に関係している。楔形石器は使用により発生する石器（阿部1979）で、遺構（住居）内では、楔形石器に関係する生産活動が、遠隔地石材を使用しておこなわれていたと理解できる。黒曜石製の製品は、遺構、包含層を併せ266点出土しているが、この内楔形石器が101点（37%）、Rフレイクが56点（21%）、石鏃が44点（17%）を占める。黒曜石は特定の器種と強い結びつきがあり、明確な目的のもとに遺跡内に搬入されたことが考えられる。中でも楔形石器に関係する作業は主な目的と捉えられる。

また、上記3器種の石材比率の傾向は、頁岩が過半を占めるが、次いで黒曜石を多く使用することがあげられる（各石材の中で黒曜石の占める割合は、楔形石器では31%、石鏃では13%、Rフレイクでは3%）。頁岩が多く用いられる傾向は石材環境を考慮すれば理解できる。しかし、遠隔地からの移動を必要とする黒曜石が多く用いられる事実は、遺跡を形成した集団が石器製作に関し石材へのこだわりをもったことが示唆される。

E) 接合作業をおこなっていないため詳細は不明だが、黒曜石は原石、石核、素材、製品など、様々な形状で遺跡内に搬入されたと考えられる。

今回おこなった産地分析では試料数も限られていたため、全体の傾向を直接表すものか不明だが、直線距離で300ｋｍ以上離れた産地から一定量の黒曜石がもたらされていることが明らかとなった。

山越・野田生地区の遺跡で、黒曜石産地分析がおこなわれているのは、野田生4遺跡（北埋調報171）、山越2遺跡（北埋調報163）、山越4遺跡（北埋調報166）がある。遺跡の時期は縄文時代中期から後期で確認遺構は中期が多数を占めることから、試料は中期所産の可能性が高い。個別の状況は次

のとおりである。

- 山越４遺跡（分析試料10点）…赤井川産（４点）、豊泉産（４点）、赤石山産（２点）
- 山越２遺跡（分析試料12点）…赤井川産（10点）、赤石山産（２点）
- 野田生４遺跡（分析試料５点）…赤井川産（４点）、所山産（１点）

各遺跡の分析結果の傾向は、赤井川産が最も多い点で共通する。山越４遺跡では赤井川よりさらに遺跡に近い豊泉の黒曜石が赤井川産と等量みられ、比較的近い産地のものが多数を占める。各遺跡では、赤井川や豊泉のほかに少数の遠隔地産黒曜石がみられる。比較すれば、野田生１遺跡もやや近い赤井川産のものが多く入手される同傾向にある。同地区においては、時代が中期から後期に移行しても、黒曜石の多くは赤井川に依存した可能性が示唆される。また、野田生１遺跡は上記した他遺跡に比べ、遠隔地産黒曜石が多く持ち込まれた可能性を有す。これは、時代性、遺跡の性格、集団の固有したネットワークの差異などに起因することが考えられる。　（坂本）

表Ⅴ－1　遺構一覧(1)

A地区遺構一覧

	遺構名	挿図番号	位置(グリッド)	確認面の規模 長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	底面の規模 長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	最大深(cm)	平面形	性格	時期
土坑	AP001	4	L9.M9	(1.32)	1.86	(2.07)	(0.38)	0.44	(0.13)	79	(円形)	不明	縄文時代中期
	AP002	5	J9.10.K9.10	0.89	0.70	0.46	0.56	0.54	0.24	38	円形	不明	縄文時代中期
	AP003	5	K9	1.05	(0.73)	(0.62)	0.76	(0.46)	(0.31)	19	円形	不明	縄文時代中期中葉
	AP004	5	J10	1.39	1.13	1.14	1.08	0.95	0.70	28	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	AP005	5	J10	0.95	0.70	0.53	0.77	0.49	0.31	40	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	AP006	4	L9.10.M9.10	2.19	1.84	3.22	1.96	1.63	2.56	32	楕円形	不明	縄文時代中期中葉
	AP007	6	K11	1.85	1.23	1.97	1.67	1.02	1.43	61	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	AP009	4	L9	0.68	0.58	0.29	0.38	0.34	0.11	27	楕円形	不明	縄文時代中期
	AP010	4	L10	0.63	0.56	0.27	0.39	0.32	0.11	33	楕円形	不明	縄文時代中期
	AP011	6	M11.12	3.03	2.60	6.19	2.74	2.19	4.78	41	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	AP012	4	M9.N9	1.28	0.94	0.88	1.00	0.61	0.50	32	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	AP013	5	K9.10	0.49	0.47	0.19	0.39	0.28	0.08	31	楕円形	不明	縄文時代中期
	AP015	5	K10	1.57	1.38	1.89	1.43	1.22	1.32	34	円形	土壙墓	縄文時代中期
	AP016	6	M12	0.92	0.65	0.47	0.24	0.17	0.03	28	楕円形	不明	縄文時代中期
	AP017	5	K9	0.51	0.48	0.20	0.38	0.34	0.10	11	円形	不明	縄文時代中期
焼土	AF001	4	N9	0.62	0.60	0.25	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期中葉
遺物集中	AP001	8	N9	0.50	0.25	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	AP002	7	J10	1.20	1.00	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	AP003	8	I9.10	0.6	0.3	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	AP004	7	J9	0.6	0.3	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	AP005	7	J10	0.4	0.3	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	AP007	8	I10	0.5	0.25	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉

B、C地区遺構一覧

	遺構名	挿図番号	位置(グリッド)	確認面の規模 長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	底面の規模 長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	最大深(cm)	平面形	性格	時期
住居跡	AH001	20-22	O71.72.P70.71.72.Q70.71.72	8.5	7.5	49.88	7.5	6.5	44.58	50	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH002	23-24	O85.P84.85.Q85	4.48	4.14	14.71	3.94	3.88	12.54	96	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH003	25-27	H73.74.I73.74.J73	6.5	5.75	30.00	6.0	5.25	25.92	75	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH004	28-30	D74.75.E74.75.F74.75	4.78	4.66	18.05	4.42	4.36	15.55	58	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH005	31-34	E70.71.F70.71	6.22	5.60	29.63	5.69	5.19	24.14	77	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH006	35-39	N73.74.O73.74.P73.74	6.08	6.0	29.13	5.12	5.00	21.04	92	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH007	40-45	Q75.76	5.54	(2.67)	(12.14)	5.71	(2.57)	(11.80)	65	(円形)	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH008	46-49	P78.79.Q77.78.79.80	(3.67)	8.83	(24.83)	(3.70)	(8.6)	(23.41)	84	(円形)	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH009	50-52	Q81.82	(4.70)	(2.26)	(8.61)	(4.56)	(2.18)	(8.03)	73	(円形)	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH010	53-55	P82.83.Q82.83	4.60	4.08	14.91	4.12	3.80	12.75	68	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH011	56-58	O81.82.P81.82	5.44	5.00	22.87	5.08	4.0	18.30	88	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH012	59-62	N80.O79.80.81.P80	5.4	4.6	20.25	5.2	4.08	18.30	80	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH013	63-65	N78.79.O78.79	5.22	4.92	20.03	4.82	4.12	16.30	76	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH014	66-69	N76.77.O76.77	5.42	4.38	19.66	5.12	3.8	16.24	78	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH015	70-72	L76.77.M76.77	4.8	4.4	17.45	4.4	4.0	14.97	52	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH016	73-75	L80.M80.81.N80.81	5.2	4.8	19.63	4.8	4.2	16.68	88	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH017	76-78	L80.81.M80.81	4.86	4.82	18.45	4.5	4.26	16.40	92	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH018	79-81	J80.81.K80.81	4.58	4.36	16.29	4.18	3.96	12.94	88	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH019	82-84	H82.82.J82.K82	8.60	(4.40)	(27.06)	8.2	(4.20)	(25.37)	72	長楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	AH020	85	H80.81.I80.81	4.0	3.72	11.20	3.52	3.20	9.45	72	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	BH023	86-89	L69.70.M68.69.70.N69	7.5	4.0	(25.00)	7.0	3.8	(23.93)	25	(円形)	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH027	90-92	L88.87.M86.87	5.2	4.8	20.12	4.8	4.4	18.32	72	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH029	93-95	M89.90.N89.90	4.76	(4.52)	(17.12)	4.47	(4.25)	(15.70)	21	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH030	96-98	P68.69.70.Q68.69.70	(7.0)	(6.6)	(36.5)	(6.5)	(5.3)	(30.0)	33	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH032	99-102	O83.84.P84	4.8	4.0	15.30	4.4	3.6	13.72	76	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH033	103-106	Q76.77	(3.0)	(4.2)	(10.34)	(2.74)	4.04	(9.64)	13	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH039	107-109	O77.P77.78	4.47	4.03	(14.07)	(4.12)	3.73	(12.14)	27	楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH041	110	O72.73	3.2	(1.8)	(4.03)	3.0	(1.5)	(3.0)	20	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	CH044(45.46)	111-116	N77.78.O77.78	10.25	5.61	(51.68)	9.87	5.02	(46.84)	65	長楕円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	MP001	117-118	O76.77.P76.77	4.4	4.0	13.88	3.8	3.12	10.50	72	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	MP002	119-120	F73.74.G73.74	5.6	5.0	20.54	5.4	4.4	18.32	48	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	MP003	121-124	L78.79.M78.79	5.15	4.81	19.20	4.80	4.52	16.95	42	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	MP005	125-126	I77.78.J77.78	3.94	3.33	10.93	3.79	3.20	9.48	64	円形	住居跡	縄文時代後期中葉
	MP007	127	F75.76.G75.76	4.0	3.2	10.28	3.1	2.7	7.71	90	楕円形	住居跡	縄文時代後期
土坑	AH002HP02	165	P84.85	1.72	0.98	1.36	1.58	0.84	1.14	48	円形	不明	縄文時代後期中葉
	AH002HP04	165	P85	1.36	0.9	0.87	0.98	0.68	0.56	30	円形	不明	不明
	AH002HP05	165	O.P85	1.16	(0.36)	(0.84)	0.78	(0.14)	(0.43)	46	円形	不明	不明
	AH002HP08	165	P85.86	1.36	(0.84)	(1.03)	1.2	(0.7)	(0.78)	(92)	円形	不明	縄文時代中期前葉
	AH012HP13	148	O80.81	0.79	0.70	0.44	0.70	0.61	0.34	29	円形	土壙墓	縄文時代中期

表Ⅴ－２　遺構一覧(2)

	遺構名	挿図番号	位置(グリッド)	確認面の規模			底面の規模			最大深(cm)	平面形	性格	時期
				長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)				
土坑	AH013HP05	148	N79	2.18	2.1	(3.61)	2.04	1.96	(3.17)	58	円形	不明	縄文時代中期
	AH014HP05	66	O76	0.98	(0.42)	(0.33)	0.58	(0.22)	(0.18)	52	円形	不明	縄文時代中期前葉
	AH014HP06	66	O76.77	2.38	(0.94)	(2.4)	2.22	(0.8)	(1.99)	30	楕円形	不明	縄文時代中期
	AH014HP07	66	N76	1.46	(0.76)	(0.95)	1.28	(0.66)	(0.85)	60	楕円形	不明	縄文時代中期
	AH017HP06	76	L82.83	0.96	0.76	(0.6)	0.52	0.56	(0.21)	62	楕円形	不明	縄文時代中期中葉
	AH018HP03	151	J81.K81	3.44	2.46	6.42	3.14	2.2	5.13	71	隅丸長方形	住居跡？	縄文時代中期中葉
	BH026	162	N82.83	2.81	2.32	5.60	2.40	1.83	3.79	74	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CH040	161	M81.82	2.8	2.0	4.55	2.16	1.84	3.40	120	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	BH042	127	F80.G80	2.68	1.70	6.10	1.75	1.43	2.11	104	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CH045HP01	148	O78	1.83	1.40	1.92	1.30	0.85	0.98	72	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	MP004	125	L77.78.M78	2.55	2.3	4.41	2.05	1.94	2.80	72	楕円形	土壙墓	縄文時代後期中葉
	MP009	125	F72	2.39	1.86	3.54	2.28	1.36	2.03	88	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	MP010	126	F71.72.G71.72	3.21	2.49	6.81	2.33	2.01	4.35	96	円形	土壙墓	縄文時代中期
	MP011	127	F79.80	2.03	1.27	2.68	1.76	1.21	0.86	83	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP018	132	G68	1.99	1.45	3.13	1.83	1.51	1.98	81	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP019	132	H68	1.24	0.88	1.09	1.16	0.78	0.19	38	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP020	312	H68	1.66	1.23	1.99	1.20	0.77	0.87	63	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP021	129	I65.66.J65.66	2.09	1.91	4.02	2.20	2.03	3.49	66	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP022	129	J65	0.82	0.75	0.49	0.65	0.60	0.32	18	円形	不明	不明
	CP023	129	M65	1.29	1.10	1.09	1.09	0.90	0.78	43	円形	不明	縄文時代中期
	CP026	135	G70	(1.70)	1.52	(3.50?)	1.49	1.33	1.72	66	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP027	138	H71	0.69	0.61	0.33	0.37	0.37	0.11	50	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP030	150	F80.81	(1.83)	1.38	(1.4)	(1.27)	0.82	(0.71)	43	楕円形	不明	不明
	CP040	167	L91	1.48	1.23	1.44	1.23	0.98	0.95	32	円形	配石	縄文時代後期
	CP042	133	E87	1.65	1.51	2.50	1.31	0.86	1.11	71	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP043	134	E88	1.72	1.72	2.83	1.11	0.69	0.57	71	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP044	133	F67.68	1.87	1.03	1.87	1.18	0.77	0.92	49	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP045	133	F67.G67	0.44	0.43	0.29	0.25	0.18	0.08	25	円形	不明	不明
	CP046	133	G69	1.48	1.24	2.22	1.16	1.11	1.00	60	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP047	135	H70	0.67	0.65	0.53	0.58	0.51	0.23	47	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP050	137	F73	1.97	1.68	3.24	1.69	1.48	0.18	58	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP051	145	P76.Q76	1.72	1.24	1.83	1.24	0.83	0.95	22	楕円形	不明	縄文時代中期～後期
	CP060	166	K88	0.66	0.59	0.32	0.55	0.44	0.21	20	円形	埋設土器	縄文時代中期中葉
	CP061	167	L86	0.47	0.30	0.15	0.2	0.16	0.02	16	円形	埋設土器	縄文時代中期中葉
	CP062	166	M87	0.79	0.72	0.45	0.60	0.53	0.27	25	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP063	167	N91	0.81	0.65	0.47	0.56	0.4	0.18	16	円形	配石	縄文時代後期
	CP065	166	L87.88	0.94	0.93	0.69	0.59	0.50	(0.24)	24	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP066	168	N90	0.71	0.65	0.38	0.50	0.47	(0.18)	24	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP068	134	O84.85	0.97	0.83	0.64	0.77	0.59	0.34	46	円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP069	158	I82	1.36	1.04	1.13	1.32	1.04	1.09	40	円形	土壙墓	縄文時代後期中葉
	CP070	168	N90	0.8	0.72	0.45	0.48	0.45	0.15	36	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP071	168	N91	(0.75)	0.86	(0.55)	(0.64)	0.60	(0.18)	47	円形	土壙墓	縄文時代中期前葉
	CP073	150	K79.80	2.33	2.16	3.98	2.12	2.03	3.07	37	円形	土壙墓	縄文時代後期前葉
	CP075	166	L87.M87	0.66	0.52	0.23	0.23	0.23	0.03	36	円形	不明	縄文時代後期中葉
	CP076	136	O69	1.03	0.41	0.49	0.26	0.25	0.05	41	円形	土壙墓	縄文時代後期前葉
	CP077	136	O70	0.52	0.41	0.18	0.18	0.18	0.02	30	円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP078	136	F70	1.34	0.88	1.27	1.10	0.86	1.03	38	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP079	162	M82.N82	1.37	1.19	1.20	1.22	1.10	1.01	21	円形	不明	縄文時代中期中葉
	CP080	162	N82	1.81	1.57	2.20	1.43	0.89	1.03	68	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP081	146	F77	1.38	1.04	1.22	1.03	0.83	0.70	40	楕円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP082	163	P84.Q84	2.95	2.37	5.54	2.69	2.10	4.85	48	楕円形	土壙墓	縄文時代中期後葉
	CP083	147	F77.78	2.51	2.29	4.66	2.35	2.18	3.96	60	円形	土壙墓	縄文時代中期後葉
	CP084	147	F77.78	0.61	(0.30)	(0.15)	0.43	(0.24)	(0.08)	20	円形	不明	縄文時代中期
	CP086	149	J78.K78	1.97	1.76	2.76	1.52	1.51	1.05	66	楕円形	土壙墓	縄文時代後期中葉
	CP087	154	N79.80	1.27	1.25	1.31	1.14	1.12	1.07	44	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP088	153	N80	(2.04)	1.82	(3.20)	(1.88)	1.73	(2.69)	40	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP089	156	O82	0.77	0.63	0.38	0.51	0.50	0.20	39	円形	不明	縄文時代中期
	CP090	156	M82.83	1.84	1.65	2.51	1.50	1.14	1.56	80	隅丸長方形	不明	不明
	CP091	164	P84	0.98	(0.85)	(0.63)	0.86	(0.74)	(0.50)	46	円形	配石墓	縄文時代中期
	CP092	164	P84	0.68	(0.43)	(0.25)	0.47	(0.36)	(0.14)	28	円形	不明	縄文時代中期
	CP093	164	N83.84.O83.84	1.81	1.60	2.18	1.60	1.38	1.71	90	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP096	164	P83.84	0.66	0.64	0.33	0.24	0.20	0.03	40	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP098	155	H81.82	2.83	1.92	4.44	1.46	1.30	1.48	112	円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP100	149	J79	1.17	1.03	0.97	0.77	0.84	0.56	62	円形	不明	縄文時代中期
	CP101	149	J79.K79	0.43	0.43	0.18	0.39	0.28	0.11	28	円形	不明	縄文時代
	CP102	165	P86	1.48	1.17	1.32	1.37	1.00	1.13	68	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP105	144	J75	0.48	0.44	0.15	0.2	0.2	0.03	28	円形	不明	縄文時代中期
	CP106	144	I75	0.6	0.4	0.20	0.32	0.2	0.07	28	円形	不明	縄文時代中期
	CP107	138	K71	2.75	2.06	4.55	2.34	1.96	3.82	41	楕円形	土壙墓	縄文時代後期

表V－3　遺構一覧(3)

	遺構名	掲図番号	位置(グリッド)	確認面の規模			底面の規模			最大深(cm)	平面形	性格	時期
				長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)				
土坑	CP108	160	K83.L83	2.95	2.50	6.06	2.82	2.30	5.18	75	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP109	151	H79.80	1.37	(1.23)	(1.34)	0.87	(0.84)	(0.5)	60	円形	不明	不明
	CP110	144	I75	1.8	1.38	1.94	1.44	0.76	0.78	56	楕円形	不明	縄文時代
	CP111	145	O76	(0.56)	0.86	(0.35)	(0.44)	(0.68)	(0.27)	14	楕円形	不明	縄文時代中期前葉
	CP113	130	L67	0.56	0.52	0.22	0.24	0.16	0.03	48	楕円形	土壙墓？	縄文時代後期前葉
	CP114	154	M79.N79	2.08	1.73	2.81	1.57	1.12	1.51	42	円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP116	146	E77.78	(1.97)	2.17	(2.87)	1.23	1.03	1.08	88	楕円形	不明	縄文時代後期中葉
	CP118	142	O72	1.20	(0.96)	0.79	0.66	(0.64)	0.32	26	円形	不明	縄文時代中期～後期
	CP119	131	K66	0.6	0.52	0.28	0.52	0.4	0.18	56	円形	土壙墓	縄文時代中期～後期
	CP120	131	J67.K67	1.80	1.27	1.55	1.37	0.94	1.09	90	楕円形	不明	縄文時代中期～後期
	CP123	140	N73	1.08	(0.60)	(0.52)	0.72	(0.40)	(0.28)	24	楕円形	不明	縄文時代中期～後期
	CP124	140	N73.O73	(1.98)	1.91	(3.17)	(1.87)	1.61	(2.50)	39	楕円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP125	143	E76.77	(2.17)	2.12	(3.66)	(1.70)	1.88	(2.45)	43	隅丸長方形	不明	縄文時代中期
	CP126	152	Q80	1.04	(0.74)	(0.54)	(0.65)	(0.56)	(0.28)	20	円形	配石	縄文時代後期
	CP127	142	Q74	1.07	0.89	0.74	0.86	0.74	0.49	26	円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP128	142	P75.Q75	1.88	1.76	3.04	1.61	1.51	2.12	62	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP129	146	K77	(1.27)	0.71	0.26	(0.90)	0.56	0.07	13	円形	堆肥土器	縄文時代後期
	CP130	149	K79	0.66	0.59	0.42	0.50	0.39	0.30	23	円形	不明	縄文時代後期
	CP131	130	N66.O66	1.09	0.89	0.79	0.48	0.36	0.15	32	円形	堆肥土器	縄文時代中期中葉
	CP132	143	E76	1.10	0.78	0.68	0.81	0.50	0.33	35	楕円形	不明	縄文時代中期
	CP133	150	K80.L80	1.99	1.62	2.62	1.76	1.49	2.12	53	円形	土壙墓	縄文時代中期後葉
	CP134	152	Q80	(2.26)	1.95	(2.92)	1.34	0.88	0.97	70	楕円形	土壙墓	縄文時代後期中葉
	CP135	128	M64	0.49	0.38	0.15	0.38	0.29	0.08	20	円形	土壙墓	縄文時代後期前葉
	CP136	151	P80	1.04	0.90	0.69	0.67	0.64	0.37	58	円形	土壙	縄文時代中期中葉
	BP138	157	H83.I83	2.20	1.74	3.04	1.24	1.18	1.31	87	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP139	154	N79.O79	(1.99)	2.04	(3.28)	(1.50)	1.50	(1.95)	47	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP140	129	N65	2.61	2.36	4.67	2.45	2.12	4.00	20	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP141	147	P74	2.08	1.79	2.81	1.47	1.26	1.41	57	円形	土壙墓	縄文時代中期前葉
	CP142	156	N82	0.85	0.75	0.51	0.60	0.56	0.28	53	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP143	144	K75.76	1.00	0.73	0.58	0.88	0.56	0.41	33	円形	不明	不明
	CP144	143	E75.76	1.36	1.12	1.34	1.25	0.85	0.90	51	楕円形	不明	不明
	CP145	143	E76	(1.36)	1.14	(0.9)	(0.92)	0.87	(0.49)	36	楕円形	不明	不明
	CP146	163	P84	0.78	0.72	0.45	0.40	0.39	0.13	38	円形	不明	縄文時代後期
	CP147	163	P84.Q84	0.64	0.59	0.30	0.53	0.41	0.16	34	円形	不明	不明
	CP148	159	J83	1.96	1.54	2.35	1.65	1.19	1.66	61	楕円形	墓壙	縄文時代中期
	CP149	152	P78	1.68	1.45	1.85	1.55	1.31	1.42	55	円形	墓壙	縄文時代中期中葉
	CP150	166	N87	0.62	0.58	0.28	0.56	0.52	0.22	12	円形	不明	不明
	CP151	137	F73	0.60	0.50	0.26	0.34	0.32	0.09	37	円形	不明	不明（CP50より古い）
	CP152	138	H72	0.52	0.51	0.21	0.43	0.40	0.14	36	円形	不明	不明
	CP153	138	H72	0.36	0.35	0.09	0.30	0.27	0.06	21	円形	不明	不明
	CP154	138	H71.I71	0.73	0.64	0.35	0.60	0.49	0.23	27	円形	不明	不明
	CP155	138	I72	0.39	0.37	0.12	0.24	0.22	0.05	24	円形	不明	縄文時代後期前葉
	CP156	138	I70	0.55	0.50	0.19	0.37	0.36	0.10	38	円形	不明	不明
	CP157	135	G69.70.H69.70	1.75	1.16	1.74	1.43	1.03	1.27	31	円形	不明	不明
	CP158	144	K75.76	0.46	0.47	0.18	0.22	0.20	0.04	34	円形	不明	不明
	CP159	145	Q77	1.26	1.11	1.13	1.15	0.95	0.93	21	不整円形	不明	縄文時代後期
	CP160	145	Q77	1.87	1.00	(0.96)	1.50	0.86	(0.71)	23	楕円形	不明	縄文時代後期
	CP161	139	L74	1.82	1.72	2.31	1.53	1.36	1.71	54	円形	土壙墓	縄文時代後期
	CP162	139	K74	0.54	0.51	0.21	0.39	0.32	0.09	29	円形	不明	不明
	CP163	131	I67.68	2.01	1.65	2.75	1.35	1.14	1.25	33	楕円形	不明	縄文時代中期
	CP164	158	I82.83	2.92	2.43	5.36	2.72	2.31	4.57	40	楕円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP165	137	F73.G73	1.03	0.88	0.70	0.76	0.72	0.42	26	円形	不明	縄文時代後期
	CP166	143	L76	1.04	0.86	0.68	0.47	0.42	0.14	36	円形	不明	縄文時代後期
	CP167	128	M65.N65	1.6	1.2	1.53	1.4	0.9		20	楕円形	土壙墓	縄文時代中期～後期
	CP168	128	N64.65	1.3	1.1	1.13	1.0	0.84	0.66	20	楕円形	土壙墓	縄文時代中期～後期
	CP169	130	P66.67	1.37	1.16	1.28	1.26	1.01	1.01	24	円形	不明	縄文時代後期
	CP170	139	M74.N74	0.63	0.62	0.30	0.42	0.40	0.15	49	楕円形	不明	不明
	CP172	158	H82.I82	1.58	1.27	1.63	1.22	1.02	1.09	47	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP173	159	J82.83	0.60	0.50	0.26	0.33	0.22	0.03	57	円形	不明	縄文時代中期
	CP174	160	I83.J83	1.88	1.61	2.33	1.48	1.18	1.45	68	円形	土壙墓	縄文時代中期中葉
	CP175	155	H82	0.79	0.70	0.54	0.72	0.68	0.41	44	円形	不明	縄文時代中期
	CP176	128	M64	0.88	0.60	0.42	0.72	0.5	0.28	20	楕円形	土壙墓	縄文時代中期～後期
	CP178	155	G82.H82	2.27	1.89	3.93	1.82	1.75	3.03	74	楕円形	土壙墓	縄文時代中期前葉
	CP179	158	I82	0.83	0.65	0.45	0.47	0.46	0.17	53	円形	土壙墓	縄文時代中期
	CP182	161	M81.N81	1.12	1.08	0.78	0.92	0.88	0.69	10	円形	不明	縄文時代中期
	CP183	159	J82.83	3.0	2.0	4.9	2.5	1.6	3.3	20	楕円形	不明	縄文時代中期

表Ⅴ－4　遺構一覧(4)

	遺構名	挿図番号	位置(グリッド)	確認面の規模			底面の規模			最大深(cm)	平面形	性格	時期
				長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)	長軸(m)	短軸(m)	面積(㎡)				
焼土	AF001	174	F78.79	0.84	0.8	0.50	—	—	—	32	円形	焼土	縄文時代中期
	CF003	174	I91	1.0	0.8	0.80	—	—	—	12	円形	焼土	縄文時代中期
	CF004	174	J91.92	1.2	0.6	0.45	—	—	—	13	円形	焼土	縄文時代中期
	CF005	175	P77	0.5	0.48	0.08	—	—	—	4	円形	焼土	縄文時代後期
	AF006	174	I86	1.2	0.48	0.46	—	—	—	16	楕円形	焼土	縄文時代中期中葉
	CF007	176	M82	0.5	0.3	0.1	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期
	CF009	175	K85	0.4	0.4	0.12	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期～後期
	CF010	175	K85	0.4	0.4	0.12	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期～後期
	CF011	175	K85	0.4	0.4	0.12	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期～後期
	CF012	176	M73	0.7	0.45	0.22	—	—	—	10	円形	焼土	縄文時代中期～後期
	CF013	176	N75	0.5	0.35	0.12	—	—	—	11	楕円形	焼土	縄文時代中期中葉
	CF015	174	K66.67	0.8	0.52	0.33	—	—	—	16	楕円形	焼土	縄文時代中期
	CF016	174	K67	1.0	0.52	0.50	—	—	—	8	楕円形	焼土	縄文時代中期
	CF017	176	N74.75	0.7	0.6	0.29	—	—	—	14	円形	焼土	縄文時代中期中葉
	CF018	176	N80	0.35	0.24	0.05	—	—	—	8	楕円形	焼土	縄文時代中期
	CF021	177	N69	0.9	0.7	0.44	—	—	—	4	楕円形	焼土	縄文時代中期
	CF022	177	N70	0.8	0.55	0.32	—	—	—	4	円形	焼土	縄文時代中期
	CF023	175	J82	0.76	0.56	0.33	—	—	—	16	円形	焼土	縄文時代中期
	CF024	176	O72	0.40	0.30	0.09	—	—	—	8	円形	焼土	縄文時代後期
	CF025	175	L84	0.44	0.4	0.13	—	—	—	12	円形	焼土	縄文時代中期～後期
	CF028	177	J45	1.7	0.6	1.03	—	—	—	10	楕円形	焼土	縄文時代中期～後期
	CF028	175	J82.83.J82.83	0.5	0.35	0.08	—	—	—	5	楕円形	焼土	縄文時代中期
	CF029	175	J82	0.32	0.28	0.07	—	—	—	12	円形	焼土	縄文時代中期
	CF030	177	L41	0.4	0.2	0.06	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期
	CF031	177	R48	1.0	(0.7)	(0.53)	—	—	—	15	円形	焼土	縄文時代中期
	CF032	175	I82	0.56	0.48	0.21	—	—	—	8	円形	焼土	縄文時代中期
	CF033	174	J87	0.36	0.32	0.10	—	—	—	5	円形	焼土	縄文時代中期
遺物集中	PC001	178	D50.81	1.6	0.9	—	—	—	—	—	円形×2	遺物集中	縄文時代中期中葉
	PC003	179	P65	0.7	0.5	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC007	183	Q58	1.5	0.8	—	—	—	—	—	円形×2	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC008	183	Q58.59	0.9	0.7	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC032	182	Q86	0.7	0.4	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC033	182	Q87	0.6	0.5	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC034	182	I86	2.3	1.0	—	—	—	—	—	円形	墓	縄文時代中期中葉
	PC036	182	N91	1.6	0.8	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	PC037	182	J89	1.8	0.8	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC056	179	M80	3.0	3.0	—	—	—	—	—	楕円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC051	179	P61	0.7	0.4	—	—	—	—	—	楕円形	墓	縄文時代後期中葉
	PC052	179	P62.63	1.0	0.6	—	—	—	—	—	楕円形	墓	縄文時代後期中葉
	PC053	179	Q62	0.8	0.4	—	—	—	—	—	楕円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC060	181	M81.N81	2.2	1.0	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	PC085	179	M70.N70	2.0	0.7	—	—	—	—	—	楕円形	遺物集中	縄文時代後期前葉
	PC100	181	P84	1.2	0.5	—	—	—	—	—	円形×3	遺物集中	縄文時代後期中葉
	G84PC	182	G84	1.2	0.8	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期中葉
	H83PC	182	H83	0.4	0.2	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	J82PC	182	J82	3.0	2.0	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	M64PC	179	M64	4.0	0.8	—	—	—	—	—	長楕円形	墓中	縄文時代後期中葉
	M67PC	179	M67	1.5	0.8	—	—	—	—	—	不整円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	M73PC	180	M73	1.0	0.4	—	—	—	—	—	楕円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	M76PC	180	M76.N76	2.8	0.4	—	—	—	—	—	楕円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	N75PC	180	N75	0.7	0.4	—	—	—	—	—	円形	墓中	縄文時代後期中葉
	N76PC	180	N76	0.6	0.3	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期
	N81PC	181	N81	2.0	0.3	—	—	—	—	—	楕円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	N83PC	181	N83	1.8	0.8	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	O75PC	180	O75	1.0	0.6	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	P80PC	181	P80	4.2	1.1	—	—	—	—	—	長楕円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	Q73PC	180	Q73	0.2	0.2	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	Q85PC	181	Q85	1.5	0.8	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期前葉
	CHOG	183	D56.57	2.4	1.2	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代後期中葉
	CHOG.236	183	M59	0.5	0.3	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄縄文時代
	FC001	182	M87	0.3	0.3	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期～後期
	FC002	181	O87	0.3	0.2	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期～後期
	FC003	182	I91	0.4	0.2	—	—	—	—	—	円形	遺物集中	縄文時代中期～後期

表V－5　掲載土器一覧(1)

地区	挿図番号	図番号	器体名称又は遺物番号	遺構名(層位/点数)	時期	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
A地区 土器	9	1	AK001	APC001(Ⅲ層/88)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	21.1	26.3	(9.3)
		2	AK003	AP002(覆土/1),APC001(Ⅲ層/1),APC002(Ⅲ層/11),AHOG(Ⅲ層/4),GRIDA(Ⅲ層/16)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	(18.2)	22.1	9.6
	10	3	AK006	APC002(Ⅲ層/1),AHOG(Ⅲ・Ⅳ層/21),GRIDA(Ⅲ層39)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	28.6	34.4	11.0
		4	AK010	AP004(Ⅲ層,覆土1/12),APC002(Ⅲ層/19),APC004(Ⅲ層/2),AHOG(Ⅲ層/24),GRIDA(Ⅲ層/15)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	(23.1)	(31.9)	10.5
	11	5	AK004	APC007(Ⅲ層/29),AHOG(Ⅲ層/6),GRIDA(Ⅲ層/3)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	—	—	—
		6	AK007	AP001(覆土/6),AP006(覆土/1),AHOG(Ⅲ層/1),GRIDA(Ⅲ層/8)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	—	—	—
		7	AK005	APC005(Ⅲ層/35),AHOG(Ⅲ層/10),GRIDA(Ⅰ・Ⅲ層/6)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	—	18.9	8.5
		8	AK013	JK(Ⅲ層/31)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢	—	(13.1)	—
	12	9	AK002	AP002(覆土2/1),AP004(Ⅲ層/2),AHOG(Ⅲ・Ⅳ層/7),GRIDA(Ⅲ層/8)	Ⅲ群B類(縄文時代前期後葉)	深鉢	—	—	—
		10	AK008	AHOG(Ⅲ層/9),GRIDA(Ⅰ・Ⅲ層/116)	Ⅲ群B類(縄文時代前期後葉)	深鉢	—	(33.0)	12.5
		11	AK009	AHOG(Ⅲ・Ⅳ層/7),GRIDA(Ⅲ層/30)	Ⅲ群B類(縄文時代前期後葉)	深鉢	—	(23.2)	—
	185	12	BK080	AH010(Ⅲ層/1),AH011(床面/1),B2HOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	4.7	31.4	5.6
	186	13	BK077	AH007(覆土1・2/5),AH012(Ⅲ層,覆土1/28),AH016(Ⅲ層,覆土1/7)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	(20.5)	—
	187	14	BK078	AH006(床面/9),PC037(Ⅲ層/1),BHOG(Ⅲ層/5),B2HOG(Ⅲ層/8)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	7.6	(5.4)	—
		15	AH017S05	AH017(Ⅲ層,覆土1/5)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	(13.5)	—
	188	16	BK063	CH032(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	8.9	13.8	3.5
		17	BK063	CH032(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	4.9	10.6	2.8
		18	BK116	AH005(覆土1/66)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	7.0	16.2	5.0
		19	BK186	AH005(覆土1/37)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	5.9	17.0	6.2
		20	BK087	CH032(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	(8.5)	3.0
	189	21	BK009	AH014(Ⅲ層,覆土1/46)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	5.5	19.9	6.0
		22	BK012	AH014(Ⅲ層,覆土1/36),BHOG(Ⅲ層/1),GRID(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	4.8	(18.2)	—
		23	BK073	AH012(床面/50)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	6.0	17.7	3.4
	190	24	BK099	M81PC(Ⅲ層/21),BHOG(Ⅲ層/4),GRID(Ⅲ層/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	(12.4)	4.3
		25	BK110	AH007(Ⅲ層/23)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	6.2	12.6	3.5
		26	BK011	AH014(Ⅲ層,覆土2,床面/36),BHOG(Ⅲ層/13)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	8.7	(6.1)	—
		27	BK114	CH033(Ⅲ層/115)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	(11.8)	3.4
	191	28	BK106	BHOG5(Ⅲ層/15)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	8.2	19.2	4.6
		29	BK113	AH009(Ⅲ層/60)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	5.0	(9.6)	—
		30	BK046	CH030(覆土/73)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	5.8	(17.0)	—
		31	GRID503	L86(Ⅲ層/7)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	7.6	(15.0)	—
	192	32	BK186	AH010(Ⅲ層,覆土,覆土1/21),CH032(Ⅲ層,覆土1/29),BHOG(Ⅲ層/1),N83HOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	(8.6)	1.5
		33	BK156	PC051(Ⅲ層/46),BHOG(Ⅲ層/1),B3HOG(Ⅲ層/1),P61HOG(Ⅲ層/4)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	28.0	22.0	8.0
	193	34	BK184	BHOG(Ⅲ層/70),B2HOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	—	20.2	6.4
		35	BK064	BHOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	5.5	10.4	2.5
		36	BK194	AH015(床面/32)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	下部有孔土器	7.4	(14.6)	—
		37	BK066	CH027(覆土/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	下部有孔土器	8.6	15.6	4.0
		38	BK177	AH012(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	下部有孔土器	3.6	10.3	1.8
		39	AH015S01	AH015(覆土1/38)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	下部有孔土器	—	(7.6)	—
		40	AH011S02	AH011(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	金形土器	—	(7.0)	4.2
		41	BK125	BHOG(Ⅲ層/2),B2HOG(Ⅲ層/47)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	注口土器	7.0	(10.9)	—
	194	42	BK001	AH014(Ⅲ層,覆土1・2/134)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	35.2	37.7	9.6
		43	BK191	MP003(Ⅲ層,床面/97)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	29.3	30.8	9.1
	195	44	BK051	BH023(Ⅲ・Ⅳ層/160)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	43.5	(27.9)	—
		45	BK030	MP001(床面/53)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	29.7	(18.8)	—
		46	BK202	CP134(覆土1/60)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	—	(15.6)	8.0
		47	BK120	MP002(床面/121)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	—	(18.0)	7.5
	196	48	BK008	AH014(Ⅲ層,覆土1/59)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	29.6	28.0	8.3
		49	BK133	AH012(Ⅲ層/2),AH016(Ⅲ層,覆土1/84)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	25.6	27.4	7.4
	197	50	BK047	BH023(Ⅲ層,覆土,覆土1/92),GRID(Ⅲ層/10)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	21.2	(26.6)	—
		51	BK052	BH023(Ⅲ層,覆土/93)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	33.6	(36.8)	—
	198	52	BK081	CH030(覆土/200)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	38.0	40.1	9.0
		53	BK157	AH010(Ⅲ層,覆土,覆土1・2,床面/58),AH011(覆土1・2,床面/20),BHOG(Ⅲ層/1),GRID(Ⅲ層/1),O82HOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	—	(28.6)	12.2
	199	54	BK167	AH002(床面/122)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	38.6	37.2	9.8
		55	BK176	AH018(床面/59)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	28.1	26.8	8.2
		56	BK027	AH006(Ⅲ層,覆土,覆土2,床面/105)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	39.3	41.5	9.0
		57	BK003	AH014(覆土1・2/50)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	大型深鉢	25.0	26.5	—
	200	58	BK162	AH012(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	21.8	19.2	7.0
		59	BK056	AH012(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	18.6	15.8	3.2
		60	BK060	AH012(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(12.8)	8.0
		61	BK026	AH006(覆土1,床面/32)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	17.8	15.5	5.0
		62	BK024	AH006(床面/20)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	22.2	19.8	6.8
		63	BK132	AH002HP2(覆土/3),AH010(Ⅲ層/4),BHOG(Ⅲ層/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	13.4	11.8	—
		64	BK169	MP003(床面/9)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(12.6)	6.0
		65	BK190	BHOG(Ⅲ層/24)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	20.0	14.5	5.0
		66	BK193	N69HOG(Ⅲ層/1),O67(Ⅰ・Ⅲ層/28)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(16.3)	5.7
		67	B1HOG20	B1HOG(Ⅲ層/13)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	(8.2)	(14.0)	5.0
	201	68	BK057	AH012(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	12.9	8.6	4.4
		69	BK118	CP086(覆土1・10/13)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	14.4	11.4	5.0
		70	BK025	AH006(床面/67)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	22.9	20.5	6.8
		71	BK180	CHOG(Ⅲ層/57)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	20.5	(23.2)	—
		72	BK201	AH017(床面/46)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	9.7	(11.1)	4.7
		73	MP002,101	MP002(覆土2/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	(8.7)	6.6	3.7
		74	AH005,273	AH005(覆土2/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(9.9)	13.7
		75	BK185	AH012(Ⅲ層,覆土1/8),MP003(覆土/1),MP004(Ⅲ層,覆土/9)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	台付鉢	19.2	14.4	6.0

表Ⅴ－6　掲載土器一覧(2)

地区	博物番号	図番号	個体名称又は遺物番号	遺構名(層位/点数)	時期	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
B-C地区 土器	202	76	BK058	AH011(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	17.0	16.5	5.0
		77	BK069	AH016(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	16.6	15.8	6.2
		78	BK108	AH017(覆土1上部/35)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢	13.9	11.5	3.5
		79	BK020	AH014(皿層,覆土1/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	壺形土器	9.5	13.9	6.0
		80	BK205	CP069(覆土/26)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(15.1)	6.0
		81	AH010S04	AH010(皿層/12)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	14.9	(8.6)	—
		82	MP005S90	MP005(覆土3,床面/23)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	9.5	10.5	3.0
		83	BK172	AH018(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	小型深鉢	13.1	11.0	3.6
		84	BK091	M64PC(皿層/39)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	19.4	16.3	8.0
		85	BK061	AH017(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	壺形土器	—	(11.8)	3.4
		86	CH028.920	CH028(皿層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(4.0)	8.0
		87	BK189	BHOG(皿層/24)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	16.6	12.7	5.8
	203	88	BK145	AH007(覆土1・2/26),AH014(皿層,覆土1/7),MP004(皿層/2),B2HOG(堀上土/1),GRID(皿層/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	26.4	23.9	7.2
		89	BK181	CHOG(皿層/66)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	24.4	20.9	(2.5)
		90	BK059	AH012(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	小型鉢形土器	13.1	10.3	5.0
		91	BK070	AH018(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	18.4	(13.9)	5.1
		92	BK071	MP002(覆土/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	28.2	24.4	8.0
		93	BK084	AH002(床面/51)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	25.6	21.4	7.4
		94	BK005	AH014(皿層,覆土1/16)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	12.4	6.3
		95	BK149	J82PC(皿層/55)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	20.1	17.0	6.5
	204	96	BK144	AH007(覆土2・3,床面/41),AH007HP45(覆土/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	17.7	13.0	7.1
		97	BK107	AH017(覆土1上部/8)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢	14.1	11.0	5.0
		98	BK112	AH006(覆土,覆土1/57)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢	19.5	15.4	6.4
		99	BHOGSS40	BHOGS(皿層/8)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	16.8	12.7	5.0
		100	BK098	M76PC(皿層/20)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	14.8	7.7	4.9
		101	BK074	AH012(床面/66)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	壺形土器	12.4	15.4	7.0
		102	BK086	CH032(覆土1/14)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢	13.2	5.9	4.0
		103	BK160	AH009(皿層,覆土1/80)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(20.9)	—
		104	BK138	CH028(皿層,覆土/23),B1HOG(皿層/45)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	26.0	25.0	8.8
		105	BK155	MP005(覆土0・1/75)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	27.2	21.4	8.0
		106	MIZO.74	MIZO(覆土/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	10.1	5.0	3.2
	205	107	AH009S02	AH009(皿層,覆土1/12)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	11.6	8.5	4.0
		108	BK206	MP003(覆土,床面/55)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	16.0	14.0	—
		109	BK122	AH004(皿層,覆土2,床面/18)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(16.5)	6.5
		110	MP005.198	MP005(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	(9.5)	4.5
		111	AH013.471	AH013(覆土1/1)	Ⅲ群B類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(7.2)	5.3
		112	BK111	AH007(皿層,覆土1/10)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	(22.3)	9.8	(0.8)
		113	BHOGS08	BHOG(皿層/2),GRID(皿層/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	(17.4)	(8.9)	—
		114	BK148	B2HOG(皿層/10)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	16.6	10.7	4.0
		115	BK096	PC060(皿層/24),GRID(皿層/11)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	26.5	14.9	5.7
	206	116	BK135	AH009(皿層/19)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	15.2	5.6	4.8
		117	MP004.317	MP004(坑底/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	台付浅鉢	—	(7.1)	—
		118	BK121	AH003(皿層,覆土/6),AH014(覆土1/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	17.5	8.3	2.0
		119	BK168	AH018(皿層,覆土1/7),AH019(皿層/1),MP003(床面/5),GRID(皿層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢	19.5	9.5	4.0
		120	BK146	AH007(覆土2,床面/36)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	台付浅鉢	25.9	15.5	9.0
		121	BK158	CH033(皿層,覆土/38),CP051(覆土/1),GRID(皿層/4)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	24.2	10.8	5.4
		122	AH014S05	AH014(皿層,覆土1/10)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	船形浅鉢	—	4.1	—
	207	123	BK117	AH005(皿層,覆土/24)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	16.6	6.4	4.5
		124	BK075	AH010(皿層,覆土1/23)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢	14.9	5.7	3.5
		125	BK131	AH002(皿層/3),CH032(皿層,覆土1/9),BHOG(皿層/1),GRID(皿層/10)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	22.9	9.9	4.2
		126	BK150	AH012(皿層,覆土1/96),MP003(皿層,覆土/4),MP004(皿層/1),GRID(皿層/4)	Ⅳ群C類(縄文時代後期後葉)	深鉢	31.0	(31.4)	—
		127	AH014S90	AH014(皿層/4)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	7.8	4.9	2.0
		128	BK209	BHOG4(皿層/23)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	小型深鉢	(8.8)	9.4	5.6
		129	BK210	AH012(床面/21)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	小型深鉢	14.3	8.7	4.2
		130	BK130	CH032(皿層,覆土1/19)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢	13.1	9.5	4.8
		131	BK085	CH032(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	小型深鉢	14.5	12.3	5.0
	208	132	AH001S05	AH001(皿層/16)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	11.4	5.5
		133	BK134	AH017(床面/23)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	14.3	11.3	5.8
		134	AH014.455	AH014(皿層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	壺形土器	4.0	9.4	3.0
		135	BHOGSS37	BHOGS(皿層/11)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	12.8	8.3	3.8
		136	AH012S21	AH012(皿層,覆土1/5),AH016(覆土1/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	12.6	7.8	—
		137	AH012S09	AH012(皿層,覆土1/12)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	深鉢	—	5.1	3.5
		138	BK208	AH007(覆土1・2/8)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	壺形土器	—	(11.4)	4.0
	209	139	BK147	PC050(皿層/79),AH001(皿層,覆土/7),GRID(皿層/6),BH023(皿層,覆土/4),CH041(覆土/1),J66SP05(皿層/1),CH030(皿層,覆土/4),BHOG(皿層/32),BH024(皿層/1),CHOG(皿層/1),B2HOG(皿層/1),M71HOG(皿層/1)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	—	52.9	—
		140	BK097	PC085(皿層/59),GRID(皿層/13)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	27.8	(29.3)	—
		141	BK139	CH030(皿層,覆土/15),BHOG(皿層/30),GRID(皿層/15)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	19.7	26.3	9.6
		142	BK055	AH001HOR(皿層/13)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	小型深鉢	(12.4)	14.8	6.0
	210	143	BHOGS100	BHOG(皿層/2),GRID(皿層/14)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	11.8	(22.8)	—
		144	CH044.230	CH044(皿層/1)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	—	(8.9)	6.0
		145	BK082	CP076(覆土1/5)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	小型深鉢	11.5	12.8	5.2
		146	BK123	AH005(皿層,覆土/22),GRID(皿層/1)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	(9.4)	17.3	7.0
		147	BK050	BH023(皿層,覆土1/25),GRID(皿層/17)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	13.9	18.0	6.7
	211	148	BK152	CP073(覆土3/51),AH009(皿層/1),AH016(床面/1),CP082(覆土/2),L80HOG(皿層/1),P81HOG(皿層/1),P84HOG(皿層/1)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	(29.2)	(31.9)	—
		149	BK126	CH041(皿層,覆土/10),AH001(皿層/1),BH023(覆土1/1)	Ⅳ群A類(縄文時代後期前葉)	深鉢	19.4	(26.2)	—
	212	150	AH019.416	AH019(覆土/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	大型深鉢	34.0	54.9	11.4
		151	AH019.416	AH019(覆土/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	大型深鉢	32.8	62.3	15.8
		152	BK105	AH019(床面/1),BHOGS(皿層/8)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(7.1)	7.3	4.5
	213	153	BK076	AH012(皿層,覆土1,床面/113),AH010(皿層/1),CH044(覆土1/1),P80PC(皿層/28),P79HOG(堀上土/1),P80HOG(皿層/2),GRID(皿層/11)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	33.6	53.2	(12.0)
	214	154	BK142	PC034(皿層/173)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	大型深鉢	46.7	52.3	(12.6)
		155	BK092	PC036(皿層/30),CH029(皿層/41)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	28.3	37.2	9.5
		156	BK195	CH040(覆土/50)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(19.2)	21.5	8.7
		157	BK136	CH040(皿層,覆土,覆土2/91)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	23.6	28.8	8.8

表Ⅴ－７　掲載土器一覧(3)

地区	挿図番号	図番号	個体名称又は遺物番号	遺構名(層位/点数)	時期	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
B C地区 土器	215	158	BK119	CP131(覆土/72)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(19.3)	22.6	8.8
		159	BK164	BHOG(Ⅲ・Ⅳ層/48),N71HOG(Ⅲ層/2),GRID(Ⅲ層/2)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	18.8	25.8	9.2
		160	BK196	CH04X(覆土,覆土2/62)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	18.1	24.7	8.7
		161	BK161	AH008(覆土1,床/39),AH008HOR(堀上土/30),GRID(Ⅲ層/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	28.6	(28.7)	—
		162	BK154	BH026(Ⅲ層/27),CP079(覆土/30)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(19.7)	(25.2)	
		163	BK094	BHOGS(Ⅲ層/55)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	18.5	(23.5)	6.6
		164	BK044	BH023(Ⅲ層/1),CH030(Ⅲ層,覆土/38),GRID(Ⅲ層/13)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(17.5)	22.4	7.5
		165	BK041	CH039(覆土,床面/84),MP001(覆土/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	20.3	24.1	7.2
	216	166	BK093	CP149(覆土2/37)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	21.7	23.4	8.9
		167	BK175	CP073(覆土3/21)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(24.0)	(27.6)	
		168	BK212	BHOGS(Ⅲ層/27)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	19.8	8.0
		169	BK137	CP061(Ⅲ層,覆土/89)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(33.8)	
		170	BK178	BH022(Ⅲ層,覆土/45),GRID(Ⅲ層/17)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(30.0)	8.7
		171	BK170	CP060(覆土/47),B1HOG(Ⅲ層/40)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(26.9)	14.0
		172	BK203	CH029(Ⅲ層/73),CP071(覆土/31),GRID(Ⅲ層/2)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(35.0)	12.0
		173	BK153	CP088(覆土1,床面/195)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(26.0)	9.0
	217	174	BK199	AH012(Ⅲ層,覆土1/77),P80PO(Ⅲ層/19),P80HOG(Ⅲ層/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(27.3)	9.8
		175	BK035	CH044(覆土1・2,床面/54)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(16.0)	19.8	7.2
		176	BK129	CP136(覆土1・2・4/3),AH008HOR(堀上土/10),AH012(Ⅲ層/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(11.0)	10.7	
		177	BK179	O68(Ⅲ層/24)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(10.4)	13.6	4.5
		178	BK087	AH012(Ⅲ層,覆土1,堀上土/11),B2HOG(Ⅲ層/2),N81HOG(Ⅲ層,堀上土/2),O80HOG(Ⅲ層/1),O81HOG(堀上土/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(14.8)	7.0
		179	BK054	CH044(旧CH045)(覆土1/14),CH045HP1(覆土2/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	11.7	4.1
		180	BK204	BHOG(Ⅲ層/25)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(10.0)	(0.6)
		181	BK213	CH044(旧CH045)(覆土2/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(11.5)	(12.5)	5.2
		182	BHOGSS28	BHOGS(Ⅲ層/8)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	10.2	11.7	4.5
		183	BH024S04	BH024(Ⅲ層/17)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(3.5)	11.0	5.2
	218	184	BK040	CH044(覆土1・2/53)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(12.4)	(22.5)	8.2
		185	BK089	BHOGS(Ⅲ層/35)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	(17.6)	25.6	8.7
		186	BK088	BHOGS(Ⅲ層/23)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(27.1)	8.5
	219	187	BK163	CH039(Ⅲ層,覆土/103),AH014(堀上土/1),CH044(Ⅲ層,覆土1/4),MP001(覆土/1),BHOG(Ⅲ層/3),GRID(Ⅲ層/13)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(29.5)	—
		188	BK018	AH014(Ⅲ層,覆土1/54),AH014HP7(覆土1/78),N78HOG(Ⅲ層/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期中葉)	大型深鉢	22.5	34.9	9.8
		189	BK124	CP083(覆土/27),B2HOG(Ⅲ層/1),BHOG(Ⅲ層/2),F80HOG(Ⅲ層/1),K78HOG(Ⅲ層/2),GRID(Ⅲ層/3)	Ⅲ群B類(縄文時代中期中葉)	深鉢	—	(26.5)	—
		190	BK165	CP049(Ⅲ層,覆土/54)	Ⅲ群B類(縄文時代中期後葉)	深鉢	16.7	21.7	6.0
		191	BK042	CH044(旧CH045)(覆土1/17)	Ⅲ群B類(縄文時代中期後葉)	深鉢	14.5	(18.2)	
	220	192	BK173	AH013(Ⅲ層/3),AH015(Ⅲ層,覆土1/22),CP137(Ⅳ層/78),BHOG(Ⅲ層/7),L78HOG(Ⅲ層/8)	Ⅰ群A類(縄文時代早期前葉)	深鉢	—	35.0	0.0
		193	BK109	BH024(Ⅲ層/33),GRID(Ⅲ層/1)	Ⅵ群A類(続縄文時代前葉)	深鉢	—	(14.0)	—
		194	BK174	CHOG(Ⅲ層/34)	Ⅵ群A類(続縄文時代前葉)	深鉢	—	(15.0)	7.0

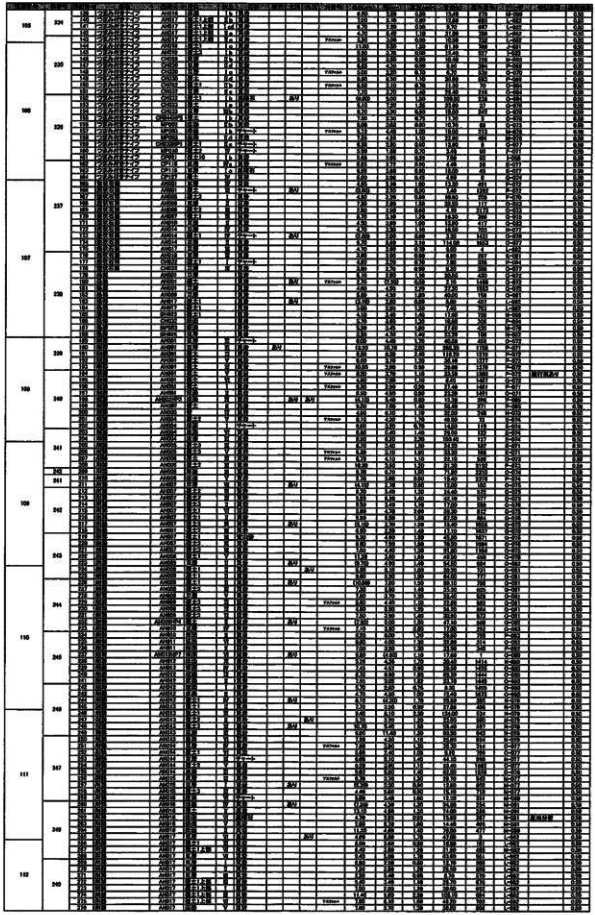
地区	図版番号	図番号	個体名称(遺物番号)	遺構名	時期	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
B C地区 土製品	221	1	AH014,1727	AH014(覆土2/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	異形台付土器ミニチュア	(6.6)	6.4	6.0
		2	BHOG,11055	BHOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	石鏡形土製品	(2.4)	2.0	0.6
		3	O71	O71(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	石鏡形土製品	1.6	1.3	4.5
		4	CH033,65	CH033(旧CH037)(Ⅲ層/2)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	耳栓	3.0	0.7	0.7
		5	M72HOG,16	M72HOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	耳栓	2.7	3.2	1.5
		6	BHOG,9329	BHOG(覆土/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	耳栓	1.8	2.0	2.6
		7	AH007,726	AH007(覆土1/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	探形土製品	(7.3)	(3.6)	(3.3)
		8	BHOG,4213	BHOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	(2.0)	4.3	(3.0)
		9	BHOG,700	BHOG(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	3.7	5.0	3.8
		10	AH016,344	AH016(覆土1/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	(2.4)	3.2	3.2
		11	BHOGS,1679	BHOGS(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	3.1	3.3	3.2
		12	AH003,233	AH003(覆土2/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	3.3	2.4	2.4
		13	AH012,361	AH012(覆土2/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	(3.5)	3.0	2.6
		14	AH016,255	AH016(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	1.4	1.7	1.6
		15	CP173,5	CP173(覆土/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	スタンプ形土製品	3.6	3.5	(2.8)
		16	AH008HOR,160	AH008HOR(堀上土/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	円盤状土製品	4.1	4.3	1.1
		17	CH044,292	CH044(旧CH045)(覆土2/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	円盤状土製品	4.1	3.8	1.1
		18	CH045HP1,63	CH045HP1(覆土2/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	円盤状土製品	3.8	3.8	1.0
		19	CH044,31	CH044(Ⅲ層/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	円盤状土製品	4.7	4.3	8.5

地区	図版番号	図番号	個体名称or遺物番号	遺構名(点数)	時期	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)
B C地区 土製品	221	20	AH011,321	AH011(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	下部有孔土器ミニチュア	3.7	6.2	1.4
		21	BHOGSS90	BHOGS(Ⅲ層/7)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	深鉢ミニチュア	—	9.2	4.0
		22	AH018,740	AH018(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢ミニチュア	6.7	4.0	2.7
		23	BHOGS,3789	BHOGS(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢ミニチュア	(6.4)	2.3	2.0
		24	AH012S07	AH012(Ⅲ層/9)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢ミニチュア	7.0	5.3	2.7
		25	BK090	CH032(床面/10)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢ミニチュア	6.4	3.8	1.8
		26	AH003,66	AH003(Ⅲ層/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢ミニチュア	5.9	2.0	2.3
		27	AH016,478	AH016(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢ミニチュア	8.5	3.2	3.0
		28	BK028	AH006(覆土2,床面/19)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	浅鉢ミニチュア	11.7	4.3	3.5
		29	AH006,2299	AH006(床面/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢ミニチュア	5.4	2.9	1.1
		30	AH002,165	AH002(覆土1/1)	Ⅳ群B類(縄文時代後期中葉)	鉢ミニチュア	4.9	3.1	1.5
		31	CP174,2	CP174(覆土/1)	Ⅲ群A類(縄文時代中期前葉)	鉢ミニチュア	—	(4.1)	4.4

表V－8　掲載石器一覧(1)

掲載番号	図番号	掲載番号	種類	遺構名	地区	石材	加熱	石器	完存	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	登録番号	出土位置	備考
102	14	1	石鏃	AH011	横土	頁	頁岩	表U		(2.82)	(2.00)	0.53	3.15	26	M-011	
120	15	2	石匙(縦式切)	AH012	横土		頁岩	表U		7.30	(1.00)	0.60	3.65	4	M-003	
		3	石匙(横型)	AH002	横土		頁岩			40.40	39.80	15.00	30000.00	9	X-010	
		4	石匙(横型)	AH011	横土		頁岩			49.00	36.30	14.80	30000.00	2	X-010	
102	14	5	剥離	AH008	横土	b	頁岩			3.90	5.23	0.40	1.30	388	I-010	AH008
		6	剥離	AH008	横土	b	頁岩			4.40	3.20	0.60	2.20	452	M-010	AH008
		7	つまみ付きナイフ	AH008	横土	頁	頁岩			7.02	5.58	1.10	14.10	1	L-011	GII区D面A
		8	つまみ付きナイフ	AH008	横土	頁	頁岩			6.70	4.55	1.15	14.10	1	N-009	GII区D面A
		9	削片	AH008	横土	頁	頁岩		表U	5.62	4.77	1.15	27.00		K-009	GII区D面A
		10	石核(礫)	AH008	横土	頁	頁岩	表U		53.30	19.70	19.00	3.40	3330.00	119	D-014
		11	石核(礫)	AH008	横土	頁	頁岩	表U		6.00	(3.10)	1.85	11.00	5	P-009	後土あとへ付着
		12	石鏃	AH007	石塚	d	流紋岩	表U		2.00	1.50	0.40	0.60	808	P-011	
		13	石鏃	AH007	石塚	d	流紋岩	表U		(1.30)	(1.80)	0.30	0.60	329	O-011	
		14	石鏃	AH007	石塚	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1223	P-010	
		15	石鏃	AH010[中]	横土	d	頁岩	表U		(2.00)	1.70	0.40	0.80	1170	P-011	
		16	石鏃	AH010	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1183	J-011	
		17	石鏃	AH010	横土	d	頁岩		Tristem	2.00	1.60	0.40	1.40	139	L-014	
		18	石鏃	AH002	横土	d	流紋岩	表U		(0.90)	1.50	0.30	0.30	79	P-010	
		19	石鏃	AH003	横土	d	流紋岩			2.30	1.70	0.50	0.90	156	P-010	
		20	石鏃	AH003	横土	d	頁岩		Tristem	3.00	2.00	0.70	2.40	223	O-011	
		21	石鏃	AH006	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1224	O-011	
		22	石鏃	AH006	横土	a	頁岩	表U	Tristem	(2.50)	(1.50)	0.40	1.30	729	O-014	
		23	石鏃	AH006	横土	a	頁岩	表U	Tristem	(2.50)	1.60	0.40	1.40	771	O-014	
		24	石鏃	AH007	横土	a	頁岩	表U	Tristem	3.10	2.00	0.60	2.20	508	O-010	
		25	石鏃	AH007	横土	d	頁岩			2.20	1.60	0.40	0.90	1024	O-010	
		26	石鏃	AH007	横土	d	頁岩			2.40	1.60	0.30	0.80	1229	O-010	
		27	石鏃	AH007[中]	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1225	P-009	
		28	石鏃	AH005	横土	d	頁岩	表U	Tristem	(2.00)	1.60	0.40	0.80	611	O-009	
		29	石鏃	AH005	横土	d	頁岩	表U	Tristem	(2.00)	1.60	0.40	0.80	1150	O-009	
		30	石鏃	AH007	横土	d	頁岩	表U		(2.00)	1.70	0.50	1.00	448	O-009	
		31	石鏃	AH007	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1227	O-011	
		32	石鏃	AH006	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1228	O-011	
		33	石鏃	AH006	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	744	O-012	
		34	石鏃	AH006	横土	d	頁岩			3.80	1.40	0.60	1.80	809	O-012	
		35	石鏃	AH006	横土	d	頁岩	表U		3.00	1.90	0.70	1.80	552	O-012	
		36	石鏃	AH010	横土	b	頁岩			3.00	2.00	0.70	3.00	170	P-013	
		37	石鏃	AH010	横土	d	流紋岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1466	O-013	
		38	石鏃	AH013	横土	a	頑岩	表U		(4.61)	1.70	0.50	2.05	47	N-019	
		39	石鏃	AH013	横土	a	頑岩	表U		3.60	1.90	0.50	1.20	84	N-019	
		40	石鏃	AH013	横土	a	頑岩	表U		(3.10)	1.50	0.50	0.60	130	N-018	
		41	石鏃	AH013	横土	a	頑岩	表U		3.00	1.50	0.30	0.70	261	N-018	
		42	石鏃	AH014	石塚	a	頑岩		Tristem	1.60	1.00	0.30	0.30	332	O-017	
		43	石鏃	AH014	石塚	a	頑岩		Tristem	1.80	1.00	0.30	0.40	1323	O-017	
		44	石鏃	AH014	石塚	a	頑岩			4.50	1.70	0.50	1.20	1458	O-017	
		45	石鏃	AH008	石塚	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	585	M-008	
		46	石鏃	AH008	石塚	d	頁岩			(1.90)	1.30	0.40	0.60	294	M-009	
103		47	石鏃	AH008	横土	d	頁岩			2.00	1.50	0.40	0.80	1226	O-011	
		48	石鏃	AH007	横土	d	チャート	表U		(1.00)	1.50	0.40	0.80	445	L-012	
		49	石鏃	AH007	横土	d	チャート	表U	Tristem	(1.70)	1.60	0.40	1.20	466	M-012	
		50	石鏃	AH007	横土	d	珪化木			3.00	1.50	0.40	0.80	878	L-012	
		51	石鏃	AH007	横土	d	珪化木			3.00	1.50	0.40	0.80	880	L-012	
		52	石鏃	AH007	横土	d	珪化木			3.00	2.00	0.60	2.00	750	L-012	
		53	石鏃	AH007	横土	d	黒曜	表U	Tristem	(1.10)	1.30	0.30	0.60	152	M-012	
		54	石鏃	AH008	横土	d	チャート			3.00	1.50	0.40	1.20	294	K-009	
		55	石鏃	AH008	横土	d	頁岩			1.90	1.50	0.30	0.50	709	K-009	
		56	石鏃	AH008	横土	d	頁岩			3.00	1.50	0.40	0.80	813	K-009	
		57	石鏃	AH008	横土	d	頁岩	表U	Tristem	(2.40)	1.60	0.50	0.70	348	M-008	
		58	石鏃	AH008	横土	d	チャート	表U	Tristem	(2.90)	1.50	0.40	0.80	1316	M-008	
		59	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1310	M-010	
		60	石鏃	AH002	横土	d	流紋岩	表U		3.00	2.00	0.70	2.00	318	M-010	
		61	石鏃	AH002	横土	a	頁岩	表U	Tristem	(2.01)	1.67	0.40	1.00	334	O-010	
		62	石鏃	AH002	横土	a	頁岩	表U	Tristem	(2.01)	1.67	0.40	1.00	1322	O-010	
		63	石鏃	AH002	横土	d	頁岩	表U	Tristem	(2.00)	1.50	0.40	0.80	1321	O-010	
		64	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1320	O-010	
		65	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1319	O-010	
		66	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1318	O-010	
		67	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1317	O-010	
		68	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1315	O-010	
		69	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1314	O-010	
		70	石鏃	AH002	横土	d	頁岩			3.00	2.00	0.70	2.00	1313	O-010	

表Ⅴ－９　掲載石器一覧(2)



表Ⅴ－10　掲載石器一覧(3)

調査区	遺構番号	遺構番号	器種	法量(cm)	重量(g)	石材	特徴	図版	写真図版	備考
	348	272	石錐	A4015	埋土	黒一	基部	第9	19.93	5.63	1.85	37.56	315	J-052		0.50
		273	石錐	A4015	埋土	黒一	基部	第9	4.50	4.27	1.42	17.61	316	J-052		0.50
		279	石錐	A4015	埋土	黒一	基部	第9	6.92	4.70	1.10	33.55	445	J-057		0.50
		280	石錐	A4015	埋土	黒一	基部	第9	16.00	5.50	2.00	84.00	782	M-048		0.50
		181	石錐	B3007	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	4.53	4.30	1.23	19.70	305	M-048	0.50
112	200	182	石錐	B3007	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	4.00	1.00	23.00	306	M-048	0.50
		283	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	18.00	3.00	1.10	39.40	1393	M-098	0.50
		284	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	4.20	3.00	0.70	12.00	756	M-098	0.50
		285	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	7.20	4.00	1.00	14.60	721	M-099	0.50
		286	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	7.20	3.00	1.00	15.70	729	M-099	0.50
		287	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	7.00	3.70	1.10	18.40	755	M-099	0.50
		288	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	7.00	4.00	1.00	18.60	756	M-099	0.50
		289	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	Yttrium	5.00	4.00	1.00	21.00	1	M-077	0.50
		140	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	4.00	1.00	21.00	34	M-077	0.50
	201	141	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	648	M-077	0.50
		142	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	23.00	70	M-078	0.50
		143	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	16.00	204	M-078	0.50
		144	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	7.00	3.00	1.00	17.00	205	M-078	0.50
		290	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	206	M-078	0.50
		291	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	207	M-078	0.50
113		292	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	208	M-078	0.50
		293	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	209	M-078	0.50
		294	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	7.00	3.00	1.00	17.00	210	M-078	0.50
		295	石錐	C4027	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	211	M-078	0.50
		296	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	4.00	3.00	1.00	17.00	212	M-078	0.50
		297	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	213	M-078	0.50
		298	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	214	M-078	0.50
		299	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	215	M-078	0.50
		300	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	216	M-078	0.50
		301	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	217	M-078	0.50
		302	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	218	M-078	0.50
		303	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	219	M-078	0.50
		304	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	220	M-078	0.50
		305	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	221	M-078	0.50
		306	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	222	M-078	0.50
		307	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	223	M-078	0.50
		308	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	224	M-078	0.50
		309	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	225	M-078	0.50
		310	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	226	M-078	0.50
		311	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	227	M-078	0.50
		312	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	228	M-078	0.50
		313	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	229	M-078	0.50
		314	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	230	M-078	0.50
		315	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	231	M-078	0.50
		316	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	232	M-078	0.50
		317	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	233	M-078	0.50
		318	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	234	M-078	0.50
		319	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	235	M-078	0.50
		320	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	236	M-078	0.50
		321	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	237	M-078	0.50
		322	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	238	M-078	0.50
		323	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	239	M-078	0.50
		324	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	240	M-078	0.50
		325	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	241	M-078	0.50
		326	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	242	M-078	0.50
		327	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	243	M-078	0.50
		328	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	244	M-078	0.50
		329	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	245	M-078	0.50
		330	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	246	M-078	0.50
		331	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	247	M-078	0.50
		332	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	248	M-078	0.50
		333	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	249	M-078	0.50
		334	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	250	M-078	0.50
		335	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	251	M-078	0.50
		336	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	252	M-078	0.50
		337	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	253	M-078	0.50
		338	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	254	M-078	0.50
		339	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	255	M-078	0.50
		340	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	256	M-078	0.50
		341	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	257	M-078	0.50
		342	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	258	M-078	0.50
		343	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	259	M-078	0.50
		344	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	260	M-078	0.50
		345	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	261	M-078	0.50
		346	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	262	M-078	0.50
		347	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	263	M-078	0.50
		348	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	264	M-078	0.50
		349	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	265	M-078	0.50
		350	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	266	M-078	0.50
		351	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	267	M-078	0.50
		352	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	268	M-078	0.50
		353	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	269	M-078	0.50
		354	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	270	M-078	0.50
		355	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	271	M-078	0.50
		356	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	272	M-078	0.50
		357	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	273	M-078	0.50
		358	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	274	M-078	0.50
		359	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	275	M-078	0.50
		360	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	276	M-078	0.50
		361	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	277	M-078	0.50
		362	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	278	M-078	0.50
		363	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	279	M-078	0.50
		364	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	280	M-078	0.50
		365	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	281	M-078	0.50
		366	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	282	M-078	0.50
		367	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	283	M-078	0.50
		368	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	284	M-078	0.50
		369	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	285	M-078	0.50
		370	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	286	M-078	0.50
		371	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	287	M-078	0.50
		372	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	288	M-078	0.50
		373	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	289	M-078	0.50
		374	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	290	M-078	0.50
		375	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	291	M-078	0.50
		376	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	292	M-078	0.50
		377	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	293	M-078	0.50
		378	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	294	M-078	0.50
		379	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	295	M-078	0.50
		380	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	296	M-078	0.50
		381	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	297	M-078	0.50
		382	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	298	M-078	0.50
		383	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	299	M-078	0.50
		384	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	300	M-078	0.50
		385	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	301	M-078	0.50
		386	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	302	M-078	0.50
		387	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	303	M-078	0.50
		388	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	304	M-078	0.50
		389	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	305	M-078	0.50
		390	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	306	M-078	0.50
		391	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	307	M-078	0.50
		392	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	308	M-078	0.50
		393	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	309	M-078	0.50
		394	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	310	M-078	0.50
		395	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	311	M-078	0.50
		396	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	312	M-078	0.50
		397	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	313	M-078	0.50
		398	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	314	M-078	0.50
		399	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	315	M-078	0.50
		400	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	316	M-078	0.50
		401	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	317	M-078	0.50
		402	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	318	M-078	0.50
		403	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	319	M-078	0.50
		404	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	320	M-078	0.50
		405	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	321	M-078	0.50
		406	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	322	M-078	0.50
		407	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	323	M-078	0.50
		408	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	324	M-078	0.50
		409	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	325	M-078	0.50
		410	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	326	M-078	0.50
		411	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	327	M-078	0.50
		412	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	328	M-078	0.50
		413	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	329	M-078	0.50
		414	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	330	M-078	0.50
		415	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	331	M-078	0.50
		416	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	332	M-078	0.50
		417	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	333	M-078	0.50
		418	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	334	M-078	0.50
		419	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	335	M-078	0.50
		420	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	336	M-078	0.50
		421	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	337	M-078	0.50
		422	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	338	M-078	0.50
		423	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	339	M-078	0.50
		424	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	340	M-078	0.50
		425	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	341	M-078	0.50
		426	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	342	M-078	0.50
		427	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	343	M-078	0.50
		428	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	344	M-078	0.50
		429	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	345	M-078	0.50
		430	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	346	M-078	0.50
		431	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	347	M-078	0.50
		432	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	348	M-078	0.50
		433	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	349	M-078	0.50
		434	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	350	M-078	0.50
		435	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	351	M-078	0.50
		436	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	352	M-078	0.50
		437	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	353	M-078	0.50
		438	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	354	M-078	0.50
		439	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	355	M-078	0.50
		440	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	356	M-078	0.50
		441	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	357	M-078	0.50
		442	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	358	M-078	0.50
		443	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	359	M-078	0.50
		444	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	360	M-078	0.50
		445	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	361	M-078	0.50
		446	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	362	M-078	0.50
		447	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	363	M-078	0.50
		448	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	364	M-078	0.50
		449	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	365	M-078	0.50
		450	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	366	M-078	0.50
		451	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9	5.00	3.00	1.00	17.00	367	M-078	0.50
		452	石錐	CH4014P11	埋土	黒一	基部	第9	第9

表Ⅴ－11　掲載石器一覧(4)

図版	遺構	登録番号	器種	石材	遺構名	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考	写真図版	特記事項	遺構図
117	354	415	剥片ピック	CH033	住居	覆土	6.60	4.60	1.60	100.00		P-084		0.50
		416	剥片ピック	CH033	住居	覆土	8.60	6.60	1.70	44.80	被熱	P-084		0.50
		417	剥片ピック	CH033	住居	覆土	9.00	6.40	1.60	61.00	被熱	P-084		0.50
	361	418	剥片ピック	CH033	住居	覆土	9.00	7.00	1.70	69.30	被熱	P-084		0.50
	361	419	剥片ピック	CH033	住居	覆土	6.40	6.00	1.70	63.00	被熱	P-084		0.50
		420	剥片ピック	CH033	住居	覆土	5.50	5.40	1.70	71.70		P-084		0.50
		421	剥片ピック	CH033	住居	ヤマト	7.60	3.40	0.90	8.60	170	G-015		0.50
		422	剥片ピック	CH033	住居	ヤマト	7.30	7.00	1.60	6.30	170	G-015		0.50
	362	423	剥片ピック	CH034	住居	覆土	5.10	6.60	1.80	31.70	530	H-077		0.50
		424	剥片ピック	CP067	住居	覆土	5.30	4.40	1.50	22.60	46	P-076		0.50
		425	剥片ピック	CP067	住居	覆土	3.30	2.80	0.60	6.10	47	P-076		0.50
		426	剥片ピック	CP067	住居	覆土	4.80	3.20	0.80	7.40	550	P-076		0.50
		427	剥片ピック	CP067	住居	覆土	10.10	5.70	1.80	122.50	83	G-073		0.50
		428	剥片ピック	CP067	住居	覆土	10.10	5.50	1.80	84.50	214	G-073		0.50
	363	429	剥片ピック	CP067	住居	覆土	3.40	3.30	0.60	17.00	218	H-079		0.50
		430	剥片ピック	CP067	住居	覆土	11.60	5.60	1.80	70.50	268	H-079		0.50
		431	剥片ピック	CP067	住居	覆土	5.10	2.60	0.70	10.80	555	J-077		0.50
		432	剥片ピック	CP067	住居	覆土	5.60	4.20	1.00	34.30	121	J-077		0.50
		433	剥片ピック	CP067	住居	覆土	5.60	4.20	1.00	34.30	121	J-077	重複分類	0.50
		434	剥片ピック	CP067	住居	覆土	3.10	2.50	0.70	6.10	551	J-077	重複分類	0.50
		435	剥片ピック	MF007	ピット	覆土	4.60	2.10	0.60	7.80	227	J-077		0.50
		436	剥片ピック	MF007	ピット	覆土	8.70	10.50	2.20	131.30	84	P-071		0.50
		437	剥片ピック	CP068	住居	覆土	5.20	5.70	1.10	19.20	84	M-081		0.50
		438	剥片ピック	CP068	住居	覆土	4.60	4.10	1.20	18.50	30	I-068		0.50
		439	剥片ピック	CP068	住居	覆土	4.40	3.20	0.70	7.60	495	I-068		0.50
		440	剥片ピック	CP068	住居	覆土	5.60	3.80	0.90	9.60	45	M-080		0.50
		441	剥片ピック	CP068	住居	覆土	7.50	4.40	1.10	49.50	25	M-080		0.50
		442	剥片ピック	CP068	住居	覆土	4.60	3.20	0.90	11.40	25	M-080		0.50
	364	443	剥片ピック	CP068	住居	覆土	4.70	4.50	1.00	9.90	75	M-080		0.50
		444	剥片ピック	CP068	住居	覆土	4.70	1.90	0.60	6.30	76	M-080		0.50
		445	剥片ピック	CP068	住居	覆土	5.10	6.60	1.02	23.00	106	M-080	接合状態で表現00、縦表01、横表02	0.50
		446	剥片ピック	CP068	住居	覆土	4.55	4.60	1.30	18.00	131	M-080	1.30。	0.50
		447	剥片ピック	CP114	住居	2b1d覆	4.70	17.00	1.10	22.00	34	M-079		0.50
	365	448	剥片ピック	CP114	住居	2b1d覆	4.60	5.00	1.40	47.00	164	O-080		0.50
		449	剥片ピック	CP071	住居	覆土	5.40	3.80	1.80	60.00	18	L-074		0.50
		450	剥片ピック	CP071	住居	覆土	5.60	5.00	1.60	64.00	18	L-074		0.50
		451	石核	AH007	住居	覆土	5.40	4.40	4.00	134.40	245	N-074		0.50
	365	452	石核	AH007	住居	覆土	4.20	3.20	1.60	17.00	245	N-074		0.50
		453	石核	AH007	住居	覆土	4.20	3.20	1.60	17.00	245	N-074		0.50
119		454	石核	AH007	ピット1	2b1d覆	4.30	7.40	3.20	230.00	636	G-075		0.50
	366	455	石核	AH007	ピット1	2b1d覆	3.60	7.00	4.00	218.00	344	G-075		0.50
		456	石核	AH013SP4	住居	覆土	4.50	3.20	3.40	61.00	4	G-073		0.50
		457	石核	AH013	住居	覆土	5.30	3.20	3.00	55.00	61	G-073		0.50
	366	458～461	石核	AH014SP2	住居	覆土	5.80	5.40	5.00	210.00	24	N-075		0.50
145		458～461	石核	AH014SP2	住居	覆土	11.50	13.00	7.30	363.50	24	N-075		0.50
		459	石核	AH013	住居	覆土	3.50	3.60	1.00	16.30	833	H-077		0.50
	367	460	石核	AH013SP4	住居	覆土	4.60	3.70	1.90	41.60	3	G-073		0.50
	461	461	石核	AH013	住居	覆土	5.80	5.40	5.00	447.00	792	L-082		0.50
		462	石核	AH013	住居	炭化粒	4.40	3.30	2.40	44.80	792	L-082		0.50
120	369	463	石核	AH013	住居	覆土	3.80	4.10	2.60	137.00	1162	M-082		0.50
		464	石核	AH013	住居	炭化粒	3.60	3.70	2.40	97.00	1162	M-082		0.50
	730	465	石核	AH013	住居	覆土	5.60	4.10	1.40	101.00	38	M-080		0.50
		466	石核	CH034SP1	住居	覆土	4.10	3.20	1.50	31.00	554	G-076		0.50
		467～472	石錘	CH034SP1	住居	覆土	9.10	7.30	1.90	207.40	146+158	G-076		0.50
145	730	467～472	石錘	CH034SP1	住居	覆土	14.50	11.30	6.70	885.00	554+518+127+421+145+158+154	G-076		0.50
	371	468	石錘	HP005	住居	覆土	3.20	6.15	1.00	112.60	76	F-073		0.50
120	372	469	石錘	CH013	住居	覆土	2.60	1.65	1.63	7.00	5	E-080		0.50
		470	石錘	CH013	住居	覆土	3.10	3.15	1.07	7.50	65	E-080		0.50
	371	471	石錘	CH013	住居	覆土	4.55	7.05	2.55	101.00	35	N-080		0.50
		472	石錘	CH013	住居	覆土	3.75	8.20	4.20	329.00	34	L-074		0.50
		473	石錘	CH013	住居	覆土	5.70	8.30	4.85	542.00	34	L-074		0.50
		474	石錘	AH004	住居	1	11.00	3.40	1.10	30.50	102	E-073		0.50
		475	石錘	AH004	住居	1	11.00	3.40	1.10	30.50	102	E-073		0.50
	372	476	石錘	AH004	住居	IV	13.00	3.00	0.70	12.80	2244	F-073		0.50
		477	石錘	AH004	住居	IV	13.00	3.00	0.70	12.80	2244	F-073		0.50
		478	石錘	AH013	住居	II～III	13.00	4.10	2.20	111.00	2244	F-073		0.50
		479	石錘	AH013	住居	II～III	13.00	4.10	2.20	300.00	2	H-083		0.50
121		480	石錘	AH013	住居	II～III	8.30	3.00	0.70	18.10	133	G-073		0.50
	373	481	石錘	AH013	住居	III	12.00	3.80	2.70	105.00	1038	H-077		0.50
		482	石錘	AH013	住居	IV	8.30	3.00	0.80	7.70	1572	H-077		0.50
		483	石錘	AH013	住居	II～III	11.30	4.20	3.00	105.00	851	J-081		0.50
		484	石錘	AH013	住居	II～III	11.30	4.20	3.00	105.00	851	J-081		0.50
	373	485	石錘	AH013	住居	II～III	9.40	4.20	1.80	70.00	885	J-081		0.50
		486	石錘	AH013	住居	II～III	9.40	4.20	1.80	149.70	85	H-077		0.50
		487	石錘	AH013	住居	III	12.00	3.80	2.70	201.50	85	H-077		0.50
		488	石錘	CP041	住居	II	11.70	3.60	2.25	182.00	11	P-074		0.50
		489	石錘	AH007	住居	覆土	6.50	3.80	2.20	71.10	1052	J-074		0.50
		490	石錘	AH007	住居	覆土	10.60	4.10	1.40	125.10	155	F-075		0.50
		491	石錘	AH007	住居	覆土	9.60	4.10	2.00	125.00	155	F-075		0.50
	374	492	石錘	AH007	住居	II	14.50	3.50	2.50	175.00	318	P-077		0.50
		493	石錘	AH007	住居	II	14.50	3.50	2.50	175.00	318	P-077		0.50
		494	石錘	CH013SP1	住居	II	9.20	4.40	1.95	124.00	318	P-077		0.50
		495	石錘	AH007	住居	II	9.20	4.40	1.95	124.00	318	P-077		0.50
122		496	石錘	AH007	住居	II	9.20	4.40	1.95	124.00	318	M-075		0.50
		497	石錘	AH007	住居	II	8.60	3.80	2.20	85.00	318	M-075		0.50
		498	石錘	AH007	住居	II	8.60	3.80	2.20	85.00	318	M-075		0.50
		499	石錘	CH013	住居	II	11.40	3.70	1.70	95.00	118	G-080		0.50
		500	石錘	CH013	住居	II	9.60	3.70	1.70	87.00	118	G-080		0.50
	375	501	石錘調整	AH014	住居2	覆土	7.80	4.00	2.20	118.00	686	G-077		0.50
		502	石錘調整	AH014	住居2	覆土	8.80	4.00	2.20	174.00	1674	G-077		0.50
		503	石錘調整	AH014	住居2	覆土	7.80	4.00	2.20	174.00	1674	G-077		0.50
		504	石錘調整	CH034SP1	住居3	覆土	11.60	4.50	3.00	304.00	554	G-076		0.50
	376	505	石錘調整	CH034SP1	住居3	覆土	11.60	4.50	3.00	304.00	554	G-076		0.50
		506	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		507	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
123		508	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		509	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		510	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		511	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
	377	512	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		513	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		514	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		515	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		516	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		517	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
124	378	518	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		519	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		520	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		521	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		522	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		523	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		524	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		525	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		526	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		527	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		528	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		529	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		530	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		531	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		532	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		533	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		534	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		535	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		536	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		537	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		538	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		539	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		540	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		541	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		542	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		543	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		544	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		545	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		546	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		547	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		548	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		549	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		550	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		551	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		552	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		553	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		554	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		555	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		556	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		557	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		558	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		559	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		560	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		561	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		562	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		563	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		564	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		565	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		566	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		567	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		568	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		569	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		570	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		571	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		572	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		573	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		574	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		575	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		576	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		577	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		578	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		579	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		580	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		581	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		582	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		583	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		584	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		585	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		586	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		587	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		588	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		589	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		590	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		591	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		592	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		593	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		594	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		595	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		596	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		597	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		598	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		599	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		600	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		601	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		602	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		603	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		604	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		605	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		606	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		607	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		608	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		609	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		610	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		611	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		612	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		613	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		614	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		615	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		616	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		617	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		618	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		619	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		620	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		621	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		622	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		623	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		624	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		625	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		626	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		627	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		628	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		629	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		630	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		631	敲石	AH007	住居2	覆土	9.50	7.20	4.70	450.00	1052	J-074		0.50
		632	敲石	AH007	住居2	覆土	9

表V－12　掲載石器一覧(5)

図版番号	遺構番号	遺構種類	登録番号	器種	石材	備考(石器上・中・下)	残存率	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	遺物番号	写真番号	実測図番号	掲載頁
129	280	土坑(縄文時代)	144	石鏃(凹基有茎)	MH010	頂土1	完形品	上端	1.6	(1.7)0.2	0.3	0.01	116	P-017		0.33
			145	石鏃(凹基有茎)	CP001	頂土2	完形品	上端	0.47	(1.7)0.2	0.32	0.01	1-1	N-090		0.33
			146	石鏃(凹基有茎)	CP020	頂土	完形品	上端	0.23	(1.2)0.2	0.22	0.00	1-2	N-090		0.33
			147	石鏃(凹基有茎)	CP021	頂土	完形品		0.30	1.2)0.1	0.25	0.00	1-3	N-090		0.33
			148	石鏃(凹基有茎)	CP009	頂土	完形品		0.47	(1.1)0.2	0.15	0.00	2	P-084		0.33
			149	石鏃(凹基有茎)	CP010	頂土	完形品	上端	0.48	(1.5)0.2	0.40	0.01	3	P-084		0.33
130	281	土坑(縄文時代)	150	石鏃(凹基有茎)	CP202	頂土	完形品	上端	0.62	(1.2)0.2	0.61	0.00	4	P-084		0.33
			151	石鏃(凹基有茎)	CP206	頂土	完形品		0.62	(1.2)0.2	0.61	0.00	5	P-084		0.33
			152	石鏃(凹基有茎)	CP211	頂土	完形品	上端	0.7	(1.4)0.2	0.7	0.01	6	P-084		0.33
			153	石鏃(凹基有茎)	CP212	頂土	完形品	上端	0.18	(1.0)0.2	0.20	0.00	8	E-085		0.33
			154	石鏃(凹基有茎)	CP213	頂土	完形品	上端	0.25	(1.2)0.2	0.20	0.00	9	E-085		0.33
131	282	土坑(縄文時代)	155	石鏃(凹基有茎)	CP214	頂土	完形品	上端	0.63	(1.3)0.2	0.7	0.01	10	E-085		0.33
			156	石鏃(凹基有茎)	CP215	頂土	完形品	上端	0.53	(1.1)0.2	0.6	0.01	11	E-085		0.33
			157	石鏃(凹基有茎)	CP201	頂土	完形品	上端	0.31	(1.2)0.2	0.20	0.00	39	I-086		0.33
			158	石鏃(凹基有茎)	CP203	頂土	完形品		0.7	1.7)0.3	0.61	0.01	41	P-084		0.33
132	283	土坑(縄文時代)	159	石鏃(凹基有茎)	CP204	頂土	完形品		0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	42	P-084		0.33
			160	石鏃(凹基有茎)	CP205	頂土	完形品		0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	43	P-084		0.33
			161	石鏃(凹基有茎)	CP207	頂土	完形品		0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	44	P-084		0.33
			162	石鏃(凹基有茎)	CP208	頂土	完形品		0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	45	P-084		0.33
			163	石鏃(凹基有茎)	CP209	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	46	P-084		0.33
			164	石鏃(凹基有茎)	CP210	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	47	P-084		0.33
133	284	土坑(縄文時代)	165	石鏃(凹基有茎)	CP216	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	48	P-084		0.33
			166	石鏃(凹基有茎)	CP217	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	49	P-084		0.33
			167	石鏃(凹基有茎)	CP218	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	50	P-084		0.33
			168	石鏃(凹基有茎)	CP219	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	51	P-084		0.33
			169	石鏃(凹基有茎)	CP220	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	52	P-084		0.33
			170	石鏃(凹基有茎)	CP221	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	53	P-084		0.33
			171	石鏃(凹基有茎)	CP222	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	54	P-084		0.33
			172	石鏃(凹基有茎)	CP223	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	55	P-084		0.33
			173	石鏃(凹基有茎)	CP224	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	56	P-084		0.33
			174	石鏃(凹基有茎)	CP225	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	57	P-084		0.33
134	285	土坑(縄文時代)	175	石鏃(凹基有茎)	CP226	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	58	P-084		0.33
			176	石鏃(凹基有茎)	CP227	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	59	P-084		0.33
			177	石鏃(凹基有茎)	CP228	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	60	P-084		0.33
			178	石鏃(凹基有茎)	CP229	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	61	P-084		0.33
			179	石鏃(凹基有茎)	CP230	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	62	P-084		0.33
			180	石鏃(凹基有茎)	CP231	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	63	P-084		0.33
			181	石鏃(凹基有茎)	CP232	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	64	P-084		0.33
			182	石鏃(凹基有茎)	CP233	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	65	P-084		0.33
			183	石鏃(凹基有茎)	CP234	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	66	P-084		0.33
135	286	土坑(縄文時代)	184	石鏃(凹基有茎)	CP235	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	67	P-084		0.33
			185	石鏃(凹基有茎)	CP236	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	68	P-084		0.33
			186	石鏃(凹基有茎)	CP237	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	69	P-084		0.33
			187	石鏃(凹基有茎)	CP238	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	70	P-084		0.33
			188	石鏃(凹基有茎)	CP239	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	71	P-084		0.33
			189	石鏃(凹基有茎)	CP240	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	72	P-084		0.33
			190	石鏃(凹基有茎)	CP241	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	73	P-084		0.33
136	287	土坑(縄文時代)	191	石鏃(凹基有茎)	CP242	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	74	P-084		0.33
			192	石鏃(凹基有茎)	CP243	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	75	P-084		0.33
			193	石鏃(凹基有茎)	CP244	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	76	P-084		0.33
			194	石鏃(凹基有茎)	CP245	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	77	P-084		0.33
			195	石鏃(凹基有茎)	CP246	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	78	P-084		0.33
			196	石鏃(凹基有茎)	CP247	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	79	P-084		0.33
			197	石鏃(凹基有茎)	CP248	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	80	P-084		0.33
			198	石鏃(凹基有茎)	CP249	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	81	P-084		0.33
			199	石鏃(凹基有茎)	CP250	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	82	P-084		0.33
			200	石鏃(凹基有茎)	CP251	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	83	P-084		0.33
			201	石鏃(凹基有茎)	CP252	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	84	P-084		0.33
			202	石鏃(凹基有茎)	CP253	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	85	P-084		0.33
			203	石鏃(凹基有茎)	CP254	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	86	P-084		0.33
			204	石鏃(凹基有茎)	CP255	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	87	P-084		0.33
			205	石鏃(凹基有茎)	CP256	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	88	P-084		0.33
			206	石鏃(凹基有茎)	CP257	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	89	P-084		0.33
			207	石鏃(凹基有茎)	CP258	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	90	P-084		0.33
			208	石鏃(凹基有茎)	CP259	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	91	P-084		0.33
			209	石鏃(凹基有茎)	CP260	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	92	P-084		0.33
			210	石鏃(凹基有茎)	CP261	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	93	P-084		0.33
			211	石鏃(凹基有茎)	CP262	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	94	P-084		0.33
			212	石鏃(凹基有茎)	CP263	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	95	P-084		0.33
			213	石鏃(凹基有茎)	CP264	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	96	P-084		0.33
			214	石鏃(凹基有茎)	CP265	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	97	P-084		0.33
			215	石鏃(凹基有茎)	CP266	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	98	P-084		0.33
			216	石鏃(凹基有茎)	CP267	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	99	P-084		0.33
			217	石鏃(凹基有茎)	CP268	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	100	P-084		0.33
			218	石鏃(凹基有茎)	CP269	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	101	P-084		0.33
			219	石鏃(凹基有茎)	CP270	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	102	P-084		0.33
			220	石鏃(凹基有茎)	CP271	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	103	P-084		0.33
			221	石鏃(凹基有茎)	CP272	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	104	P-084		0.33
			222	石鏃(凹基有茎)	CP273	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	105	P-084		0.33
			223	石鏃(凹基有茎)	CP274	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	106	P-084		0.33
			224	石鏃(凹基有茎)	CP275	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	107	P-084		0.33
			225	石鏃(凹基有茎)	CP276	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	108	P-084		0.33
			226	石鏃(凹基有茎)	CP277	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	109	P-084		0.33
			227	石鏃(凹基有茎)	CP278	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	110	P-084		0.33
			228	石鏃(凹基有茎)	CP279	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	111	P-084		0.33
			229	石鏃(凹基有茎)	CP280	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	112	P-084		0.33
			230	石鏃(凹基有茎)	CP281	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	113	P-084		0.33
			231	石鏃(凹基有茎)	CP282	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	114	P-084		0.33
			232	石鏃(凹基有茎)	CP283	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	115	P-084		0.33
			233	石鏃(凹基有茎)	CP284	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	116	P-084		0.33
			234	石鏃(凹基有茎)	CP285	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	117	P-084		0.33
			235	石鏃(凹基有茎)	CP286	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	118	P-084		0.33
			236	石鏃(凹基有茎)	CP287	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	119	P-084		0.33
			237	石鏃(凹基有茎)	CP288	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	120	P-084		0.33
			238	石鏃(凹基有茎)	CP289	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	121	P-084		0.33
			239	石鏃(凹基有茎)	CP290	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	122	P-084		0.33
			240	石鏃(凹基有茎)	CP291	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	123	P-084		0.33
			241	石鏃(凹基有茎)	CP292	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	124	P-084		0.33
			242	石鏃(凹基有茎)	CP293	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	125	P-084		0.33
			243	石鏃(凹基有茎)	CP294	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	126	P-084		0.33
			244	石鏃(凹基有茎)	CP295	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	127	P-084		0.33
			245	石鏃(凹基有茎)	CP296	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	128	P-084		0.33
			246	石鏃(凹基有茎)	CP297	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	129	P-084		0.33
			247	石鏃(凹基有茎)	CP298	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	130	P-084		0.33
			248	石鏃(凹基有茎)	CP299	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	131	P-084		0.33
			249	石鏃(凹基有茎)	CP300	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	132	P-084		0.33
			250	石鏃(凹基有茎)	CP301	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	133	P-084		0.33
			251	石鏃(凹基有茎)	CP302	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	134	P-084		0.33
			252	石鏃(凹基有茎)	CP303	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	135	P-084		0.33
			253	石鏃(凹基有茎)	CP304	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	136	P-084		0.33
			254	石鏃(凹基有茎)	CP305	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	137	P-084		0.33
			255	石鏃(凹基有茎)	CP306	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	138	P-084		0.33
			256	石鏃(凹基有茎)	CP307	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	139	P-084		0.33
			257	石鏃(凹基有茎)	CP308	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	140	P-084		0.33
			258	石鏃(凹基有茎)	CP309	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	141	P-084		0.33
			259	石鏃(凹基有茎)	CP310	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	142	P-084		0.33
			260	石鏃(凹基有茎)	CP311	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	143	P-084		0.33
			261	石鏃(凹基有茎)	CP312	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	144	P-084		0.33
			262	石鏃(凹基有茎)	CP313	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	145	P-084		0.33
			263	石鏃(凹基有茎)	CP314	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	146	P-084		0.33
			264	石鏃(凹基有茎)	CP315	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	147	P-084		0.33
			265	石鏃(凹基有茎)	CP316	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	148	P-084		0.33
			266	石鏃(凹基有茎)	CP317	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	149	P-084		0.33
			267	石鏃(凹基有茎)	CP318	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	150	P-084		0.33
			268	石鏃(凹基有茎)	CP319	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	151	P-084		0.33
			269	石鏃(凹基有茎)	CP320	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	152	P-084		0.33
			270	石鏃(凹基有茎)	CP321	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	153	P-084		0.33
			271	石鏃(凹基有茎)	CP322	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	154	P-084		0.33
			272	石鏃(凹基有茎)	CP323	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	155	P-084		0.33
			273	石鏃(凹基有茎)	CP324	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	156	P-084		0.33
			274	石鏃(凹基有茎)	CP325	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	157	P-084		0.33
			275	石鏃(凹基有茎)	CP326	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	158	P-084		0.33
			276	石鏃(凹基有茎)	CP327	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	159	P-084		0.33
			277	石鏃(凹基有茎)	CP328	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	160	P-084		0.33
			278	石鏃(凹基有茎)	CP329	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	161	P-084		0.33
			279	石鏃(凹基有茎)	CP330	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	162	P-084		0.33
			280	石鏃(凹基有茎)	CP331	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	163	P-084		0.33
			281	石鏃(凹基有茎)	CP332	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	164	P-084		0.33
			282	石鏃(凹基有茎)	CP333	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	165	P-084		0.33
			283	石鏃(凹基有茎)	CP334	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	166	P-084		0.33
			284	石鏃(凹基有茎)	CP335	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	167	P-084		0.33
			285	石鏃(凹基有茎)	CP336	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	168	P-084		0.33
			286	石鏃(凹基有茎)	CP337	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	169	P-084		0.33
			287	石鏃(凹基有茎)	CP338	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	170	P-084		0.33
			288	石鏃(凹基有茎)	CP339	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	171	P-084		0.33
			289	石鏃(凹基有茎)	CP340	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	172	P-084		0.33
			290	石鏃(凹基有茎)	CP341	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	173	P-084		0.33
			291	石鏃(凹基有茎)	CP342	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	174	P-084		0.33
			292	石鏃(凹基有茎)	CP343	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	175	P-084		0.33
			293	石鏃(凹基有茎)	CP344	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	176	P-084		0.33
			294	石鏃(凹基有茎)	CP345	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	177	P-084		0.33
			295	石鏃(凹基有茎)	CP346	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	178	P-084		0.33
			296	石鏃(凹基有茎)	CP347	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	179	P-084		0.33
			297	石鏃(凹基有茎)	CP348	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	180	P-084		0.33
			298	石鏃(凹基有茎)	CP349	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	181	P-084		0.33
			299	石鏃(凹基有茎)	CP350	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	182	P-084		0.33
			300	石鏃(凹基有茎)	CP351	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	183	P-084		0.33
			301	石鏃(凹基有茎)	CP352	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	184	P-084		0.33
			302	石鏃(凹基有茎)	CP353	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	185	P-084		0.33
			303	石鏃(凹基有茎)	CP354	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	186	P-084		0.33
			304	石鏃(凹基有茎)	CP355	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	187	P-084		0.33
			305	石鏃(凹基有茎)	CP356	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	188	P-084		0.33
			306	石鏃(凹基有茎)	CP357	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	189	P-084		0.33
			307	石鏃(凹基有茎)	CP358	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	190	P-084		0.33
			308	石鏃(凹基有茎)	CP359	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	191	P-084		0.33
			309	石鏃(凹基有茎)	CP360	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	192	P-084		0.33
			310	石鏃(凹基有茎)	CP361	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	193	P-084		0.33
			311	石鏃(凹基有茎)	CP362	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	194	P-084		0.33
			312	石鏃(凹基有茎)	CP363	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	195	P-084		0.33
			313	石鏃(凹基有茎)	CP364	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	196	P-084		0.33
			314	石鏃(凹基有茎)	CP365	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	197	P-084		0.33
			315	石鏃(凹基有茎)	CP366	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	198	P-084		0.33
			316	石鏃(凹基有茎)	CP367	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	199	P-084		0.33
			317	石鏃(凹基有茎)	CP368	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	200	P-084		0.33
			318	石鏃(凹基有茎)	CP369	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	201	P-084		0.33
			319	石鏃(凹基有茎)	CP370	頂土	完形品	上端	0.73	1.7)0.3	0.80	0.01	202	P-084		0.33

表Ⅴ－13　遺構別遺物一覧総合(1)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	礫	木製品	総計
A地区	土坑	AP001	覆土	8		2				10
		AP002	覆土	3		1				4
			覆土2	1						1
		AP002 計		4		1				5
		AP004	盲層	14				1		15
			覆土	1				2		3
			覆土1	2		1				3
		AP004 計		17		1		3		21
		AP005	盲層	2				1		3
			覆土					1		1
		AP005 計		2				2		4
		AP006	覆土	2						2
		AP007	覆土					5		5
		AP008	覆土	7		3		2		12
		AP010	覆土			2				2
		AP011	覆土	2		3		1		6
			覆土1	4		2		7		13
			覆土2	6						6
			炉底	1				1		2
		AP011 計		13		5		9		27
		AP012	覆土	1		1		2		4
		AP013	覆土			2				2
		AP014	覆土	1						1
		AP015	盲層			1		1		2
			覆土	2						2
		AP015 計		2		1		1		4
		AP017	盲層					7		7
		土坑 計		57		18		31		106
	墨土	AP001	覆土	4						4
		墨土 計		4						4
	遺物集中	AP0001	盲層	114						114
		AP0002	盲層	32						32
		AP0003	盲層	107		1		1		109
		AP0004	盲層	83						83
		AP0005	盲層	39						39
		AP0007	盲層	34						34
		遺物集中 計		409		1		1		411
B地区	住居跡	AH001	盲層	898	2	278		83		1261
			覆土	81		122		15		218
			堀上土	15		3		4		22
			床面	5		14		8		27
		AH001 計		999	2	417		110		1528
		AH001HOR	盲層	164		6		2		172
			堀上土	131	2	19		3		155
		AH001HOR 計		295	2	25		5		327
		AH001HP2	覆土	1		1				2
		AH001HP3	覆土			1		1		2
		AH002	盲層	114	2	101		11		228
			覆土	63		27		3		93
			覆土1	4	1	11				16
			堀上土	3		2				5
			床面	202		7		1		210
		AH002 計		386	3	148		15		552
		AH002HP1	覆土	21		5		1		27
		AH002HP3	覆土	12		2				14
			床面	4		2				6
		AH002HP3 計		16		4				20
		AH003	盲層	63	1	68		12		145
			覆土	27		18		1		46
			覆土1	27		31		8		66
			覆土2	54	1	192		1		248
			覆土3			1				1
			壁	2		3				5
			床面			15		4		19
		AH003 計		173	2	331		26		532
		AH003HP1	覆土	1		1				2
		AH004	盲層	39		5		4		48
			覆土1	6		4		3		13
			覆土2	58		19		5		82
			床面	6		13		5		24
		AH004 計		109		41		17		167
		AH005	盲層	109		24		6		139
			覆土	29		6		4		41
			覆土1	115		18		2		135
			覆土2	8		12		2		22
			覆土3	21		38	1	7		67
			堀上土	19		5				24
			出入口			2				2
			床面			14		1		15
		AH005 計		301		121	1	22		445
		AH005HF	覆土			1				1
		AH005HP9	覆土1	1		1				2
		AH006	盲層	512	2	199		41		754
			覆土	71		51		14		136
			覆土1	193		96	1	24		314
			覆土1上部					1		1
			覆土2	98	10	71		17		196
			覆土3			1		1		2
			堀上土	121	1	9		2		133
			床面	283	10	57		13	1	364
			貼り床			4				4
		AH006 計		1278	23	488	1	113	1	1904
		AH006HF1	覆土			1				1
		AH006HOR	堀上土	91		21		10		122
B地区	住居跡	AH007	盲層	164		69		22		255
			覆土1	482	1	167	2	82		734
			覆土2	263	12	77	1	85		438
			覆土3	49		17		13		79
			床面	66		12		8		86
			貼り床	8		8				16
		AH007 計		1032	13	350	3	210		1608
		AH007HP12	覆土			1				1
		AH007HP24	覆土			1				1
		AH007HP25	覆土			1				1
		AH007HP26	覆土	1		1				2
		AH007HP28	覆土			1				1
		AH007HP29	覆土	1		1				2
		AH007HP30	覆土	1						1
		AH007HP32	覆土	3		1				4
		AH007HP35	覆土			1				1
		AH007HP36	覆土			1				1
		AH007HP37	覆土			2				2
		AH007HP38	覆土			2				2
		AH007HP39	覆土			1				1
		AH007HP41	覆土			1				1
		AH007HP46	覆土	1		1				2
		AH007HP47	覆土	13						13
		AH007HP48	覆土	3						3
		AH008	盲層	263	1	53		14		331
			覆土上部	17		1				18
			覆土	78		30		1		109
			覆土1	528	1	84		28		641
			覆土2	133		43		16		192
			床面	36		7		2		45
			貼り床	8		1		2		11
		AH008 計		1063	2	219		63		1347
		AH008HOR	覆土上	356	1	67		57		481
		AH008HP1	貼り床			1				1
		AH008HP30	覆土	2						2
		AH008HP31	覆土	3		2				5
		AH009	盲層	1						1
			盲層	525		127		39		691
			覆土	21	1	4		2		28
			覆土1	117		46		17		180
			覆土3	17		20		3		40
			床面	4		7		1		12
		AH009 計		685	1	204		62		952
		AH009HP4	覆土							1
		AH010	盲層	659	1	191		18		869
			覆土	23		12		5		40
			覆土1	49		20		2		71
			覆土2	60		12		3		75
			覆土3	7						7
			堀上土	12		3		1		16
			柱穴			1				1
			床面	15		21		3		40
		AH010 計		825	1	260		32		1119
		AH010HF1	覆土	3		1				4
		AH011	盲層	183		34		6		223
			覆土	1						1
			覆土1	60		16		2		78
			覆土2	44		24		3		71
			堀上土	35		12				47
			床面	28	1	25		10		64
		AH011 計		351	1	111		21		484
		AH011HF1	覆土	3		2				5
		AH011HP2	覆土2	1						1
		AH012	盲層	838	9	178		42		1067
			覆土1	402		94		23		519
			覆土2	29	1	19		8		57
			覆土3	1		2				3
			堀上土	37		15		4		56
			床面	185	4	54		8		231
		AH012 計		1472	14	362		85		1933
		AH012HP14	覆土					29		29
		AH012HP7	床面			1				1
		AH012HP8	床面					4		4
		AH013	盲層	82		30		8		120
			覆土	56	1	11		5		73
			覆土1	229	1	79		25		334
			覆土2	45		20		5		70
			堀上土	10		1				11
			床面	106		19		14		139
		AH013 計		528	2	160		57		747
		AH013HOR	堀上土	1						1
		AH013HP2	覆土	1		2				3
		AH013HP3	覆土	1						1
		AH013HP4	覆土	3		3				6
		AH013RD	覆土	3						3
		AH014	盲層	1287	3	378	1	72		1741
			覆土1	440	1	94	1	32		568
			覆土2	102	1	29		5		137
			堀上土	37		1		1		39
			床面	38		10		4		49
		AH014 計		1901	5	512	2	114		2534
		AH014HOR	堀上土	112		34		6		152
		AH014HP6	覆土	2		1				3

表Ⅴ－14　遺構別遺物一覧総合(2)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	鞭	木製品	総計
B地区	住居跡	AH014HP6	覆土	21		1				22
			覆土1	19		3				22
			覆土2	2		1				3
		AH014HP6 計		41		5				46
		AH014HP7	覆層	7				1		8
			覆土1	108		1				109
			覆土2	4				1		5
		AH014HP7 計		119		81		2		212
		AH015	覆層	477	4	143		32		656
			覆土1	95		12		5		112
			覆土2	16		3				21
			覆土3	4		7		2		13
			覆土上	1						1
			床面	48		12		3		63
		AH015 計		643	4	177		42		866
		AH016HP1	覆土	1						1
		AH016	覆層	118		35		8		161
			覆土	2		1				3
			覆土1	264	2	45		22		333
			覆土2	1		3				4
			覆土3			2				2
			覆土上	51	2	53		13		119
		AH016 計		438	4	149		43		632
		AH017	覆層	252	1	158		13		424
			覆土1	144		105		20		269
			覆土1上層	284		170	1	12		477
			覆土2	5		27		2		34
			覆土上	2		4		2		8
			床面	71		11		3		85
		AH017 計		758	1	475	1	52		1287
		AH017HP3	覆土	3						3
		AH017HP6	覆土1	2		2				4
			覆土2			2				2
			床面			1				1
		AH017HP6 計		2		5				7
		AH018	覆層	414	1	170		31		616
			覆土1	210		81		15		306
			覆土2	26		3		1		30
			覆土3	14						14
			床面	84		37				121
		AH018 計		748	1	291		47		1087
		AH018HP4	床面			2		1		3
		AH019	1層			1				1
			覆層	237		70		25		332
			IV層	81		1	1	1		83
			覆土	24		12	1	4		41
			覆土2	23		9		3		35
			覆土3	7		4		4		15
			床面	14		11		10		45
		AH019 計		386		115	1	47		549
		AH019HP1	覆土	11						11
		AH019HP2	覆土	1						1
		AH019SP03	覆土			1				1
		AH019SP03	覆土	4						4
		AH020	覆層	17		17		19		53
			覆土1	27		7		15		49
			覆土2			3				3
			覆土3	1				2		3
		AH020 計		45		28		36		109
		SH023	覆層	1014	19	459		73		1565
			IV層	67		6		6		93
			覆土	387		45		18		450
			覆土1	69		14		8		151
			床面							
		SH023 計		1567	19	553		99		2240
		SH023HP1	覆土	1		3		1		5
		SH023HP1	覆土	1		1				2
		SH023HP2	覆土			1		1		2
		CH027	1層	5		2				7
			IV層	172		96		61		319
			覆土	337		29		11		374
			覆土1	5		6		7		18
			覆土2	20		11		2		33
			覆土3	11		5				16
		CH027 計		550		136		81		767
		CH027HF1	覆土	2				1		3
			床面					1		1
		CH027HF1 計		2				2		4
		CH027HP7	覆土	3						3
		CH029	覆層	699		118	91			908
			IV層			1				1
			覆土	117		40		34		191
			覆土1	8		25		6		39
			覆土2	2		7				9
			床面	3		8		1		12
		CH029 計		829		199		132		1180
		CH029F1	覆土	3		1				4
		CH029P8	覆土					1		1
		CH030	覆層	682	3	179	71			935
			IV層	1		1	3			5
			覆土	441	2	46	10			499
			覆土上	1		1				3
			床面	7		4				11
		CH030 計		1132	5	232	84			1453
		CH030HF1	覆土	10		6	2			18
			床面			2	2			4
		CH030HF1 計		10		8	4			22
B地区	住居跡	CH030HOR	覆土土	22		16	1	17		56
		CH030HF1	覆土	32		12		2		46
		CH030HP3	覆土土層	1						1
		CH032	盛層	143		64		11		218
			覆土	39		22		2		63
			覆土1	111	1	46		4		162
			覆土上層			1				1
			床面	4	10	34		1		49
		CH032 計		294	11	167		18		490
		CH033	盛層	606	11	158		23		800
			覆土	95		51		9		155
			床面	6		3				14
		CH033 計		712	11	214		32		969
		CH033HP1	覆土1	21		7		3		31
			覆土2	5		2				7
		CH033HP1 計		26		9		3		38
		CH033RO	床面	1		1		1		3
		CH039	盛層	163		8		12		203
			覆土	699		100	2	31		832
			床面	69		1		5		74
		CH039 計		950		109	2	48		1108
		CH041	盛層	50		27		9		86
			覆土	54		17		12		83
		CH041 計		104		44		21		169
		CH044	盛層	136	1	40		12		189
			覆土1	555		127		34		716
			覆土2	257	1	86	1	22		367
			床面	72		44		19		135
		CH044 計		1020	2	297	1	87		1407
		CH044HP01	覆土	4		4		4		12
		CH044HP02	覆土	4		4		1		9
		CH044HP03	覆土			7				7
		CH044HP04	覆土	2				1		3
			覆土1	1				1		2
		CH044HP04 計		3				2		5
		CH044HP05	覆土	2		14				16
		CH044HP06	覆土	1		1				2
		CH044HP09	覆土					1		1
		CH044HP16	覆土			2				2
		CH044HP19	覆土	1		1		2		4
		CH044HP22	覆土	3		1				4
		CH044HP27	覆土	8		1				9
		CH044HP29	覆土					1		1
		CH044HP33	覆土			1				2
		CH044HP36	覆土	1						1
		CH044HP37	覆土	1						2
		CH045HP3	覆土	3		1				4
		MP001	盛層	15		4				19
			覆土	199		55		9		233
			覆土1	34		6		2		42
			床面	66		23		9		98
		MP001 計		294		88		20		392
		MP001HP1	覆土	2		1				3
			覆土上層	1						1
		MP001HP1 計		3		1				4
		MP001HP2	覆土	1						1
		MP001HP3	覆土	13		4		2		19
		MP001HP9	覆土1	1		2				3
		MP002	盛層	5		2				7
			覆土	24		8		5		37
			覆土1	6				2		8
			覆土2	2		2				4
			覆土3			1				1
			床面	148		30		8		186
		MP002 計		185		43		15		243
		MP002SP01	覆土	7						7
		MP003	盛層	121		68		12		201
			覆土	72		69		11		152
			覆土土			1				1
			床面	318		85		32		435
			貼り床			1				1
		MP003 計		511		224		55		790
		MP003RO	床面	4						4
		MP006	盛層	23		7		9		39
			覆土0	90		9				99
			覆土1	42		19		4		65
			覆土2	6		5		4		15
			床面	22		9				31
		MP005 計		183		43		17		243
		MP006HF1	覆土	16	2	4				22
		MP007	盛層	147		24		6		177
			覆土	25		11		32		68
			覆土1	25				2		27
			床面	2		2		29		33
		MP007 計		199		37		69		305
		MP007HF1	床面			1				1
		住居跡 計		23935	132	7751	13	2164	1	33996
土坑		AH002HP2	覆土	3		1				4
			覆土2	1		3				4
		AH002HP2 計		4		4				8
		AH002HP4	覆土	9		4				13
			覆土1	3		5		3		11
		AH002HP8	覆土1	3		5		3		11
			覆土2	3		1				4
		AH002HP8 計		6		6		3		15
		AH012HF13	覆土	4		3		2		9
			覆土1	3		1				4
		AH013HP5	覆土	1						1
			覆土1	1						1
		AH013HP5 計		4		1				5

表Ⅴ－15　遺構別遺物一覧総合(3)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	礫	木製品	総計
B地区	土坑	AH018HP3	覆土1	1						1
			覆土2			1		1		2
			坑底			1				1
		AH018HP3 計		1		2		1		4
		BH026	正層	356		94		34		484
			覆土	1						1
			覆土1	32		4		8		44
			覆土2	5		1				6
			坑底			1				1
		BH026 計		394		100		42		536
		BH028HP1	覆土	1						1
		BH042	正層	3		3		4		10
			覆土1	10		9		3		22
			覆土2	1		1		1		3
			覆土4					1		1
		BH042 計		14		13		9		36
		BP138	正層			1				1
			IV層	32						32
			覆土2			2				2
			坑底	1				1		2
		BP138 計		33		3		1		37
		CH040	正層	62		32		14		108
			覆土	152	1	1		7		161
			覆土1	26		18		11		55
			覆土2	65		1		5		71
			覆土4	3		5				8
		CH040 計		308	1	57		37		403
		CH045HP1	覆土	7		2				9
			覆土1	33		6		2		41
			覆土2	80	1	14		2		97
			覆土3	65		22		13		100
			覆土4	6		12		5		23
		CH045HP1 計		191	1	56		22		270
		CP018	正層	2						3
			覆土3					1		1
			覆土7			1				1
		CP018 計		2		1		2		5
		CP021	正層	12		2		1		15
			覆土1			1		1		2
			覆土2			8				8
			覆土8			1				1
			覆土9	1		2		2		5
			覆土10	5		13		5		23
		CP021 計		18		27		9		54
		CP022	覆土1	2						2
		CP026	覆土7			1				1
		CP027	正層					1		1
			覆土1			1				1
		CP027 計				1		1		2
		CP030	覆土					12		12
		CP040	覆土					16		16
		CP042	正層	1		1		1		3
			覆土4	1						1
		CP042 計		2		1		1		4
		CP043	覆土4			1				1
		CP044	正層					1		1
			覆土1	5						5
		CP044 計		5				1		6
		CP048	正層	1						1
		CP050	正層	2				2		4
		CP051	覆土	45		3		3		51
		CP060	覆土	52						52
		CP061	正層	58						58
			覆土	31				3		34
		CP061 計		89				3		92
		CP062	覆土	17		2		4		23
		CP063	正層			1		12		13
			覆土	37				1		38
		CP063 計		37		1		13		51
		CP065	覆土			3		2		5
		CP066	覆土	53		5		9		67
		CP067	正層			2				2
		CP068	覆土					17		17
		CP069	正層	2		1				3
			覆土	42		2				44
		CP069 計		44		3				47
		CP070	正層	2						2
			覆土	19		3				22
		CP070 計		21		3				24
		CP071	覆土	60	1	3		30		94
		CP073	正層	31		17		9		57
			覆土1	10		15				25
			覆土2	1		2				3
			覆土3	89		7		1		97
			覆土4	6		1		2		9
			坑底			7				7
		CP073 計		137		49		12		198
		CP076	覆土	3				2		5
			覆土1	6		3		1		10
			覆土2			1				1
		CP076 計		9		4		3		16
		CP077	覆土	2		5		1		8
		CP079	正層	8						8
			覆土	37						37
		CP079 計		45						45

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	礫	木製品	総計
B地区	土坑	CP080	正層	2		1				3
			覆土	8		1		3		12
			覆土1			1				1
		CP080 計		10		3		3		16
		CP081	正層	3				2		5
			覆土	1				1		2
		CP081 計		4				3		7
		CP082	正層	2						2
			覆土	119		29		5		153
			覆土2	2		4				6
			坑底	2		2				4
		CP082 計		125		35		5		165
		CP083	正層	1						1
			覆土	38				5		43
			覆土2	3						3
		CP083 計		42				5		47
		CP086	正層	11						11
			覆土	11		2		1		14
			覆土1	15		3		1		19
			覆土10	13				2		15
			坑底	3						3
		CP086 計		53		5		4		62
		CP087	覆土	7	1	2		4		14
		CP088	正層	4		2		1		7
			IV層					1		1
			覆土	21		12		2		35
			覆土1			12		5		17
			覆土1上部	231		17		3		251
			覆土3			3				3
			坑底			3				3
		CP088 計		256		49		12		317
		CP089	正層	6				2		8
			覆土	1		1				2
		CP089 計		7		1		2		10
		CP090	正層	6		3				9
			覆土1		1					1
			坑底			1				1
		CP090 計		6	1	4				11
		CP091	正層					2		2
			覆土			2		5		7
		CP091 計				2		7		9
		CP093	正層					2		2
			覆土	12				4		16
			覆土1	1						1
		CP093 計		13				6		19
		CP096	正層						1	1
			覆土	1		2				3
		CP096 計		1		2		1		4
		CP098	正層	8		2		3		13
			覆土	1		1		1		3
			覆土1	7		3		3		13
			覆土3	1						1
		CP098 計		17		8		7		30
		CP100	正層	1						1
			覆土	7						7
		CP100 計		8						8
		CP102	覆土			5		3		8
		CP103	正層	10		1		2		13
			覆土	18		4				22
		CP103 計		28		5		2		35
		CP105	覆土	4						4
		CP107	正層	34		4		6		44
			覆土	14		4		2		20
		CP107 計		48		8		8		64
		CP108	正層	59				1		60
			覆土1	78		2		1		81
			覆土2	2		2		1		5
			坑底			4				4
		CP108 計		139		8		3		150
		CP111	覆土1	7		1				8
			坑底	3						3
		CP111 計		10		1				11
		CP113	正層	19		6				25
			覆土	4		10				14
			覆土1	1						1
		CP113 計		23		16		1		40
		CP114	正層	28		11		5		44
			覆土					1		1
			覆土0	7		1		2		10
			覆土1	6						6
			坑底	3		4		3		10
		CP114 計		44		16		11		71
		CP116	正層	45		22		4		71
		CP118	正層			1				1
			覆土	1						1
			坑底	4						4
		CP118 計		5		1				6
		CP119	覆土上部					1		1
		CP121	覆土			1		2		3
		CP123	覆土	2		1				3
		CP124	正層	1				3		4
			覆土	6						6
		CP124 計		7				3		10
		CP125	覆土			1				1
		CP126	覆土	14		6		8		28
		CP127	正層	38		1		1		39
			覆土	24		3		3		30
		CP127 計		62		3		4		69

表V－16　遺構別遺物一覧総合(4)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	鏃	木製品	総計
B地区	土壙	CP128	覆土	12		8		3		23
			覆土1	9		8		3		20
			覆土2			134		1		135
		CP128 計		21		150		7		178
		CP129	覆土	48				9		57
		CP130	覆土	50						50
		CP131	覆土	75		6				81
		CP133	耕層	39		6		1		46
			覆土1	12		1		5		18
			覆土2			3		2		5
		CP133 計		51		10		8		69
		CP134	耕層	9		4				13
			覆土1	108		35		11		154
			覆土2	7		10		5		22
			底構	1		8		1		10
		CP134 計		125		57		17		199
		CP135	耕層					1		1
		CP136	覆土1	16		4		2		22
			覆土2	7		1		4		12
			覆土3	3						3
			覆土4	4						4
		CP136 計		30		5		6		41
		CP137	耕層	78		1				79
		CP139	耕層	24		7		1		32
			覆土	91		12		5		108
		CP139 計		115		19		6		140
		CP140	耕層					1		1
			耕層					1		1
			覆土	3		19		6		28
		CP140 計		3		19		8		30
		CP141	耕層	329		13		11		353
			覆土	12		5		7		24
		CP141 計		341		18		18		377
		CP142	耕層			1				1
			覆土1	5		1				6
			覆土2	1						1
		CP142 計		6		2				8
		CP143	耕層	2		1				3
			覆土	2		3		1		6
		CP146	覆土1	1						1
			底構					1		1
		CP146 計		3		3		2		8
		CP147	覆土1					1		1
		CP148	覆土5	5		2		1		8
		CP149	覆土1	13		6		4		23
			覆土2	42		6	1	2		51
		CP149 計		55		12	1	6		74
		CP150	覆土					3		3
		CP155	耕層			1				1
		CP158	覆土	1						1
		CP159	覆土	12		6		1		19
		CP160	覆土	6		1		3		10
			覆土2	2		2		1		5
		CP161	耕層	11		5		4		20
			覆土	23		260		5		288
		CP161 計		36		267		10		313
		CP163	覆土2	2		1				3
		CP164	覆土	2		2				4
			覆土1	3						3
		CP164 計		3		2				5
		CP165	覆土	3						3
		CP168	覆土	1						1
		CP169	耕層					3		3
			覆土	5		2				7
		CP169 計		5		2		3		10
		CP171	覆土	11		1				12
		CP172	覆土	16		6		7		29
		CP173	覆土	3	1	5		2		11
		CP174	覆土1	2	1	12		5		20
			覆土2			1				1
			底構	2						2
		CP174 計		4	1	13		5		23
		CP175	覆土			1				1
		CP176	耕層					1		1
			覆土	2		14				16
		CP176 計		2		14		1		17
		CP178	耕層					1		1
			覆土1	1		1		2		4
			覆土2	3		3				6
		CP178 計		3		4		3		10
		E709P08	耕層			1				1
		F679P07	耕層					1		1
		B65SP01	耕層	1						1
		B65SP05	耕層	1						1
		B65SP03	耕層					1		1
		B68SP05	耕層	1		1				2
		J66SP08	耕層	6						6
		K65SP02	覆土			1				1
		K67SP01	覆土	3				2		5
		M64SP04	耕層					1		1
		M67SP01	覆土	3		1				4
		M67SP02	覆土	2		1				3
		M68SP01	覆土			2				2
		M73SP01	覆土			3				3

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	鏃	木製品	総計
B地区	土壙	MP004	耕層	155		50		12		217
			覆土	81		15		11		107
			底構	2				1		3
		MP004 計		238		65		24		327
		MP009	耕層	3		1		2		6
			耕層	24		8		4		36
		MP010	覆土	1		1				2
			覆土1	15		14		4		33
			覆土2	14		6		9		29
			覆土5			1		1		2
		MP010 計		54		30		18		102
		MP011	耕層	1						1
			覆土	1		4		2		7
		MP011 計		2		4		2		8
		N68SP03	覆土					1		1
		O65SP01	覆土					1		1
		O70SP01	覆土					1		1
		O70SP02	覆土			1				1
		O83SP01	耕層	1				1		2
		P73SP01	覆土	10		5				15
		土壙 計		4027	7	1311	1	948		5894
		AF001	耕層	2						2
			覆土2	2						2
		AF001 計		4						4
		AF006	覆土	1		2				3
		CP004	覆土			2				2
		CF009	耕層	5		2		2		9
		CP010	耕層	1						1
		CF012	覆土	4		5				9
		CF013	覆土	4						4
		CF016	覆土	2						2
		CF017	覆土	18		1				19
		CF021	覆土	1						1
		溝土 計		40		12		2		54
溝土		AH021	耕層	23		14		2		39
			覆土1	3						3
		AH021 計		26		14		2		42
		B2HOG	耕層	20						20
		BH022	耕層	195	1	56		38		290
			覆土	80		26		1		107
		BH022 計		275	1	82		39		397
		BH024	耕層	338	1	63		18		420
		BH028	耕層	17		13	1	3		34
		BH0HG	耕層	72	1	12		5		90
		CH028	耕層	61		25		9		95
			覆土	38		6		21		65
		CH029 計		99		31		30		160
		CP016	耕層	202	1	26		7		236
		F-D001	耕層			60				60
		F-O002	耕層			1				1
		G84PC	耕層	35		1		1		37
		H83PC	耕層	10				1		11
		I82PC	耕層	7				1		8
		J82PC	耕層	50						50
		M64PC	耕層	56		44		6		106
		M67PC	耕層	52		2		1		55
		M73PC	耕層	83		1		1		85
		M76PC	耕層	32						32
		M81PC	耕層	26		7				33
遺物集中		N75PC	IV層	97				1		98
			耕層	22				1		23
		N75PC 計		119				2		121
		N76PC	耕層	47						47
		N81PC	耕層	49						49
		N83PC	耕層	46		5		5		56
		O78PC	耕層	48		2		1		51
		P80PC	耕層	354		24		18		396
		PC001	耕層	383		5		1		389
		PC003	耕層	1		2				3
		PC009	耕層	9		1				10
		PC032	耕層	218		5		7		230
		PC033	耕層	117		4		5		126
		PC034	耕層	182		2		7		191
		PC035	耕層	143		1		1		145
		PC036	耕層	87		7		5		99
		PC037	耕層	152		1		4		157
		PC038	耕層	1		2		2		5
		PC050	耕層	84		1		4		89
		PC051	耕層	52		3				55
		PC052	耕層	48		3				51
		PC053	耕層	115		5				120
		PC060	耕層	42		6				48
		PC085	耕層	81		4		6		91
		PC100	耕層	1		28		3		32
		PC101	耕層	1		1		1		3
		Q73PC	耕層	2						25
		Q85PC	耕層	38		1		1		40
		遺物集中 計		3863	4	521	1	189		4578

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器	土製品	石器	石製品	鏃	木製品	総計
C地区	遺物集中	CH0G	耕層	577		181		37		795
		PC007	耕層	219		26		14		259
		PC008	耕層	96		12		12		120
		遺物集中 計		892		219		63		1174

総計								
32227	143	9833	15	2998	1	46217		

表Ⅴ－17　遺構出土土器一覧(1)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器												土器計	土製品					土製品計	総計
				ⅠA	ⅡB	Ⅲ	Ⅲ A	Ⅲ B	Ⅳ	Ⅳ A	Ⅳ B	Ⅳ C	Ⅵ	鉛片	不明		スタンプ形土製品	ミニチュア Ⅲ	ミニチュア Ⅳ B	焼成粘土塊	土製品		
A地区	土坑	AP001	覆土				8									8							8
		AP002	覆土				1								2	3							3
			覆土2		1											1							1
		AP003 計			1		1								2	4							4
		AP004	覆土		2	1	10								1	14							14
			覆土1			1										1							1
			覆土2				2									2							2
		AP004 計			2	2	12								1	17							17
		AP005	覆土			1									1	2							2
		AP006	覆土		1		1									2							2
		AP008	覆土				7									7							7
		AP011	覆土			1										2							2
			覆土1			1	1							1	1	4							4
			覆土2				4							1	1	6							6
			状況				1									1							1
		AP011 計				2	6							2	3	13							13
		AP012	覆土				1									1							1
		AP014	覆土												1	1							1
		AP015	覆土			1									1	2							2
		土坑 計			4	6	36							2	9	57							57
	焼土	AF001	覆土				4									4							4
		焼土 計					4									4							4
	遺物集中	AP0001	覆土			19	89							3	3	114							114
		AP0002	覆土			1	31									32							32
		AP0003	覆土			66	26							12	3	107							107
		AP0004	覆土			5	45							13	14	83							83
		AP0005	覆土				35								4	39							39
		AP0007	覆土				29								5	34							34
		遺物集中 計				91	255							34	29	409							409
B地区	住居跡	AH001	覆土			254	19		294	32	63			81	56	898			2			2	900
			覆土1			11	2		33	15	5			3	12	81							81
			覆土2			7			6					1	1	15							15
			床面						1	4						5							5
		AH001 計				272	80		334	51	68			85	109	999			2			2	1001
		AH001HOR	覆土			67	9		16	14	3			45	10	164							164
			覆土2			47	6		20	1	7			33	12	131				2		2	133
		AH001HOR 計				114	15		41	15	10			78	22	295				2		2	297
		AH001HP2	覆土												1	1							1
		AH002	覆土			9	1		39	2	42			7	14	114			1	1		2	116
			覆土1			16	1		28	2	5			2	9	63							63
			覆土2			4										4			1			1	5
			覆土3						1		2					3							3
			床面			2			26		175				5	202							202
		AH002 計				31	2		98	4	224			9	28	386			2	1		3	389
		AH002HP1	覆土			1			9		10			1		21							21
		AH002HP1	覆土1			4			4		2				2	12							12
			床面						4							4							4
		AH002HP1 計				4			8		2				2	16							16
		AH003	覆土			9	4		43		4				3	63			1			1	64
			覆土1			1			10		14				2	27							27
			覆土2						3		22				2	27							27
			覆土3			1			12		40				1	54	1					1	55
			壁			1			1							2							2
		AH003 計				12	4		69		80				8	173	1		1			2	175
		AH003HP1	覆土												1	1							1
		AH004	覆土			3			11		4				21	39							39
			覆土1						2		1				3	6							6
			覆土2			1			33		16				8	58							58
			床面			1			3		1				1	6							6
		AH004 計				5			49		22				33	109							109
		AH005	覆土			2			27	23	33				24	109							109
			覆土1				1		7	2	14				5	29							29
			覆土2						10		105					115							115
			覆土3			1			3		2				2	8							8
			覆土4						16		5					21							21
			覆土5			3			13		3					19							19
		AH005 計				6	1		76	25	162				31	301							301
		AH005HP9	覆土1						1							1							1
		AH006	覆土			83	54	1	132	3	122			101		512			2			2	514
			覆土1			4	4		10		53					71							71
			覆土2			5	29	1	13		154					193							193
			覆土3				8		16		74					98			10			10	108
			覆土4			9	11		14		87					121				1		1	122
			床面			3	4		24	1	251					283			10			10	293
		AH006 計				110	101	2	209	4	751			101		1278			22	1		23	1301
		AH006HOR	覆土1			4	19		3	1	7				66	91							91
		AH007	覆土			88	73		36	1	36				73	164							164
			覆土1			3	5									8							8
			覆土2			206	7		107	3	133	9			17	482					1	1	483
			覆土3			96	4		49	7	70	7		22	8	263			12			12	275
			床面			27	1		6		14				1	49							49
						15			2		49					66							66
		AH007 計				415	17		203	11	302	16		22	49	1032			12		1	13	1045
		AH007HP26	覆土						1							1							1
		AH007HP29	覆土						1							1							1
		AH007HP30	覆土						1							1							1
		AH007HP32	覆土						3							3							3
		AH007HP45	覆土								1					1							1
		AH007HP47	覆土								13					13							13
		AH007HP48	覆土						3							3							3
		AH008	覆土			216	18		1		6			22		263				1		1	264
			覆土1			63	4		3		8					78							78
			覆土2			340	64		37		87					528	1					1	529
			覆土3			104	13		9		2			5		133							133
			覆土上部			15	1				1					17							17
			床面			25	3				8					36							36
			壁			7	1									8							8
		AH008 計				770	104		50		112			27		1063	1			1		2	1065
		AH008HOR	覆土1			267	76		12		1					356					1	1	357
		AH008HP30	覆土			2										2							2
		AH008HP31	覆土				3									3							3

表V－18　遺構出土土器一覧(2)

地区	遺構種別	遺構名	群位	土器												土製品						土製品	総計
				Ⅰ A	Ⅱ B	Ⅲ	Ⅳ A	Ⅳ B	Ⅳ C	Ⅴ	Ⅵ	縄片	不明	土器 計	スタンプ形土製品	ミニチュア形	ミニチュアⅣB	焼成粘土塊	土製品	土製品 計	
B地区	住居跡	AH009	上層			1								1							1
			中層		14	228	42		36	1	185			17	525					1	1	525
			覆土								21				21							22
			覆土1		4	77	8		2		22			4	117							117
			覆土2			10					6			1	17							17
			床面			1	1				1			1	4							4
		AH009 計			18	317	51		40	1	235			23	685					1	1	686
		AH010	中層			138	69		193		258				658			1				660
			覆土			9			1		12			1	23							23
			覆土1			12	8		2		14			13	49							49
			覆土2			8	1		1		47			3	60							60
			覆土3			7									7							7
			覆土4			12									12							12
			床面				7		3		5			1	16							16
		AH010 計				187	85		200		336			18	826			1			1	827
		AH010F	覆土						2						2							2
		AH011	中層			68	7	1	54		2		32	22	183							183
			覆土			1									1							1
			覆土1			25	6		15		5		5	4	60							60
			覆土2			20	5		14		3		1	1	44							44
			覆土3			24			9		2				35							35
			床面			5			2		21				28			1			1	29
		AH011 計				149	18	1	94		33		38	27	351			1			1	352
		AH011HP1	覆土								3				3							3
		AH011HP2	覆土2												1							1
		AH012	中層	1		152	276	2	127	6	250	25			638			9			9	647
			覆土1			48	23		86	1	172	71		1	402							402
			覆土2			10	1		5		3				29	1					1	30
			覆土3								1				1							1
			覆土4			10	10		4	1	3				37							37
			床面			6	3		5		151				165		4				4	169
		AH012 計		1		244	313	2	228	7	580	96	1		1472		4	9			14	1486
		AH013	中層	3		40	2	1	24					12	82							82
			覆土			37	4	2	6		1			4	56				1		1	57
			覆土1			115	16	7	56	1	10			24	229				1		1	230
			覆土2			28	1	2	5		1			8	45							45
			覆土3			2					6			2	10							10
			床面			1		1	12		60			2	106							106
		AH013 計		3		223	23	13	106	1	106			52	528				2		2	530
		AH013HP1	覆土			1									1							1
		AH013HP2	覆土			1									1							1
		AH013HP3	覆土												1							1
		AH013HP4	覆土			2	1								3							3
		AH013HP5	覆土												3							3
		AH014	中層			48	58	1	606	5	571				1287			1	2		3	1290
			覆土1			12	18	1	210	1	197				440				1		1	441
			覆土2			5	1		28		68				102					1	1	103
			覆土3			1	1		6		29				37							37
			床面								35				35							35
		AH014 計				64	80	3	850	4	900				1901			1	3	1	5	1906
		AH014HP1	覆土			9	4	1	34		62				112							112
		AH014HP2	覆土						1						1							1
		AH014HP3	覆土			15	4		1					1	21							21
		AH014HP4	覆土1			13	4				1				18							18
			覆土2				2								2							2
		AH014HP5	覆土			28	10		1		1			1	41							41
		AH014HP6	覆土			2			5						7							7
		AH014HP7	覆土1				78		12					16	106							106
			覆土2			3			1						4							4
		AH014HP7 計				5	78		18					16	119							119
		AH015	中層	21		225	54	1	76	1	19			40	477				4		4	481
			覆土1	1		31	12	5	5		39			7	95							95
			覆土2			4	5		2					7	18							18
			覆土3			2	1				1				4							4
			覆土4								1				1							1
			床面			3	9		1		35				48							48
		AH015 計		22		266	120	1	84	1	95			54	643				4		4	647
		AH016	中層			1	39		15		51	1		10	118							118
			覆土			1								1	2							2
			覆土1			12	17		75	6	99	8		49	264	1			1		2	266
			覆土2				1								1							1
			床面			2	2		34	1				12	51				1	2	3	51
		AH016 計				16	59		123	7	150	9		72	436			1	1	2	4	440
		AH017	中層			10	13		60	1	109	4	16	27	252				1		1	253
			覆土1			8	14		33		51			20	144							144
			覆土1上層			18	4		99		164			3	294							294
			覆土2			3			1					1	5							5
			覆土3			2									2							2
			床面			1					70				71							71
		AH017 計				40	31		213	1	394	4	16	67	768				1		1	769
		AH017HP3	覆土				1							2	3							3
		AH017HP4	覆土1												2							2
		AH018	中層			108	7	1	171	7	116		7		414			1			1	415
			覆土1			41	6		39	6	107		1	10	210							210
			覆土2			3	1		3					15	25							25
			覆土3											14	14							14
			床面			4					77			1	84							84
		AH018 計				154	14	1	213	13	298		1	19	35	746			1		1	749
		AH019	中層			14	131		47	1	8			1	25	237						237
			覆土				64								17	81						81
			覆土1			1	18		1						4	24						24
			覆土2			3	19								1	23						23
			覆土3			1	4								2	7						7
			床面				5		4						1	14						14
		AH019 計				19	245		52	1	8			1	69	388						388
		AH019HP1	覆土				11								11							11
		AH019HP2	覆土				1								1							1
		AH020	中層				7		3		5				2	17						17
			覆土1				12		1	1	9				4	27						27
			覆土2				1									1						1
		AH020 計					20		4	1	14				6	45						45
		BH023	中層			73	48		280	78	284			89	202	1014			17	1	1	19	1033
			覆土				1				87					87						87
			覆土1			17			49	5	188				108	367						367
			覆土2			12	5		13	41	12			4	12	99						99
		BH023 計				102	53		322	124	551			93	322	1567			17	1	1	19	1586
		BH023HP1	覆土			1										1							1

表Ⅴ－19　遺構出土土器一覧(3)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器 IA	IB	II	IIIA	IIIB	IV	IVA	IVB	IVC	VI	縄文	不明	土器計	土製品 スタンプ形土製品	ミニチュア土器	ミニチュアIVB	磨製石土製品	土製品	土製品計	総計
B地区	住居跡	RH03H-P1	覆土							1						1							1
		CH027	1層						5							5							5
			2層			2	39		11	3	14					172							172
			3層						4		333					337							337
			4-1						5							5							5
			4-2						20							20							20
			掘方						6		2					11							11
		CH027 計				2	39		54	3	349					550							550
		CH027-HF1	覆土												2	2							2
		CH027-HF2	覆土												3	3							3
		CH029	1層			4	219		19		457					699							699
			2層				7		8		102					117							117
			3層								8					8							8
			4-1								2					2							2
			掘方								3					3							3
		CH029 計				4	226		27		572					829							829
		CH030	1層			109	96		269	48	130			7	1	682			2	1		3	689
			2層				1				1					1							1
			3層				21		48	12	397				53	441			2			2	443
			暗土木			1										1							1
			掘方						4		1				2	7							7
		CH030 計				110	120		321	60	528			7	56	1132			4	1		5	1137
		CH030-HF1	覆土						6		3				1	10							10
		CH030-HF2	覆土			8			4		1			9		22							22
		CH030-P1	覆土						24		8					32							32
		CH030-SP3	暗土木層			1										1							1
		CH032	1層			24	3		69	1	38				17	143							143
			2層			6			21	1	4				4	36							36
			3層			11			46		47				5	111			1			1	112
			掘方								4					4			10			10	14
		CH032 計				41	3		129	2	93				26	294			11			11	305
		CH033	1層				68		711	2	302			29		698				9	2	11	709
			2層				43		18		30			4		95							95
			掘方				9									9							9
		CH033 計					120		729	2	332			29		712				9	2	11	723
		CH033-HP1	覆土				11				3			2	5	21							21
			2層				2				1			1		5							5
		CH033-HP1 計					13				4			3	6	26							26
		CH033-P2	覆土				1									1							1
		CH039	1層			5	66		61		18				33	183							183
			2層			425	185		51	2	3				30	696							696
			掘方			2	66									68							68
		CH039 計				425	312		112	2	70				69	950							950
		CH041	1層				47		3							50							50
			2層						40	14						54							54
		CH041 計							87	17						104							104
		CH044	1層			2	129	6		1						136				1	1		137
			2層			73	468	54		1	2			7		606							606
			4-1			21	216	6			1			11		257				1	1		258
			4-2			50	22									72							72
		CH044 計				96	835	66		2	3			18		1070					2	2	1072
		CH044HP01	覆土												4	4							4
		CH044HP02	覆土												4	4							4
		CH044HP04	覆土												2	2							2
			4-1												1	1							1
		CH044HP04 計													3	3							3
		CH044HP05	覆土												2	2							2
		CH044HP08	覆土												1	1							1
		CH044HP19	覆土												1	1							1
		CH044HP22	覆土			3										3							3
		CH044HP27	覆土			3	2								1	6							6
		CH044HP33	覆土													1							1
		CH044HP39	覆土												1	1							1
		CH044HP37	覆土												2	2							2
		CH045HP3	覆土												1	1							1
		MP001	1層			10	4								1	15							15
			2層			76	51	1	11	1	10				11	160							160
			4-1			26	3		1						2	34							34
			4-2			9	1		3		52					65							65
		MP001 計				123	59	1	15	1	71				14	284							284
		MP001HP1	覆土						2							2							2
			覆土2層	1												1							1
		MP001HP1 計		1					2							3							3
		MP001HP2	覆土	1												1							1
		MP001HP5	覆土	4		4									5	13							13
		MP001HP9	覆土	1												1							1
		MP002	1層						5							5							5
			2層						21		3					24							24
			4-1						6							6							6
			4-2						1		1					2							2
		MP002 計							24		121				3	148							148
		MP003	1層			48	6		57		125				3	189							189
			2層			39	4		34	2	75	3			3	121							121
			掘方			5			15		12	1			1	72							72
		MP003 計				92	10		111		199					318							318
		MP003HP3	覆土						100	2	226	4			4	311							311
		MP005	1層						3		1					4							4
			2層	7	1				7		6				2	23							23
			3-0	9					14		67					90							90
			3-1	19	1				6		13				1	42							42
			4-3						4		2					6							6
			掘方								22					22							22
		MP005 計				33	2		33		110				3	183							183
		MP005-HF1	覆土	10	1		4								1	16			2		2		18
		MP007	1層	23	3		31		88							147							147
			2層		22		2								1	25							25
			4-1												1	25							25
			掘方	1											1	2							2
		MP007 計		24	25		33		88						27	199							199
		住居跡 計		26	18	4533	3408	21	5045	384	8392	179	1	508	1946	23953	4	4	89	29	10	132	24087
	土坑	AH002HP2	覆土			1			4		3					8							8
			掘底						1							1							1
		AH002HP2 計				1			5		3					9							9
		AH002HP4	覆土						1							1							1
		AH002HP8	4-1				1		2							3							3
			4-2	3												3							3
		AH002HP8 計		3			1		2							6							6

表V－20　遺構出土土器一覧(4)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器												土器計	土製品				土製品計	総計
				IA	IIB	III	IIIA	IIIB	IV	IVA	IVB	IVC	VI	縄片	不明		スタンプ形土製品	ミニチュア家	ミニチュアIVB	焼成粘土塊		
B地区	土坑	AH01BHP13	覆土			3			1							4						4
		AH01BHP5	覆土			1									2	3						3
			坑底			1										1						1
		AH01BHP6	覆土			3									2	4						4
		AH01BHP9	覆土1													1						1
		BH026	川層			153	29		161		13					356						356
			覆土				1									1						1
			覆土1			7	25									32						32
			覆土2				5									5						5
		BH026 計				160	60		161		13					394						394
		BH02BHP1	覆土												1	1						1
		BH042	川層						2							3						3
			覆土1			8			2							10						10
			覆土2				1									1						1
		BH042 計				8	1		4		1					14						14
		BP138	IV層			6	26									32						32
			坑底				1									1						1
		BP138 計				6	27									33						33
		CH040	川層				62									62						62
			覆土			6	146									152			1		1	153
			覆土1			26										26						26
			覆土2			10	55									65						65
			覆土3			3										3						3
		CH040 計				45	263									309			1		1	309
		CH045HP1	覆土			2	2	1	1						1	7						7
			覆土1			14	6								13	33						33
			覆土2			40	15								21	80				1	1	81
			覆土3			12	46	3							4	65						65
			覆土4				6									6						6
		CH045HP1 計				68	79	4	1						39	191				1	1	192
		CP019	川層						1	1						2						2
		CP021	川層			2			8	2					3	12						12
			覆土9						1							1						1
			覆土10				5									5						5
		CP021 計				2	5		6	2					3	18						18
		CP022	覆土1							2						2						2
		CP042	川層						1							1						1
			覆土4						1							1						1
		CP042 計							2							2						2
		CP044	覆土1			6										6						6
		CP046	川層			1										1						1
		CP056	川層			1			1							2						2
		CP061	覆土			11	2		26		5				1	45						45
		CP066	覆土			3	47								2	52						52
		CP061	川層				58									58						58
			覆土				31									31						31
		CP061 計					89									89						89
		CP062	覆土			13	3		1							17						17
		CP063	覆土			3			3						31	37						37
		CP065	覆土			4	35				6				8	53						53
		CP069	川層												2	2						2
			覆土			1			1		27				13	42						42
		CP069 計				1			1		27				15	44						44
		CP070	川層			1									1	2						2
			覆土			8	6								5	19						19
		CP070 計				9	6								6	21						21
		CP071	覆土			5	33		4					2	18	60			1		1	61
		CP073	川層		1	5	5		12	2	3				3	31						31
			覆土1			2			2						6	10						10
			覆土2												1	1						1
			覆土3			13	21			51	1				3	89						89
			覆土4		1					3					2	6						6
		CP073 計			2	20	26		14	56	4				15	137						137
		CP076	覆土						2	1						3						3
			覆土1							6						6						6
		CP076 計							2	7						9						9
		CP077	覆土						2							2						2
		CP079	川層		1	3									4	8						8
			覆土			2	30								5	37						37
		CP079 計			1	5	30								9	45						45
		CP080	川層			2										2						2
			覆土			3	3									6						6
		CP080 計				7	3									10						10
		CP081	川層			1			2							3						3
			覆土						1							1						1
		CP081 計				1			3							4						4
		CP082	川層			1	1									2						2
			覆土			12	54	24		19	6				4	119						119
			覆土2				1								1	2						2
			坑底				2									2						2
		CP082 計				13	59	24		19	6				5	125						125
		CP083	川層			1										1						1
			覆土			9		27	2							38						38
			覆土2			2			1							3						3
		CP083 計				12		27	3							42						42
		CP086	川層			4			6							11						11
			覆土			6			4		1					11						11
			覆土1			4	1		8		1				1	15						15
			覆土10						1		12					13						13
			坑底						3							3						3
		CP086 計				14	1		22		15				1	53						53
		CP087	覆土			4			2		1					7					1	8
		CP088	川層			4										4						4
			覆土			6	1								14	21						21
			覆土1上層			29	200								2	231						231
		CP088 計				39	201								18	258						258
		CP089	川層			6										6						6
			覆土			1										1						1
		CP089 計				7										7						7
		CP090	川層			2			4							6						6
			覆土1															1			1	1
		CP090 計				2			4							6		1			1	7
		CP093	覆土			6	2		2							12						12
			覆土1			1										1						1
		CP093 計				9	2		2							13						13
		CP096	覆土						1							1						1

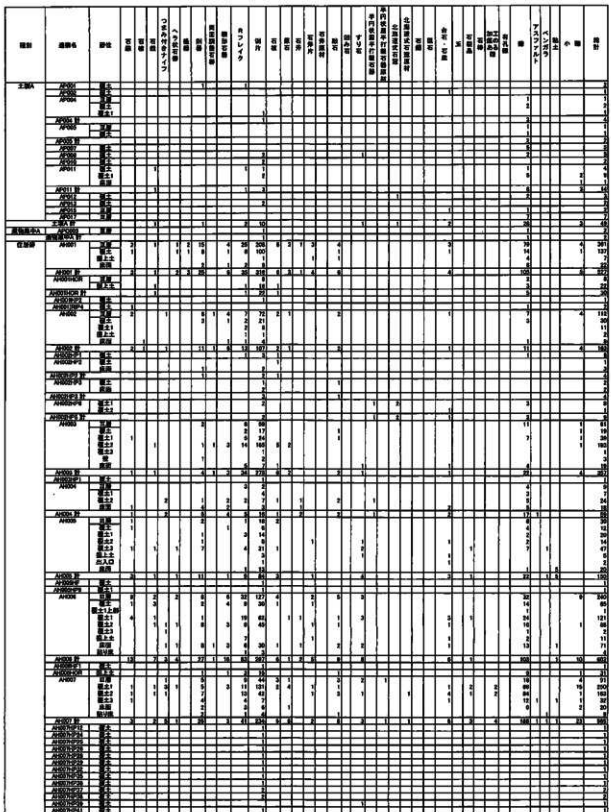
表V－21　遺構出土土器一覧(5)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器												土器計	土製品					土製品計	総計
				IA	IIB	III	IIIA	IIIB	IV	IVA	IVB	IVC	VI	細片	不明		スタンプ形土製品	ミニチュア系	ミニチュアIVB	焼成粘土塊	土製品		
B地区	土坑	CP098	覆土			1			3	4						8							8
			覆土				1									1							1
			覆土1			1	1		2	1					2	7							7
			覆土2			1										1							1
		CP099	計			3	2		5	5					2	17							17
		CP100	覆土			1										1							1
			覆土			6			1							7							7
		CP100	計			7			1							8							8
		CP103	覆土			3			7							10							10
			覆土			17	1									18							18
		CP103	計			20	1		7							28							28
		CP106	覆土			4										4							4
		CP107	覆土			2			29	1				2		34							34
			覆土						14							14							14
		CP107	計			2			43	1				2		48							48
		CP108	覆土			45	13				1					59							59
			覆土1			76			1					1		78							78
			覆土2			2										2							2
		CP108	計			123	13		1		1			1		139							139
		CP111	覆土1			5			1					1		7							7
			覆土			2	1									3							3
		CP111	計			7	1		1					1		10							10
		CP113	覆土			2			6	10					2	19							19
			覆土						2	2						4							4
		CP113	計			2			7	12					2	23							23
		CP114	覆土			10			14					3	1	28							28
			覆土2			1			3					3		7							7
			覆土1			4			2							6							6
			覆土				1		2							3							3
		CP114	計			15	1		21					6	1	44							44
		CP116	覆土			2	1		32		4			6	0	45							45
		CP116	覆土			1										1							1
			覆土			1			3							4							4
		CP116	計			2			3							5							5
		CP123	覆土			1									1	2							2
		CP124	覆土			1										1							1
			覆土			3									3	6							6
		CP124	計			4									3	7							7
		CP126	覆土			8	3		3							14							14
		CP127	覆土			9	6		7	1	14			2		38							38
			覆土			1			21		2					24							24
		CP127	計			7	6		28	1	16			2		62							62
		CP128	覆土			12										12							12
			覆土1			1	5		3							9							9
		CP128	計			13	5		3							21							21
		CP129	覆土								48					48							48
		CP130	覆土			11			14	1	24					50							50
		CP131	覆土				72								3	75							75
		CP133	覆土			14			13		2			6	2	39							39
			覆土1			10			1					1		12							12
		CP133	計			24			14		2			8	2	51							51
		CP134	覆土			1	1		3					4		9							9
			覆土1			22	3		18		62			1	2	108							108
			覆土2			4			3							7							7
			覆土			1										1							1
		CP134	計			28	4		24		62			5	2	125							125
		CP136	覆土1			5	10			1						16							16
			覆土2			2	5									7							7
			覆土3			3										3							3
			覆土4			1	3									4							4
		CP136	計			11	18			1						30							30
		CP137	覆土	78												78							78
		CP138	覆土			9	1		3					11	1	24							24
			覆土			20	1	1	33					20	6	81							81
		CP139	計			38	2	1	36					31	7	115							115
		CP140	覆土			5										5							5
		CP141	覆土				329									329							329
			覆土				12									12							12
		CP141	計				341									341							341
		CP142	覆土1			5										5							5
			覆土2			1										1							1
		CP142	計			6										6							6
		CP143	覆土			1									1	2							2
		CP145	覆土						2							2							2
			覆土1							1						1							1
		CP146	計						2	1						3							3
		CP148	覆土			3	1							1		5							5
		CP149	覆土1			9	4									13							13
			覆土2			2	40									42							42
		CP149	計			11	44									55							55
		CP150	覆土												1	1							1
		CP159	覆土			7	2	1	2							12							12
		CP160	覆土			3			3							6							6
		CP161	覆土			2										2							2
			覆土			9								2		11							11
			覆土			17			4					1	1	23							23
		CP161	計			28			4					3	1	36							36
		CP163	覆土2			2										2							2
		CP164	覆土			1	1									2							2
			覆土3			1										1							1
		CP164	計			2	1									3							3
		CP165	覆土							3						3							3
		CP166	覆土			1										1							1
		CP169	覆土			2			2		1					5							5
		CP171	覆土						6	5						11							11
		CP172	覆土			12	4									16							16
		CP173	覆土			3										3	1					1	4
		CP174	覆土			1			1							2			1			1	3
			覆土			2										2							2
		CP174	計			3			1							4			1			1	5
		CP176	覆土			2										2							2
		CP178	覆土1				1									1							1
			覆土2			2										2							2
		CP178	計			2	1									3							3
		RS5P01	覆土						1							1							1
		RS5P02	覆土						1							1							1

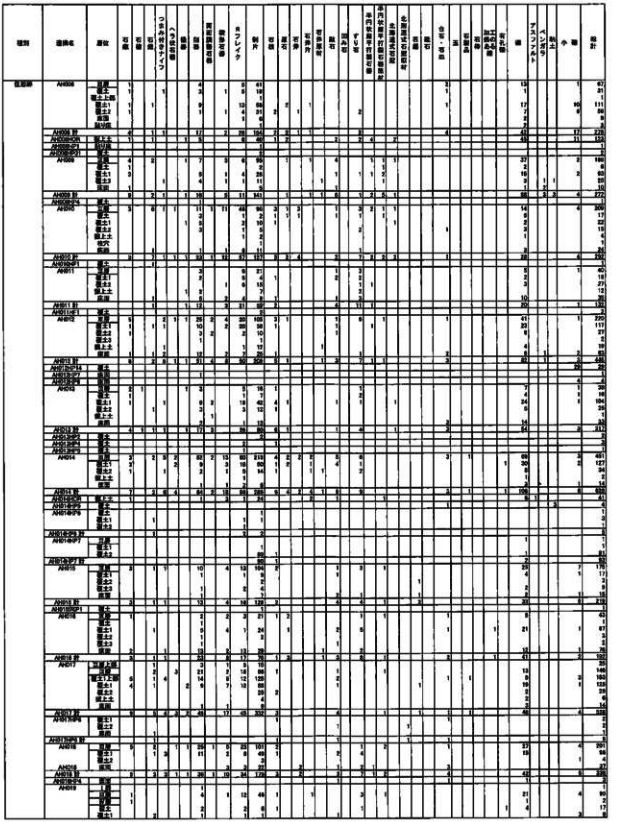
表Ⅴ－22　遺構出土土器一覧(6)

地区	遺構種別	遺構名	層位	土器												土器計	土製品					土製品計	総計
				Ⅰ A	Ⅱ B	Ⅲ	Ⅲ A	Ⅲ B	Ⅳ	Ⅳ A	Ⅳ B	Ⅳ G	Ⅵ	鋤片	不明		スタンプ形土製品	ミニチュアⅢ	ミニチュアⅣ	焼成粘土塊	土製品		
	土坑	JR65P08	瓦層							6						6							6
		M675P01	覆土			3										3							3
		M675P02	覆土			2										2							2
		MP004	瓦層			49	4	4	84		9	1		1	3	155							155
			覆土			39	6	1	19		16					81							81
			状態								1				1	2							2
		MP004 計				88	10	5	103		26	1		1	4	238							238
		MP009	瓦層			2					1					3							3
		MP010	瓦層			10			6		7				1	24							24
			覆土			1										1							1
			覆土1			6			3	2	3				1	15							15
			覆土2			7	2		2	3						14							14
		MP010 計				24	2		11	5	10				2	54							54
		MP011	瓦層								1					1							1
			覆土								1					1							1
		MP011 計									2					2							2
		OS35P01	瓦層												1	1							1
		P733P01	覆土								10					10							10
	土坑 計			76	3	1029	1509	62	554	129	288	1		14	260	3927	1	1	3	1	1	7	3934
	焼土	AF001	瓦層			2										2							2
			覆土2												2	2							2
		AF001 計				2									2	4							4
		AF008	覆土				1									1							1
		CF009	瓦層			5										5							5
		CF010	瓦層			1										1							1
		CF012	覆土			4										4							4
		CF013	覆土			2			2							4							4
		CF016	覆土							2						2							2
		CF017	覆土			15	3									18							18
		CF021	覆土			1										1							1
	焼土 計					30	4		2	2					2	40							40
	遺物集中	AH021	瓦層			10	3		8		2					23							23
			覆土1			3										3							3
		AH021 計				13	3		8		2					26							26
		BZHOQ	瓦層								20					20							20
		BH022	瓦層			51	47		50	4	21			8	16	195			1			1	196
			覆土			56	1		16					3	4	80							80
		BH022 計				107	48		66	4	21			9	20	275			1			1	276
		BH024	瓦層				18		259	5	23		33			338				1		1	339
		BH025	瓦層												17	17							17
		BHOQ	瓦層				16			2	49			2	3	72	1					1	73
		CH025	瓦層			4	22		4		11				20	61							61
			覆土			4	4		4		13				13	38							38
		CH025 計				8	26		8		24				33	99							99
		CP016	瓦層			73	43		29	17	1			34	5	202				1		1	203
		G84PC	瓦層				35									35							35
		H82PC	瓦層								10					10							10
		I82PC	瓦層												7	7							7
		J82PC	瓦層			2			1		57					60							60
		M64PC	瓦層								39				17	56							56
		M67PC	瓦層								52					52							52
		M73PC	瓦層								63					63							63
		M75PC	瓦層								20				12	32							32
		M81PC	瓦層								21				5	26							26
		N75PC	瓦層				97									97							97
			覆土				22									22							22
		N75PC 計				22									97	119							119
		N76PC	瓦層			12	20				13				2	47							47
		N81PC	瓦層								49					49							49
		N83PC	瓦層								48					48							48
		Q78PC	瓦層			19	29									48							48
		P80PC	瓦層			53	282		9		1			9		354							354
		PC001	瓦層			107	276									383							383
		PC003	瓦層												1	1							1
		PC009	瓦層			5								2	2	9							9
		PC032	瓦層								218					218							218
		PC033	瓦層								117					117							117
		PC034	瓦層				173								9	182							182
		PC035	瓦層			143										143							143
		PC036	瓦層				87									87							87
		PC037	瓦層								162					162							162
		PC038	瓦層												1	1							1
		PC050	瓦層							79	3				2	84							84
		PC051	瓦層			2			3		47					52							52
		PC052	瓦層			1	11		29	3	4					48							48
		PC053	瓦層								115					115							115
		PC060	瓦層						1		24				17	42							42
		PC065	瓦層							59					22	81							81
		PC180	瓦層												1	1							1
		PC181	瓦層												1	1							1
		Q79PC	瓦層			25										25							25
		Q85PC	瓦層						5	10					19	38							38
	遺物集中 計					970	1180		422	179	621		33	56	202	3863	1		1	2		4	3867
C地区	遺物集中	OHOQ	瓦層				155		13		308					577							577
		PC007	瓦層													219							219
		PC008	瓦層													86							86
	遺物集中 計						155		13		308					892							892
	総計			104	25	6559	6551	153	6036	694	10522	130	137	724	1788	33423	6	5	89	32	11	143	33566

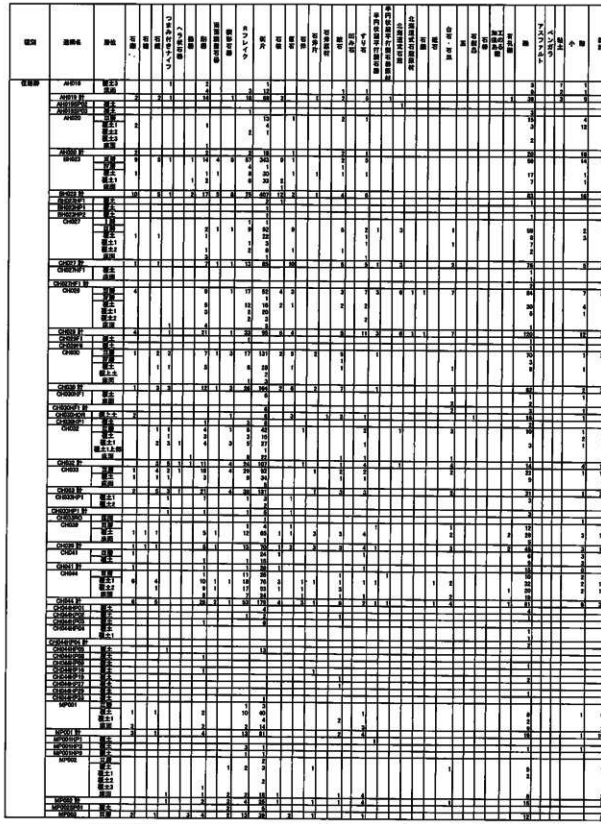
表Ⅴ－23　遺構出土石器一覧(1)



表Ⅴ－24　遺構出土石器一覧(2)



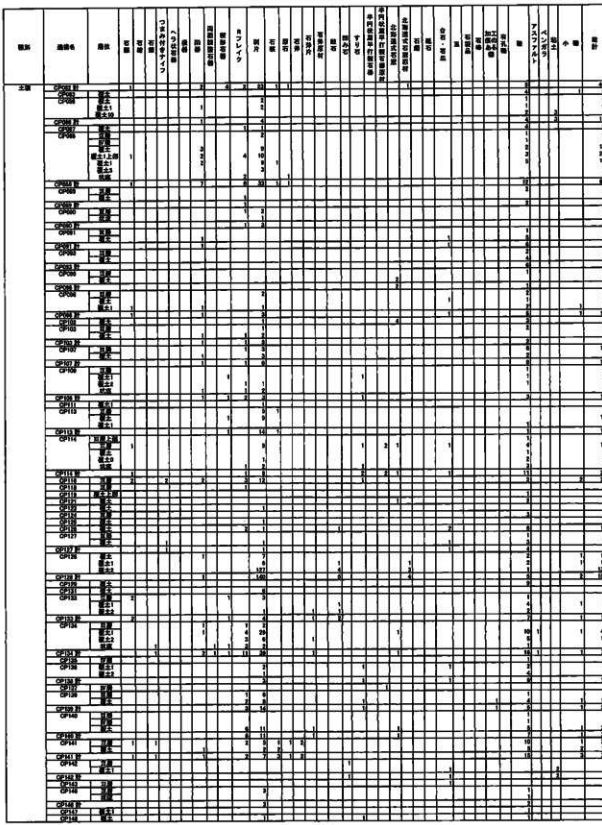
表Ⅴ－25　遺構出土石器一覧(3)



表Ⅴ－26　遺構出土石器一覧(4)

種別	遺構名	層位	敲石	磨石	凹石	石皿	スリ石	スリ石(小型)	砥石	台石	磨製石斧	磨製石斧未成品	石錘	石錘未成品	石核	スクレイパー	石匙	楔形石器	二次加工ある剥片	剥片	使用痕ある剥片	微小剥離痕ある剥片	石核・剥片	礫	礫器	磨製石斧	石製品未成品	石製品	礫	合計
縄文時代	KP003	覆土																						11						80
		層2-3																												
		床面			2				1	11					1	105	8			30				3					2	117
		掘り方								4							46													
	KP007 P1	覆土	2		1	3			2	43					1	14	22		2	1	1	2		3					2	275
	KP009	覆土															1							2						10
		層2-1	1							1							6							4					7	9
		層2-2	3		2					1							16							6						33
		層2-3			2					1							2							2						11
		床面	1		1					1							3							1						14
	KP009 P2		3		3					3							28							10					2	61
	KP009 P1	覆土															1													
	KP007	覆土	2							2							14							2					4	30
		層2-1								3							6							3					26	43
		層2-2															1												2	3
		床面															6												282	288
	KP007 P2		2							4							21							1						310
	KP007 P1	覆土															1							1						2
縄文時代			189	2	73	38	30	10	432	30	110	886	8855	101	97	19	34	6	1205	1	138	81	17	309	4	6	73	8	1	1884	8	14	14	1	391	5866
土坑	AH018 P13	覆土															1													1						2
	AH018 P3	床面															1													1						2
	AH018 P3	覆土								1							1																			
	SH009	覆土	2	1	1				1	3		1	15	1	60	2				3	2	3		1						32				3	126
		層2-1											1		2															7				2	10
		層2-2											1		1															1						1
		床面													1																					
	SH003 P2		2	1	1				1	3		1	16	1	63	2				3	2	3		1						39				3	145
	SH040	覆土													2															4					6
		層2-1										1			6	1								1							3					12
		層2-2											1			1															1					2
		床面																																	
	SH042 P1												1		8	3														9					21
	SP139	覆土								1					1															1						2
		床面													1																					
	SP138 P2									1					2															1						3
	CH040	覆土	4							3		1	1		22									1						12				3	46
		層2-1											4		10	1														11				3	33
		層2-2													1															1				2	4
		床面上位																																	
	CH040 P2		4							3		1	5		35	1				3	2	1		1						51		1		6	68
	CH040 P1	覆土											1		4									1						3					5
		層2-1											4		15	1								1						11					32
		層2-2				1							3		15	1				3										11				1	36
		床面上位											2		4		3													2					11
	CH040 P3				1					4			8		30	3				3	2	1								51				1	76
	CH018	覆土																																	
		層2-2																						1						1					1
		床面上位																																	
	CH021 P2																																		
	CH021	覆土											2		1															3					6
		層2-1											1		7									1						1					10
		層2-2													1																				1
		層2-3													1																				1
		層2-4													1																				1
		床面上位													1																				1
	CH021 P3				1					1			2		11									1						5					21
	CH027	覆土																																	
	CH027 P2	覆土								1																									
		層2-1																																	
	CH021 P1																																		
	CH026	覆土																																	
		層2-1																																	
		層2-2																																	
		層2-3																																	
		層2-4																																	
		床面																																	
	CH026 P2																																		
	CH030	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH030 P2																																		
	CH030	覆土																																	
		層2-1																																	
		層2-2																																	
		床面																																	
	CH030 P3																																		
	CH030	覆土																																	
		層2-1																																	
		層2-2																																	
		床面																																	
	CH031 P2																																		
	CH031	覆土																																	
		層2-1																																	
		層2-2																																	
		層2-3																																	
		層2-4																																	
		床面																																	
	CH031 P1																																		
	CH032	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH032 P2																																		
	CH033	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH033 P2																																		
	CH034	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH034 P2																																		
	CH035	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH035 P2																																		
	CH036	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH036 P2																																		
	CH037	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH037 P2																																		
	CH038	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH038 P2																																		
	CH039	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH039 P2																																		
	CH041	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH041 P2																																		
	CH042	覆土																																	
		層2-1																																	
		床面																																	
	CH042 P2																																		

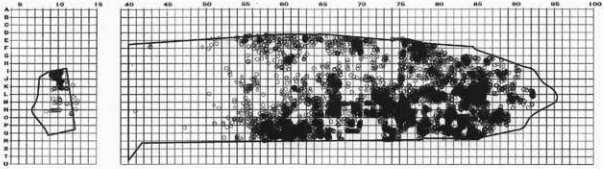
表Ⅴ－27　遺構出土石器一覧(5)



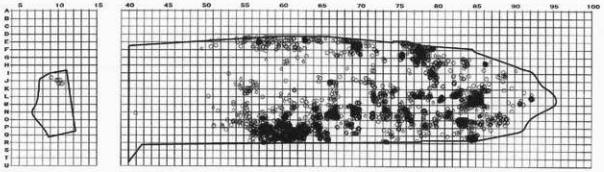
表Ⅴ－28　遺構出土石器一覧(6)

種別	遺構名	層位	台石	砥石	敲石	凹石	スタンプ形石器	石錘	磨石	石皿	礫器	剥片	石核	楔形石器	石匙	掻器	削器	尖頭器	石鏃	両面加工石器	未成品・破損品・石核・剥片	小型剥片石器	磨製石斧	石棒	石刀	石製品	合計－石器	礫	焼土	炭化物集中	炭化材	礫集中	礫群	フレイク	ヘベンガー	自然石	小礫	合計－礫	総計
土壙	CP149	第2-1										1									1	1					4										10
		第2-2										3									3	1					8										19
	CP150 P2	第2層										2															2										4
	CP150	第2層																																				
	CP151	第2層										1															1										1
	CP152	第2-1										3															3										6
	CP161	第2-1										3															3										6
		第2-2										1															1										2
		第2層										1															1										2
	CP181 P2											3	254		2												259								8		267
	CP183	第2層										3	262		2												267								8		275
	CP184	第2-2										1															1										2
	CP185	第2-2										1															1										2
		第2層																																				
	CP186 P2			1								1															2										3
	CP171	第2層																																				
	CP172	第2層		1					1			1	41		1												45								1		46
	CP173	第2層							1			1	60														61								1		62
	CP174	第2-1										1	1														2										2
		第2-2										1	10														11								1		12
	CP176 P2								1																		1										1
	CP175	第2層										1															1										1
	CP176	第2層																																				
		第2層										14															14										14
	CP178 P2											15															15										15
	CP178	第2-1			1							1															1										1
		第2-2										3															3										3
		第2層										3															3										3
	CP179 P2											3															3										3
	MP004	第1層	2		5	1			1		10	20	3		1		2				1						50								2		52
		第2層			11				7		51	4															11										61
		第2-2																																				
	MP004 P2		2		4	1			8		61	24	3		3						1						107								2		109
	MP009	第1層										2															2										2
	MP010	第1層								1		7															8										8
		第2層										11															11										11
		第2-1										4															4										4
		第2-2				1																																
		第2層										1															1										1
	MP010 P2				1				1			33									1						36										36
	MP011	第2層	1									1															1										1
土壙 P2			31	1	11	40	1	488	1	19	113	6892	511	5	21	6	175	1	21	5	6	16	6				8342		129	81		2	477	11	13	46	1815	
堅穴	AP008	第2層										1															1										1	
	CP009	第2層										1															1										1	
	CP010	第2層										1															1										1	
	CP011	第2層										5															5										5	
	CP012	第2層										1															1										1	
堅穴 P2												9															9										9	
竪穴群中	AH001	第1層	1							1		2	2														6										6	
	BH003	第1層							3	1		9	420	1	1												435								16		451	
		第2層										1	24														25										25	
	BH022 P2								3	3		21	422	1	1												451								16		467	
	BH004	第1層	1						1			4	40														45										45	
	BH005	第1層											95														95										95	
	CH020	第1層							1			1	113														115										115	
		第2層							1			1	13	1	1												17										17	
	CH022 P2								2			2	126	1	1												132										132	
	CH023 P2																																					
	KC002	第1層		2					2		1	6	1,126		1												1,136								31		1,167	
	KC003	第1層									2	4	538														544										544	
	KC004	第1層										2	165														167										167	
	KC005	第1層											60														60										60	
	KC006	第1層		1									42	4													47										47	
	KC007	第1層																																				
	KC008	第1層																																				
	KC009	第1層																																				
	KC010	第1層										1															1										1	
	KC011	第1層										3	41														44										44	
	KC012	第1層										3															3										3	
	KC013	第1層										1	1														2										2	
	KTSPC	第1層		1																							1										1	
		第2層																																				
	BTSPC P2																																					
	HSPC	第1層		1					1			2	21														25								1		26	
	YSPC	第1層										3	17		1						2	1					24								11		35	
	AC001	第1層											2														2										2	
	AC002	第1層											2														2										2	
	AC003	第1層		2								1	20														23										23	
	AC004	第1層										1	2														3										3	
	AC005	第1層										1	1														2										2	
	AC006	第1層										1	1														2										2	
	AC007	第1層										1	1														2										2	
	AC008	第1層										1	1														2										2	
	AC009	第1層										1	1														2										2	
	AC010	第1層										1	1														2										2	
	AC011	第1層										1	1														2										2	
	AC012	第1層										1	1														2										2	
	AC013	第1層										1	1														2										2	
	AC014	第1層										1	1														2										2	
	AC015	第1層										1	1														2										2	
	AC016	第1層										1	1														2										2	
	AC017	第1層										1	1														2										2	
	AC018	第1層										1	1														2										2	
	AC019	第1層										1	1														2										2	
	AC020	第1層										1	1														2										2	
	AC021	第1層										1	1														2										2	
	AC022	第1層										1	1														2										2	
	AC023	第1層										1	1														2										2	
	AC024	第1層										1	1														2										2	
	AC025	第1層										1	1														2										2	
	AC026	第1層										1	1														2										2	
	AC027	第1層										1	1														2										2	
	AC028	第1層										1	1														2										2	
	AC029	第1層										1	1														2										2	
	AC030	第1層										1	1														2										2	
	AC031	第1層										1	1														2										2	
	AC032	第1層										1	1														2										2	
	AC033	第1層										1	1														2										2	
	AC034	第1層										1	1														2										2	
	AC035	第1層										1	1														2										2	
	AC036	第1層										1	1														2										2	
	AC037	第1層										1	1														2										2	
	AC038	第1層										1	1														2										2	
	AC039	第1層										1	1														2										2	
	AC040	第1層										1	1														2										2	
	AC041	第1層										1	1														2										2	
	AC042	第1層										1	1														2										2	
	AC043	第1層										1	1														2										2	
	AC044	第1層										1	1														2										2	
	AC045	第1層										1	1														2										2	
	AC046	第1層										1	1														2										2	
	AC047	第1層										1	1														2										2	
	AC048	第1層										1	1														2										2	
	AC049	第1層										1	1														2										2	
	AC050	第1層										1	1														2										2	
	AC051	第1層										1	1														2										2	
	AC052	第1層										1	1														2										2	
	AC053	第1層										1	1														2										2	
	AC054	第1層										1	1														2										2	
	AC055	第1層										1	1														2										2	
	AC056	第1層										1	1														2										2	
	AC057	第1層										1	1														2										2	
	AC058	第1層										1	1														2										2	
	AC059	第1層										1	1														2										2	
	AC060	第1層										1	1														2										2	
	AC061	第1層										1	1														2										2	
	AC062	第1層										1	1														2										2	
	AC063	第1層										1	1														2										2	
	AC064	第1層										1	1														2										2	
	AC065	第1層										1	1														2										2	
	AC066	第1層										1	1														2										2	
	AC067	第1層										1	1														2										2	
	AC068	第1層										1	1														2										2	
	AC069	第1層										1	1														2										2	
	AC070	第1層										1	1														2										2	
	AC071	第1層										1	1														2										2	
	AC072	第1層										1	1														2										2	
	AC073	第1層										1	1														2										2	
	AC074	第1層										1	1														2										2	
	AC075	第1層										1	1														2										2	
	AC076	第1層										1	1														2										2	
	AC077	第1層										1	1														2										2	
	AC078	第1層										1	1														2										2	
	AC079	第1層										1	1														2										2	
	AC080	第1層										1	1														2										2	
	AC081	第1層										1	1														2										2	
	AC082	第1層										1	1														2										2	
	AC083	第1層										1	1														2										2	
	AC084	第1層										1	1														2										2	
	AC085	第1層										1	1														2										2	
	AC086	第1層										1	1														2										2	
	AC087	第1層										1	1														2										2	
	AC088	第1層										1	1														2										2	
	AC089	第1層										1	1														2										2	
	AC090	第1層										1	1														2										2	
	AC091	第1層										1	1														2										2	
	AC092	第1層										1	1														2										2	
	AC093	第1層										1	1														2										2	
	AC094	第1層										1	1														2										2	
	AC095	第1層										1	1														2										2	
	AC096	第1層										1	1														2										2	
	AC097	第1層										1	1														2										2	
	AC098	第1層										1	1														2										2	
	AC099	第1層										1	1														2										2	
	AC100	第1層										1	1														2										2	
	AC101	第1層										1	1														2										2	
	AC102	第1層										1	1														2										2	
	AC103	第1層										1	1														2										2	
	AC104	第1層										1	1														2										2	
	AC105	第1層										1	1														2										2	
	AC106	第1層										1	1														2										2	
	AC107	第1層										1	1														2										2	
	AC108	第1層										1	1														2										2	
	AC109	第1層										1	1														2										2	
	AC110	第1層										1	1														2										2	
	AC111	第1層										1	1														2										2	
	AC112	第1層										1	1														2										2	
	AC113	第1層										1	1														2										2	
	AC114	第1層										1	1														2										2	
	AC115	第1層										1	1														2										2	
	AC116	第1層										1	1														2										2	
	AC117	第1層										1	1														2										2	
	AC118	第1層										1	1														2										2	
	AC119	第1層										1	1														2										2	
	AC120	第1層										1	1														2										2	
	AC121	第1層										1	1														2										2	
	AC122	第1層										1	1														2										2	
	AC123	第1層										1	1														2										2	
	AC124	第1層										1	1														2										2	
	AC125	第1層										1	1														2										2	
	AC126	第1層										1	1														2										2	
	AC127	第1層										1	1														2										2	
	AC128	第1層										1	1														2										2	
	AC129	第1層										1	1														2										2	
	AC130	第1層										1	1														2										2	
	AC131	第1層										1	1														2										2	
	AC132	第1層										1	1														2										2	
	AC133	第1層										1	1														2										2	
	AC134	第1層										1	1														2										2	
	AC135	第1層										1	1														2										2	
	AC136	第1層										1	1														2										2	
	AC137	第1層										1	1														2										2	
	AC138	第1層										1	1														2										2	
	AC139	第1層										1	1														2										2	
	AC140	第1層										1	1														2										2	
	AC141	第1層										1	1														2										2	
	AC142	第1層										1	1														2										2	
	AC143	第1層										1	1														2										2	
	AC144	第1層										1	1														2										2	
	AC145	第1層										1	1														2										2	
	AC146	第1層										1	1														2										2	
	AC147	第1層										1	1														2										2	
	AC148	第1層										1	1														2										2	
	AC149	第1層										1	1														2										2	
	AC150	第1層										1	1														2										2	
	AC151	第1層										1	1														2										2	
	AC152	第1層										1	1														2										2	
	AC153	第1層										1	1														2										2	
	AC154	第1層										1	1														2										2	
	AC155	第1層										1	1														2										2	
	AC156	第1層										1	1														2										2	
	AC157	第1層										1	1														2										2	
	AC158	第1層										1	1														2										2	
	AC159	第1層										1	1														2										2	
	AC160	第1層										1	1														2										2	
	AC161	第1層										1	1														2										2	
	AC162	第1層										1	1														2										2	
	AC163	第1層										1	1														2										2	
	AC164	第1層										1	1														2										2	
	AC165	第1層										1	1														2										2	
	AC166	第1層										1	1														2										2	
	AC167	第1層										1	1														2										2	
	AC168	第1層										1	1														2										2	
	AC169	第1層										1	1														2										2	
	AC170	第1層										1	1														2										2	
	AC171	第1層										1	1														2										2	
	AC172	第1層										1	1														2										2	
	AC173	第1層										1	1														2										2	
	AC174	第1層										1	1														2										2	
	AC175	第1層										1	1														2										2	
	AC176	第1層										1	1														2										2	
	AC177	第1層										1	1								

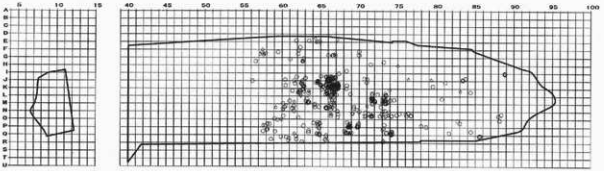
土器（全点）



土器（Ⅳ群B類）



土器（Ⅳ群A類）



土器（Ⅲ群A類）

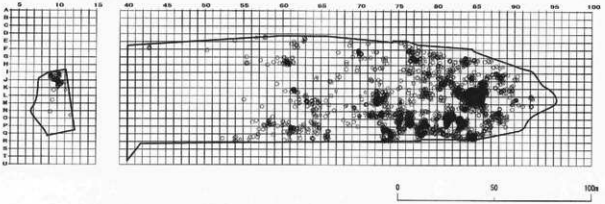


図1　包含層出土土器分類別分布図

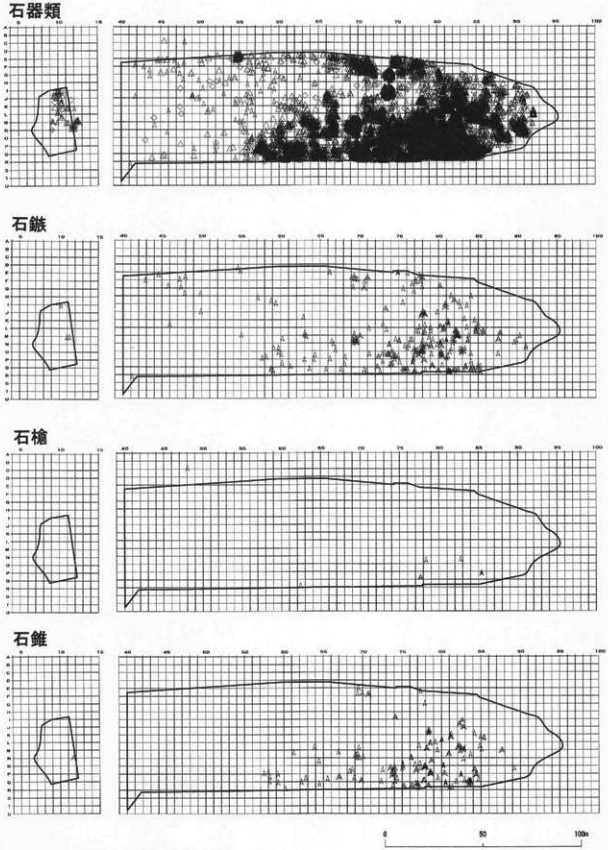


図2　包含層出土石器器種別分布図(1)

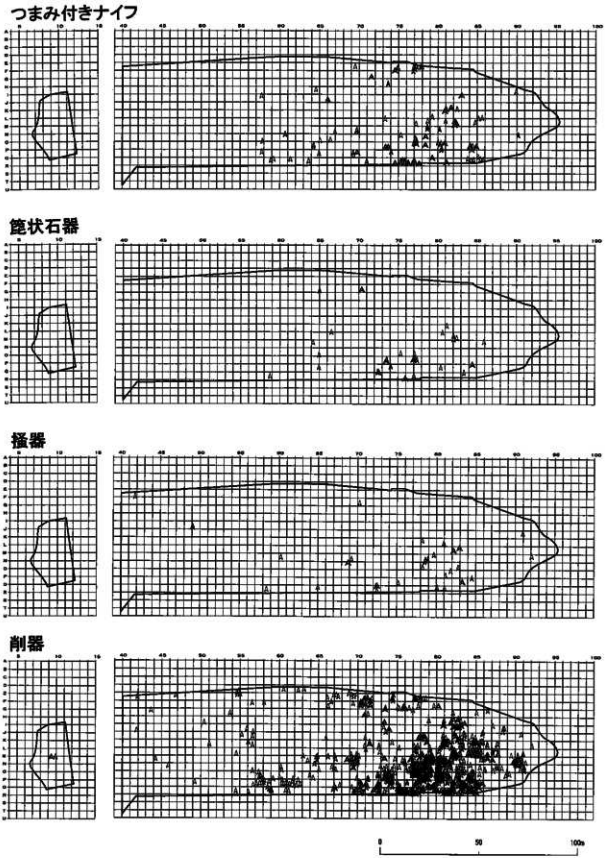


図3　包含層出土石器器種別分布図(2)

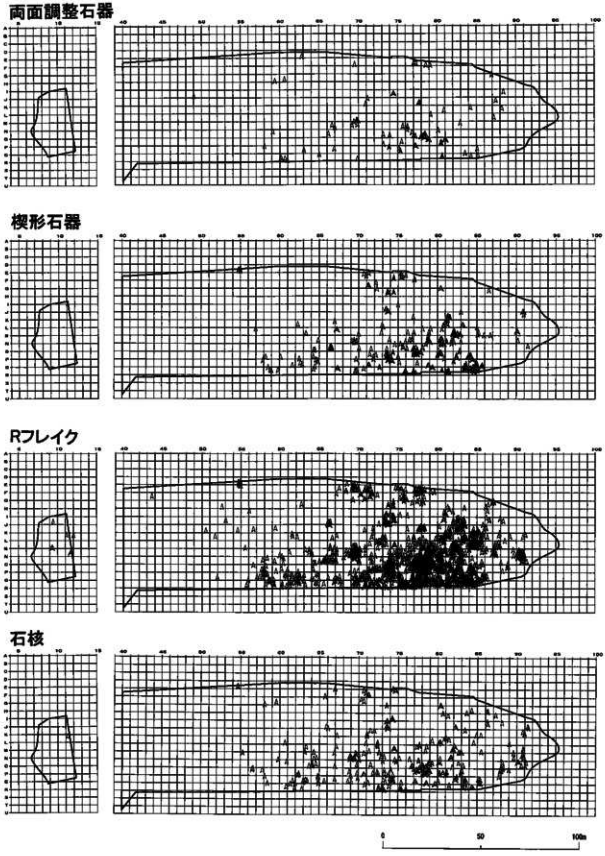


図4　包含層出土石器器種別分布図(3)

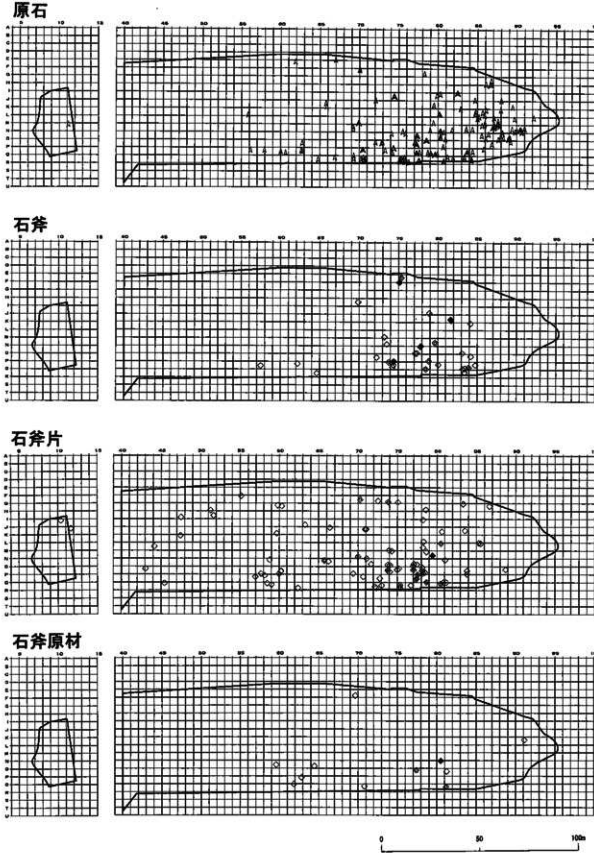


図5　包含層出土石器器種別分布図(4)

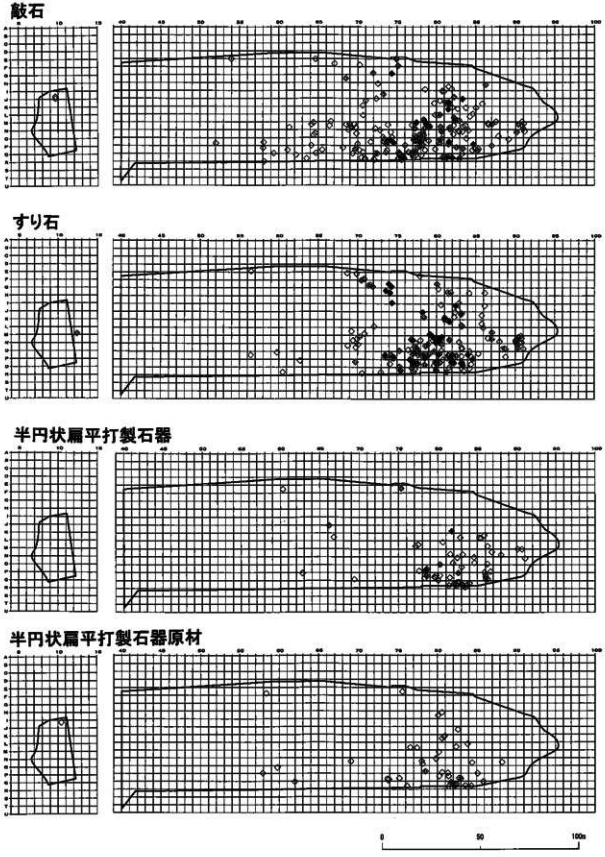
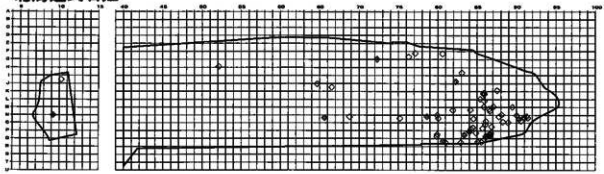
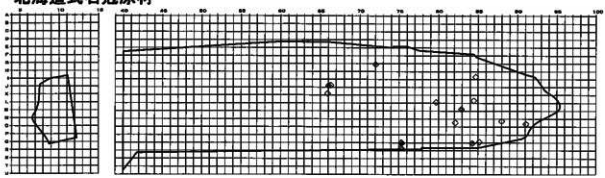


図6　包含層出土石器器種別分布図(5)

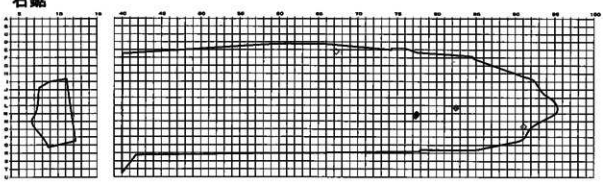
北海道式石冠



北海道式石冠原材



石鋸



台石・石皿

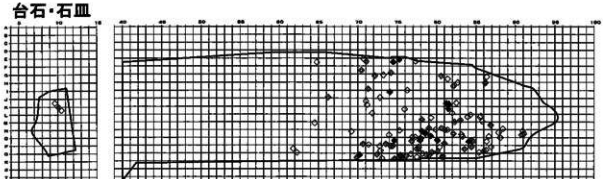
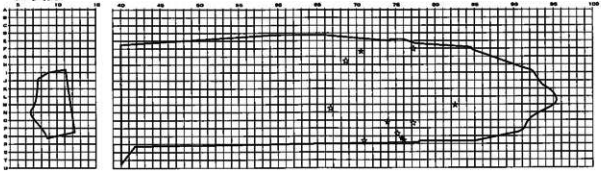
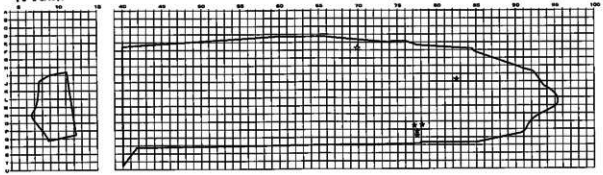


図7　包含層出土石器器種別分布図(6)

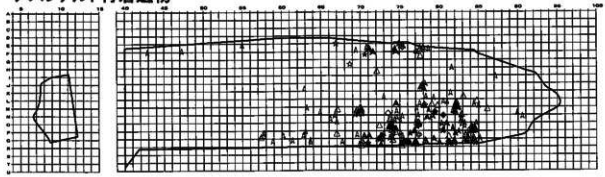
石製品



有孔礫



アスファルト付着遺物



使用痕(光沢)ある遺物

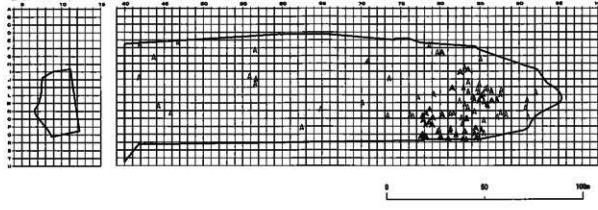


図8　包含層出土石器器種別分布図(7)

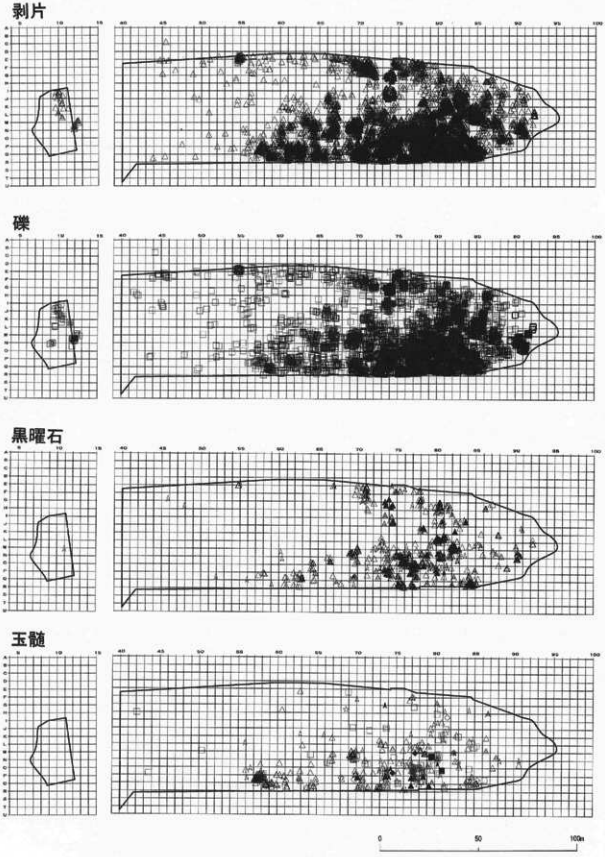


図9　包含層出土石器器種別分布図(8)

引用参考文献

【論文・雑誌など】

秋葉　実翻刻・編　松浦武四郎著（1997）「蝦夷山海名産図絵」『松浦武四郎選集』2　北海道出版企画センター

秋葉　実解読　松浦武四郎著（1988）『武四郎蝦夷地紀行　渡島日誌・西蝦夷日誌』北海道出版企画センター

秋葉　実翻刻・編　松浦武四郎著（1999）『校訂　蝦夷日誌』　北海道出版企画センター

浅川　滋男（1994）「特論1　焼失竪穴住居の復原-ASI01とBSI20にみる二段伏屋式構造」『南谷大山遺跡Ⅱ　南谷29号墳』（財）鳥取県教育文化財団

安孫子昭二（1982）「アスファルト」『縄文文化の研究第8巻社会・文化』　雄山閣

安孫子昭二（1985）「アスファルトの流通と東北の地域圏」『季刊考古学』第12号　雄山閣

安孫子昭二（1999）「関東地方のアスファルト利用状況」『月刊考古学ジャーナル』№452　ニュー・サイエンス社

阿部　千春（1995）「アスファルト加工工房址―北海道南茅部町磨光B遺跡の調査速報」『月刊考古学ジャーナル』№396　ニュー・サイエンス社

阿部　千春（1999）「北海道におけるアスファルト利用」『月刊考古学ジャーナル』№452　ニュー・サイエンス社

阿部　芳郎『遺物研究道具としての縄文土器－型式・技術・機能のトライアングル』
（『縄文時代文化研究の100年』縄文時代　第10号）

石田　正夫（1990）「石油・可燃性天然ガス」『日本の地質Ⅰ　北海道地方』共立出版

今村　峯雄（2000）「考古学における^{14}C年代測定」『考古学と化学をむすぶ』東京大学出版会

江坂　輝彌（1980）「天然アスファルト」『新版考古学講座第9巻　特論・中』　雄山閣

小井川和夫・山田晃弘（2002）「里浜貝塚西畑地点出土遺物」『東北歴史博物館研究紀要』3

小笠原正明・阿部千春・前川靖明・横山晋（1994）「豊崎N遺跡出土の天然アスファルト塊」『月刊考古学ジャーナル』№373　ニュー・サイエンス社

小笠原正明（1999）「アスファルトの化学分析と原産地」『月刊考古学ジャーナル』№452　ニュー・サイエンス社

河野　広道・藤本　英夫（1961）「御殿山墳墓群について」『考古学雑誌』第46巻4号

齊藤　基生（1993）「牧野小山遺跡の土器片錘」『縄文時代第4号』」縄文時代文化研究会

坂田　武則（1993）『山越内郷土史』（私家本）　（株）長門出版社印刷部（函館市）

佐川　正敏（1998）『コメント　後期旧石器時代の土葺き竪穴住居　－東・北アジア旧石器時代の住居を考える－』浅川滋男　編『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告　先史日本の住居とその周辺』同成社

社団法人日本アスファルト協会（1987）「アスファルトの歴史」『アスファルト』第30巻第154号

鈴木　克彦（2001）『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版

高倉新一郎解読　松浦武四郎著（1978）『〈安政三年〉竹四郎廻浦日記』　北海道出版企画センター

竹岡　俊樹（1989）『石器研究法』言叢社

田中　耕作（1999）「新潟県のアスファルト利用状況」『月刊考古学ジャーナル』№452　ニュー・サイエンス社

田中　耕作・齊田美穂子（1999）「アスファルト」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院
玉川　一郎（1999）「福島県のアスファルト利用状況」『月刊考古学ジャーナル』№452　ニュー・サイエンス社
地質調査所（1957）『日本鉱産誌BV－b　主として燃料になる鉱石ー石油および可燃性天然ガスー』東京地学協会
千代　肇・落合　治彦（1963）「北海道上磯町添山遺跡調査略報」『北海道の文化　特集号』　北海道文化財保護協会
西脇対名夫（1998）「石剣ノート」『野村先生還暦記念論文集　北方の考古学』
長谷川誠一（1982）「幕末蝦夷地御雇外国人研究－William Phipps BlakeとRaphael Pumpelly－」『酪農学園大学紀要』第９巻第２号
福田　友之（1999）「青森県のアスファルト利用状況」『月刊考古学ジャーナル』№452　ニュー・サイエンス社
福田　友之（2000）「本州北辺地域における先史アスファルト利用」『研究紀要第５号』　青森県埋蔵文化財調査センター
ブレーク、ウィリアム・P（1871）『博士ブレーキ報文摘要』（1936年刊　『新撰　北海道史』第６巻所収）
三野　紀雄（2001）「先史時代における木材利用（５）ークリ材についてー」『北海道開拓記念館紀要』第29号
三野　紀雄（2002）「北海道の先史時代におけるいわゆる里山の形成について①」『北海道浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要』第２号
森町（1980）『森町史』
八雲町史編さん委員会（1984）『改訂　八雲町史』
矢吹　俊男（1986）「縄文時代の区画墓（後篇）」『北海道の文化55』
吉田　常吉編　松浦武四郎著（1962）『新版　蝦夷日誌（上）　東蝦夷日誌』　時事通信社
ライマン、B.S.（1875）『北海道山越内石油地方略測報文』　（1936年刊　『新撰　北海道史』第６巻所収）
ライマン、B.S.（1875）『北海道泉沢石油地方略測報文』　（1936年刊　『新撰　北海道史』第６巻所収）
ライマン、B.S.（1875）『鷲ノ木石油地方略測報文』（1936年刊　『新撰　北海道史』第６巻所収）

【発掘調査報告書など】
青森県埋蔵文化財調査センター（1987）『大石平遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
青森県埋蔵文化財調査センター（1988）『上尾駮（２）遺跡Ⅱ（B・C地区）発掘調査報告書』
青森市教育委員会（1992）『小牧野遺跡発掘調査報告書』
秋田県教育委員会（2003）『潟前遺跡（第２次）』
秋田県教育委員会（1989）『八木遺跡発掘調査報告書』
いわき市教育委員会磐城出張所（1968）『小名浜』
いわき市教育委員会・（財）いわき市教育文化事業団（1988）『薄磯貝塚』
磐城市教育委員会（1966）『寺脇貝塚』
大船渡市教育委員会（2000）『岩手県大船渡市　大洞貝塚範囲確認調査報告書』

上磯町教育委員会（1983）『添山』
（財）北海道埋蔵文化財センター（1984）『美沢川流域の遺跡群Ⅶ』
（財）北海道埋蔵文化財センター（1987）『木古内町　建川２・新道４遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（1998）『美沢川流域の遺跡群ⅩⅨ　千歳市　美々４遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（1989）『小樽市　忍路土場遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2001）『千歳市　キウス４遺跡（８）』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2001）『八雲町　ポンシラリカ１遺跡・黒岩３遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2001）『八雲町　山越２遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2001）『八雲町　山崎４遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2002）『八雲町　山越３遺跡・山越４遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2002）『八雲町　野田生２遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2002）『八雲町　野田生４遺跡』
（財）北海道埋蔵文化財センター（2002）『八雲町　栄浜１遺跡』
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（2001）『長谷堂貝塚発掘調査報告書』
札幌郡手稲町役場・札幌郡手稲町教育委員会（1956）『手稲遺跡』
戸井町教育委員会（1988）『釜谷２遺跡Ⅰ』
戸井町教育委員会（1988）『釜谷２遺跡Ⅱ』
苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター（1997）『柏原５遺跡』
北海道開拓記念館（1976）『札苅』
北海道上ノ国町教育委員会（1987）『新村４遺跡』
南茅部町教育委員会（1994）『豊崎Ｎ遺跡』
南茅部町教育委員会（1996）『磨光Ｂ遺跡』
宮城県教育委員会・建設省東北地方建設局（1986）『田柄貝塚』
八雲町教育委員会（1992）『コタン温泉遺跡』
八雲町教育委員会（1991）『浜松２遺跡』
八雲町教育委員会（1995）『浜松５遺跡』
礼文町教育委員会（2000）『礼文町船泊遺跡発掘調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	やくもちょうのだおいいちいせき
書名	八雲町 野田生１遺跡
副書名	北海道縦貫自動車道（七飯～長万部間）埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第183集
編著者名	種市幸生・菊池慈人・藤井浩・坂本尚史・福井淳一
編集機関名	財団法人　北海道埋蔵文化財センター
所在地	〒069-0832　北海道江別市西野幌685番地１
発行年月日	西暦2003年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
野田生１遺跡	北海道山越郡八雲町野田生 317－6他	01346	B-16-47	42° 13′ 21″ (世界測地系) 42° 13′ 12″ (日本測地系(旧))	140° 20′ 40″ (世界測地系) 140° 20′ 53″ (日本測地系(旧))	2000 05 08 ～ 2003 03 31	11080㎡	高速道路 北海道縦貫 自動車道（七飯～長万部） 建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野田生１遺跡	集落遺跡 遺物散布地域	縄文時代後期 縄文時代中期 縄文時代前期・早期 縄文時代 (上から主体期)	住居跡　34軒 土坑　155基 焼土　31箇所 遺物集中46箇所	漆塗櫛 縄文土器 (赤彩土器をはじめ、縄文時代後期前葉から中葉、縄文時代中期中葉、前期、早期) 縄縄文土器 石器類 (石鏃、石槍、掻器、削器、両面調整石器、模形石器、Ｒフレイク、剥片、石核、たたき石、すり石、石皿、台石、石棒、礫など) アスファルト塊、ベンガラ	竪穴住居跡床面から漆塗櫛、赤彩注口土器が完形で出土 アスファルト付着石器多数

㈶北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第183集

八雲町　野田生１遺跡

―北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書―

〔第１分冊　　本文編〕

発　行　平成15年３月31日
編　集　財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地１
TEL 011-386-3231
印　刷　中西印刷株式会社
〒007-0823　札幌市東区東雁来３条１丁目１番34号
TEL 011-781-7501